

萱野Ⅱ遺跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査（その2）報告書

縄文時代以後の調査

2007

国 土 交 通 省
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

萱野Ⅱ遺跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査（その2）報告書

縄文時代以後の調査

2007

国 土 交 通 省
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

上武道路は埼玉県熊谷市から本県前橋市田口町に至る国道17号線のバイパスで、延長40.5kmにおよびます。平成4年2月には本県分のうち国道50号線までの間が供用開始となり、平成17年3月20日には国道50号線から前橋市江木町の間約3.6kmについても暫定供用が開始されました。

長きにわたる県民待望の道路が、着々と完成に近づいております。

一方上武道路地域は、県内でも有数の遺跡の宝庫として知られる土地を走る道でもありました。当事業団はすでに、国道50号線以南にある22の遺跡を発掘調査し、その豊富な調査成果の報告書を刊行しております。

平成11年度から始まりました国道50号線以北、前橋市上泉町までの工事区間におきましても、17遺跡の発掘調査を通じて先人の足跡をたどり、新たな歴史を開く糧とすべく努力いたしております。

本書はこれらの遺跡のうち、前橋市江木町にあります萱野Ⅱ遺跡について、縄文時代以後の発掘調査成果を報告するものです。

萱野Ⅱ遺跡では、縄文時代の食生活に関わるであろう、多数の礫石器や大型の石皿が目撃されます。石製の装身具も出土しております。すでに破壊されておりましたが、石を削って組み合わせるといふ、丁寧な作りの石室を持った古墳が見つかったことも驚きでした。奈良時代、平安時代の集落も見つかっていて、先に調査されている周辺の遺跡や、隣接する上武道路関連遺跡の発掘調査成果と併せますと、赤城の山裾が拓かれてゆく有様が、非常によくとらえられる遺跡でありました。これらの調査成果は、地域の歴史解明に大いに役立つものと期待しております。

発掘調査から本報告書の刊行までに、国土交通省、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会及び地元関係者の皆様には大変お世話になりました。

ここに心からの感謝を申し上げて、序とさせていただきます。

平成19年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 高橋 勇 夫

例 言

- 1 本書は一般国道17号(上武道路)改築工事に伴い、記録保存のために発掘調査が実施された萱野Ⅱ遺跡のうち、縄文時代以後の遺構・遺物についての発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は以下のとおりである。
前橋市江木町927-3・928-1・928-2・928-3・1049・1052-1・1057-5・1065-3・1302・1303-1・1303-2・1303-4・1304-1・1304-2・1304-3・1304-5・1304-6・1304-7・1304-8・1304-21・1304-22・1304-23・1304-26・1304-34・1304-52・1314-2・1341-13・1341-14・1341-27・1341-36・1341-40・堤町488-2・488-3・500-2
- 3 遺跡名称は、前橋市教育委員会と協議の上、当事業団の設定方法に従い、大字名と小字名を組み合わせて付することを基本としているが、本遺跡に隣接して、すでに発掘調査されている「萱野遺跡」があるため、これと一連の遺跡として「萱野Ⅱ」の名称を付した。また、本書で取り上げる調査範囲のうち、江木町1302・1303-1・1303-2・1303-4及び堤町488-2・488-3・500-2については「堤沼上遺跡」として調査されているが、萱野Ⅱ遺跡と連続するものとして本書に含めて報告する。
- 4 遺跡の略号はJK47である。
- 5 事業主体 国土交通省
- 6 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 7 発掘調査期間 平成13年4月1日～平成14年3月31日・平成14年10月1日～平成16年3月31日
- 8 発掘調査組織及び事務担当

平成13年度

理事長 小野宇三郎 常務理事 赤山容造 常務理事 吉田豊 管理部長 住谷進 調査研究部長 能登健
調査研究第2課長 小山友孝 総務課長 大島信夫 総務係長 笠原秀樹 経理係長 小山建夫 主幹兼係長代理 須田朋子
係長代理 吉田有光 森下弘美 主幹兼専門員 中沢悟 主事 片岡徳雄
非常勤嘱託 土橋まり子 原田恒弘 奈良部清満
事務補助員 吉田恵子 吉田笑子 並木綾子 今井もと子 内山佳子 若田 誠 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり 田村恭子 狩野真子 廣津真希子 松下次男 吉田茂 蘇原正義
発掘調査担当
主幹兼専門員 洞口正史 主任調査研究員 新井英樹 高柳浩道

平成14年度

理事長 小野宇三郎 常務理事 住谷栄市 常務理事 神保侑史 管理部長 萩原利通 調査研究部長 巾隆行
調査研究第3課長 中沢悟 総務課長 植原恒夫 経理課長 小山健夫 総務係長 高橋房雄 主幹兼係長代理 須田朋子
係長代理 吉田有光 森下弘美 主事 田中賢一 非常勤嘱託 土橋まり子 原田恒弘 奈良部清満
事務補助員 吉田恵子 吉田笑子 並木綾子 今井もと子 内山佳子 若田 誠 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり 田村恭子 狩野真子 廣津真希子 松下次男 吉田茂 蘇原正義
発掘調査担当 主幹兼専門員 洞口正史 主任調査研究員 新井英樹

平成15年度

理事長 小野宇三郎 常務理事 住谷栄市 常務理事 神保侑史 管理部長 矢崎俊夫 調査研究部長 右島和夫
調査研究第2課長 関晴彦 総務課長 植原恒夫 総務係長 竹内宏 経理係長 高橋房雄 主幹兼係長代理 須田朋子
係長代理 吉田有光 主事 阿久沢玄洋 田中賢一 非常勤嘱託 土橋まり子 原田恒弘 奈良部清満
事務補助員 吉田恵子 吉田笑子 並木綾子 今井もと子 内山佳子 若田 誠 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり 田村恭子 狩野真子 廣津真希子 松下次男 吉田茂 蘇原正義
発掘調査担当 主幹兼専門員 女屋和志雄・洞口正史 主任調査研究員 津島秀章・井上昌美・新井英樹・井原陽一・青木さおり

9 整理主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

10 整理期間 平成16年4月1日～平成18年3月31日

11 整理組織及び事務担当

平成17年度

理事長 小野宇三郎(～7月) 高橋勇夫(7月～) 事務局長 津金澤吉茂 常務理事 木村裕紀 総務部長 矢崎俊夫
資料整理部長兼第1課長 中東耕志 調査研究部長 西田健彦 資料整理課長 相京建史 総務課長 宮前結城雄
総務係長 竹内宏 経理係長 石井清 専門員 齋藤利昭 主幹 須田朋子 吉田有光 今泉大作
主任 清水秀紀 佐藤聖行 栗原幸代 非常勤嘱託 土橋まり子 市村良治 黒澤隆一
事務補助員 今井もと子 内山佳子 若田 誠 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり 田村恭子 狩野真子 六本木弘子 武藤秀典
整理担当 専門員 新井英樹 遺物保存処理 専門員 関邦一 写真撮影 専門員 佐藤元彦 整理補助員 桑原恵美子 高田栄子 田中曉美 小金澤たみ子 高梨由美子

平成18年度

理事長 高橋勇夫 事務局長 津金澤吉茂 常務理事 木村裕紀 総務部長 萩原勉
資料整理部長兼資料整理第一グループリーダー 中東耕志 調査研究部長兼調査研究グループリーダー 西田健彦
総務課長 宮前結城雄 総務グループリーダー 笠原秀樹 経理グループリーダー 石井清 主幹 齋藤恵利子 須田朋子 吉田有光 今泉大作 主任 清水秀紀 佐藤聖行 栗原幸代 非常勤嘱託 土橋まり子 真下高幸
事務補助員 今井もと子 内山佳子 若田 誠 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり 田村恭子 狩野真子 六本木弘子 武藤秀典
整理担当 主任専門員(総括) 洞口正史 遺物保存処理 関邦一 写真撮影 専門員 主任佐藤元彦 整理補助員 桑原恵美子 高田栄子 田中曉美 小金澤たみ子 高梨由美子

- 12 発掘調査時の遺構等にかかる記録図は1:20の縮尺を基本として作図したが、遺構種により一部1:10・1:40・1:60・1:100等の縮尺で作図したものがあつた。記録保存原図の作図の一部は株式会社横田調査設計・技研測量設計株式会社に委託した。

- 13 記録写真発掘調査に伴う写真撮影は発掘調査担当者が撮影したが、航空写真撮影は技研設計測量株式会社に委託した。
- 14 以下の項目について、それぞれ業務委託を行った。
 テフラ・植物珪酸体分析 株式会社古環境研究所
 大型植物遺体同定 株式会社パレオ・ラボ
 全体図作成・石器データ作成 株式会社シン技術コンサル
 遺跡掘削工事 須賀工業株式会社
- 15 本書の作成にかかる作業分担は以下による
 編集・構成 洞口正史・新井英樹
 遺構写真 上記調査担当者
 遺物実測・整図・図版作成 桑原恵美子 高田栄子 田中暁美 小金澤たみ子 高梨由美子
 遺物写真撮影 佐藤元彦
 第1章1執筆 関晴彦
 第3章1及び第5章2の一部執筆 新井英樹
 第7章1・2執筆 株式会社古環境研究所
 第7章3～5執筆 株式会社パレオ・ラボ
 遺物観察所見・観察表執筆 安生素明・新井英樹
 その他の文章執筆 洞口正史
- 16 石器石材の同定には、飯島静夫氏の手を煩わせた。また、調査に当たって、前原豊、大塚昌彦、熊谷健、中山哲也、原真、桜井和哉の各氏から多くの有益な助言をいただいた。縄文土器、石器の観察に当たっては、石坂茂、藤巻幸雄、関根慎二、谷藤保彦、墨書土器の読解にあたっては高井佳弘、高島英之の同僚各氏の指導を受けた。記して感謝の意を表します。
- 17 本遺跡の記録図・記録写真・出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管し、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が管理している。

凡 例

- 1 本書で使用した地形図は、国土地理院発行1：50,000「宇都宮」「長野」、1：25,000「前橋」前橋市発行白図1：2,500を編集した。
- 2 挿図中に使用した方位は、日本測地系平面直角座標系第IX系における座標北を使用している。
- 3 挿図における座標は日本測地系平面直角座標系第IX系を用いつつ、上武道路関連遺跡の発掘調査遺跡共通のグリッド名称を付している。これについては第1章3を参照されたい。
- 4 土層観察所見については、農林水産省水産技術会議事務局監修 残団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳』を参考に記載を行った。
- 5 土層観察所見中のテフラ名については 町田洋・新井房夫 『新編火山灰アトラス 日本列島とその周辺』東京大学出版会2003 所載の略称を用いた。
- 6 挿図中の遺構図面の縮尺は1：60を基準とし、部分図については1：30を用いているが、対象によってこれ以外の縮尺を用いる場合がある。個別図面の縮尺についてはその都度示した。
- 7 挿図中の遺物図面の縮尺は、土器1：6、石器1：3を基準とするが、対象によってこれ以外の縮尺を用いる場合がある。個別図面の縮尺についてはその都度示した。
- 8 挿図中のスクリーン・トーンについては図中に注記のない限り、以下の表現を示す。



焼土



粘土



炭化物



As-B

目次

序

例言 凡例 目次 挿図目次 写真図版目次 報告書抄録

第1章	発掘調査の経過と方法	1
	1 調査に至る経過	1
	2 遺跡名称について	2
	3 調査区とグリッドの設定	4
	4 調査の経過	4
	5 整理事業の経過	4
第2章	萱野Ⅱ遺跡の立地と環境	6
	1 遺跡の位置と立地	6
	2 周辺の遺跡	6
第3章	縄文時代の遺構と遺物	11
	1 竪穴住居	11
	2 土坑・埋設土器	78
	3 掘立柱建物・ピット	138
	4 遺構外出土遺物	145
第4章	古墳	199
第5章	奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物	223
	1 竪穴住居	223
	2 土坑・ピット	265
第6章	谷地部分の調査	272
第7章	自然科学分析報告	285
	1 萱野Ⅱ遺跡の土層とテフラ	285
	2 萱野Ⅱ遺跡におけるプラント・オパール分析	292
	3 萱野Ⅱ遺跡から出土した炭化種実 1	300
	4 萱野Ⅱ遺跡から出土した炭化種実 2	300
	5 萱野Ⅱ遺跡（堤沼上遺跡）から出土した炭化種実 3	301
	6 萱野Ⅱ遺跡から出土した炭化種実 4	302
	7 萱野Ⅱ遺跡出土炭化材の樹種同定	303
第8章	遺物観察表	305
	1 縄文土器観察表	305
	2 縄文時代石器観察表	343
	3 古代土器観察表	355
	4 金属製品等観察表	359
第9章	調査のまとめ	361

写真図版

挿図目次

第1図	萱野Ⅱ遺跡の位置	1	
第2図	上武道路と萱野Ⅱ遺跡	3	
第3図	萱野Ⅱ遺跡の調査区	5	
第4図	萱野Ⅱ遺跡と周辺の遺跡	7	
第5図	1号住居平面図・土層断面図	11	
第6図	1号住居掘り方平面図・高低図	12	ピット等土層断面図
第7図	1号住居出土遺物1	14	
第8図	1号住居出土遺物2	15	
第9図	1号住居出土遺物3	16	
第10図	1号住居出土遺物4	17	
第11図	1号住居出土遺物5	18	
第12図	1号住居出土遺物6	19	
第13図	2号住居平面図・土層断面図	20	
第14図	2号住居出土遺物	21	
第15図	3号住居平面図・土層断面図	22	
第16図	3号住居埋め堦平面図・土層断面図	23	
第17図	3号住居出土遺物1	23	
第18図	3号住居出土遺物2	24	
第19図	4号住居 炉平面図・高低図	25	
第20図	4号住居平面図・高低図・土層断面図	26	
第21図	4号住居出土遺物1	27	
第22図	4号住居出土遺物2	28	
第23図	4号住居出土遺物3	29	
第24図	5号住居平面図・高低図・土層断面図	30	
第25図	5号住居出土遺物1	31	
第26図	5号住居出土遺物2	32	
第27図	6号住居平面図・高低図・土層断面図	33	
第28図	6号住居出土遺物1	33	
第29図	6号住居出土遺物2	34	
第30図	7号住居遺物分布図	34	
第31図	7号住居平面図	35	
第32図	7号住居土層断面図・掘り方平面図	36	
第33図	7号住居土坑土層断面図	37	掘り方高低図
第34図	7号住居出土遺物1	39	
第35図	7号住居出土遺物2	40	
第36図	7号住居出土遺物3	41	
第37図	7号住居出土遺物4	42	
第38図	8号住居平面図・土層断面図	43	
第39図	8号住居出土遺物1	44	
第40図	8号住居出土遺物2	45	
第41図	8号住居出土遺物3	46	
第42図	9号住居平面図・土層断面図	47	
第43図	9号住居高低図	48	ピット等土層断面図
第44図	9号住居出土遺物1	49	
第45図	9号住居出土遺物2	50	
第46図	10号住居遺物出土状況・平面図・高低図・土層断面図	51	
第47図	10号住居 炉平面図	51	土層断面図
第48図	10号住居出土遺物1	52	
第49図	10号住居出土遺物2	53	
第50図	10号住居出土遺物3	54	
第51図	14号住居平面図・土層断面図	55	
第52図	14号住居出土遺物1	55	
第53図	14号住居出土遺物2	56	
第54図	14号住居出土遺物3	57	
第55図	14号住居出土遺物4	58	
第56図	14号住居出土遺物5	59	
第57図	14号住居出土遺物6	60	
第58図	24号住居遺物出土状況	61	平面図・土層断面図
第59図	24号住居出土遺物1	62	
第60図	24号住居出土遺物2	63	
第61図	24号住居出土遺物3	64	
第62図	24号住居出土遺物4	65	
第63図	24号住居出土遺物5	66	
第64図	24号住居出土遺物6	67	
第65図	25号住居遺物出土状況	67	
第66図	25号住居平面図・土層断面図	68	
第67図	25号住居出土遺物1	69	
第68図	25号住居出土遺物2	70	
第69図	25号住居出土遺物3	71	
第70図	26号住居平面図・土層断面図	72	炉平面図・土層断面図
第71図	26号住居石皿平面図・高低図・据え方土層断面図	73	
第72図	26号住居出土遺物1	73	
第73図	26号住居出土遺物2	74	
第74図	27号住居平面図・土層断面図	75	
第75図	27号住居掘り方平面図	76	ピット等土層断面図
第76図	27号住居出土遺物1	77	
第77図	27号住居出土遺物2	78	
第78図	土坑1 (4・6号土坑)	79	
第79図	土坑2 (7～8号土坑)	81	
第80図	土坑3 (9～12号土坑)	82	
第81図	土坑4 (13～14号土坑)	83	
第82図	土坑5 (15～17号土坑)	85	
第83図	土坑6 (17号土坑出土遺物・18号土坑)	86	
第84図	土坑7 (18号土坑出土遺物)	87	
第85図	土坑8 (19～21号土坑)	89	
第86図	土坑9 (22～24号土坑)	90	
第87図	土坑10 (24号土坑出土遺物・25号土坑)	91	
第88図	土坑11 (25号土坑出土遺物・26～28号土坑)	93	
第89図	土坑12 (29号土坑)	94	
第90図	土坑13 (30～32号土坑)	95	
第91図	土坑14 (33～34号土坑)	97	
第92図	土坑15 (34号土坑出土遺物)	98	
第93図	土坑16 (35～37号土坑)	99	
第94図	土坑17 (38～42号土坑)	101	
第95図	土坑18 (43～46号土坑)	102	
第96図	土坑19 (47～48号土坑)	103	
第97図	土坑20 (49～51号土坑)	105	
第98図	土坑21 (52～53号土坑)	107	
第99図	土坑22 (55～57号土坑)	108	
第100図	土坑23 (58～63号土坑)	109	
第101図	土坑24 (63号土坑出土遺物・64～66号土坑)	111	
第102図	土坑25 (67～69号土坑)	113	
第103図	土坑26 (69号土坑出土遺物・70～73号土坑)	115	
第104図	土坑27 (74～77号土坑)	117	
第105図	土坑28 (78～82号土坑)	118	
第106図	土坑29 (83～88号土坑)	119	
第107図	土坑30 (89～90・92～95号土坑)	121	
第108図	土坑31 (96～100号土坑)	123	
第109図	土坑32 (100号土坑出土遺物・101～102号土坑)	125	
第110図	土坑33 (103・110～113号土坑)	126	
第111図	土坑34 (114～117号土坑)	127	
第112図	土坑35 (118～119・121～122号土坑)	129	
第113図	土坑36 (123～127号土坑)	131	
第114図	土坑37 (128～134号土坑)	133	
第115図	土坑38 (135～137号土坑)	134	
第116図	土坑39 (137号土坑出土遺物・138～139号土坑)	135	
第117図	1号埋設土器 2号埋設土器	137	

第118図	1号掘立柱建物	平面図・高低図	柱穴土層断面図	
				138
第119図	2号掘立柱建物	平面図・高低図	柱穴土層断面図	
				140
第120図	3号掘立柱建物	平面図・高低図	柱穴土層断面図	
				140
第121図	ピット1	(1～6号ピット)		142
第122図	ピット2	(7～10・18～20号ピット)		144
第123図	縄文土器のグリッド別出土量概念図			148
第124図	遺構外出土土器	1		149
第125図	遺構外出土土器	2		150
第126図	遺構外出土土器	3		151
第127図	遺構外出土土器	4		152
第128図	遺構外出土土器	5		153
第129図	遺構外出土土器	6		154
第130図	遺構外出土土器	7		155
第131図	遺構外出土土器	8		156
第132図	遺構外出土土器	9		157
第133図	遺構外出土土器	10		158
第134図	遺構外出土土器	11		159
第135図	遺構外出土土器	12		160
第136図	遺構外出土土器	13		161
第137図	遺構外出土土器	14		162
第138図	遺構外出土土器	15		163
第139図	遺構外出土土器	16		164
第140図	遺構外出土土器	17		165
第141図	遺構外出土土器	18		166
第142図	遺構外出土土器	19		167
第143図	石器のグリッド別出土量概念図			168
第144図	遺構外出土石器	1		169
第145図	遺構外出土石器	2		170
第146図	遺構外出土石器	3		171
第147図	遺構外出土石器	4		172
第148図	遺構外出土石器	5		173
第149図	遺構外出土石器	6		174
第150図	遺構外出土石器	7		175
第151図	遺構外出土石器	8		176
第152図	遺構外出土石器	9		177
第153図	遺構外出土石器	10		178
第154図	遺構外出土石器	11		179
第155図	遺構外出土石器	12		180
第156図	遺構外出土石器	13		181
第157図	遺構外出土石器	14		182
第158図	遺構外出土石器	15		183
第159図	遺構外出土石器	16		184
第160図	遺構外出土石器	17		185
第161図	遺構外出土石器	18		186
第162図	遺構外出土石器	19		187
第163図	遺構外出土石器	20		188
第164図	遺構外出土石器	21		189
第165図	遺構外出土石器	22		190
第166図	遺構外出土石器	23		191
第167図	遺構外出土石器	24		192
第168図	遺構外出土石器	25		193
第169図	遺構外出土石器	26		194
第170図	遺構外出土石器	27		195
第171図	遺構外出土石器	28		196
第172図	遺構外出土石器	29		197
第173図	遺構外出土石器	30		198
第174図	1号墳土層断面図	1		200
第175図	1・2号墳平面図			201
第176図	1号墳土層断面図	2		203
第177図	1号墳土層断面図	3		204
第178図	1号墳主体部平面図			206
第179図	1号墳石室用石展開図	1		207
第180図	1号墳石室用石展開図	2		208
第181図	1号墳石室用石展開図	3		209
第182図	1号墳石室用石展開図	4		210
第183図	1号墳石室用石展開図	5		211
第184図	1号墳石室用石展開図	6		212
第185図	1号墳石室用石展開図	7		213
第186図	1号墳石室用石展開図	8		214
第187図	1号墳石室用石展開図	9		215
第188図	1号墳石室用石展開図	10		216
第189図	1号墳石室用石展開図	11		217
第190図	1号墳石室用石展開図	12		218
第191図	1号墳石室用石展開図	13		219
第192図	1号墳石室用石展開図	14		220
第193図	1号墳石室用石加工痕			221
第194図	2号墳	平面図	土層断面図	222
第195図	11号住居	平面図	土層断面図	出土遺物
				223
第196図	12号住居	平面図	土層断面図	224
第197図	12号住居	掘り方	平面図	225
第198図	12号住居	竈	平面図	土層断面図
			掘り方平面図	出土遺物1
				226
第199図	12号住居	出土遺物	2	227
第200図	13号住居	平面図	土層断面図	228
第201図	13号住居	竈	平面図	土層断面図
			掘り方平面図	229
第202図	13号住居	掘り方	平面図	高低図
				230
第203図	13号住居	出土遺物	1	231
第204図	13号住居	出土遺物	2	232
第205図	13号住居	釘出土位置	模式図	232
第206図	15号住居	平面図	土層断面図	高低図
			貯蔵穴土層断面図	233
第207図	15号住居	掘り方	平面図	高低図
				234
第208図	15号住居	竈	平面図	土層断面図
			掘り方平面図	235
第209図	15号住居	出土遺物		236
第210図	16号住居	平面図	土層断面図	貯蔵穴土層断面図
				237
第211図	16号住居	竈	平面図	土層断面図
				238
第212図	16号住居	掘り方	平面図	239
第213図	16号住居	竈掘り方	平面図	高低図
				239
第214図	16号住居	出土遺物		240
第215図	17号住居	掘り方平面図		高低図
				241
第216図	17号住居	平面図	土層断面図	貯蔵穴土層断面図
				242
第217図	17号住居	竈	平面図	土層断面図
			掘り方平面図	243
第218図	17号住居	出土遺物	1	244
第219図	17号住居	出土遺物	2	245
第220図	18号住居	平面図	土層断面図	貯蔵穴土層断面図
				246
第221図	18号住居	掘り方平面図		高低図
			土層断面図	247
第222図	18号住居	竈	平面図	土層断面図
			掘り方平面図	248
第223図	18号住居	出土遺物		249
第224図	19号住居	平面図	土層断面図	高低図
				250
第225図	19号住居	掘り方	平面図	土層断面図
				高低図
				251
第226図	19号住居	竈	平面図	土層断面図
				252
第227図	19号住居	竈	平面図	高低図
				253
第228図	19号住居	出土遺物		254

第229図	20号住居 平面図 土層断面図	255	第250図	谷地部分土層断面Aライン1	277
第230図	20号住居掘り方 平面図 高低図	257	第251図	谷地部分土層断面Aライン2	278
第231図	20号住居竈 平面図 土層断面図	257	第252図	谷地部分土層断面Bライン1	279
第232図	20号住居竈掘り方 平面図 高低図	258	第253図	谷地部分土層断面Bライン2	280
第233図	20号住居出土遺物1	258	第254図	谷地部分土層断面Cライン	281
第234図	20号住居出土遺物2	259	第255図	谷地部分土層断面Dライン	282
第235図	21号住居 平面図 土層断面図 貯蔵穴土層断面図 ピット高低図	260	第256図	谷地部分土層断面Eライン	283
第236図	21号住居掘り方 平面図 土層断面図 高低図	261	第257図	谷地部分土層断面Fライン	284
第237図	21号住居竈 平面図 土層断面図	262	第258図	萱野Ⅱ遺跡の土層柱状図1	290
第238図	21号住居竈掘り方 平面図 高低図	263	第259図	萱野Ⅱ遺跡の土層柱状図2	291
第239図	21号住居出土遺物	263	第260図	萱野Ⅱ遺跡におけるプラントオパール分析結果1	296
第240図	22号住居 平面図 土層断面図	264	第261図	萱野Ⅱ遺跡におけるプラントオパール分析結果2	297
第241図	23号住居 平面図 土層断面図	265	第262図	萱野Ⅱ遺跡におけるプラントオパール分析結果3	298
第242図	土坑1 (1～3・5・104号土坑)	266	第263図	萱野Ⅱ遺跡におけるプラントオパール分析結果4	299
第243図	土坑2 (105号土坑)	267	第264図	萱野遺跡と萱野Ⅱ遺跡	362
第244図	土坑3 (106～108号土坑)	269	第265図	縄文時代の遺構分布	363
第245図	土坑4 ピット1 (109・120号土坑 11～17号ピット)	271	第266図	古墳時代の遺構分布	364
第246図	谷地部分平面図(北半)	273	第267図	古代の遺構分布	365
第247図	谷地部分平面図(南半)	274			
第248図	谷地部分As-Bの残存状況	275			
第249図	谷地部分As-C下の遺構	276			

写真図版目次

- PL.1 萱野Ⅱ遺跡
PL.2 萱野Ⅱ遺跡
PL.3 1号住居
PL.4 1号住居出土遺物
PL.5 1号住居出土遺物
PL.6 1号住居出土遺物
PL.7 1号住居出土遺物
PL.8 2号住居
PL.9 2号住居 3号住居
PL.10 3号住居 3号住居出土遺物
PL.11 3号住居出土遺物 4号住居
PL.12 4号住居
PL.13 4号住居 4号住居出土遺物
PL.14 4号住居出土遺物
PL.15 5号住居 5号住居出土遺物
PL.16 5号住居出土遺物
PL.17 6号住居
PL.18 6号住居 6号住居出土遺物 7号住居
PL.19 7号住居
PL.20 7号住居
PL.21 7号住居出土遺物
PL.22 7号住居出土遺物
PL.23 7号住居出土遺物
PL.24 8号住居
PL.25 8号住居 8号住居出土遺物
PL.26 8号住居出土遺物
PL.27 8号住居出土遺物 9号住居
PL.28 9号住居 9号住居出土遺物
PL.29 9号住居出土遺物 10号住居
PL.30 10号住居 10号住居出土遺物
PL.31 10号住居出土遺物
PL.32 14号住居 14号住居出土遺物
PL.33 14号住居出土遺物
PL.34 14号住居出土遺物
PL.35 14号住居出土遺物
PL.36 14号住居出土遺物 24号住居 24号住居出土遺物
PL.37 24号住居出土遺物
PL.38 24号住居出土遺物
PL.39 24号住居出土遺物
PL.40 24号住居出土遺物 25号住居
PL.41 25号住居 25号住居出土遺物
PL.42 25号住居出土遺物
PL.43 26号住居
PL.44 26号住居出土遺物 27号住居
PL.45 27号住居
PL.46 27号住居出土遺物
PL.47 27号住居出土遺物 土坑1 (4・6・7・10号土坑)
PL.48 土坑2 (7～9・11号土坑)
PL.49 土坑3 (12～15号土坑)
PL.50 土坑4 (16・17号土坑)
PL.51 土坑5 (18～20号土坑)
PL.52 土坑6 (21～25号土坑)
PL.53 土坑7 (25～29号土坑)
PL.54 土坑8 (29～31号土坑)
PL.55 土坑9 (32～34号土坑)
PL.56 土坑10 (34～39号土坑)
PL.57 土坑11 (40～44号土坑)
PL.58 土坑12 (45～48号土坑)
PL.59 土坑13(49～53号土坑)
PL.60 土坑14(53・55～57号土坑)
PL.61 土坑15(58～64号土坑)
PL.62 土坑16(62～67号土坑)
PL.63 土坑17(68～71号土坑)
PL.64 土坑18(73～78号土坑)
PL.65 土坑19 (78～84号土坑)
PL.66 土坑20(85～90・92号土坑)
PL.67 土坑21(93～98号土坑)
PL.68 土坑22(99～102号土坑)
PL.69 土坑23 (110～114・116号土坑)
PL.70 土坑24(117～121号土坑)
PL.71 土坑25(122～126号土坑)
PL.72 土坑26(127～132号土坑)
PL.73 土坑27(133～138号土坑)
PL.74 土坑28 (139号土坑) 1・2号埋設土器 1・2号掘立柱建物
PL.75 3号掘立柱建物 グリッド遺物出土状況
PL.76 遺構外出土土器1
PL.77 遺構外出土土器2
PL.78 遺構外出土土器3
PL.79 遺構外出土土器4
PL.80 遺構外出土土器5
PL.81 遺構外出土土器6
PL.82 遺構外出土土器7
PL.83 遺構外出土土器8
PL.84 遺構外出土土器9
PL.85 遺構外出土土器10
PL.86 遺構外出土土器11
PL.87 遺構外出土土器12
PL.88 遺構外出土土器13
PL.89 遺構外出土石器1
PL.90 遺構外出土石器2
PL.91 遺構外出土石器3
PL.92 遺構外出土石器4
PL.93 遺構外出土石器5
PL.94 遺構外出土石器6
PL.95 遺構外出土石器7
PL.96 遺構外出土石器8
PL.97 遺構外出土石器9
PL.98 遺構外出土石器10
PL.99 遺構外出土石器11
PL.100 遺構外出土石器12
PL.101 遺構外出土石器13
PL.102 遺構外出土石器14
PL.103 遺構外出土石器15
PL.104 遺構外出土石器16
PL.105 遺構外出土石器17
PL.106 遺構外出土石器18
PL.107 遺構外出土石器19
PL.108 遺構外出土石器20
PL.109 遺構外出土石器21
PL.110 1号墳
PL.111 1号墳
PL.112 1号墳 2号墳
PL.113 11号住居 11号住居出土遺物 12号住居
PL.114 12号住居 12号住居出土遺物 13号住居
PL.115 13号住居 13号住居出土遺物
PL.116 13号住居出土遺物 15号住居
PL.117 15号住居 15号住居出土遺物 16号住居
PL.118 16号住居 16号住居出土遺物 17号住居
PL.119 17号住居 17号住居出土遺物 18号住居
PL.120 18号住居 18号住居出土遺物 19号住居
PL.121 19号住居 19号住居出土遺物
PL.122 20号住居 20号住居出土遺物

- PL.123 21号住居
- PL.124 21号住居出土遺物 22号住居 土坑1 (1・2号土坑)
- PL.125 土坑2(3・5・104～106号土坑)
- PL.126 土坑3 (105～109・120号土坑)
- PL.127 ビット (11～17号ビット)
- PL.128 谷地部分の調査 1
- PL.129 谷地部分の調査 2
- PL.130 植物珪酸体の顕微鏡写真
- PL.131 出土種実・材 体験学習風景
- PL.132 出土種実

報 告 書 抄 録

書名ふりがな	かやのにいせき
書名	萱野Ⅱ遺跡
副書名	一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その2)報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第402集
編著者名	洞口正史 新井秀樹 関晴彦 安生素明 株式会社古環境研究所 株式会社パレオラボ
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	2007.03.23
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町大字下箱田784-2
遺跡名ふりがな	かやのい
遺跡名	萱野Ⅱ
遺跡所在地	群馬県前橋市江木町・堤町
市町村コード	10201
遺跡番号	711
北緯(日本測地系)	36° 23' 38"
東経(日本測地系)	139° 08' 17"
北緯(世界測地系)	36° 23' 49"
東経(世界測地系)	139° 08' 05"
調査期間	2001.04.01～2002.3.31/2002.10.1～2004.03.31
調査面積	30386.3 m ²
調査原因	道路建設
種別	集落・墓地
主な時代	縄文時代/古墳時代/奈良時代/平安時代
遺跡概要	縄文時代－前期竪穴住居11、中期竪穴住居4、掘立柱建物3、土坑、ピット/古墳時代－古墳2、水田想定地/奈良時代－竪穴住居5/平安時代－竪穴住居5、土坑、ピット/テフラ分析/プラントオパール分析/炭化種実同定/樹種同定
特記事項	縄文時代前期・中期、8世紀から9世紀にかけての集落。古墳痕跡。大型の自然石を利用した石皿を据え置いた縄文時代前期住居。削り石切組積み横穴式石室を持った古墳の痕跡。焼き印、墨書土器「新殿」など。

第1章 発掘調査の経過と方法

1 調査に至る経過

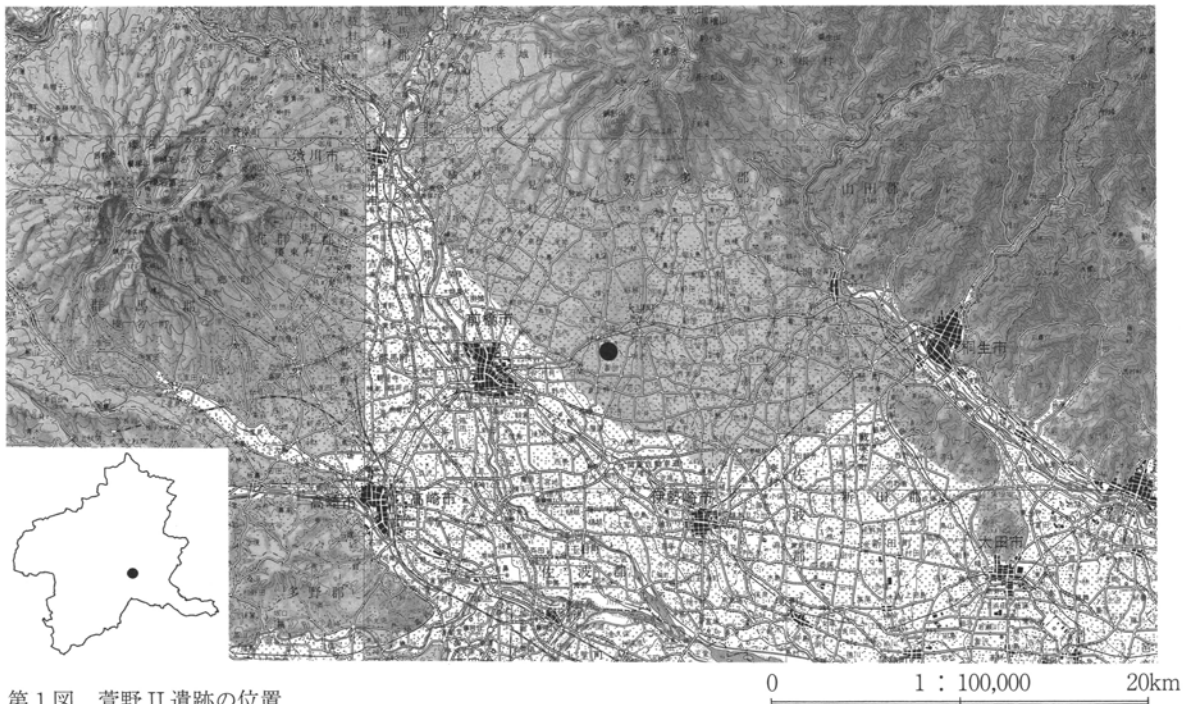
上武道路は「昭和30年代後半からの交通需要の急速な増大により、各地域で交通混雑を生むようになり」、「こうした交通需要に対応し地域の活性化を図るため、東京～前橋間の大規模バイパスの一環として計画」され、平成元年3月3日には埼玉県境から国道50号線までが供用された（「」内は国土交通省パンフレットから引用）。

群馬県教育委員会文化財保護課は、昭和時代に建設省関東地方整備局高崎工事事務所から事業の照会を受け、事業予定地内の埋蔵文化財の有無について現地踏査をおこなった。

同課は分布調査を実施し、事業予定地に縄文時代から平安時代の集落、古代の埋没水田・畠等が広く分布していることが明らかになったが、その時点では事業実施に至らなかった。

後年、この分布調査の結果を受けて、群馬県教育委員会と前橋市教育委員会は、平成10年度に事業地内の埋蔵文化財包蔵地を改めて把握し、埋蔵文化財の取り扱いを協議して、事業予定地全体に遺跡が分布しており、本格的な発掘調査を行う必要があることを事業者へ通知した。

建設省関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長及び財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長は、平成11年4月1日付で、一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（その1）に関する協定を締結し、国道50号線以北で、かつ前橋市江木町までを対象とした区間（7-1工区）の発掘調査が実施されることとなった。発掘調査は協定書に基づいて、平成11年4月1日に富田細田遺跡から開始され、用地の買収および発掘調査体制が整うのを待って、順次着手した。また、前橋市江木町の萱野団地内を縦貫する前橋市道以西、上泉町までの間（7-2工区）については、平成14年4月1日付で、一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（その2）協定書が結ばれ、平成14年に萱野Ⅱ遺跡、堤沼上遺跡から順次調査されることとなった。



第1図 萱野Ⅱ遺跡の位置

2 遺跡名称について

萱野Ⅱ遺跡は、国土交通省の計画する工事区域7-1工区（55・56・57・58地区）と、7-2工区（59・60・61・62地区）とにまたがる遺跡で、58地区地区と59地区との間に工区界となる市道がある。55～58地区の調査は平成13年度から調査を開始し、一部を除いて平成14年度に終了した。59～62地区の調査は平成14年度に調査を開始し、平成15年度に終了した。

平成16年度に至り、資料整理計画をたてるなかで、二つの工区にまたがる本遺跡の取り扱いが協定三者により協議され、『前橋市江木町にある萱野Ⅱ遺跡は、発掘調査時は工区設定及び安全管理上の理由から、「その1協定書（7-1工区）」と「その2協定書（7-2工区）」とに分割されていた。しかし、歴史上一つの遺跡であることから、「その1協定書」分として発掘調査した萱野Ⅱ遺跡の整理事業を、「その2協定書」に移行・統合する必要があること。』及び、一つの遺跡を二つの報告書として整理・刊行するよりも一つの報告書としてまとめる方が、より効率的な整理事業となること等から、萱野Ⅱ遺跡は7-2工区の一整理事業（「その2協定書」に含める）とすることになり、平成16年11月10日付けで変更協定書が締結された。

2 遺跡名称について

上武道路は、谷と台地が交互に現れるという赤城山南麓の特徴的な地形を、南東から北西に横切るように走ることになる。各台地上には居住跡や墓跡としての遺跡が認められ、谷地にはテフラ等に被覆された水田の遺跡があるものと想定された。

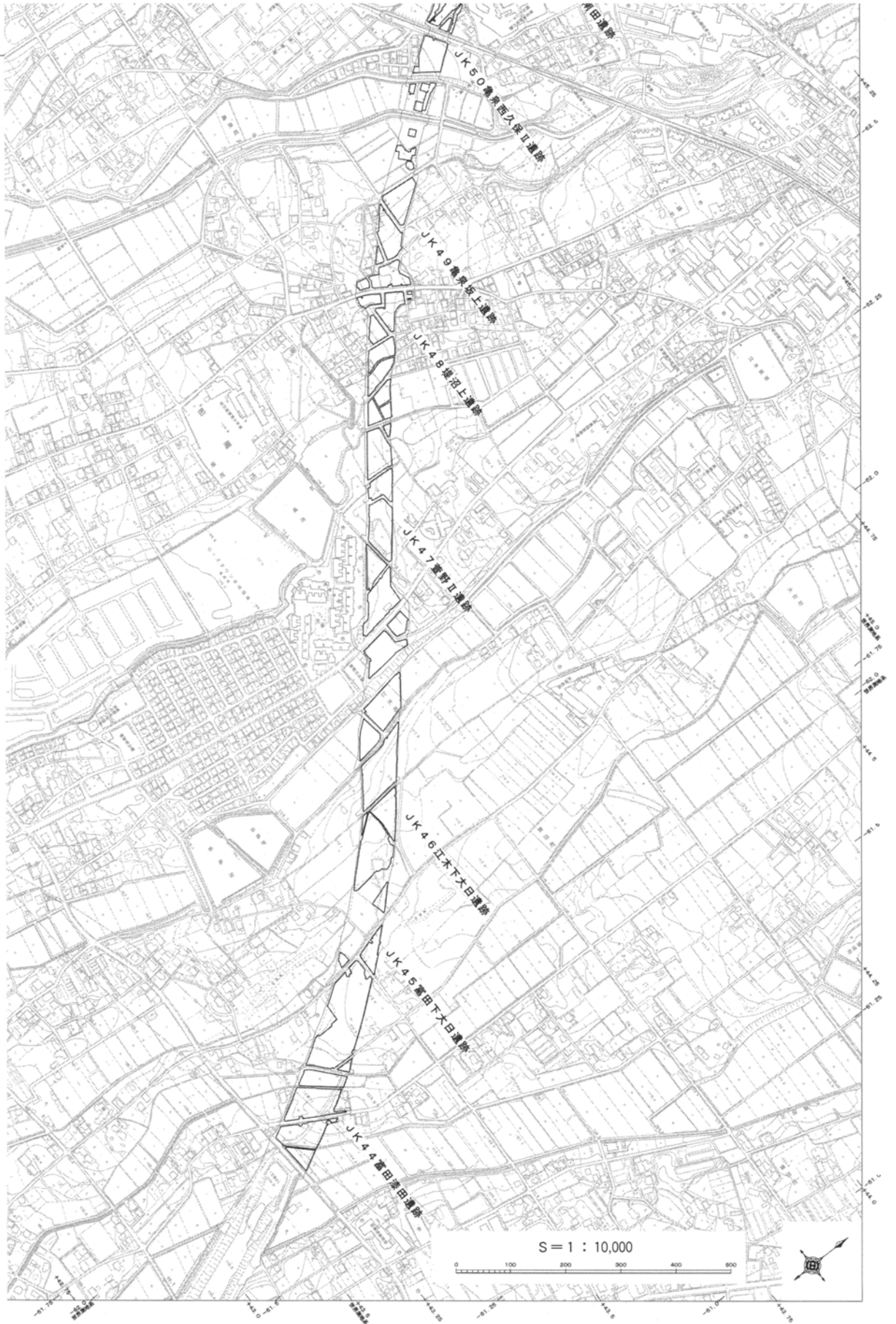
上武道路関連埋蔵文化財の発掘調査に当たっては、初期段階の発掘調査担当者が作成した原案に基づいて前橋市教育委員会と協議を行い、これにより地形に従って、南（あるいは東）側の谷地とその北（あるいは西）側の台地をあわせて一単位の「遺跡」としてとらえ、遺跡名称を付するという考え方を採った。また、遺跡名称については、所在地の大字名と小字名を冠することを基本とし、すでに調査が行われ、命名済みの遺跡がある部分の隣接地等については、既存の名称を踏襲した上で後ろに「Ⅱ」を付すこととして、平成11年4月からの発掘調査を開始している。

今回の発掘調査部分については、隣接する萱野団地の造成に先立って行われた発掘調査に際して「萱野遺跡」*が付されていることから「萱野Ⅱ遺跡」と命名した。東南の江木下大日遺跡との間の谷の東縁辺から、西北の堤沼上遺跡に含まれる谷の西縁辺までを範囲としている。

なお発掘調査時点では、道路や水路に区切られた現行地割りに従って工事用の区画が設定されていたため、便宜的にこれを調査区画として使用している。これは国道50号線以北の上武道路関連遺跡最南端の遺跡である今井道上Ⅱ遺跡の最南端の調査区画を「1」として、順次北に向かって数を増やすもので、本遺跡にあつては55区画から63区画が相当した。この区画は考古学的な遺跡の位置づけとは関連を持たないものであるため、報告文中では用いていない。ただし調査経過の記述においてはこれを用いたほうが整合的であるので、本章の中に限って、これを用いている。また、発掘調査時の採取図面、写真、遺物注記等においてはすべてこの調査区画単位で番号が付されて記載が行われており、本書における遺構番号と同一ではない。

また、本報告書で扱う発掘調査区域のうち、西端の調査区画である63区の一部が堤町に属するため、事業名称としては「堤沼上遺跡」に属するものとされた。このため、この部分については発掘調査時点での図面や写真も、一部萱野Ⅱ遺跡として扱われているが、多くは堤沼上遺跡として処理されている。本報告書においては、この部分についても萱野Ⅱ遺跡と連続する台地上にあることから、命名基準に沿った遺跡範囲をもって編集することとした。

* 『萱野・下田中・矢場遺跡 古墳時代集落址発掘調査報告書』群馬県企業局 1991



第2図 上武道路と萱野II遺跡

3 調査区とグリッドの設定

3 調査区とグリッドの設定

上武道路関連遺跡の発掘調査に当たっては遺跡相互の関連性が把握しやすいように、調査の基準となる階層的なグリッド網を設定することとした。1000m四方の大グリッド→100m四方の中グリッド→5m四方の小グリッドの3段階であり、大グリッド1から9により調査区全体をカバーする。萱野Ⅱ遺跡は大グリッド6および7にかかる。中グリッドは大グリッドを縦横に10区画づつ、100個に区切ったものである。東南隅を1とし、西方向へ2から10までの番号を付し、1の北を11として西へ順次番号を付す。萱野Ⅱ遺跡は大グリッド6の81から84及び91から94、大グリッド7の5・6及び16・17の中グリッドにかかる。

小グリッドは中グリッドをさらに100個に区切るもので、各分界線に東から西へAからT、南から北へ1から20の名称を付し、各区画の東南隅の交点名をグリッド名称とした。したがって各グリッドは、たとえば7（大グリッド）-5（中グリッド）-K10（小グリッド）のように表記することとしている。

4 調査の経過

萱野Ⅱ遺跡の調査は平成13年4月に着手した。東に接する江木下大日遺跡と並行しつつ発掘調査を行っている。初年度は国土交通省の計画する工事区域7-1工区に含まれる谷地部分（55区・56区）の調査を行った。

平成14年度には7-1工区（57区・58区）の調査と7-2工区に含まれる萱野Ⅱ遺跡及び事業名上の堤沼上遺跡の一部（63区）の調査に着手している。7-1工区分の区域については平成14年度に調査を終了した。なお、平成15年1月11日に、萱野Ⅱ遺跡発掘調査現場及び調査事務所を会場として現地説明会を行い、地元萱野団地の住民をはじめ、288名の見学者があった。また、近隣の桂萱東小学校児童による体験発掘、荒砥中学校生徒による職場体験も受け入れている。

平成15年度は発掘調査最終年であり、59区・60区・61区を中心に、縄文時代集落、古墳、平安時代集落及び旧石器時代遺物包含層の調査を行った。

調査記録は実測図面及び写真記録を主体とし、遺構図面については20分の一図を基本に、必要に応じて10分の一図を作成したほか、古墳、水田については専門業者に委託して100分の一図を作成している。写真記録は6×7版及び35mm版の白黒写真と35mm版のカラースライド写真を撮影している。

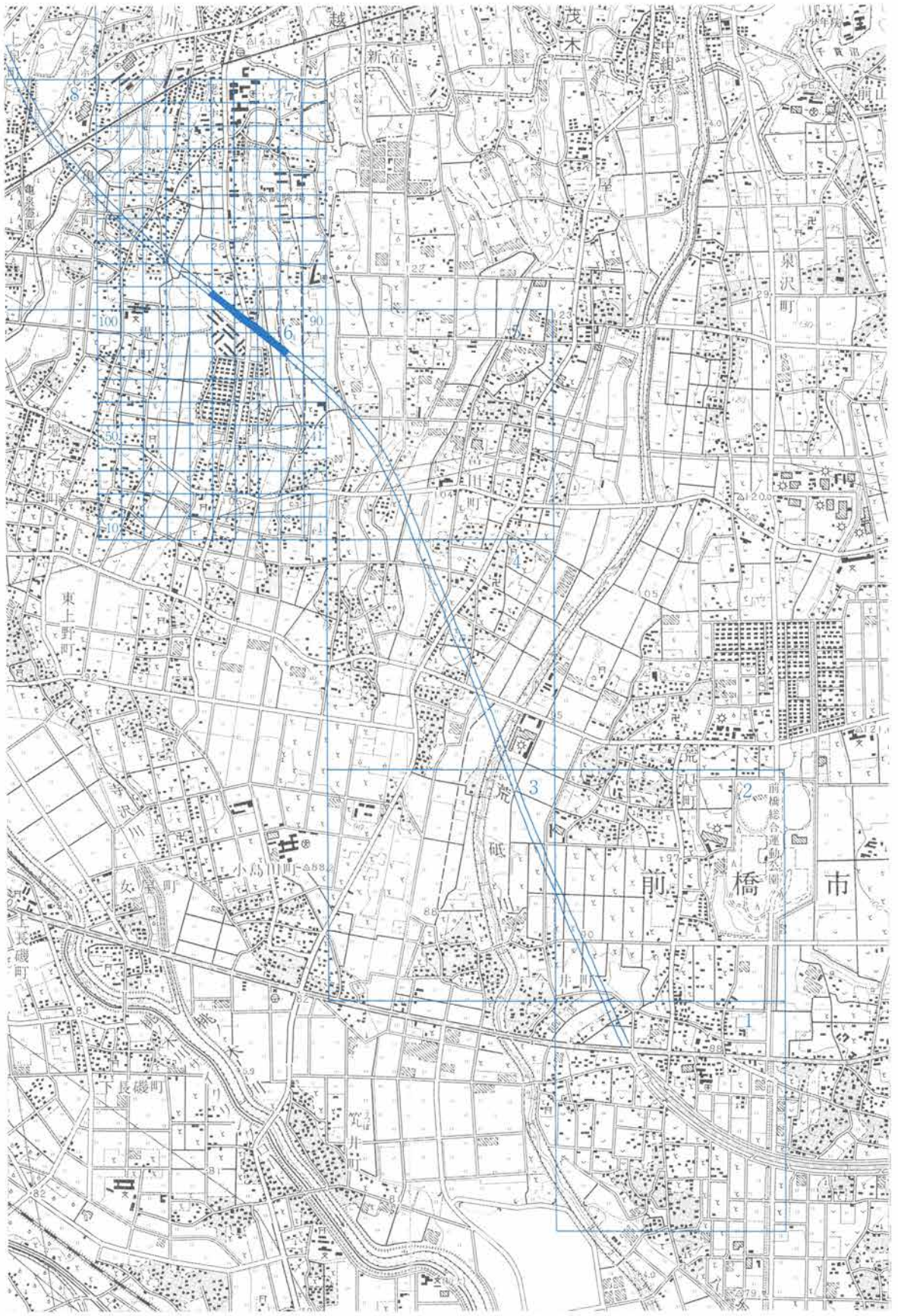
5 整理事業の経過

発掘調査現場においては、採取図面、写真資料に関する仮台帳の作成及び遺物の洗浄、注記を調査区画単位に行った。また、1号墳石室用石材の計測、観察及び拓本の採取を行った。

整理事業は平成17年4月1日から平成19年3月31日まで行い、平成18年度末に報告書を刊行した。

平成17年度には報告書掲載遺物の選別抽出を行い、これについて接合、復元、実測図作成、拓本の採取、写真撮影及び観察表作成を中心とした作業を行った。

平成18年度には遺物図面の整図、遺構図と遺構写真を整理・製図、編集を行い、個別遺構に関する記載及び観察所見、付随する各種記載を加えて報告書を編集、刊行した。



第3図 萱野II遺跡の調査区

0 1 : 25,000 1km

第2章 萱野Ⅱ遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置と立地

萱野Ⅱ遺跡は、群馬県前橋市の市街地から東南に6 kmほど離れた、前橋市江木町及び堤町にある。大きく見ると、東の荒砥川と西の寺沢川に挟まれた台地内であって、さらに小河川によって形成された谷地に東西を区画される台地を中心とする。この台地は、調査地付近での標高116mから120mほどで、なだらかに北から南に下る。南北3 kmほどの長さで、調査地付近では巾250mほどとなる細長い形状である。

東側の谷は江木下大日遺跡との境界をなす谷で、本調査地点の北800mほどの位置にある谷地新沼の北に谷頭を有する。100m弱の幅があり、本遺跡の台地からは5 mほどの比高があって、急傾斜で落ち込む、やや深い谷である。西側の谷は堤沼上遺跡との境界をなすが、調査区のすぐ北に谷頭を持つ浅く狭い谷である。発掘調査時点では、どちらの谷にも排水路は通じているが河川はなく、水田として耕作されていた。

赤城山南麓の台地は赤城山の火山活動と、その後の堆積・浸食の繰り返しによって形成されている。発掘調査時に確認できた最下層の堆積物は7万5千年前とされる大胡火砕流の堆積物層であり、その上位には榛名箱田テフラ、榛名八崎テフラ、浅間板鼻褐色軽石、浅間大窪沢第1軽石、板鼻黄色軽石等がローム中に混じて見られる。ローム層の上部は漸移的に黄褐色のソフトロームとなる。表土との間には比較的薄い暗褐色から黒褐色土壌があるが、黒ボク土の発達には谷地をのぞいてごく弱い。この中には、浅間Cテフラや榛名渋川テフラの軽石粒が混在している。谷部や一部の堅穴住居のくぼみ部分には浅間Bテフラが降下時の状況を良く残した状態で堆積している。

また、谷部では浅間Bテフラの下位に洪水起源と見られるシルト、砂の堆積がある。さらに遺構と直接のかかわりを持たないため調査対象とはしていないが、東西の谷地に沿った台地の縁辺では地割れ痕跡も認められる。西側に隣接する堤沼上遺跡では8世紀代の堅穴住居が地割れに切られていることが確認されており、これら洪水や地割れが「類聚国史」に記された弘仁九(818)年の地震*に伴うものである可能性が考えられる。また、表土中には浅間Aテフラの軽石が混入することがある。

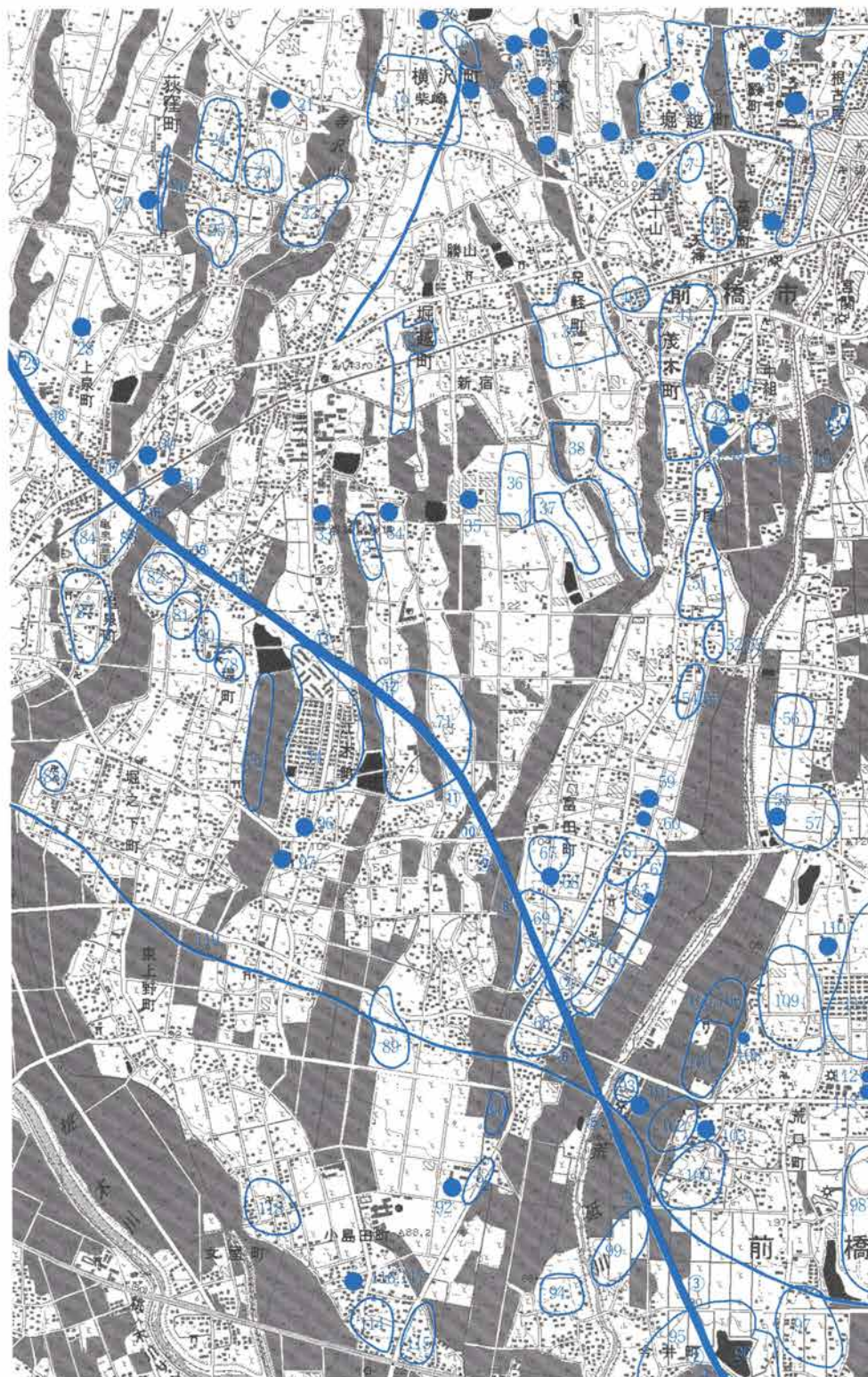
* 能登健・内田憲治・早田勉「赤城山南麓の歴史地震－弘仁九年の地震に伴う地形変化の調査と分析－」
【信濃 42】信濃史学会1990 755-772

2 周辺の遺跡

赤城山南麓は多種多様な埋蔵文化財が高密度で存在することで知られており、遺跡分布については先行研究も多い。上武道路関連遺跡の先行調査報告書である「今井道上Ⅱ遺跡・荒砥北三木堂Ⅱ遺跡」や「富田下大日遺跡・富田漆田遺跡」においても詳述されているので、これを参照されたい。

微視的に本遺跡直近の周辺を見ると、著名な遺跡はほとんどなく、発掘調査例自体も近年まで少なかった。第2図は荒砥川と寺沢川間の主要遺跡をプロットしたものであるが、この遺跡周辺では遺跡分布が希薄になっていることがわかる。

昭和60年度、61年度に、萱野住宅団地建設に際して萱野遺跡が調査された。この調査では縄文時代中期の遺物が多量に出土するとともに、古墳時代前期から平安時代にかけての集落、横穴式石室を持つ古墳などが見つかっている。中でも古墳時代中期の集落は、比較的調査例の少ない時期の集落であることに加えて、台地の東南傾斜地に40棟もが密集しており、質、量とも豊富な土器が出土して注目された。袋状鉄斧や鋸など、県内でも古い時期に位置づけられる鉄製品も出土している。



第4図 萱野II遺跡と周辺の遺跡

2 周辺の遺跡

萱野II遺跡周辺の遺跡

- 1 大胡城跡 (平安/中世) 文献3
 - 2 養林寺西遺跡 (奈良/平安/中世/近世) 文献3
 - 3 養林寺館 (平安) 文献3
 - 4 殿町遺跡 (奈良/) 文献11
 - 5 茂木上ノ町漏1号墳 (古墳)
 - 6 天神遺跡 (縄文/古墳/奈良/平安) 文献30
 - 7 堀越小此木遺跡 (縄文/平安)
 - 8 堀越五十山遺跡 (縄文/古墳/奈良/平安/近世)
 - 9 大胡町第17号墳 (古墳) 文献1
 - 10 堀越永閑寺遺跡 (奈良/平安)
 - 11 堀越城泉寺遺跡 (縄文/奈良/平安)
 - 12 堀越甲真木B地点遺跡 (旧石器/縄文)
 - 13 生協団地古墳 (古墳)
 - 14 堀越甲真木遺跡 (平安)
 - 15 堀越甲真木D地点遺跡 (縄文)
 - 16 茂木二本松遺跡 (縄文) 文献39
 - 17 茂木米野道上遺跡 (縄文/古墳/平安)
 - 18 勝山遠堀 (中世) 文献3
 - 19 柴崎遺跡 (縄文/近世) 文献30
 - 20 大胡町第40号墳 (古墳) 文献3
 - 21 桂萱58号墳 ぼっこし塚古墳 (古墳) 文献1
 - 22 荻窪城 (中世)
 - 23 坂上遺跡 (古墳)
 - 24 西荻窪城 (中世)
 - 25 高見遺跡 (縄文)
 - 26 塔の堀 (中世) 文献2
 - 27 桂萱57号墳 (古墳) 文献1
 - 28 新田塚古墳 (古墳 縄文) 文献1
 - 29 上泉風袋遺跡 (縄文)
 - 30 西久保遺跡 (縄文/古墳)
 - 31 業師塚古墳 (古墳) 文献36
 - 32 足軽町遺跡 (縄文/古墳/奈良)
 - 33 農業試験場東遺跡 (縄文)
 - 34 大日遺跡 (古墳)
 - 35 今城 (奈良) 文献26
 - 36 足軽ランド遺跡 (奈良/平安)
 - 37 茂木大日遺跡 (古墳/奈良/平安/)
 - 38 稲荷窪遺跡 (縄文/古墳/奈良/平安) 文献37/40
 - 39 茂木大道下遺跡 (縄文/平安/近代)
 - 40 柳沢遺跡 (平安)
 - 41 天神風呂遺跡 (縄文/古墳/奈良/平安) 文献8
 - 42 西小路遺跡 (縄文/古墳/近世/) 文献31
 - 43 大胡町第3号墳 (古墳) 文献3
 - 44 大胡町第4号墳 (古墳) 文献3
 - 45 大胡町第10号墳 (古墳) 文献3
 - 46 上ノ山遺跡 (旧石器/縄文/古墳/中世/近世) 文献27
 - 47 大胡町第5号墳 (古墳) 文献27
 - 48 大胡町第6号墳 (古墳) 文献27
 - 49 茂木古墓 (平安) 文献3
 - 50 下宮関遺跡 (古墳)
 - 51 山神遺跡 (縄文/古墳/奈良/平安) 文献28
 - 52 稲荷前 (縄文/古墳) 文献41
 - 53 荒砥355号墳 (古墳) 文献41
 - 54 中富田高石 (古墳)
 - 55 少将塚古墳 (古墳)
 - 56 丸山 (縄文)
 - 57 北原 (古墳) 文献15
 - 58 第328号御殿山古墳 (古墳) 文献1
 - 59 荒砥348号墳 (古墳) 文献1
 - 60 荒砥347号墳 (古墳) 文献1
 - 61 富田東曲輪 (縄文/古墳/奈良/平安)
 - 62 富田中前 (縄文/古墳/奈良/平安)
 - 63 おとうか山古墳 (古墳) 文献1
 - 64 東原 (縄文) 文献5
 - 65 富田細田 (縄文/古墳/奈良/平安)
 - 66 富田宮下 (弥生/古墳/奈良/平安) 文献7
 - 67 西原 (古墳)
 - 68 大塚古墳 (古墳) 文献1
 - 69 高石 (古墳/奈良/平安/中世)
 - 71 富田下大日 (縄文/古墳/奈良/平安) 文献44/45/46/47/53
 - 73 農業試験場遺跡 (縄文)
 - 74 萱野 (古墳/奈良/平安/) 文献24
 - 75 堤沼下遺跡 (縄文/奈良/平安/) 文献43
 - 76 桂萱70号墳 (古墳) 文献1
 - 77 桂萱69号墳 (古墳) 文献1
 - 78 堤沼西 (奈良/平安/) 文献49
 - 80 桂萱東小西遺跡 (古墳/奈良)
 - 81 寺沢川遺跡 (古墳)
 - 82 江戸原古墳群 (古墳)
 - 84 中山遺跡 (縄文/古墳)
 - 85 亀泉霊園地内A遺跡 (古墳)
 - 86 亀泉霊園地内B遺跡 (古墳)
 - 87 本郷遺跡 (縄文)
 - 88 正円寺古墳 (古墳) 文献2
 - 89 江木吹地遺跡 (古墳/奈良/平安)
 - 90 大泉坊 (古墳)
 - 91 宮田 (古墳/奈良/平安/弥生) 文献51/52
 - 92 木舟 (縄文/古墳/奈良/平安)
 - 93 前田 (古墳) 文献2
 - 94 今井城 (中世)
 - 95 荒砥三木堂遺跡 (旧石器/縄文/古墳/奈良/平安) 文献25/29
 - 96 今井道上遺跡 (縄文) 文献33
 - 97 荒砥大日塚 (古墳/奈良/平安) 文献32
 - 98 鶴谷 (古墳/奈良/平安/) 文献10
 - 99 荒砥北原 (縄文/古墳/奈良/平安)
 - 100 荒口前原 (弥生) 文献14/16
 - 101 荒口小塚 (古墳) 文献2
 - 102 荒砥前田 (古墳) 文献52
 - 103 第333号古墳 (古墳) 文献1
 - 104 荒砥宮田 (縄文/古墳/奈良/平安) 文献52
 - 105 荒砥諏訪西 (古墳/奈良/平安/) 文献48/50
 - 106 第330号小塚古墳 (古墳) 文献1
 - 107 大道古墳 (古墳) 文献1
 - 108 第332号古墳 (古墳) 文献1
 - 109 荒砥諏訪 (古墳/奈良/平安/) 文献50
 - 110 荒口大道古墳 (古墳) 文献1
 - 111 柳久保 (旧石器/古墳/平安) 文献12/13/17/18/20/21/22
 - 112 大道古墳B (古墳)
 - 113 大道古墳A (古墳)
 - 114 笈井八日市 (縄文/古墳/奈良/平安) 文献34
 - 115 小島八日市 (縄文/中世/近世) 文献35
 - 116 木瀬7号墳 (古墳) 文献1
 - 117 木瀬6号墳 (古墳) 文献1
 - 118 万福寺 (奈良)
 - 119 女堀 (中世) 文献57/58
- ①今井道上II遺跡
②荒砥北三木堂遺跡
③荒砥北原II遺跡
④荒砥前田II遺跡
⑤富田細田遺跡
⑥富田宮下遺跡
⑦富田西原遺跡
⑧富田高石遺跡
⑨富田漆田遺跡

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| ⑩富田下大日遺跡 | ⑬堤沼上遺跡 | ⑯荻窪南田遺跡 |
| ⑪江木下大日遺跡 | ⑭亀泉坂上遺跡 | ⑰上泉唐ノ堀遺跡 |
| ⑫萱野Ⅱ遺跡 | ⑮亀泉西久保Ⅱ遺跡 | |

参考文献

- 1『群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告書第5輯 上毛古墳綜覧』群馬県 1938
- 2『前橋市史 第1巻』前橋市史編さん委員会 1971
- 3『大胡町誌』大胡町誌編纂委員会 1976
- 4『群馬県古城墨址の研究』上/下 山崎 一 1978
- 5『荒砥東原遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1979
- 6『群馬県古城墨址の研究 補遺編』上/下 山崎 一 1979
- 7『富田遺跡群/西大室遺跡群/清里南部遺跡群』前橋市教育委員会 1980
- 8『勢多郡大胡町茂木 天神風呂遺跡』大胡町教育委員会 1981
- 9『群馬県史資料編3 原始古代3』群馬県史編さん室 1981
- 10『鶴谷遺跡群Ⅱ』前橋市教育委員会 1982
- 11『殿町遺跡』大胡町教育委員会/山下歳信 1983
- 12『柳久保遺跡群Ⅰ』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1985
- 13『柳久保遺跡群Ⅱ』前橋市教育委員会/前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1985
- 14『荒砥前原遺跡 赤石城址』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985
- 15『荒砥北原遺跡 今井神社古墳群 荒砥青柳遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
- 16『群馬県史資料編2 原始古代2』群馬県史編さん室 1986
- 17『柳久保遺跡群Ⅲ』山武考古学研究所 1986
- 18『柳久保遺跡群Ⅳ』前橋市埋蔵文化財発掘調査団/前橋市教育委員会 1987
- 19『群馬県史資料編1 原始古代1』群馬県史編さん室 1988
- 20『柳久保遺跡群Ⅴ』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1988
- 21『柳久保遺跡群Ⅵ』山武考古学研究所 1988
- 22『柳久保遺跡群Ⅶ』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1988
- 23『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会 1989
- 24『萱野遺跡 下田中遺跡 矢場遺跡』群馬県企業局 1991
- 25『荒砥北三木堂遺跡Ⅰ』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991
- 26『今城遺跡』前橋市教育委員会 1992
- 27『中川原遺跡群 上ノ山遺跡』大胡町教育委員会 1992
- 28『中川原遺跡群 小林/山神/大畑遺跡』大胡町教育委員会 1992
- 29『荒砥北三木堂遺跡Ⅱ』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992
- 30『大胡西北部遺跡群 乙西尾引遺跡/西天神遺跡/柴崎遺跡』大胡町教育委員会/山下歳信 1994
- 31『群馬県勢多郡大胡町大字茂木西小路遺跡』大胡町教育委員会 1994
- 32『荒砥大日塚遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994
- 33『今井道上遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994
- 34『笄井八日市遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994
- 35『小島田八日市遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994
- 36『亀泉町薬師塚古墳』前橋市教育委員会 1996
- 37『茂木遺跡群 稲荷窪A地点遺跡』大胡町教育委員会 1996
- 38『柳久保遺跡群』前橋市教育委員会 1996
- 39『大胡西北部遺跡群 横沢向田遺跡 堀越丁二本松遺跡 横沢向山遺跡他 茂木二本松遺跡』大胡町教育委員会/山下歳信 1998
- 40『茂木遺跡群 稲荷窪B地点遺跡』大胡町教育委員会 1998
- 41『市内遺跡発掘調査報告書 平成8年度』前橋市教育委員会 1998
- 42『諏訪西遺跡 諏訪遺跡 柳久保遺跡 川籠皆戸遺跡 向原遺跡』群馬県教育委員会 1998
- 43『ローズタウン遺跡群 堤沼下遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000
- 44『ローズタウン遺跡群 富田下大日Ⅰ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000
- 45『ローズタウン遺跡群 富田下大日Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000
- 46『ローズタウン遺跡群 富田下大日Ⅲ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001
- 47『ローズタウン遺跡群 富田下大日Ⅳ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001
- 48『荒砥諏訪西遺跡Ⅰ』群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002
- 49『堤沼西ⅢⅢ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003
- 50『荒砥諏訪西遺跡Ⅱ 荒砥諏訪遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003
- 51『荒砥宮田遺跡Ⅰ』群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003
- 52『荒砥宮田遺跡Ⅱ 荒砥前田遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004
- 53『富田漆田遺跡 富田下大日遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006
- 54『今井道上Ⅱ遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006
- 55『江木下大日遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006
- 57『昭和54年度女堀遺跡詳細分布調査実績報告書 女堀』群馬県教育委員会 1980
- 58『女堀 中世初期農業用水址の発掘調査』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985

2 周辺の遺跡

本遺跡の東には上武道路建設に伴って発掘調査された江木下大日遺跡、富田下大日遺跡がある。また、この両遺跡を取り囲むように、前橋工業団地造成組合によるローズタウン住宅団地造成に伴って調査された「ローズタウン遺跡群」がある。

江木下大日遺跡では、縄文時代前期、古墳時代後期、奈良時代、平安時代の集落が見つまっている。竪穴住居数から見ると9世紀後葉にピークがあるが、それぞれの時期においてさほど大きな規模を持たない集落であった。さらに東側の富田下大日遺跡にも、縄文時代前期・中期、古墳時代後期、平安時代の集落と後期古墳等がある。富田漆田遺跡では縄文時代中期、古墳時代中期・後期、平安時代の集落が見つまっている。この遺跡の平安時代集落は60棟以上の竪穴住居に加えて須恵器焼成土坑なども見つかり、平安時代におけるこの周辺地域の核となる集落であったものと思われる。

ローズタウン遺跡群には「富田下大日Ⅰ～Ⅳ遺跡」及び「堤沼下遺跡」が含まれる。上武道路部分の江木下大日、富田下大日、富田漆田遺跡と比べると非常に散在的ではあるが、縄文時代、奈良・平安の遺構が認められ、堤沼下遺跡ではAs-B下の水田遺構も見つまっている。

本遺跡の西側は堤沼上遺跡となる。本遺跡との境界は堤沼につながる浅い谷である。この谷の中にはAs-Bが堆積しており、植物珪酸体分析によってAs-B下の水田があるものと予想されたが、ここでも遺構として水田を捉えることはできていない。谷の西側に当たる台地部分では、古墳時代後期及び8世紀代を中心とする古代の集落が見つまっている。古代の集落は東向き斜面にあって、竪穴住居、掘立柱建物、土坑、井戸などからなり、西方をAs-B下の大溝に区切られている可能性がある。

堤沼を挟んで対岸に当たる位置に桂萱東小学校がある。ここでは沼西遺跡あるいは堤沼西遺跡として3次にわたる発掘調査が行われている。1991年に行われた小学校校地拡張およびプール建設に伴う調査では、縄文土器が出土するとともに9世紀代を中心とする平安時代の集落が見つかり、鉄製紡錘車や刀子、鎌などを出土する住居や大型の竪穴住居が見つまっている。2002年には校舎増築に伴う調査が行われ、鍛冶工房を含む平安時代住居、掘立柱建物が見つまっている。

旧石器時代は別巻に譲るが、以下、本遺跡周辺の遺跡の内容により縄文時代以後の時代的な推移をまとめる。

縄文時代は早期からの土器が見られるが、遺構として確認できるのは前期からである。竪穴住居とその近くに掘られた袋状土坑という組み合わせの小規模な集落が各台地に点在する。中期の集落も見られるが、堆積環境によって遺構確認が困難なためか遺構としての把握は十分にできていない。後期の土器片も少量認められるが、遺構はない。縄文時代晩期から弥生時代にかけての遺構・遺物は、この周辺地域では認められていない。

萱野Ⅱ遺跡の谷地部でAs-C下に水田かと思われる不整形の区画があり、イネの植物珪酸体が認められることから、古墳時代前期の集落が近隣にある可能性はあるが確実ではない。古墳時代中期には萱野遺跡に大きな集落が作られるが、後期にはそれが消え、萱野Ⅱ、富田下大日、堤沼上遺跡にわずかな竪穴住居が見られるにとどまるようになる。富田下大日遺跡と萱野・萱野Ⅱ遺跡には横穴式石室を持つ古墳が作られている。

奈良時代には萱野・萱野Ⅱ遺跡と江木下大日遺跡に小規模な集落が作られ、平安時代まで継続する。堤沼上遺跡では区画溝を持つ可能性のある集落が展開する。9世紀には富田下大日遺跡から富田漆田遺跡に大規模な集落が現れ、堤沼西遺跡も比較的大きな集落となる可能性がある。ということになる。

第3章 縄文時代の遺構と遺物

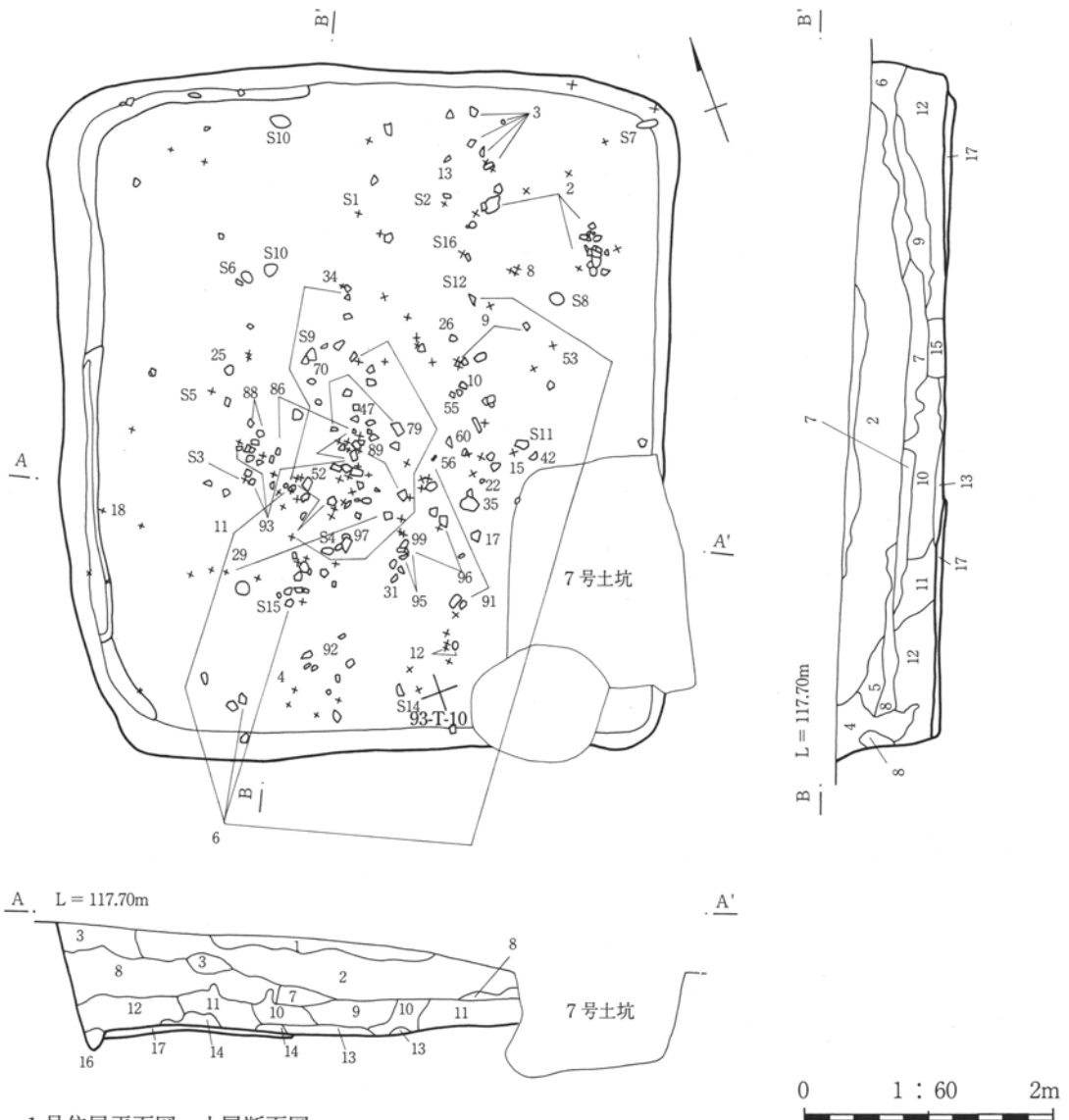
1 竪穴住居

1号住居

位置 93-S.T-10.11グリッド 標高117.0mから117.6mの台地頂部に近い東向き傾斜面に立地する。東壁南隅近くを7号土坑に切られる。南壁東隅近くでは10号土坑と切り合うが新旧関係は不明である。

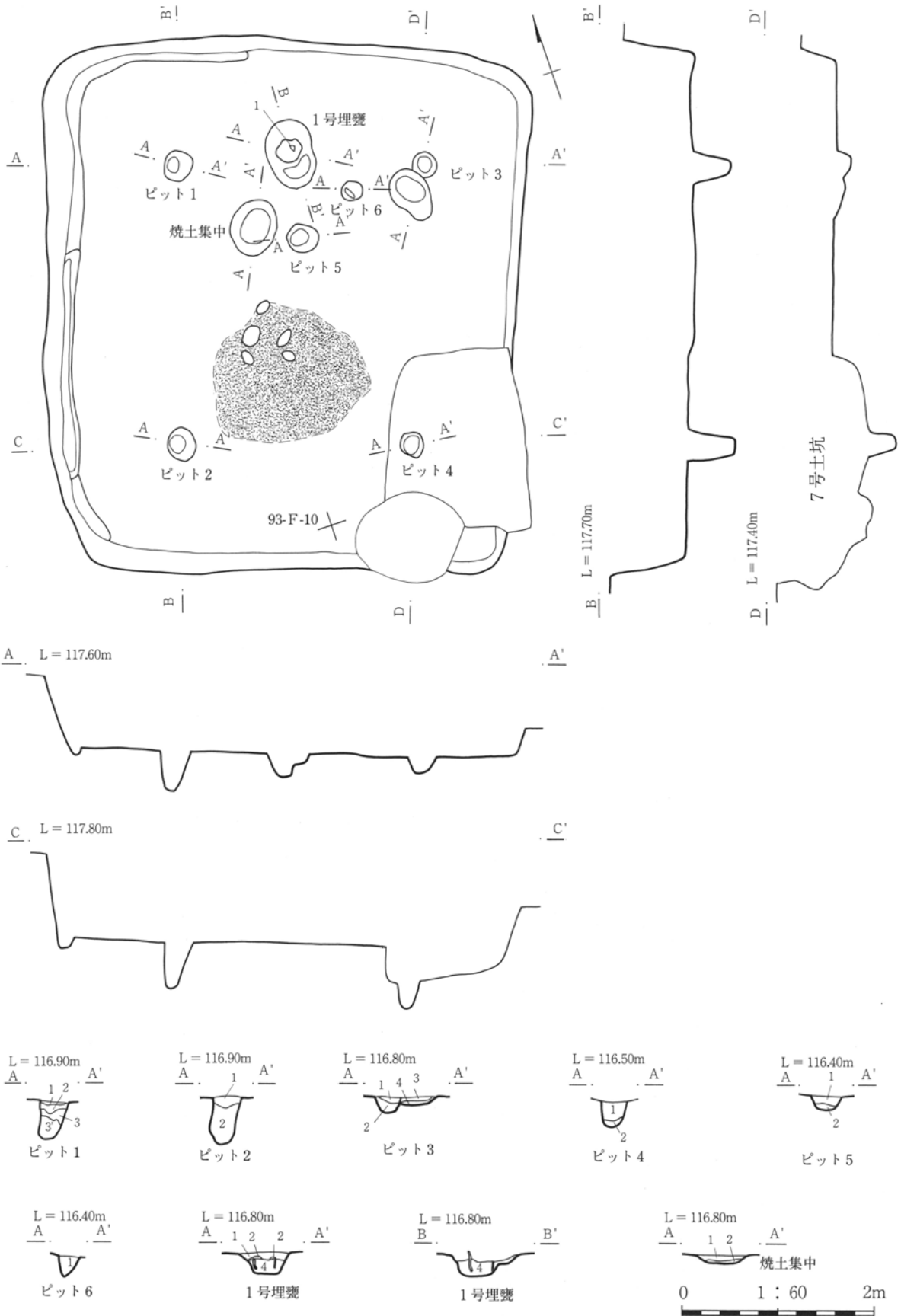
形態・規模 南北に長軸をおく、隅丸長方形を呈する。規模は南北5.24m、東西4.58mである。

床・壁 残存壁高は25cmから88cmである。傾斜面に立地するため、東側と西側の残存壁高の差が大きい。基本的に地山ロームを床面とする。壁周溝は西壁と北壁西寄りで確認できる。これは、東向き斜面に立地する住居の残存壁の高い部分に壁周溝が設置された形態である。その規模は、幅6cmから16cm、深さ3cmから15cmである。柱穴と思われるピットは6基あり、ピット1は長軸31cm×短軸28cm×深さ39cm、ピット



第5図 1号住居平面図・土層断面図

1 竖穴住居



第6図 1号住居掘り方平面図・高低図 ピット等土層断面図

1号住居

- 1 黄褐色土 ローム粒、暗褐色土まじり、白～淡黄色土の細かい軽石を含む。2に比べ軟質で、バサバサしている。(ローム分が多い為か)
- 2 褐色土 1に比べ暗褐色土の割合多く、黒みが強い。フクドの主体をなす。1のような軽石は1よりやや多く含む。1よりも締まりよし。細かな炭片を含む。特に、住居中央(ベルト交点付近)で目立つ。
- 3 褐色土 2に近いが、2に比べやや明るくローム分が多い。
- 4 褐色土 ローム、暗褐色土まじり、As-OP1らしき軽石含む。地山よりやや暗褐色土多く、軟質。
- 5 褐色土 3に比べ、ローム分多く、やや明るい。
- 8 褐色土 ローム主体、1のような軽石はごく僅か、暗褐色土の混じりは僅か。
- 6 褐色土 4に近いが、やや暗褐色土多く、暗い。また、As-BPを含み、赤みあり。
- 7 褐色土 4に下位の黒褐色土が混じったように黒みが強い。
- 9 黒褐色土 黒みの強い土、ローム粒少し混じる。下位はロームブロック少しあり、炭片あり、焼土粒はほとんど見られない。白色、黄褐色の細かい軽石あり。
- 10 黒褐色土 5よりローム分を多く含み、やや明るい。斑状のロームブロックもあり、5との境界はあまりはっきりせず、漸移的。
- 11 暗褐色土 5'よりさらにローム分が多く明るい。
- 12 褐色土 4層に比べAs-OP1の軽石はあまりなく、やや粘質で赤みあり。
- 14 黄褐色土 ローム主体、輪郭のはっきりしないロームブロックに暗褐色土少し混じる。軽石もありみられない。
- 13 褐色土 7に比べ、やや上位の黒褐色土混じり暗い。粘質。
- 15 暗褐色土 軟質。(埋まる途中で掘られた可能性あり)
- 16 褐色土 上位の6より暗褐色土、暗色帯の土を多く含む。やや軟質、周溝墓のフクド。
- 17 褐色土 暗色帯の地山、もしくは暗色帯に上位のロームや暗褐色土が少し混じった床面の土。

埋蔵

- 1 褐色土 暗褐色土、ローム粒混じり、白～淡黄色の軽石を含む。焼土粒を含む。炭片を含む。
- 2 褐色土 ロームに暗褐色土混じり、粘質土のローム。
- 3 褐色土 ロームに暗褐色土混じり、やや粘土質。2層にも近いが、やや明るく締まりよし。(床面をなす土か?)
- 4 褐色土 ローム暗褐色土混じり、暗色帯上位をベースに1度動かされ、少し暗褐色土が混じった土。地山より少し軟。

焼土集中1

- 1 赤褐色土 焼土粒を含み、赤みが強い。炭片を少し含む。白～淡黄色の軽石を少し含む。ローム暗褐色土混じり、暗色帯の土を含んだようにやや粘土質。
- 2 褐色土 1の土と地山(暗色帯上位)の土が混じっている。焼土粒、炭片も僅かにあり。

ピット1

- 1 褐色土 ローム暗褐色土混じり、As-OP1とAs-YPらしき軽石を少し含む。
- 2 褐色土 ローム暗褐色土混じり、As-OP1、As-YPらしき軽石を少し含む。1に比べ暗色帯の粘土質のロームを含む。
- 3 褐色土 1・2に比べ軽石はほとんど含まず、暗色帯の土を多く含む。ローム暗褐色土混じり。
- 3' ピット2の3層同じ。

ピット2

- 1 褐色土 ローム暗褐色土混じり、軽石はほとんどなし。細かな炭片を含む。
- 2 褐色土 1に比べ暗色帯のロームを多く含み、暗い。炭化もほとんど見られず。

ピット3・焼土集中2

- 1 褐色土 ローム暗褐色土混じり。周囲の土よりやや暗褐色土が多く軟。
- 2 暗色帯の粘土質のロームを主とする。暗褐色土混じり。
- 3 赤褐色土 焼土粒、焼土ブロックを多く含む。炭片はほとんど見られず、暗褐色土混じり。As-OP1と、As-YPらしき軽石を含む。
- 4 褐色土 暗色帯のロームを主とする中に3のような焼土粒、暗褐色土を少し含む。

ピット4

- 1 褐色土 ローム暗褐色土混じり。ロームはやや粘質土。やや軟。軽石等の混入はほとんどなし。
- 2 褐色土 ローム暗褐色土混じり。1よりロームを含む。粘土質。下面は固く締まる。

ピット5

- 1 暗褐色土 暗褐色土はローム粒と混じり、小さなロームブロックを含む。炭化少しあり。焼土粒少しあり。
- 2 褐色土 ローム暗褐色土混じり。地山のロームに暗褐色土が混じる。

ピット6

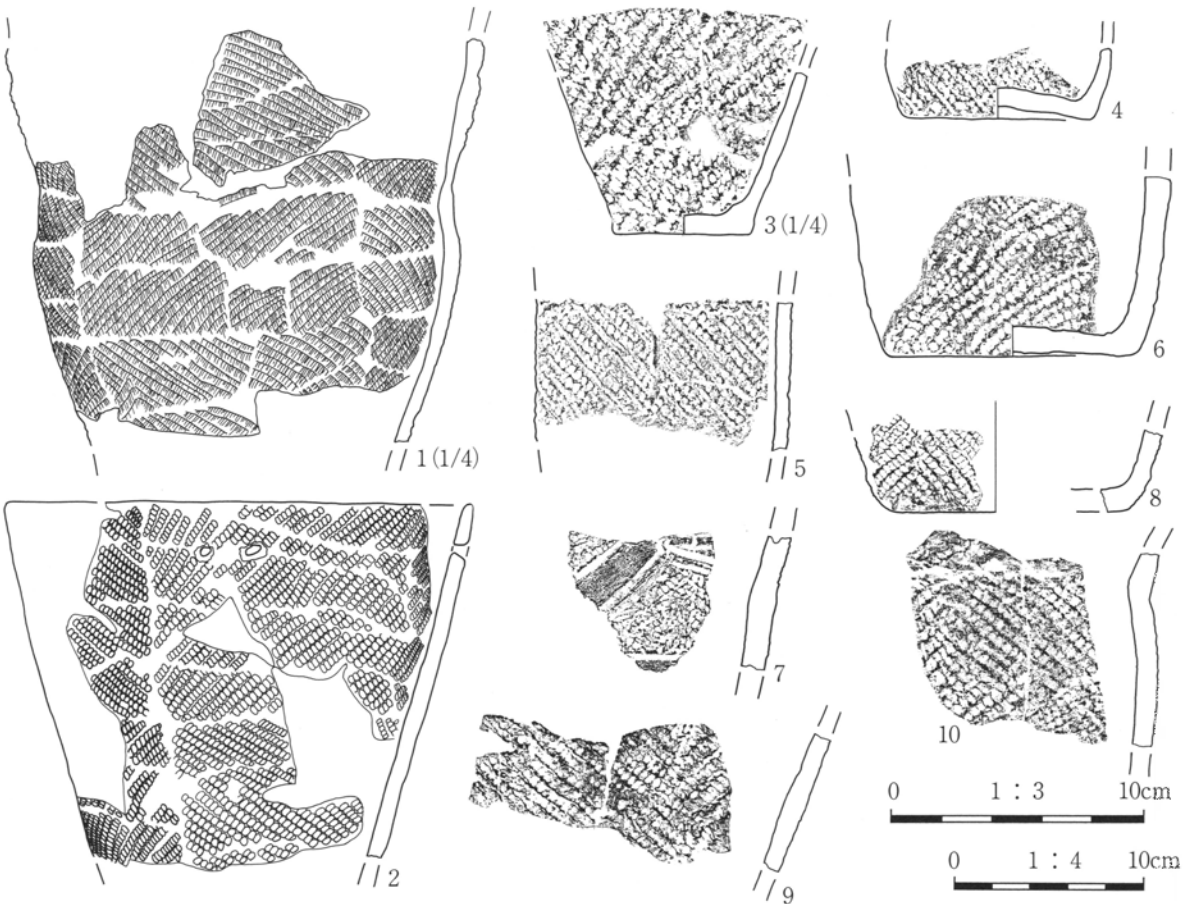
- 1 暗褐色土 暗褐色土ローム粒混じり。小さなローム少しあり。

1 竪穴住居

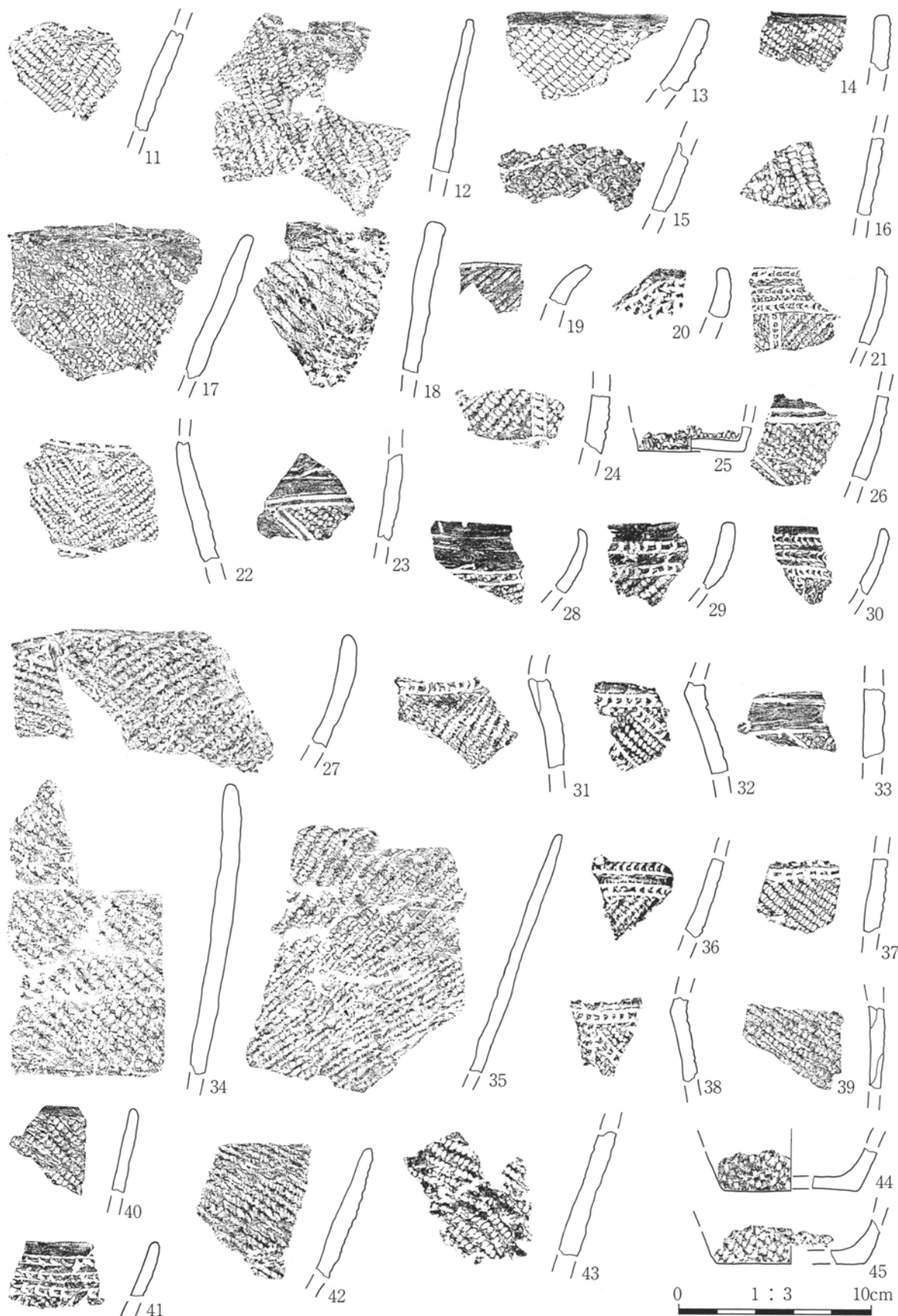
ピット2は35cm×29cm×48cm、ピット3は28cm×26cm×25cm、ピット4は29cm×25cm×67cm、ピット5は33cm×30cm×55cm、ピット6は22cm×20cm×68cmである。主柱穴はピット1から4と考えられるが、ピット3は浅く底面の締まりも弱かった。ピット5、6は床面では確認できなかったため住居の最終使用面では使われていなかった柱穴と考えられる。

炉 住居北よりのピット1と3の間と、その南西よりの2か所で見つっている。ピット間の炉は埋甕炉である。長軸74cm、短軸48cmほどの楕円形を呈し、深さ23cmほどの掘り込みを持つ。床面より焼土粒、炭片混じりの土で覆われ、無節の原体で羽状縄文を施された有尾式深鉢の胴部が埋設されていた。もう一つの炉は地床炉と思われ、ピット1とピット3の間から60cmほど住居内側に入ったところにあり、長軸60cm、短軸48cmほどの楕円形を呈する。8cmほどの深さの掘り込みがあり、床面より焼土粒が目立ち、炭片を少量含む土で覆われていた。この炭片を同定した結果、多くはオニグルミの炭化核の破片であり、完形に換算して1個分程度の量があった。

遺物出土状況 住居内覆土全体に土器片や石器が散在する。床面直上の遺物は少ない。土器片は黒浜式、有尾式が主体であり、その中で住居中央南寄りにだけ諸磯a式土器片が集中的に出土した。発掘調査段階では気づかなかったが、ここには諸磯a式期の土坑があったと考えられる。他に石器では台石、磨石、打製石斧、石鏃、石匙、スクレイパー、くさび形石器などが出土している。炭化物では、オニグルミ炭化核の破片が炉の土から、クリの炭化子葉の破片が床下から見つっている。また、オニグルミとクリは炭化材としても住居覆土中から出土している。

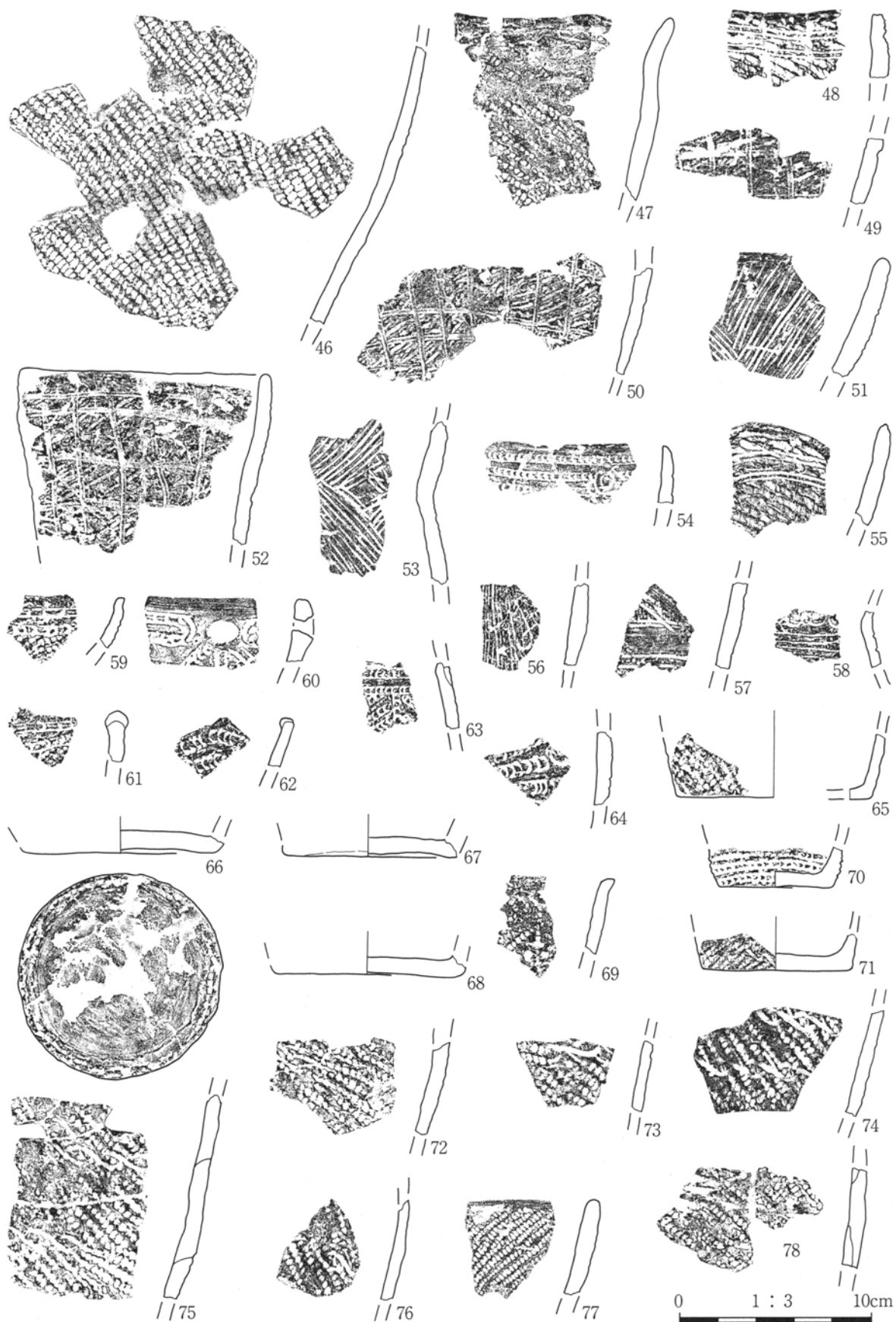


第7図 1号住居出土遺物1

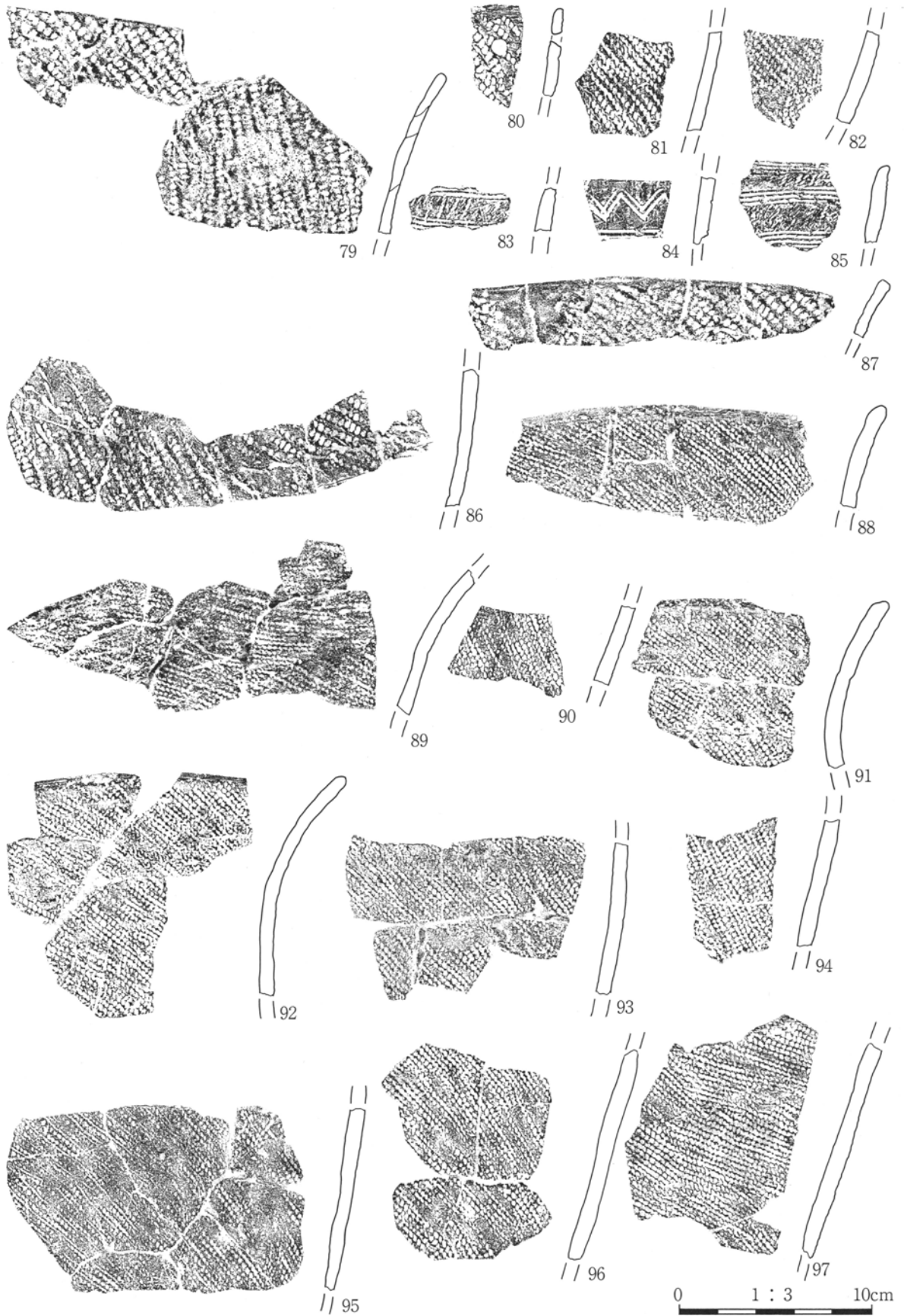


第8図 1号住居出土遺物2

1 竖穴住居

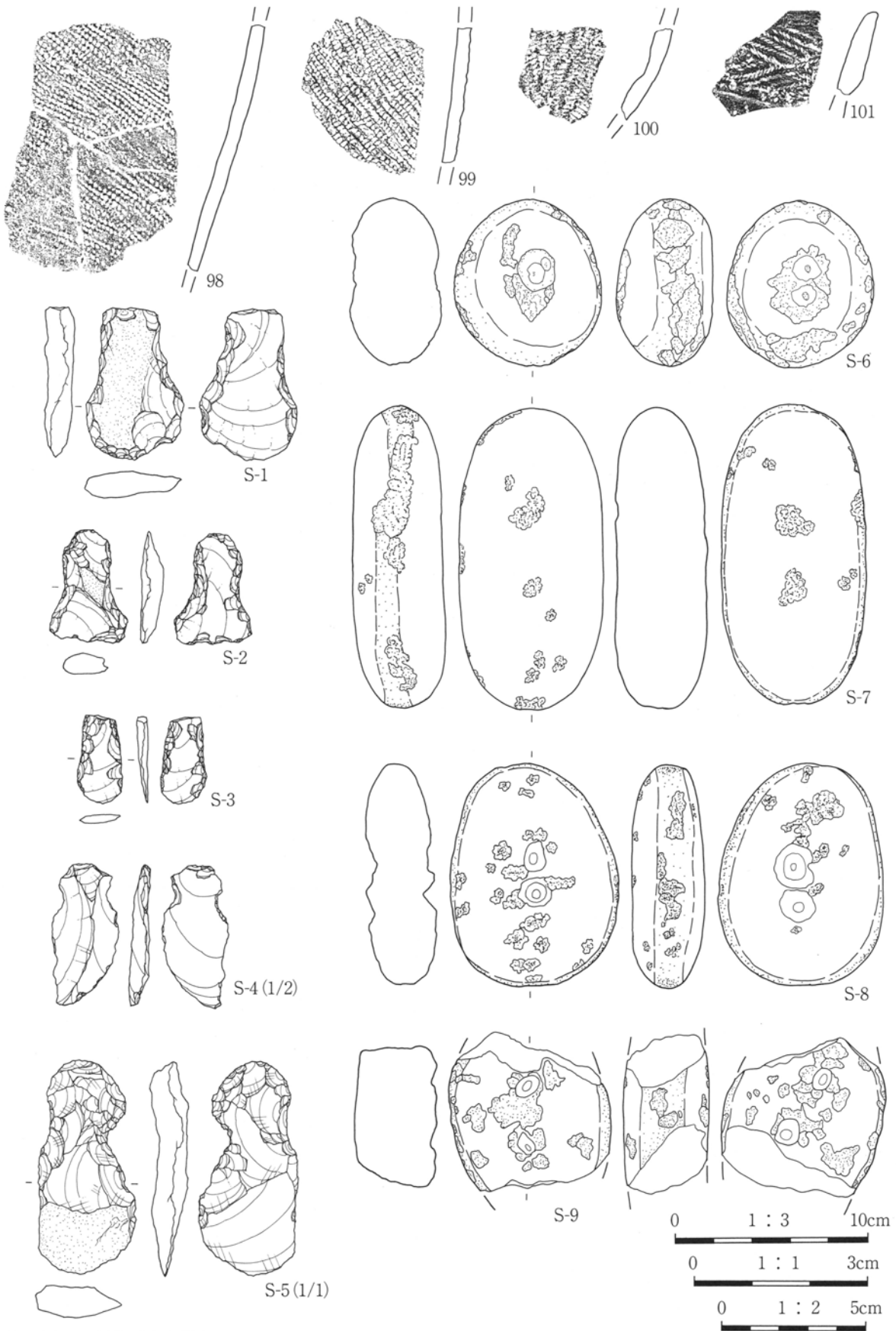


第9图 1号住居出土遺物3

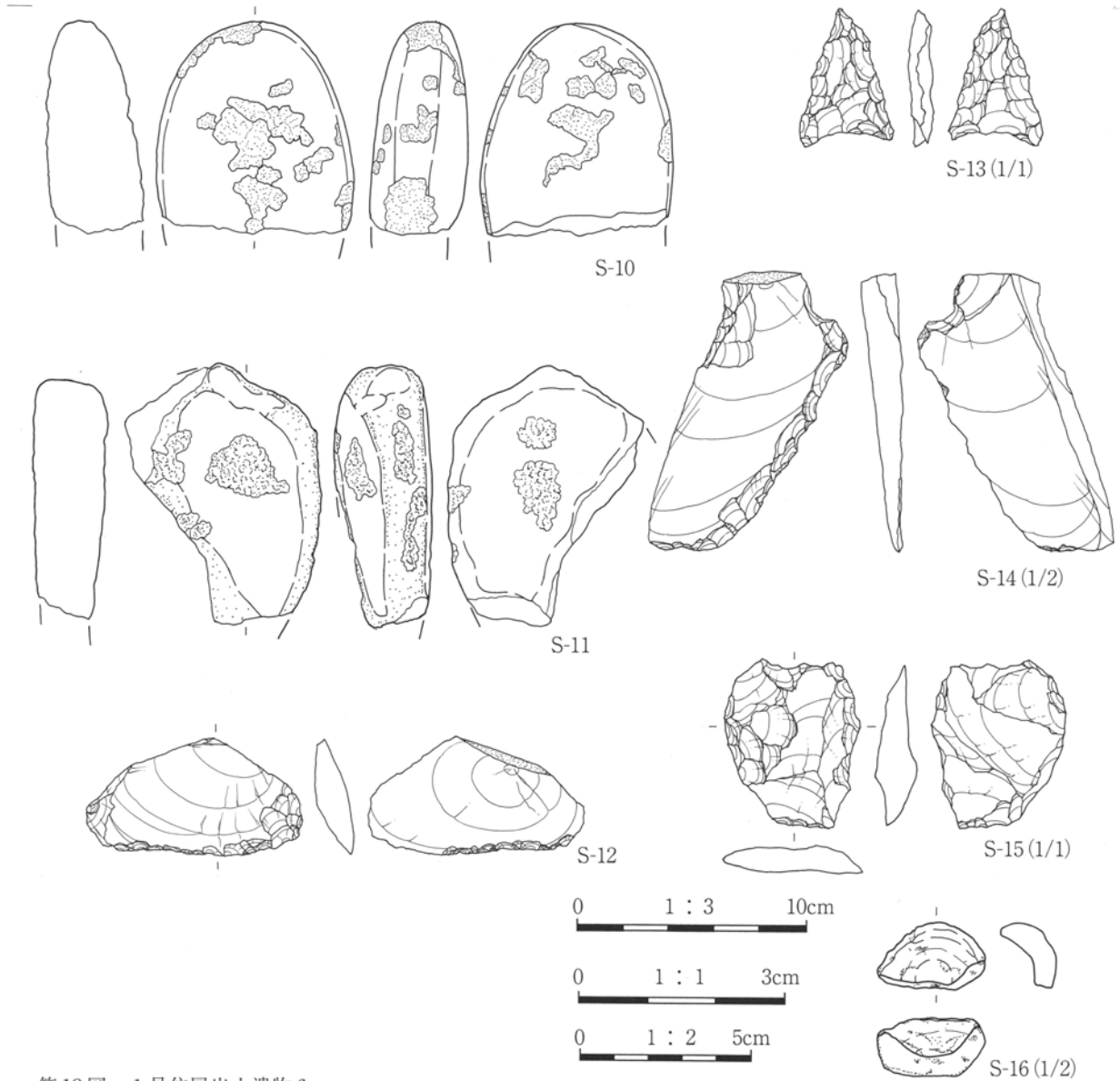


第10図 1号住居出土遺物4

1 竖穴住居



第11图 1号住居出土遺物5



第12図 1号住居出土遺物6

2号住居

位置 94-A.B-3.4グリッド 標高117.4mから117.5mの台地頂部の南向き緩傾斜面に立地する。39号土坑と平面図上では重複するが、実際は2号住居調査後に下位から検出された古い土坑が39号土坑である。

形態・規模 壁、周溝ともに検出できなかったため不明である。

床・壁 住居と確認できた面が床面を若干削った面と考えられる。残存する土層から、床面は、ハードローム、ソフトローム、当時の表土などが混じった土で構成されていたと思われる。柱穴と思われるピットは3基あり、ピット1は長軸32cm×短軸28cm×深さ25cm、ピット2は32cm×29cm×17cm、ピット3は52cm×41cm×44cmである。柱穴の炉からの距離はそれぞれ、ピット1は1.6m、ピット2は2.6m、ピット3は2.6mである。

炉 ピットと比べ住居の中央よりと思われる位置に埋甕炉が見つっている。長軸50cm、短軸28cmほどの楕円形を呈し、深さ20cmほどの掘り込みを持つ。細かな炭片混じりで周囲より暗褐色土を多く含む土で

1 竖穴住居

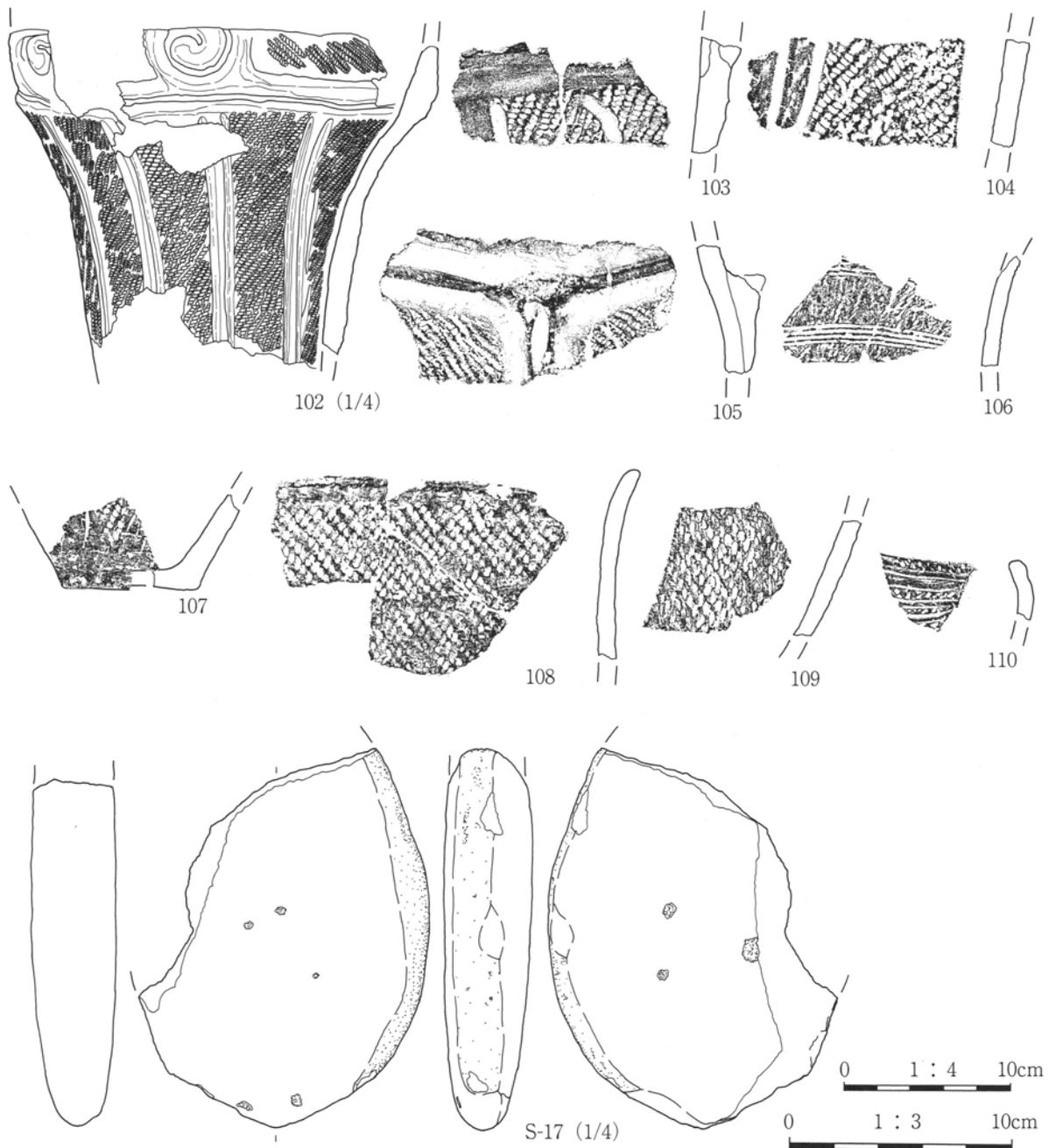


- 2号住
- 1 黒褐色土 白い細かい軽石を含む。ローム粒を少し含む。
 - 2 埋め甕 (炉) 周囲の土、1に比べやや暗褐色土が多い細かな炭片を含む。白い細かい軽石あり。
 - 3 褐色土 ソフトローム As-OP1、As-YPらしき軽石を少し含む。炭片少しあり。
 - 4 褐色土 ハードローム主体As-OP1らしき軽石を含む。締まりよし。
- 炉
- 1 褐色土 暗褐色土混じりロームやや赤みあり。やや軟。地山はAs-OP1を含むローム
- ピット
- 1 褐色土 ローム暗褐色土混じり。As-OP1とAs-YPらしき軽石を含む。
 - 2 褐色土 ローム多く含む。白い細かい軽石を含む。淡黄色の軽石もあり。
 - 3 褐色土 ローム主体。暗褐色土少し混じる。As-OP1らしき軽石があるが地山より少ない。

第13図 2号住居平面図・土層断面図

覆われ、加曾利E3式深鉢の胴部が埋設されていた。深鉢は現高21cmほどの残存が見られ、口縁部と底部を数cm欠く以外は良好な残存状態であった。また、深鉢の上端部はほぼ水平によく摩耗していた。炉に使用するために意図的に加工したことが考えられる。深鉢は北西側に若干傾いた状態で出土し、下半部は元の形であったが、上半部は割れて外側に開いた形になっていた。また炉の周囲では炭化したコナラ属の子葉1片とクリの子葉の破片数点が出土し、焼けた5cmほどの亜円礫や焼けて割れた角礫も見つかっている。

遺物出土状況 炉とピットの周辺に土器片が散在する。しかし炉の深鉢以外に大きく接合する土器はなかった。土器片は加曾利E3式の他に、紛れ込みと思われる諸磯a式土器片も見られた。



第14図 2号住居出土遺物

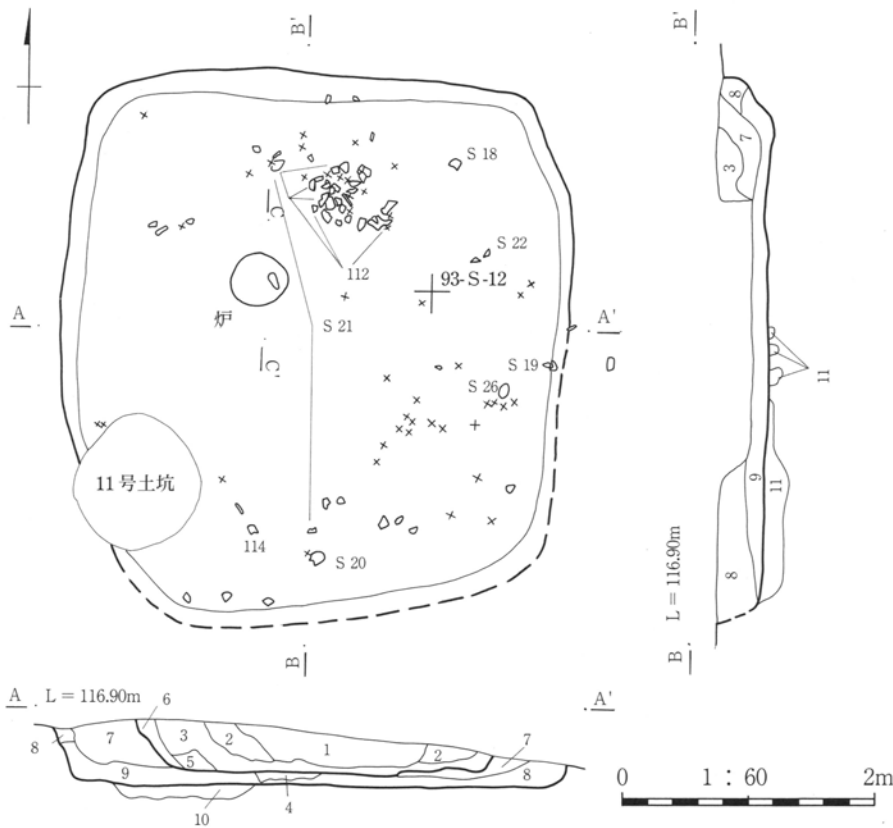
1 竪穴住居

3号住居

位置 93-R.S-11.12グリッド 標高116.5mから117.1mの台地頂部に近い東向き傾斜面に立地する。西壁南隅近くを11号土坑に切られる。

形態・規模 南北に長軸をおく、隅丸長方形を呈する。その南西及び北東の隅はややつぶれた形状である。規模は南北4.06m、東西3.76mである。

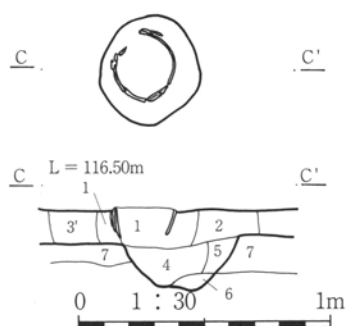
床・壁 残存壁高は8cmから41cmである。傾斜面に立地するため、東側と西側の残存壁高の差が大きい。床面は古い下の面と、新しい上の面の2面の構造を持っていたと考えられる。上下それぞれの面で炉が見つかり、土層断面図上で2面の床面をとらえることができる。下位の古い床は基本的に地山ロームを床面とする。上位の新しい床は下位の床面より12cmほど高く、地山のロームや当時の表土が混じった層上を床面と



3号住居

- 1 黒褐色土 ローム粒を少し含む。As-OP1らしき軽石を少し含む。焼土粒少しあり。
- 2 暗褐色土 黒褐色土とローム斑状に混ざる。やや軟。As-OP1らしき軽石少しあり。焼土粒少しあり。炭片少しあり。
- 3 褐色土 2よりローム分多く明るい。黒褐色土をロームまだらに混じる。やや軟。As-OP1らしき軽石少しあり。焼土粒を少し含む。炭片少しあり。
- 4 褐色土 2よりローム分多く明るい。黒褐色土をロームまだらに混じる。やや軟。As-OP1らしき軽石少しあり。焼土粒を少し含む。炭片少しあり。
- 5 褐色土 ローム主体暗褐色土少し混じる。As-OP1らしき軽石少しあり。
- 6 褐色土 5に近いAs-OP1のロームブロックを含む。上位はやや黒み強い。
- 7 褐色土 ソフトロームにAs-OP1の軽石を含む。ハンドロームのブロックを含む。暗褐色土少し混じる。
- 8 IV~V層の土を主体とする。As-OP1とAs-BPが少し混じる。
- 9 6層に比べ暗色帯の土が混じり、やや粘土質。暗色帯に比べると粘質、しまりが弱い。
- 10 褐色土 9のような暗色帯まじりの粘質土があまりなく、比較的サラサラしている。As-BP、As-OP1を少し含む。暗褐色土を少し含む。(住居の掘り方を埋める土か?)
- 11 10に比べると暗色帯の混じりの粘質土がある。(他は同様)

第15図 3号住居平面図・土層断面図



3号住居埋甕

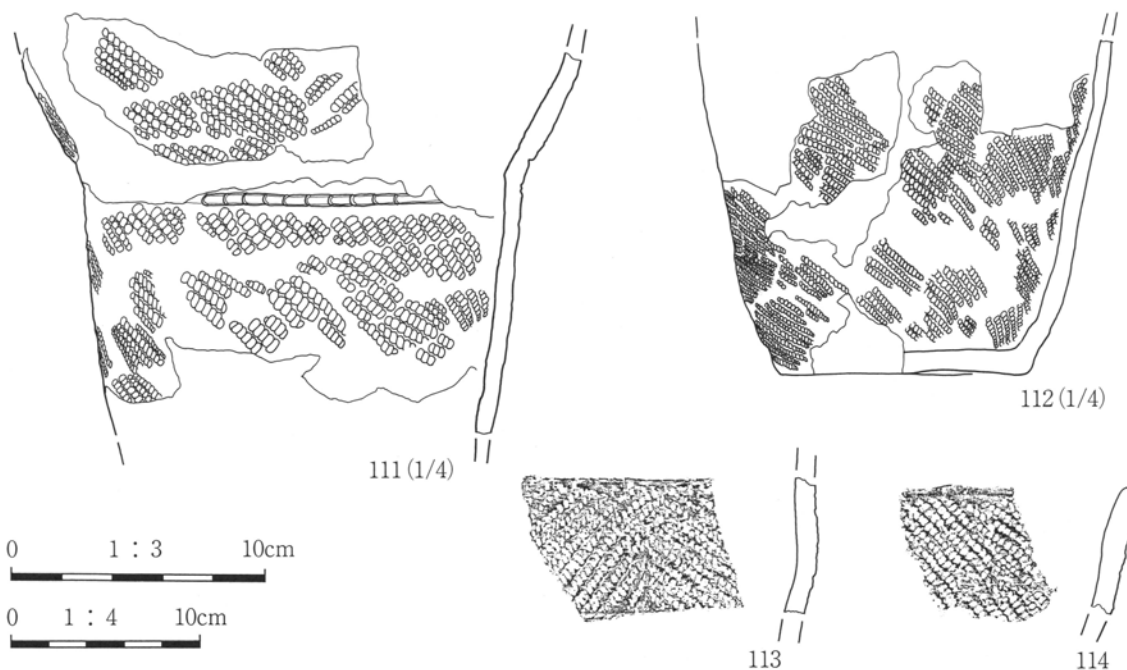
- 1 褐色土 2よりやや暗い色暗褐色土分が多い。焼土粒はあるが、2よりやや多い。As-OP1等の軽石も2より多い。
- 2 褐色土 焼土粒。少々な焼土ブロックを含む。As-OP1、As-YPらしき軽石少しあり。やや軟。この焼土を含む土は炉の南東側に多く分布。住居セクションの3に相当。
- 3 褐色土 住居セクション9と同じ。
- 4 褐色土 焼土粒を多く含むローム暗褐色土混じり白っぽい細かい軽石あり（下位使用面の炉）
- 5 褐色土 4に近いがややローム分多く明るい
- 6 褐色土 暗色帯の土をベースとする4の土、焼土粒が少しまじる
- 7 褐色土 住居セクション11と同じ。

第16図 3号住居炉平面図・土層断面図

する。壁周溝、ピットは検出されなかった。

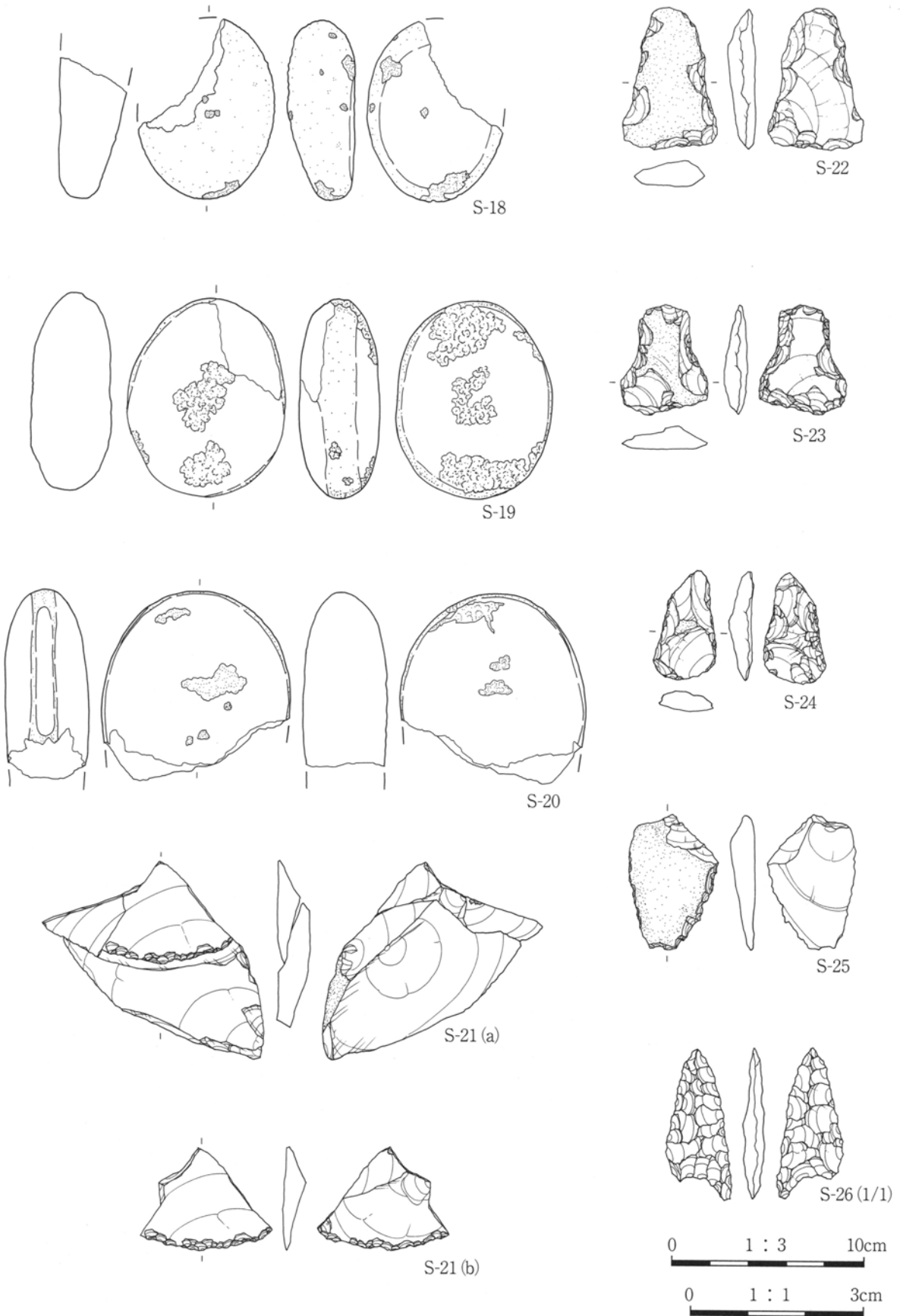
炉 住居中央部、やや北西よりの位置ではほぼ上下に重なる状態で2つの炉が見つっている。上位の炉の方がわずかに13cmほど北に位置する。下位の炉は地床炉と思われ、長軸45cm、短軸40cmほどのほぼ円形を呈する。21cmほどの深さの掘り込みがあり、床面より焼土粒を多く含み、暗褐色土混じりの褐色土で覆われていた。上位の炉は埋甕炉である。長軸44cm、短軸40cmほどのほぼ円形を呈し、深さ16cmほどの掘り込みを持つ。床面より焼土粒、暗褐色土混じりの褐色土で覆われていた。埋設された土器は、頸部のくびれ部分に2組の平行沈線が走り、それにより口縁部の単節羽状縄文と胴部の単節斜行縄文が区画された黒浜式深鉢である。深鉢は口縁部と底部を欠き、胴部も1周捲くには数cm欠損する。この深鉢がちょうど頸部のくびれの辺りでかけた状態で土中に埋設され、それより上位の土器片は胴部欠損部分の両端を補強するように外側に二重または三重に据えられていた。

遺物出土状況 上位の床面までの土層では遺物の出土はごくわずかで、炉の深鉢の他は磨石が1点だけである。下位の床面までの土層では、土層の厚い西側に遺物が少なく、東側に遺物が多く出土する傾向が見られた。土器片は黒浜式を主体に出土した。他に石器では磨石、敲石、打製石斧、石鎌、スクレイパーなどが出土している。床下から出土したスクレイパーと剥片の接合資料は、刃部の加工を見るのによい資料である。



第17図 3号住居出土遺物1

1 竖穴住居



第18图 3号住居出土遺物2

4号住居

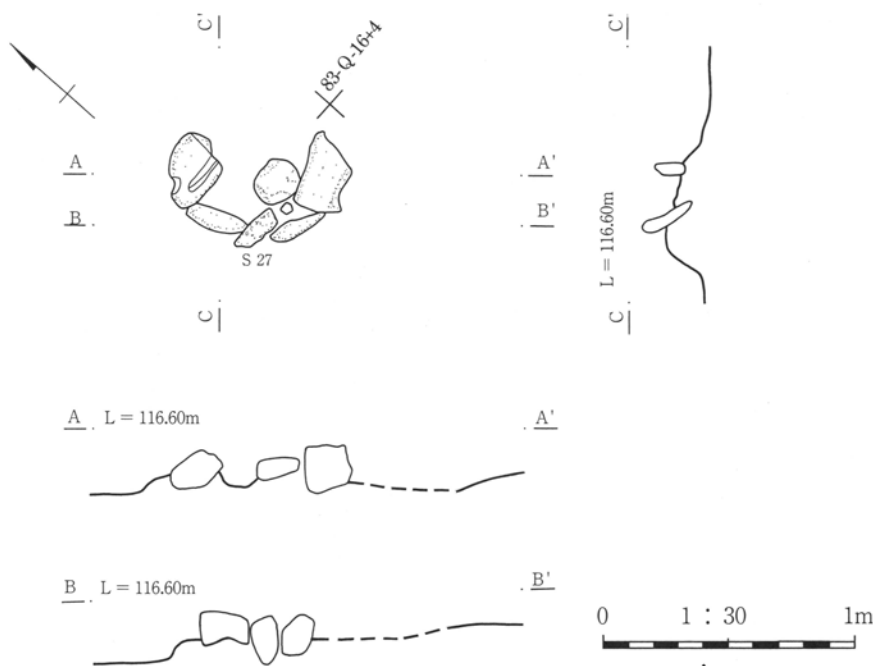
位置 83-P.Q-16.17グリッド 標高116.4mから116.7mの台地上の東向き傾斜面に近い肩部に立地する。住居の北西部周溝上を51号土坑に切られる。

形態・規模 円形を呈する。規模は南北5.87m、東西は調査区内に収まらないが確認は4.65mである。

床・壁 確認面がほぼ床面であるため壁はほとんど検出できていない。部分的に5cm程度の残存壁高が見られるのみである。床面にも攪乱がおよび十分には確認できないが、基本的に地山ロームを床面とし、部分的に床下まで掘り込みが達している。壁周溝は土が乱された住居北東部以外で確認でき、おそらく住居全体にあったと思われる。その規模は、幅13cmから38cm、深さ8cmから17cmである。柱穴と思われるピットは7基あり、ピット1は長軸28cm×短軸27cm×深さ74cm、ピット2は44cm×40cm×97cm、ピット3は49cm×38cm×85cm、ピット4は50cm×42cm×92cm、ピット5は43cm×39cm×102cm、ピット6は65cm×41cm×76cmである。ピット7は38cm×33cm×56cmである。支柱穴はピット1から5と、もう1基北東部のピットが調査区外にあると予想され、それを加えるとほぼ等間隔の六角形の配列となる。ピット6、7は住居南側の周溝近辺にあり、入り口に関わる柱穴の可能性が考えられる。

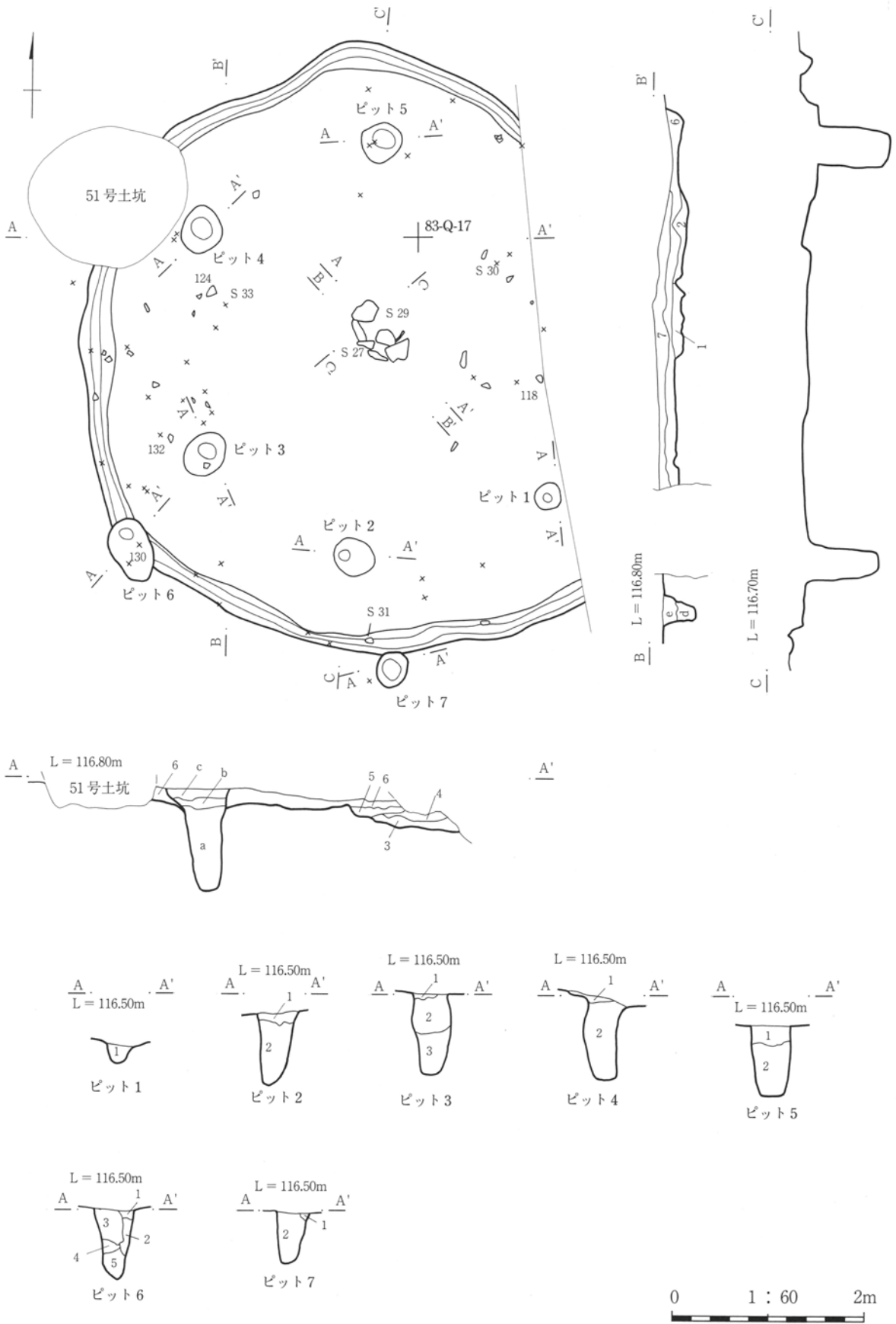
炉 住居中央部やや北よりに石囲い炉が見つかっている。楕円形状の石の配列で、その長軸は北西方向で、長さ73cm、短軸側は片側が欠損しているが45cmの残存が見られた。長軸側の両端には径30cm前後の比較的大ぶりの石が据えられ、その間に20～25cmほどの平たい石が外傾した状態で並べられていた。この石の列は南西側のみで、北東側は残っていなかった。炉石のうち、2点は多孔石が利用されていた。

遺物出土状況 住居内覆土全体に土器片や石器が散在する。土器片は全て加曾利E3式であるが、器形全体を復元できる土器はなかった。その中で117の底部には三足のよう、径1.5cm高さ2mmほどの3カ所の突起が見られた。安定を意図したものと考えられるが、遺跡中1点のみの変わった例であった。石器では磨製石斧が南側の周溝中で見つかっている。他に石皿、多孔石、打製石斧、石鎌などが出土している。



第19図 4号住居 炉平面図・高低図

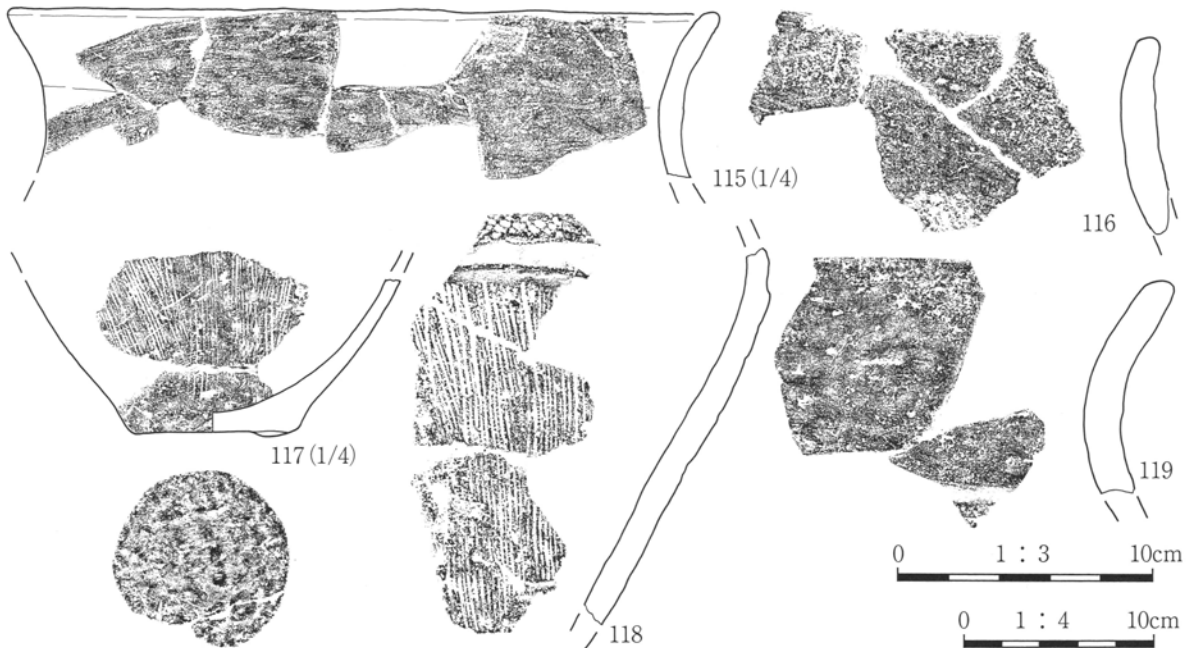
1 竪穴住居



第20図 4号住居平面図・高低図・土層断面図

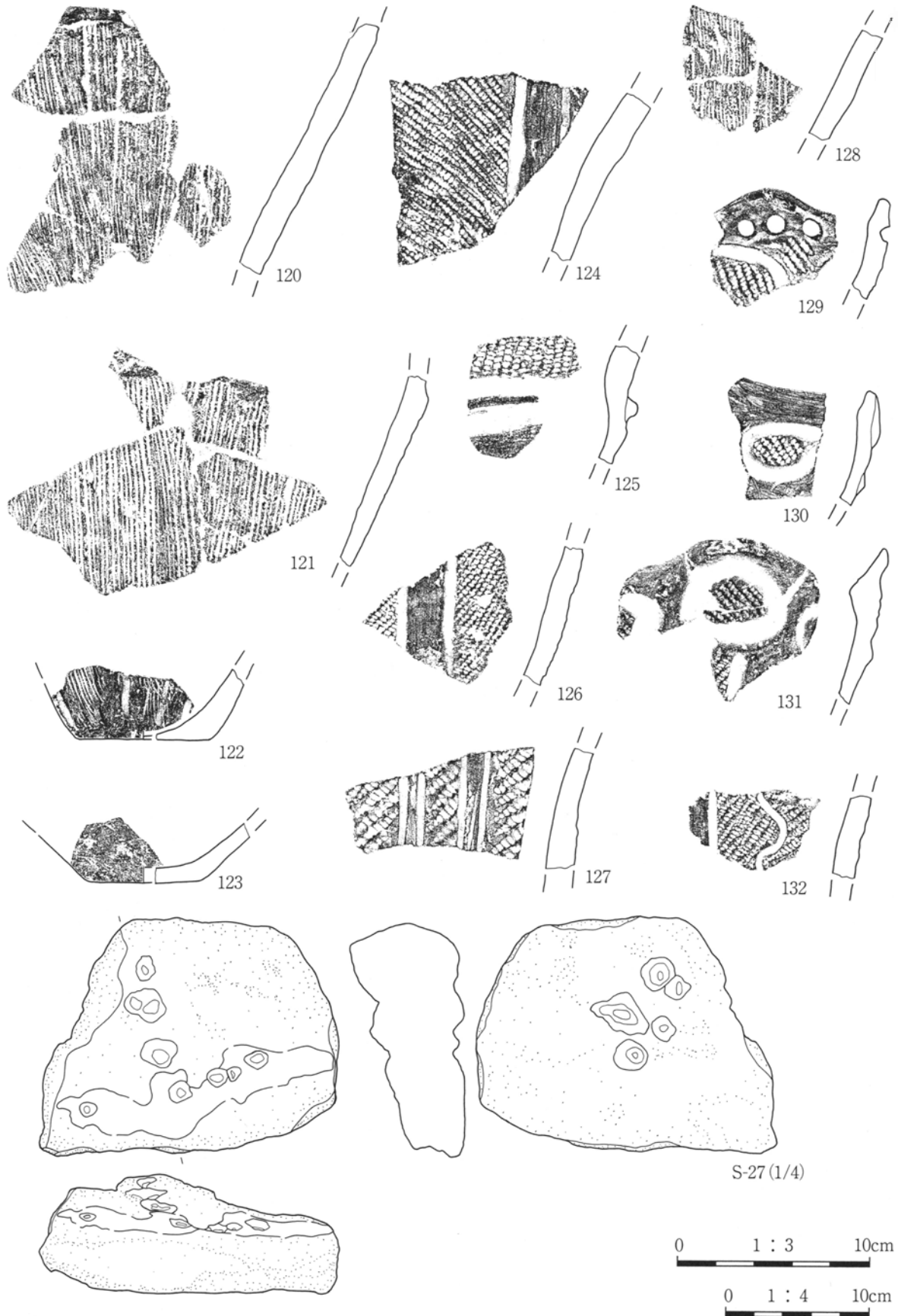
4号住居

- 1 褐色土 As-OP1を含むハードロームの小ブロックおよび粒子化したハードロームや炭化物を含む褐色土の小ブロックを含む。炭化物粒を含む。ややしまる。1層部分だけ地山が下げられている。
 - 2 褐色土 粒子がやや細かく、ハードロームの小ブロックを含まない。焼土粒を部分的にごく少量含む。
 - 3 黄褐色土 炭化物含む。地山ロームなどのブロックは無いが1に近い。
 - 4 褐色～黄褐色土 炭化物含む。ハードロームのブロックを含む。しまり弱い。
 - 5 褐色～黄褐色土 ハードロームの小ブロックを含む。炭化物を少量含む。しまり弱い。
 - 6 褐色土 ハードロームの小ブロックを部分的に含む。炭化物粒を含む。土器片はこの層からの出土が最も多い。しまりやや弱い。
 - 7 褐色～黄褐色土 炭化物を少量含む。地山ソフトロームのやや乱れた層にごく近い。
 - a 褐色土 粒子がやや細かく、ハードロームの小ブロックを含まない。(ピット4覆土下層)
 - b 褐色土 粒子がやや細かく、ハードロームの小ブロックを含まない。焼土粒を部分的にごく少量含む。(ピット4覆土上層)
 - c 褐色～黄褐色土 炭化物をやや多く含む。(ピット4覆土上層)
 - d 黄褐色土 As-OP1を含むハードロームが汚れた状態。炭化物を少量含む。固く締まっている。(周溝覆土下層)
 - e 褐色土 ハードロームや炭化物を含む褐色土の小ブロックを含む。締まり弱い。(周溝覆土上層)
- ピット1 1 褐色土暗褐色土。ローム粒まじり。ロームブロックを少し含む。
- ピット2 1 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。ローム粒細かなロームブロックを含む。As-OP1らしき軽石を含む。
2 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。1に比べローム分少なく暗い。軽石もほとんどなし。やや軟。
- ピット3 1 褐色土 暗褐色土、ローム粒まじり。As-OP1。As-YPらしき軽い少しあり
2 褐色土 暗褐色土、ローム粒まじり。1よりややローム分多し。ロームブロックを含む。As-OP1らしき軽石も1より多い
3 褐色土 暗褐色土、ローム粒まじり。2より暗褐色土分多し。軽石はほとんどなし。やや軟。
- ピット4 1 褐色土 粒子がやや細かく、As-OP1を含む。ハードロームの小ブロックを含まない。焼土粒のごく少量含む。
2 褐色土 粒子がやや細かく、As-OP1を含む。ハードロームの小ブロックを含まない。
- ピット5 1 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。As-OP1・As-YPらしき軽石少しあり。
2 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。1よりローム少なく、やや暗い。軽石もほとんど見られず、やや軟質。
- ピット6 1 褐色土 ローム粒を含む。ローム小ブロックを少し含む。白い細かい軽石(As-OP1?)を含む。
2 褐色土 1に近いがとても軟質。ロームブロックはほとんどなし。
3 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。ロームは斑状に見える。As-OP1、As-YPらしき軽石あり。
4 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。3に近い土だが、ローム分少なく3のような斑状のロームはわずか。As-OP1らしき軽石も少ない
5 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。4よりさらにローム分少なく暗い。斑状のロームはなし。軽石もほとんどなし。下位に小さなロームブロック少しあり
- ピット7 1 黄褐色 ローム、暗褐色土まじり。ロームブロックを含む。
2 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。暗褐色土上位の方が漸移的にローム粒が多い。小さな炭片を含む。(下位) As-OP1As-YPらしき軽石を含む(上位の方が多い)

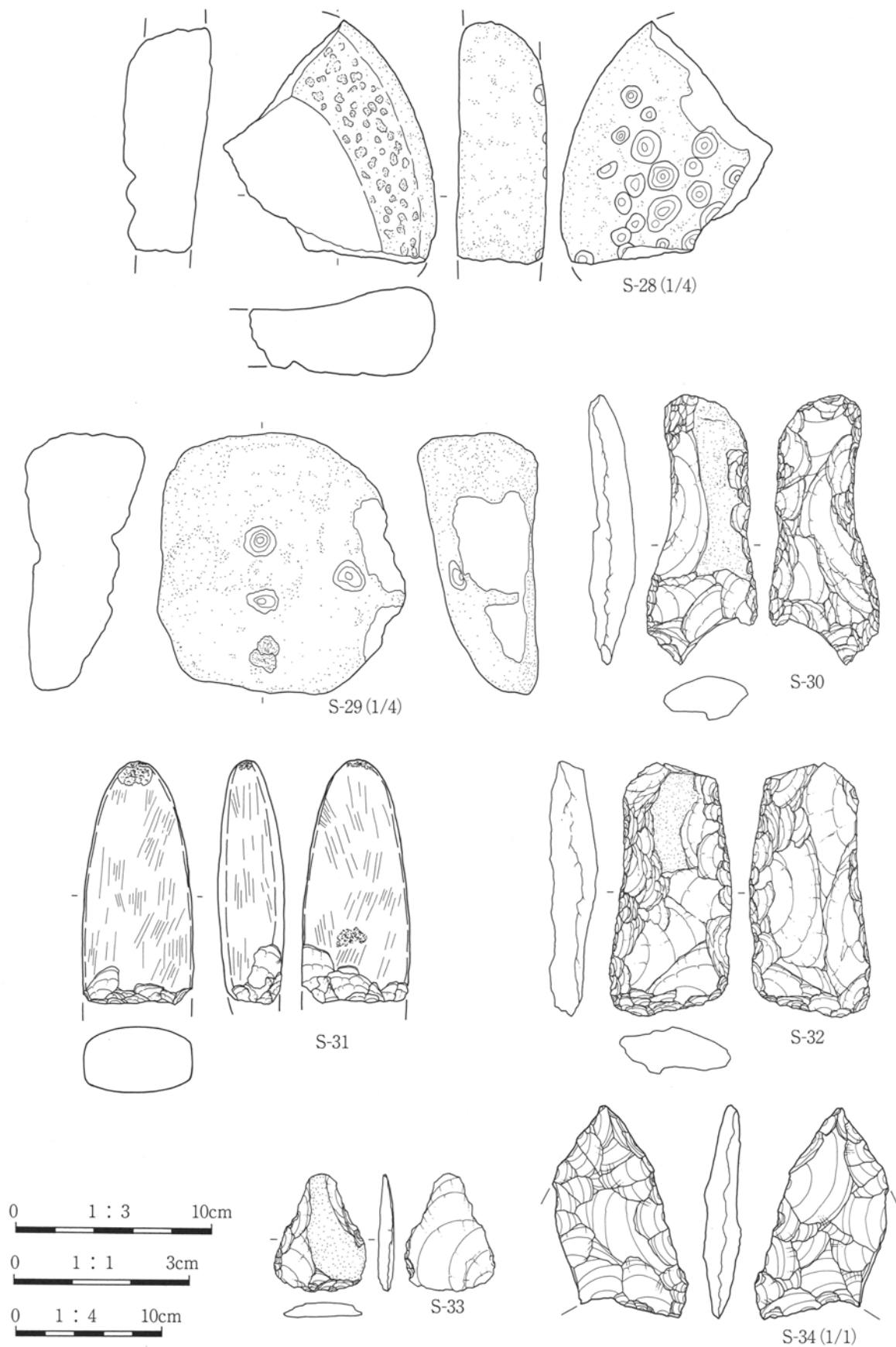


第21図 4号住居出土遺物1

1 竖穴住居



第22图 4号住居出土遺物2



第23図 4号住居出土遺物3

1 竪穴住居

5号住居

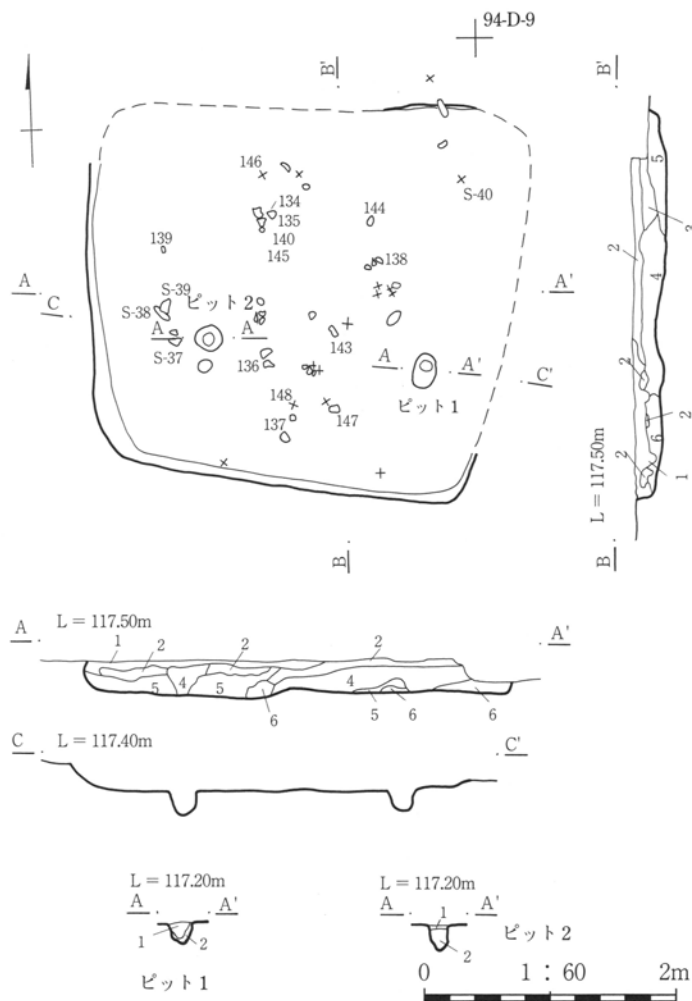
位置 94-C.D-8グリッド 標高117.3mから117.5mの台地頂部、南向き緩傾斜面に立地する。

形態・規模 東西に長軸をおき、北壁が長い隅丸台形状を呈する。規模は東西3.38m、南北2.98mである。

床・壁 残存壁高は10cmから25cmである。床は軟弱で、住居覆土と地山の識別が困難であった。床や壁の検出に当たっては、遺物の出土状況やピットを検出したレベルなどを考慮して調査した。基本的に地山ロームを床面とする。壁周溝は全く確認できなかった。柱穴と思われるピットは2基あり、ピット1は長軸30cm×短軸25cm×深さ19cm、ピット2は23cm×20cm×20cmである。2基とも住居中央より南側に、南壁に平行に並んだ位置に見つかっている。

炉 検出できなかった。痕跡が目立たない地床炉だったのかと思われる。

遺物出土状況 住居内覆土全体に土器片や石器が散在するが、垂直分布をみると床面から20～30cmほど浮いた遺物が多く、床面直上の遺物はなかった。土器片は全て花積下層式で、胴部文様には2種類の原体を交互に縦位施紋して縦羽状を構成するもの、1種類の原体を縦横に交互施紋して縦羽状を構成するもの、横位の羽状縄文を構成するものの3タイプがあった。その中で本住居では、1種類の原体を縦横に交互施紋して縦羽状を構成するタイプが特に目立った。石器では磨石、打製石斧などが出土している。



5号住居

- 1 炭化物粒やや多く含む。ハードローム斑含む。ややしまっている。
- 2 7.5YR5/6黄褐色土が斑状に含まれる。炭化物少量含む。
- 3 炭化物粒含む。As-OP1?粒含む。ややしまっている。
- 4 炭化物粒含む。ハードロームブロック含む。ややしまっている。
- 5 炭化物粒少量含む。ハードロームブロック含む。ややしまっている。
- 6 炭化物粒含む。ハードロームブロック含む。しまっている。

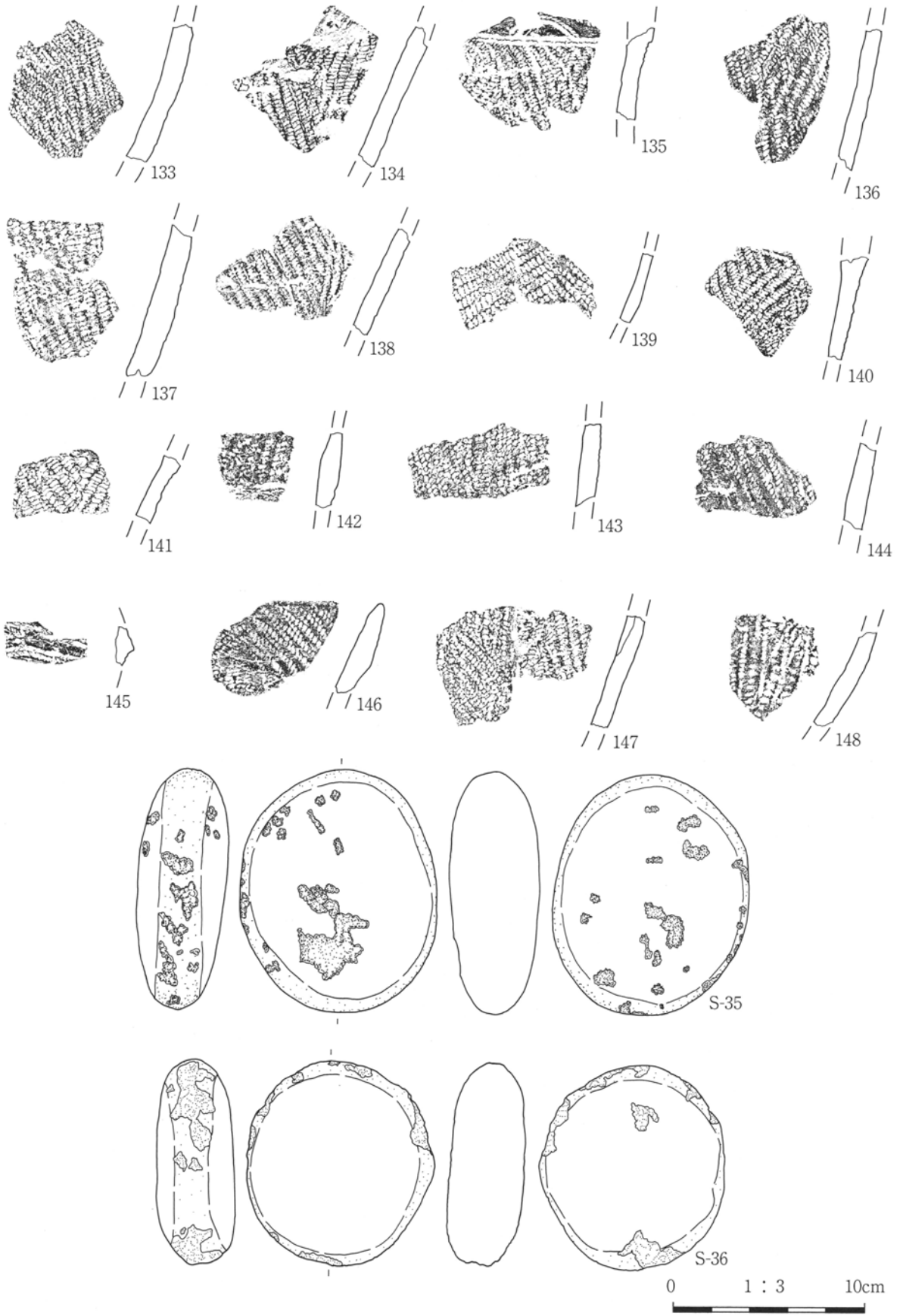
ピット1

- 1 暗褐色土 黒褐色土、ローム粒まじり。白っぽい細かい軽石少しあり。ロームは斑状にまざる。やや軟。
- 2 褐色土 黒褐色土、ローム粒まじり。1よりローム分多し、明るい、やや軟。小さなロームブロック少しあり。1のような白く細かな軽石あり。

ピット2

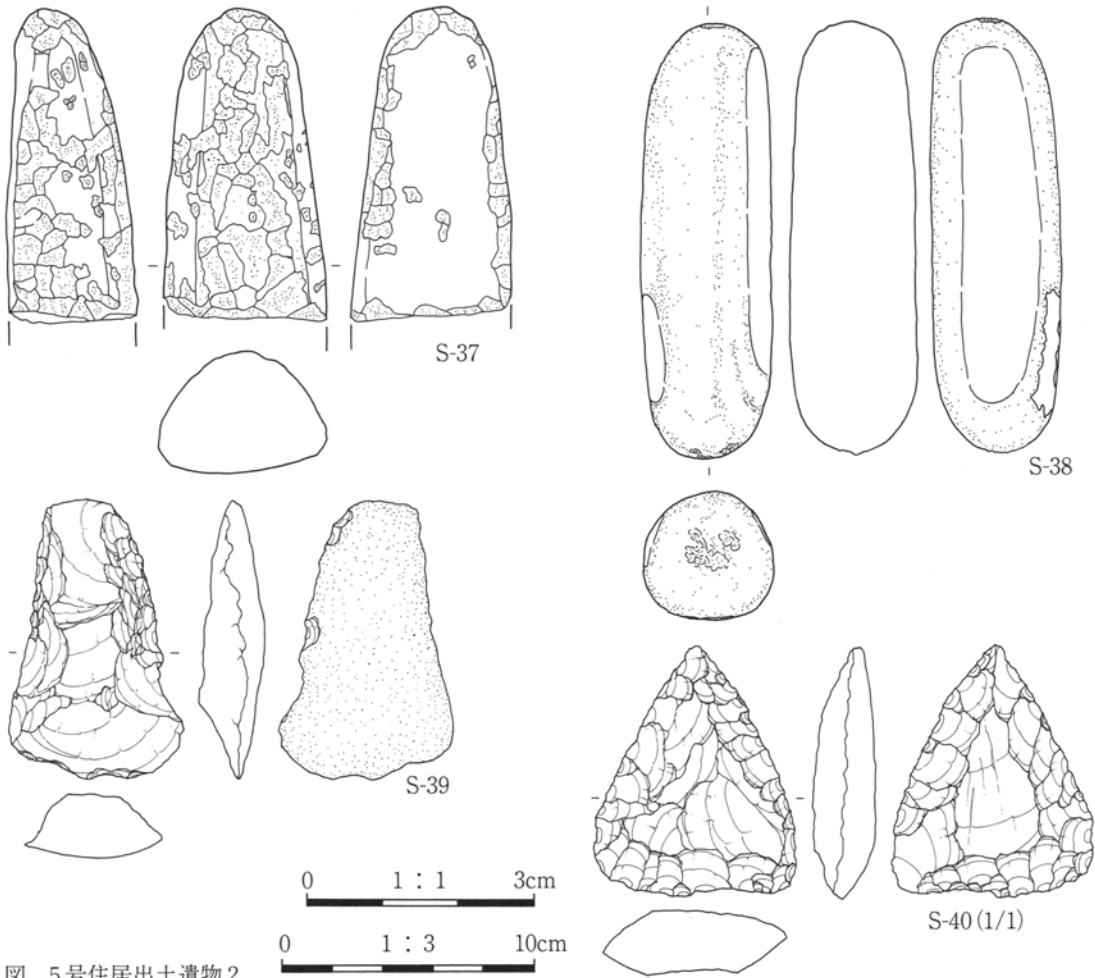
- 1 褐色土 ローム暗褐色土まじり。白く細かい軽石わずかにあり。軟質。
- 2 褐色土1よりローム分少しやや暗い。白く細かい軽石わずかにあり。やや粘質。やや軟。

第24図 5号住居平面図・高低図・土層断面図



第25図 5号住居出土遺物1

1 竪穴住居



第26図 5号住居出土遺物2

6号住居

位置 83-Q.R-16.17グリッド 標高116.7mから116.9mの台地上の東向き傾斜面に近い肩部に立地する。東側1.2mには同じ加曽利E式期の4号住居がある。

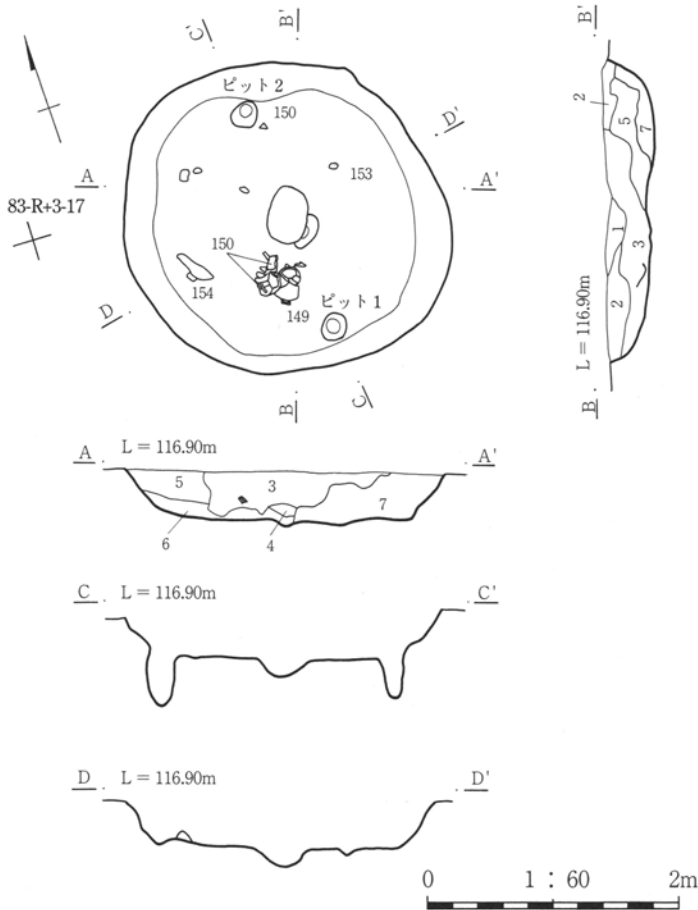
形態・規模 ほぼ円形であるが、北西にわずかな張り出し部があり長軸となる。規模は遺構確認面では長軸2.70m、短軸2.46m、床面では長軸2.23m、短軸2.10mである。住居としてはかなり小型で、また壁の立ち上がりが50度前後と緩い。

床・壁 残存壁高は25cmから41cmである。基本的に地山ロームを床面とする。壁周溝は全く確認できなかった。柱穴と思われるピットは、床面上の南端と北端で対になる形で、2基見つけた。ピット1は長軸21cm×短軸19cm×深さ40cm、ピット2は23cm×19cm×36cmである。比較的径の小さいピットであるが、深さは柱穴らしく掘られていた。柱穴間距離は心々で1.82mであった。床面中央部には長軸43cm×短軸31cm×深さ13cmの凹みが見られた。住居の炉の半分ほどを壊している。土層断面と併せて考察すると、住居埋没途中で一度掘りこまれていることがわかった。

炉 住居中央部やや南東よりに、地床炉が見つまっている。炉の北西部は新しい掘り込みにより壊されているが、南東部のおよそ半分が残存し、長軸27cm、短軸は残存11cm、推定20cmほどの楕円形を呈し、地山のロームがしっかりと焼土化したものであった。

遺物出土状況 住居内覆土全体に土器片や石器が散在するが、その数量は少ない。西壁際の石は長さ

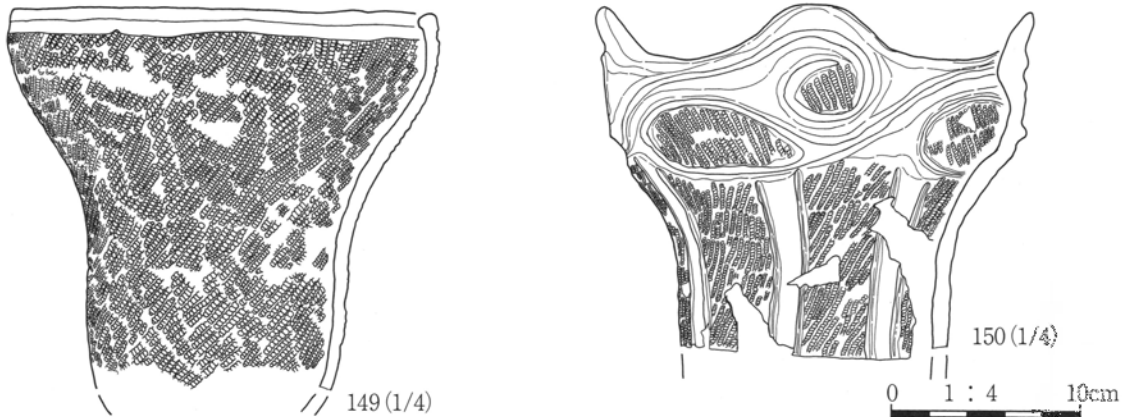
32.5cm でよく焼けており、炉に使用されていたものと考えられる。土器片は加曽利E式が主体であり、他に諸磯式、花積下層式もわずかに含むが、床面直上の土器は加曽利E式のみであった。炉の南西側では底部以外をほぼ完全に復元できた2個体の加曽利E式深鉢が出土している。150の、口縁部文様帯に幅広い隆線と沈線で渦巻文と楕円区画を構成するタイプは、本遺跡中で多数出土している。しかし149の器面全体に斜行縄文を縦位に充填するタイプは本遺跡中他に例を見ない。石器の出土は剥片と焼けた礫のみで、図化に値する遺物はない。他に炭化物では、クリの炭化材の破片が見つかった。



6号住居

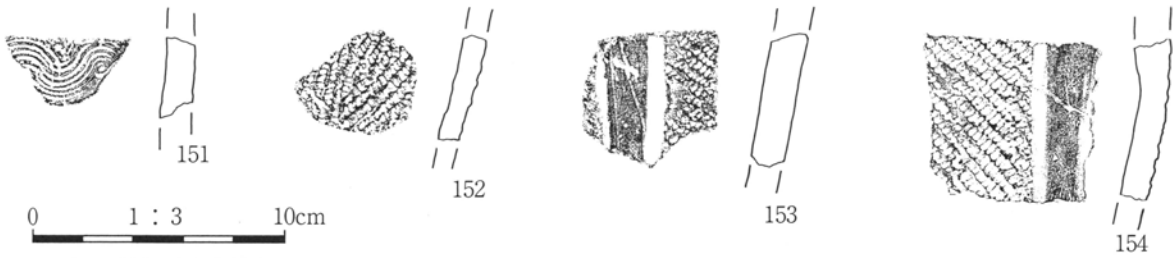
- 1 褐色土 3に近い土質だが、ローム粒を多く含み明るい。
 - 2 2に近いが、ローム分多くやや明るい。
 - 3 黒褐色土 黒褐色土にローム粒が斑状にまじる。白色の細かい軽石。淡黄色径5mm以下の軽石を含む。As-OP1とAs-YPか？細かな炭片を含む。
 - 4 褐色土 3に近い土質だが、ローム粒ロームブロック多く明るい。
 - 5 褐色土 ローム暗褐色土まじり。やや斑状にまじる。
 - 6 5に近いが下位にロームブロックあり。5よりしまりよし。
 - 7 褐色土 5よりローム分多くやや明るい色調。ソフトロームの土に近い→やや黒み強い。
1. 3. 4の範囲は、後から再び掘られた土坑の可能性あり。黒みが強く、炭片を含む土。図中の土器も3の土の中でできていた。

第27図 6号住居平面図・高低図・土層断面図



第28図 6号住居出土遺物1

1 竪穴住居



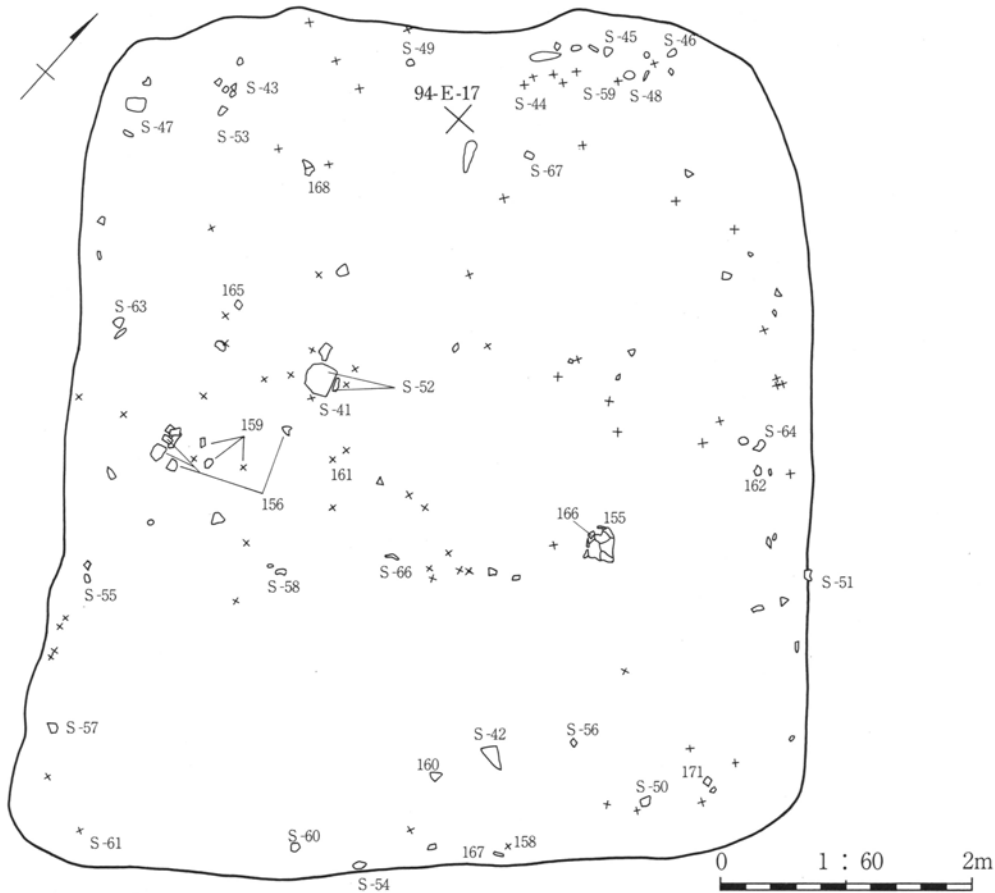
第29図 6号住居出土遺物2

7号住居

位置 94-C.D.E-15.16.17グリッド 標高118.2mから118.4mの台地頂部、南向き緩傾斜面に立地する。東壁南隅近くで105号土坑に切られる。

形態・規模 北西方向に長軸を持ち、北壁より南壁が長い隅丸台形状を呈する。規模は南北6.38m、東西5.67mである。

床・壁 残存壁高は25cmから54cmである。基本的に地山ロームを床面とし、炉の近くの一部を除きよくしまった硬化面となっていた。壁周溝は南壁の中央部の40cmほどを除き住居全周に見つかっている。その規模は、幅8cmから45cm、深さ13cmから50cmである。東西の壁に沿った周溝が40cm前後の深さなのに対し、南北の壁に沿った周溝は20cm前後と浅かった。また、住居の床下からも、周溝が3組検出された。これらの周溝を観察すると、この住居が3回にわたり拡張されていった様子が窺える。柱穴と思われるピツ

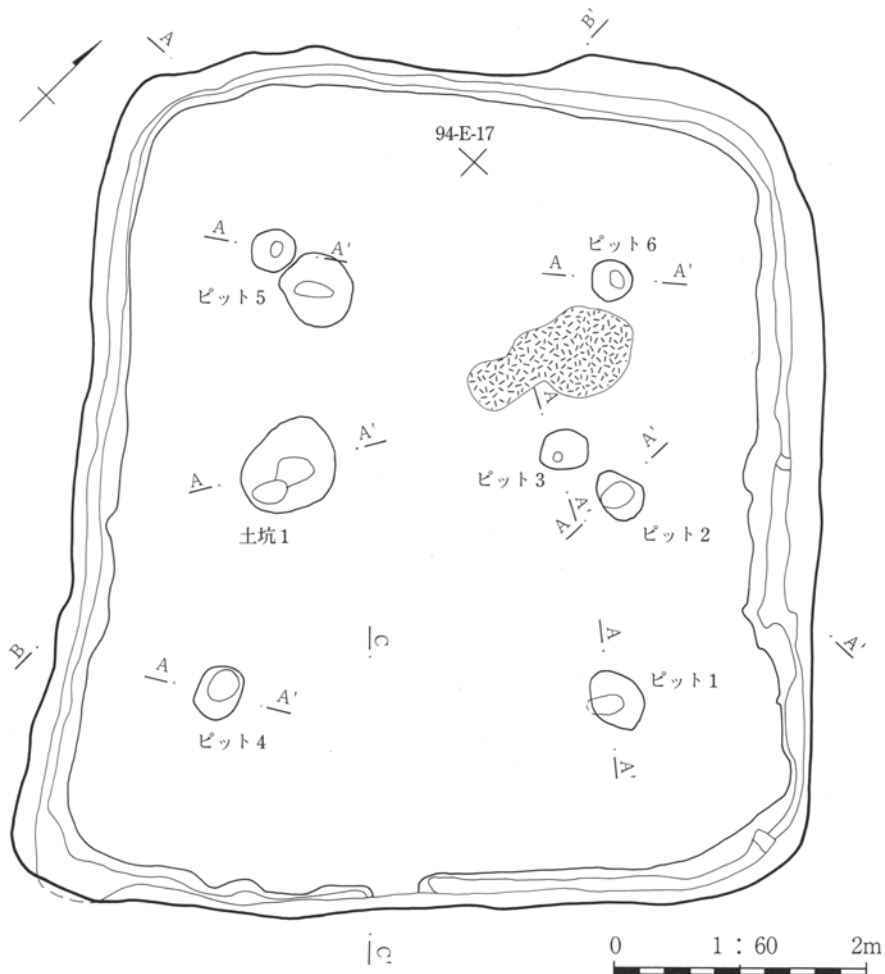


第30図 7号住居遺物分布図

トは6基あり、ピット1は長軸51cm×短軸39cm×深さ96cm、ピット2は43cm×33cm×73cm、ピット3は41cm×32cm×71cm、ピット4は43cm×34cm×85cm、ピット5は36cm×33cm×75cm、ピット6は34cm×32cm×73cmである。支柱穴はピット1、4、5、6と考えられ、ピット2、3は拡張前の住居の柱穴と推測される。床下土坑1（長軸82cm×短軸67cm×深さ36cm）は浅いが、位置を重視すると拡張前の住居の柱穴の可能性が考えられる。床下土坑2（長軸87cm×短軸80cm×深さ80cm）は袋状に下位が膨らんだ形状の土坑である。

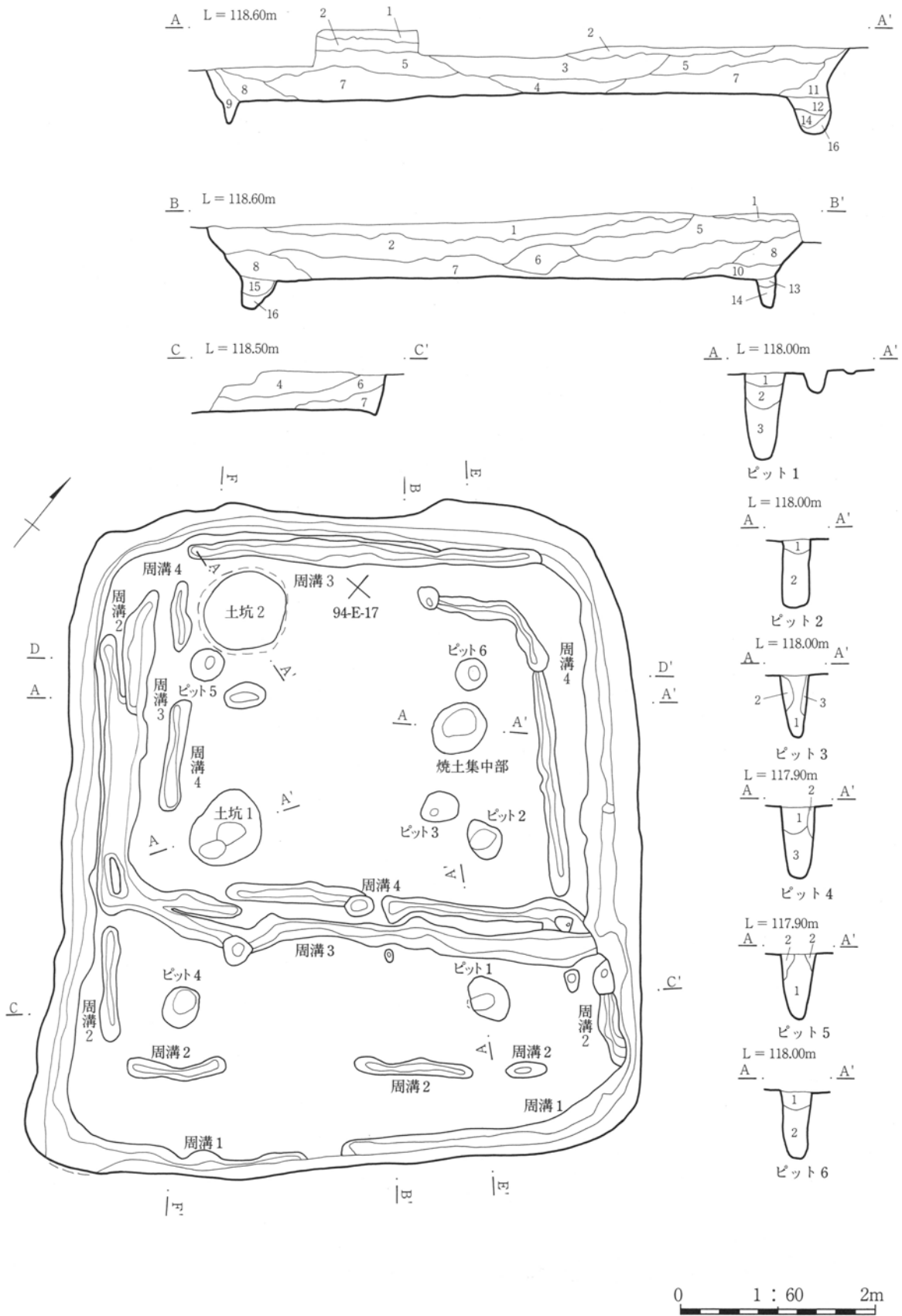
炉 ピット5の東側と、ピット6の南東側の2カ所で見ついている。床面で見つかったピット5東の炉がより新しい炉と考えられる。この炉は地床炉で、長軸61cm、短軸52cmほどの楕円形を呈し、深さ15cmほどの掘り込みを持つ。床面より焼土主体の明赤褐色の土で覆われ、下位の土には炭化物の細かな破片も含まれていた。ピット6南東の炉も地床炉で、床面では焼土が広がって踏み固められた状態であったが、3cmほど面を下げると炉の形が現れた。長軸59cm、短軸52cmほどの楕円形を呈する。14cmほどの深さの掘り込みがあり、焼土ブロックを多く含み炭化物の破片を少量含む土で覆われていた。

遺物出土状況 住居内の覆土全体に土器片や石器が散在している。土器片は黒浜式がほとんどであり、混入と思われる花積下層式も少量出土した。黒浜式土器では155が床面直上で出土し、口縁部から胴部下位まで復元することができた。他に石器では石皿、台石、磨石、砥石、敲き石、打製石斧、石鏃、スクレイパー、くさび形石器などが出土している。炭化物では、クリの炭化材の破片が住居覆土中から出土している。

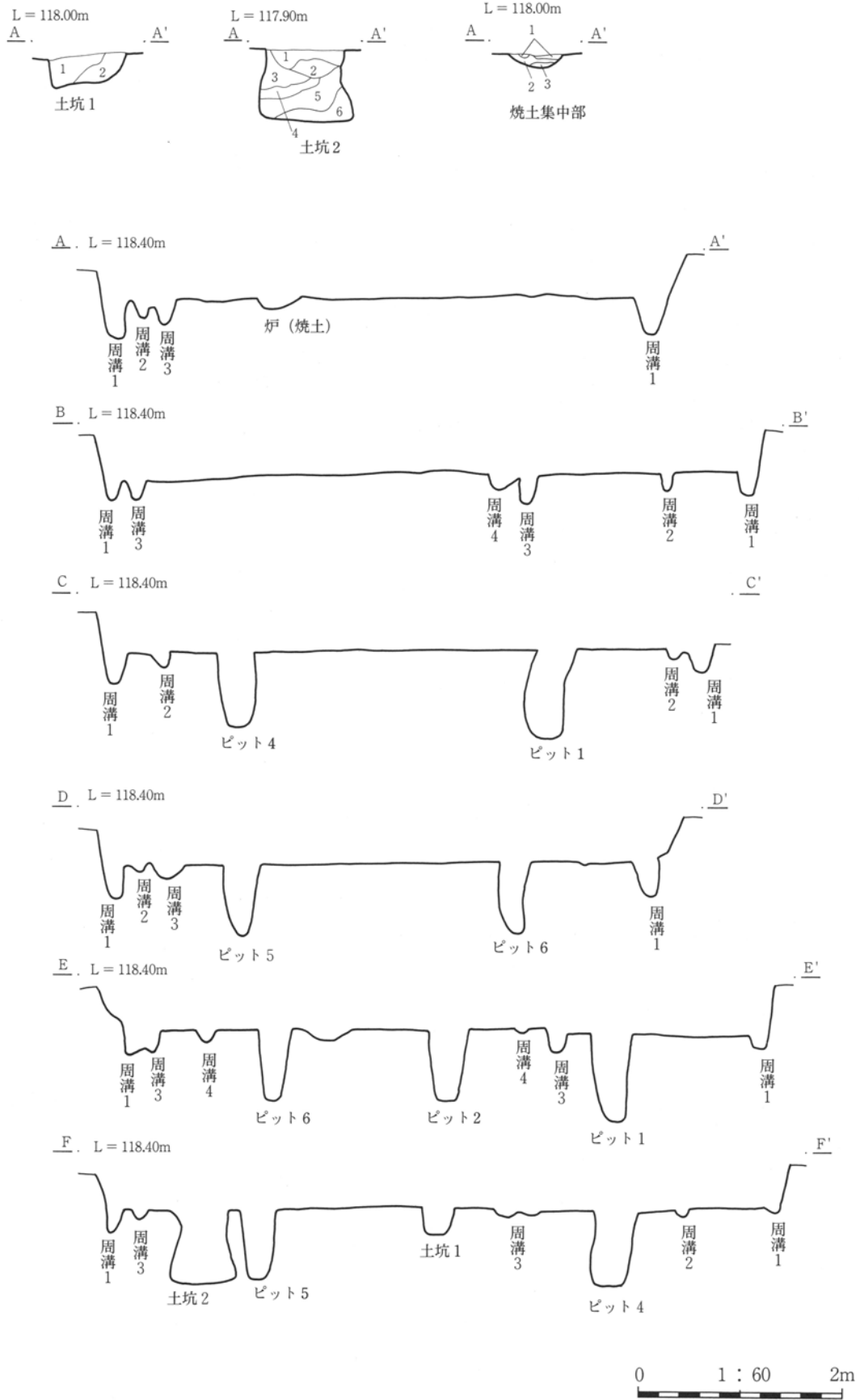


第31図 7号住居平面図

1 竖穴住居



第32図 7号住居土層断面図・掘り方平面図



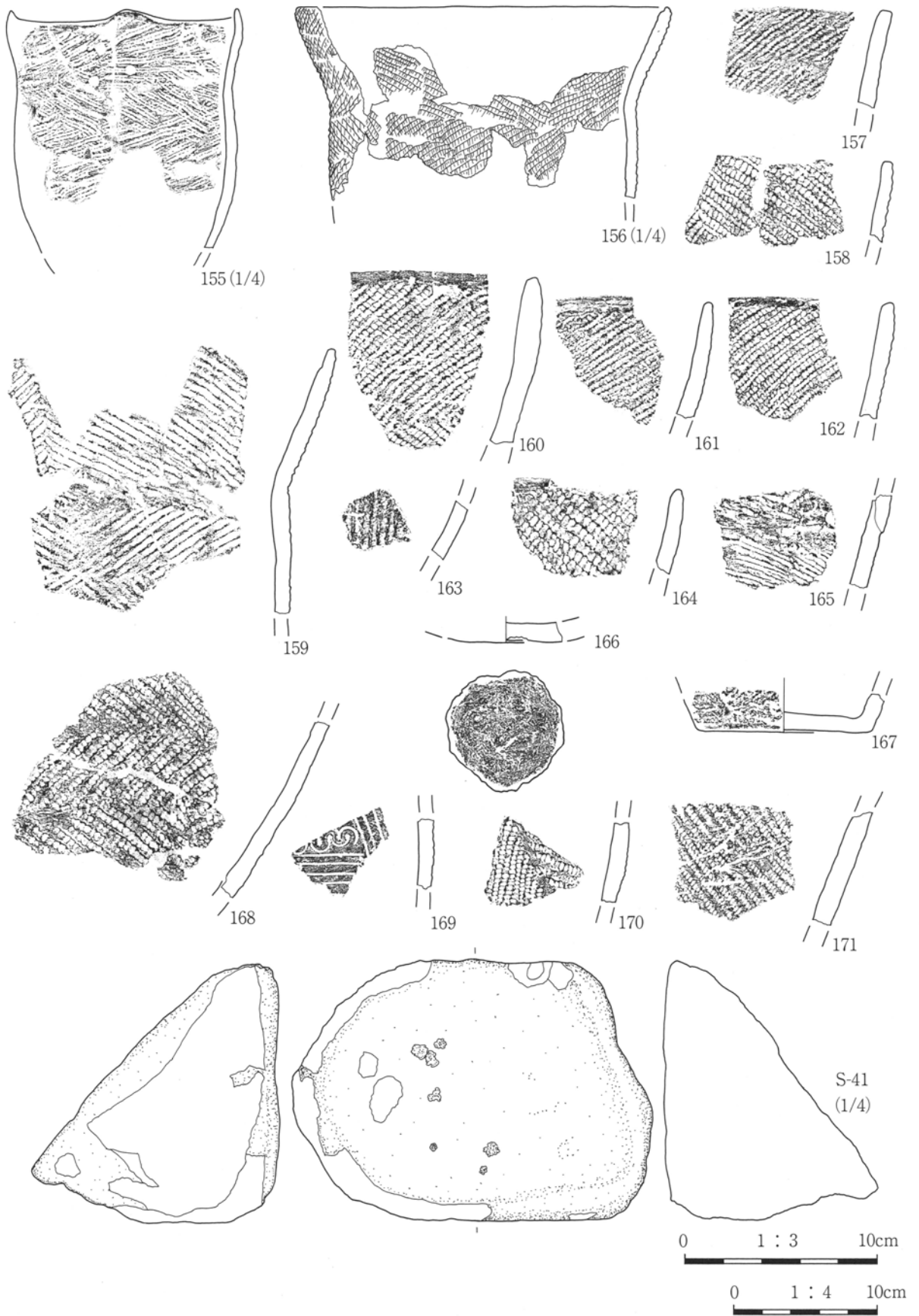
第33図 7号住居土層断面図・掘り方高低図

1 竖穴住居

7号住居

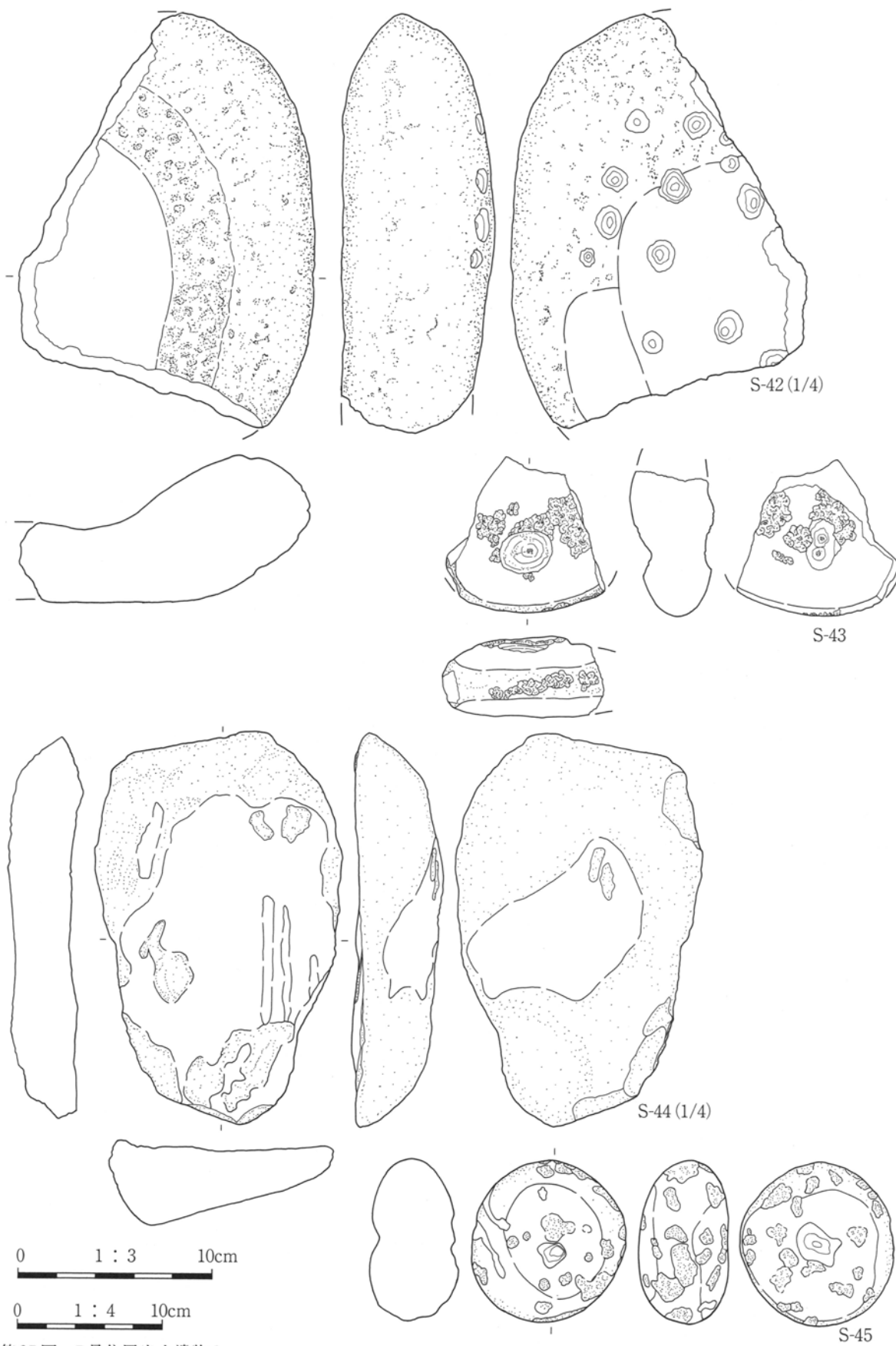
- 1 暗褐色土 しまりやや弱く細々している。暗褐色土主体炭化物粒微量。As-OP1 微量 As-YP 微量。
- 2 褐色土 しまっている。ローム主体。炭化物粒少量。As-OP1 らしい軽石少量。
- 3 黄褐色土 しまり強い。ローム主体。炭化物粒多量。炭化物は粒径5mm前後の大きいものが多い。As-OP1 らしい軽石多量。As-YP らしい軽石少量。明るいレンガ色のスコリア混入。
- 4 褐色土 しまり強い。ローム主体。径5～10mmほどの炭化物粒多量。As-OP1 らしい軽石混入。明るいレンガ色のスコリア微量。
- 5 黄褐色土 しまり強い。ローム主体。炭化物粒少量。As-OP1 らしい軽石微量。As-YP らしい軽石微量。
- 6 暗褐色土 しまっている。暗褐色土主体。ロームブロック（径1～2mm）微量。炭化物粒多量。炭化物粒は径5mm前後の大きいものが多くなる。As-OP1 らしい軽石混入。明るいレンガ色の軽石少量。
- 7 黄褐色土 しまり強い。ローム主体。炭化物粒微量。As-OP1 らしい軽石微量。As-YP らしい軽石微量。明るいレンガ色の軽石少量。
- 8 黄褐色土 しまり強い。ローム主体。炭化物粒少量。As-OP1 らしい軽石多量 9 黄褐色土 しまり強い。ローム主体。炭化物粒微量。As-OP1 らしい軽石多量。13層よりやや暗い。
- 9 黄褐色土 しまっている。ローム主体。As-BP らしい軽石少量。As-OP1 らしい軽石少量
- 10 褐色土 しまりやや弱く、やや粘性がある。ローム主体。炭化物粒少量。径1～2mmのロームブロック微量。As-OP1 らしい軽石微量。
- 11 褐色土 しまり強い。ローム主体。径2～3mmのロームブロック、As-YP らしい軽石微量。炭化物粒少量。As-OP1 らしい軽石多量。
- 12 黄褐色土 しまっている。ローム主体。ローム粒（径9mm以下）少量。炭化物粒微量。As-OP1 らしい軽石混入。
- 13 褐色土 しまっている。ローム主体。As-OP1 らしい軽石少量。
- 14 暗褐色土 しまっている。やや粘性あり。ローム主体（暗色帯のロームと思われる）。炭化物粒、As-BP らしい軽石微量。As-OP1 らしい軽石少量。
- 15 褐色土 しまり強い。暗褐色土主体でローム少量混入。ロームブロック（径1cm）微量。炭化物粒微量。As-OP1 らしい軽石少量。
- 16 黄褐色土 しまっている。ローム主体。ロームブロック（径1～2cm）少量。炭化物粒微量。As-OP1 らしい軽石少量。As-BP らしい軽石微量。

- ビット1
- 1 黄褐色土 しまり強い。ローム主体。炭化物粒微量。As-OP1 らしい軽石混入。
 - 2 黄褐色土 しまりやや弱い。ローム主体。炭化物粒少量。ロームブロック（径1～2cm）微量。As-OP1 らしい軽石少量。
 - 3 褐色土 しまりやや弱い。ローム主体。炭化物粒微量。As-BP らしい軽石微量。
- ビット2
- 1 黄褐色土 しまりやや弱く、粘性がある。ローム主体。炭化物粒少量。ロームブロック（径1～2cm）微量。As-OP1 らしい軽石微量。As-YP らしい軽石微量。
 - 2 黄褐色土 しまりやや弱く、粘性がある。ローム主体。炭化物粒微量。As-BP らしい軽石微量。
- ビット3
- 1 暗褐色土 しまっている。暗褐色土主体。炭化物粒少量。ローム粒（5～9mm）微量。As-OP1 らしい軽石少量。
 - 2 褐色土 しまりやや弱い褐色土主体。ロームブロック（径1cm）微量。炭化物粒微量。
 - 3 褐色土 しまっている。褐色土主体。ロームブロック（径1cm）少量。炭化物粒微量。
- ビット4
- 1 黄褐色土 しまっている。ローム主体。炭化物粒少量。As-OP1 らしい軽石多量。
 - 2 黄褐色土 しまり強い。ローム主体。炭化物粒微量。As-OP1 らしい軽石少量。
 - 3 褐色土 しまりやや弱い。ローム主体。炭化物粒少量。As-BP らしい軽石微量。
- ビット5
- 1 褐色土 しまりやや弱い。褐色土主体。炭化物粒少量。As-OP1 らしい軽石少量。As-YP らしい軽石微量。
 - 2 黄褐色土 しまりやや弱く、粘性がある。ローム主体。ロームブロック（径1cm）微量。炭化物粒微量。As-OP1 らしい軽石混入。
- ビット6
- 1 褐色土 しまっている。ロームブロック（径1～6cm）微量。炭化物粒少量。焼土粒微量。
 - 2 褐色土 しまりやや弱く、粘性がある。炭化物粒微量。
- 土坑1
- 1 黄褐色土 しまりやや弱く、粘性がある。ローム主体。径のやや大きな炭化物粒（径5～7mm）少量。As-OP1 らしい軽石微量。
 - 2 黄褐色土 しまりやや弱く、粘性がある。ローム主体。ロームブロック（径1～2cm）微量。炭化物粒混入。As-OP1 らしい軽石微量。
- 土坑2
- 1 褐色土 しまっていて、粘性がある。褐色土主体。ロームブロック（径1cm）微量。炭化物粒少量。As-OP1 らしい軽石混入。
 - 2 暗褐色土 しまりやや弱い。暗褐色土主体。褐色のロームブロック（径3～4cm）微量。炭化物粒微量。As-OP1 らしい軽石多量。
 - 3 褐色土 しまりやや弱く、粘性がある。褐色のロームブロック（径1～3cm）少量。As-OP1 らしい軽石微量。As-YP らしい軽石微量。
 - 4 暗褐色土 しまり弱く、粘性がある。暗褐色土主体。ロームブロック（径1～2cm）微量。炭化物粒微量。As-YP らしい軽石微量。
 - 5 黄褐色土 しまっていて、粘性がある。ローム主体。ロームブロック（径1～6cm）少量。炭化物粒微量。As-OP1 らしい軽石微量。As-YP らしい軽石少量。
 - 6 暗褐色土 しまっている。暗褐色土主体。ロームブロック（径1～3cm）微量。炭化物粒微量。
- 焼土集中部
- 1 赤褐色土 しまりやや弱い。焼土とロームの混合土。炭化物粒少量。焼土ブロック（径1～4cm）多量。
 - 2 明褐色土 しまりやや弱い。ローム主体。焼土粒少量。焼土ブロック（径1～2cm）微量。炭化物粒微量。
 - 3 黄褐色土 しまり弱く、粘性がある。ローム主体。焼土粒微量。As-OP1 らしい軽石微量。

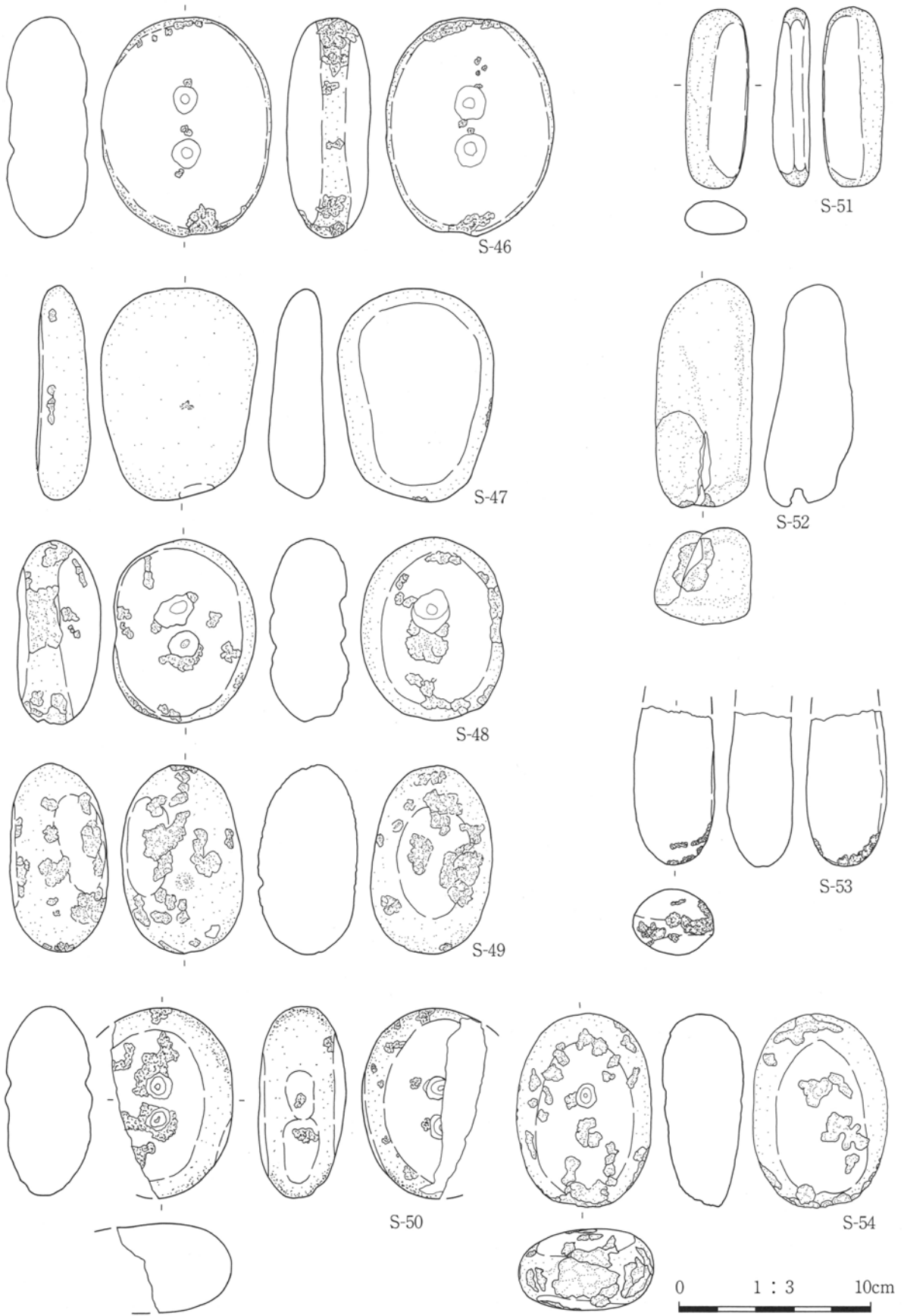


第34図 7号住居出土遺物1

1 竪穴住居

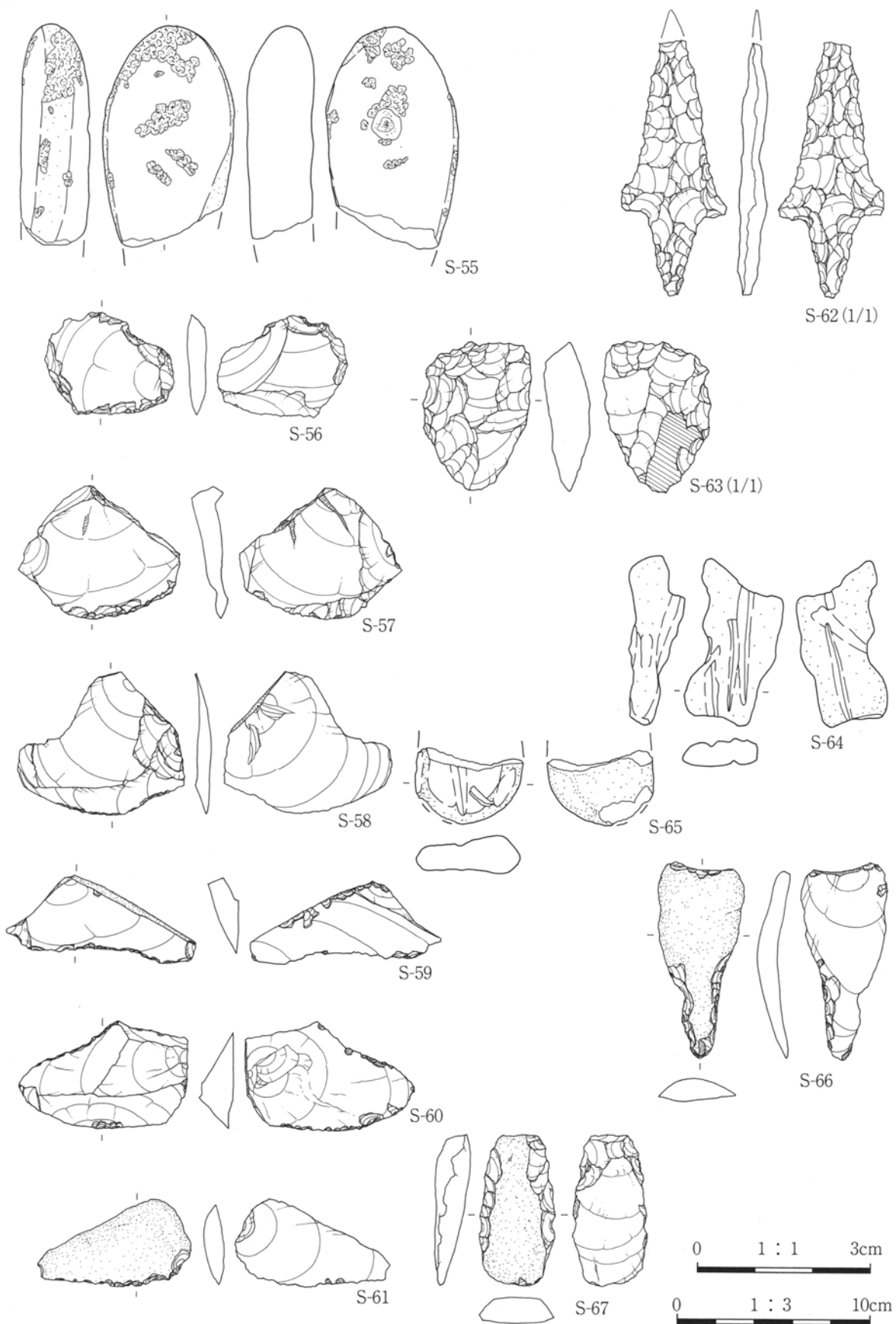


第35図 7号住居出土遺物2



第36図 7号住居出土遺物3

1 竖穴住居

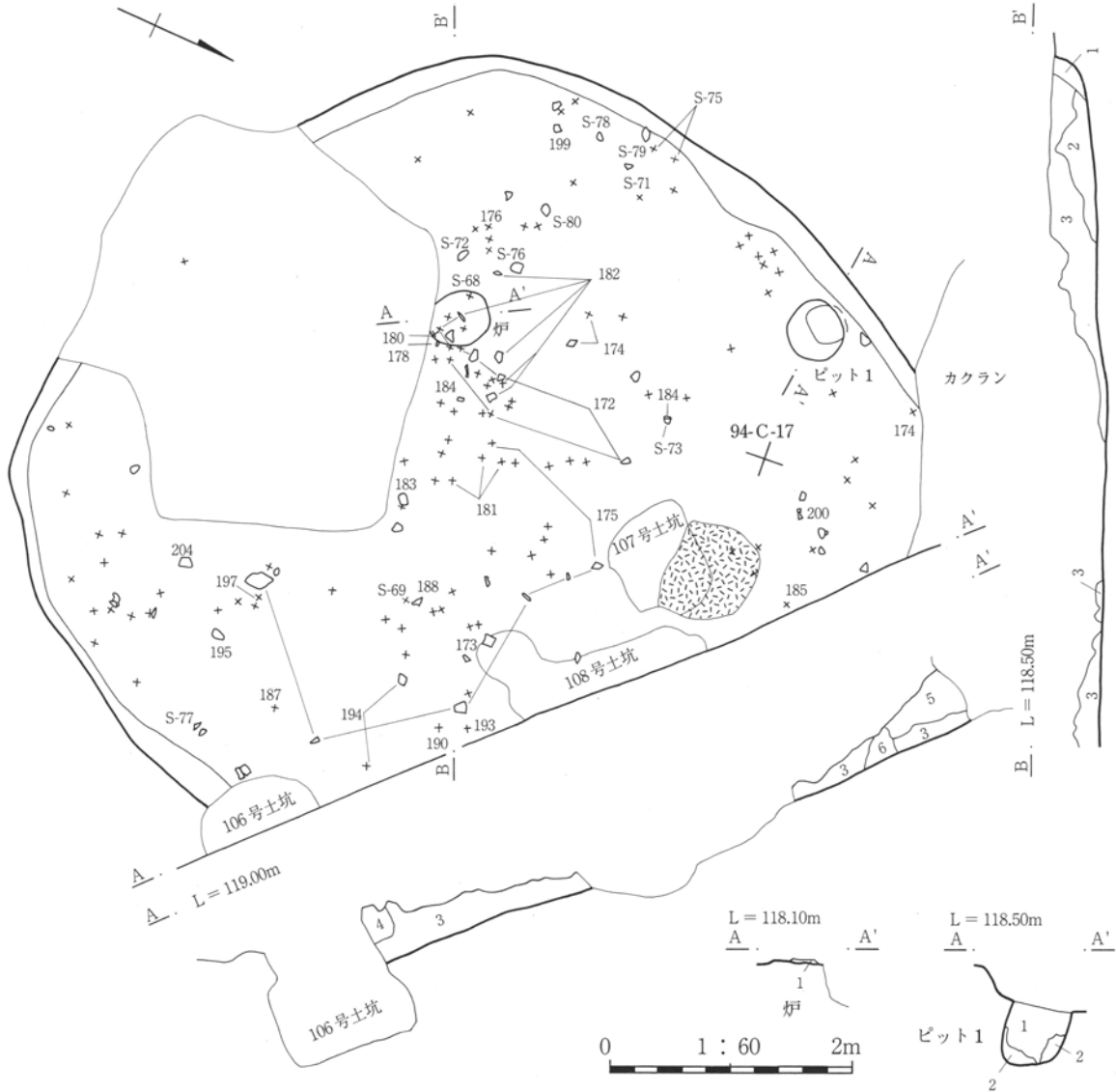


第37图 7号住居出土遺物4

8号住居

位置 94-B.C-15.16.17グリッド 標高118.2mから118.4mの台地頂部の南向き緩傾斜面に立地する。東壁の調査区境上を106号土坑に切られる。住居中央部北よりで、住居より新しい107.108号土坑が見つかる。

形態・規模 住居の北東側が調査区外に出るため、長軸方向は不明である。形態は隅丸方形よりも円みがある変則的な形状である。規模は南北6.62m、東西6.22mである。



8号住居

- 1 褐色土 ローム暗褐色土まじり。2・3層よりローム分多い。As-OP1らしき軽石を含む。
- 2 暗褐色土 暗褐色土ローム粒混じり。3層に比べやや暗褐色土多く暗い。As-OP1、As-YPらしき軽石を含む。細かな炭片あり。
- 3 褐色土 ローム暗褐色土混じり。As-OP1らしき軽石As-YPも含む。細かな炭片少しあり。住居中央よりはやや黒み強くロームブロックを含む。
- 4 褐色土 3層に近いがやや暗褐色土分多く軟質。
- 5 褐色土 3層に近いがローム分多くやや明るい。
- 6 暗褐色土 暗褐色土・ローム混じり。白く細い軽石僅かに混じる。軟質。上層から入ったカクランか？ピットか？
- 1号ピット 1 暗褐色土暗褐色土、ローム混じり。As-OP1、As-YPらしき軽石を含む。小さな炭片少しあり。締まりよし。
2 褐色土暗褐色土ローム粒混じり、1に比べローム分多く明るい。1のような軽石は少い。下位はやや軟。
- 炉 1 褐色土暗褐色土ローム粒混じり。焼土粒。小さな焼土ブロックを含む。炭片僅かにあり。白っぽい細かい軽石少しあり。

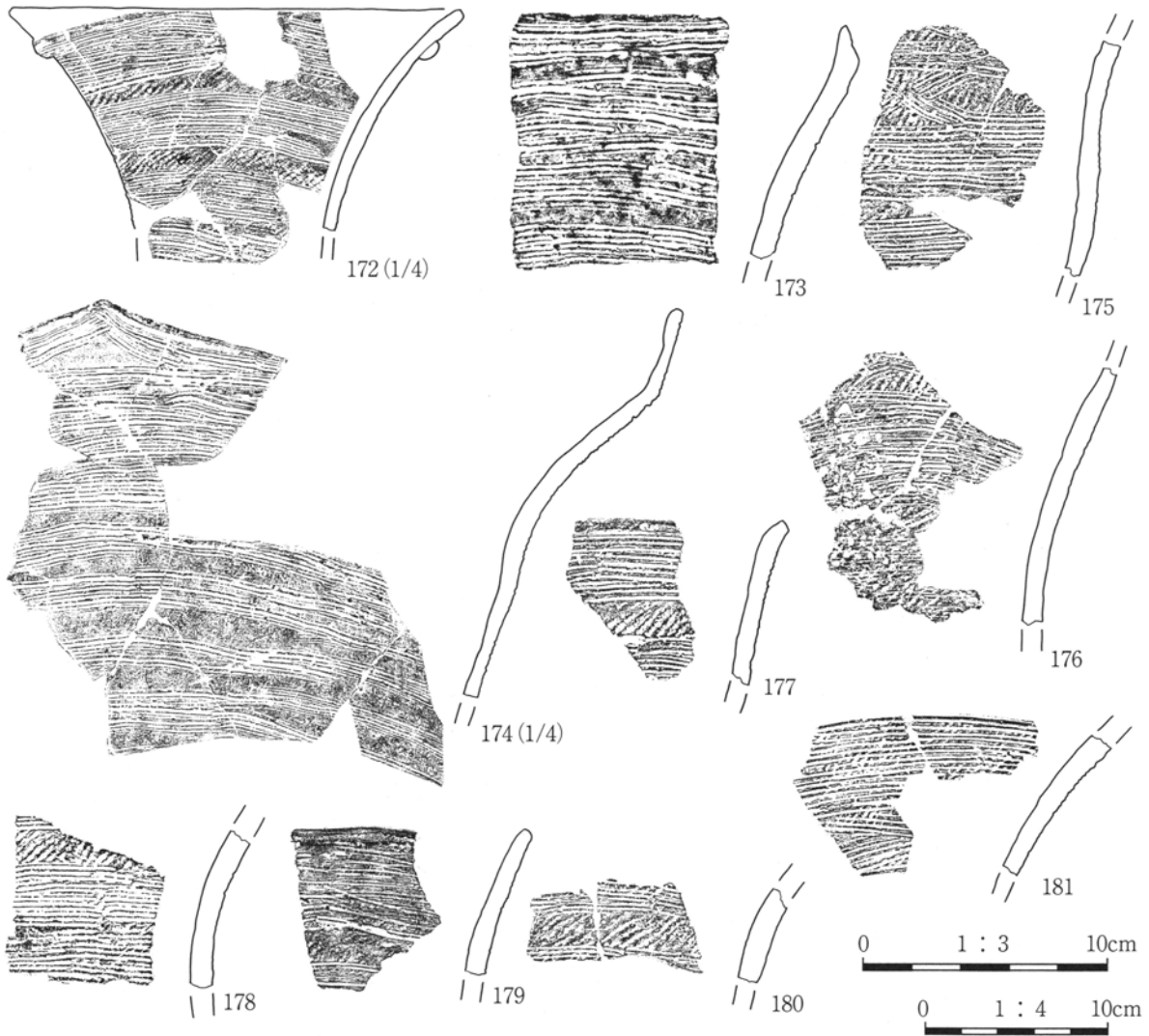
第38図 8号住居平面図・土層断面図

1 竖穴住居

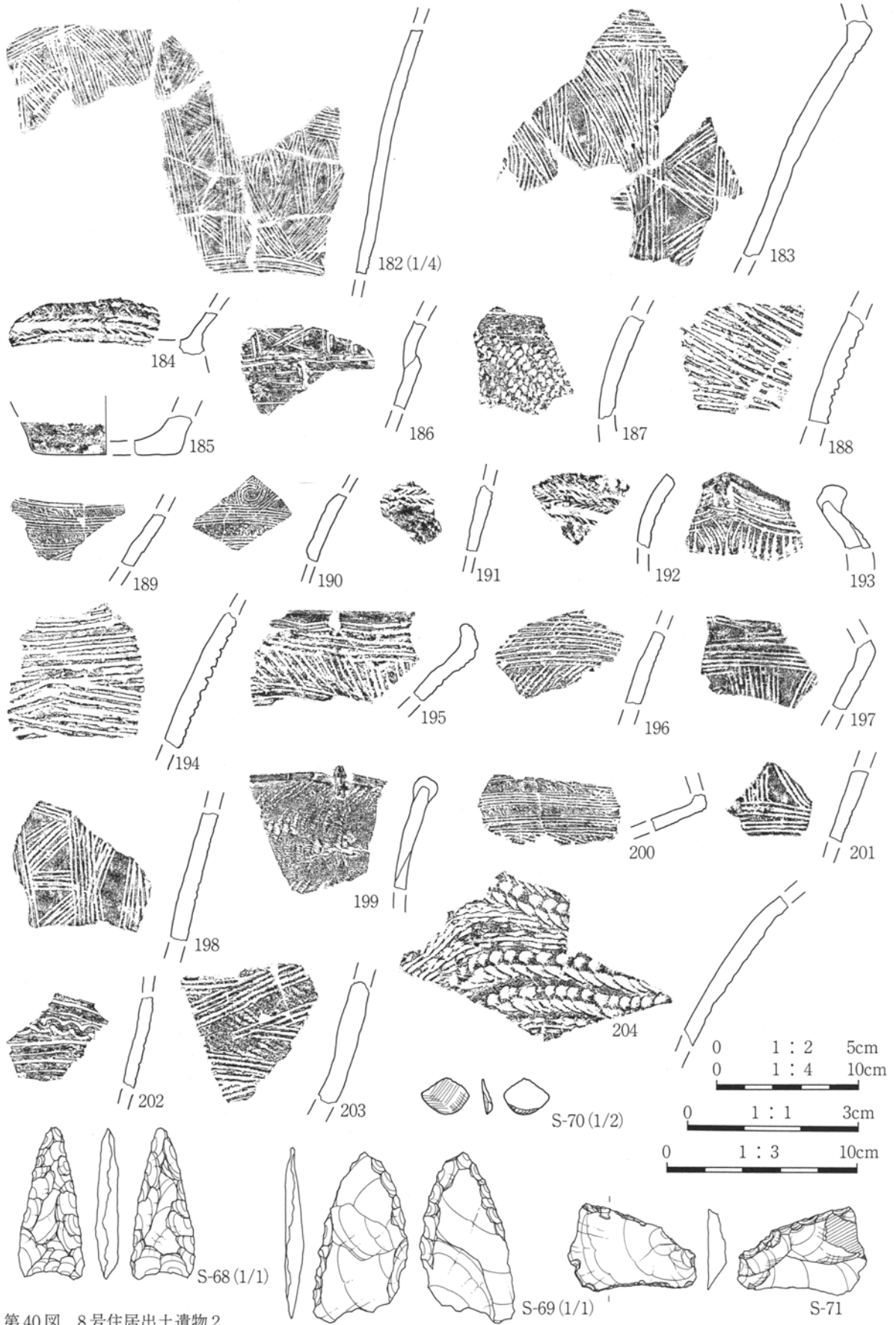
床・壁 残存壁高は15cmから30cmである。床下のほぼ住居内全域にローム主体で暗褐色土混じりの土層が見られ、基本的に地山ロームを床面とする。壁周溝は住居全般にわたり見られなかった。床面と壁に明瞭な境界はなく、すり鉢状に立ち上がる部分が多かった。柱穴と思われるピットは住居北側の壁よりで1基だけ検出し、ピット1は長軸49cm×短軸45cm×深さ43cmである。このピットは垂直ではなく、やや内側に傾いた状態であった。住居内の対称の位置には、住居より新しい106号土坑があり、ここにピットが存在していた可能性は考えられる。しかし6mを越す住居でありながらこのようなピットしか検出できないのは、縄文前期の住居として稀な例であった。

炉 住居中央部西よりで地床炉が見つかった。長軸52cm、短軸44cmほどの楕円形を呈し、深さ3cmほどの浅い掘り込みを持つ。床面より焼土粒、焼土ブロック、炭片などを含む土で覆われていた。

遺物出土状況 住居内覆土全体に土器片や石器が散在する。土器片は諸磯b式を主体とし、諸磯c式、浮島Ⅲ式、黒浜式が少量出土している。他に石器では磨石、打製石斧、石鏃、石錐、スクレイパー、装飾品の破片などが出土している。また、炉の東側、床面から10数cmの位置で、クヌギ節の炭化材2片が出土した。そのうちの1片は、30年以上の年輪が残された炭化材であった。

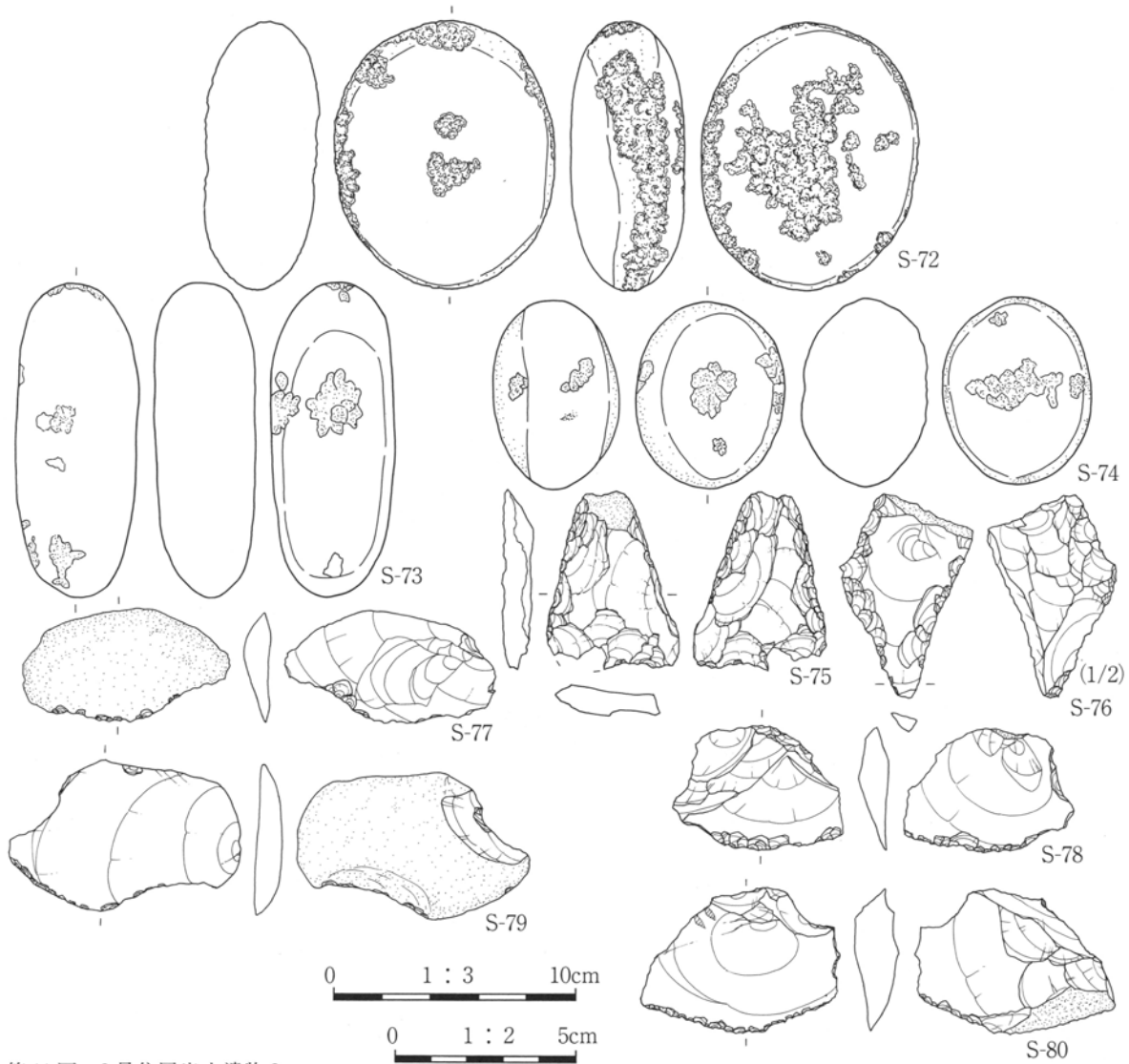


第39図 8号住居出土遺物1



第40図 8号住居出土遺物2

1 竪穴住居



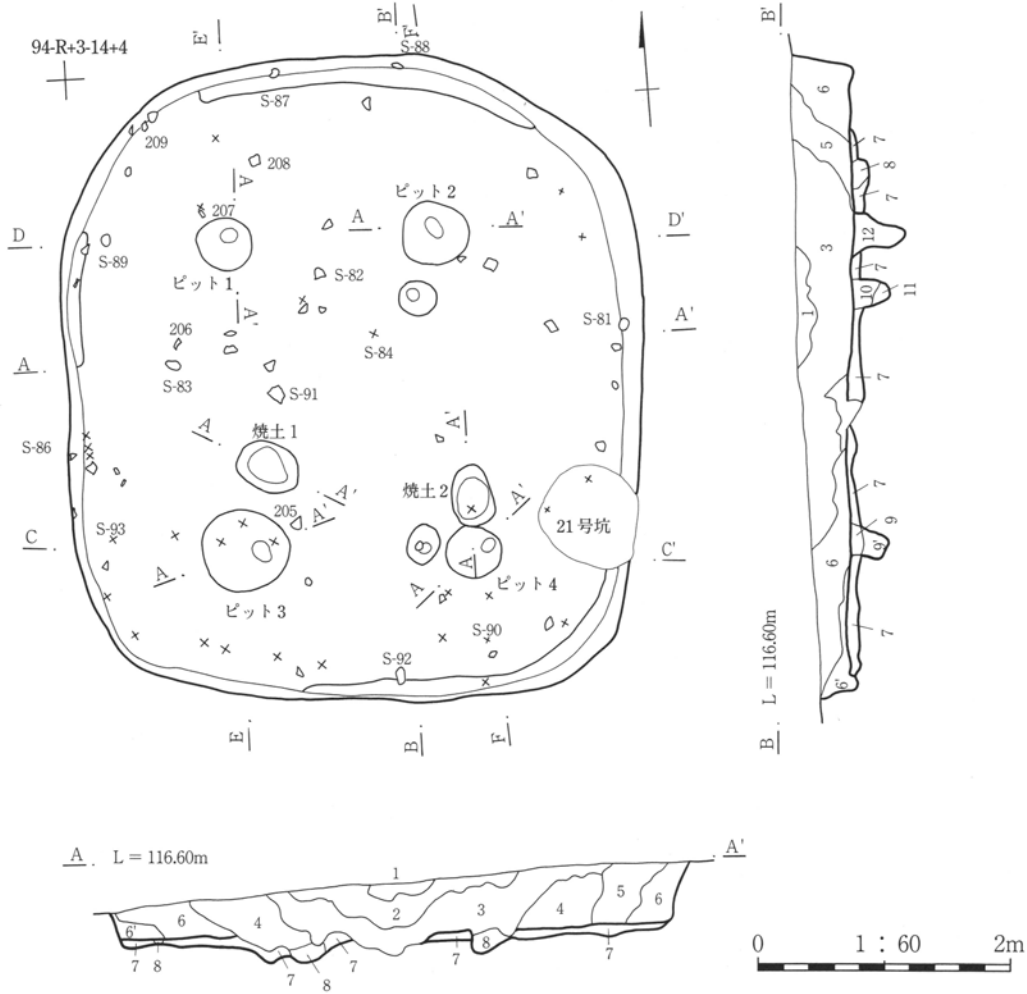
第41図 8号住居出土遺物3

9号住居

位置 94-Q.R-13.14 グリッド 標高 116.4m から 116.9m の台地頂部に近い南西向き傾斜面に立地する。東東南隅近くを 99号土坑に切られる。

形態・規模 南北に長軸をおく、隅丸長方形を呈する。規模は南北4.73m、東西4.26mである。

床・壁 残存壁高は 8 cm から 55cm である。傾斜面に立地するため、北東側と南西側の残存壁高の差が大きい。床下には基本的に住居全域にローム主体で暗褐色土の混じる土層が見られ、その上面が床面となる。床面は固くしまっているが、住居の中央北西より部分ではこの床面が壊されていた。住居の土層断面を見ると、住居がある程度埋没した時期に再びこの部分が掘削されたことがわかる。壁周溝は浅いものが北壁側にも確認できる。その規模は、幅 12cm から 18cm、深さ 2cm から 8cm である。柱穴と思われるピットは 7 基あり、ピット 1 は長軸 46cm × 短軸 40cm × 深さ 78cm、ピット 2 は 56cm × 52cm × 72cm、ピット 3 は 69cm × 64cm × 87cm、ピット 4 は 46cm × 41cm × 82cm、ピット 5 は 31cm × 25cm × 30cm、ピット 6 は 32cm × 27cm × 35cm、ピット 7 は 32cm × 26cm × 31cm である。主柱穴はピット 1 から 4 と考えられる。ピット 5、6、7 は床面では確認できなかったので住居の最終使用面では使われていなかった柱穴と考えられる。

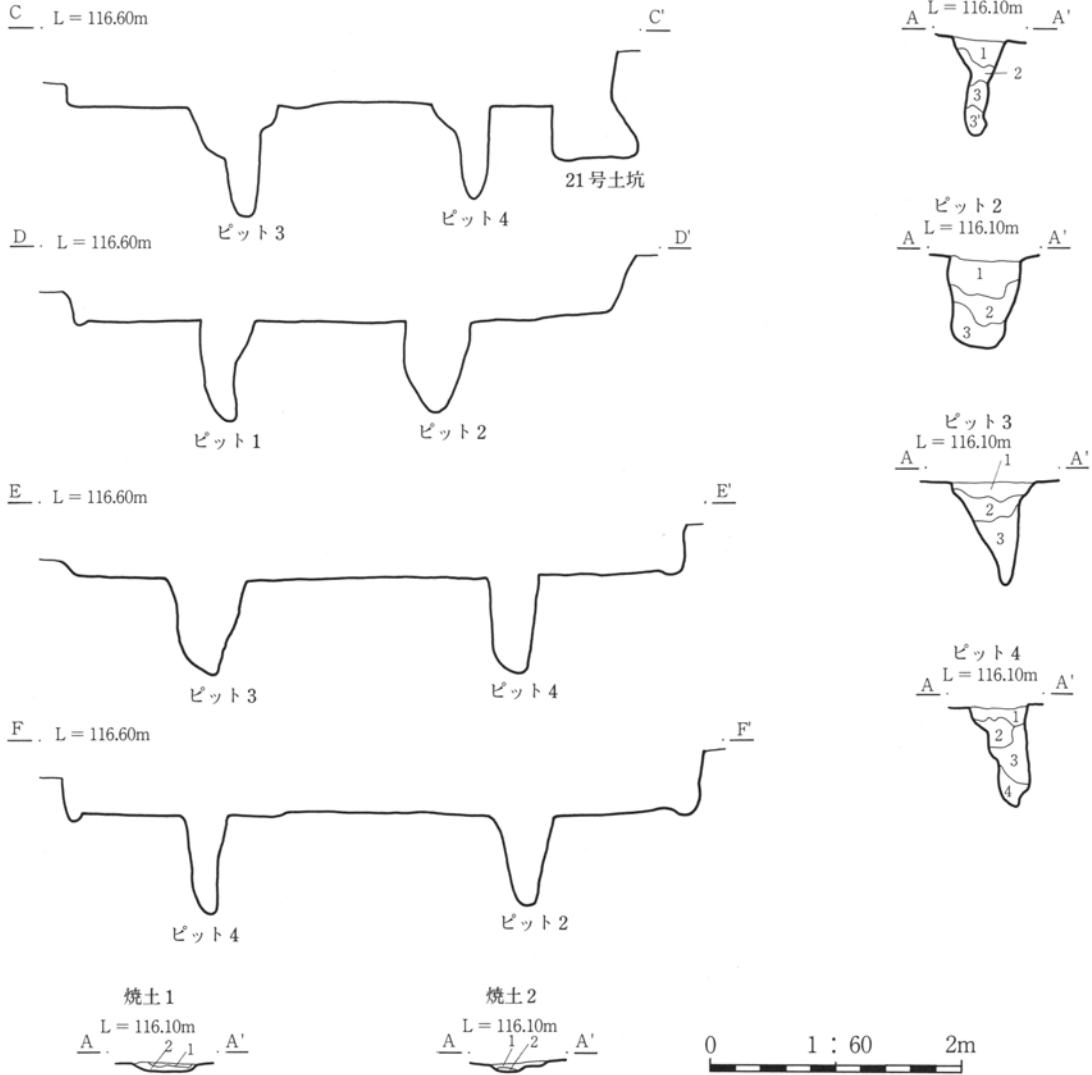


9号住居

- 1 暗褐色土 黒褐色土、ローム粒混じり。ローム粒はまだらな斑状に見える。白い細かい軽石あり。炭片少しあり。焼土粒僅かにあり。
- 2 黒褐色土 黒褐色土にローム少し混じる。ロームはまだらな斑状に見える部分あり。白い細かい軽石あり。炭片あり。(1より目立つ) 焼土粒少しあり。
- 3 暗褐色土 黒褐色土にローム少し混じる。ロームは斑状に見える部分あり。ロームブロック少しあり。下位の方に目立つ。白い細かい軽石あり。炭片あり。焼土粒少しあり。As-YPらしき軽石僅かにあり。
- 4 褐色土 暗褐色土、ローム混じり。下位にロームブロック少しあり。白い細かい軽石あり。炭片。焼土粒はほとんどなし。
- 5 褐色土 暗褐色土、ローム混じり。ロームはまだらに斑状に見える。白い細かい軽石あり。As-YPらしき軽石少しあり。炭片はほとんどなし。焼土粒僅かにあり。
- 6 褐色土 暗褐色土、ローム混じり。ロームはまだらに斑状に見える。白い細かい軽石あるが5より少ない。As-YPらしき軽石少しあり。炭・焼土粒見られず。
- 6' 褐色土 暗褐色土、ローム混じり。6に近いがややローム分多く明るい。白い細かい軽石がほとんど見られない。他の部分よりやや軟質。
- 7 黄褐色土 ローム主体。暗褐色土少し混じる。ロームブロックを含む部分もあり地山のAs-OP1らしき軽石を含むハードロームを主とする。上面は床面で固く締まった部分が多い。
- 8 褐色土 ローム、暗褐色土混じり。白い細かい軽石少しあり。
- 9 褐色土 暗褐色土、ローム混じり。小さなロームブロック少しあり。白い細かい軽石少しあり。炭片少しあり。
- 9' 褐色土 暗褐色土、ローム混じり。9よりやや暗い。白い細かい軽石少しあり。炭片少しあり。
- 10 褐色土 暗褐色土、ローム混じり。小さなロームブロック少しあり。他に混入物は目立たず。
- 11 褐色土 暗褐色土、ローム混じり。10より暗い。ロームブロックはなし。白い細かい軽石少しあり。
- 12 ピット2覆土

第42図 9号住居平面図・土層断面図

1 竪穴住居

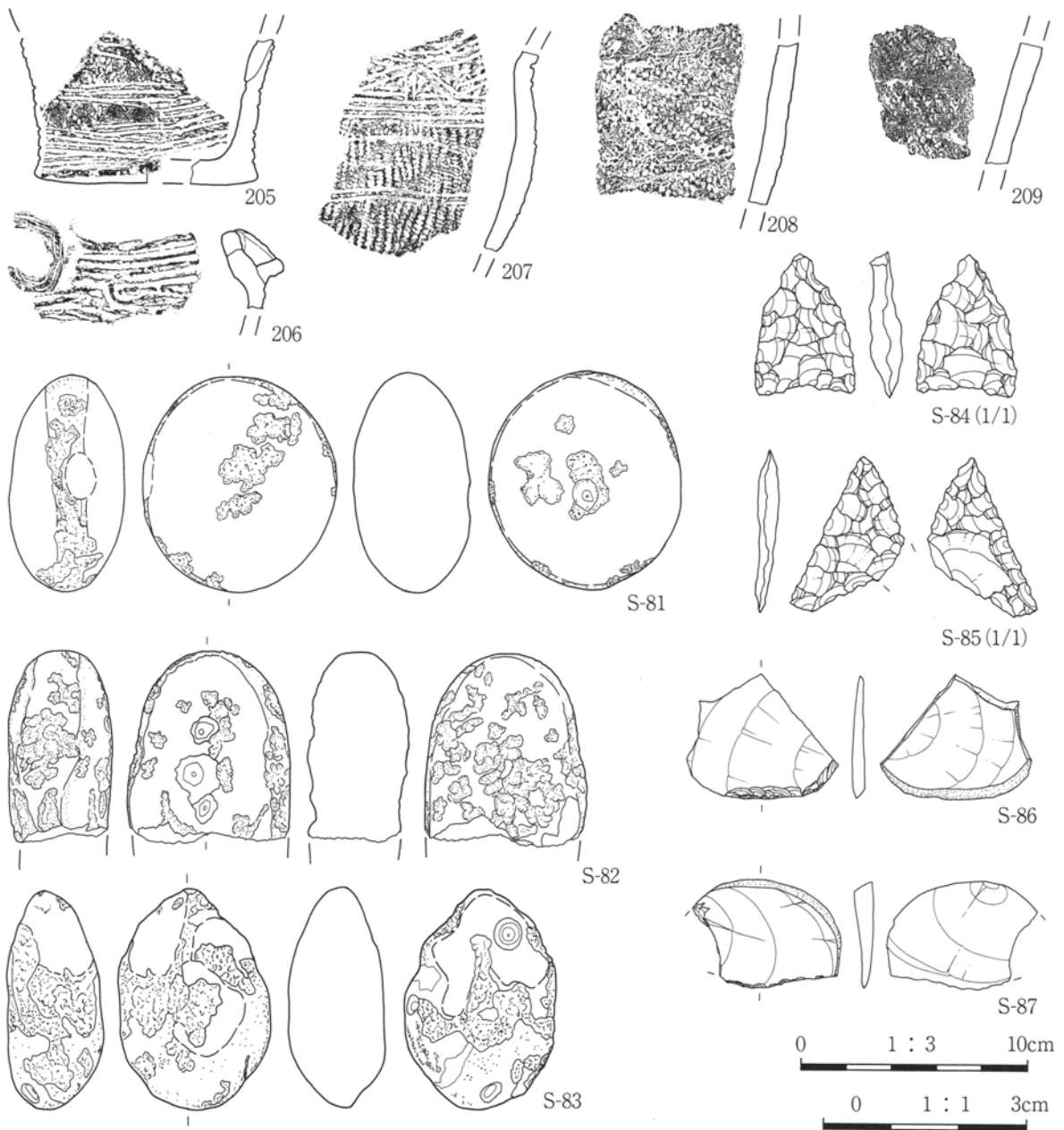


- ピット1
- 1 褐色土 暗褐色土、ローム混じり。白い細かい軽石あり。炭片少しあり。
 - 2 黄褐色土 ローム、暗褐色土少し混じる。左壁よりにAs-BP少しあり。
 - 3 褐色土 ローム、暗褐色土混じり。ロームはやや粘質。
 - 3' 褐色土 3に近いがやや暗褐色土多く暗い。3より水気多くサラサラしている。(地山の暗色帯と異なる)
- ピット2
- 1 暗褐色土。ローム混じり。まだらに色が散る。白い細かい軽石あり。炭片。焼土粒少しあり。
 - 2 暗褐色土。ローム混じり。1と違い色はほぼ均質。ロームはやや粘質。混入物ほとんどなし。
 - 3 暗褐色土。ローム混じり。2のようにやや粘質。周囲の暗色帯よりやや明るい色。炭片少しあり。
- ピット3
- 1 褐色土 暗褐色土、ローム混じり。白い細かい軽石あり。
 - 2 黄褐色土ロームに暗褐色土少し混じる。白い細かい軽石僅かにあり。
 - 3 褐色土ロームに暗褐色土混じる。2よりやや暗い。2よりやや軟。V層に比べサラサラした土。炭片少しあり。
- ピット4
- 1 褐色土 暗褐色土、ローム混じり。ロームブロック(小)あり。白い細かい軽石あり。
 - 2 黄褐色土ロームに暗褐色土少し混じる。白い細かい軽石僅かにあり。
 - 3 褐色土ローム。暗褐色土混じり。2よりやや暗く軟質。水気なくサラサラした土。混入物ほとんどなし。
 - 4 褐色土ローム。暗褐色土混じり。3に近いがやや暗褐色土多く暗い。地山、暗色帯よりは明るい色。
- 焼土1
- 1 褐色土 暗褐色土、ローム混じり。白い細かい軽石あり。As-YP少しあり。焼土粒。焼土ブロックを含む炭片少しあり。
 - 2 褐色土 ローム、暗褐色土混じり。白い細かい軽石少しあり。
- 焼土2
- 1 褐色土 暗褐色土、ローム混じり。白い小さな軽石あり。小さなロームブロック少しあり。1の底面及びふちのロームが焼けて焼土化した部分あり。
 - 2 褐色土 暗褐色土、ローム混じり。1よりやや暗くローム分少い。白い細かい軽石1より少い。(柱穴?)

第43図 9号住居高低図 ピット等土層断面図

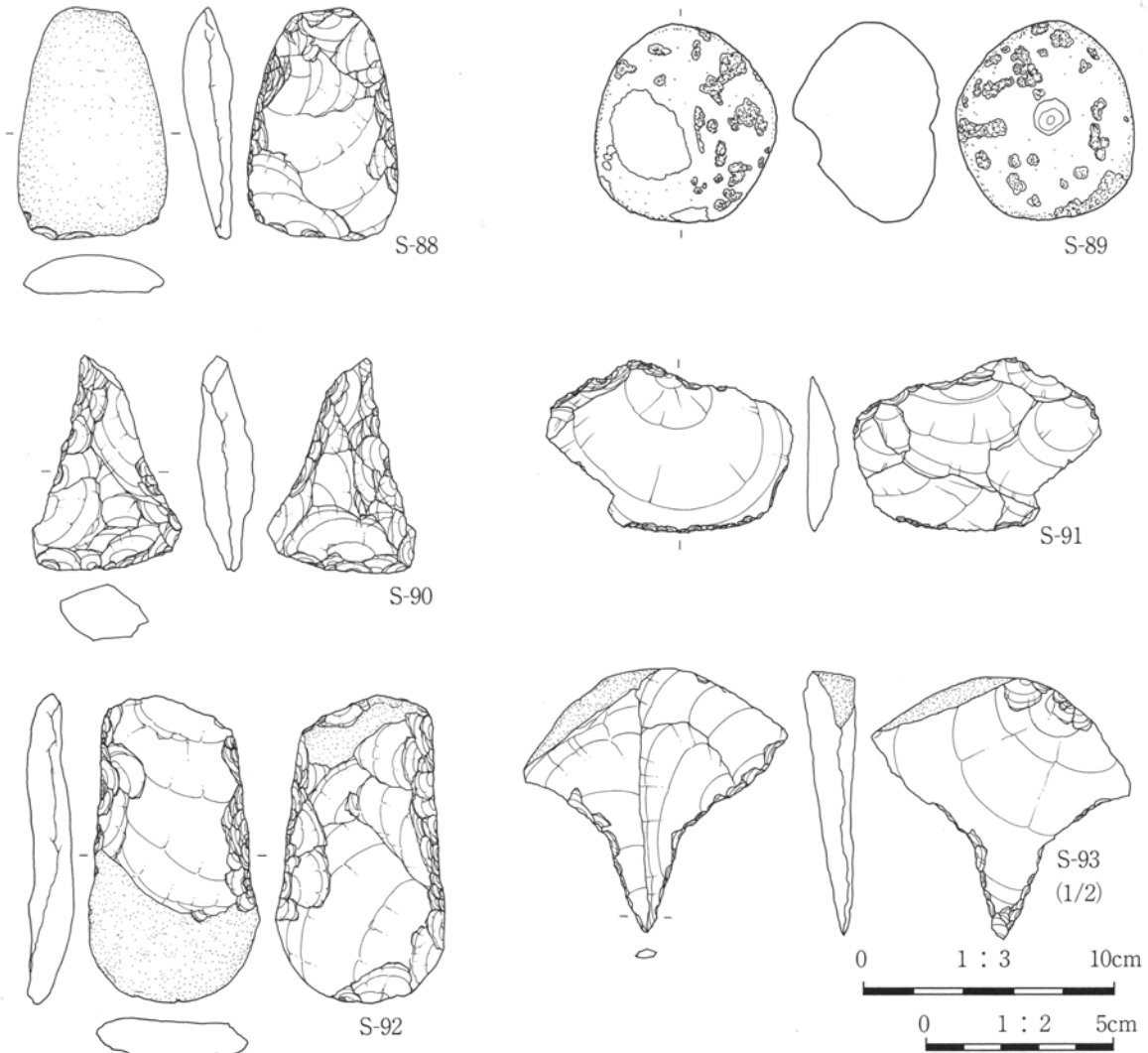
炉 住居南よりにピット3の北側と、ピット4の北側の2カ所で見つっている。ピット3北の炉は地床炉である。長軸50cm、短軸38cmほどの楕円形を呈し、深さ7cmほどの浅い掘り込みを持つ。床面より焼土粒、焼土ブロック、炭片を含む土で覆われていた。ピット4の北側の炉も地床炉と思われ、長軸46cm、短軸34cmほどの楕円形を呈する。5cmほどの浅い掘り込みがあり、床面よりローム混じりの暗褐色土で覆われ、底面や縁のロームが焼土化していた。

遺物出土状況 住居内覆土全体に遺物が散在するが、土器片は少なく、石器の方が目立った。土器片は全て諸磯b式である。石器では磨石、打製石斧、石鏃、石錐、スクレイパーなどが出土している。炭化物では、住居覆土の2層からオニグルミ炭化核の破片とタデ属の炭化果実が出土した。また、ピット3北の炉からもオニグルミ炭化核の破片が出土している。



第44図 9号住居出土遺物1

1 竪穴住居



第45図 9号住居出土遺物2

10号住居

位置 94-K-6 グリッド 標高116.8mから117.0mの台地頂部に近い南西向き傾斜面に立地する。

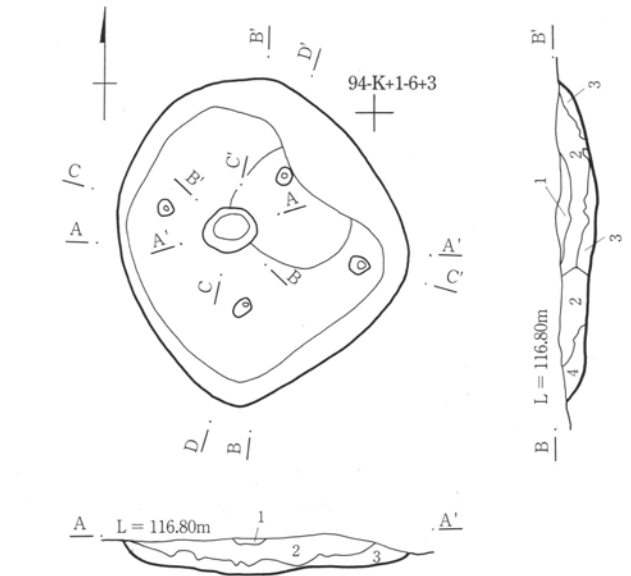
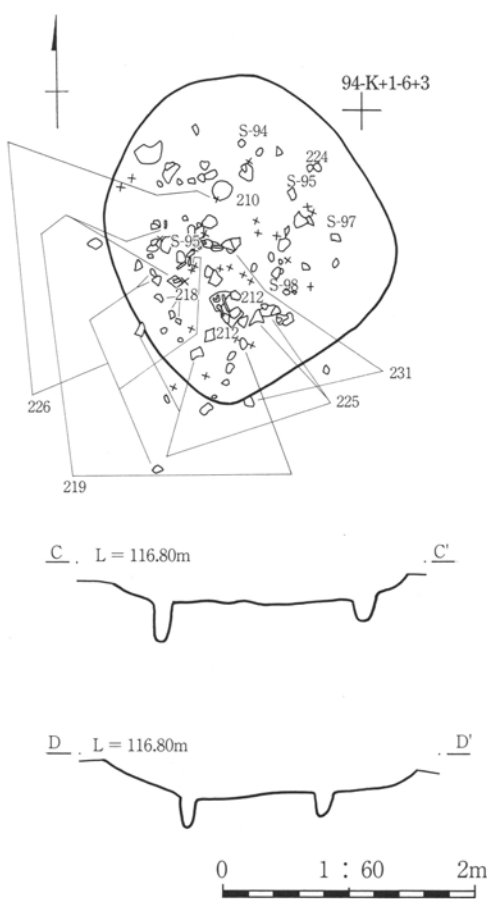
形態・規模 北西に長軸をおく隅丸方形の北西壁が張り出した変則的な形状を呈する。規模は遺構確認面では長軸2.40m、短軸2.20m、床面では長軸1.97m、短軸1.71mである。遺跡中最小の住居である。

床・壁 残存壁高は7cmから33cmである。基本的に地山ロームを床面とする。住居中央の炉から北東壁側にかけて、幅1m弱の範囲が5cmほどすり鉢状に窪んでいる。住居全体もすり鉢状で、床面は中央より周辺部の方が高く、壁もそのまま緩い角度で立ち上がる。壁周溝は全く確認できなかった。ピットは4基見つかった。ピット1長軸18cm×短軸14cm×深さ20cm、ピット2は15cm×14cm×18cm、ピット3は14cm×13cm×34cm、ピット4は14cm×11cm×25cmである。東西の1、3ピットは壁に近いが南北の2、4ピットは住居中央寄りにあり、4点を結ぶと菱形になる。4基のピットは同時に使用したのではない場合も考えられる。また4基とも細く小規模なピットであり柱穴とは別の住居内の施設である可能性も考慮したい。

炉 住居中央部やや北西よりに見つかっている。直径38cmほどのほぼ円形を呈する。炉には4～10cmほどの土器5片が10度ほど外傾した状態で二重に設置され、その両端を15cmほどの石を据えて補強した状

態であった。これらの土器片と石により炉の南側を、全周の1/2弱を囲っている。炉内は焼土粒、炭化物の破片を含む暗褐色土で覆われている。

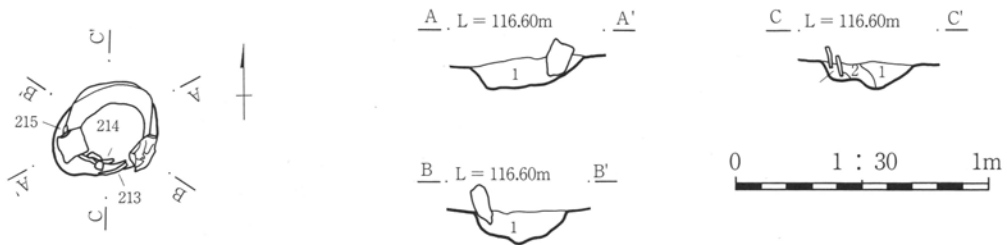
遺物出土状況 住居内覆土全体に土器片や石器が散在する。床面直上の遺物は少ない。土器片は全て加曽利E式であり、破片は多数出土したものの器形全体を復元できる土器はなかった。石器では打製石斧、砥石、二次加工のあるスクレイパー状の剥片などがある。他に炭化物では、住居覆土中位の2層からオニグルミ炭化核の破片77片が出土し、これは完形にして2, 3個分程度の量であった。



10号住居

- 1 暗褐色土 ローム混じり。ロームは斑状に見える。白い細かい軽石あり。炭片少しあり。
- 2 暗褐色土 ローム混じり。炭片が目立つ。焼土粒僅かにあり。白い細かい軽石あり。
- 2' 2に比べやや黒みが弱く炭片が少ない。
- 3 ロームに暗褐色土混じり ロームブロックあり。炭片少しあり。白い細かい軽石僅かにあり。
- 4 ロームに暗褐色土少し混じる。ロームブロックあり。白い細かい軽石僅かにあり。

第46図 10号住居遺物出土状況・平面図・高低図・土層断面図

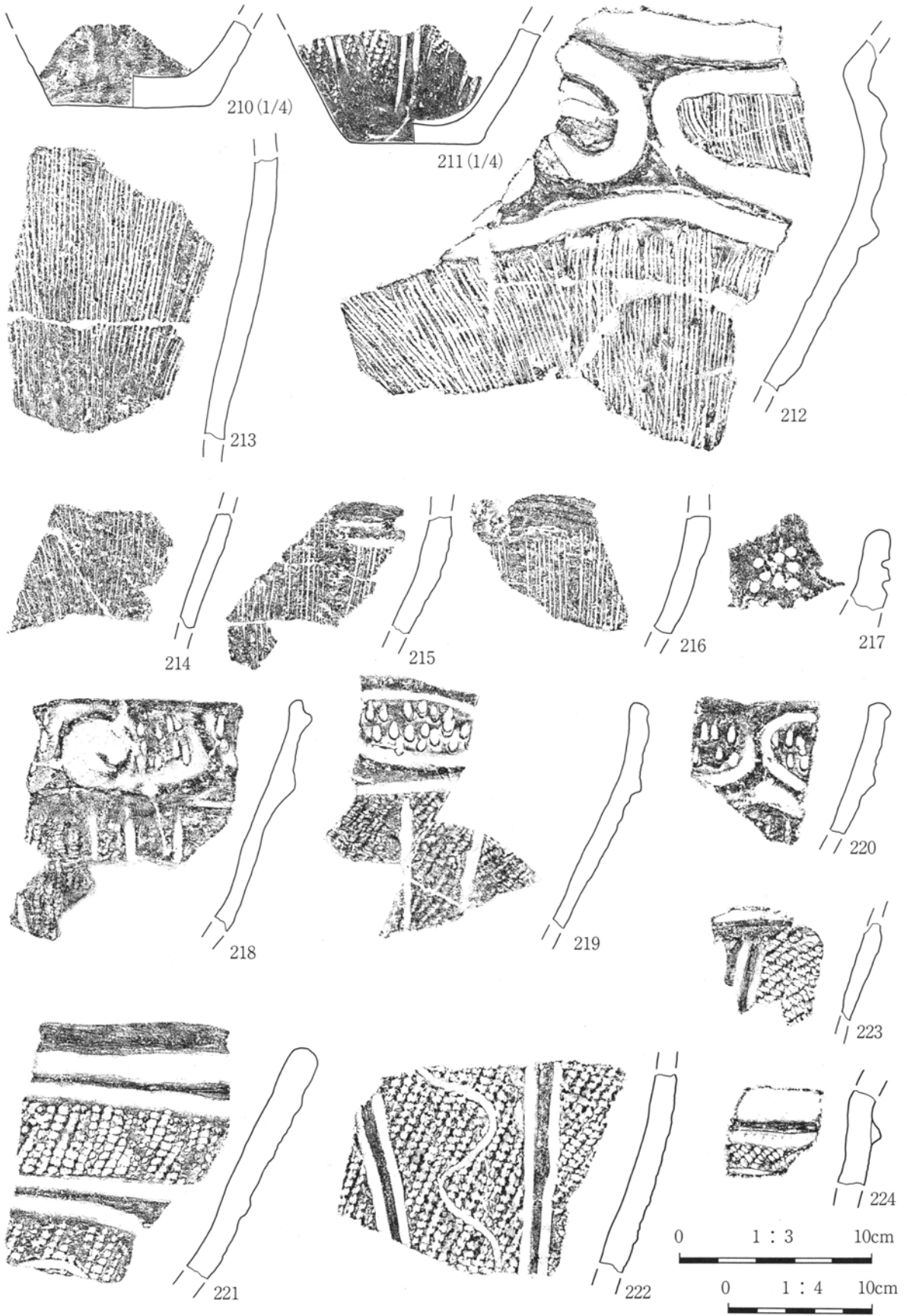


10号住居炉

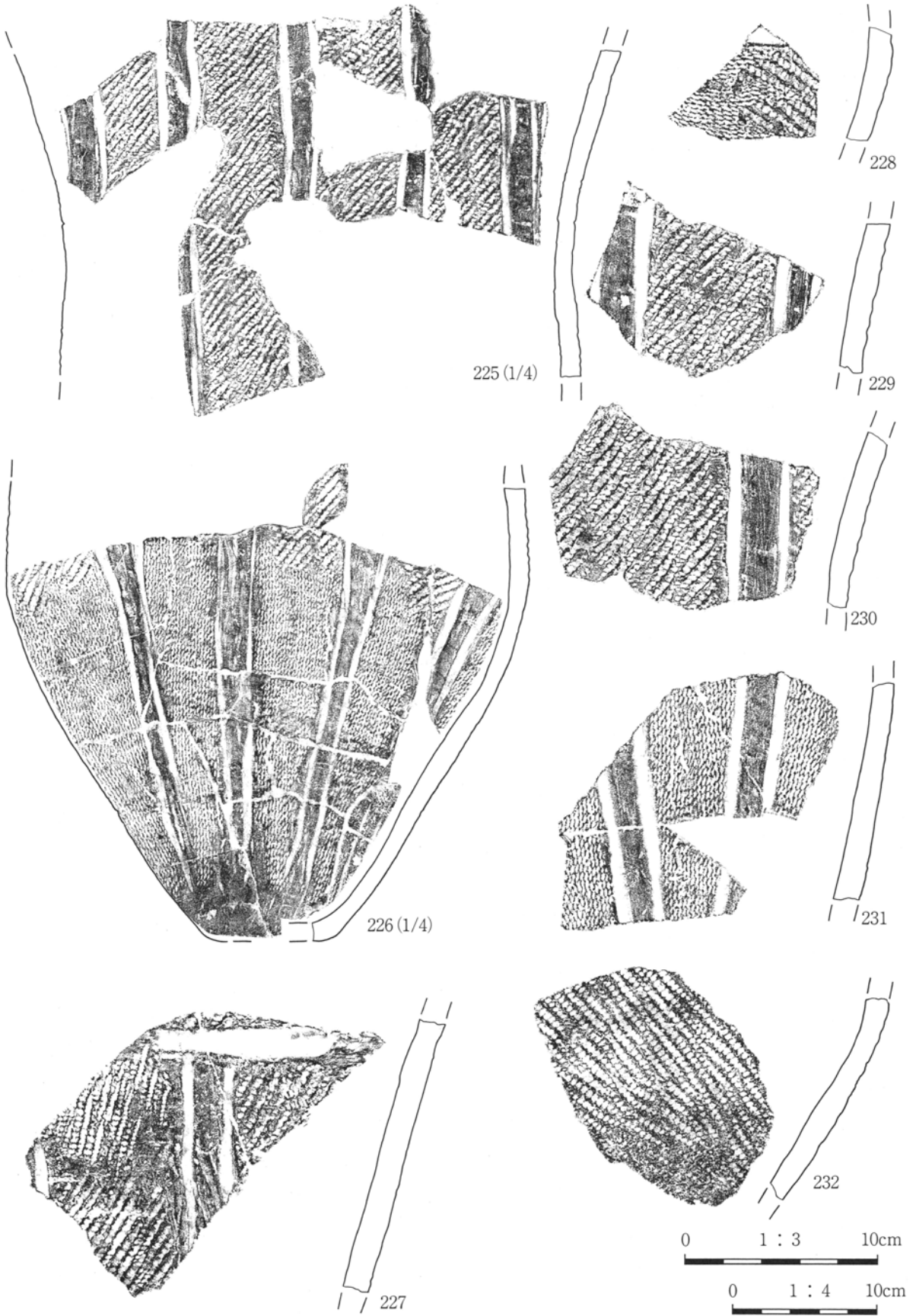
- 1 褐色土 暗褐色土、ローム混じり。炭片少しあり。白い細かい軽石少しあり。ロームブロック少しあり。
- 2 褐色土 暗褐色土、ローム混じり。1層よりやや暗い。白い細かい軽石あり。炭片あり。焼土粒少しあり。ロームブロック下位に少しあり。
- 3 暗褐色土ローム混じり。1・2層よりローム分多く明るい。小さなロームブロック少しあり。白い細かい軽石わずかにあり。混入物あまり目立たず。

第47図 10号住居 炉平面図・土層断面図

1 竖穴住居

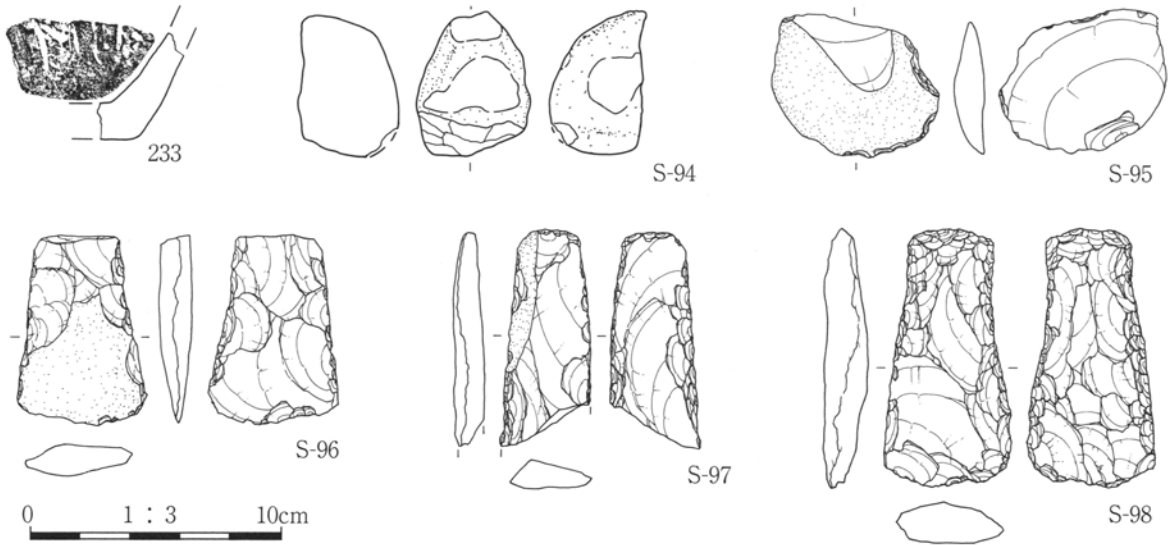


第48图 10号住居出土遺物 1



第49図 10号住居出土遺物2

1 竪穴住居



第50図 10号住居出土遺物3

14号住居

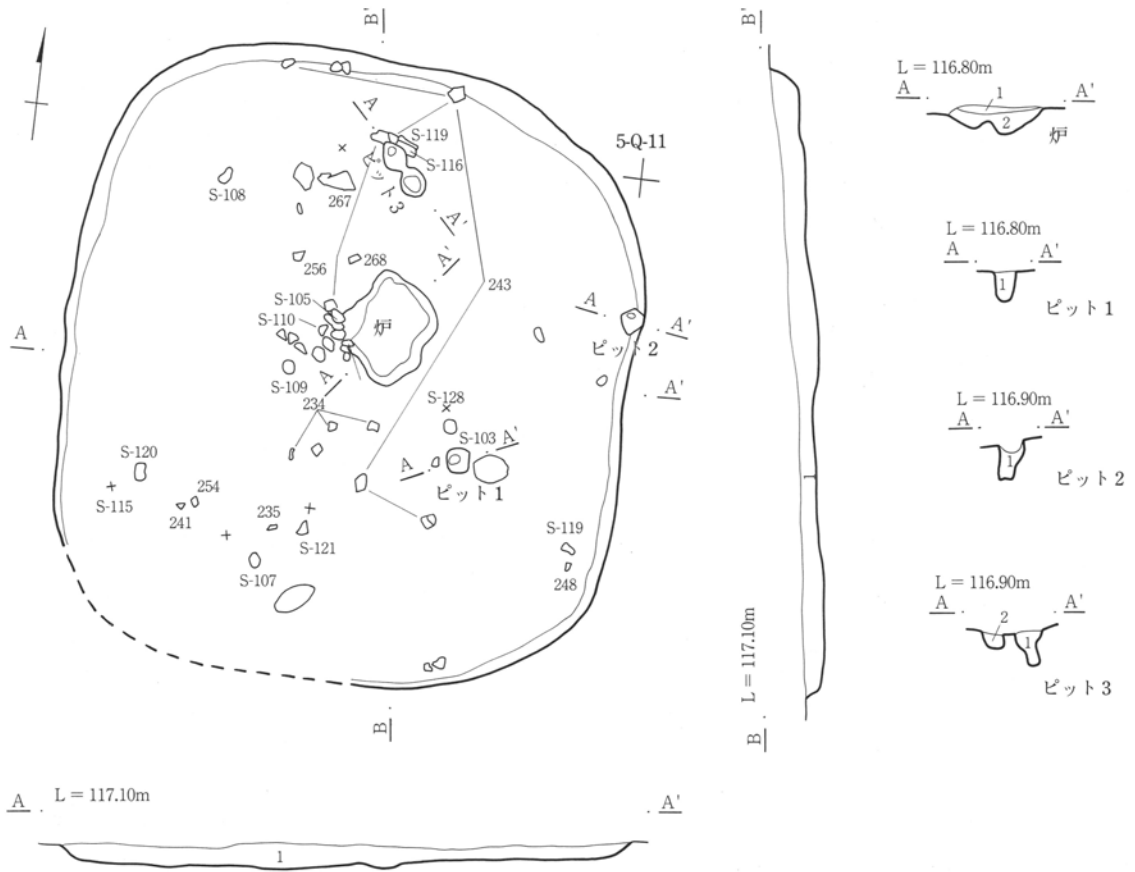
位置 5-P.Q-10.11 グリッド 標高117.1mから117.5mの台地西部の斜面上で、小さな谷の谷頭の位置に立地する。周囲を広く見ると南西向き傾斜面であるが、本住居の位置は小さな谷の谷頭であるために南向き斜面である。東壁が1号墳に関わる土坑に切られるが、遺構のレベル差があるため、住居確認面では重複していなかった。

形態・規模 南北に長軸をおく、隅丸方形を呈する。全体に隅の丸みが強く、特に北東の隅は潰れた形状である。規模は南北4.76m、東西4.33mである。

床・壁 残存壁高は7cmから25cmである。南壁中央から南西隅にかけては風倒木を切って住居が作られていた。床面は地山ロームで、平面でなく南へ下る斜面として検出された。4.7mで20cmほど下っている。壁周溝は全く見られなかった。ピットは東壁よりに2基、北壁よりに2基みつまっている。ピット1は長軸24cm×短軸21cm×深さ21cm、ピット2は21cm×19cm×26cm、ピット3は22cm×19cm×15cm、ピット4は23cm×16cm×19cmである。位置は柱穴らしくそろわず、規模も小型で浅い。柱穴以外の住居内の施設である場合も考えられる。

炉 住居中央、やや北東よりに地床炉が見つまっている。長軸90cm、短軸73cmほどの不定形を呈し、深さ11cmほどの浅い掘り込みを持つ。床面より焼土粒、炭片を少量含む褐色土で覆われていた。そして使用面の下位にさらに約40cmの掘り方を持っていた。

遺物出土状況 住居内覆土全体に遺物が散在する。土器片は全て花積下層式で、胴部文様には5号住居と同様にほぼ3つのタイプがあった。2種類の原体を交互に縦位施紋して縦羽状を構成するもの、1種類の原体を縦横に交互施紋して縦羽状を構成するもの、横位の羽状縄文を構成するものである。その中で本住居では、2種類の原体を交互に縦位施紋して縦羽状を構成するタイプと、1種類の原体を縦横に交互施紋して縦羽状を構成するタイプがともに目立った。尖底部の土器片も2点出土し、これらのタイプは底部が尖底状になると考えられる。石器では台石、磨石、砥石、打製石斧、石鏃、スクレイパー、けつ状耳飾りなどが出土している。中でも磨石は14点出土し、量の多さが顕著だった。



14号住居

1 褐色土 ローム粒非常に多く含む。

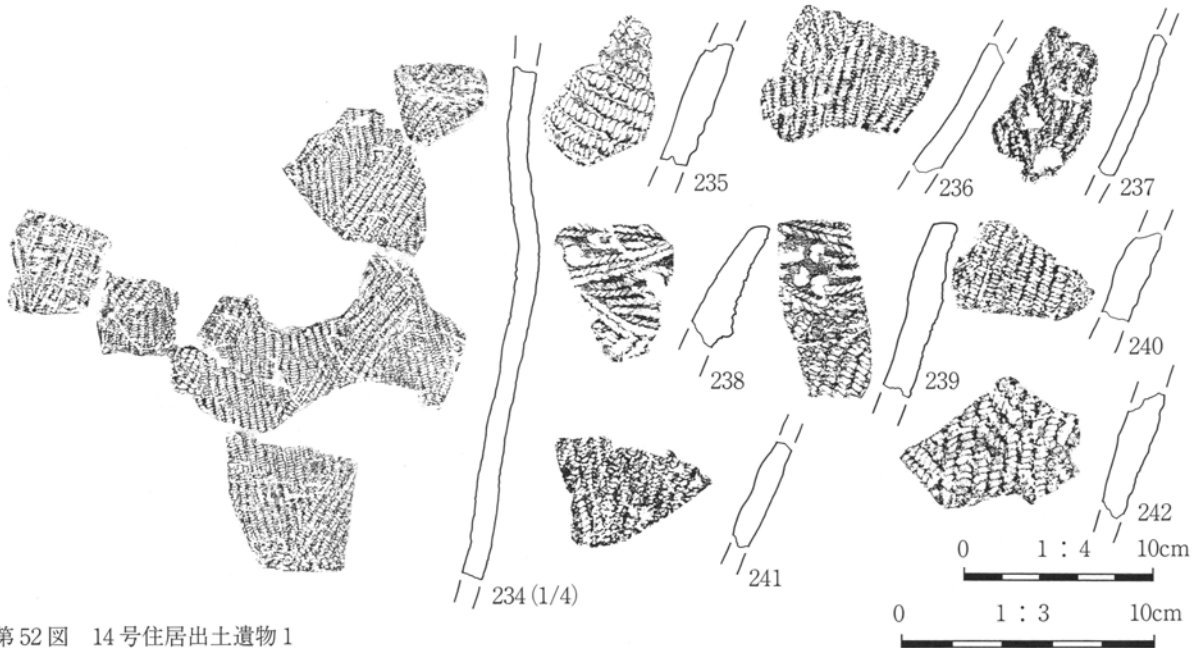
炉 1 褐色土 ロームを主体とし、焼土粒、炭化物粒少量含む。

2 暗褐色土 ロームを主体とし、焼土粒少量含む。

ピット 1 暗褐色土ロームブロック、ローム粒多く含む。

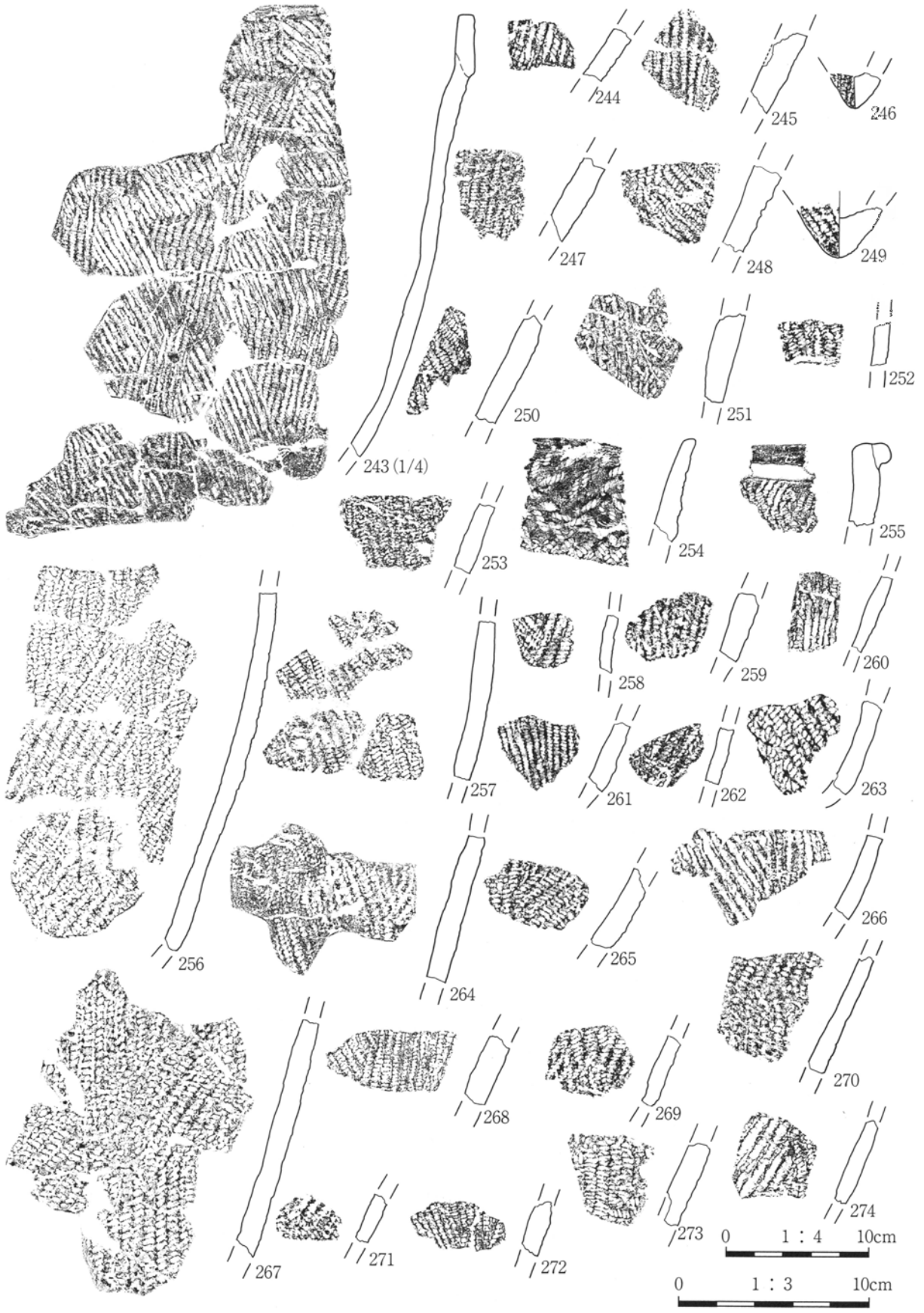
2 1に類似するが、やや多くロームブロックを含む。

第51図 14号住居平面図・土層断面図

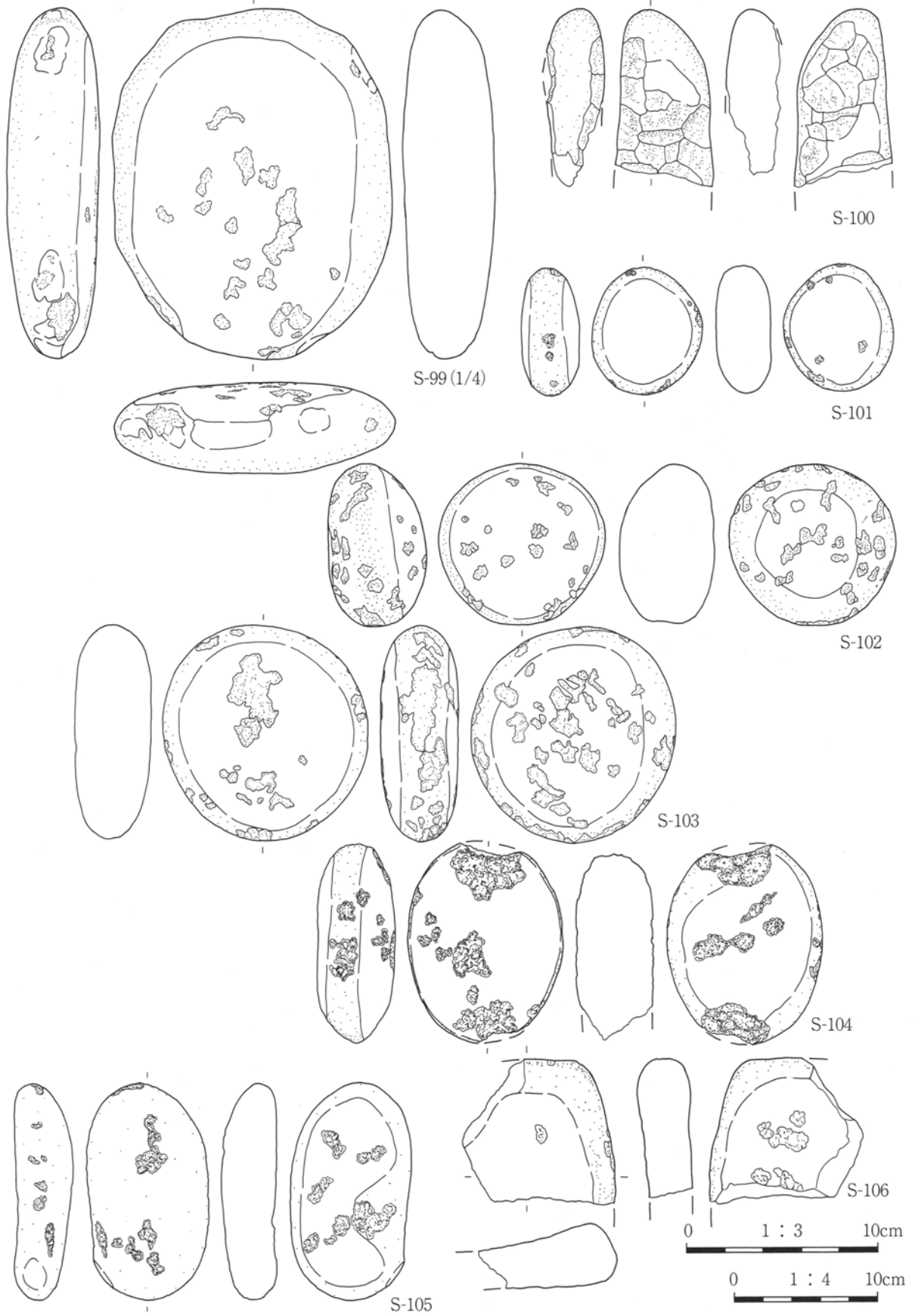


第52図 14号住居出土遺物1

1 竖穴住居

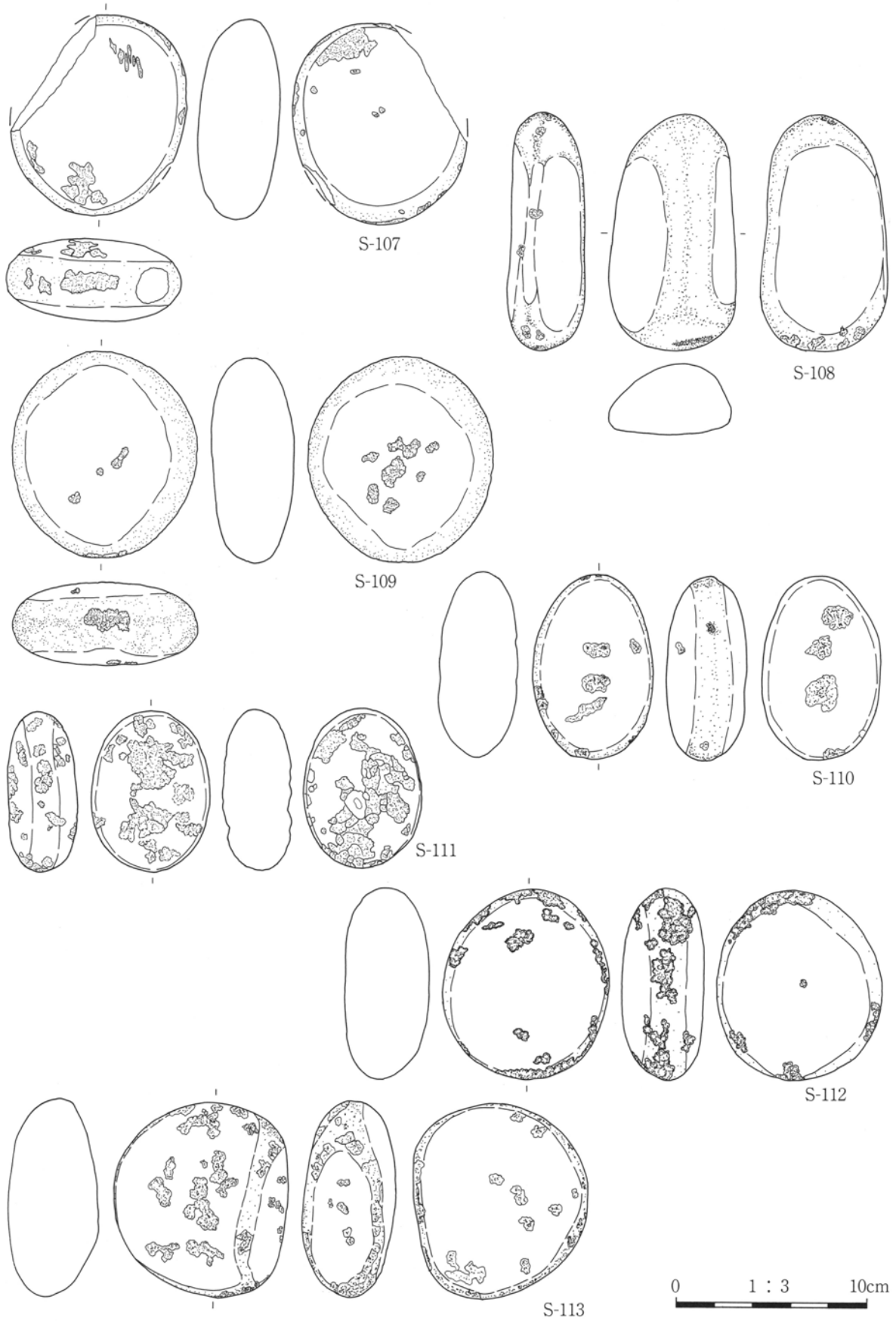


第53图 14号住居出土遺物2

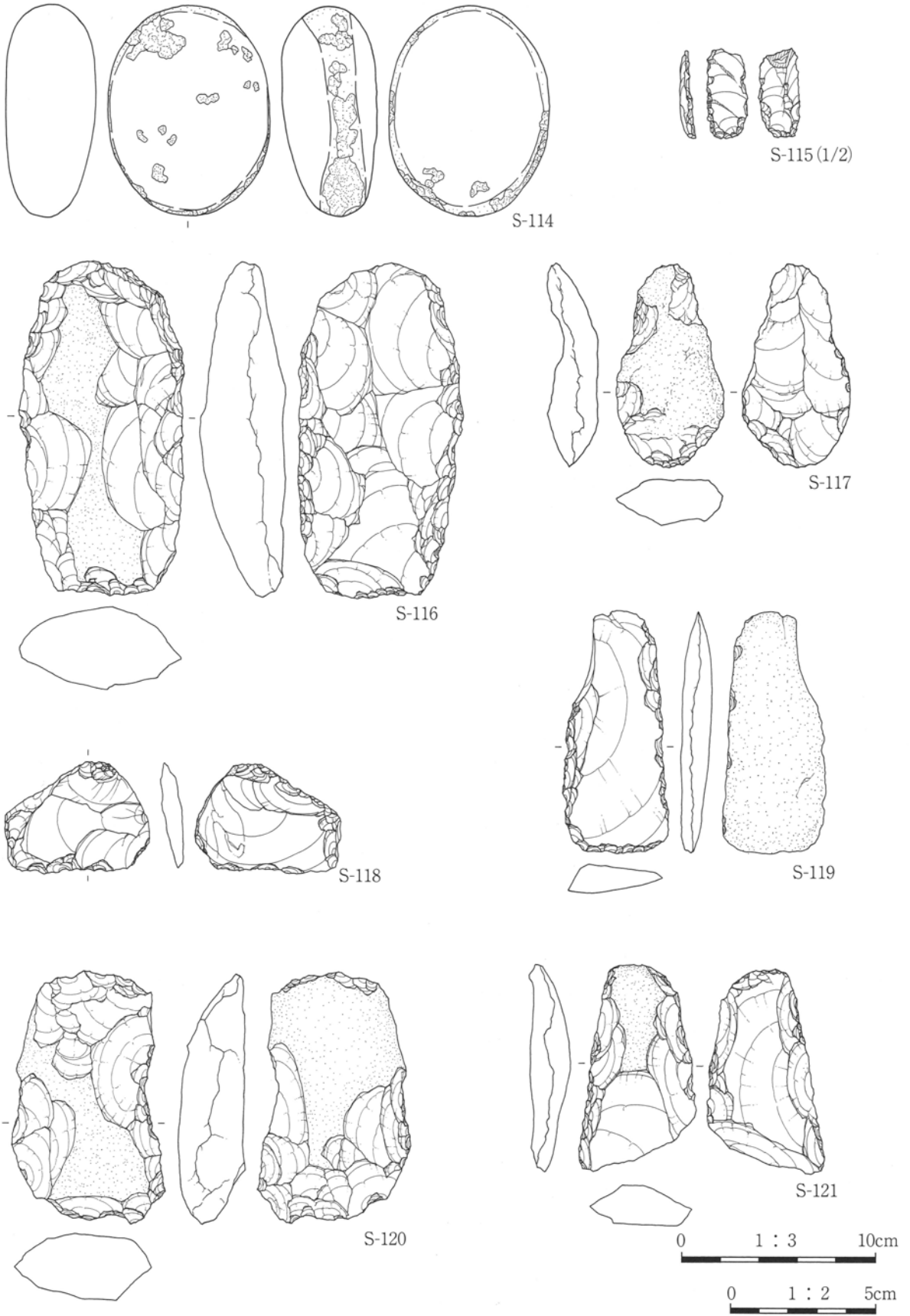


第54図 14号住居出土遺物3

1 竖穴住居

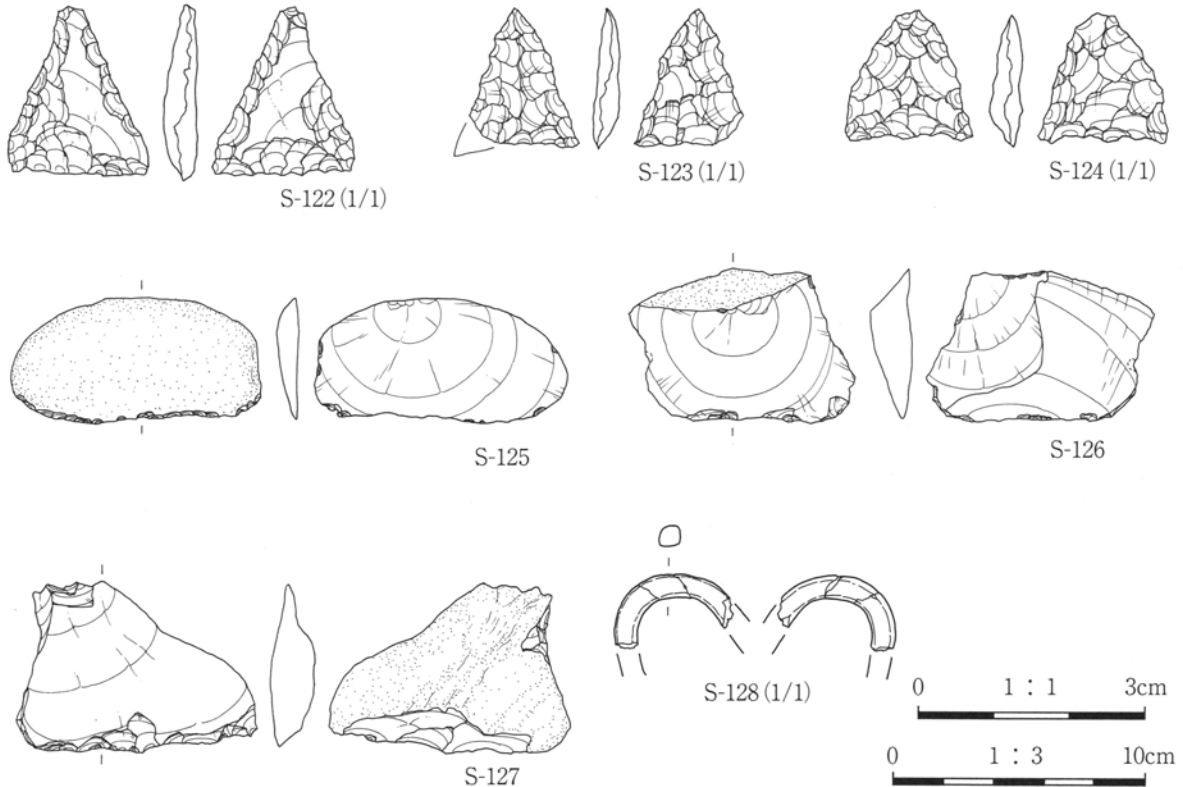


第55图 14号住居出土遺物4



第56図 14号住居出土遺物5

1 竪穴住居



第57図 14号住居出土遺物6

24号住居

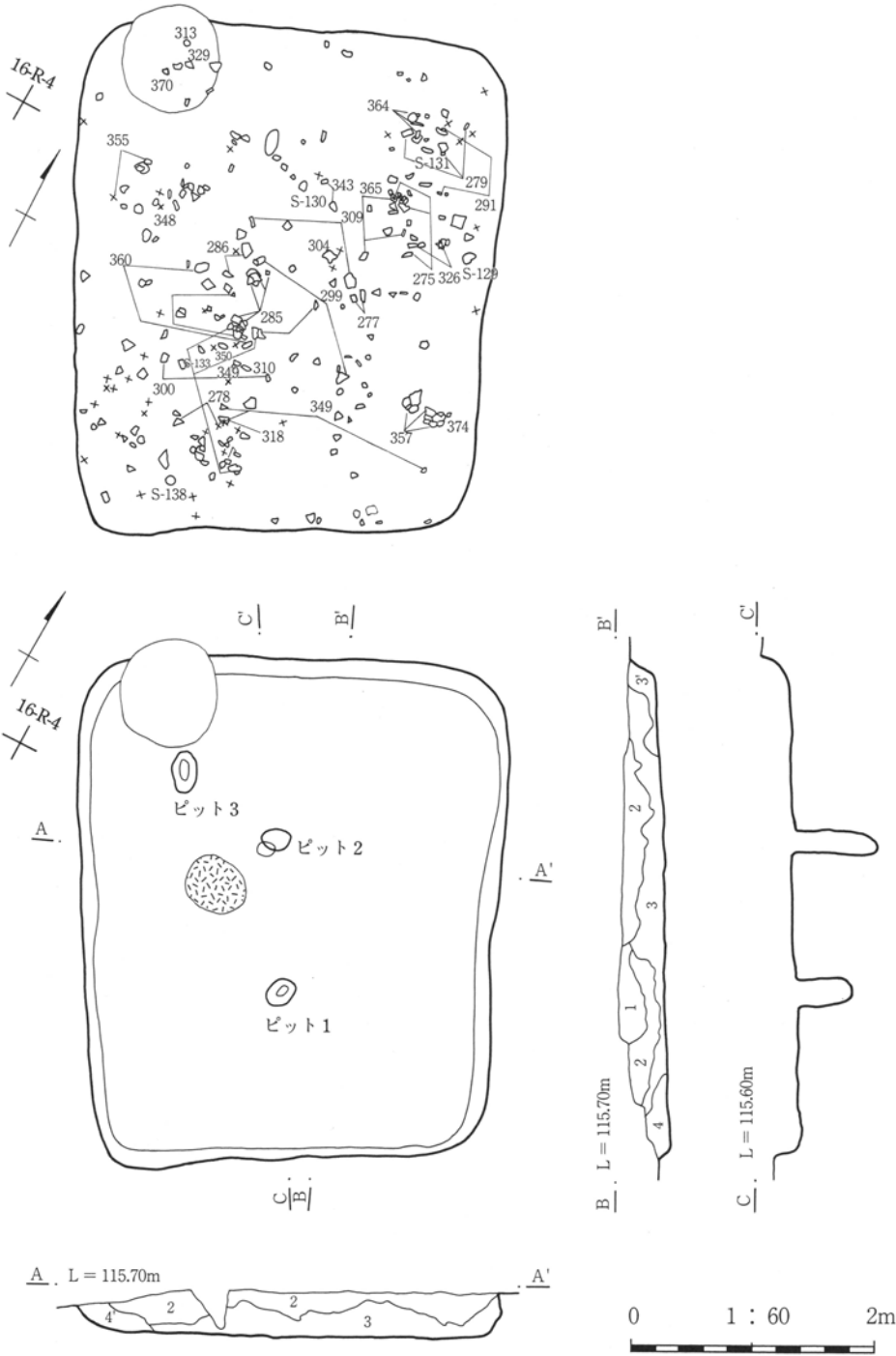
位置 16-Q-3.4グリッド 標高115.8mから116.0mの台地西の端部で低地に近い緩斜面に立地する。周囲を広く見ると南西向き傾斜面であるが、本住居の位置は小さな谷のために南東向き緩斜面である。北壁西隅近くで23号土坑を切る。

形態・規模 南北に長軸をおく、隅丸長方形を呈する。規模は南北3.86m、東西3.35mである。

床・壁 残存壁高は9cmから23cmである。地山ロームを床面とする。床面は北壁よりに比べ南壁よりは約10cm低くやや傾斜を持つ。壁周溝は全く確認できなかった。ピットは住居中央部に2基、北西部に1基検出した。いずれも床面では見つからず、床面を数cm掘り下げてから確認できた。ピット1は長軸25cm×短軸20cm×深さ45cm、ピット2は23cm×18cm×66cm、ピット3は34cm×20cm×37cmである。ピットの位置や、床面で確認できなかったことを考慮すると、柱穴ではない場合も考えられる。

炉 住居中央部の西よりに地床炉が見つかった。長軸50cm、短軸43cmほどの楕円形を呈し、深さ6cmほどの浅い掘り込みを持つ。床面より焼土混じりの土で覆われていたが、焼土は少なく確認困難な炉であった。

遺物出土状況 住居内覆土全体に土器片や石器が散在する。土器片は黒浜式がほとんどであり、わずかに諸磯a、b式土器片が出土した。土器片は多量に出土したが、細かい破片が多く、器形全体を復元できた土器はなかった。土器の文様では、付加条縄文が比較的目立って出土した。他に石器では台石、磨石、砥石、打製石斧、スクレイパーなどが出土している。S129は石皿の底部に両面から穿孔し、周囲を打ちかいた遺物と考えられるが、用途は不明である。炭化物では、住居覆土中からオニグルミ炭化核、ミズキ炭化核の破片が出土した。特にオニグルミ炭化核は69片が出土し、完形にして2個分前後の量であった。

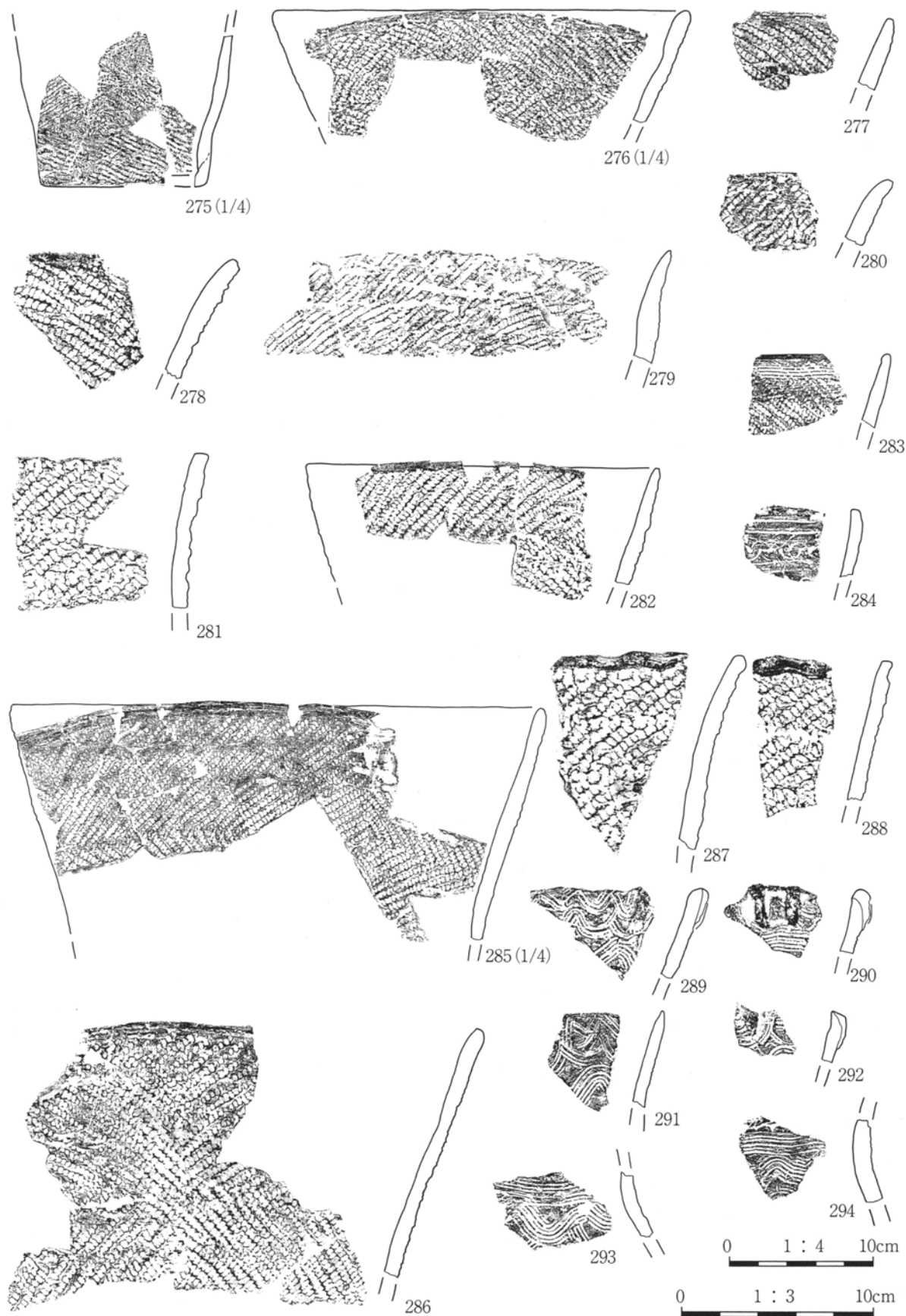


24号住居

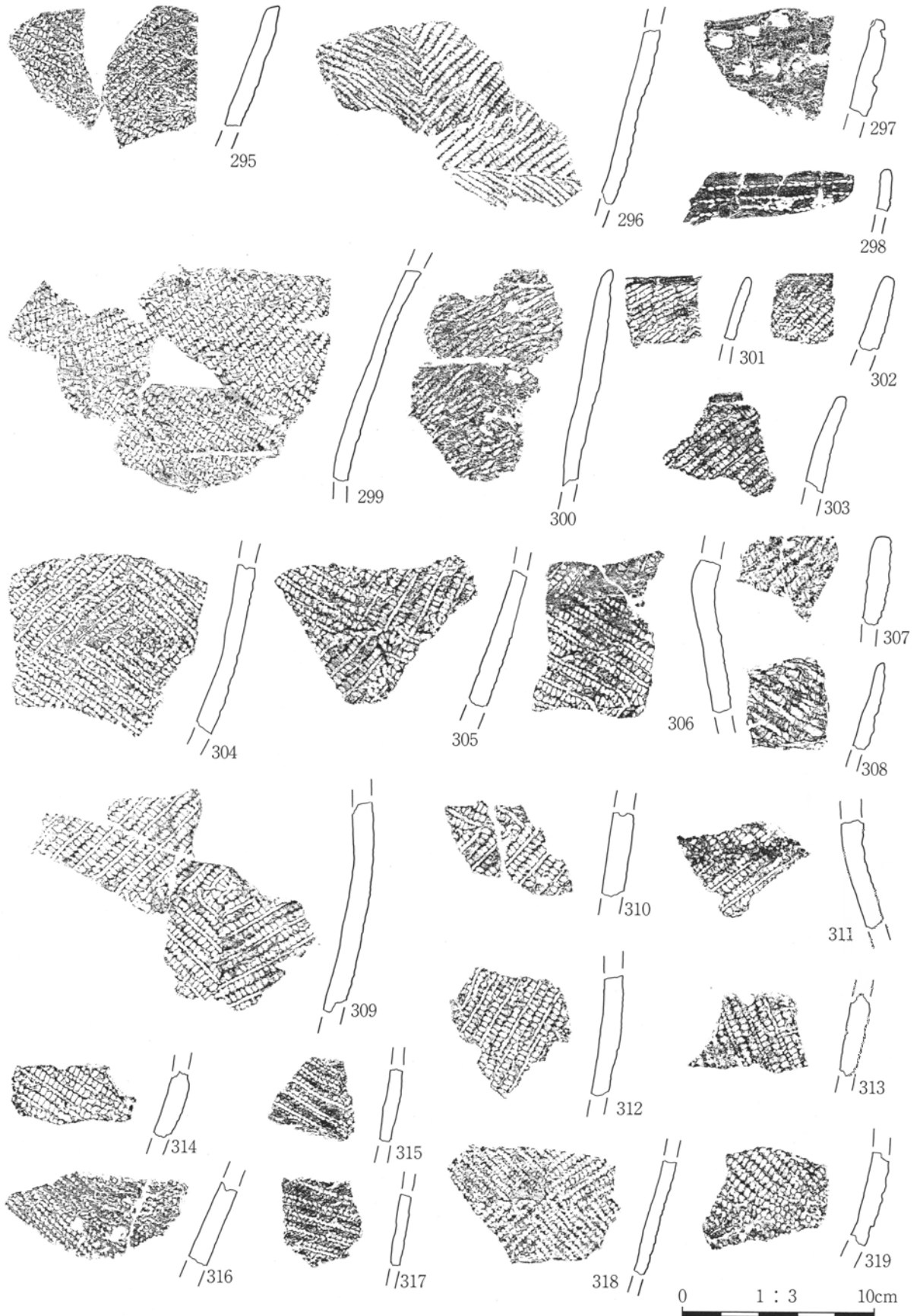
- 1 暗褐色土 暗褐色土、ローム混じり。ロームはまだらに見える。白い細かい軽石、As-YPらしき軽石あり。小さな炭片少しあり。やや軟質。
- 2 暗褐色土 暗褐色土、ローム混じり。ロームはまだらに見える。白い細かい軽石あり。As-YPらしき軽石少しあり。炭片目立つ。
- 3 暗褐色土 暗褐色土、ローム混じり。ロームはまだらに見える。白い細かい軽石あり。ロームブロック少しあり。細かな炭片少しあり。
- 3' 褐色土 3に近いがややローム分多く明るい。炭片はほとんどなし。
- 4 暗褐色土 暗褐色土、ローム混じり。ロームはまだらに見える。白い細かい軽石あり。炭片ほとんどなし。3層やや暗くローム分少い。
- 4' 4に近いが締まりよし。As-YPを含むブロックあり。

第58図 24号住居遺物出土状況 平面図・土層断面図

1 竖穴住居

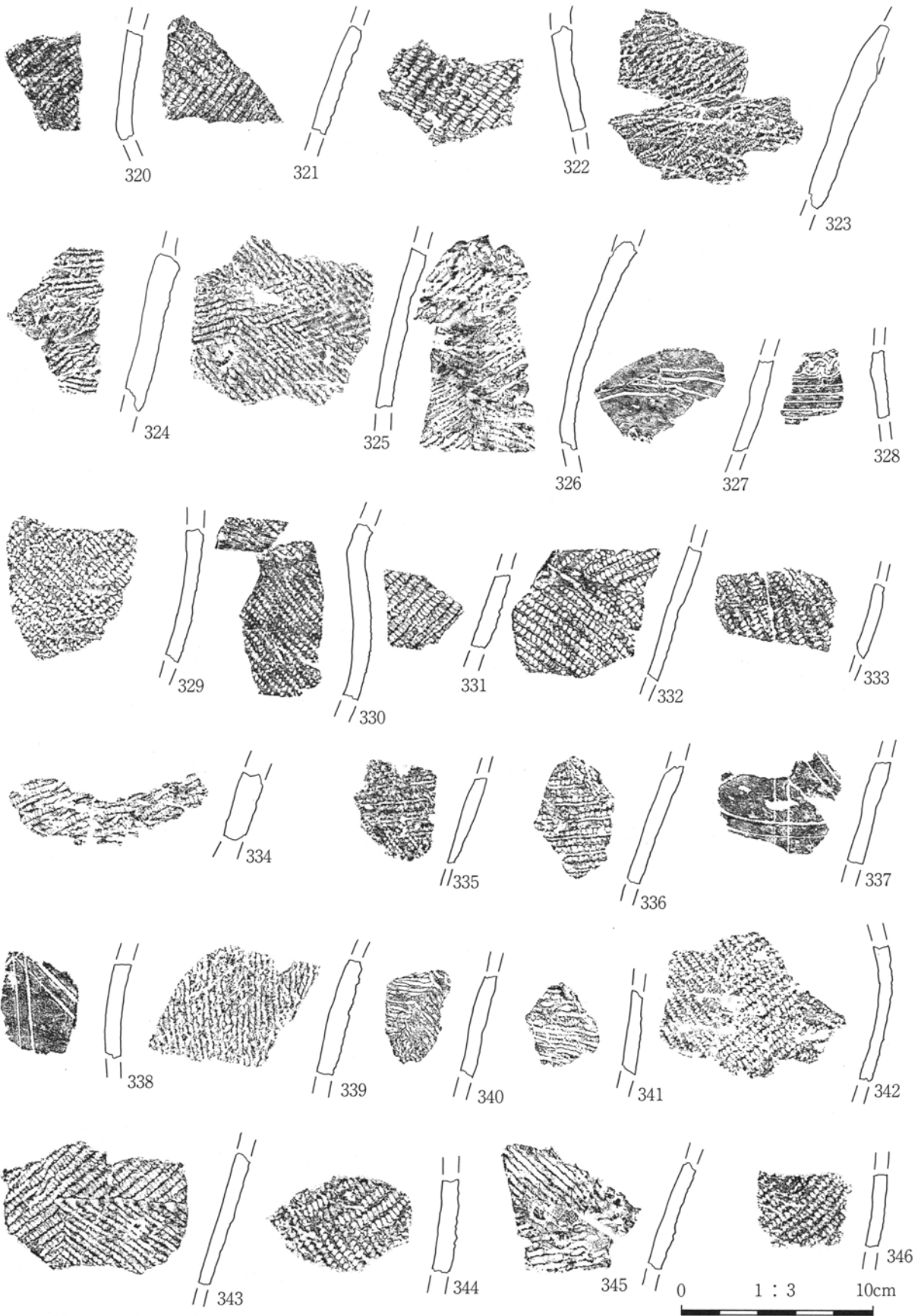


第59图 24号住居出土遺物1

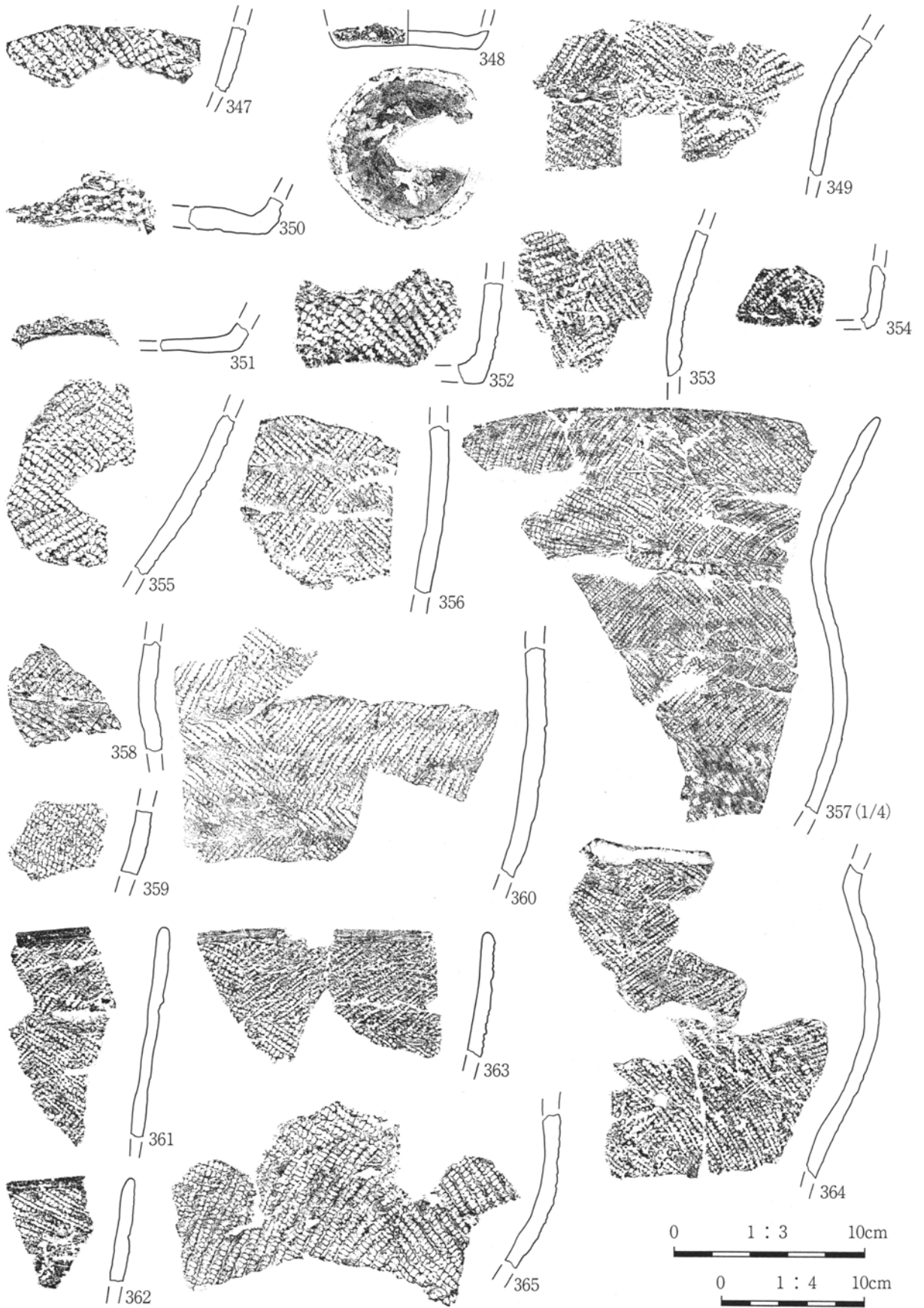


第60図 24号住居出土遺物2

1 竖穴住居

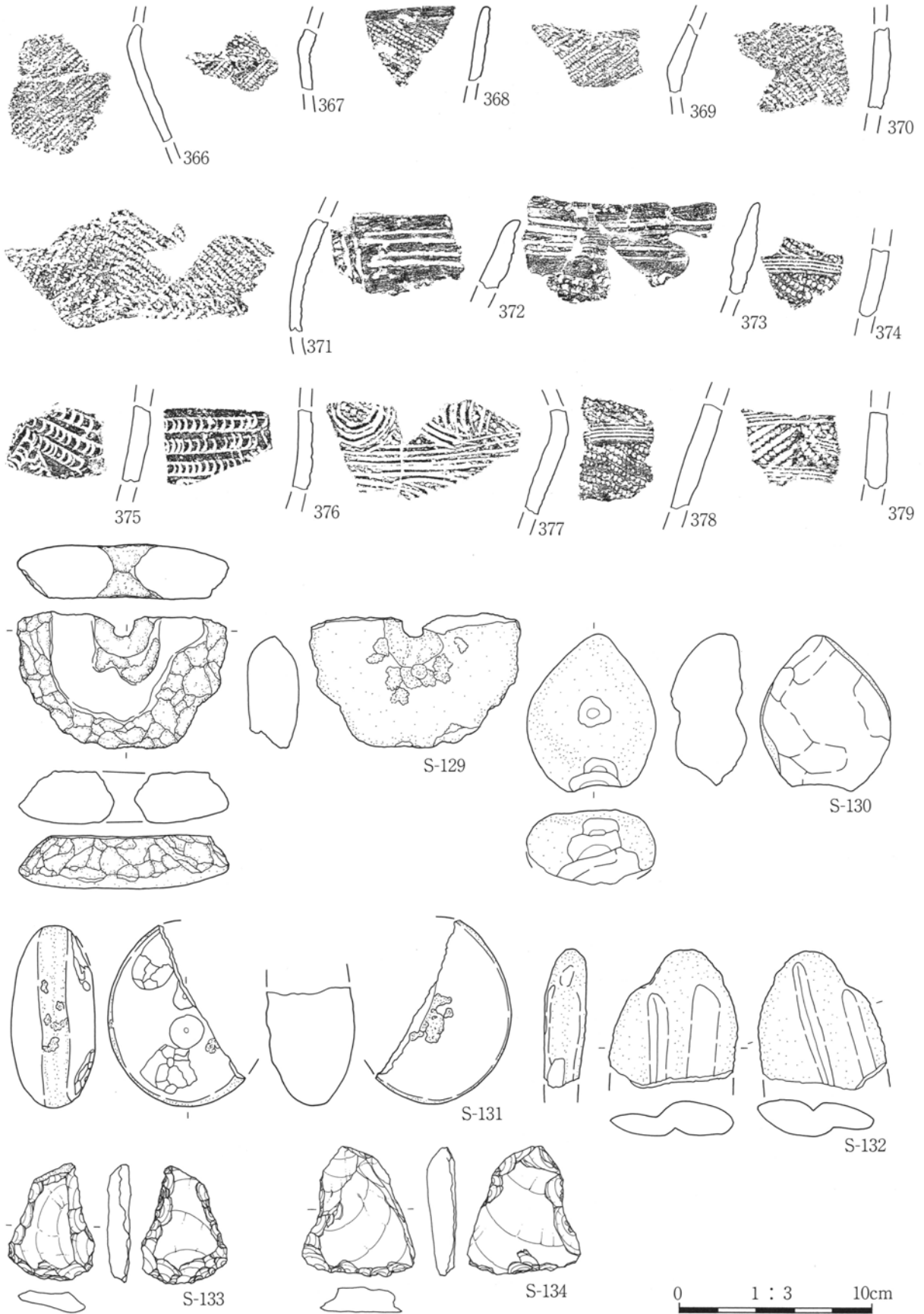


第61图 24号住居出土遺物3

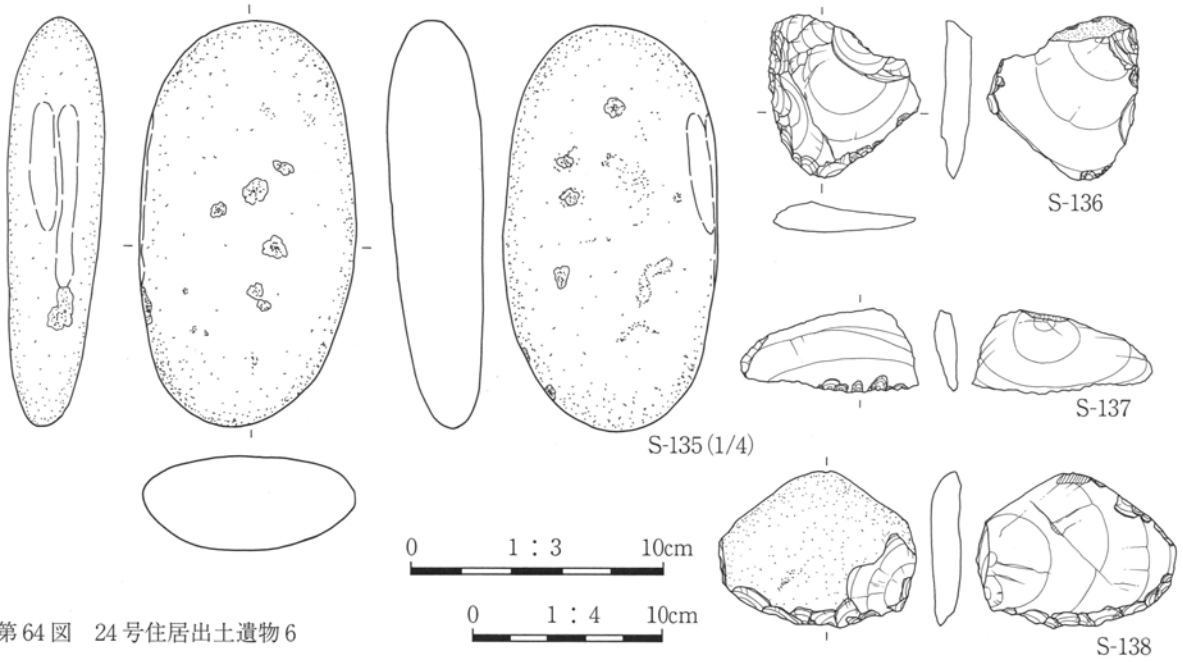


第62図 24号住居出土遺物4

1 竖穴住居



第63图 24号住居出土遺物5



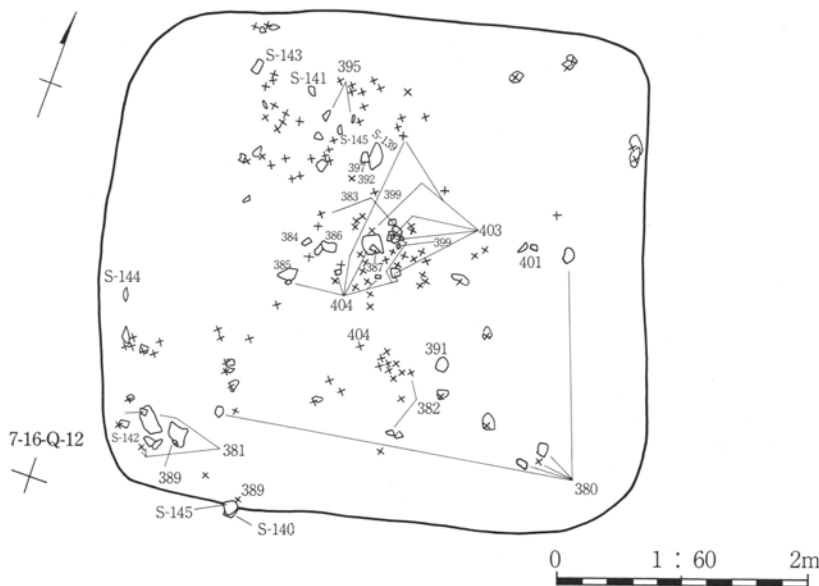
第64図 24号住居出土遺物6

25号住居

位置 16-P.Q-2グリッド 標高115.5mから115.7mの台地西の端部で低地に近い緩斜面に立地する。周囲を広く見ると南西向き傾斜面であるが、本住居の位置は小さな谷のために南東向き緩斜面である。住居中央部の南東よりを124号土坑に切られる。南壁東よりを119号土坑に切られる。

形態・規模 東西に長軸をおく、隅丸方形を呈する。規模は東西4.01m、南北3.72mである。

床・壁 残存壁高は9cmから25cmである。地山ロームを床面とする。24号住居と同様に、床面は北壁よりに比べ南壁よりは約10cm低くやや傾斜を持つ。壁周溝は全く確認できなかった。ピットは住居中央部に2基、北壁よりの中央部に1基検出した。ピット1は長軸29cm×短軸18cm×深さ43cm、ピット2は13cm×12cm×41cm、ピット3は20cm×19cm×28cmである。ピット1、2は床面で確認できなかった。

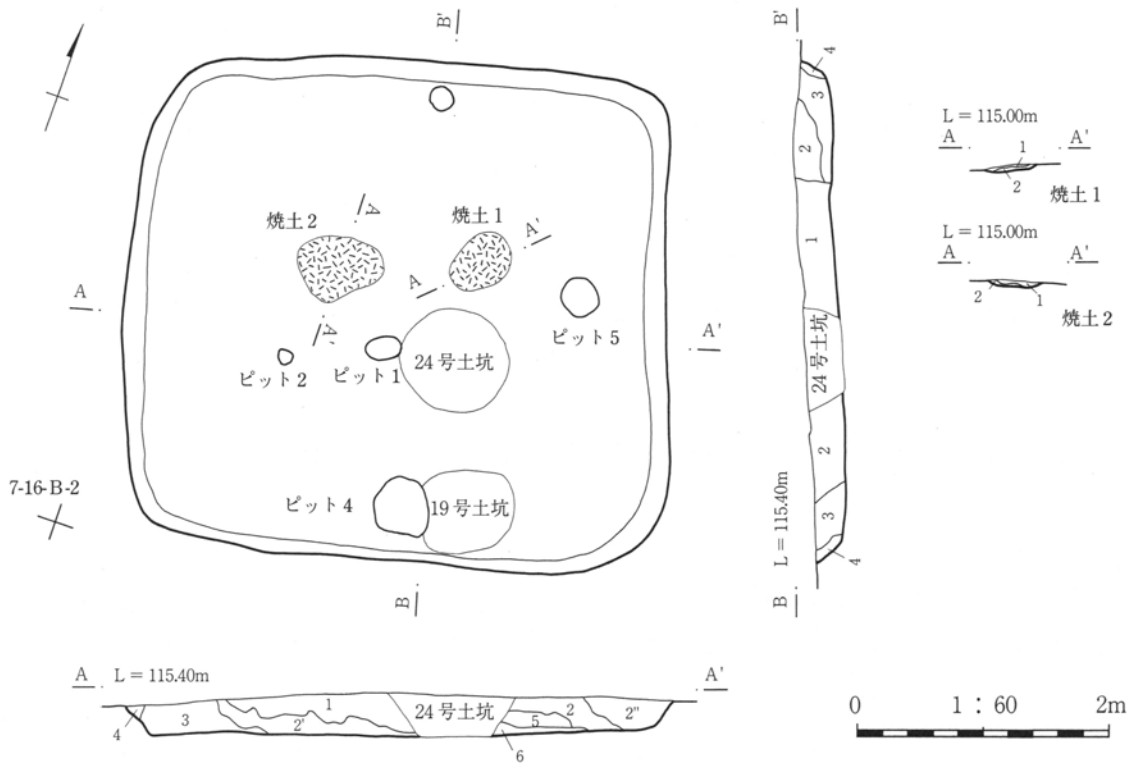


第65図 25号住居遺物出土状況

1 竪穴住居

炉 住居中央部の北東よりと、中央部の北西よりの2カ所で見つっている。北東よりの炉は地床炉である。長軸53cm、短軸41cmほどの楕円形を呈し、深さ3cmほどの掘り込みを持つ。床面より焼土粒、焼土ブロックを含む土で覆われていた。この土壌を分析したところ、オニグルミ炭化核2片が見つっている。北西よりの炉も地床炉である。長軸70cm、短軸55cmほどの不定形を呈する。4cmほどの深さの掘り込みがあり、床面より焼土粒、焼土ブロックが目立ち、炭片を少量含む土で覆われていた。この炭片を同定した結果、オニグルミの炭化核5片、ミズキの炭化核3片が見つっている。

遺物出土状況 住居の中央より出土遺物が目立った。南西隅以外の周辺部は遺物が少なかった。土器片は有尾式、黒浜式で、無節の原体で羽状縄文を構成するタイプの文様が比較的目立った。他に石器では台石、磨石、打製石斧、スクレイパーなどが出土している。



25号住居

- 1 暗褐色土 ローム混じり。ロームはまだらに見える。白い細かい軽石あり。炭片少しあり。
- 2 褐色土 ローム混じり。まだらに見える。ローム1より多い。白い細かい軽石は1より少ない。細かい炭片は1よりやや目立つ。
- 2' 褐色土2層から続くと思われるが、ローム、ロームブロック多く含み、明るい。
- 2'' 暗褐色土2に近い土であるがやや黒みが強い。
- 3 暗褐色土 ローム混じり。1に比べ白い細かい軽石は少なくやや軟質。
- 4 褐色土 ローム混じり。ロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒少し混じる。白い細かい軽石あり。As-YP少しあり。1に近いがやや暗い。
- 6 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。締まりよし。

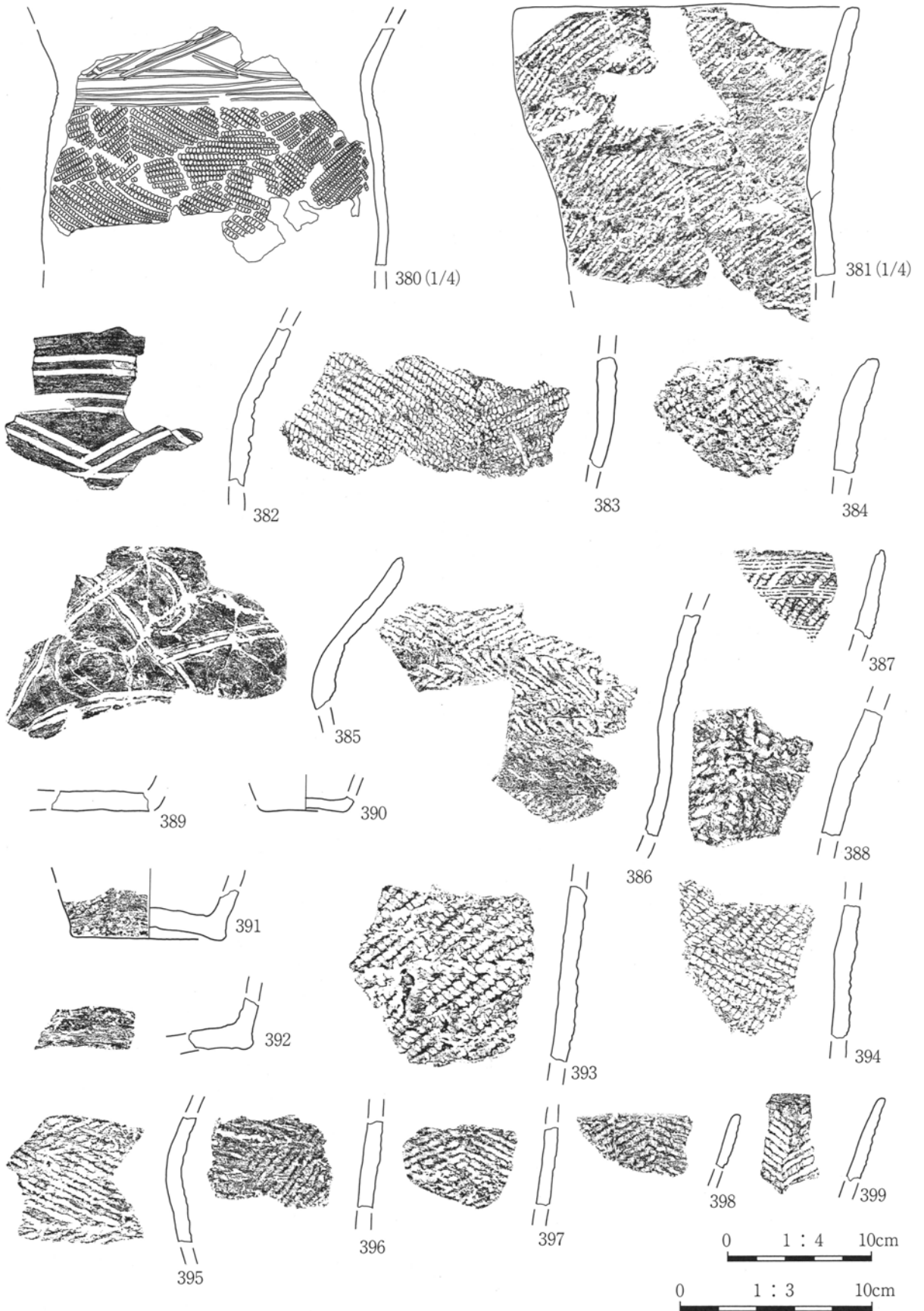
焼土1

- 1 褐色土 暗褐色土、ローム混じり。焼土粒、焼土ブロックを含む。白い細かい軽石あり。
- 2 褐色土 ローム、暗褐色土混じり。焼土粒、焼土ブロックを含む。As-OP1、As-YPらしき軽石あり。

焼土2

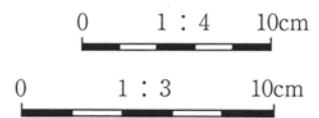
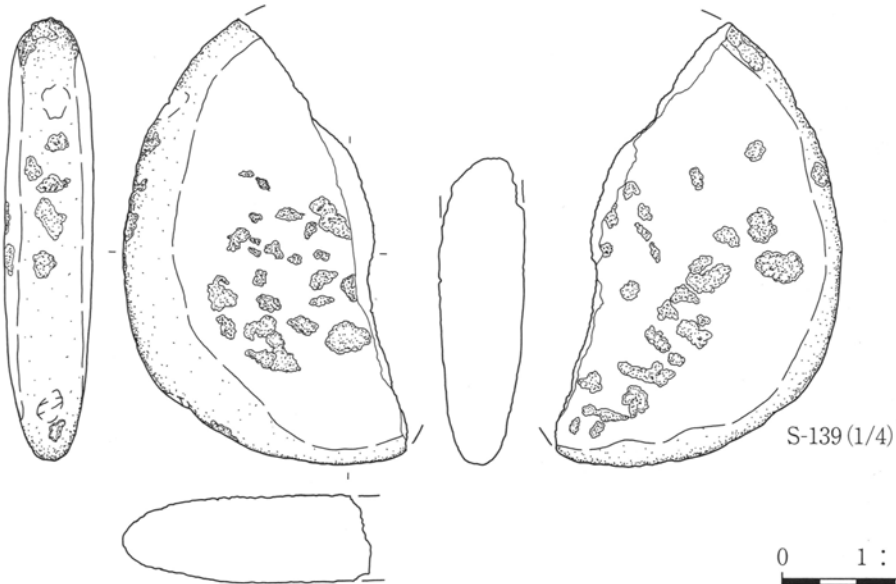
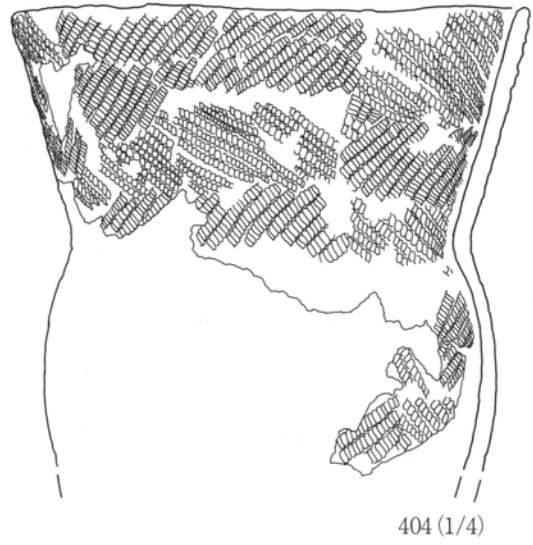
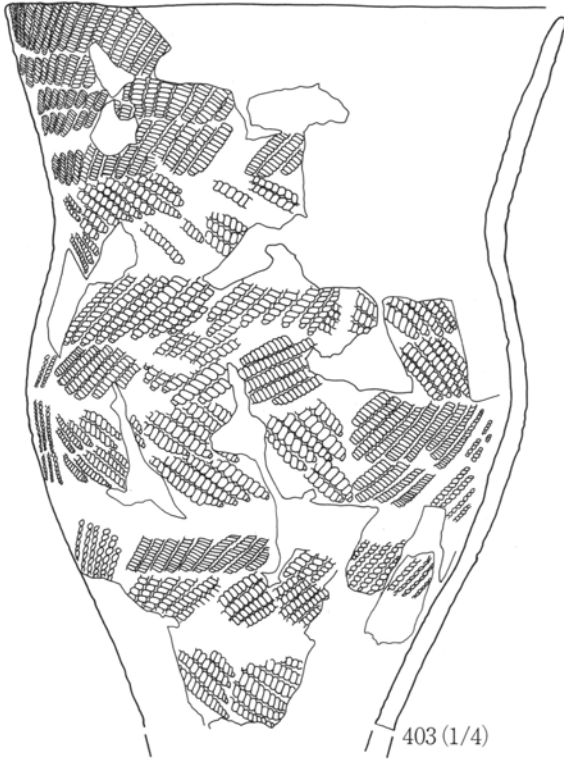
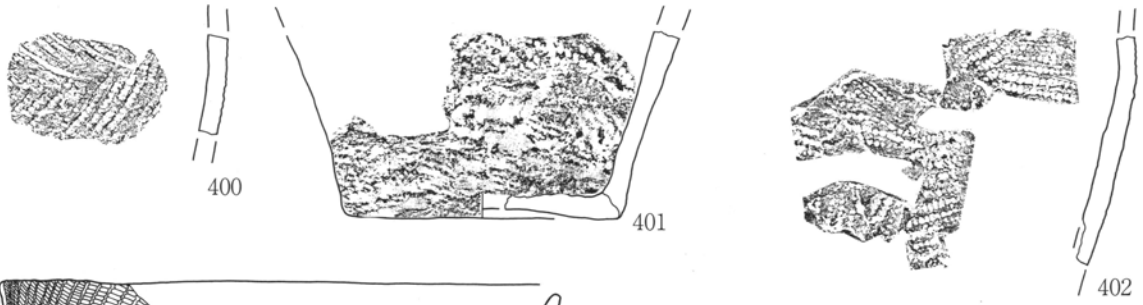
- 1 暗褐色土 ローム混じり。焼土粒を含む。白い細かい軽石あり。炭片少しあり。
- 2 明褐色土 ローム、暗褐色土混じり。焼土粒、焼土ブロックを含む。炭片少しあり。

第66図 25号住居平面図・土層断面図

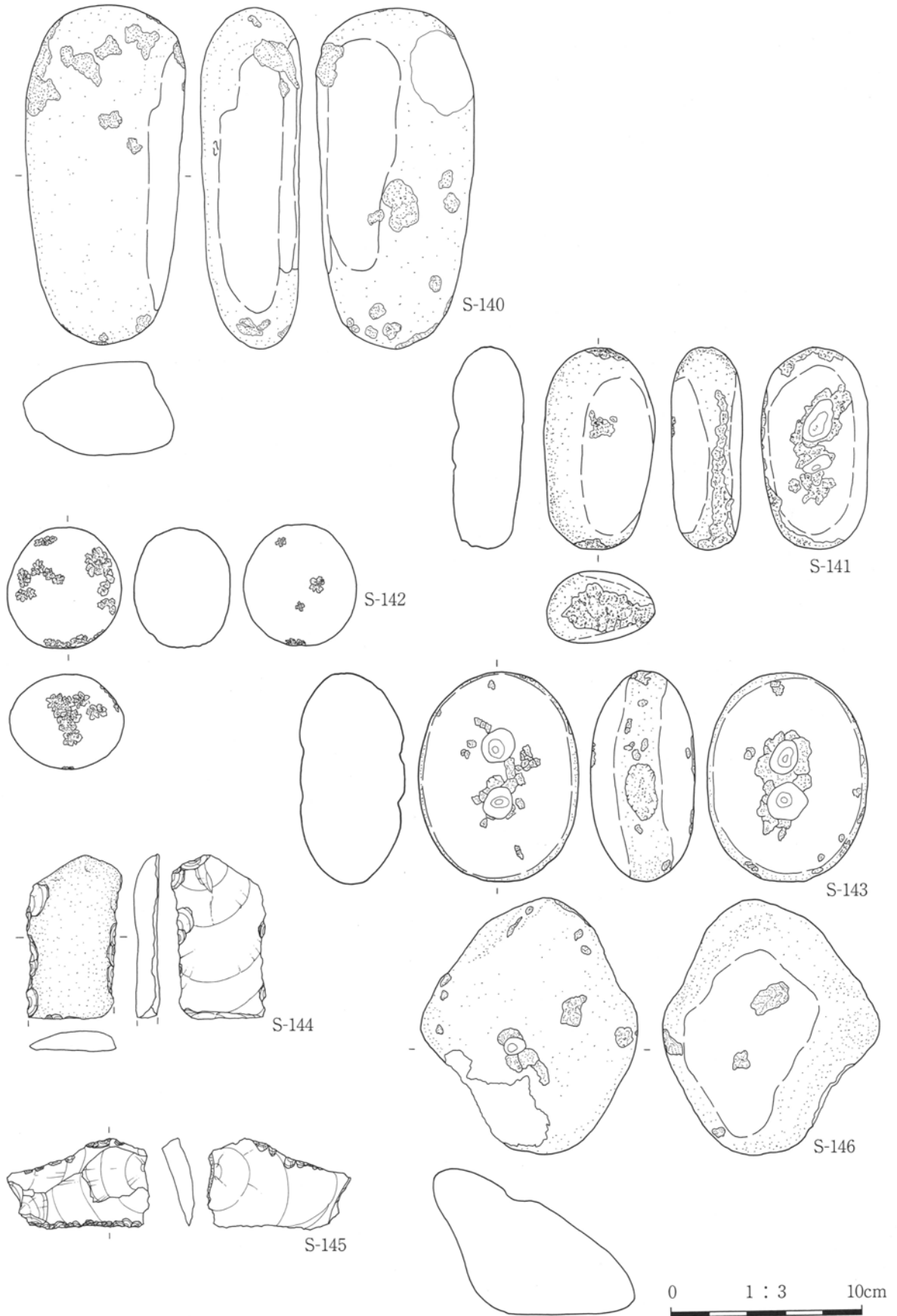


第67図 25号住居出土遺物1

1 竖穴住居



第68图 25号住居出土遺物2



第69図 25号住居出土遺物3

1 竪穴住居

26号住居

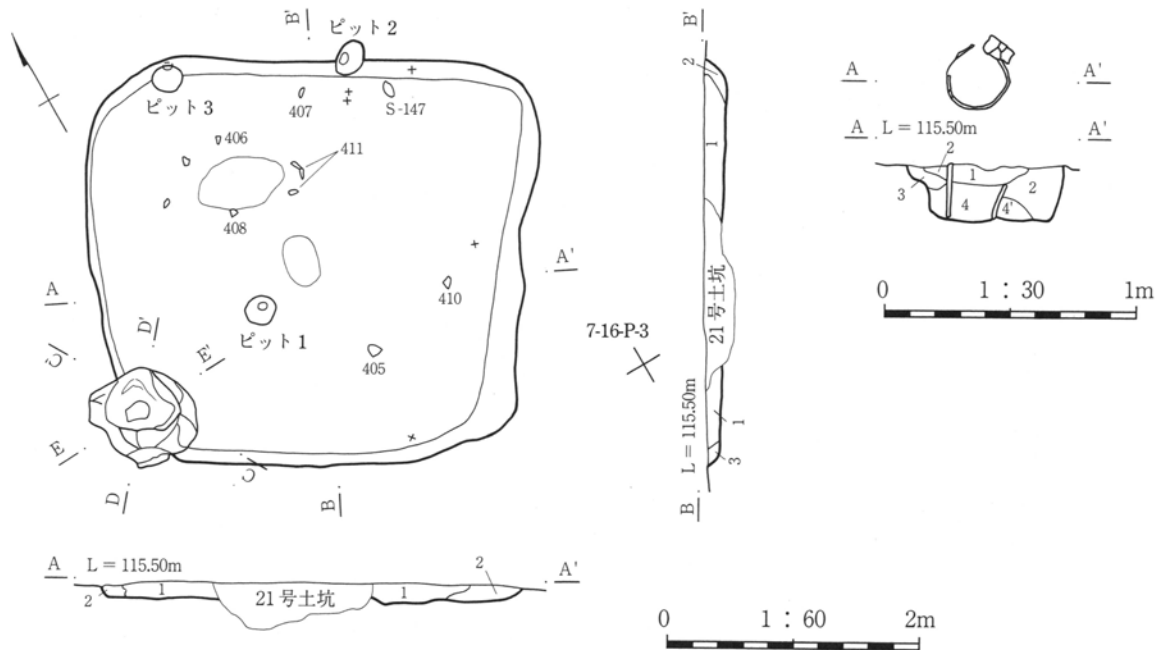
位置 16-O.P-3グリッド 標高115.5mから115.7mの台地西の端部で低地に近い緩斜面に立地する。周囲を広く見ると南西向き傾斜面であるが、本住居の位置は小さな谷のために南東向き緩斜面である。住居の中央南よりを121号土坑に切られる。

形態・規模 東西に長軸をおき、南壁より北壁が長い隅丸台形を呈する。規模は東西3.36m、南北2.95mである。

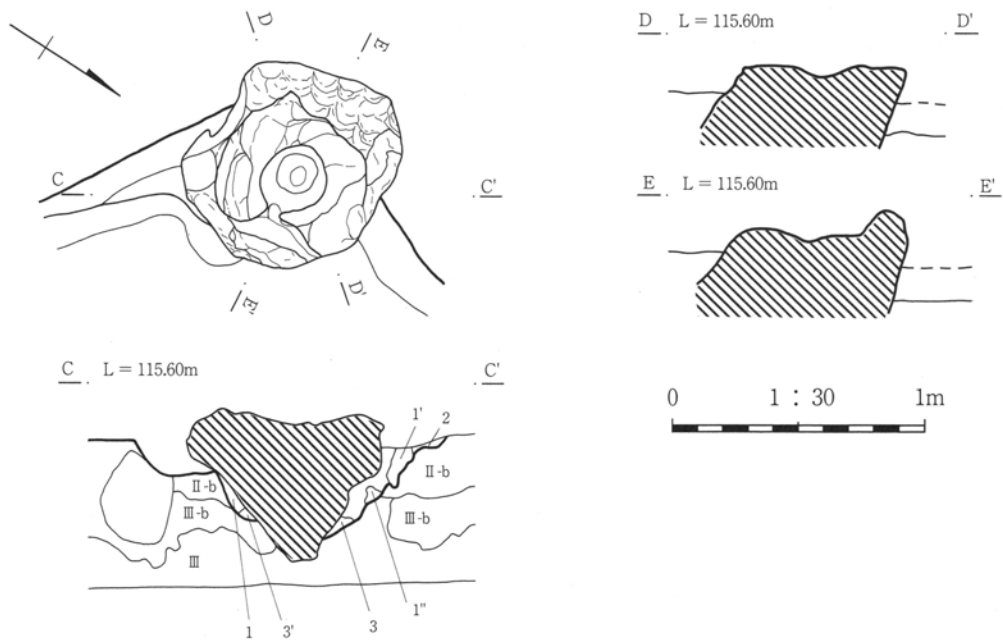
床・壁 残存壁高は8cmから19cmである。基本的に地山ロームを床面とする。壁周溝は全く見られなかった。ピットは住居中央部に1基、北壁上に2基検出した。ピット1は長軸25cm×短軸22cm×深さ70cm、ピット2は28cm×20cm×52cm、ピット3は25cm×22cm×43cmである。ピット2、3はその位置や覆土の様子からみて、住居に伴わない別の遺構の可能性も考えられる。

炉 住居の中央北よりと、中央部の2カ所で見つっている。中央北よりの炉は埋甕炉である。直径約25cmで無節の羽状縄文が施された深鉢が設置されていた。現高約21cmで底部は完全に欠損しているが、口縁部は1/4ほど残存している。炭片を含む暗褐色土で覆われており、この炭片を同定したところ、おそらくオニグルミ炭化核の破片だろうという結果であった。住居中央部の炉は地床炉と思われ、長軸40cm、短軸27cmほどの楕円形を呈する。南側は121号土坑により壊されているが、床面より焼土粒が目立つ土で覆われていた。

遺物出土状況 住居内に土器片や石器が散在するが、その量は少なく、床面直上の遺物も見られない。土器片は黒浜式が主体である。他に石器では磨石、スクレイパーなどが出土している。住居の南西隅には、約80cmの巨石が据えられ、その上面の中央部が石皿のように摩耗していた。現地はローム台地でも特に谷に近い地点であり、地山ローム中にはこうした石がしばしば含まれていた。この石は300kgほどあると思われ、人力で持ち上げることはかなり困難であるが、大人3人で転がして移動させることはできた。竪穴住居掘削中に出土した巨石を、住居隅に据え直して利用したのではないかと考えられる。



第70図 26号住居平面図・土層断面図 炉平面図・土層断面図



26号住居

- 1 暗褐色土 ローム混じり。ロームはまだらに入って見える。白い細かい軽石あり
- 2 褐色土 ローム、暗褐色土混じり。白い細かい軽石あり。ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 ローム混じり。白い細かい軽石ほとんどなし。やや軟質。

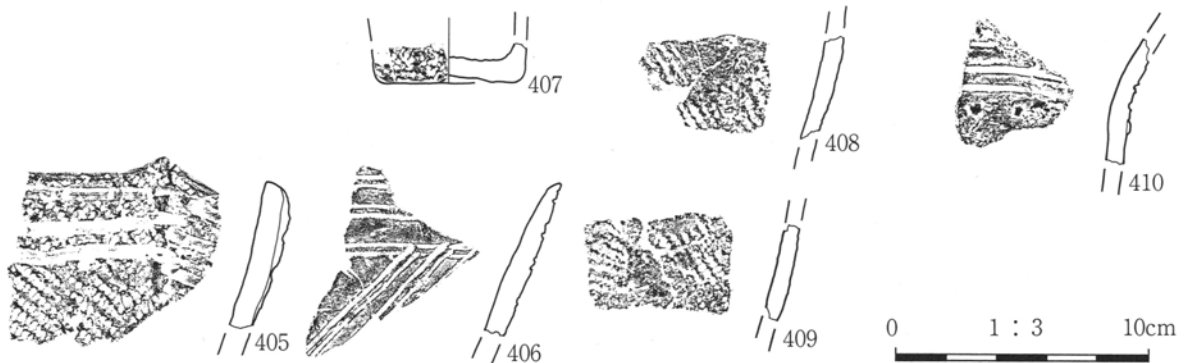
埋め堯

- 1 暗褐色土 ローム粒混じり。炭片少しあり。白い細かい軽石少しあり。
- 2 暗褐色土 ローム混じり。ロームはまだらに見える。白い細かい軽石あり。
- 3 褐色土 ローム主体。暗褐色土混じり。ロームブロックを含む。(土器の縁にわざとはったロームか?)
- 4 褐色土 ローム、暗褐色土混じり。3よりはロームブロック少なく、軟。
- 4' ローム暗褐色土混じり。4に近いが、ややロームブロック目立ちしまりよし。

南西石断ち割り

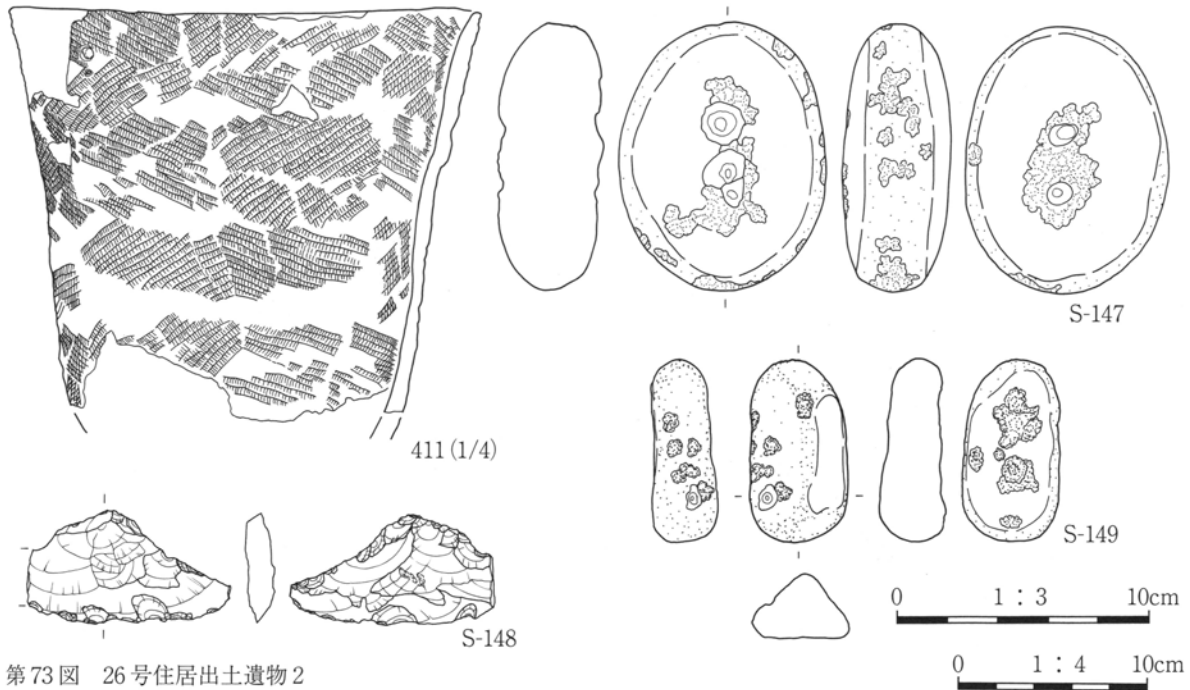
- 1 暗褐色土 ローム混じり。白い細かい軽石少しあり。下位に、ロームブロック少しあり。やや軟質。
- 1' 褐色土 1層に近いがやや明るく、As-YPを含む。
- 1'' 黄褐色土 As-YPのブロック
- 2 褐色土 ローム、暗褐色土混じり。白い細かい軽石As-YPらしき軽石少しあり。
- 3 黄褐色土 III層ロームに暗褐色土少し混じる。
- 3' 褐色土 III-b層ロームに暗褐色土少し混じる。
- II-b 黄褐色土 As-YPを多く含む。As-YP集中のブロックもあり。
- III-b 黄褐色土 As-OP1少しあり。As-YP少しあり。ハードロームの層位だが水気多く、やや軟質。III層よりやや暗い。
- III 黄褐色土 As-OP1を含む。ハードローム。

第71図 26号住居石皿平面図・高低図・据え方土層断面図



第72図 26号住居出土遺物1

1 竪穴住居



第73図 26号住居出土遺物2

27号住居

位置 16-T-10/11・17A-10/11グリッド 標高117.0mから117.3mの南西向き緩傾斜部に立地する。削土されずに残った上段部分にある唯一の縄文時代住居である。標高170mの等高線を境に等高線密度が高くなり、削土前の地形もこの付近を境に傾斜が急になっていたようである。台地の肩に近い部分に作られた住居である。北に130号土坑、南に137号土坑、西に15号住居があるが切り合っていない。

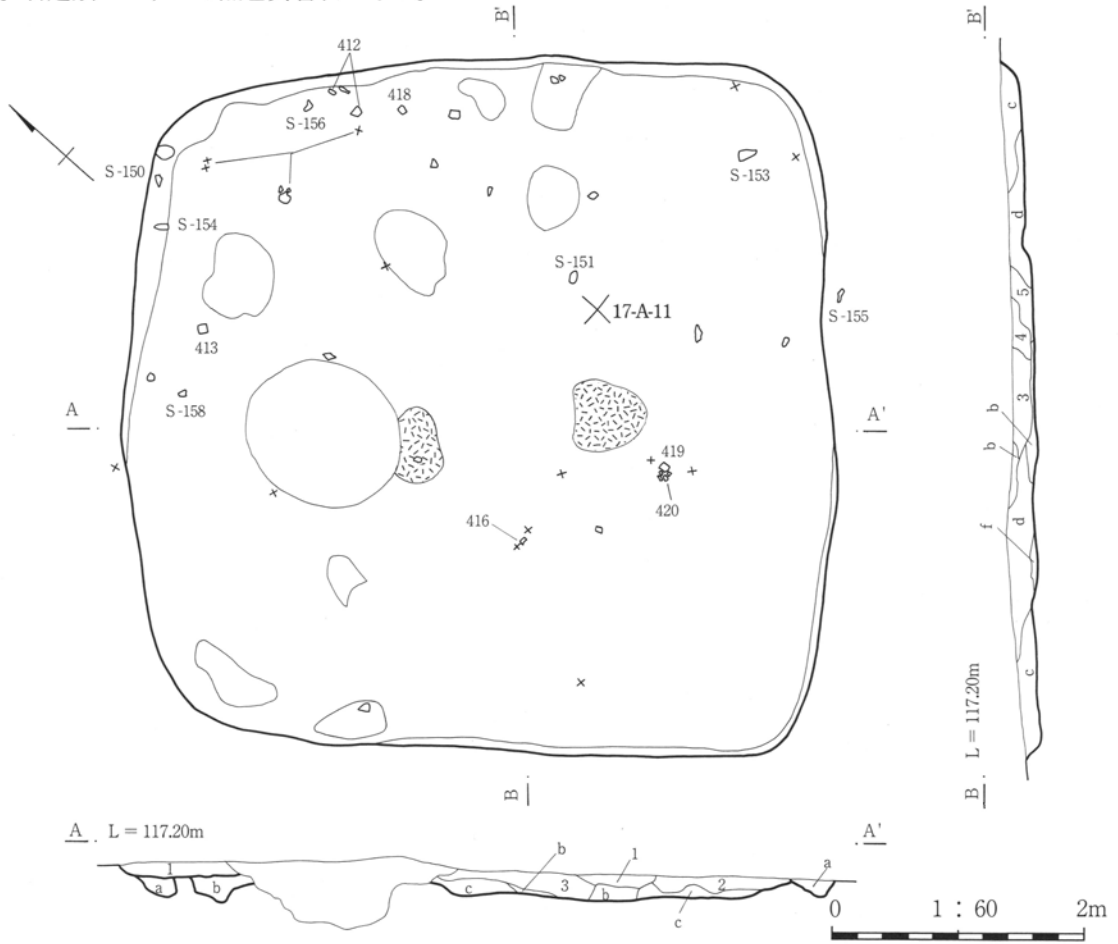
形態・規模 1辺5.5mほどのほぼ方形の平面形を有する。南西辺がN-43°-Wの傾きを持つ。

床・壁 床面下まで攪乱が及んでいて、硬化した床面の残痕が所々に、斑状に残されているにすぎない。遺構確認時点では、住居中央部を中心に炭化物が広がっていたが、これも上層からの攪乱を受けていた。土層観察所見1層から6層は床面構成土を含めた住居埋土が攪乱されたものであり、a層からf層は掘り方埋土の残存部分と思われる土層である。壁も必ずしも明瞭ではなく、地形の傾きに沿って、北東部が高く、南西部が低くなっている。床面残存部から確認面までの最大深は21.5cmほどである。

炉 住居中央部に並ぶように2か所の焼土痕跡がある。この焼土下は掘り方がやや深く掘り窪められており、炉に当たるものの残痕としても良いかもしれない。調査段階では住居北西部に長さ35cm、幅13cmほどの棒状礫と埋壺状の出土状態を示す土器があり、これが炉に当たるものかと思われた。しかし土層断面の観察所見ではこの住居を切る土坑内に位置すると判断されたため、本報告では住居とは別の137号土坑として扱っている。

柱穴 北西-南東方向に3本づつ2列に並ぶ柱穴が見ついている。北東側の列はやや内側によっており、それぞれの柱通りも揃っていない。それぞれの規模（長径×短径×確認最大深：cm）は、ピット1：37×25×30、ピット2：32×19×60.5、ピット3：29×24×29.5、ピット4：34×29×45、ピット5：26×24×31、ピット6：28×26×33cm。覆土上位は炭化物を含む暗褐色土、下位は炭化物粒を含む褐色から暗褐色土。ピット1-2・2-3間はそれぞれ1.8m、4-5間1.6m、5-6間1.4m、1-6間2.65m、2-5間2.8m、3-4間2.05mある。

遺物出土状況 住居北部に土器片が散在する。412、413、414、415は接合しないが同一個体と思われる波状口縁の深鉢形土器破片で、無節 Lr、Rl の菱形羽状縄文を施文する。416、417はともに深鉢形土器の胴部破片で、単節 LR、RL の羽状縄文を施文する。418も深鉢の胴部破片で、単節 LR の斜行縄文及び巾8mm の半截竹管による平行沈線文を施文する。419、420も深鉢の胴部破片で、器面は風化等による摩滅が著しいが、附加条による羽状縄文を施文している。421は深鉢の口縁部破片で、単節 LR の斜行縄文を地文とし、口縁部に沿って巾6mm の半截竹管によるコンパス文を施文する。いずれも黒浜式土器の破片である。石器類も北部壁際を中心にみつかっており、打製石斧、磨製石斧、石匙類、磨石がある。S153の打製石斧は砂岩製で住居東隅部から出土し、S154磨製石斧は変玄武岩製の幅の狭いもので、北隅の壁際から出土している。磨石は石英閃緑岩及び粗粒輝石安山岩製で、長10cm前後、幅8cm前後と同じような大きさのもの3点がある。石匙類はいずれも黒色頁岩製である。

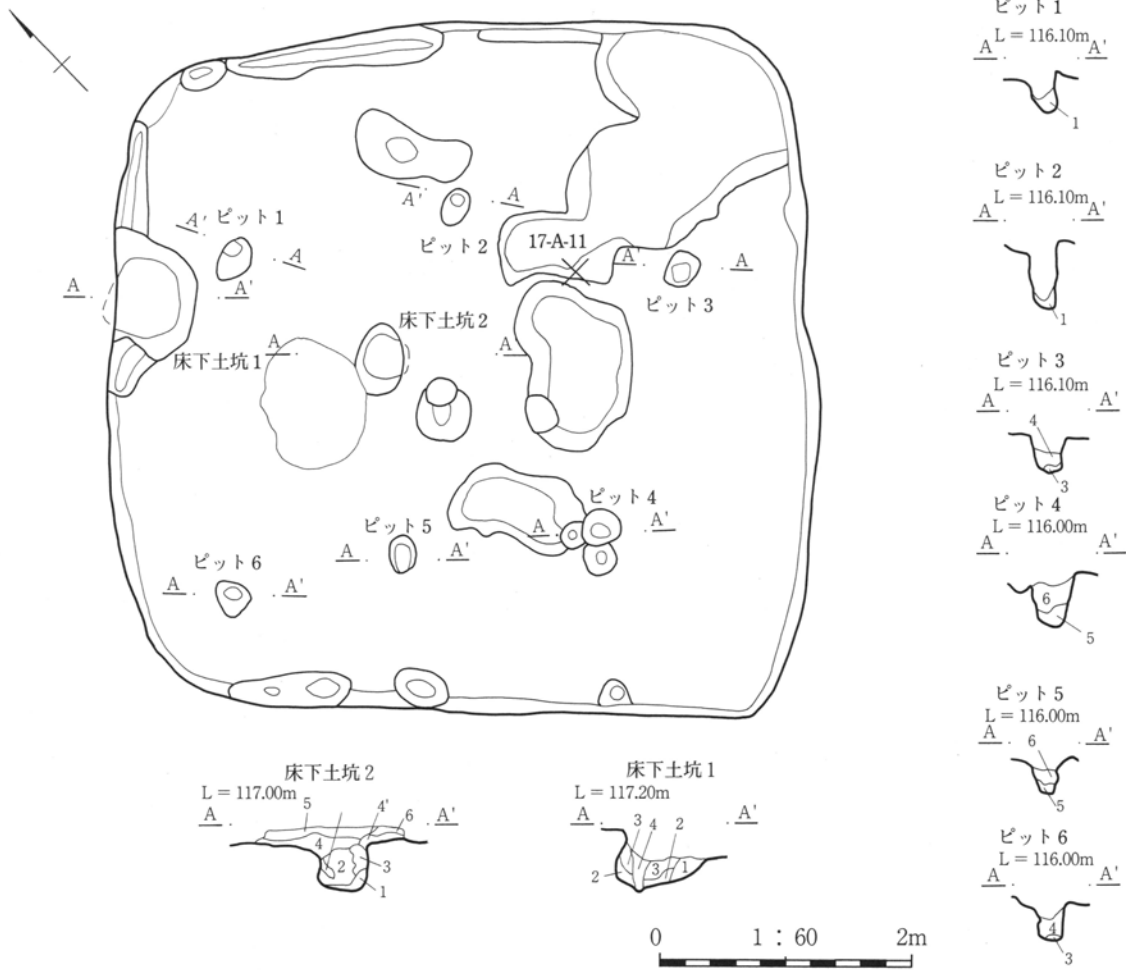


27号住居 土層観察所見

- | | |
|--|--|
| <p>1 10YR3/4 暗褐色土 As-YP・As-OP1 含む。炭化物、焼土粒含む。しまっている。</p> <p>2 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック7%含む。炭化物粒少量含む。しまっている。</p> <p>3 10YR3/4 暗褐色土 炭化物、焼土粒含む。炭化物量最も多い。ローム斑3%含む。</p> <p>4 10YR3/4 暗褐色土 ローム斑30%含む。炭化物少量含む。しまりやや弱い。</p> <p>5 10YR3/4 暗褐色土 ローム斑7%含む。炭化物含む。しまりやや弱い。</p> | <p>6 10YR3/4 暗褐色土 ローム小ブロック7%含む。炭化物ごく少量含む。ややしまっている。</p> <p>a 10YR5/4 にぶい黄褐色土 As-YP・As-OP1 含む。やや汚れ、しまり弱い。</p> <p>b 10YR3/4 暗褐色土 1層と相同だが、しまりやや弱い。</p> <p>c 10YR3/4 暗褐色土 炭化物を含む。やや粘質。しまりやや弱い。</p> <p>d 10YR5/4 にぶい黄褐色土 a層に似るが、炭化物を含む。しまりやや弱い。</p> <p>e 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ほとんど地山のようなだが、炭化物を含む。10YR4/4 褐色土の斑が入る。固くしまっている。</p> <p>f 10YR3/4 暗褐色土 c層に似るが、しまっている。</p> |
|--|--|

第74図 27号住居平面図・土層断面図

1 竪穴住居



27号住居ピット土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 As-YP・As-BP・As-OP1粒含む。炭化物粒含む。ややしまっている。
- 2 10YR4/6 褐色土 As-OP1粒を含むハードロームのブロック。この部分の地山はAs-BP相当。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 As-BP・As-OP1粒含む。炭化物粒含む。炭化物の多い10YR2/3黒褐色土の斑を7%含む。ややしまっている。
- 4 10YR5/6 黄褐色土 炭化物の細粒を含む。やや粘質。しまりやや弱い。
- 5 10YR3/4 暗褐色土 炭化物片、炭化物粒を多く含む。As-BP粒を含む。やや締まっている。

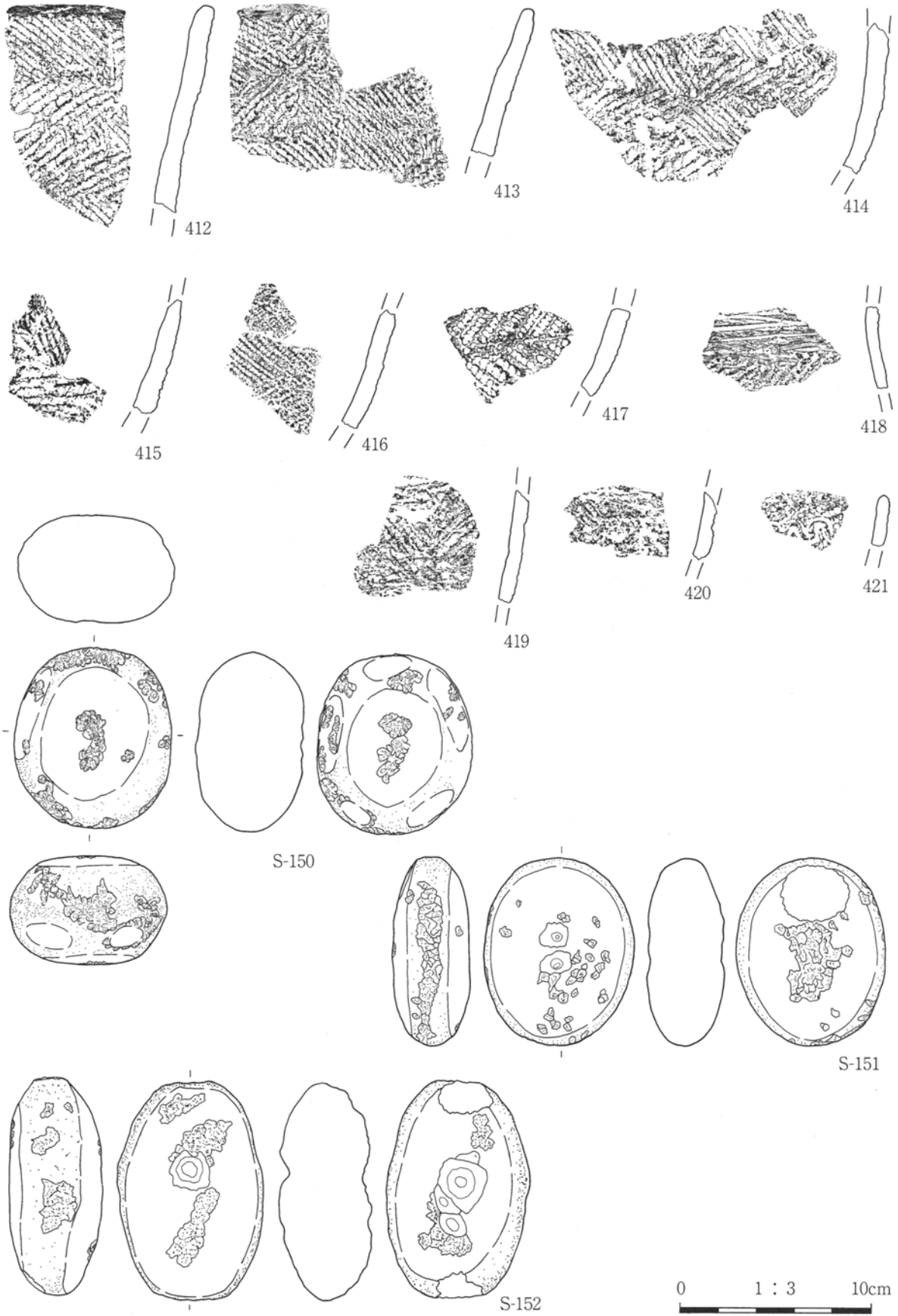
床下土坑1 土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 崩れたロームの斑を7%含む。炭化物粒を少量含む。固く締まっている。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を多く含む。炭化物粒を少量含む。やや締まっている。
- 3 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒を含む、炭化物粒を含む。締まりやや強い。
- 4 10YR2/3 黒褐色土 3層に似るが、炭化物粒多い。根による攪乱とも思えるが、締まりは強い。

床下土坑2 土層観察所見

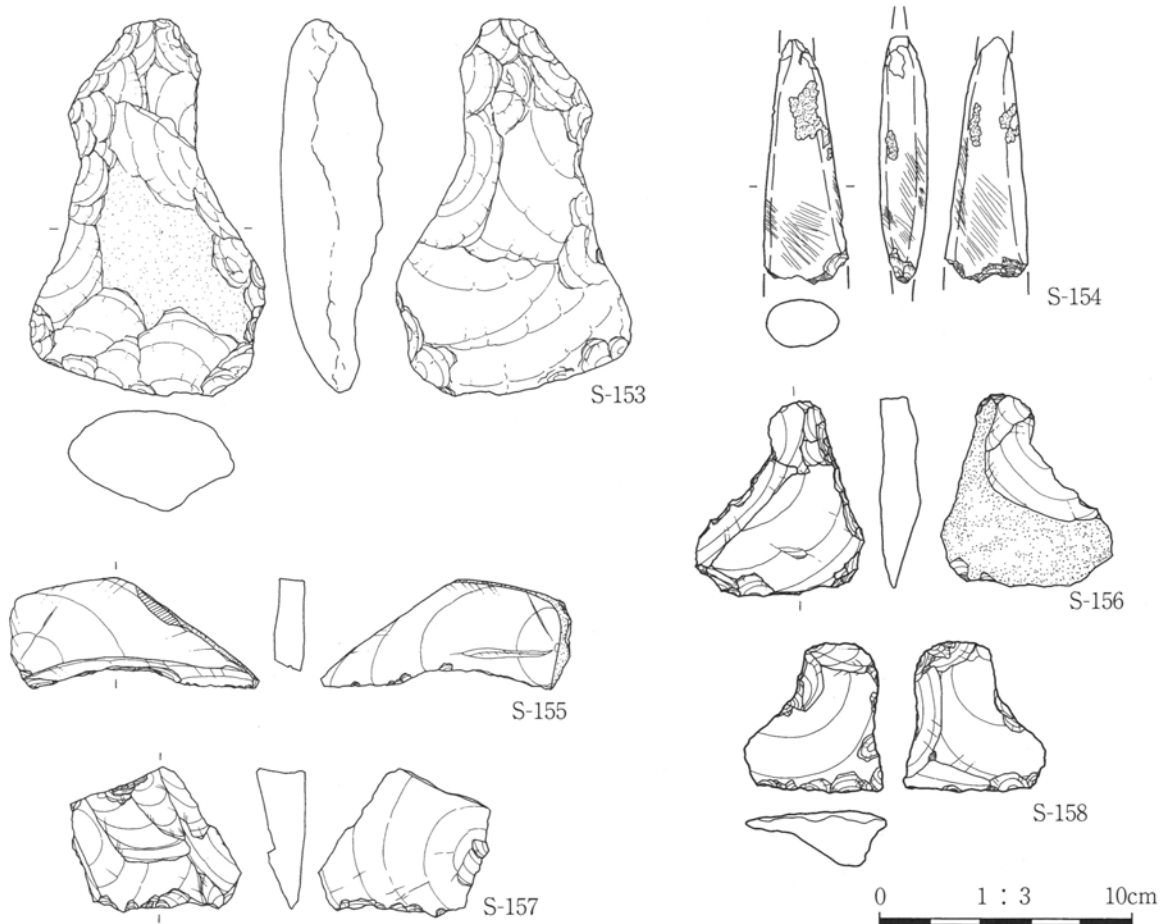
- 1 10YR3/4 暗褐色土 崩れたローム主体。炭化物粒を少量含む。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 炭化物粒を多く含む。ローム斑を3%含む。ローム小ブロックを含む。やや締まっている。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム斑を7%含む。ロームブロックを含む。炭化物粒を少量含む。締まっている。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 ローム円形斑、ローム小ブロック、炭化物粒を含む。締まっている。4' やや締まり弱い。
- 5 10YR3/4 暗褐色土 炭化物を多く含む。ロームのぼやけた斑を3%含む。締まっている。
- 6 10YR5/4 にぶい黄褐色土 崩れたソフトロームがやや赤変。締まり弱い。

第75図 27号住居掘り方平面図・ピット等土層断面図



第76図 27号住居出土物遺物1

2 土坑・埋設土器



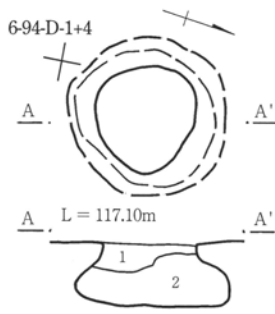
第77図 27号住居出土物遺物2

2 土坑・埋設土器

4号土坑 6-94-C.D-1.2グリッド 確認面標高117m。確認面での口径0.76-0.52m、最大径1.26m、確認最大深0.61m、袋部天井までの高さ0.38mの袋状土坑。接合しないが同一個体と思われる黒浜式深鉢の破片3片が出土している。単節LR、RLの羽状縄文を地文とし、口縁に沿って巾8mmの半截竹管による平行沈線文が施文される。覆土下位には細かい炭化物片が多く混じており、クリ材との同定結果が得られている。

6号土坑 6-94-A-10グリッド 確認面標高117.8m。崩れた袋状土坑。土層断面図6層及び7層が袋部の崩れた土であろう。確認面では南北2.64m、東西1.74mの楕円形平面を呈する。中段状に袋部の天井が残る。袋部天井高0.38m。確認最大深1.0m。覆土から黒浜式及び加曾利E式土器の破片が出土している。425-428は単節RLの斜行縄文で、428では巾6.5mmの半截竹管による平行沈線文内に爪形文が充填される。429、430は加曾利E式と見て良いだろう。432、433は単節LRの斜行縄文。

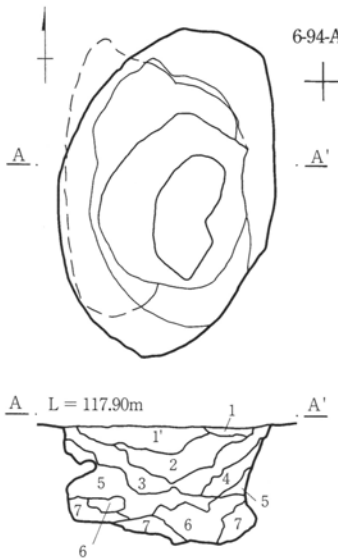
7号土坑 6-93-S-9.10グリッド 確認面標高117.1m。ほぼ南北に長軸を置く方形土坑。長軸長2.07m、短軸長1.5m、確認最大深0.6-84m。南西隅を10号土坑に切られる。北西部には一段下がった方形の掘り込みがある。長軸長1.14m、短軸長0.51m、深さ8.5cm。南東隅には径0.7m、深さ16cmほどの円形のくぼみがあ



4号土坑

4号土坑

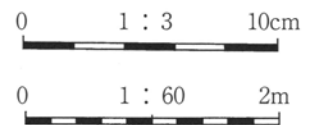
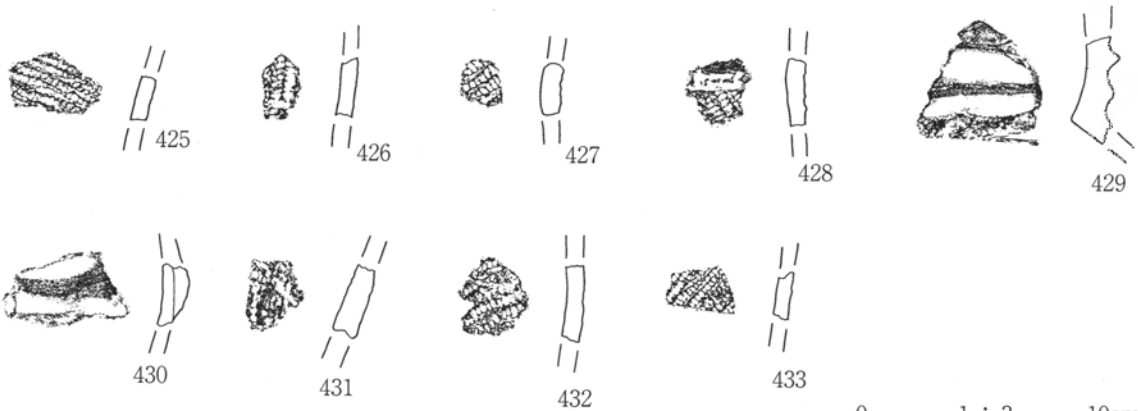
- 1 10YR3/4 暗褐色土 白色からクリーム色の細かい軽石を含む。ローム粒、ロームブロックを含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 1層よりローム分少なく、暗い。細かな炭化物片を含む。1層に似た軽石を少量含む。



6号土坑

6号土坑

- 1 10YR2/1 黒色土 As-Cらしき軽石を含む。下位にローム粒少量含む。1' 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒多く明るい。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒と黒褐色土まだらにまじる。ロームははっきりしたブロックではなく、やや斑状に見える。クリーム色から黄色の、径5mm以下の軽石を少量含む。As-Cとは異なり、黄色の軽石粒はAs-YPかもしれない。
- 3 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒を斑状に含むが2層より少ない。クリーム色から黄色の、径5mm以下の軽石を2層より少量含む。
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、径1cm以下のローム小ブロックを含む。斑状には見えない。小さな炭化物片をわずかに含む。
- 5 10YR3/4 暗褐色土 4層よりローム粒、ロームブロックを多く含む。ロームブロックは径5cm大まである。
- 6 10YR4/6-5/8 褐色-黄褐色土 ロームを主体とする。暗褐色土の少し混じったロームに、As-OP1相当層と思われるロームブロックを含む。6' As-OP1相当層からソフトロームにかけての大きなロームブロック。土坑の縁が崩れたものだろう。
- 7 10YR4/6-7.5YR5/6 褐色-明褐色土 ローム主体。As-OP1ないしAs-BPの混じった地山ロームに暗褐色土を含む。締まり強い。使用中に踏み固められた部分か？ 7' 締まり弱い。



第78図 土坑1 (4・6号土坑)

2 土坑・埋設土器

る。覆土から黒浜式の土器破片及び打製石斧、スクレーパーが出土している。434は口縁部破片で単節RLの斜行縄文を地文とし、波状の沈線文を加える。435は巾5mmの半截竹管による平行沈線文の集合によって、菱形モチーフを構成する。口縁に穿孔がある。436の地文は単節LR、RLの羽状縄文。437は単節LRの斜行縄文を地文とし、巾7mmの半截竹管による平行沈線文内に爪形文を充填する。438は波状口縁片で、単節RLの斜行縄文に巾7mmの半截竹管による平行沈線文を加える。439は巾6mmの半截竹管による平行沈線文内に爪形文を充填する。440は巾5mmの半截竹管による平行沈線文集合で菱形モチーフを構成する。

8号土坑 6-94-D-10 グリッド 確認面標高117.4m。袋状土坑の底部近くのみが残存している。確認面での直径1.26mの円形土坑で、わずかに袋状を呈する。確認最大深0.3m。この土坑に伴う出土遺物はない。

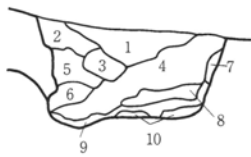
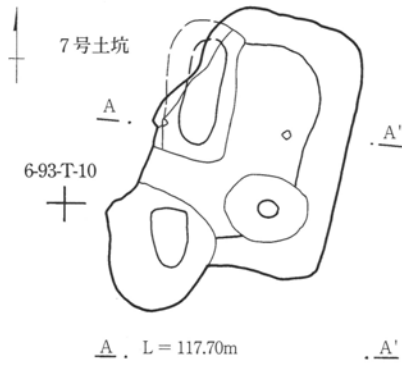
9号土坑 6-94-D-9 グリッド 確認面標高117.8m。径1.2mほどの円形土坑だが、袋状土坑の上部が崩れたものと思われる。確認最大深39cm。覆土から花積下層式深鉢の胴部破片が出土している。441は無節Lr、Rlの羽状縄文に櫛歯状工具による波状文を施す。442は0段多条からなる単節LRの斜行縄文を縦位に施文する。443は0段多条からなる単節LR、RLの羽状縄文を縦位に施文する。

10号土坑 6-93-S-9.10 グリッド 確認面標高117.1m。7号土坑の南西隅を切る。南北方向がやや長い歪んだ円形の平面形を呈する。長軸長1.03m、短軸長0.82m、確認最大深1.02m。7号土坑の一部として掘削を行っているため、土層観察所見を欠く。出土遺物はない。

11号土坑 6-93-S-11 グリッド 確認面標高116.9m。確認面では南北にやや長い歪んだ円形の平面形を呈する。長軸長0.91m、短軸長0.82m、確認最大深0.52m。西南部は底部がやや広がって、断面形は弱い袋状を呈する。ロームの多い褐色土で埋まる。444は外面が風化し、文様不明瞭だが、単節LR、RLの羽状縄文が縦位施文される。花積下層式。445は巾3mmの半截竹管で木の葉文が構成され、文様内にRLが施文される。諸磯a式。

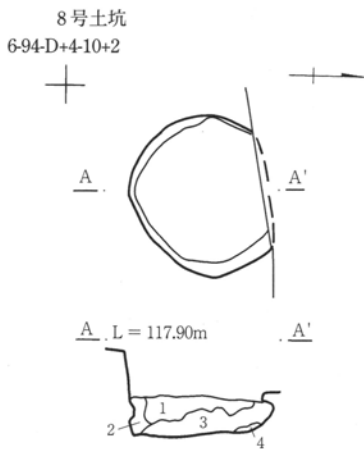
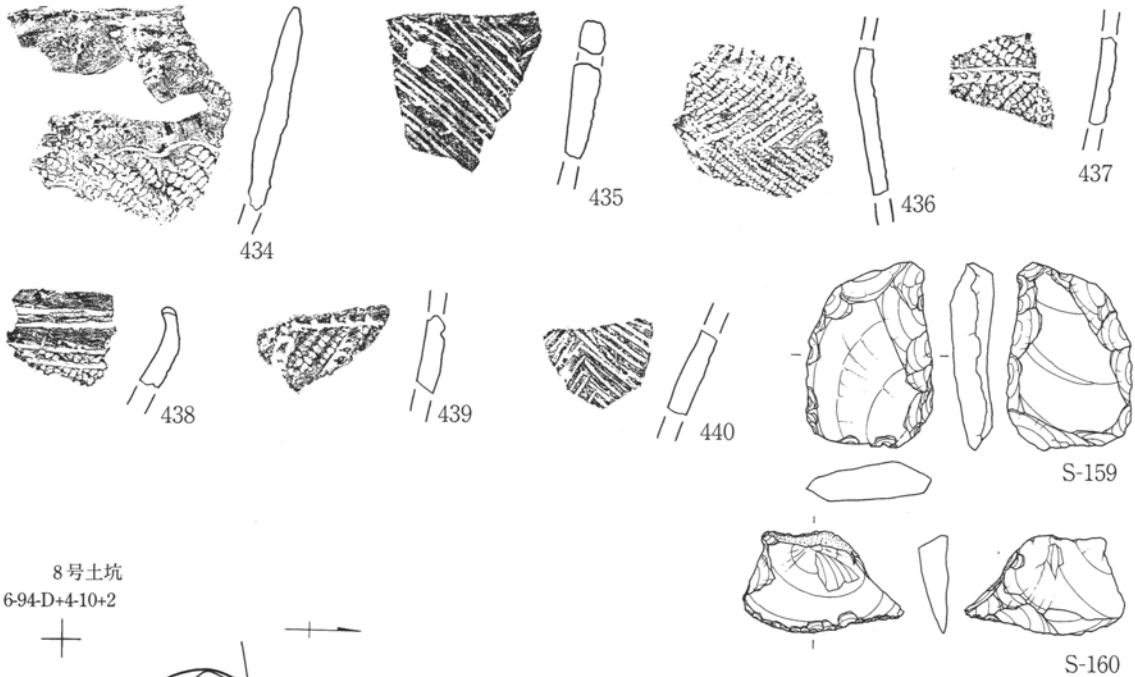
12号土坑 6-94-C-1.2 グリッド 確認面標高117.2m。確認面では長軸長0.86m、短軸長0.69mの南北にやや長い楕円形の平面形を呈する。断面形は袋状を呈し。長軸最大長1.05m、短軸最大長0.88m。確認最大深は0.53m。黒浜式期の18号土坑西部を切る。覆土は特に下位に多く炭化物片を含む。土器片、石器が出土している。いずれも加曽利E式で、446は波状口縁の破片。口縁部文様帯には、隆線と沈線により渦巻文と楕円区画を構成。楕円区画内には単節RLの斜行縄文を横位施文。胴部には2条対の沈線が縦位に垂下。加曽利E3式。447は巾6.5mmの沈線2条対が垂下して縦位区画する。区画内は単節RL斜行縄文の縦位施文に沈線がS字状垂下。448は単節RLの斜行縄文を縦位に施文して地文とし、巾5mmの沈線が3条対で垂下する。449は口縁部破片で、口縁部文様帯には隆線と沈線によって渦巻文、楕円区画が構成される。楕円区画内には単節RLの斜行縄文を横位に施文する。胴部には単節RLが縦位に施文される。S161は粗粒輝石安山岩の敲石で、表面の割れがあるが、表裏及び側面に敲打痕がある。

13号土坑 6-94-F-8 グリッド 確認面標高117.6m。木根により特に北半を大きく攪乱されている。確認面では南北に長軸を持つ楕円形の平面形を呈し、長軸長1.09m、短軸長0.81mの楕円形の平面形を呈する。南



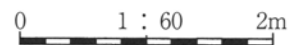
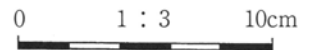
7号土坑

- 1 10YR1.7/1・2/1 黒色土 As-Cらしき軽石を含む。ローム粒塊斑紋状を含む。
- 2 10YR3/2 黒褐色土 As-Cらしき軽石を1層土の1/3位含む。1層土に見る10YR2/1黒色土とローム粒の混土。
- 3 10YR2/1・1.7/1 黒色土 1層と黒色土の含有量が逆転する。As-Cらしき軽石も小粒のことが多い。
- 4 10YR2/3 黒褐色土 2層土と類似の土だが、ローム粒塊を多く含む、かつAs-OP1と思われる軽石を含むハードロームブロックも見られる。他の層と比べ軟らかい。
- 5 10YR3/3 暗褐色土 白色軽石を含むがAs-Cではない。ローム粒を含む。炭化物を少量含む。4層土同様に軟らかい。
- 6 10YR3/4 暗褐色土 白色軽石を含むがAs-Cではない。ローム粒塊を含む。炭化物を少量含む。
- 7 10YR4/4 褐色土 漸移層ソフトロームブロックと10YR4/3暗褐色土の混土。青白色軽石含む。
- 8 10YR4/6 褐色土 やや粘性を帯びたロームの中に、As-OP1と思われる軽石を含む径10mmほどの黄褐色ハードロームブロックを含む。4層土の流れ込みも見られる。
- 9 10YR4/4 褐色土 8層、10層と類似の土だが、粘性を帯びるロームは見られず、やや黒みを帯びた暗褐色土を含む。
- 10 10YR4/6 褐色土 8層と同じ。



8号土坑

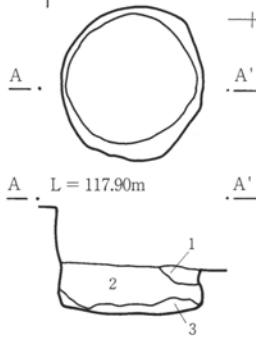
- 1 10YR3/3 暗褐色土 As-OP1と思われる白色軽石、炭化物、ロームブロックを含む。黒みを帯びた土塊の多く見られる箇所あり。
- 2 10YR4/4 褐色土 As-OP1と思われる軽石を含む濁った褐色ローム主体の中に炭化物、暗褐色土が混じる。
- 3 10YR4/3・4/4 暗褐色土・褐色土の混土。2層の濁ったロームと暗褐色土の比率が逆転した土。固く締まる。
- 4 地山ローム



第79図 土坑2 (7～8号土坑)

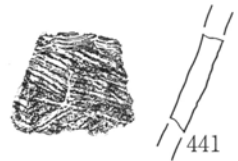
2 土坑・埋設土器

94-E-9+1 9号土坑

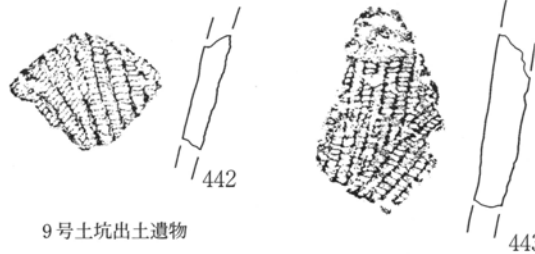


9号土坑

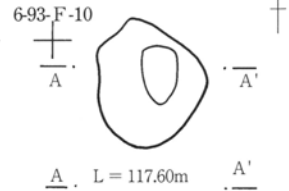
- 1 10YR4/6 褐色土 As-OP1 相当層のロームブロックを含む。炭化物少量含む。
- 2 10YR3/2 黒褐色土 黄色、白色軽石、炭化物、ローム粒塊含む。黒みを帯びた暗褐色土。特に炭化物は全面に見られる。
- 3 10YR5/6 黄褐色土 As-OP1 と思われる軽石を含むローム主体の土の中に暗褐色土が混じる。硬く締まっている。



9号土坑出土遺物

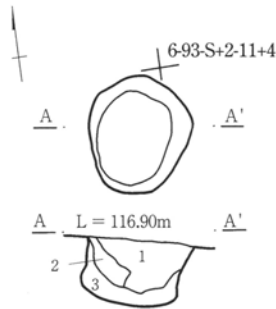


9号土坑出土遺物

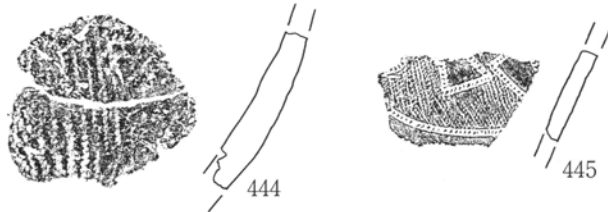


6-93-F-10

10号土坑



11号土坑

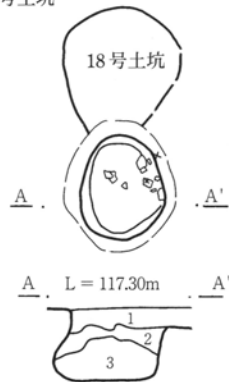


11号土坑出土遺物

11号土坑

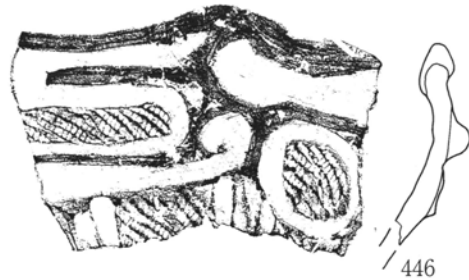
- 1 7.5YR4/4 褐色土 ロームと暗褐色土がまだらに混じる。As-OP1、As-YPらしき軽石が混じる。
- 2 7.5YR4/6 褐色土 1層よりややローム分が多く明るい。軽石はやや少なく、As-OP1のみ。
- 3 7.5YR4/6 褐色土 2層よりさらにローム分が多く明るい。軽石はほとんど見られない。やや軟らかい。

12号土坑

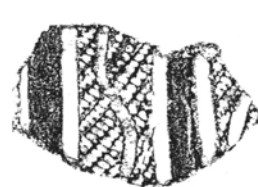


12号土坑

- 1 10YR4/4 褐色土 白色からクリーム色の軽石を含む。炭化物片を含む。ソフトロームに近い。
- 2 10YR4/4 褐色土～10YR3/4 暗褐色土 1層よりロームが少なく、暗褐色土が強い。1層と同じ軽石、炭化物片を含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 1層と同じ軽石、炭化物片を1層より多く含む。



446

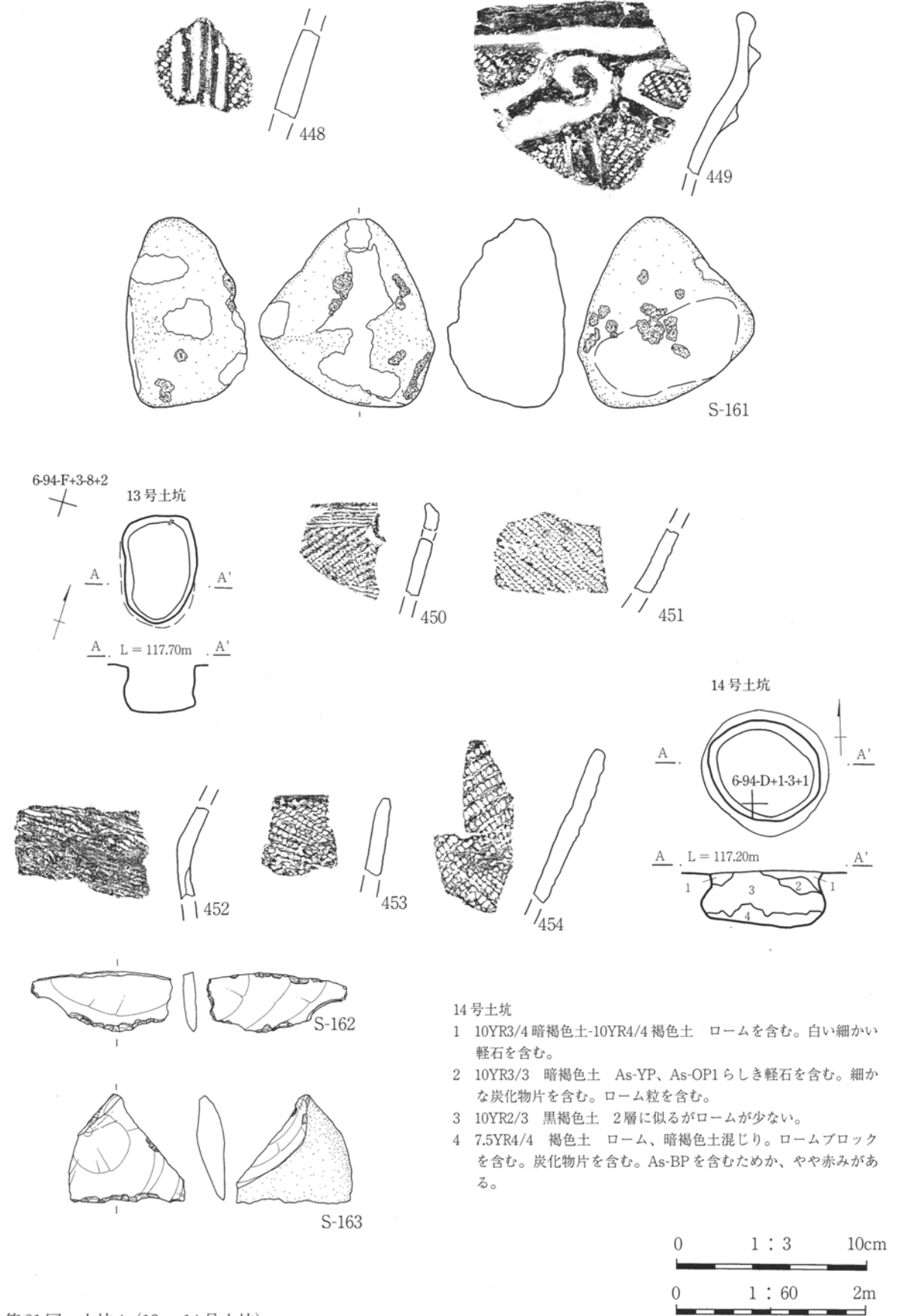


447

0 1 : 3 10cm

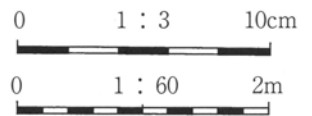
0 1 : 60 2m

第80図 土坑3 (9～12号土坑)



14号土坑

- 1 10YR3/4 暗褐色土-10YR4/4 褐色土 ロームを含む。白い細かい軽石を含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 As-YP、As-OP1らしき軽石を含む。細かな炭化物片を含む。ローム粒を含む。
- 3 10YR2/3 黒褐色土 2層に似るがロームが少ない。
- 4 7.5YR4/4 褐色土 ローム、暗褐色土混じり。ロームブロックを含む。炭化物片を含む。As-BPを含むためか、やや赤みがある。



第81図 土坑4 (13～14号土坑)

2 土坑・埋設土器

半では断面形が弱い袋状を呈する。攪乱により本来の埋土は失われているが、As-OP1 相当のロームをブロックで含み、細かな炭化物粒や焼土粒も見られた。覆土から黒浜式土器の破片が出土している。450 は穿孔のある波状口縁の破片で、口唇部は内折する。単節 RL の斜行縄文を地文とし、口縁に沿って集合沈線が走る。451 は附加条 1 種 RL + Lr の斜行縄文を地文とする。

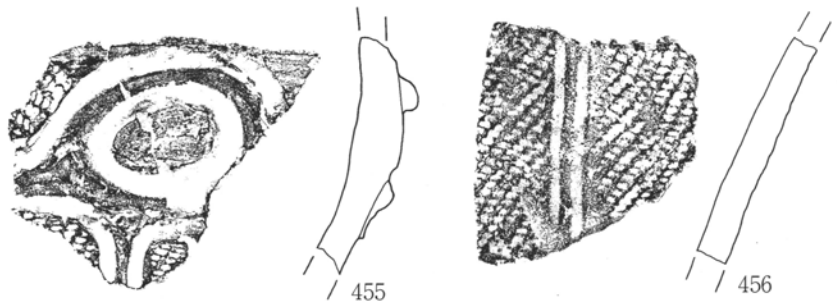
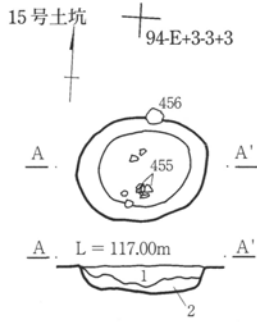
14号土坑 6-94-D-3 グリッド 確認面標高 117.1m。袋状土坑。確認面では長軸長 1.13m、短軸長 1.06m、わずかに北西-南東方向が長い円形の開口部がとらえられる。確認最大深は 0.57m で、最大径 1.38m。覆土中には細かい炭化物片を含む。出土土器は黒浜式の深鉢片で、452 は不明瞭だが単節 RL の斜行縄文、453 は単節 RL の斜行縄文、454 は単節 LR、RL の羽状縄文を地文とする。

15号土坑 6-94-E-3 グリッド 確認面標高 116.9m。長軸長 1.06m、短軸長 0.78m、東西にやや長い楕円形の平面形を呈する。確認最大深 0.2m。断面形は深めの皿状。覆土から土加曾利 E 式の深鉢破片が出土している。455 は口縁部破片で、隆線と沈線によって楕円区画を構成し区画内は無文、縄文は単節 RL の斜行縄文。胴部へ沈線が 2 条対で垂下し、単節 RL が縦位に施文される。456 は巾 5mm の沈線 2 条対が垂下し、胴部を縦位区画する。地文は単節 RL の斜行縄文を縦位に施文する。

16号土坑 6-94-E-6 グリッド 確認面標高 117.3m。長軸長 0.92m、短軸長 0.73m、確認最大深 0.45m。東西がやや長い歪んだ楕円形の平面形を呈し、断面形は箱形に近い。覆土はロームと暗褐色土ブロックの混土を主体とする。覆土から加曾利 E 式の深鉢片が出土している。457 は全体的に風化が進み、上位の割れ口が摩滅している。埋甕等の可能性があるかもしれない。沈線が 2 条対で垂下するが、縄文は風化のため不明瞭。458 は口縁部破片で、肥厚し、若干内湾する。残存部は無文。

17号土坑 6-94-D-5 グリッド 確認面標高 117.3m。口径 1.22m、最大径 1.38m、確認最大深 0.61m の袋状土坑。最下位の覆土はロームを主体としており、壁及び袋部天井が崩れたものと思われる。現状での袋部天井高は 0.5m ほどある。整った円形の平面形を呈する。覆土から比較的大型の土器片と敲石が出土している。459、460 は土層断面 3 層と 4 層の境付近から出土している。接合しないが同一個体と思われる。復元口径 33.0cm。現高 14.2cm。地文は単節 LR、RL によって菱形羽状縄文を構成する。口縁部の内面はよく研磨される。有尾式。461-464 は黒浜式で、461 は巾 5mm の半截竹管による平行沈線文、コンパス文を施文する。462 は口縁部破片で、僅かに内湾する。地文は絡条帯による網目状撚糸文。463 は単節 LR、RL の羽状縄文を地文とする。464 は波状口縁の破片で、地文は単節 LR の斜行縄文である。敲石 S164 は粗粒輝石安山岩製。

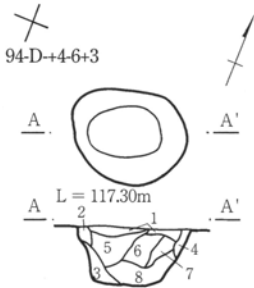
18号土坑 6-94-C-1 グリッド 確認面標高 116.8 m。西部を加曾利 E 式期の 12 号土坑に切られる。南北長 0.96m、東西確認長 1.0m の、やや東西に長い歪んだ円形の平面形を呈する。確認最大深 0.49m。覆土はローム分の多い褐色土で、上位から黒浜式の深鉢などが出土している。465-467 は同一個体で、波状口縁の深鉢である。口縁部全体に半截竹管によるコンパス文が充填され、胴部には無節 Lr、Rl の羽状縄文が施文される。胴部と口縁部の接合部には、擬似口縁状となる。469、470 は同一個体で、単節 RL の斜行縄文を地文とする。468 は単節 LR、RL の羽状縄文を地文とする。



15号土坑

- 1 10YR4/6-5/6 褐色-黄褐色土 ロームに暗褐色土が混じる。ロームはAs-OP1を含むものが主。
- 2 10YR4/6 褐色土 暗褐色土にロームが混じる。ロームブロックを含む。As-OP1らしき軽石を少量含む。

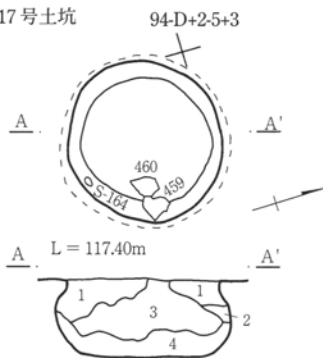
16号土坑



16号土坑

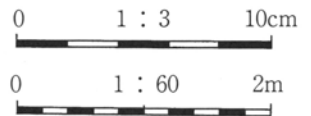
- 1 10YR4/4 褐色土 ロームを主体とし、径1cmほどの暗褐色土ブロックと径1cm-2cmの明茶褐色土ブロックを含む。炭化物粒をわずかに含む。締まり強く硬質。
- 2 10YR5/6 黄褐色土 ロームを主体とし、径1cmほどの暗褐色土ブロックと炭化物粒をわずかに含む。締まり強く硬質。
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームを主体とし、径1cm-2cmほどの暗褐色土ブロックと径2cm-3cmの明茶褐色土ブロックを含む。炭化物粒をわずかに含む。As-OP1と思われる白色軽石をごくわずかに含む。締まり強く硬質。
- 4 10YR5/6 黄褐色土 ロームを主体とし、径1cm-2cmほどの明褐色土ブロックを少量含む。締まり強く硬質。
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームを主体とし、径1cmほどの暗褐色土ブロックと径1cm-2cmの明褐色土ブロックを少量含む。炭化物粒をわずかに含む。As-OP1と思われる白色軽石を少量含む。締まり強く硬質。
- 6 10YR3/4 暗褐色土 ロームを主体とし、径1cm-2cmほどの暗褐色土ブロックを含む。As-OP1と思われる白色軽石をごくわずかに含む。締まり強く硬質。
- 7 10YR4/6 褐色土 ロームを主体とし、径1cmほどの暗褐色土ブロックをわずかに含む。As-OP1と思われる白色軽石をごくわずかに含む。締まり強く硬質。
- 8 10YR3/4 暗褐色土 ロームを主体とし、径2cm-4cmの暗褐色土ブロックを多量に含む。炭化物粒をわずかに含む。As-YP、As-OP1わずかに含む。締まり強く硬質。

17号土坑

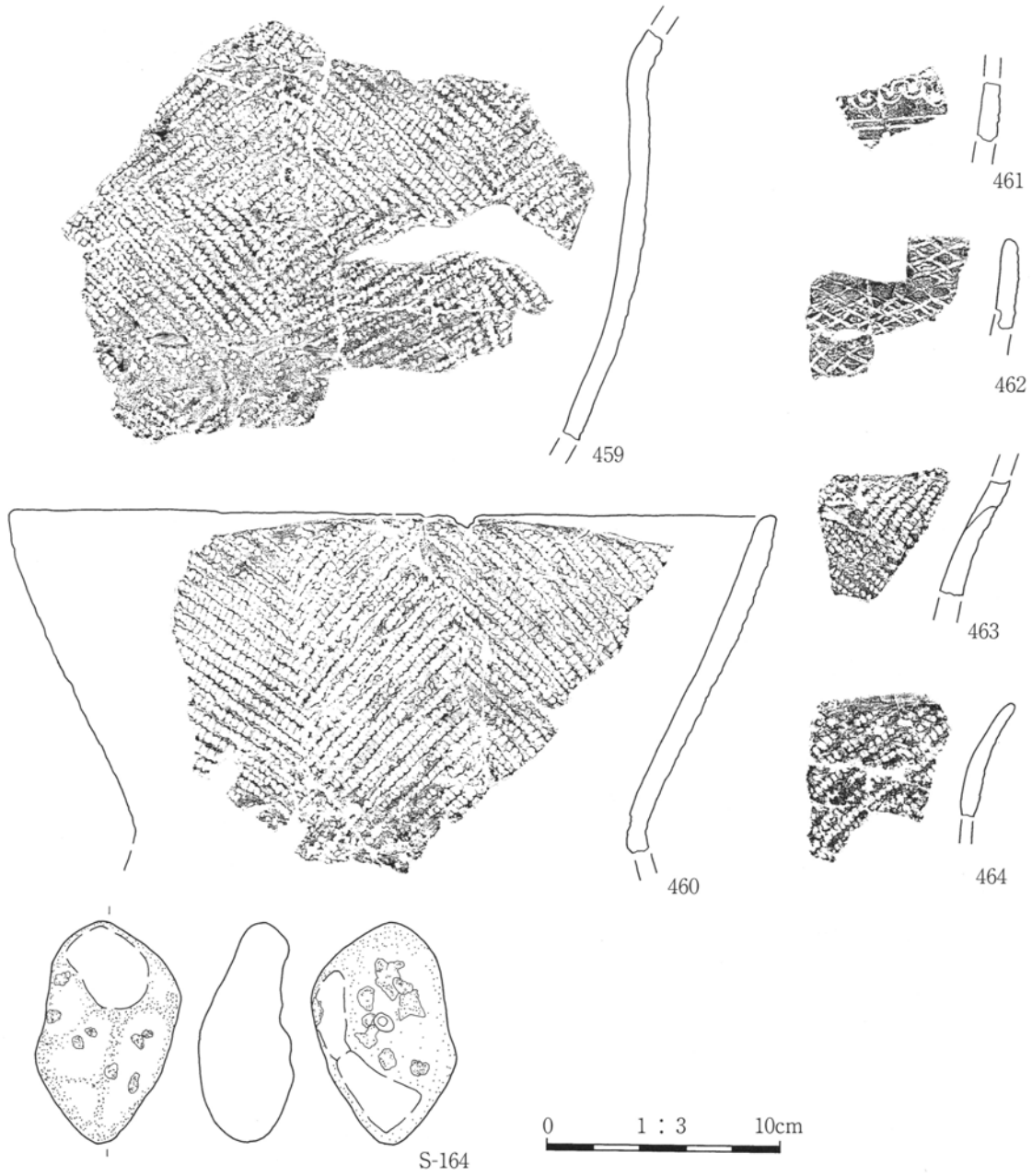


17号土坑

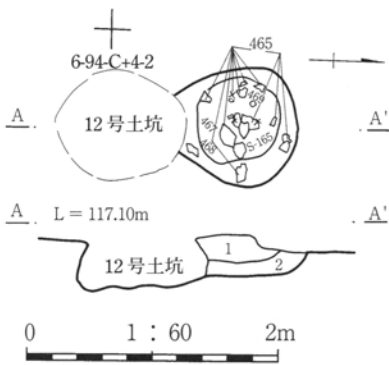
- 1 10YR4/4 褐色土 暗褐色土、ローム混じり。ロームは斑状の弱いブロックもあり。As-OP1、As-YPらしき軽石を含む。炭化物片少しあり。
- 2 10YR4/6 褐色土 ローム主体。As-OP1らしき軽石あり。暗褐色土少し混じる。炭化物片わずかにあり。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 暗褐色土にローム粒混じる。斑状の輪郭の弱いロームブロックあり。ロームブロックは下位のほうが多い。炭化物片を多く含む。As-OP1、As-YPらしき軽石を含む。締まりよい。
- 4 7.5YR4/6 褐色土 ローム主体。暗褐色土少し混じる。ロームはAs-BP 軽石のロームを主とし、上位のロームよりやや赤みあり。As-OP1もあり。炭化物片少量含む。締まりよい。



第82図 土坑5 (15～17号土坑)



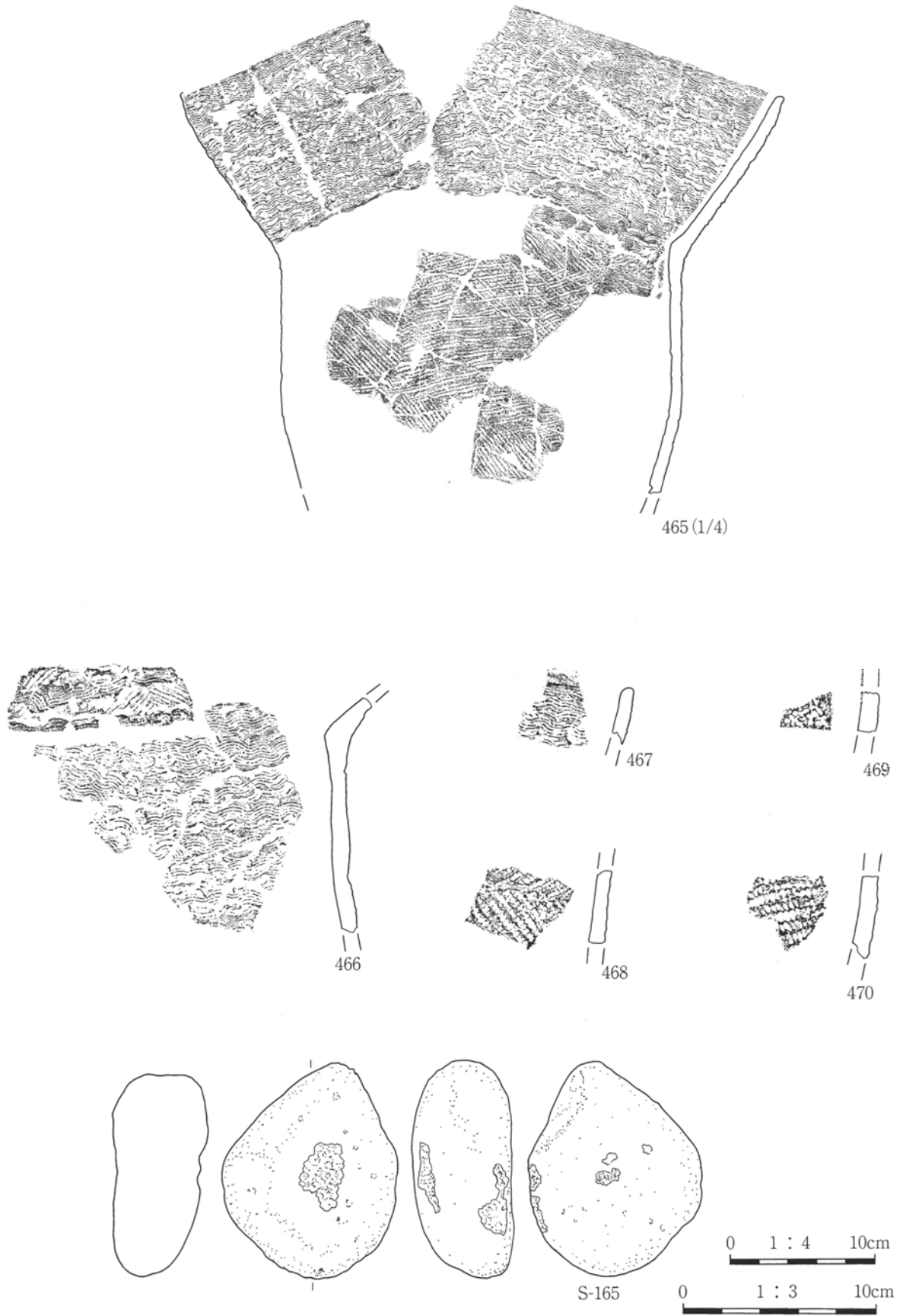
18号土坑



18号土坑

- 1 10YR4/4 褐色土 暗褐色土、ローム粒混じり。As-OP1らしき軽石少しあり。やや軟質。
- 2 10YR4/4-4/6 褐色土 暗褐色土、ローム粒混じり。1層よりややローム分が多く明るい。As-OP1らしき軽石少しあり。下位にロームブロック少しあり。炭化物片少しあり。やや軟質。

第83図 土坑6 (17号土坑出土遺物・18号土坑)



第84図 土坑7 (18号土坑出土遺物)

2 土坑・埋設土器

19号土坑 6-94-C-6グリッド 確認面標高117.1m。袋状土坑。北東部を攪乱に切られるが、ほぼ円形の平面形と想定される。確認面での上端径は0.9m、最大径1.26m、確認最大深0.45m。覆土は汚れたロームが主体で、炭化物を少量含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

20号土坑 6-94-C-6グリッド 確認面標高117.1m。南北0.86m、東西0.8mのいびつな円形の平面形を呈し、断面形は箱形。確認最大深0.46m。覆土は汚れたロームが主体。覆土から黒浜式土器深鉢の口縁破片が出土している。若干内湾する口縁に沿って、巾6mmの半截竹管による平行沈線文が2条施され、沈線内には爪形文が充填される。地文は単節RLの斜行縄文。

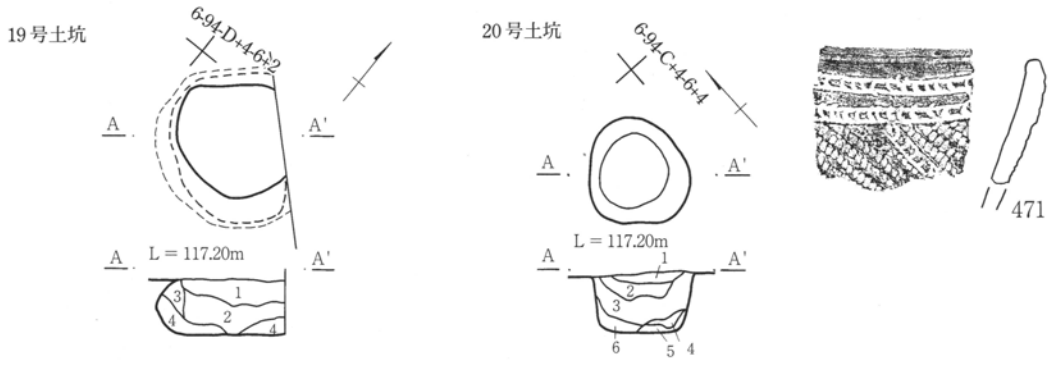
21号土坑 6-94-C-8グリッド 確認面標高117.3m。南北方向にやや長い小判形の平面形を呈する。長軸長1.73m、短軸長1.41m。断面形は箱形で、確認最大深は0.42m。覆土は地山ロームがやや汚れたもので、部分的に炭化物をわずかに含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

22号土坑 6-94-B-7グリッド 確認面標高117.3m。平面形はほぼ円形。東西長1.48m、南北長1.52m。断面形は箱形に近く、壁直下がやや窪む。確認最大深0.41m。覆土は上位、下位にロームが多く含まれ、中位に暗褐色土がある。この暗褐色土内から土器片が出土している。472、473は同一個体で、深鉢の口縁部破片。若干内湾する波状口縁をもつ小振りの深鉢。地文は巾5mmの半截竹管による平行沈線文2条対による横位区画で、波状口縁の突出部においては縦位区画される。区画内には同巾のコンパス文が横位に施文される。黒浜式。474は深鉢の胴部下位の破片で、底部との接合部で破損したもの。地文は単節LR、RLの羽状縄文。有尾式。475は胴部破片。附加条1種で単節LR+RI、RL+Lrの羽状縄文を構成する。有尾式。476は深鉢の口縁部破片で、地文は単節RLの斜行縄文。有尾式。

23号土坑 6-94-D-5グリッド 確認面標高117.1m。南北に長い小判形の平面形を呈するが、木根によって壁面がかなり乱されている。長軸長1.3m、短軸長1.0m。断面形はやや上方に開く逆台形状を呈する。覆土の主体は汚れた地山ロームで、ソフトロームとごく近い質感の土である。この土坑に伴う出土遺物はない。

24号土坑 6-94-A-9グリッド 確認面標高117.4m。袋状土坑。25号土坑と袋部で切り合うが、前後関係は確認できなかった。確認面では径0.9mほどの整った円形の平面形を示す。最大径は1.2mほどで、袋部は主に南側に張り出す。覆土下位に炭化物を比較的多く含む。袋部の主体的な覆土の上位から土器片、磨石、石匙が出土している。477-479は同一個体と思われ、単節LR、RLの羽状縄文を地文とする。有尾式であろう。磨石は粗粒輝石安山岩製で、表裏に磨り面があり、漏斗状のくぼみが残っている。石匙は珪質頁岩製。

25号土坑 6-94-A-8.9グリッド 確認面標高117.4m 比較的大きな袋状土坑である。24号土坑と切り合うが、前後関係は確認できなかった。45号土坑を切る。確認面では径1m弱のほぼ円形の平面形。最大径は1.65mあり、確認面での上端から、北西方向に0.45m、南東方向には0.1mほどえぐり込んでいる。確認最大深は0.98m。覆土は上位、下位にロームが多く含まれ、中位に暗褐色土があつて、全体に炭化物を少量含む。覆土中位、下位から遺物が出土している。土器は24号土坑が有尾式であつたのに対し、すべて黒浜式である。480は深鉢の底部破片で、被熱し硬化している。481は単節LR、RLの羽状縄文を地文とし、巾



19号土坑

- 1 10YR3/3 暗褐色土 径1cmから2cmの茶褐色ロームブロックを多量に含む。As-OP1らしい軽石を多量に含む。As-YPらしい黄褐色軽石をわずかに含む。炭化物粒を少量含む。締まっています硬質。
- 2 10YR4/6 褐色土 ローム土を主体とし、径1cmから3cmのロームブロックを含む。As-OP1らしい灰色の軽石、As-YPらしい黄褐色軽石を少量含む。炭化物粒を少量含む。締まっています硬質。
- 3 10YR2/3 黒褐色土 ロームを主体とし、径1cmから2cmのロームブロックを少量含む。As-OP1らしい灰色軽石をわずかに含む。炭化物粒を少量含む。締まっています硬質。
- 4 10YR4/4 褐色土 ロームを主体とし、径1cmから2cmのロームブロックを少量含む。As-OP1らしい灰色軽石を少量含む。炭化物粒をわずかに含む。締まっています硬質。

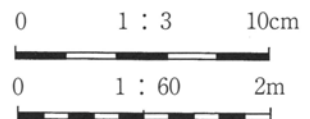
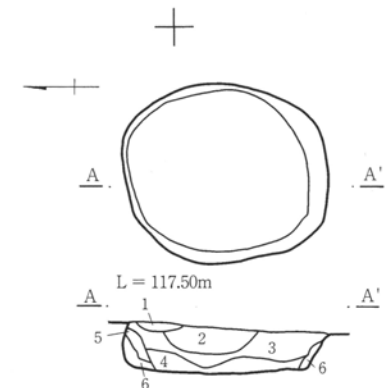
20号土坑

- 1 10YR5/4 におい黄褐色土 ローム土を主体とする。As-OP1らしい灰色軽石微量。As-YPらしい黄褐色スコリア微量。炭化物粒微量。締まっています硬質。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土にローム混じり。径1cmから2cmのロームブロック少量混入。As-OP1らしい灰白色スコリア多量、As-YPらしい黄褐色スコリア微量混入。炭化物粒少量混入。締まっています硬質。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土にローム混じり。径2cmから4cmのロームブロック混入。As-OP1らしい灰白色スコリア多量、As-YPらしい黄褐色スコリア微量混入。炭化物粒少量混入。2層より黒色味やや強い。締まっています硬質。
- 4 10YR4/4 褐色土 ローム土を主体とする。径1cmから2cmのロームブロック少量混入。As-OP1らしい灰白色スコリア微量。締まっているが粘性があり、やや軟質。
- 5 10YR5/6 黄褐色土 ローム土を主体とし、ローム粒少量混入。炭化物粒微量混入。やや軟質で粘性がある。
- 6 10YR5/6 黄褐色土 ローム土を主体とし、径1cmのロームブロックを微量混入。締まっている。

21号土坑

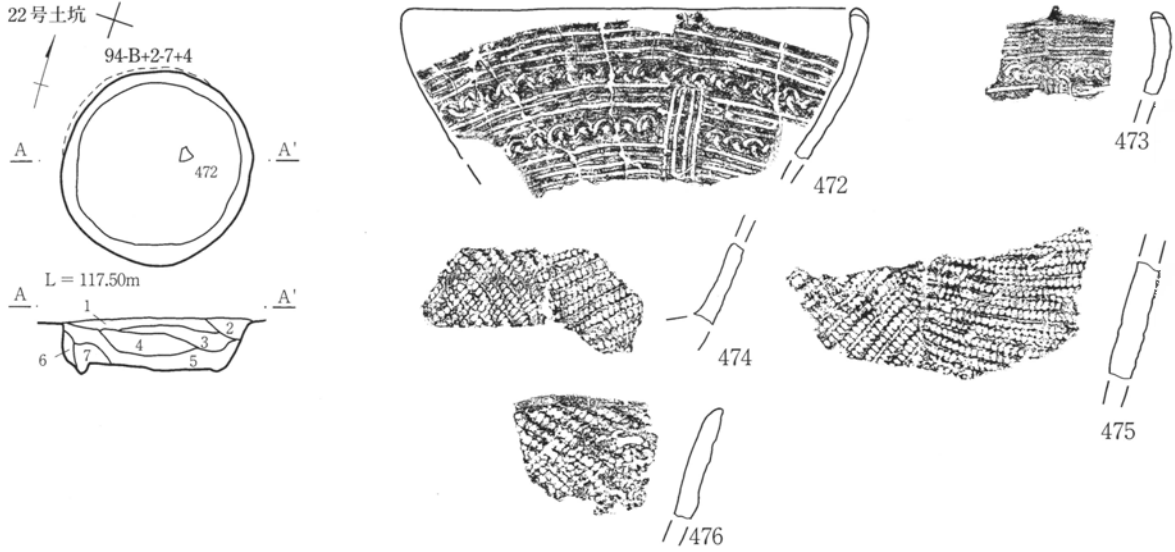
- 1 10YR5/6 黄褐色土 ローム土を主体とする。炭化物粒微量。As-OP1らしい灰白色スコリア少量。締まっている。
- 2 10YR4/4 褐色土 暗褐色土を主体とし、径1cmのロームブロック少量、炭化物粒少量、As-OP1らしい灰白色スコリア混入。As-YPらしい黄褐色スコリア少量。締まっています硬質。
- 3 10YR5/4 におい黄褐色土 ローム土を主体とし、径0.5cmから1cmのロームブロック少量、炭化物粒微量、As-OP1らしい灰白色スコリア混入。As-YPらしい黄褐色スコリア微量。締まっています硬質。
- 4 10YR5/4 におい黄褐色土 ローム土と暗褐色土の混土。炭化物粒微量。As-OP1らしい灰白色スコリア少量。ローム粒少量。締まっています硬質。
- 5 10YR6/6 明黄褐色土 ローム土を主体とする。炭化物粒微量、As-YPらしい黄褐色スコリア微量。締まっています粘性あり。
- 6 10YR6/8 明黄褐色土 ローム土を主体とする。As-OP1らしい灰白色スコリア微量。締まっています粘性あり。

21号土坑



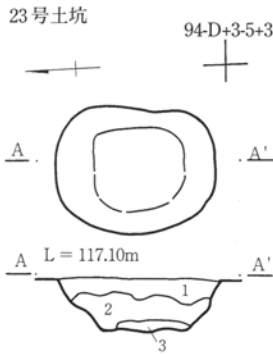
第85図 土坑8 (19～21号土坑)

2 土坑・埋設土器



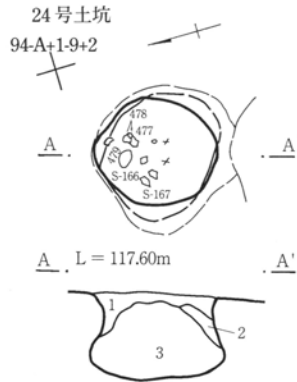
22号土坑

- 1 7.5YR4/4 褐色土 ローム土を主体とし、径1cmから3cmの崩れたロームブロック混入。炭化物粒微量、As-OP1らしい灰白色スコリア混入、As-YPらしい黄褐色スコリア微量混入。硬質で締まっている。
- 2 10YR5/6 黄褐色土 ローム土を主体とし、径2cmから3cmのロームブロック少量、炭化物粒微量、As-OP1らしい灰白色スコリア少量混入。締まっていて硬質。
- 3 7.5YR3/4 暗褐色土 暗褐色土を主体とし、径1cmの崩れたロームブロック混入。炭化物粒微量、As-OP1らしい灰白色スコリア少量、As-YPらしい黄褐色スコリア微量混入。締まっていて硬質。
- 4 7.5YR3/3 暗褐色土 暗褐色土を主体とし、ローム粒混入。径2cmから3cmのロームブロック微量、炭化物粒混入。As-OP1らしい灰白色スコリア多量。締まっていて硬質。
- 5 7.5YR4/3 褐色土 ローム土を主体とし、径1cmから4cmのロームブロック少量、炭化物粒微量、As-OP1らしい灰白色スコリア混入。
- 6 10YR5/6 黄褐色土 ローム土を主体とする。As-OP1らしい灰白色スコリア微量。締まっていて硬質。
- 7 7.5YR4/4 褐色土 暗褐色土を主体とする。径1cmのロームブロック少量、As-OP1らしい灰白色スコリア混入。締まっていて硬質。



23号土坑

- 1 10YR4/6 褐色土 ローム暗褐色土混じり。As-OP1、As-YPらしき軽石が混じる。ソフトロームの土に近い。
- 2 10YR4/4 褐色土 暗褐色土にローム粒混じる。As-OP1、As-YPらしき軽石少しあり。ロームブロックわずかにあり。やや軟質。
- 3 10YR4/4-4/6 褐色土 2層に近いが2層よりややローム分多い。ロームブロックを多く含む。



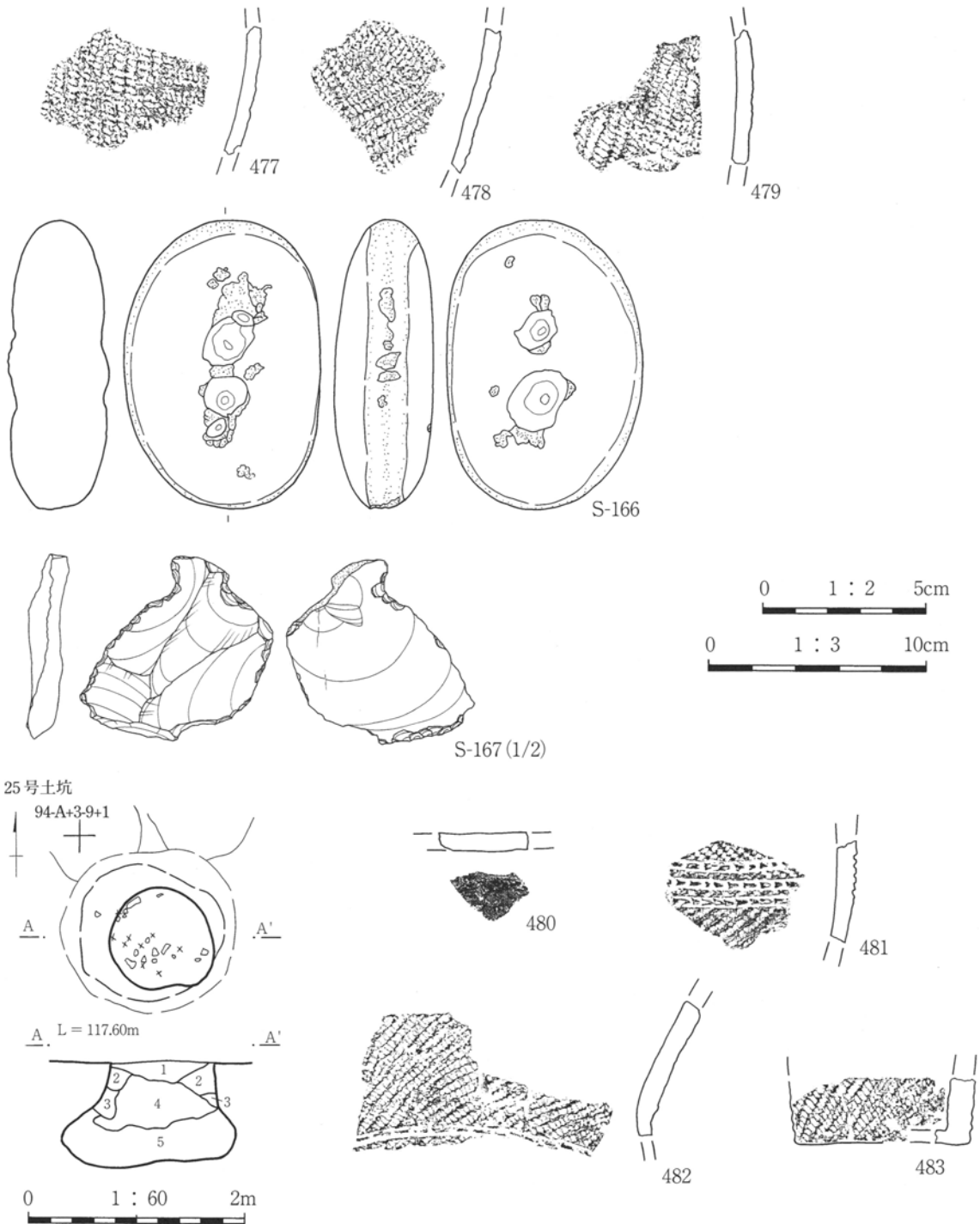
24号土坑

- 1 10YR4/4-4/6 褐色土 暗褐色土ローム混じり。As-OP1らしき軽石を含む。炭化物片少し混じる。締まりよし。
- 2 10YR4/6 褐色土 ローム暗褐色土混じり。ロームブロックを含む。1層よりローム分が多い。
- 3 10YR4/4 褐色-10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土にローム混じり。As-OP1らしき軽石を含む。1層より炭化物を多く含む。

0 1 : 3 10cm

0 1 : 60 2m

第86図 土坑9 (22～24号土坑)



25号土坑

- | | |
|---|---|
| <p>1 10YR4/6 褐色土 ローム暗褐色土混じり。As-OP1、As-YPらしき軽石を含む。炭化物少しあり。しまりよし。</p> <p>2 10YR4/4-10YR4/6 褐色土 1層より少し暗い土。暗褐色土ローム混じり。炭化物片少しあり。As-OP1らしき軽石あり。締まりやや軟。</p> <p>3 10YR4/4 褐色土 2層よりさらに少し暗い。ロームブロックを含む。炭化物片少しあり。As-OP1らしき軽石あり。2層よりさらに軟。</p> | <p>4 10YR3/3-3/4 暗褐色土 暗褐色土にローム粒少し混じる。斑状のロームブロック上位に少しあり。As-OP1、As-YPらしき軽石を含む。炭化物片を含む。2、3層より締まる。</p> <p>5 7.5YR4/6 褐色土 ローム、暗褐色土混じり。やや赤みのある土。As-OP1、As-YP、As-BPらしき軽石少しあり。炭化物片少しあり。</p> |
|---|---|

第87図 土坑10 (24号土坑出土遺物・25号土坑)

2 土坑・埋設土器

5mmの半截竹管による平行沈線文3条を横位施文、沈線内に爪形文が充填される。482は単節RLの斜行縄文を地文として、巾5mmの半截竹管による平行沈線文内に爪形文が充填される。483は単節LRの斜行縄文。484は単節RLの斜行縄文で、巾5mmの半截竹管による平行沈線文内に爪形文をやや雑に刺突する。485は口縁部破片で、無節RLの斜行縄文を地文とする。

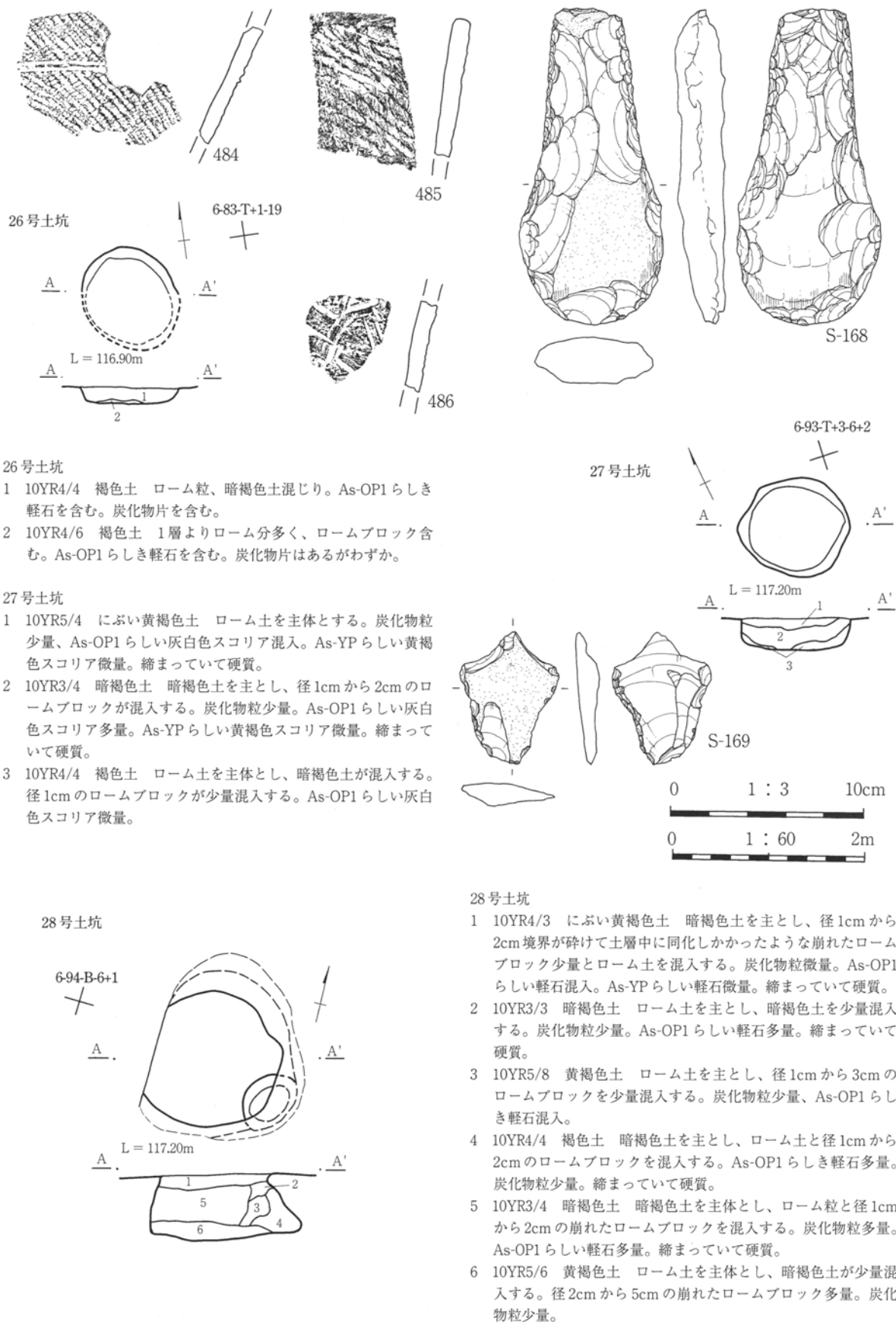
26号土坑 6-83-T-19グリッド 確認面標高116.8m。南北に長径を置く小判形の平面形を呈す。断面はやや深い皿状。確認最大深0.2m。覆土はローム分の多い褐色土で、炭化物を少量含む。覆土中から486が出土している。巾8mmの半截竹管による沈線文を地文とする。黒浜式。

27号土坑 6-94-A-5グリッド 確認面標高117.1m。わずかに東西方向に長い、ほぼ円形の平面形を呈す。長軸長1.16m、短軸長1.0m。断面形はほぼ箱形で、底面は緩やかに窪む。覆土上層及び下層はローム分が多く、中位に暗褐色土が堆積する。中・上位に炭化物を少量含む。覆土から黒色頁岩製のスクレーパーが出土している。

28号土坑 6-94-A-6グリッド 確認面標高117.1m。比較的大型の袋状土坑。西部を攪乱に切られる。確認面では径1.44mの、ややいびつな円形の平面形を呈する。底面では特に北側と東側が大きく掘り込まれ、北側では上端部北端から0.44mほど張り出す。最大径1.96m。断面形は台形を呈する。覆土の下位はロームブロックを多く含み、上位は地山ロームと似た締まった黄褐色土、中位には少量ながら炭化物粒を含む暗褐色土がある。この土坑に伴う出土遺物はない。

29号土坑 6-94-A.B-10グリッド 確認面標高117.6m。確認面での平面形は東西に長軸を持つ楕円形を呈するが、西部にテラス状の中段を持っている。一段深い部分はほぼ円形の平面形となる。上端部長軸長1.44m、短軸長1.16m、テラス部最大幅0.34m、確認最大深0.94m。覆土は中位に炭化物粒を多く含む暗褐色から黒褐色土があり、ここから遺物が出土する。上下層の覆土はロームを主体とする。499は高台を持つ有尾式の浅鉢。波状口縁で、口縁と体部の境に隆線文が一条貼付される。復元口径26cm。現高16.1cm。487-498は黒浜式。498は単節LR、RLの羽状縄文を地文として、胴部と口縁部の境界および口縁部に沿って巾6mmの半截竹管による平行沈線文が2条対で施文される。沈線内には爪形文が充填されている。487は単節LR、RLの羽状縄文を地文とし、巾5mmの半截竹管による平行沈線文内に爪形文が充填される。爪形文はLrとRlの境で左右対称に施文される。488から496は同一個体で、単節LR、RLの羽状縄文を地文とする。巾5.5mmの半截竹管による平行沈線文内に爪形文を充填する。492は単節LR、RLの羽状縄文を地文とする。493は巾4mmの半截竹管による沈線文によって肋骨状のモチーフが構成される。497は単節LR、RLの羽状縄文。内面はよく研磨されている。石器は2点あり、S170は尖頭器、S171はくさび形石器とともにチャート製である。

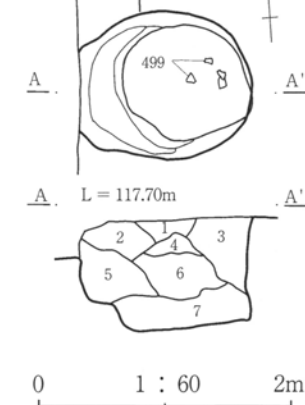
30号土坑 6-84-B-19グリッド 確認面標高116.9m。径0.9mの円形土坑。断面形は皿状で底部は波打つような凹凸がある。覆土は上位が暗褐色土、下位はロームを主体とし、ともに炭化物粒を少量含む。この土坑に伴う出土遺物はない。



第88図 土坑11 (25号土坑出土物遺物・26～28号土坑)

2 土坑・埋設土器

29号土坑 194-B-10+4



29号土坑

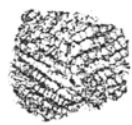
- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ロームを主体とし、径1cmから2cmの崩れかかったロームブロック微量、炭化物粒少量、As-OP1らしい軽石多量、As-YPらしい軽石微量。しまりあり。
- 2 10YR5/6 黄褐色土 ロームを主体とし、径1cmから3cmのロームブロック混入。炭化物粒少量、As-OP1らしい軽石混入。締まり強い。
- 3 10YR4/4 褐色土 暗褐色土を主体とし、ローム粒と径2cmから3cmのロームブロック混入。炭化物粒少量、As-OP1らしい軽石少量。締まり強い。
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色土 暗褐色土とロームの混合土。炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石多量。締まり強い。
- 5 10YR4/4 褐色土 3層よりやや暗い。暗褐色土を主体とし、径1cmから2cmのロームブロック少量、炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石混入。締まり強い。
- 6 10YR3/2 黒褐色土 暗褐色土を主体とする。炭化物粒多量、As-OP1らしい軽石混入、径2cmから3cmのロームブロック微量。締まり強い。
- 7 10YR4/6 褐色土 ローム土を主体とし、径1cmのロームブロック少量、炭化物粒微量。締まりやや弱く、やや粘性あり。



490



491



492



493



494



495



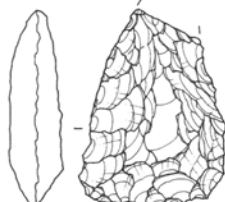
496



497



498



S-170 (1/1)



499 (1/4)

0 1 : 4 10cm

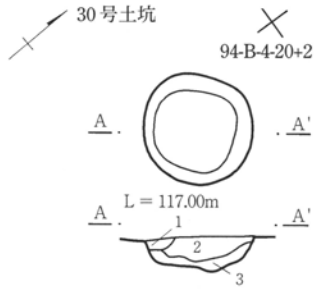
0 1 : 3 10cm



S-171 (1/1)

0 1 : 1 3cm

第89図 土坑12 (29号土坑)

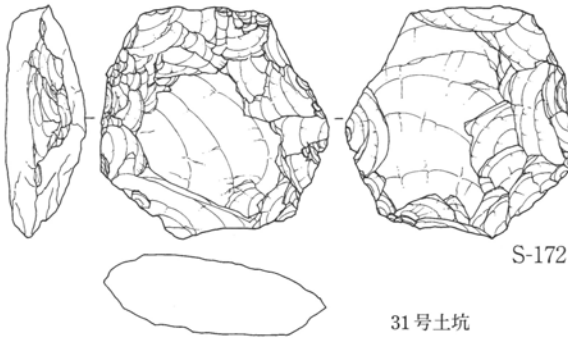
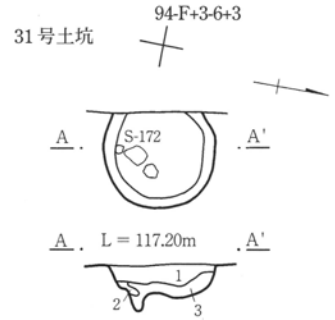


30号土坑

- 1 10YR5/6 黄褐色土 ローム土を主体とする。炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石混入。締まり強い。
- 2 10YR4/4 褐色土 暗褐色土を主体とし、ローム粒と径1cmから2cmのロームブロック混入。炭化物粒少量、As-OP1らしい軽石混入。
- 3 10YR5/8 黄褐色土 ローム土を主体とする。径1cmから3cmのロームブロック少量、炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石微量混入。

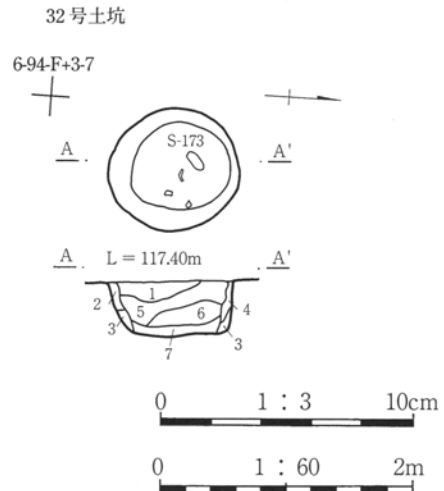
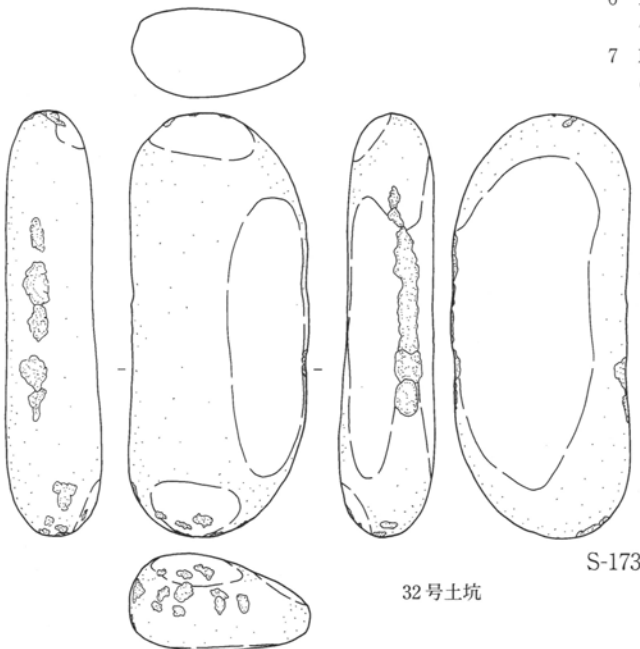
31号土坑

- 1 10YR5/6 黄褐色土 ローム土を主体とする。炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石混入。締まり強い。
- 2 10YR4/4 褐色土 暗褐色土を主体とし、ローム粒と径1cmから2cmのロームブロック混入。炭化物粒少量、As-OP1らしい軽石混入。
- 3 10YR5/8 黄褐色土 ローム土を主体とする。径1cmから3cmのロームブロック少量、炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石微量混入。



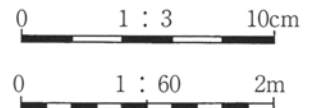
32号土坑

- 1 10YR3/3 暗褐色土 他の土坑に見られる暗褐色土よりやや黒みが強い10YR3/1黒褐色土を主体とする。炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石多量。締まり強い。
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ロームを主体とし、ローム粒少量、径1cmのロームブロック微量を混入。締まりあり。
- 3 10YR4/4 褐色土 暗褐色土を主体とし、ローム粒混入。炭化物粒微量。締まりあり。
- 4 10YR4/4 褐色土 ロームを主体とし、ローム粒少量、径1cmのロームブロック微量を混入。締まりあり。As-OP1らしい軽石少量。
- 5 10YR3/2 黒褐色土 黒褐色土とローム土との混合土。径1cmから2cmの崩れたロームブロック少量、炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石混入、As-YPらしい軽石微量。締まり強い。
- 6 10YR3/3 暗褐色土 ロームを主体とする。ローム粒少量、炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石微量。締まり強い。
- 7 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土を主体とする。径1cmから3cmの崩れたロームブロック微量、炭化物粒微量。しまりあり。



31号土坑

S-173



第90図 土坑13 (30～32号土坑)

2 土坑・埋設土器

31号土坑 6-94-F-6グリッド 確認面標高117.0m。西部が調査区域外となるが、径0.87mの円形の平面形を呈する。底面は中央部が低くなる皿状で、南部に径0.14m、深さ0.15mほどの小ピットがある。覆土は上位が黒褐色土、下位はロームを主体とする。底面近くに角礫と黒色頁岩製の打製石斧かと思われる礫石器がある。

32号土坑 6-94-F-7グリッド 確認面標高117.3m。径1.0mのほぼ円形の平面形を呈する。南壁がやや緩く立ち上がり、断面形は偏った逆台形状を呈する。確認最大深0.21m。覆土は他の縄文時代土坑に比してやや黒みが強い。粗粒輝石安山岩製の棒状磨石が出土している。

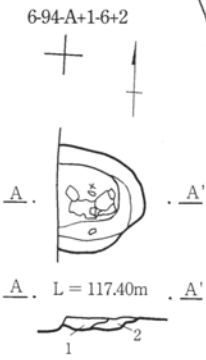
33号土坑 6-94-A-6グリッド 確認面標高117.2m。西半を失っているため全形は確認できない。南北長0.82m、東西確認長0.7m。やや東西に長い楕円形の平面形だろう。確認最大深は0.1mほどしかなく、底部近くのみが残ったものである。覆土は暗褐色土及び汚れたローム。500は有尾式深鉢の口縁部で1/3ほどが残っている。単節LR、RLの羽状縄文を地文とする。

34号土坑 6-93-T-6/6-94-A-6グリッド 確認面標高117.2m。44号土坑を切る。この遺跡内では大型の袋状土坑。確認面での口径は0.86mほど。底部での最大径は2.38mほどある。確認最大深は0.86m。袋部最奥は直立あるいはやや上方に開き気味に立ち、0.3mから0.4mほどの壁となる。底面は中央がやや盛り上がり気味になるが、暗色帯中であって締まりが弱く、必ずしも明確にはとらえられていない。覆土は底面近くで中央部が上がりるように堆積した褐色土から周囲に流れ落ちるような傾きを持って暗褐色土が堆積する。この層には草本の茎部と思われる炭化物の細片が多く含まれ、出土遺物もこの層の上位から集中的に出土している。501は単節LR、RLが菱形羽状縄文を構成する。復元口径36.4cm。現高14.2cm。有尾式。502は0段多条からなる単節LR、RLが羽状縄文を構成する。巾7mmの半截竹管によるコンパス文を付す。黒浜式。503は平底で器壁は比較的薄い。復元底径12.6cm。現高6.2cm。地文は単節LR、RLの羽状縄文。黒浜式。504は波状口縁の破片で、巾6～7mmの半截竹管による集合沈線。コンパス文。黒浜式。505は巾5mmの半截竹管による平行沈線文。コンパス文。黒浜式。506は単節LRの斜行縄文を地文とする。有尾式。507は無節RLの斜行縄文を地文とする黒浜式。508は附加条1種RL+rを縦横に施文し、羽状縄文を構成する。有尾式。509は単節LR、RLの羽状縄文、510は単節LRの斜行縄文を地文とする。ともに黒浜式。511、512は地文は単節RLの斜行縄文。有尾式。513は若干風化が見られる。地文は0段多条からなる単節LRの斜行縄文。花積下層式だろう。514は単節LR、RLの羽状縄文を地文とする。有尾式。515から517は地文に単節LR、RLの羽状縄文が見られる。516は全体的に風化が進み、割れ口も人為的に調整したものか風化で摩滅したのか不明だが、土製円盤の可能性もある。ともに黒浜式。S174は丸鑿状の不定形石器で、黒色頁岩製である。

35号土坑 6-94-A.B-9グリッド 確認面標高117.2m。直径1.05mの円形の平面形を呈する。南半の底面がややえぐれているが、袋状を呈するものではないようだ。覆土は汚れたロームを主体とし、下位に炭化物粒をわずかに含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

36号土坑 6-93-C-20/6-94-C-1グリッド 確認面標高116.8m。円形平面の土坑。直径1.0m、確認最大深0.18m。断面形は箱形で、壁はまっすぐに立ち上がる。覆土はロームと暗褐色から黒褐色土の混土で、炭化物粒をわずかに含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

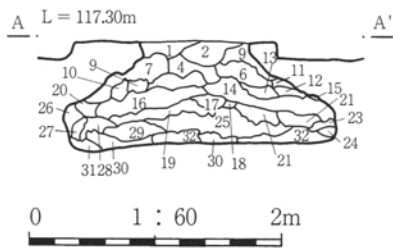
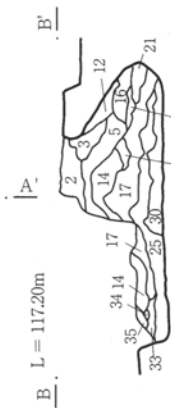
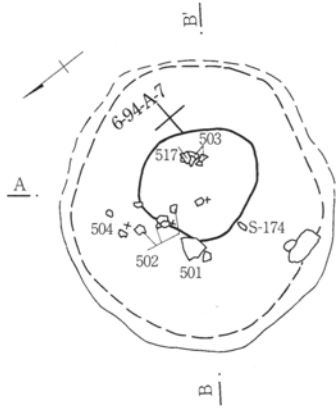
33号土坑



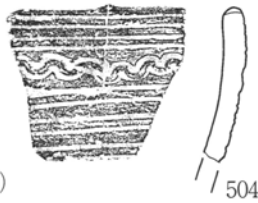
33号土坑

- 1 10YR4/4 褐色土 暗褐色土主体でロームが少量混入する。炭化物粒微量、As-OP1、As-YPらしい軽石微量。締まり強い。
- 2 10YR5/6 黄褐色土 ローム主体。炭化物粒微量。締まり強い。

34号土坑



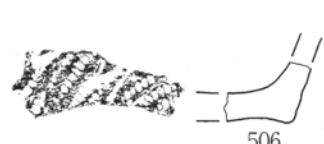
503 (1/4)



504



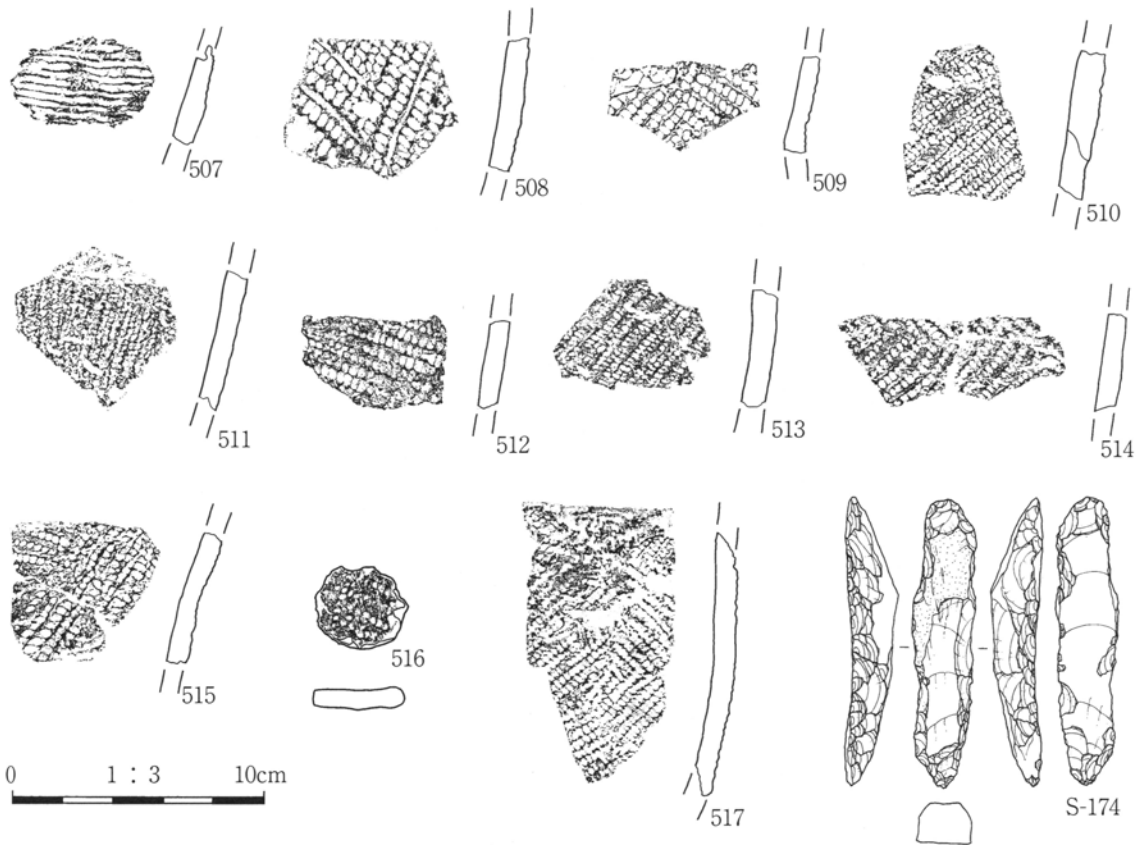
505



506

第91図 土坑14 (33～34号土坑)

2 土坑・埋設土器

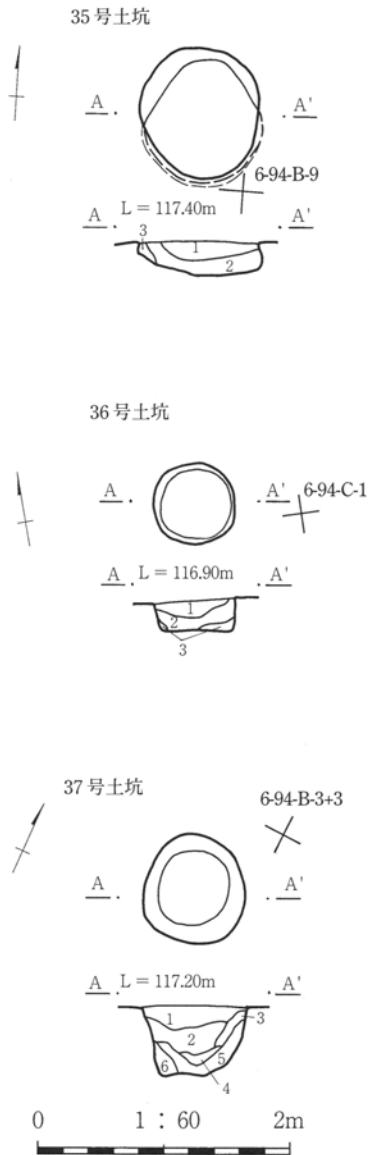


34号土坑

- 1 10YR5/6 黄褐色土 黄褐色土 3層に近いが炭化物多い。硬く締まっている。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム斑を多く含む。炭化物粒含むが7層、8層より少ない。土器片少量入る。やや粘質。締まっている。
- 3 10YR5/8 黄褐色土 地山のAs-BP相当層から暗色帯への漸移層に近いが、炭化物細粒を含む(6層より少なく細かい炭)。硬く締まっている。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 As-BP、As-OP1粒含む。焼土粒少量含む。炭化物粒含む。10YR4/6褐色土(ロームやや多い)の斑を含む。締まっている。
- 5 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒含む。As-OP1と思われる白色軽石粒含む。炭化物多く含む。ローム粒が多いので7層より明るく見える。炭化物は7層よりやや大きい。やや砂質、しまり強い。
- 6 10YR5/6 黄褐色土 13層よりローム粒多い。As-BP、As-OP1含む。炭化物は13層より少ないが細粒が多い。やや締まっている。
- 7 10YR5/8 黄褐色土 崩れたAs-OP1相当層のハードロームブロックを主とする。全体に炭化物粒を含む。As-BP粒少量含む。締まっている。
- 8 10YR3/3 暗褐色土 As-BP、As-OP1パミス含む。炭化物含む。固く締まっている。
- 9 10YR4/4 褐色土 As-BP、As-OP1粒含む。炭化物粒含む。焼土粒少量含む。締まっている。
- 10 10YR4/4 褐色土 9に似るがローム少なくやや暗い。固く締まっている。
- 11 As-BP相当層の地山ロームの崩れたブロック
- 12 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(As-BP、As-OP1含む)炭化物粒含む。締まっている。
- 13 10YR4/6 褐色土 As-BP、As-OP1のパミス、ローム粒含む。炭化物粒多く含む。炭化物は細粒~微粒、14層より少なく細かい。締まっている。
- 14 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、炭化物粒を多く含む。炭化物は直径5mm以下の細かい破片で、草本の茎が多いように見える。粘性弱い。しまりやや強い。土器はこの層の上位に集中
- 15 As-BP相当層の地山ローム層の崩れたブロック。12層と混じり合う。As-BP軽石多く含む。
- 16 10YR3/4 暗褐色土 As-OP1多くAs-BP少量含む。炭化物粒を多く含む。14層に近いが炭化物はより多い。土器を含む主体的な層。締まっている。
- 17 7.5YR4/6 褐色土 10YR5/6黄褐色土の円形斑含む。炭化物を25層より多く含むため、より暗く見える。粘質やや弱い。やや締まっている。
- 18 10YR4/6 褐色土 ほぼ25層と同じだが、炭化物を含まずブロック状に入り込む。
- 19 10YR4/6 褐色土 25層に似るが10YR5/6黄褐色土斑が少なく、炭化物量多くなる。
- 20 10YR4/6 褐色土 As-BP、As-OP1炭化物ともごく少量しか含まない。肌理のそろった層。締まりやや弱い。
- 21 7.5YR4/4 再堆積ロームの斑を含む。As-OP1と思われる白色粒混入。直径5mmほどの炭化材含む。炭化物粒含む。締まりやや弱い。

第92図 土坑15(34号土坑出土遺物)

- 22 10YR4/6 褐色土 23層と14層の間中間的な層相。炭化物粒含む。締まり弱い。
- 23 10YR4/6 褐色土 地山のAs-BP相当層から暗色帯への漸移層の崩れた土と21層の斑が混じる。24層より炭化物粒多いが、21層ほど大粒ではない。締まりやや弱い。
- 24 10YR4/6 褐色土 再堆積ローム 地山のAs-BP相当層から暗色帯への漸移層が崩れたもの。炭化物粒をごく少量含む。締まり弱い。
- 25 10YR4/6 褐色土 10YR5/6黄褐色土の円形斑含む。炭化物は1層より大きく形状のわかる破片もある。粘質やや強い。締まりやや弱い。
- 26 7.5YR4/6 暗色帯の崩れたものと、As-BP相当層から暗色帯への漸移層の斑の混土、炭化物少量含む。
- 27 7.5YR4/6 暗色帯の崩れたもの少量の炭化物を含む。量は少ないが、木片としてとらえられるものあり。
- 28 10YR4/6 褐色土 地山As-BP相当層から暗色帯への漸移層の崩れたものが主体、炭化物少量含む。あまり汚れていない。締まりやや弱い。
- 29 10YR4/6 褐色土 地山のAs-BP相当層から暗色帯への漸移層の崩れたものが主体、炭化物少量含む。焼土粒少量含む。締まりやや弱い。
- 30 10YR4/6 褐色土 白色軽石粒(As-BPかAs-OP1か判別できない)炭化物細粒含む。ハードローム斑含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 31 7.5YR4/6 暗色帯中心、炭化物を少量含む。締まりやや弱い。(掘りすぎかと思われたが、壁はしっかりしている)
- 32 暗色帯が多く含まれる。しまり30層より弱い。
- 33 10YR4/6 褐色土 長さ1cm程度のやや大きな炭化物を含む。他は混入物ごく少なく均質。粘性やや強い。しまり普通。
- 34 10YR4/6 褐色土 33層に似るが、炭化物を含まない。
- 35 10YR4/6 褐色土 30層に近いが締まりやや弱い。



- 35号土坑
- 1 10YR4/4 褐色土 ロームを主体とし、炭化物粒少量混入する。As-OP1らしい軽石混入。締まり強い。
 - 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームを主体とし、ローム粒少量混入。炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石微量。締まり強い。
 - 3 10YR4/6 褐色土 ロームを主体とし、ローム粒微量。締まりあり。

- 36号土坑
- 1 10YR3/4 暗褐色土 10YR3/3暗褐色土とロームの混土。炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石混入、As-YPらしい軽石微量。締まり強い。
 - 2 10YR3/3 暗褐色土 10YR3/2黒褐色土を主体とし、径1cmのロームブロック少量とローム粒を混入。炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石少量。締まり強い。
 - 3 10YR5/6 黄褐色土 ロームを主体とする。径1cmのロームブロック少量、As-OP1らしい軽石微量。締まり強い。

- 37号土坑
- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ロームを主体とする。径3cmから6cmの黒褐色土ブロック、As-OP1らしき軽石混入。締まっている。
 - 2 10YR3/3 暗褐色土 暗褐色土を主とし、ローム粒少量混入。炭化物微量、As-OP1らしき軽石多量。締まっている。
 - 3 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ロームを主体とし、ローム粒少量、As-OP1らしき軽石微量混入。締まりやや弱く粘性がある。
 - 4 10YR3/3 暗褐色土 暗褐色土を主体、ローム粒少量、As-OP1らしき軽石少量。締まっている。
 - 5 10YR5/6 黄褐色土 ロームを主体とし、径1cmから2cmの崩れたロームブロック微量。締まっている。
 - 6 10YR4/3 にぶい黄褐色土 2層よりやや暗い。ロームを主体とし、径1cmのロームブロック微量、As-OP1らしき軽石微量。

第93図 土坑16 (35～37号土坑)

2 土坑・埋設土器

37号土坑 6-94-B-3 グリッド 確認面標高 117.1m。円形平面の土坑。最大径 0.87m、確認最大深 0.54m。底部は木根に攪乱されているが、断面形はU字状を呈する。覆土は中位に暗褐色土があり、上、下位はロームを主体とした黄褐色土。この土坑に伴う出土遺物はない。

38号土坑 6-94-A-3 グリッド 確認面標高 117.1m。確認面では径 1m の円形、底面近くでは南北にやや長い、最大径 1.2m の歪んだ円形の平面形を呈する。確認最大深 0.38m。小型の袋状土坑。覆土下位はローム主体で、袋部天井の崩落と見られる土の堆積もある。中位に黒褐色土が堆積するが、堆積状況から見ると袋状土坑の埋没後に手が加えられているかもしれない。この土坑に伴う出土遺物はない。

39号土坑 6-94-A.B-4 グリッド 確認面標高 117.1m。直径 0.7m の円形の平面形を呈する。確認最大深 0.25m で、深い皿状の断面形。覆土はロームを主体とし、炭化物粒をわずかに含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

40号土坑 6-94-B-4 グリッド 確認面標高 117.0m。径 0.7m の、ややいびつな円形の平面形を呈する。確認最大深 0.16m。断面形は皿状でゆるい丸底。覆土はロームを主体とし炭化物粒をわずかに含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

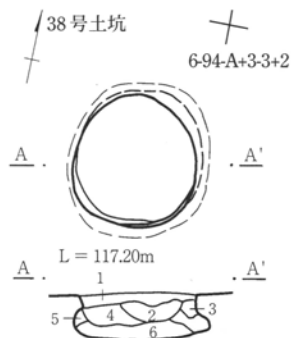
41号土坑 6-93-T-6.7 グリッド 確認面標高 117.2m。袋状土坑。86m、南北 0.68m の扁円形の平面形を呈す。最大径位置では直径 1.1m ほどの円形平面となる。確認最大深 0.37m。覆土は上位、下位がローム土を主体とし、中位に炭化物粒を含む暗褐色土がある。黒浜式土器片が出土している。518 は平底の深鉢の胴部下位から底部にかけての破片。無節 Lr、Rl の羽状縄文を地文とする。519 は単節 LR、RL の羽状縄文を地文とする。

42号土坑 6-94-A-6.7 グリッド 確認面標高 117.2m。袋状土坑の底部近くが残存したものと思われる。確認面では径 0.88m の円形平面で、底部近くで東西方向にわずかに広がりを見せ、東西長 0.98m の扁円形となる。覆土はロームを主体とする褐色から明褐色土で、わずかに炭化物粒を含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

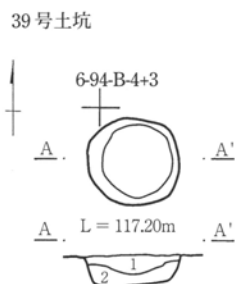
43号土坑 6-93-T-3 グリッド 確認面標高 117.0m。袋状土坑。確認面での上端径 0.86m、最大径 1.07m。やや東西に長いほぼ円形の平面形を呈する。確認最大深 0.51m。底面は中央がやや低くなる皿状。ローム主体の褐色土が西側から流れ込んだ後に暗褐色土が堆積する。最上位は地山ロームに近い黄褐色土である。この土坑に伴う出土遺物はない。

44号土坑 6-93-T-6.7 グリッド 確認面標高 117.2m。袋状土坑。34号土坑に切られる。確認面では南北長 1.36m、東西長 1.2m の歪んだ円形平面を呈する。南壁部は34号土坑に切られて変形するが、袋状に掘り込まれ、最大径は 1.48m ある。底面は平らで、確認最大深 0.41m。覆土は上下がロームを主体とする褐色から黄褐色土で、中位に暗褐色土が堆積する。珪質頁岩の石鏃 175 及び黒色頁岩製のスクレーパー S-176 が出土している。

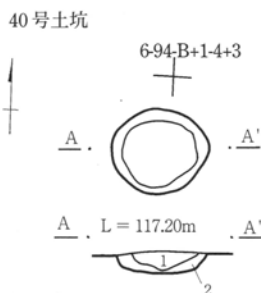
45号土坑 6-94-A-9 グリッド 確認面標高 117.4m。直径 0.9m ほどの円形の平面形を呈する。25号土坑に切られる。断面形は上方にやや開く箱形で、確認最大深 0.28m。壁際にロームを主体とする明褐色土が堆積し、その上に暗褐色土が乗る。この土坑に伴う出土遺物はない。



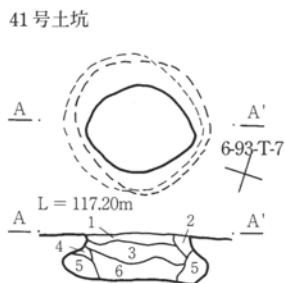
- 38号土坑
- 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ロームを主体とする。炭化物粒混入。As-OP1らしき軽石混入。As-YPらしい軽石微量。締まっている。
 - 10YR3/1 黒褐色土 黒褐色土を主体とし、ロームが少量混入する。炭化物粒多量。As-OP1らしき軽石混入。締まっている。
 - 10YR6/3 にぶい黄褐色土 ロームを主体とする。As-OP1、As-YPらしい軽石微量。締まっている。袋部天井の崩れたもの。
 - 10YR2/4 灰黄褐色土 1層よりやや暗い。ロームを主体とする。炭化物粒少量、径1cmのロームブロック微量。締まり強い。
 - 10YR3/3 暗褐色土 暗褐色土を主体とし、ローム粒が混入。径1cmから2cmのロームブロックを微量混入する。炭化物粒微量。As-OP1らしき軽石微量。締まり強い。
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームを主体とするが、暗褐色土も少量混入する。As-OP1らしき軽石少量。径2cmから3cmのロームブロック微量、炭化物粒少量、As-YPらしい軽石微量。締まり強い。



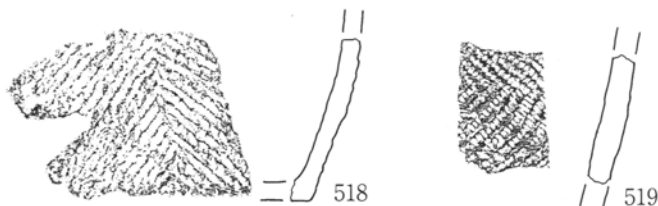
- 39号土坑
- 10YR5/6 黄褐色土 ロームを主体、径1cmから2cmのロームブロック微量、炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石多量に混入。締まり強い。
 - 10YR4/6 褐色土 ロームを主体とし、径1cmのロームブロック微量、炭化物粒とAs-OP1らしい軽石微量。締まり強い。



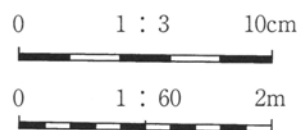
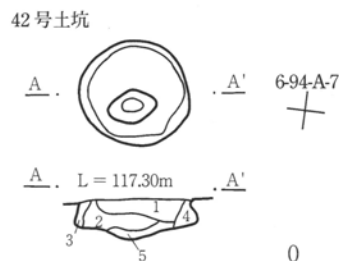
- 40号土坑
- 7.5YR3/3 暗褐色土 ロームを主体とし、暗褐色土が少量混入する。炭化物粒微量、As-OP1らしき軽石混入。締まり強い。
 - 7.5YR4/4 褐色土 ロームを主体とし、径1cmのロームブロック微量を混入。ローム粒少量混入。As-OP1らしき軽石微量。締まり強い。



- 41号土坑
- 7.5YR4/4 褐色土 ロームを主体とし、暗褐色土が混入する。炭化物粒微量、As-YP少量。締まっている。
 - 7.5YR5/6 明褐色土 ロームを主体としローム粒少量混入する。炭化物粒少量。締まりやや弱い。
 - 7.5YR3/3 暗褐色土 暗褐色土を主体とし、ローム少量混入する。ローム粒少量、径2cmから3cmの崩れたロームブロック少量。炭化物粒少量、As-OP1多量、As-YP微量。締まっている。
 - 7.5YR4/3 褐色土 暗褐色土を主体とし、ローム粒混入する。炭化物粒微量。締まっている。
 - 7.5YR4/6 褐色土 ロームを主体とし、暗褐色土とローム粒少量混入する。As-OP1微量。締まりやや弱く粘性ややある。
 - 7.5YR5/8 明褐色土 ロームを主体とし、径1cmから3cmの崩れたロームブロック少量、炭化物粒微量、As-OP1少量、As-YP微量。締まっている。

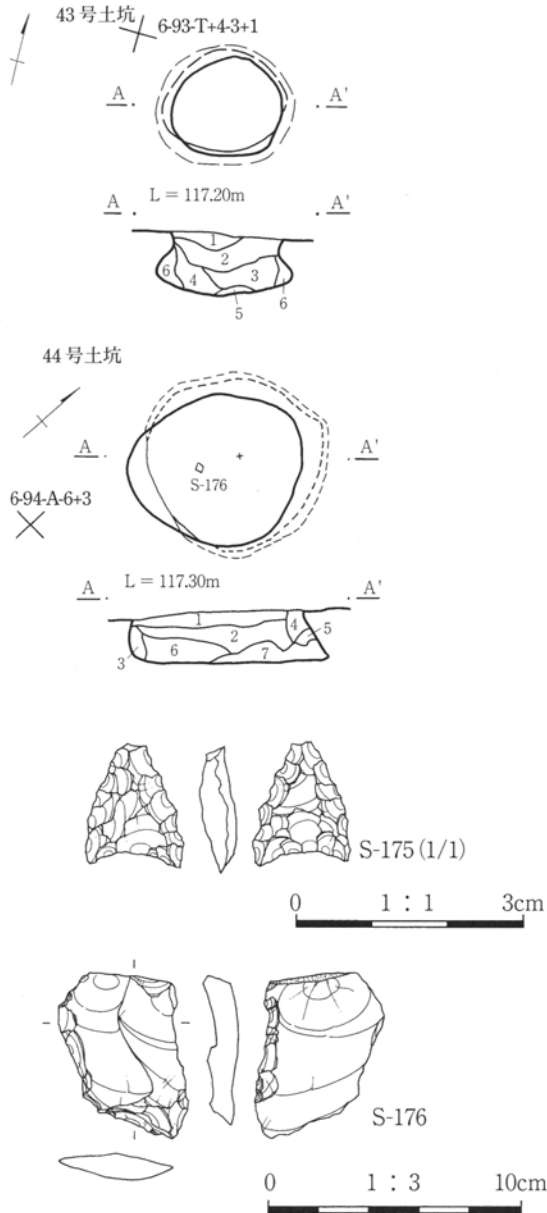


- 42号土坑
- 75YR4/4 褐色土 しまり強い。暗褐色土を主体とする。炭化物粒少量。As-OP1らしい軽石混入、As-YPらしい軽石微量。
 - 75YR4/3 褐色土 しまり強い。暗褐色土を主体とし、ロームが少量混入する。ローム粒少量。炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石混入。
 - 75YR5/6 明褐色土 しまり強い。ロームを主体とする。
 - 75YR4/6 褐色土 しまり強い。ロームを主体とし、明褐色土が混入する。ローム粒少量。炭化物粒。
 - 75YR5/4 にぶい褐色土 しまり強い。ロームを主体とし、ローム粒少量混入する。



第94図 土坑17 (38～42号土坑)

2 土坑・埋設土器



45号土坑

- 75YR4/4 褐色土 しまり強い。暗褐色土主体で、ロームを少量混入する。ロームブロック（径1cm）微量、炭化物粒微量。As-OP1らしい軽石混入、As-YPらしい軽石微量。
- 75YR5/6 明褐色土 しまっている。ローム主体で、暗褐色土を少量混入する。炭化物粒少量。As-OP1らしい軽石微量。2' 2層と同じだが、色調がやや暗い。
- 75YR4/6 褐色土 しまっている。暗褐色土主体で、ロームを混入する。炭化物粒混入、As-OP1らしい軽石混入。

46号土坑

- 10YR4/6 褐色土 しまっている。ローム主体で、暗褐色土がブロック状に混入する。炭化物粒少量、As-OP1らしい軽石混入。
- 10YR4/4 褐色土 しまり強い。ローム主体で、暗褐色土がブロック状に混入する。ロームブロック（径2cmから4cm）微量。炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石多量。

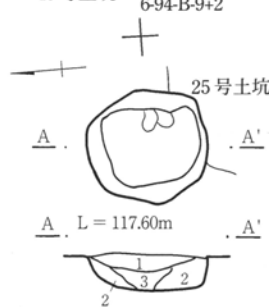
43号土坑

- 10YR5/6 黄褐色土 しまっている。ロームを主体とし、暗褐色土少量混入する。As-OP1らしい軽石少量。暗褐色土ブロック（径2cmから3cm）少量。
- 10YR4/4 褐色土 しまり強い。ロームを主体とし、ロームブロック（径1cmから2cm）微量混入する。炭化物粒少量。As-OP1らしい軽石少量。
- 10YR3/4 暗褐色土 しまり強い。暗褐色土を主体とする。崩れかかったロームブロック（径1cmから3cm）少量。炭化物粒微量。
- 10YR4/4 褐色土 しまり強い。ロームを主体とする。崩れかかったロームブロック（径1cmから3cm）少量。炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石微量。
- 10YR6/8 明黄褐色土 しまりあり。ロームを主体とする。炭化物粒微量。
- 10YR3/3 暗褐色土 しまり強い。ロームを主体とし、ローム粒少量混入。炭化物粒微量。

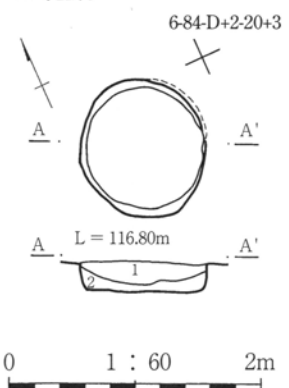
44号土坑

- 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり強い。暗褐色土を主体とし、ロームが混入する。炭化物粒少量。As-OP1らしい軽石多量、As-YPらしい軽石微量。
- 10YR3/3 暗褐色土 しまり強い。暗褐色土を主体とし、ロームブロック（径1cm）少量混入する。炭化物粒混入、As-OP1らしい軽石多量。
- 10YR4/4 褐色土 しまり強い。ロームを主体とする。As-OP1らしい軽石微量、As-YPらしい軽石微量。
- 10YR5/6 黄褐色土 しまり強い。褐色土を主体とし、ロームが混入する。ロームブロック（径1cm）微量、ローム粒少量、炭化物粒少量、As-OP1らしい軽石少量。
- 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまり強い。褐色土を主体とし、ローム粒微量混入。炭化物粒少量、As-OP1らしい軽石混入。
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり強い。褐色土を主体とし、ロームが混入する。ロームブロック（径1cm）微量。炭化物粒少量、As-OP1らしい軽石混入、As-YPらしい軽石微量。
- 10YR5/6 黄褐色土 しまり強い。褐色土を主体とし、ロームが混入する。ローム粒混入。崩れかかったロームブロック（径1cmから2cm）混入、炭化物粒微量。As-OP1らしい軽石混入、As-YPらしい軽石微量。

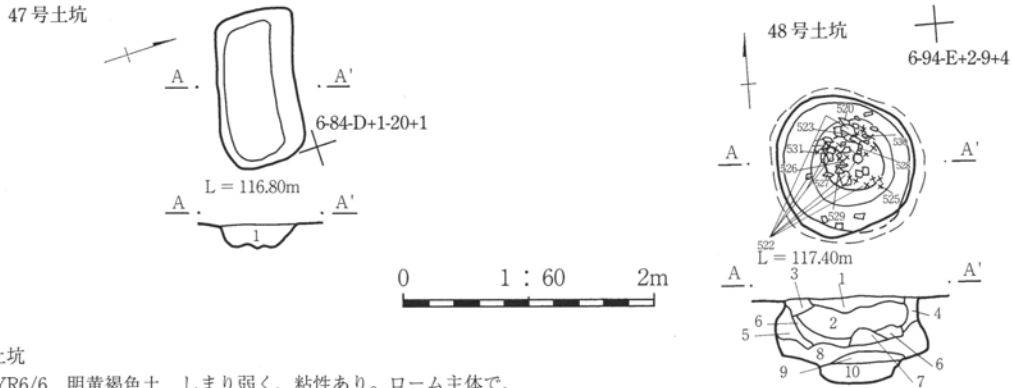
45号土坑



46号土坑

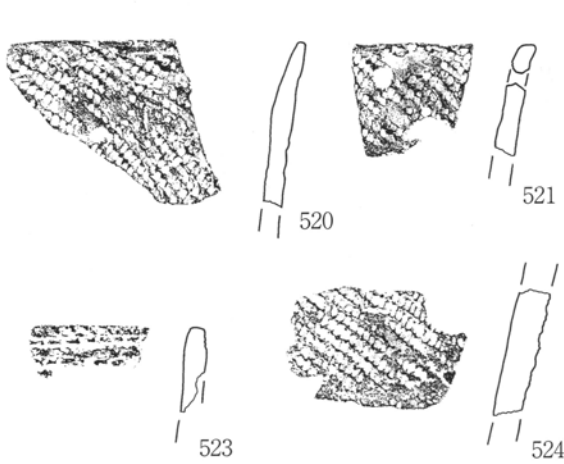


第95図 土坑18 (43～46号土坑)



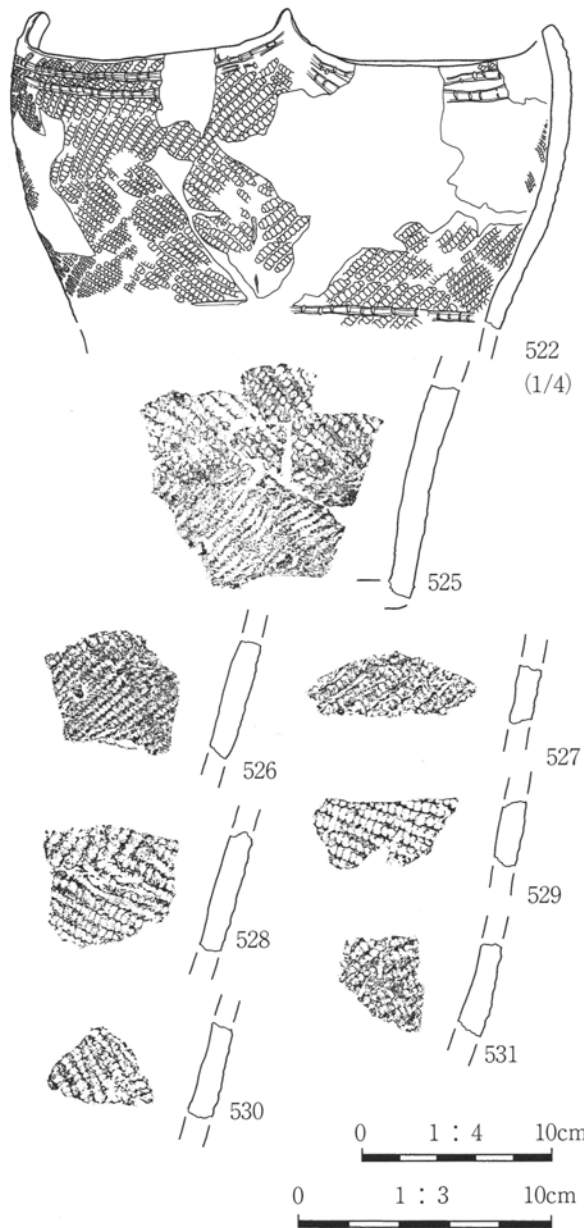
47号土坑

- 1 10YR6/6 明黄褐色土 しまり弱く、粘性あり。ローム主体で、崩れかかったロームブロック（径1cmから2cm）微量、As-OP1とAs-YPらしい軽石微量。炭化物粒はみられなかった。



48号土坑

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり強い。暗褐色土主体。炭化物粒多量、As-OP1らしい軽石多量。
- 2 75YR2/2 (10YRでない 赤味がやや強い) 黒褐色土 しまり強い。黒褐色土主体で、崩れたロームブロック（径2cmから3cm）少量混入。炭化物粒多量、As-OP1らしい軽石少量。
- 3 10YR4/4 褐色土 しまり強い。暗褐色土主体で、ロームが混入する。ロームブロック（径1cm）微量、炭化物粒混入、As-OP1らしい軽石多量。
- 4 10YR4/4 褐色土 しまっている。褐色土を主体で、ロームを混入する。崩れかかったロームブロック（径1cmから2cm）少量、炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石多量。
- 5 10YR5/8 黄褐色土 しまっている。ローム主体。崩れかかったロームブロック（径1cmから2cm）微量混入する。ローム粒少量、炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石混入。
- 6 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまっている。暗褐色土を主体とし、ロームを少量混入する。ローム粒少量、炭化物粒少量、As-OP1らしい軽石混入。
- 7 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまっている。ローム主体。炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石混入。
- 8 10YR6/6 明黄褐色土 しまっている。ローム主体。ロームブロック（径1cmから2cm）微量、炭化物粒微量。As-OP1らしい軽石微量。As-BPらしい軽石少量混入するが、ブロック状に混入する。
- 9 10YR5/8 黄褐色土 しまっている。ローム主体。炭化物粒微量。



第96図 土坑19 (47～48号土坑)

2 土坑・埋設土器

46号土坑 6-94-D-1グリッド 確認面標高116.7m。南北長1.1m、東西長1.0mのわずかに南北に長い円形の平面形を呈する。断面形は箱形で、確認最大深0.23m。覆土は暗褐色土を含むロームを主体とし、炭化物をわずかに含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

47号土坑 6-84-D-20グリッド 確認面標高116.7m。東西長1.24m、南北最大幅0.66mのいびつな長方形の平面形を呈する。確認最大深1.18m。崩れたロームブロックを含む明黄褐色土で埋まり、覆土中に炭化物粒などは見られない。この土坑に伴う出土遺物はない。

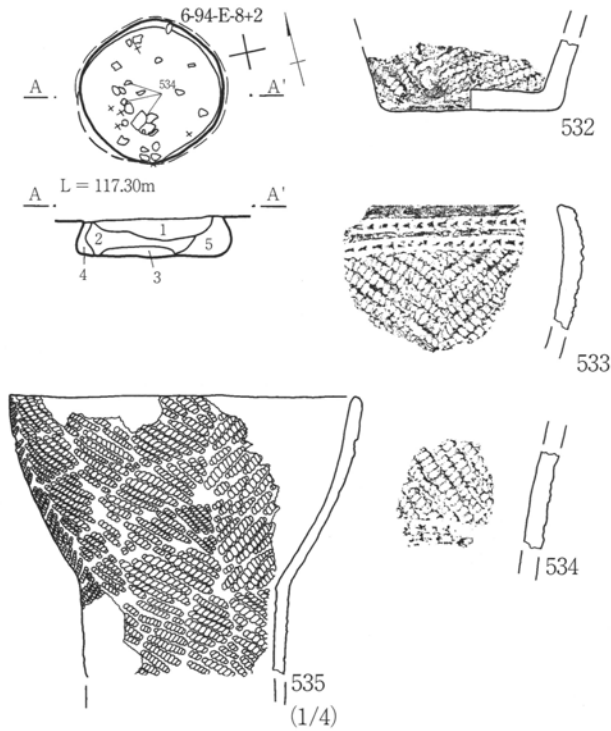
48号土坑 6-94-E-9グリッド 確認面標高117.3。袋状土坑。確認面では径1.1mほどの円形平面で、最大径は1.2mほどある。底部のほぼ中央に径0.66m、深さ0.14mほどの円形平面の掘り込みがある。確認最大深0.67m、袋部の下底までは0.5mほどとなる。覆土の下層は掘り込み部を含めてロームを主体として炭化物をわずかに含む褐色から明褐色土で埋まり、比較的上位にやや赤みを帯びた黒褐色土が堆積する。この層および最上位の覆土には炭化物粒が多く含まれる。土器片も多くは最上位覆土からの出土である。すべて黒浜式土器である。520は不明瞭だが、単節RLの斜行縄文を地文とする。521は単節RLの斜行縄文を地文とし、口縁部に巾8mmの穿孔がある。522、523は同一個体の深鉢形土器。口縁部は4単位の波状口縁で、緩やかに内湾するキャリパー形を呈する。地文は0段多条からなる単節LR、RLが菱形羽状縄文を構成する。波状口縁の単位にあたる部分で縄文が切り替わるが、施文単位の境界には、やや不明瞭ながら沈線が垂下することが胴部破片で確認できる。巾5mmの半截竹管による平行沈線文が口縁に沿って2条対、胴部に1条施文され、沈線内には爪形文が充填される。524から526は同一個体で、単節LR、RLの羽状縄文を地文とする。527、528と530、531は同一個体で、地文は0段多条からなる単節LR、RLが羽状縄文を構成する。内面はよく研磨されている。529は単節RLの斜行縄文を地文とする。

49号土坑 6-94-E-8グリッド 確認面標高117.2m。袋状土坑。確認面での径1.12m、最大径1.24mの円形の平面形を呈する。確認最大深は0.3m。覆土の下位はロームを主体とし、上位は暗褐色土が主体。炭化物粒をわずかに含む。床面からは浮いた状態で礫、石片及び土器が出土している。532は単節LR、RLの羽状縄文を地文とする。復元底径7.0cm。現高2.8cm。533、534は同一個体で口縁は緩やかに内湾する。地文は単節LR、RLの羽状縄文。口縁に沿って巾6mmの半截竹管による平行沈線文2条対が施文され、沈線内には爪形文が充填される。535は小振りの深鉢で、復元口径は17.4cm。現高14.5cm。地文は単節LR、RLの羽状縄文が器面全体に充填される。

50号土坑 6-94-E-6.7グリッド 確認面標高117.0m。ほぼ東西に長軸を持ち、長径0.89m、短径0.76mの扁円形の平面形を呈する。底部は凹凸が多く、断面形はラッパ状に開く。確認最大深0.27m。覆土はわずかに炭化物粒を含むものの、地山と同質のロームであり、木根等による攪乱痕跡の可能性もある。この土坑に伴う出土遺物はない。

51号土坑 6-83-Q-16.17グリッド 確認面標高116.6m。4号住居を切る。南西-北東方向がやや長い扁円形の平面形を呈し、長軸長1.68m、短軸長1.46m、確認最大深0.2m。断面形は箱形であるが、底面は東側が低くなる。覆土は汚れたロームを主体とし、上層に炭化物粒を含む。覆土上位から遺物や石片が出土している。

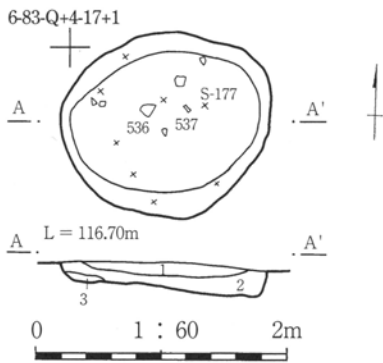
49号土坑



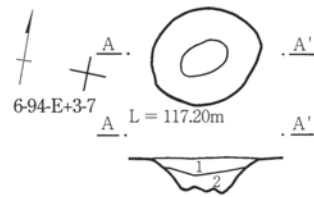
49号土坑

- 1 75YR4/3 褐色土 しまり強い。暗褐色土主体で、ロームを少量混入する。炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石混入、As-YPらしい軽石微量。
- 2 75YR3/4 暗褐色土 しまり強い。暗褐色土を主体とし、崩れかかったロームブロック（径1cmから3cm）少量混入、炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石多量、As-YPらしい軽石微量。
- 3 10YR5/6 黄褐色土 しまり強い。ローム主体で、ロームブロック（径1cmから4cm）少量、As-OP1らしい軽石少量、炭化物つぶがみられないが掘りすぎではない。
- 4 10YR4/4 褐色土 しまっている。ローム主体。炭化物粒微量。
- 5 75YR5/6 (10YRではない、やや赤味あり) 明褐色土 しまっている。ローム主体で、暗褐色土が混入する。炭化物粒少量、As-OP1らしい軽石混入。

51号土坑



50号土坑

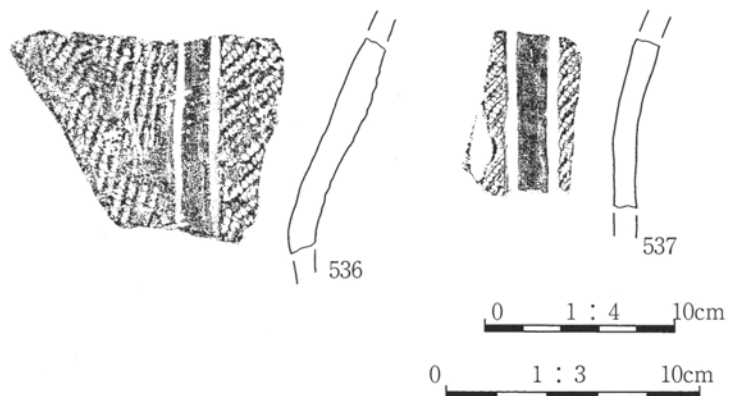
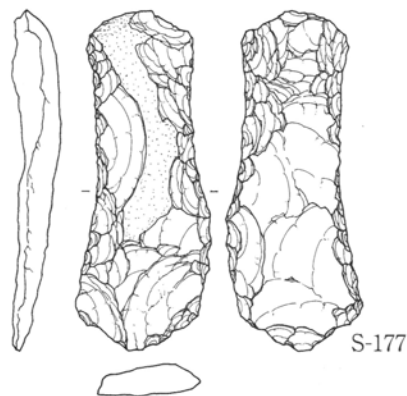


50号土坑

- 1 10YR5/6 黄褐色土 しまりやや弱く、やや粘性あり。ロームが主体で、崩れたロームブロック（径1cmから2cm）微量混入。炭化物粒ごく微量、As-OP1とAs-YPらしい軽石微量。
- 2 10YR4/6 褐色土 しまりやや弱い。ロームが主体、As-OP1とAs-YPらしい軽石微量。

51号土坑

- 1 10YR5/4 におい黄褐色土 やや黒味強い。しまり強い。暗褐色のロームが主体。炭化物粒混入、As-OP1らしい軽石多量、As-YPらしい軽石微量。
- 2 10YR4/4 褐色土 しまり強い。ロームを主体とする。炭化物粒少量、As-OP1らしい軽石混入、As-YPらしい軽石少量。
- 3 10YR5/6 黄褐色土 しまっている。ロームを主体とする。ロームブロック（径2cmから3cm）混入、As-OP1らしい軽石微量。



第97図 土坑20 (49～51号土坑)

2 土坑・埋設土器

536は単節RLの斜行縄文を縦位に施文し、巾4mmの沈線2条対が垂下し胴部を縦位区画する。537は巾4mmの沈線2条対が垂下し、胴部を縦位区画する。区画内には単節RLの斜行縄文が横位、縦位に施文される。ともに加曽利E式。S177の打製石斧は黒色頁岩製である。

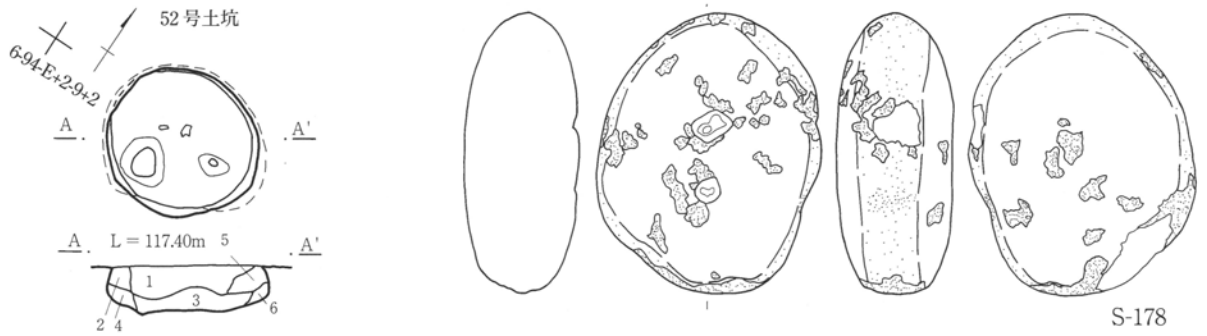
52号土坑 6-94-E-9グリッド 確認面標高117.3m。弱い袋状を示す土坑。確認面での口径1.24m、最大径1.36mで、最大径位置では東西にわずかに長い扁円形の平面形を呈する。底面には2か所ほど小さなくぼみがある。確認最大深0.38m。覆土下位はやや汚れたロームを主体とし、上位は暗褐色土にロームが混じる。全体に炭化物をわずかに含む。覆土の下位から粗粒輝石安山岩の磨石が出土している。

53号土坑 6-94-C-9.10グリッド 確認面標高117.3m。比較的大型の袋状土坑。確認面では直径1.7mほどの歪んだ円形の平面形を呈する。最大径は底部にあつて1.96m。底面は北東-南西方向にやや長い扁円形を呈する。覆土下位は汚れたロームとロームブロックの混土が主体で、中位に薄い暗褐色土層がある。覆土中から土器片、石器が出土している。土器はすべて有尾式である。538は波状口縁の深鉢片で、無節Lr、Rlの羽状縄文を施文する。539は単節LRの斜行縄文を地文とし、巾5.5mmの半截竹管による平行沈線文内に爪形文を充填する。540は0段多条からなる単節LR、RLの羽状縄文を施文している。S180は粗粒輝石安山岩の磨石、S179は黒色頁岩製のスクレーパーである。

55号土坑 6-94-B-4.5グリッド 確認面標高117.2m。北端を攪乱に切られるが、径0.7mほどの円形平面の土坑。確認最大深0.44m。底面は平坦。壁下部はまっすぐに立ち上がるが、上部では大きく外側に開く。覆土は暗色帯相当のロームを主とし、炭化物粒が混じる。

56号土坑 6-93-S-7グリッド 確認面標高117.0m。東西に長軸を持つ楕円形の平面形で、長軸長1.08、短軸長0.93m。確認最大深0.35m。底面は緩い丸底で、西半は急角度で立ち上がるが、東壁側はなだらかな傾斜を持つ。覆土は上下位がロームを主体とする褐色土、中位に炭化物粒を比較的多く含む暗褐色土が堆積する。出土遺物はすべて黒浜式の深鉢片である。541は上げ底の底部片で、全体に若干歪みが見られる。地文は単節LR、RLの羽状縄文。胴部で縄文が切り替わる部分が2か所あつて、破線が1条垂下する。施文のための分割線かと思われる。底径11.0cm。現高16.9cm。542は0段多条からなる単節LRの斜行縄文を施文する。内面はよく研磨される。543、544は単節LR、RLの羽状縄文を施文し、内面はよく研磨される。545は巾6.5mmの半截竹管による平行沈線文内に爪形文を充填。また集合沈線によって菱形モチーフを構成する。546は単節RLの斜行縄文を施文する。547は巾7mmの半截竹管による平行沈線文、558は巾6mmの半截竹管による平行沈線文とコンパス文を施文している。

57号土坑 6-94-A-3.4グリッド 確認面標高116.7m。北東隅が攪乱に切られて不明瞭であるが、東西、南北ともに1.84mの歪んだ円形から隅丸の三角形に近い平面形を呈する。断面形は上方に開く逆台形で、確認最大深は0.62m。覆土は上下2層に分かれるが、ともにロームを主体とする明褐色土で、腐植質を含まず、炭化物もごく少量しか含まない。掘削土をそのまま埋め戻したかのような印象がある。上位覆土中から3個体の深鉢の胴部下半から底部にかけてが出土している。549は上げ底気味の平底で、胴部は細い円筒形を呈する。器壁が薄く小振りな深鉢である。地文は単節LR、RLが菱形羽状縄文を構成する。胴部下位に巾



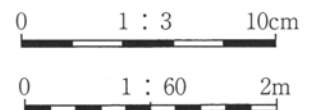
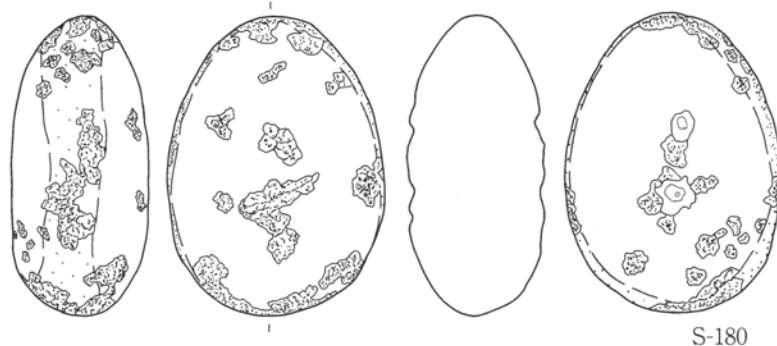
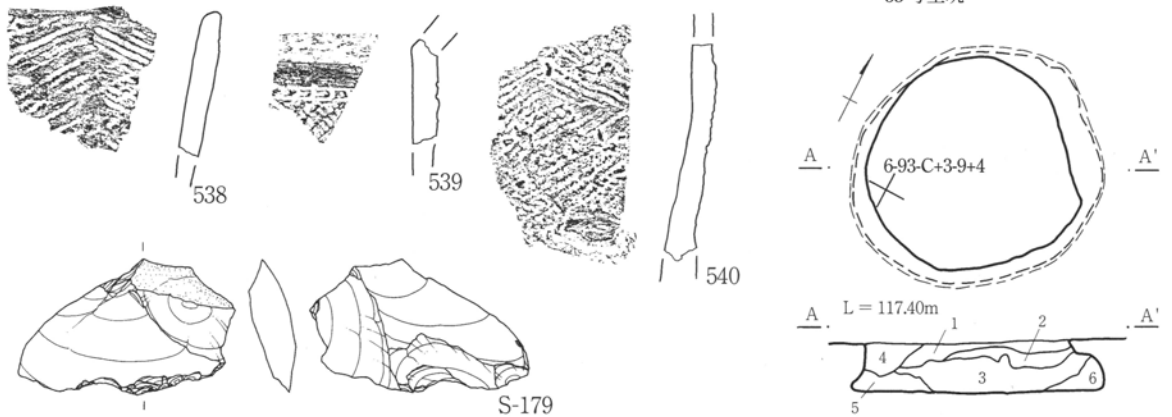
52号土坑

- 1 10YR3/4 暗褐色土 しまっている。暗褐色土を主体とし、ロームが少量混入する。炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石多量。
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまりやや弱く粘性あり。暗褐色土(粘性のあるローム)を主体とする。炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石微量。10YR6/4のロームとAs-BP下層のロームが混入しており、他の土坑ではみられない。
- 3 10YR6/6 明黄褐色土 しまりやや弱く、やや粘性がある。ロームを主体とし、崩れたロームブロック(径1cmから2cm)を微量混入する。炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石少量。
- 4 10YR5/8 黄褐色土 しまり弱く、粘性あり。ロームを主体とし、炭化物粒微量混入する。
- 5 As-OP1らしい軽石が、2層より多くなるが、少量混入という程ではない。他は2層に同じ。
- 6 4層よりやや暗いが10YR5/6程は暗くならない。他は4層に同じ。

53号土坑

- 1 10YR5/6 黄褐色土 しまり強い。ローム主体で、暗褐色土を少量混入する。炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石多量、As-YPらしい軽石微量。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 しまり強い。暗褐色土主体で、ロームを少量混入している。炭化物粒混入、As-OP1らしい軽石多量、As-YPらしい軽石少量。
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり強い。暗褐色土とロームが混合する。ロームブロック(径1cmから3cm)少量、炭化物粒少量、As-OP1らしい軽石少量、As-YPらしい軽石微量。
- 4 10YR6/6 明黄褐色土 しまりやや弱く、やや粘性あり。ローム主体で、ロームブロック(径1cmから2cm)少量、炭化物粒少量、As-OP1らしい軽石少量。
- 5 10YR4/4 褐色土 しまり強い。ロームが主体で、褐色土が少量混入する。炭化物粒微量。
- 6 10YR4/4 褐色土 しまり強い。ロームが主体で、ロームブロック(径2cmから3cm)微量混入。炭化物粒少量。

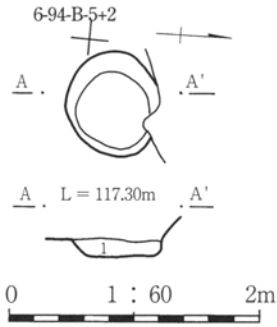
53号土坑



第98図 土坑21 (52～53号土坑)

2 土坑・埋設土器

55号土坑



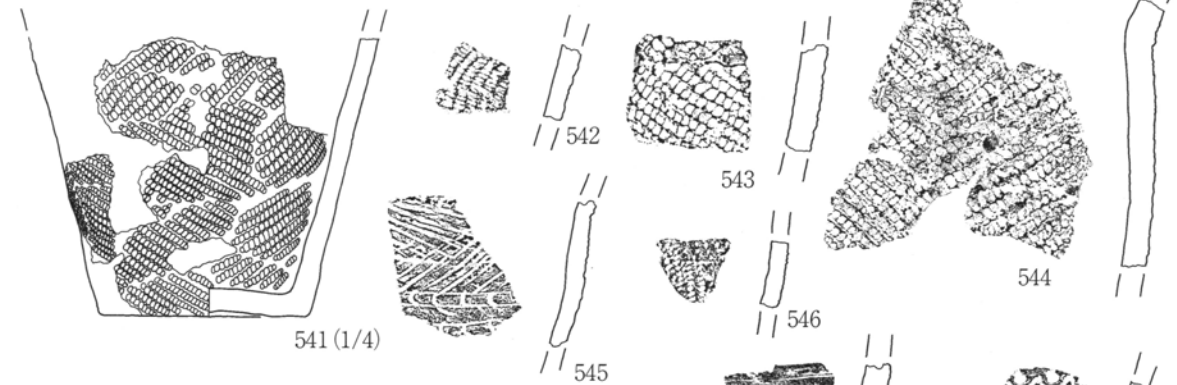
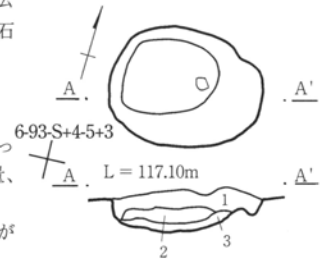
55号土坑

1 10YR4/4 褐色土 しまり強い。暗褐色ロームが主体。ロームブロック（径1cm）微量、炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石少量、As-YPらしい軽石微量。

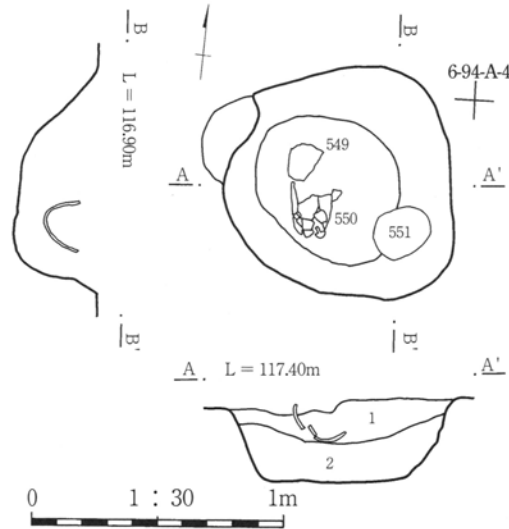
56号土坑

1 10YR4/6 褐色土 しまり強い。ロームが主体で、崩れかかったロームブロック（径1cmから2cm）少量混入、炭化物粒少量、As-OP1らしい軽石混入。
2 10YR3/4 暗褐色土 しまり強い。暗褐色土主体で、ロームが少量混入する。炭化物粒混入、As-OP1らしい軽石混入。
3 10YR4/4 褐色土 しまり強い。1層よりやや暗い。ロームが主体で、ロームブロック（径1cmから3cm）微量、炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石微量。

56号土坑

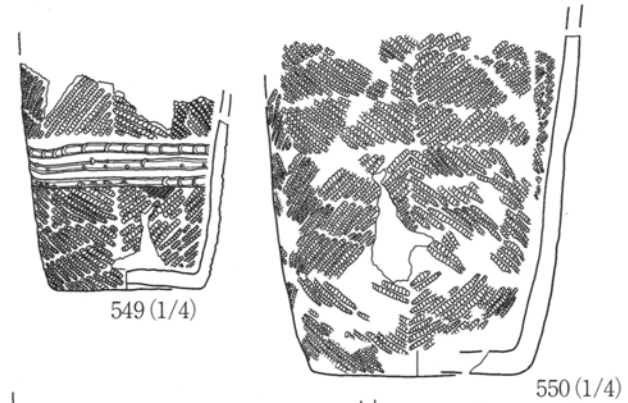


57号土坑

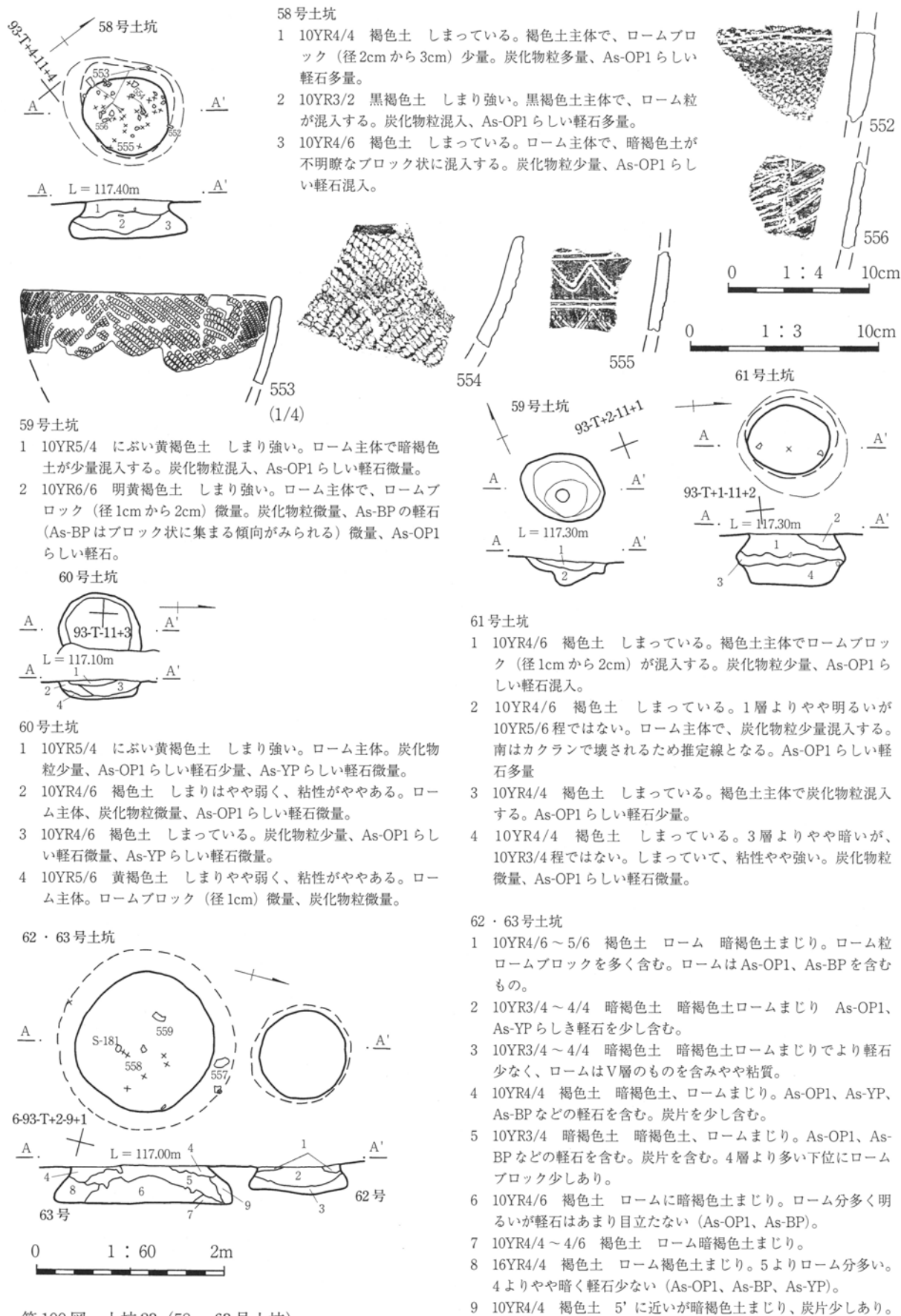


57号土坑

1 10YR6/6 明黄褐色土 しまり強い。ロームが主体。地山のハードロームで掘り込み直後に埋め戻したと思われる、ローム以外の土が混入しない。炭化物らしい黒色粒（径1mm又は以下の微細なもの）微量、As-OP1らしい軽石混入、As-BPらしい軽石微量。
2 10YR6/8 明黄褐色土 1層より黄色ややあり。しまり強い、1層よりやや粘性がある。ロームが主体で、1層同様に埋め戻したと思われる、ローム以外の土が混入していない。炭化物（径1mm又は以下の微細なもの）らしい黒色粒微量、As-OP1らしい軽石微量、As-BPらしい軽石微量。



第99図 土坑22 (55～57号土坑)



第100図 土坑23 (58～63号土坑)

2 土坑・埋設土器

2cmで縄文を磨り消して無文帯とし、巾5mmの半截竹管によって平行沈線文3条を施文する。沈線内には爪形文を充填。底径8.0cm。現高12.2cm。黒浜式。550は平底で、単節LR、RLが菱形羽状縄文を構成する。底径11.5cm。現高18.2cm。有尾式。551は上げ底で、0段多条からなる単節LR、RLが菱形羽状縄文を構成する。底部接地面はよく研磨されている。底径15.0cm。現高14.7cm。黒浜式。

58号土坑 6-93-T-11グリッド 確認面標高117.3m。袋状土坑。確認面での口径0.86m。底部よりやや上に最大径があり、最大径位置での平面形は北東-南西方向にやや長い偏楕円形で、長径1.3m、短径1.08m。確認最大深0.4m。覆土は上下位がロームを主体とする褐色土で、上位覆土には炭化物粒が多く含まれる。中位には黒褐色土が堆積する。中位覆土から土器小片が多く出土している。いずれも黒浜式の深鉢片である。552は単節RLの斜行縄文を地文とし、巾5mmの半截竹管による平行沈線文が1条施文される。553は口縁部がラッパ状に開く小振りの深鉢と思われる。単節LR、RLの羽状縄文を施文する。554は単節LR、RLの羽状縄文を施文し、内面はよく研磨される。555は巾5mmの半截竹管による平行沈線文で横位区画を構成し、区画内に半截竹管による鋸歯文が施文される。556は巾4mmの半截竹管による集合沈線が斜位に施文され、これと交差して縦位に1条平行沈線文が走る。

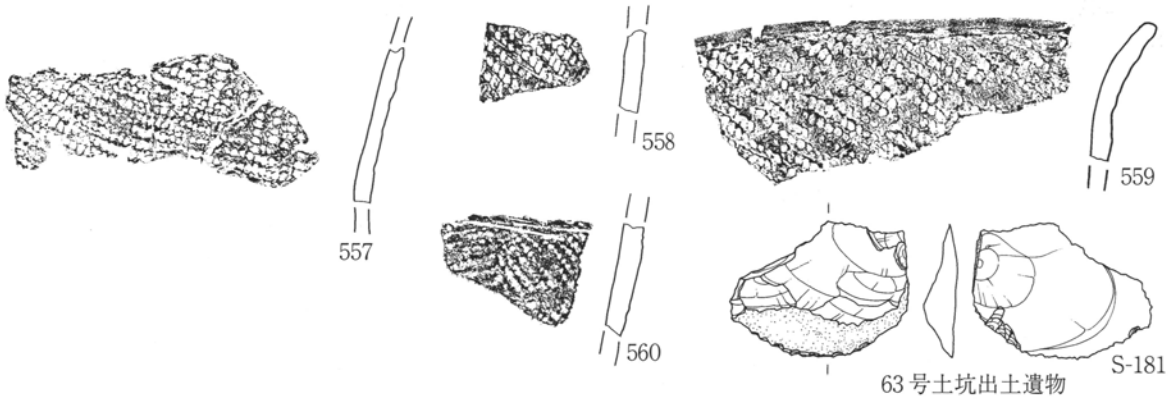
59号土坑 6-93-T-11グリッド 確認面標高117.2m。ほぼ東西に長軸を持つ楕円形の平面形を呈する。長径0.86m、短径0.74m。底部中央近くが径0.44mの扁円形、径0.24mほどのピット状落ち込みがある。覆土はローム主体で地山がブロック化し、上位でやや汚れるものの炭化物の混入や遺物の出土はなく、人為的なものではない可能性もあろう。

60号土坑 6-93-S.T-11グリッド 確認面標高117.0m。東半を攪乱に切られる。南北径0.86m、東西確認長0.6mで、ほぼ円形の平面形を呈するものと思われる。断面形は箱形に近い深い皿状で、底面はほぼ平坦。確認最大深0.22m。覆土はロームを主体とする褐色から黄褐色土で炭化物粒をわずかに含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

61号土坑 6-93-T-11グリッド 確認面標高117.2m。袋状土坑。確認面では南北に長軸を持つ長軸0.82m、短径0.7mの扁円形の平面形を呈する。最大径は底面よりやや上位にあって、断面は算盤玉に近い形状となる。最大径位置での平面形は直径1.16mほどの歪んだ円形を呈する。確認最大深0.57m。覆土は上位にローム分の多い褐色土、中位、下位はやや暗い褐色土で、全体に少量の炭化物粒を含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

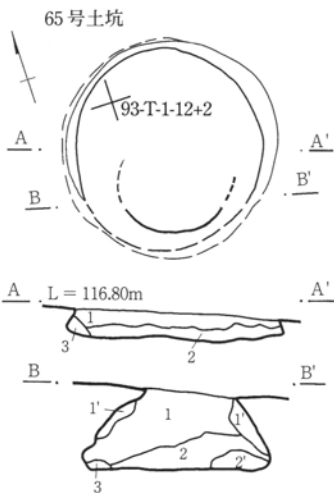
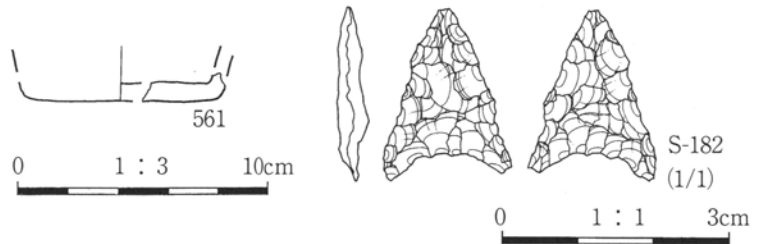
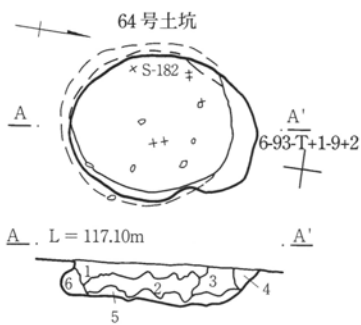
62号土坑 6-93-T-9グリッド 確認面標高116.9m。小型の袋状土坑。確認面での口径は0.9mで、ほぼ円形の平面形を呈する。最大径は底部近くにあり、直径1.02mの円形の平面形で、断面形は低い台形となる。覆土は暗褐色土とロームの混土。この土坑に伴う出土遺物はない。

63号土坑 6-93-T-9グリッド 確認面標高116.9m。比較的大型の袋状土坑。確認面での口径は1.48mで、ほぼ円形の平面形を呈する。最大径は底部にあり、直径1.9mの円形の平面形で、壁はわずかに直立してから内傾する。覆土は下位にロームが多く、上位は炭化物片を混じる暗褐色土で、この炭化物にはオニグルミの炭化核片が含まれる。上位覆土から遺物が出土している。557は有尾式で、単節LR、RLの菱形羽状縄文を施文す



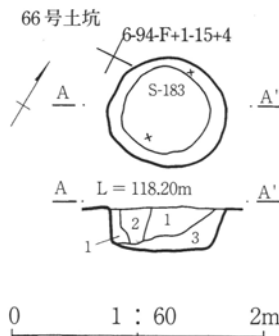
64号土坑

- 1 10YR3/2 黒褐色土 黒褐色土 ローム粒まじり 白い細かい軽石を含む。炭片少しあり。やや軟。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土ローム粒まじり。1よりローム分多く、まだらに入る。白い細かい軽石を含む。炭片少し含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土ローム粒まじり。2に近いが少し黒みが強い。2より軽石がやや多く、焼土粒少しあり。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 3に近いがややローム分が多い。2より軽石多く入る。
- 5 10YR4/4 褐色土 ローム暗褐色土まじり。
- 6 10YR4/4 褐色土 5に近いが、上位の明るいロームも混じる。



65号土坑

- 1 10YR4/6 ~ 5/6 褐色土 ローム暗褐色土まじり。ローム分が多い。As-OP1、As-YP、As-BPを含む。
- 2 10YR4/6 褐色土 ローム 暗褐色土まじり。1層より暗褐色土多く暗い。また、暗色帯のロームを少し含む。1のような軽石を含むが1よりも少ない。
- 3 10YR4/6 褐色土 暗色帯ロームを主とする。上位のロームブロック少しあり。
- 1' 10YR4/6 ~ 5/6 褐色土 1に近い。ローム暗褐色土まじり。1に比べ軽石はほとんどなくやや軟。
- 2' 10YR4/6 2に近いがややローム分多く明るい。軽石も2より少ない。



66号土坑

- 1 10YR4/4 褐色土 しまり強い。暗褐色土主体でローム粒混入。炭化物粒混入。As-OP1らしい軽石多量、As-YPらしい軽石微量。
- 2 10YR4/4 褐色土 しまり強い。暗褐色土主体でローム粒が混入する。炭化物粒多量、As-OP1らしい軽石多量。
- 3 10YR4/6 褐色土 しまり強い。ローム主体で褐色土が少量混入する。ロームブロック (径1cmから3cm) 微量、As-OP1らしい軽石混入。



第101図 土坑24 (63号土坑出土遺物・64~66号土坑)

2 土坑・埋設土器

る。558、559は同一個体で、単節RLの斜行縄文を施文する。黒浜式。560も黒浜式で、単節LR、RLの羽状縄文を地文とし、巾5mmの半截竹管による平行沈線文を施文する。S181のスクレーパーは黒色頁岩製。

64号土坑 6-93-T-9グリッド 確認面標高117.0m。やや小型の袋状土坑であっただろう。確認面では南北1.48m、東西1.14mの歪んだ楕円形の平面形を呈する。北部は崩れてなだらかな傾斜で底面に至るが、他は最大径が底面よりやや上位にある袋状を呈し、東西最大径1.26m、南北は1.3mほどの規模であったものと推定される。確認最大深0.3m。底部近くの覆土はロームを主体とするが、中、上位は暗褐色から黒褐色土で埋まる。覆土中位を中心に遺物が出土している。561は黒浜式と思われる深鉢の底部片。平底で器壁は薄く仕上げられる。復元底径15.2cm。S182はチャート製の石鏃である。

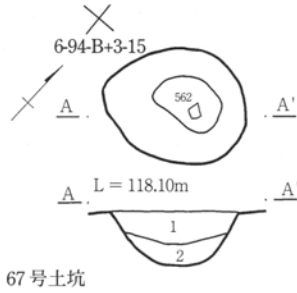
65号土坑 6-93-S.T-12グリッド 確認面標高117.2m。上部過半を攪乱に切られるが、底部近くは残っているため、平面形は確認できる。また、南端の一部では比較的高い位置までの立面形状が確認できた。中型の袋状土坑である。最大径位置は底部近くにあり、径1.7mの円形の平面形を呈する。壁は底部からわずかに外反気味に立ち上がった後に急に内傾する。確認最大深0.62m。覆土は暗褐色土とロームの混土で、東側から流れ込んだような堆積状況を示す。この土坑に伴う出土遺物はない。

66号土坑 6-94-F-15グリッド 確認面標高118.1m。長径0.92m、短径0.6-84mの東西にやや長い扁円形の平面形を呈する。確認最大深0.35mで、断面形は底面は中央部がやや深い箱形を呈する。底部近くの覆土はロームを主体とし、東側から流れ込んだような堆積状況を示す。中、上位覆土は暗褐色土にローム粒を含む。S183の黒色頁岩製石匙が出土している。

67号土坑 6-94-B-14.15グリッド 確認面標高118.0m。北東-南西方向に長軸を持ち、長径1.1m、短径0.92mの扁円形の平面形を呈する。壁は上方に大きく開き、底面は中央がやや低い。断面形は台形を呈する。確認最大深0.42m。覆土はロームを主体とし、炭化物粒を含む。底近くから562の諸磯b式深鉢胴部破片が出土している。器壁は厚みがある。単節RLの斜行縄文を地文とし、縄文の上から櫛歯状具による平行沈線文を施文している。

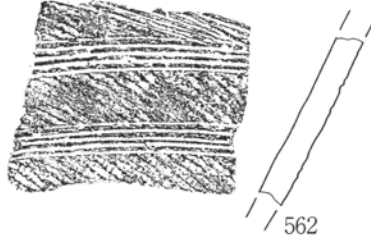
68号土坑 6-94-G-18グリッド 確認面標高118.5m。北西-南東方向に長軸を持つ、長径1.9m、短径1.25mの歪んだ長円形の平面形を呈する。確認最大深は0.98mで、底面は南東部が高く、北西部に向けて徐々に低くなり、北東端で小さな平坦面を形成する。覆土は上下位にロームを主体とする黄褐色土があり、中位に暗褐色土が堆積する。全体に炭化物粒を含むが少量である。この土坑に伴う出土遺物はない。

69号土坑 6-94-C-12.13グリッド 確認面標高117.7m。袋状土坑。確認面での口径は0.96m。最大径は1.2mで、底部よりやや上位に最大径位置がある。やや歪んだ円形の平面形を呈する。確認最大深は0.38m。覆土は上下位に比較的黒みの強い褐色土があり、中位にローム主体の黄褐色土がある。上位覆土から土器小片が多数出土している。563から567は同一個体と思われ、0段多条からなる単節LR、RLの羽状縄文を施文する。有尾式。568、569は同一個体と思われ、単節LR、RLの羽状縄文を施文する。有尾式。571から575は花積下層式である。571は0段多条からなる単節LR、RLの羽状縄文を地文とする。572から574は同

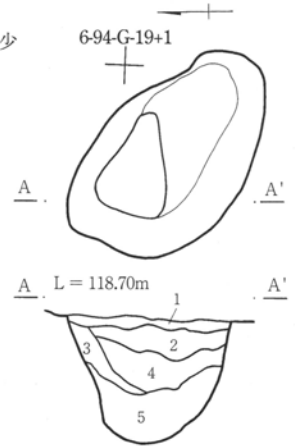


67号土坑

- 1 10YR5/8 黄褐色土 しまりやや弱い。ローム主体で、炭化物粒を混入する。As-OP1らしい軽石多量、As-YPらしい軽石多量。
- 2 10YR5/6 黄褐色土 しまっている。ローム主体で炭化物粒を少量混入する。As-OP1らしい軽石微量、As-BPらしい軽石微量。



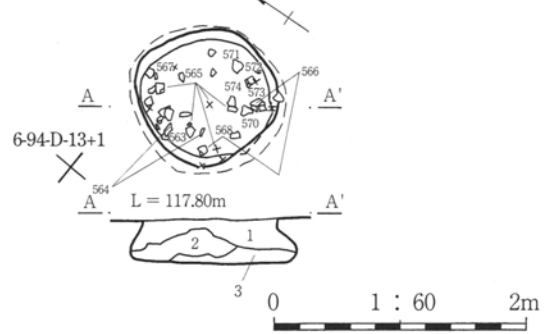
68号土坑



68号土坑

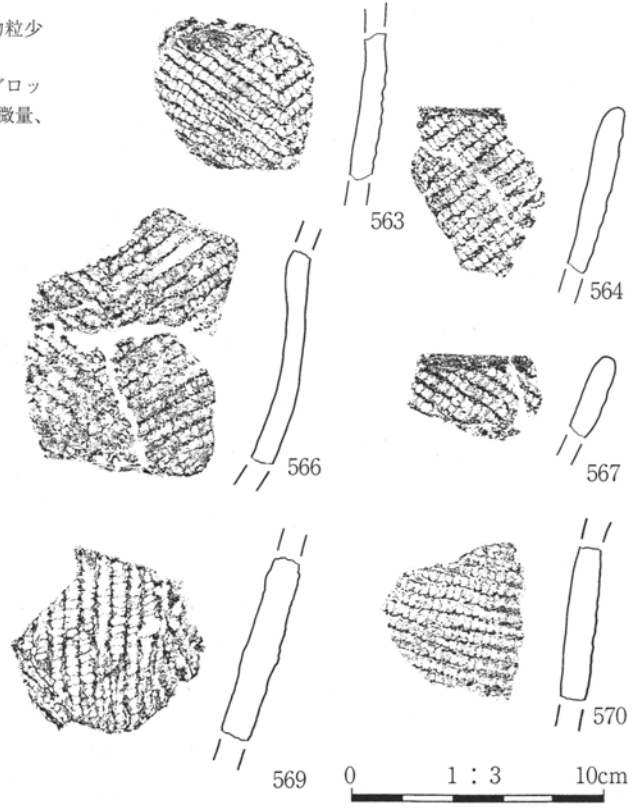
- 1 10YR5/6 黄褐色土 しまっている。ローム主体で、ロームブロック（径1cmから2cm）と硬質の暗褐色土ブロック（径1cmから2cm）を微量混入する。炭化物粒微量。As-OP1らしい軽石少量、As-YPらしい軽石微量。
- 2 10YR4/6 褐色土 しまっている。ローム主体で、硬質の暗褐色土ブロック（径1cmから2cm）を混入する。炭化物粒微量。As-OP1らしい軽石多量。
- 3 10YR5/8 黄褐色土 しまり強い。ローム主体で、暗褐色土が少量混入する。As-OP1らしい軽石多量、As-YPらしい軽石微量。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 しまり強い。暗褐色土主体で、ロームブロック（径1cmから2cm）少量混入する。炭化物粒少量。As-OP1らしい軽石混入、As-YPらしい軽石微量。
- 5 10YR5/6 暗褐色土 ロームブロック（径1cmから3cm）を混入する。炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石混。

69号土坑



69号土坑

- 1 10YR4/4 褐色土 しまり強い。褐色土主体で、ロームが少量混入する。炭化物粒少量、As-OP1らしい軽石多量。
- 2 10YR5/6 黄褐色土 しまり強い。ロームが主体で、炭化物粒少量混入。As-OP1らしい軽石混入。
- 3 10YR4/4 褐色土 しまり強い。褐色土が主体で、崩れたブロック状のローム（径1cmから2cm）を少量混入する。炭化物粒微量、As-OP1らしい軽石混入。



第102図 土坑25 (67～69号土坑)

2 土坑・埋設土器

一個体で、0段多条からなる単節LR、RLを縦位に施文し、羽状縄文を構成する。575は0段多条からなる単節RLを縦位に施文する斜行縄文を地文とする。

70号土坑 6-94-C-D-16グリッド 確認面標高118.4m。南北1.44m、東西1.34mの歪んだ扁円形の平面形を呈する。壁はほぼまっすぐに立ち上がるが、中位がやや張り出し気味に残っており、袋状土坑が崩れたものかもしれない。底面は平坦で、確認最大深0.5m。覆土は上下位がロームを主体とする黄褐色から明褐色土、中位に褐色土が堆積する。この土坑に伴う出土遺物はない。

71号土坑 6-94-B-16グリッド 確認面標高118.4m。南部半分程度を確認している。確認面では口径0.8mの円形の平面形であるが、確認最大深は1.02mほどあって、南東側では壁上位で、北西側では壁中程からやや広がり、最大径1.12mほどとなる。下位の覆土にはロームが多く含まれており、袋状土坑の天井部が崩れたものかと思われる。中位、上位の覆土は暗褐色土とロームの混土で、特に中位に暗褐色土が多く、ここから土器片が出土している。576は無節Lr、Rlの羽状縄文、577は単節RLの斜行縄文で、ともに諸磯式期と見られる。

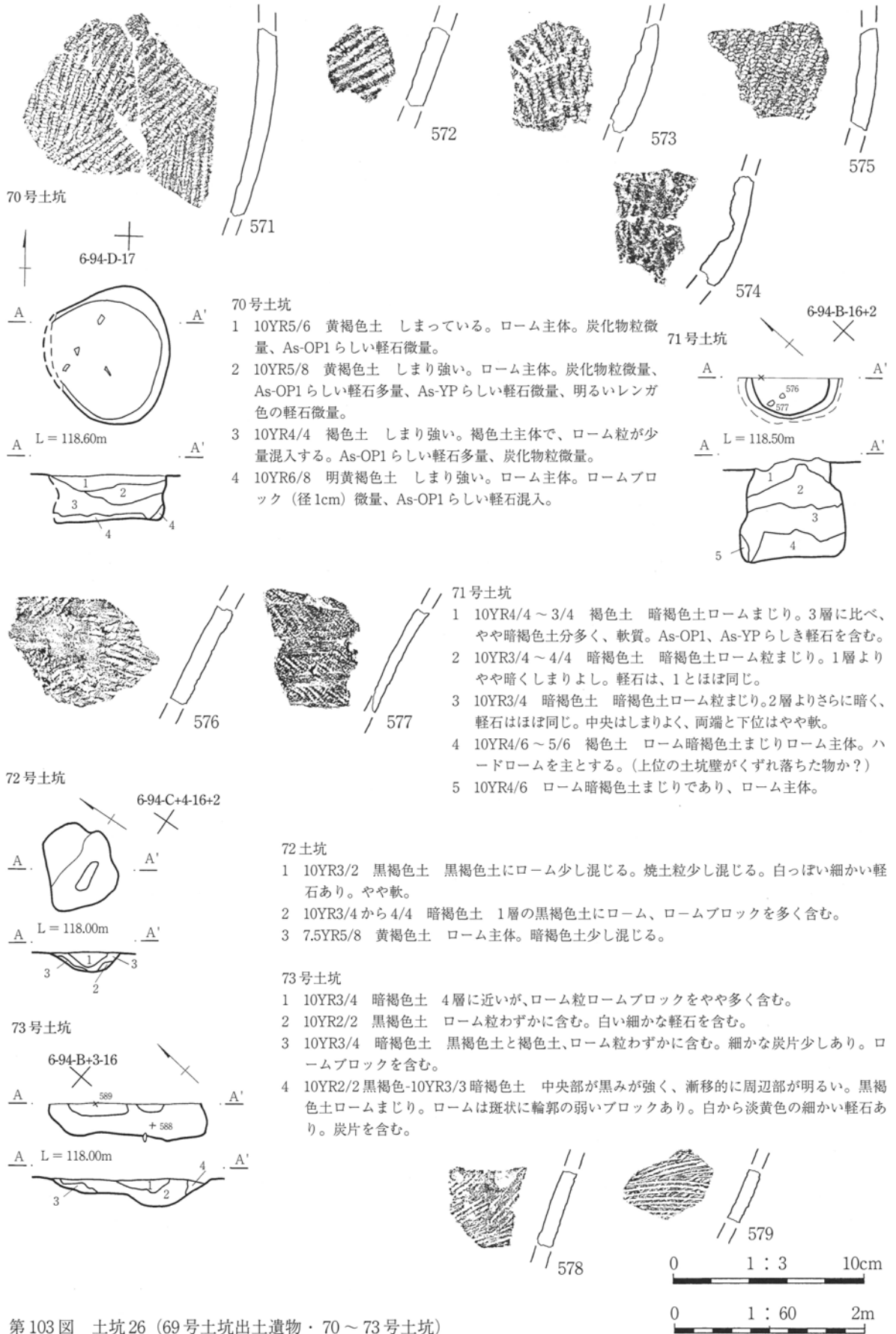
72号土坑 6-94-B-17グリッド 確認面標高117.8m。8号住居内にある。東西、南北ともに0.9mほどの不定形の平面形で、断面形は皿状。南半が一段深くなる。覆土は黒褐色から暗褐色土で焼土粒が少量混じるが、8号住居の影響によるものかもしれない。この土坑に伴う出土遺物はない。

73号土坑 6-94-B-16グリッド 確認面標高117.9m。8号住居を切る。北東半は調査区外となる。確認した範囲では北西-南東方向の長1.62m、幅0.4m。確認最大深は0.5m。覆土は黒褐色から暗褐色土で炭化物片を含む。578は単節LRの斜行縄文を施文し、579には集合沈線が施文される。ともに諸磯b式。

74号土坑 6-94-D-13グリッド 確認面標高117.8m。袋状土坑。確認面では直径0.75mの円形の平面形を呈する。最大径は底面よりやや上位にあって、最大径位置では北東-南西方向に長軸を持つ楕円形の平面形となる。長径1.2m、短径0.6-84m。確認最大深は0.68m。覆土上位及び下位は褐色土でロームを含み、中位に暗褐色土が堆積する。上、中位の覆土に少量の炭化物粒が含まれる、この土坑に伴う出土遺物はない。

75号土坑 6-94-B-15グリッド 確認面標高118.0m。直径1.08mの円形の平面形を呈する。底面は平らで、壁はわずかながら張り出すようなふくらみを持って立ち上がるため、本来は袋状土坑であったのかもしれない。確認最大深0.48m。覆土の下位は褐色土、上位はロームを主体とする黄褐色土で、ともに微量の炭化物粒を含む。石片及び土器細片を出土しているが、時期判定及び図示可能なものはない。

76号土坑 6-94-C-15グリッド 確認面標高118.3m。袋状土坑。確認面では直径10.4mの円形の平面形を呈する。底面からやや上位に最大径があり、最大径位置では直径1.24mほどの円形を呈する。壁は底面から0.3mほどの高さまで円弧を描いて張り出し、その上部は直立する。壁際には袋部天井の崩落と見られる褐色土が堆積し、覆土上位はローム主体の黄褐色土となる。580は有尾式の無紋浅鉢で、口縁部はほとんど欠損するが、体部は2段に屈曲する。内外面ともによく研磨されている。口縁部復元最大径38.0cm。現高12.5cm。S184のすり石は粗粒輝石安山岩製で表裏両面にすり面がある。S185のくさび形石器はチャート製である。



第103図 土坑26 (69号土坑出土遺物・70~73号土坑)

2 土坑・埋設土器

77号土坑 6-94-C-15 グリッド 確認面標高 118.1m。東西に長軸を持つ長円形の平面形を呈する。長径 1.32m、短径 0.9m。確認最大深は 0.24m で、断面形は箱形。覆土下位はロームを主体とする黄褐色土、中、上位はロームブロックを含む褐色土で、全体に微量の炭化物粒を含む。石片及び縄文土器片が出土している。581 は黒浜式の深鉢胴部片で、単節 LR の斜行縄文を地文とし、縦方向の隆帯が貼付される。若干不明瞭だが半截竹管による沈線と爪形文が施文される。

78号土坑 6-94-D.E-15 グリッド 確認面標高 118.2m。直径 1.14m の円形の平面形を呈する。確認最大深は 0.92m あり、壁は上端近くで外反するが、ほぼ直立して深い箱形の断面形を示す。覆土は上下がロームを主体とし、中位に褐色土が堆積する。中位覆土の下底近くから、深鉢の胴下半から底部にかけての大型破片 582 が出土している。胴部は底部に向かってすぼまり、底部は厚みを持つ。全体に被熱の痕跡が見られ、割れ口にも被熱痕跡が見られることから破損後に火を受けたものと思われる。地文は単節 RL の斜行縄文で、底部に近い一部では縦位に施文される。底径 7.7cm。現高 22.6cm。形式を判定しがたいが、前期後半のものであろう。

79号土坑 6-94-J-4 グリッド 確認面標高 116.6m。円形の平面形を呈する。直径 0.64m、確認最大深 0.16m。断面形は丸底の皿状で、ローム混じりの暗褐色土で埋没する。この土坑に伴う出土遺物はない。

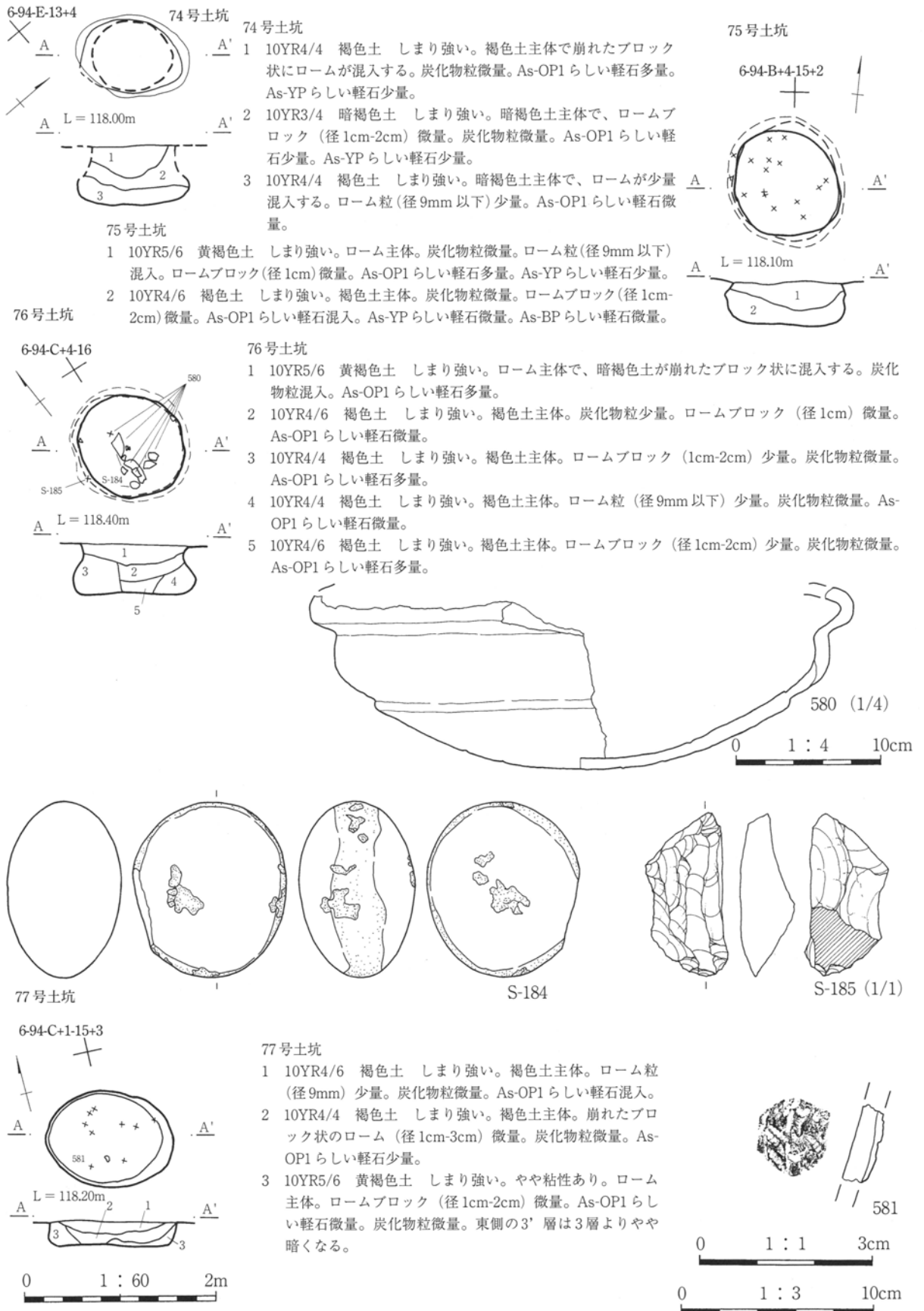
80号土坑 6-94-I-3.4 グリッド 確認面標高 116.6m。円形の平面形を呈する。直径 0.72m、確認最大深 0.2m。断面形は丸底の皿状で、ローム混じりの暗褐色土で埋没する。この土坑に伴う出土遺物はない。

81号土坑 6-94-I.J-5 グリッド 確認面標高 116.6m。袋状土坑。確認面では直径 0.94m の円形の平面形を呈する。最大径は 1.49m。最大径位置は底部よりわずかに上にあつて、やや歪んだ円形の平面形となる。確認面での上端部は最大径位置での平面形のやや北西寄りに当たる。底面は平坦で小さなふくらみを持って立ち上がり、すぐに内傾する。確認最大深 0.72m。覆土は底部に接して袋部天井が崩落したと思われるローム主体の褐色土があり、その上位に炭化物片を多く含む暗褐色土が乗る。その上位には再びロームを主体とする黄褐色土が堆積し、さらに暗褐色土とロームの混土が乗る。石片と土器細片が出土しているが、型式の識別はできなかった。

82号土坑 6-94-Q-12 グリッド 確認面標高 116.9m。長径 1.3m、短径 1.04m の卵形の平面形を呈する。確認最大深 0.34m で、北東部は緩い傾斜を持ったテラス状をなし、南部が一段深くなる。覆土下位はロームブロックと暗褐色土の混土、上位は暗褐色土を主体とし、ロームが混じる。この土坑に伴う出土遺物はない。

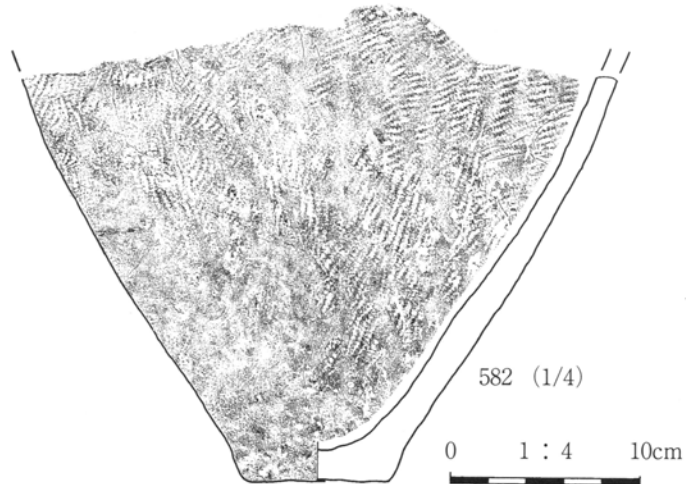
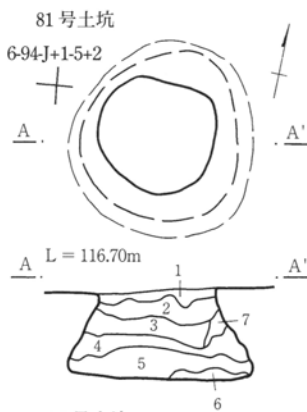
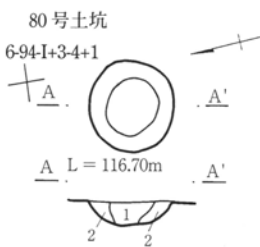
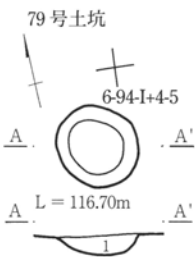
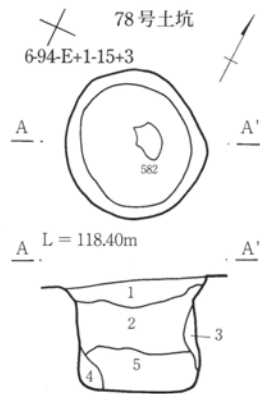
83号土坑 6-94-P-13 グリッド 確認面標高 116.2m。長径 1.62m、短軸 0.94m の南北に長軸を持つ長円形の平面形を呈する。確認最大深 0.42m で、断面形は緩い丸底のU字形を呈する。覆土下位はロームの混じる暗褐色土で、上位には焼土粒をわずかに含む暗褐色土がある。この土坑に伴う出土遺物はない。

84号土坑 6-94-Q-14 グリッド 確認面標高 116.4m。直径 0.88m の円形の平面形を呈する。確認最大深 0.4m。ほぼ平らな底面から外反気味に壁が立ち上がる。覆土はロームを含む褐色から暗褐色土で、上位層では部分的に炭化物や焼土粒を含む。覆土から諸磯 b 式の浅鉢片が出土している。583、584 は同一個体と思われる有孔浅鉢の口縁部片である。口縁はほぼ水平になるまで内湾し、口縁に沿って径 4mm の穿孔が連続する。



第104図 土坑27(74~77号土坑)

2 土坑・埋設土器



78号土坑

- 1 10YR5/6 黄褐色土 しまっている。ローム主体。As-OP1らしい軽石多量。炭化物粒微量。As-OP1らしい軽石多量。As-BPらしい軽石微量。
- 2 10YR4/4 褐色土 しまりやや弱い。褐色土主体。ローム粒（径1mm-5mm）混入。炭化物粒少量。As-OP1らしい軽石少量。As-BPらしい軽石微量。
- 3 10YR4/4 褐色土 しまりやや弱い。褐色土主体。ロームブロック（径1cm）微量。As-OP1らしい軽石少量。
- 4 10YR5/6 黄褐色土 しまりやや弱い。ローム主体。ロームブロック（径1cm-3cm）少量。As-OP1らしい軽石微量。
- 5 10YR4/6 褐色土 しまりやや弱い。ローム主体、ロームブロック（径1cm-2cm）微量。ローム粒（径1cm-5mm）混入。炭化物粒微量。As-OP1らしい軽石少量。

79号土坑

- 1 10YR4/6から4/4 暗褐色土 ロームまじり。白色の細粒軽石少しあり。ロームブロック少しあり。

80号土坑

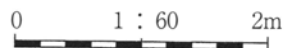
- 1 10YR4/4 暗褐色土 ロームまじり。炭片少しまじる。白色の細粒軽石少しあり。
- 2 10YR4/4から4/6 暗褐色土 ロームまじり。1層よりローム分多い。白色の細粒軽石、わずかにあり。

81号土坑

- 1 10YR4/4から3/4 暗褐色土 ロームまじり。白色の細粒軽石少しあり。
- 2 10YR3/3から3/4 暗褐色土 ロームまじり。まだらに黒みの強い部分あり。炭片あり。白色の細粒軽石あり。
- 3 10YR4/6から4/4 暗褐色土 ロームまじり。
- 4 10YR5/6から4/6 黄褐色土 ローム主体。暗褐色土少し混じる。ロームブロックあり。As-OP1、As-BPらしき軽石少しあり。やや軟質。
- 5 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土。ロームまじり。ロームブロック下位に少しあり。白色の細粒軽石あり。炭片目立つ。焼土粒少しあり。やや軟質。
- 6 10YR4/6 褐色土 ローム主体。暗褐色土少しまじる。ロームブロックあり。混入物特に目立たず。
- 7 10YR4/4 3に近いが、暗褐色土やや多い。炭片少しまじる。白色の細粒軽石あり。As-YPあり。

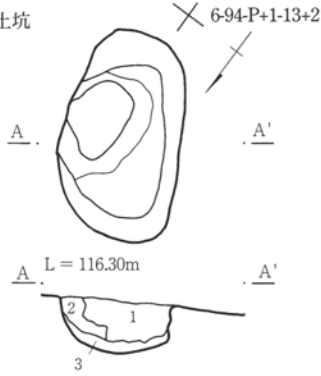
82号土坑

- 1 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土、ロームまじり。ロームブロックを含む。白色の細粒軽石を含む。炭片少しあり。
- 2 10YR4/4から4/6 褐色土 ローム、暗褐色土まじり。ロームブロックを含む。白色の細粒軽石わずかにあり。

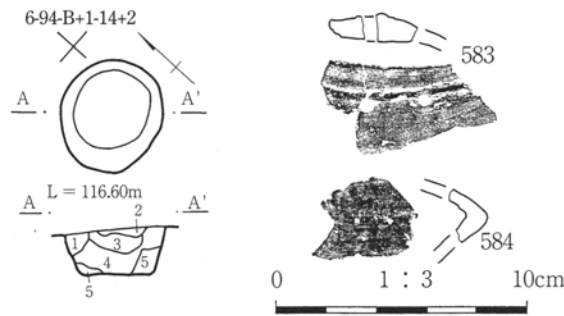


第105図 土坑28 (78～82号土坑)

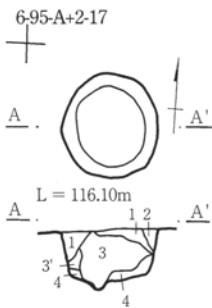
83号土坑



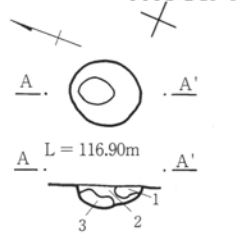
84号土坑



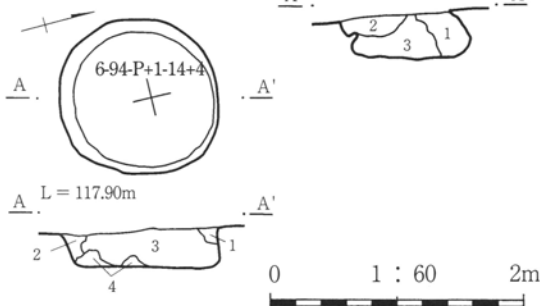
85号土坑



86号土坑



88号土坑



第106図 土坑29 (83~88号土坑)

83号土坑

- 1 10YR3/3 暗褐色土 暗褐色土、ローム粒まじり。白色の細粒軽石あり。中心よりの方が黒みが強い。焼土粒わずかにあり。
- 2 10YR4/4 褐色土 暗褐色土、ローム粒まじり。ロームブロック少しあり。白色の細粒軽石あり。
- 3 10YR4/4から4/6 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。ロームブロックを含む。白色の細粒軽石わずかにあり。2層よりローム分多く、やや明るい。

84号土坑

- 1 10YR4/6 褐色土 ローム暗褐色土まじり。白色の細粒軽石わずかにあり。壁際の方が、ローム分が多い。
- 2 10YR3/4から3/3 暗褐色土 暗褐色土、ロームまじり。ロームは斑状に見える。白色の細粒軽石あり。炭片少しあり。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 暗褐色土、ローム粒わずかにまじる。白色の細粒軽石あり。炭片あり。焼土粒少しあり。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土、ロームまじり。ロームはまだらな斑状に見える。白色の細粒軽石あり。炭片少しあり。
- 5 10YR4/6から4/4 暗褐色土、ロームまじり。ロームブロックを含む。白色の細粒軽石ほとんどなし。

85号土坑

- 1 10YR4/4から3/4 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。ロームはまだらに見える。白っぽい細かい軽石あり。
- 2 10YR4/6 褐色土 ローム主体。暗褐色土少しまじる。白色の細粒軽石少しあり。
- 3 10YR3/4 暗褐色土、ロームまじり。ロームは1層より少ないが、まだらに見える。白色の細粒軽石あり。As-YP少しあり。細かい炭片少しあり。
- 3' 10YR3/4暗褐色から4/4褐色土 3層に近いがやや明るく、やや軟質。
- 4 10YR4/4から4/6 褐色土 ローム暗褐色土まじり。ロームブロック少しあり。白色の細粒軽石少しあり。

86号土坑

- 1 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土にローム少しまじる。ロームブロック少しあり。白色の細粒軽石あり。
- 2 10YR4/4 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。やや軟質。白色の細粒軽石少しあり。
- 3 10YR4/6 褐色土 ローム、暗褐色土まじり。白色の細粒軽石わずかにあり。

87号土坑

- 1 10YR4/4から4/6 暗褐色土、ロームまじり。炭片少しまじる。白色の細粒軽石少しあり。
- 2 10YR3/4 暗褐色土、ローム粒まじり。ロームブロック少しあり。白色の細粒軽石あり。炭片少しあり。焼土粒わずかにあり。
- 3 10YR4/4から3/4 暗褐色土、ロームまじり。ロームブロック少しあり(2層に近いが、ややローム分多く明るい)。白色の細粒軽石あり。炭片、焼土粒わずかにあり。

88号土坑

- 1 10YR4/6 ローム暗褐色土まじり。白色の細粒軽石少しあり。
- 2 10YR4/4から4/6 ローム、暗褐色土まじり。白色の細粒軽石あり。1に近いが、ややローム分が少ない。
- 3 10YR4/4から3/4 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。白色の細粒軽石あり。As-YPあり。炭片少しあり。
- 4 10YR4/6 ローム主体。暗褐色土、少しまじる。白色の細粒軽石わずかにあり。

2 土坑・埋設土器

85号土坑 6-95-A-16 グリッド 確認面標高 116.0m。直径 0.84m の円形の平面形を呈する。確認最大深 0.48m。中央がやや低い底面から外反気味に壁が立ち上がる。覆土はロームを含む褐色から暗褐色土。この土坑に伴う出土遺物はない。

86号土坑 6-94-T-18 グリッド 確認面標高 116.7m。直径 0.52m の円形の平面形を呈する。確認最大深 0.16m。丸底からなだらかに壁が立ち上がる。覆土はロームを含む褐色から暗褐色土。この土坑に伴う出土遺物はない。

87号土坑 6-94-R.S-16 グリッド 確認面標高 116.4m。上端部が崩れた袋状土坑。北西部から西半にかけての上部が崩れ、確認面では北西-南東に長い不定形の平面形を呈する。底面よりやや上に最大径があり、最大径位置での平面形は北西-南東にやや長い扁円形を呈する。長径 1.08m、短径 0.94m。確認最大深は 0.36m。覆土は変則的な堆積を示すが、主に暗褐色土とロームの混土で、炭化物、焼土粒を含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

88号土坑 6-94-P-14 グリッド 確認面標高 117.1m。直径 1.22m の円形の平面形を呈する。確認最大深 0.32m。ほぼ平坦な底面から外東半部ではほぼまっすぐに、西半ではやや外反気味に壁が立ち上がる。覆土はロームを含む褐色から暗褐色土。この土坑に伴う出土遺物はない。

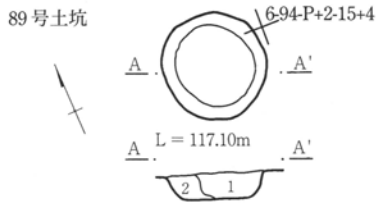
89号土坑 6-94-P-14 グリッド 確認面標高 117.0m。直径 0.82m の円形の平面形を呈する。確認最大深 0.2m。ほぼ平坦な底面から外東半部ではほぼまっすぐに、西半ではわずかに外反気味に壁が立ち上がる。覆土はロームを含む褐色から暗褐色土で部分的に焼土粒を含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

90号土坑 6-94-R-17 グリッド 確認面標高 117.0m。東西最大長 1.12m、南北最大長 1.04m の歪んだ円形の平面形を呈するが、底面及び壁は木根により乱されている。最大確認深 0.38m。東半部の壁は外反して立ち上がり、西半部の壁は攪乱が激しいが、小さな段を持っていたらしい。覆土はロームを混ざる暗褐色土で、炭化物を含む。S186 は先端を欠く石錐で、黒色頁岩製。覆土から出土している。

92号土坑 6-94-S-12 グリッド 確認面標高 115.7m。東端部を攪乱によって切られるが、ほぼ東西に長軸を持つ楕円形の平面形を呈する。長径 1.82m、短径 0.94m。確認最大深は 0.28m で、ほぼ平坦な底面から外反して壁が立ち上がる。覆土はロームを混ざる暗褐色土で、最上位の覆土に少量の焼土粒を含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

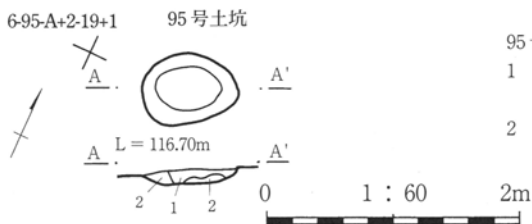
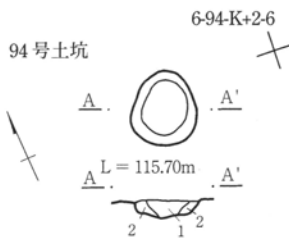
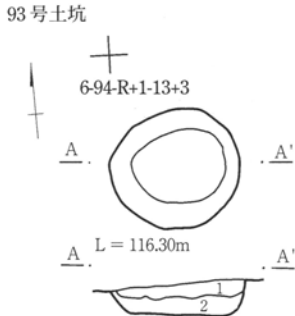
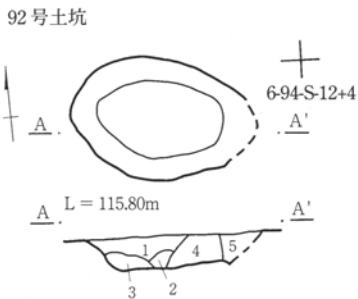
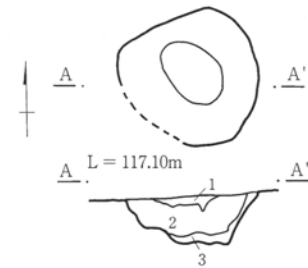
93号土坑 6-94-Q-14 グリッド 確認面標高 116.2m。直径 1.04m の円形の平面形を呈する。確認最大深 0.28m。ほぼ平坦な底面から外東半部ではほぼまっすぐに、西半ではわずかに外反気味に壁が立ち上がる。覆土はロームを含む褐色から暗褐色土。この土坑に伴う出土遺物はない。

94号土坑 6-94-K-5.6 グリッド 確認面標高 115.6m。直径 0.58m の円形の平面形を呈する。確認最大深 0.14m。丸底の底面からU字状に壁が立ち上がる。覆土はロームを含む褐色から暗褐色土で部分的に炭化物



90号土坑

6-94-R+4-17+2



89号土坑

- 1 10YR3/4から4/4 暗褐色土 暗褐色土、ロームまじり。白色の細粒軽石あり。焼土粒あり。
- 2 10YR4/6から4/4 ローム暗褐色土まじり。白色の細粒軽石わずかにあり。

90号土坑

- 1 10YR4/4から4/6 褐色土 ローム、暗褐色土まじり。白色の細粒軽石少しあり。
- 2 10YR3/4から4/4 暗褐色土 暗褐色土、ロームまじり。炭片少しあり。下位にロームブロック少しあり。白色の細粒軽石あり。
- 3 10YR4/6 ローム主体。暗褐色土まじり。ロームブロックあり。



92号土坑

- 1 10YR4/4から3/4 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。白色の細粒軽石あり。焼土粒少しまじる。
- 2 10YR4/4から4/6 褐色土 暗褐色土、ローム粒まじり。白色の細粒軽石少しあり。
- 3 10YR4/6 褐色土 ローム、暗褐色土まじり。やや軟質。軽石はほとんどなし。
- 4 10YR4/6から4/4 褐色土 ローム、暗褐色土まじり。2に近いが、2層よりしまりよくやや白色の細粒軽石が多い。
- 5 10YR4/4から3/4 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。白色の細粒軽石あり。小さなロームブロック少しあり。

93号土坑

- 1 10YR4/4から4/6 暗褐色土、ロームまじり。白色の細粒軽石少しあり。As-YPらしき軽石少しあり。
- 2 10YR4/4 暗褐色土、ロームまじり。1層より少し暗い。白色の細粒軽石少しあり。As-YPらしき軽石少しあり。ロームブロック少しあり。

94号土坑

- 1 10YR3/4から4/4 暗褐色土 暗褐色土、ロームまじり。白色の細粒軽石、少しあり。炭片少しあり。
- 2 10YR4/4 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。1層より明るい。白色の細粒軽石少しあり。小さいロームブロック少しあり。

95号土坑

- 1 10YR4/4 暗褐色土、ロームまじり。白色の細粒軽石少しあり。As-YPらしき軽石少しあり。炭片わずかにあり。
- 2 10YR4/6から4/4 暗褐色土、ロームまじり。1層よりローム分多い。白色の細粒軽石少しあり。

第107図 土坑30 (89～90・92～95号土坑)

2 土坑・埋設土器

を含むが、全体に根による攪乱が著しい。この土坑に伴う出土遺物はない。

95号土坑 6-95-A-19グリッド 確認面標高116.6m。長径0.76m、短径0.58mの南西-北東方向に長軸を持つ楕円形の平面形を呈する。確認最大深0.12m。断面形は皿状を呈する。覆土はロームを含む暗褐色土で部分的に炭化物を含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

96号土坑 6-95-A-18グリッド 確認面標高116.5m。長径0.78m、短径0.58mの北西-南東方向に長軸を持つ楕円形の平面形を呈する。確認最大深0.15m。断面形はやや深い皿状を呈する。覆土はロームを含む褐色から暗褐色土で部分的に炭化物を含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

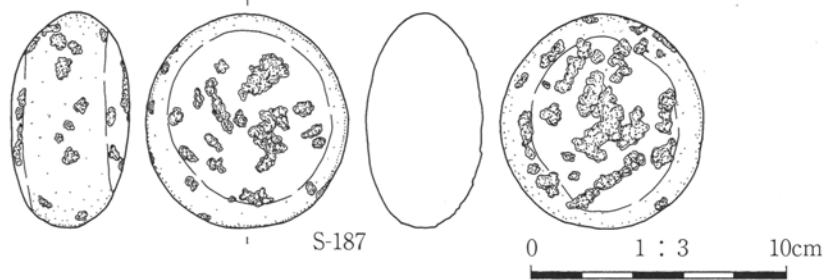
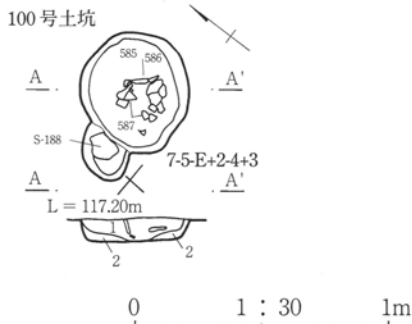
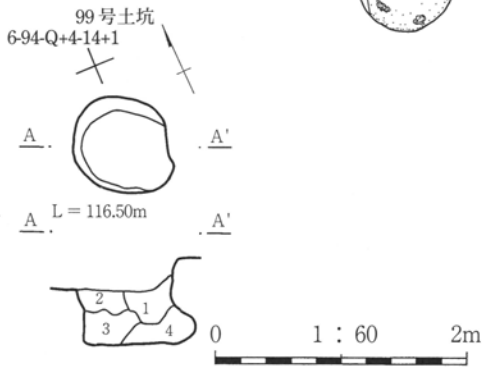
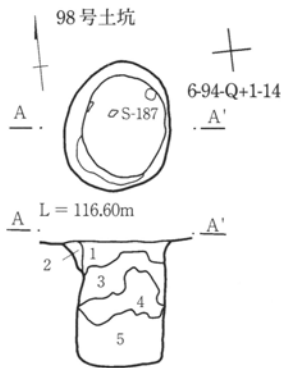
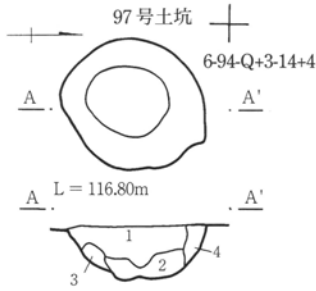
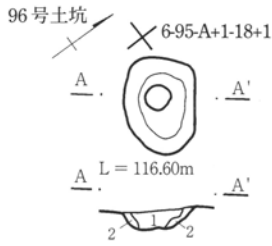
97号土坑 6-94-Q-14グリッド 確認面標高116.7m。直径1.16mのやや歪んだ円形の平面形を呈する。確認最大深0.44m。丸底の底面からU字状に壁が立ち上がる。覆土はロームを含む褐色から暗褐色土で上位に炭化物を含み、中位にロームブロックを多く含む部分がある。全体に根による攪乱が著しい。この土坑に伴う出土遺物はない。

98号土坑 6-94-P-14グリッド 確認面標高116.5m。長径1.02m、短径0.84mの南北に長軸を持つ楕円形の平面形を呈する。確認最大深は1.0mあり、わずかに中央が窪む底部から西側の上部がやや崩れるものの、ほぼ垂直に壁が立ち上がる。覆土はローム混じりの暗褐色土を主体とし、中、下位に少量ながら焼土粒、炭化物粒を含む。底部近くから石片と粗粒輝石安山岩製の磨石S187が出土している。表裏両面に磨り面があり、側面を含め、敲打痕が目立つ。

99号土坑 6-94-R-14.15グリッド 確認面標高116.3m。袋状土坑。9号住居の南東隅近くに当たり、これを切ってつくられている。確認面での口径0.78m。最大径は底部よりわずかに上にあり、最大径位置での平面形は東西にやや長い扁円形を呈する。長軸長0.84m、短軸長0.75m。確認最大深は0.54m。住居内に当たる部分では袋部の天井が崩れたらしく、下位はロームを混ざる褐色土で埋まり、東部の住居壁際より外の部分を除いて底面からまっすぐに壁が立ち上がる。上位の覆土は暗褐色土を主にロームが混じり、焼土粒、炭化物粒を含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

100号土坑 7-5-E-4グリッド 確認面標高117.0m。直径0.86m、確認最大深0.16mの円形平面の土坑の南西部に径0.46m、確認最大深0.05mほどの小ピットが付属する。切り合いはとらえられていない。覆土はロームを主体として暗褐色土が混じるものの、混入物のごく少ない土である。前期前半の土器及び磨石が出土している。585から587は同一個体で、厚みのある器壁の深鉢である。0段多条からなる単節LR、RLが羽状縄文を構成する。底部外面にも縄文が施文されている。底部径9.2cm。現高6.3cm。S188の磨石は粗粒輝石安山岩製で表裏両面に磨り面があり、2か所の漏斗状のくぼみがつけられている。

101号土坑 7-16-S-6グリッド 確認面標高115.9m。袋状土坑。確認面での口径0.68m。最大径は底面よりわずかに上にあって0.96m。最大径位置での平面形はほぼ円形を呈する。底面はほぼ平坦で、外反気味に立ち上がりながら大きく内傾する。確認最大深0.42m。底面近くには地山ロームが崩落したものと思われる軟



96号土坑

- 1 10YR4/4から3/4 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。白色の細粒軽石あり。炭片少しあり。
- 2 10YR4/6 褐色土 ローム、暗褐色土まじり。白色の細粒軽石わずかにあり。ロームブロックを含む。

97号土坑

- 1 10YR4/4 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。白色の細粒軽石少しあり。炭片少しあり。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土にローム少しまじる。白色の細粒軽石少しあり。1層より少ない小さなロームブロック少しあり。炭片少しあり。
- 3 10YR4/4から3/4 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。ロームブロック少しあり。白色の細粒軽石わずか。1、2層より少ない。
- 4 10YR4/4から4/6 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。1層よりローム分多くやや明るい。白色の細粒軽石ほとんどなし。(地山?)

98号土坑

- 1 10YR4/4 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。白色の細粒軽石少しあり。
- 2 10YR4/6 褐色土 ロームに暗褐色土まじる。小さなロームブロック少しあり。混入物ほとんどなし。(地山の崩れた部分か?)
- 3 10YR5/4 暗褐色土 暗褐色土、ロームまじり。ロームは斑状に見える。白色の細粒軽石あり。As-YP少しあり。炭片、焼土粒少しあり。
- 4 10YR3/3から3/2 暗褐色土 暗褐色土、ロームのまじりは、ほとんど見られず、白い小さな軽石目立つ。炭片、焼土粒少しあり。
- 5 10YR3/4から3/2 暗褐色土 暗褐色土、ローム粒少しまじる。ロームブロック少しあり。白色の細粒軽石あり。4層より少ない。炭片、焼土粒わずかにあり。

99号土坑

- 1 7.5YR4/6から4/4 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。ロームブロック少しあり。白色の細粒軽石あり。焼土粒、炭片少しあり。
- 2 7.5YR4/6 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。1層よりやや明るい。白色の細粒軽石あり。焼土粒、炭片少しあり。
- 3 10YR4/6から5/6 褐色土 ローム、暗褐色土まじり。白色の細粒軽石少しあり。焼土粒わずかにあり。
- 4 10YR4/6から5/6 褐色土 ローム、暗褐色土まじり。白色の細粒軽石ほとんどなし。3層よりやや明るい色。右壁際にAs-BPあり(壁からの崩れ)。

100号土坑

- 1 10YR4/4 褐色土 ローム、暗褐色土まじり。白色の細粒軽石わずかにあり、混入物ほとんどなし。
- 2 10YR4/6から5/6 褐色土 ローム暗褐色土まじり。1層よりローム分多く明るい。As-OP1、As-YPらしき軽石あり。軽石も1層より多い。

第108図 土坑31 (96～100号土坑)

2 土坑・埋設土器

質の褐色土が堆積し、その上位に暗褐色土の多い土が乗る。中位には細かな炭化物を多く含むが、最上位は地山と見分けのつかない黄褐色土である。この土坑に伴う出土遺物はない。

102号土坑 7-16-S-6グリッド 確認面標高115.9m。袋状土坑。確認面では南北1.28m、東西1.46mのわずかに東西に長い扁円形の平面形を呈する。最大径は底面より上位にあって、最大径位置での平面形は東西1.6m、南北1.5mの扁円形。底面はほぼ平らで、15cmほどの高さまで外反した後に屈曲して内傾する。覆土はロームを混じる暗褐色土で、中、上位に焼土粒や炭化物粒を含む。底部や壁際、中位中央にロームが多く含まれる部分がある。この土坑に伴う出土遺物はない。

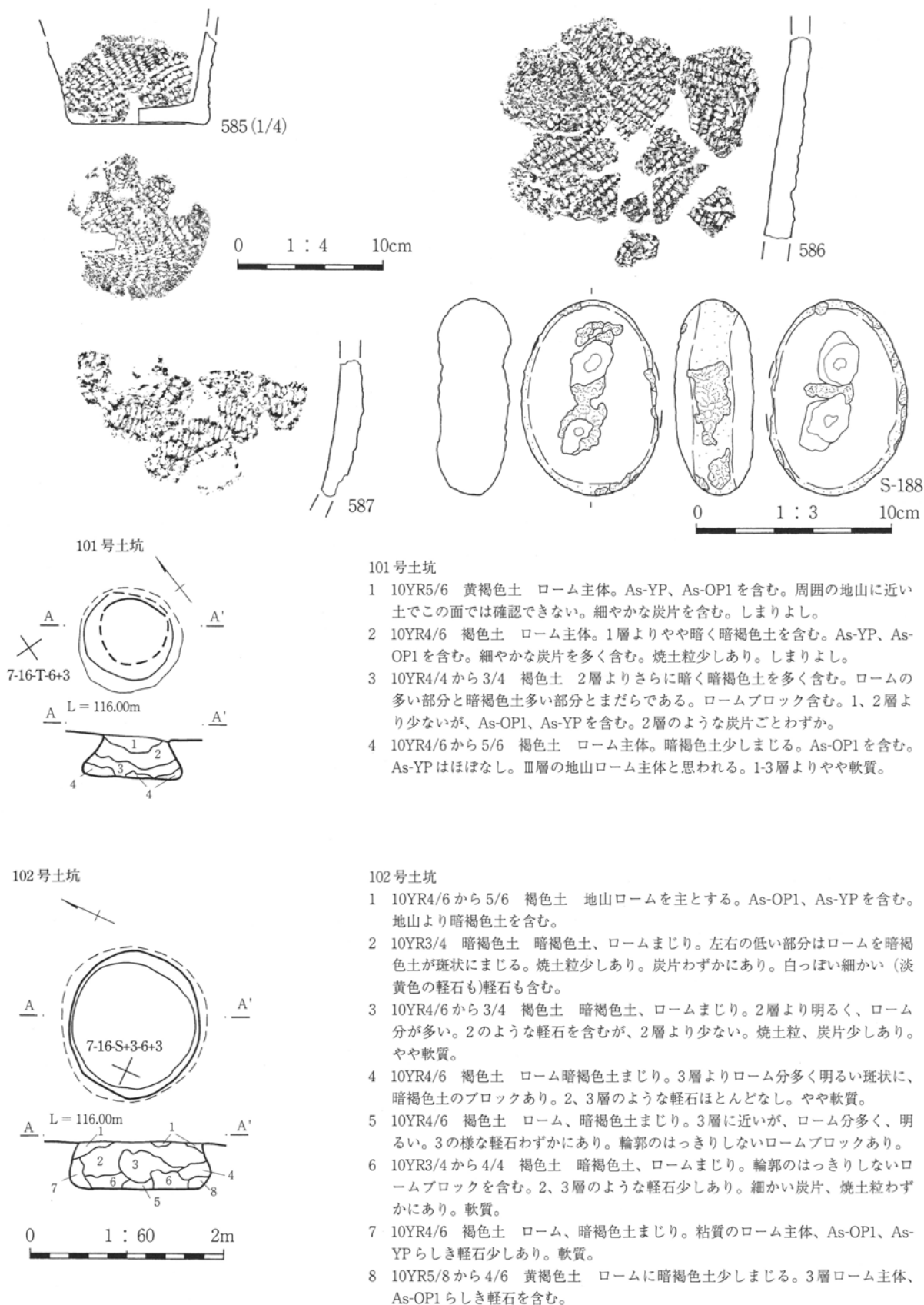
103号土坑 7-16-P-4グリッド 確認面標高115.6m。北東-南西に長軸を持つ長円形の平面形を呈する。長径1.04m、短径0.9m。確認最大深は0.18mと浅く、ほぼ平坦な底面からなだらかに壁が立ち上がる。覆土はローム混じりの暗褐色土。この土坑に伴う出土遺物はない。

110号土坑 7-16-S-4グリッド 確認面標高115.7m。円形の平面形を呈し、直径0.87m。確認最大深0.42mで、ほぼ平坦な底部からやや丸みを持って壁が立ち上がる。覆土は中央部に細かな炭化物粒を含む暗褐色土があり、壁寄りにロームと暗褐色土の混土が堆積する。確認面の上に縄文時代中期の遺物包含層に近い褐色土が乗る。この土坑に伴う出土遺物はない。

111号土坑 7-16-S-4グリッド 確認面標高115.7m。袋状土坑。確認面での口径は直径0.94m。最大径位置は底面よりやや上位にあって、確認面での上端部は最大径位置の平面上はやや南東による。最大径1.16m。凹凸のある底面からやや丸みを持って壁が立ち上がるが、北東半はそのまま内傾せずに短く直立した後に屈曲して開口部に至る。南西部は緩やかな丸みを持って内傾する。覆土は上位にローム混じりの暗褐色土があり、細かな炭化物粒を含む。底面と壁面近くにはローム主体で暗褐色土を混じる褐色土が堆積する。底面近くに角礫があり、覆土から土器片が出土している。ともに黒浜式の深鉢片で、588は巾5mmの半截竹管による平行沈線文、コンパス文を付す。589は単節RLの斜行縄文を施文する。

112号土坑 7-16-S-4グリッド 確認面標高115.6m。直径1.12mの円形の平面形を呈する。確認最大深は0.63mで、ほぼ平坦な底部からやや張り出すようなふくらみを持って壁が立ち上がるが、袋状を呈するものではない。覆土は北から南への傾斜をもって堆積しており、上下位にローム分の多い褐色土、中位に炭化物粒や焼土粒を含む暗褐色土が堆積する。113号土坑を切る。590は出土位置が確認できず、112号に属するものか113号に属するものかわからない。黒浜式の深鉢片で、胴部に文様の分割線と思われる細い沈線が一条垂下する。沈線から左右対称に巾5mmの半截竹管による平行沈線文が施文され、沈線内に爪形文を充填する。

113号土坑 7-16-S-4グリッド 確認面標高115.6m。北東部を112号土坑に切られ、南西部は調査区外となるため、全体の形状はわからない。北西-南東方向に長軸を持つ長円形の平面形かと思われる。確認最大長1.22m。覆土の下位はロームを主体とし、上位は炭化物粒を含む暗褐色土である、壁は丸みを持ってなだらかに立ち上がっている。この土坑に伴う出土遺物はない。



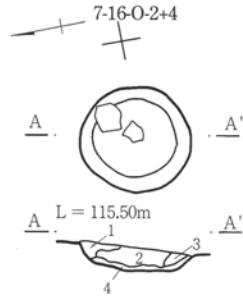
第109図 土坑32 (100号土坑出土遺物・101・102号土坑)

2 土坑・埋設土器



第110図 土坑33 (103・110～113号土坑)

114号土坑

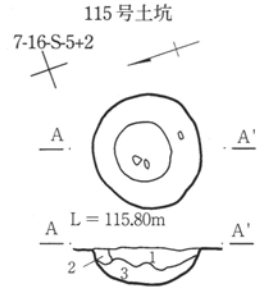


114号土坑

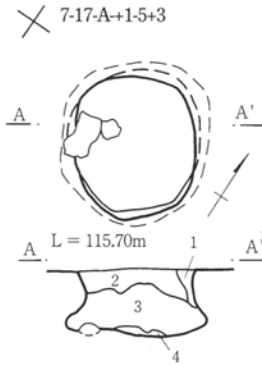
- 1 10YR3/4 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。白色の細粒軽石あり。ロームまだらに含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ロームまじり。1層よりローム少なく、暗い。白色の細粒軽石あり。焼土粒少しあり。細かい炭片少しあり。
- 3 10YR4/6 褐色土 ローム主体、暗褐色土少しまじる。軽石ほとんどなし、やや軟質。
- 4 10YR4/4 褐色土 ローム主体、ロームブロックを含む。暗褐色土少しまじる。

115号土坑

- 1 10YR4/6 褐色土 ローム、暗褐色土まじり。As-OP1らしき軽石あり。しまりよし。
- 2 10YR4/6 1に近いが、As-YP軽石を多く含む。地山の崩れらしい。
- 3 10YR4/6 褐色土 ローム暗褐色土まじり。1層より軽石目立たない。やや軟質。炭片少しあり。



116号土坑



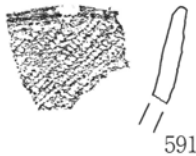
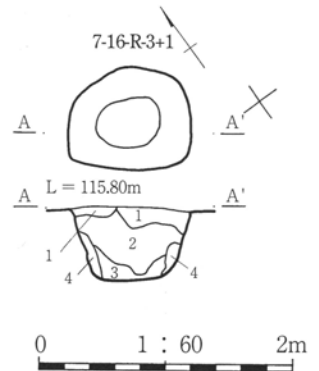
116号土坑

- 1 10YR4/6 褐色土 ローム暗褐色土まじり。2、3層よりロームが多い。やや軟質。
- 2 10YR4/4から3/4 褐色土 ローム暗褐色土まじり。白色の細粒軽石を含む。細かな炭片を含む。焼土粒わずかにあり。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土ロームまじり。2層よりローム分少なく、やや暗い。白い細かな軽石あり。As-YP少しあり。細かな炭片を含む。
- 4 10YR5/6から4/6 黄褐色土 ローム主体、暗褐色土少しまじる。地山(As-OP1相当層)に少し暗褐色土まじる。

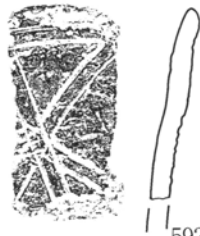
117号土坑

- 1 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土、ロームまじり。ロームはまだらに見える。白色の細粒軽石あり。細かな炭片少しあり。
- 2 10YR3/2 黒褐色土 黒褐色土、ロームまじり。白色の細粒軽石あり。As-YPらしき軽石少しあり。細かな炭片を含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土、ローム不均一にまじる。水分を多く含む。白色の細粒軽石わずかにあり。やや軟質。
- 4 10YR4/4から3/4 褐色土 ローム、黒褐色土が不均一にまじる。3層よりローム分が多い。やや軟質。

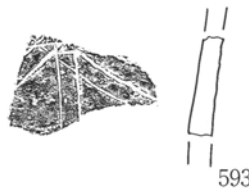
117号土坑



591



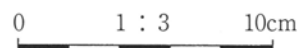
592



593



594



第111図 土坑34 (114～117号土坑)

2 土坑・埋設土器

114号土坑 7-16-O-3グリッド 確認面標高115.4m。直径0.88mの円形の平面形を呈する。確認最大深は0.18mで、断面形は皿状を呈する。覆土はロームと暗褐色土の混土で、中央部に炭化物粒を含む部分がある。角礫が地山に食い込むような状態で認められたが、この土坑に伴う出土遺物はない。

115号土坑 7-16-S-5グリッド 確認面標高115.7m。直径0.84mの円形の平面形で、確認最大深0.28m。小さな底部平坦面から弧状に壁が立ち上がり、半球形を呈する。覆土は暗褐色土混じりのロームを主体とし、下位に炭化物粒を少量含む。石片と縄文土器細片2が出土しているが、型式判定や図示に耐えるものはなかった。

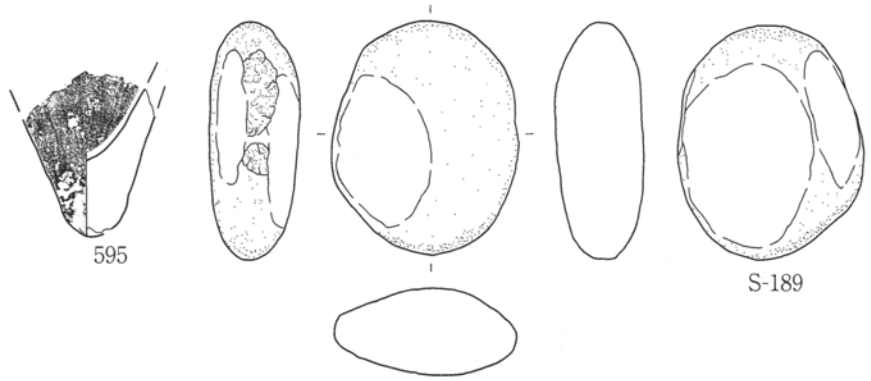
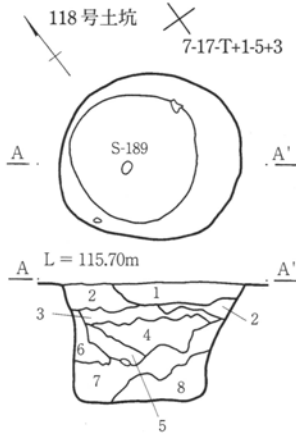
116号土坑 7-16-T-20/7-17-A-1グリッド 確認面標高115.6m。袋状土坑。確認面では北西-南東方向にやや長い扁円形の平面形で、長軸長1.12m、短軸長0.92m。最大径はほぼ底面にあり、確認面での形状と相似形に、長軸1.24m、短軸1.16mを示す。底面は波打つような凹凸があり、東半部がやや低くなる。壁は底面から強く内傾し、高さ30cmほどで角度を変えて外反する。くびれ部分での最小径は0.88m。覆土は底面近くがロームを主体とし、その上位に細かな炭化物粒を含む暗褐色土が乗る。上位覆土はロームに暗褐色土が混じた土で、炭化物粒や焼土粒を含む。南西隅部に地山に食い込むように礫が認められたが、この土坑に伴う出土遺物はない。

117号土坑 7-16-R-3グリッド 確認面標高115.5m。北西-南東方向に長軸を持つ隅丸長方形に近い平面形を呈する。長軸長0.94m、短軸長0.8m。確認最大深0.58mで、わずかに中央が浅い底部から小さな丸みを持って壁が立ち上がり、断面形は角の取れた台形状を呈する。壁際にはロームの多い褐色土が見られるが、全体に暗褐色から黒褐色土で埋まり、中上位には炭化物粒を含む。覆土から土器片が出土している。ともに黒浜式の深鉢片で、591は単節LRの斜行縄文、592は8.5mmの半截竹管による平行沈線文を施す。593と594は同一個体で、巾8.5mmの半截竹管による平行沈線文を施文する。

118号土坑 7-17-T-5グリッド 確認面標高115.6m。北西-南東方向に長軸を持つ偏円形に近い平面形を呈する。長軸長1.48m、短軸長1.39m。確認最大深0.94mで、径0.94mほどの平坦な底面からやや丸みを持って壁が立ち上がり、中位から角度を変えて外反する。下位の覆土は南東方向から流れ込んだような堆積を示すロームと暗褐色土の混土で、炭化物片を少量含む。中位の暗褐色土中にも炭化物を含む部分がある。最上位の覆土には焼土粒が含まれる。底部中央に石英閃緑岩製の磨石S189がある。595は田戸下層式の尖底の深鉢底部片で、残存部に文様は見られず、器面はよく研磨されている。

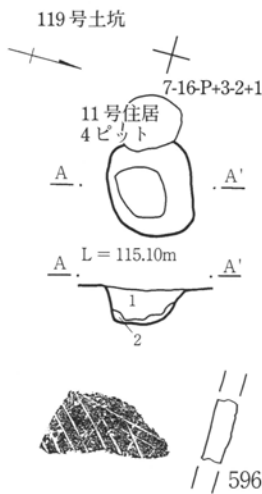
119号土坑 7-16-P-2グリッド 確認面標高115.0m。25号住居内にあつて、住居に伴うピットに切られる。東西にやや長い隅丸長方形に近い平面形を呈し、長軸長0.72m、短軸長0.64m。確認最大深0.28cmで小さな平底の底面から外反気味に壁が立ち上がる。覆土下層はロームを主体とし、上位は暗褐色土を主体として炭化物を含む。596は早期のものと思われ、巾5mmの半截竹管による平行沈線文を施文する。

121号土坑 7-16-P-3グリッド 確認面標高115.4m。26号住居の中央よりやや南寄りを切っている。上端では長軸長1.22m、短軸長0.94mの北西-南東方向に長軸を持つ歪んだ橢円形の平面形を呈する。底面の北西



118号土坑

- 1 10YR3/3 から 4/4 暗褐色土 暗褐色土、ローム粒まじり。ロームはまだらに見える。白色の細粒軽石あり。焼土粒少しあり。
- 2 10YR4/4 褐色土 ローム暗褐色土まじり。白色の細粒軽石少しあり。焼土粒わずかにあり。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土、ロームまじり。ロームはまだらに見える。白色の細粒軽石少しあり。やや軟質。
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ローム、少しまじる。白色の細粒軽石、細かい炭片も少しあり。黄色の軽石少しあり。
- 5 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土、ロームまじり。黄色の軽石少しあり。
- 6 10YR4/6 から 5/6 褐色土 ローム主体、As-YP、As-OP1らしき軽石あり。暗褐色土少しまじる。(壁の崩れか?)
- 7 10YR3/4 から 4/4 暗褐色土 暗褐色土、ロームまじり。白から黄色の軽石あり。水気を含むがあまりベタツとしない土。炭片少しあり。
- 8 10YR4/4 褐色土 ローム、暗褐色土まじり。7層と同じ軽石わずかにあり。7層より水気を含みべたつとする。炭化物片を含む。

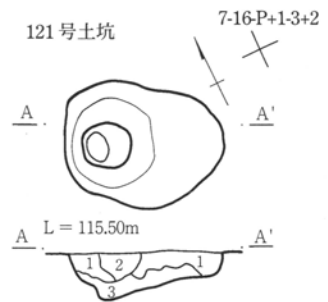


119号土坑

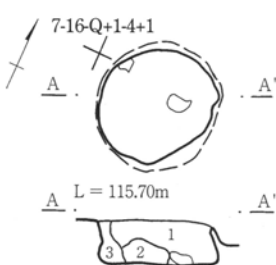
- 1 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土、ロームまじり。ロームはまだらに見える。白色の細粒軽石あり。As-YP少しあり。炭片わずかにあり。
- 2 10YR4/6 褐色土 ローム、暗褐色土まじり。ロームブロックを含む。水気多い。

121号土坑

- 1 10YR3/3 暗褐色土 暗褐色土、ローム粒まじり。ロームはまだらに入って見える。白色の細粒軽石あり。細かな炭片あり。下位にはロームブロックあり。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土、ロームまじり。ロームはまだらに入って見える。白色の細粒軽石はわずか。1層より少なく、ややローム分多い。
- 3 10YR3/4 から 4/4 暗褐色土 暗褐色土、ロームまじり。白色の細粒軽石少しあり。ロームブロックを含む。下位に多い。

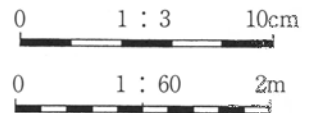


122号土坑



122号土坑

- 1 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土、ローム粒まじり。ロームブロック少しあり。白色の細粒軽石少しあり。ロームはまだらに見える。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 暗褐色土、ローム粒まじり。ロームブロック少しあり。1層より暗い、白色の細粒軽石は1層より多い。
- 3 10YR3/4 から 4/4 暗褐色土 暗褐色土、ロームまじり。1、2層よりローム、ロームブロック多い。白色の細粒軽石少しあり。



第112図 土坑35 (118～119・121～122号土坑)

2 土坑・埋設土器

部に直径0.65mほどの円形掘り込みがあり、この底面までの確認最大深は0.36mある。覆土はロームを含む暗褐色土で、上位に炭化物粒を含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

122号土坑 7-16-Q-4グリッド 確認面標高115.6m。24号住居の北東壁を切る。袋状土坑。天井部が崩れている。確認面では直径0.88mの南東部を欠く円形の平面形を呈する。この南東部では袋部が比較的良好に残っている。最大径は底面よりわずかに上にあり、最大径位置での平面形は径0.94mの円形となる。確認最大深0.36m。覆土はローム混じりの暗褐色土。底面に接して礫が出土しているが、他に遺物はない。

123号土坑 7-16-Q-4グリッド 確認面標高115.3m。24号住居の北西隅近くを切る。長軸長0.88m、短軸長0.8mのやや南北に長い扁円形の平面形を呈す。確認最大深0.32m。ほぼ平坦な底部から上方に開きながら壁が立ち上がる。覆土は底面近くにローム主体の褐色土があるが、主体は細かい炭化物を多く含む黒褐色土。遺物はいずれも黒浜式の深鉢片で、黒褐色土中から出土している。597、598は単節LR、RLの羽状縄文を施文する。599は単節RLの斜行縄文を施す。内面は被熱によって赤色化している。

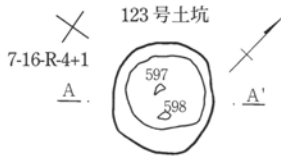
124号土坑 7-16-P-2グリッド 確認面標高115.0m。25号住居の中央やや南東寄りを切る。袋状土坑。口径は0.86m、確認面下15cmほどの位置でいったんくびれて、直径0.74mほどとなる。最大径は底面よりやや上にあり、最大径位置では直径0.92mの円形の平面形を呈する。覆土は下位に厚くローム混じりの暗褐色土が堆積し、その上に比較的薄いロームブロックを含む褐色土が乗る。図示した土器片はこの層に含まれる。最上位はやや赤みを帯びた暗褐色土である、ともに炭化物片を少量含む。出土土器はすべて黒浜式。600、601は同一個体と思われ、器壁は薄くもろい。単節LR、RLが菱形羽状縄文を構成する。603は深鉢口縁部の破片で、口唇部は外反し、細かな刻み目が施される。巾6mmの半截竹管による平行沈線文を横位、斜位に施文。602と604は同一個体で、巾1cmの半截竹管による平行沈線文を施文する。

125号土坑 7-19-O-2グリッド 確認面標高115.3m。126号土坑に切られる。ほぼ南北に長軸を置く楕円形の平面形を呈し、長径1.08m、短径0.8m。確認最大深は0.2mで、ほぼ平坦な底部からやや緩い傾斜で壁が立ち上がる。覆土下位はローム粒を含む暗褐色土、上位はローム粒を含む黒褐色土である。この土坑に伴う出土遺物はない。

126号土坑 7-19-O-2グリッド 確認面標高115.3m。125号土坑を切る。南北に長軸を置く楕円形の平面形を呈し、長径0.92m、短径は確認長0.64m。ほぼ平坦な底部からやや緩い傾斜で壁が立ち上がる。覆土下位はロームブロックを含む褐色土、上位はローム粒を含む暗褐色土である。この土坑に伴う出土遺物はない。

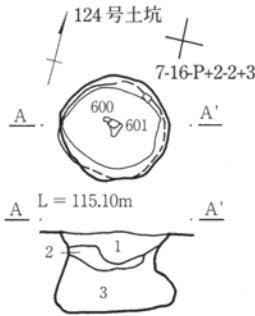
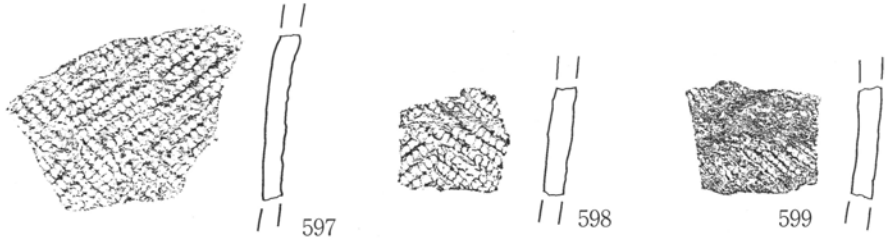
127号土坑 7-16-O-2グリッド 確認面標高115.3m。北西-南東方向にやや長い扁円形の平面形を呈する。長径1.38m、短径1.2m。確認最大深は0.23mで、中央部がやや低い底面から、壁がなだらかな弧状を描いて立ち上がる。壁際にロームを含む暗褐色土があり、中央に細かな炭化物片を含む黒褐色土が堆積する。この土坑に伴う出土遺物はない。

128号土坑 7-16-N-8.9グリッド 確認面標高116.9m。直径0.95mの円形の平面形を呈する。底面中央に径



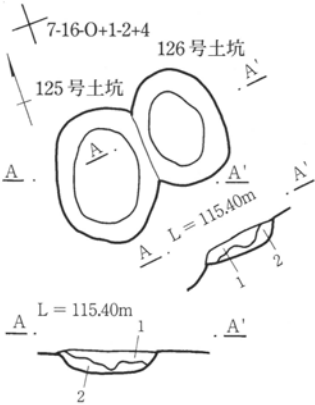
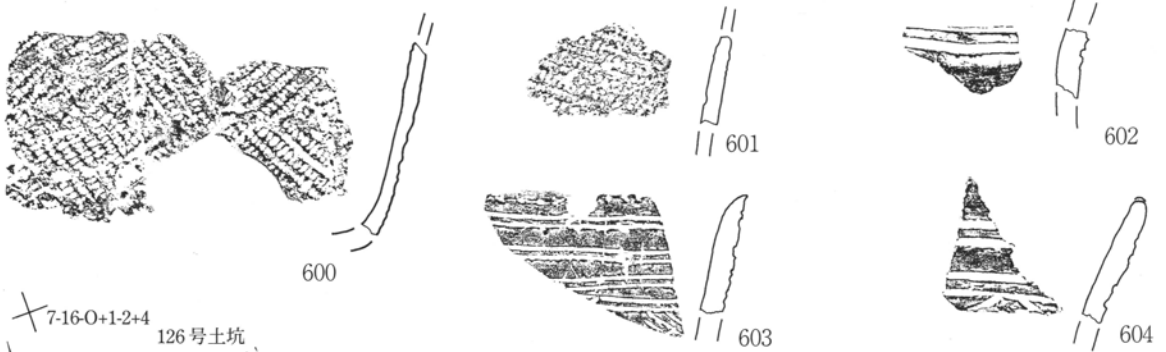
123号土坑

- 1 10YR3/2から3/3 黒褐色土 黒褐色土、ローム粒少しまじる。ロームブロック少しあり。細かい炭片を多く含む。白色の細粒軽石あり。
- 2 10YR4/6 褐色土 ローム、暗褐色土まじり。ロームブロックあり。水気あり。やや軟質。



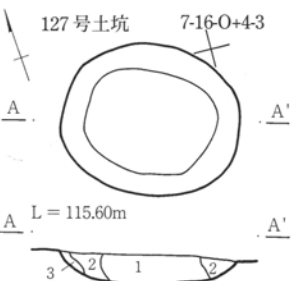
124号土坑

- 1 7.5YR3/4 暗褐色土 暗褐色土、ローム粒まじり。ロームはまだらに見える。白色の細粒軽石あり。炭片少しあり。
- 2 10YR4/4から4/6 褐色土 暗褐色土、ローム粒まじり。ロームブロックを含む。白色の細粒軽石少しあり。炭片少しあり。
- 3 10YR4/4から3/4 褐色土 暗褐色土、ローム粒まじり。下位にはロームブロック少しあり。白色の細粒軽石わずかにあり。炭片は少しあり、水気を多く含む。



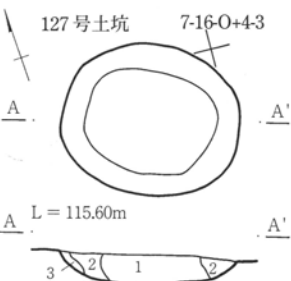
125号土坑

- 1 10YR3/2 黒褐色土 黒褐色土、ローム粒まじり。両端にロームブロック少しあり。白色の細粒軽石あり。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土、ローム粒まじり。ロームブロックあり。白色の細粒軽石少しあり。



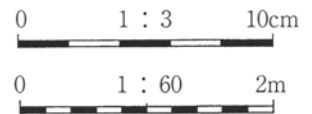
126号土坑

- 1 10YR3/3 暗褐色土 暗褐色土、ローム粒まじり。下位にロームブロック少しあり。白色の細粒軽石少しあり。
- 2 10YR4/6 褐色土 ローム、暗褐色土まじり。ロームブロックを含む。白色の細粒軽石少しあり。



127号土坑

- 1 10YR3/3 黒褐色土 黒褐色土、ローム粒まじり。ロームは薄いまだらに見える。下位にロームブロック少しあり。白色の細粒軽石あり。小さな炭片を含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 暗褐色土、ロームまじり。ロームはまだらに見える。白色の細粒軽石あり。
- 3 10YR3/4から4/4 暗褐色土 暗褐色土、ロームまじり。ロームブロックを含む。白色の細粒軽石少しあり。



第113図 土坑36 (123～127号土坑)

2 土坑・埋設土器

0.5mの円形ピット状に窪む部分があり、この底面までの確認最大深は0.28m。覆土は中央のピット状部分に炭化物粒を多く含む暗褐色土があり、締まった暗褐色土がこれを取り巻く。柱穴を思わせる断面形状である。この土坑に伴う出土遺物はない。

129号土坑 7-16-N-10グリッド 確認面標高117.2m。径1.1mの円形の平面形を呈する。小さな丸底から連続する壁が大きく開く。覆土は炭化物粒を含む暗褐色で、最大確認深は0.33m。この土坑に伴う出土遺物はない。

130号土坑 7-16-Q-12グリッド 確認面標高117.4m。南北にやや長い不整方形の平面形を呈する。長軸長0.94m、短軸長0.8m。確認最大深は0.27m、底面は全体に東向きに傾斜しており、断面形はレ字状を呈する。覆土は暗褐色土で、中央部に炭化物粒を多く含む部分がある。この土坑に伴う出土遺物はない。

131号土坑 7-16-O-11グリッド 確認面標高117.3m。小型の袋状土坑。確認面の径0.74m。最大径は底面よりやや上にあり、0.84m。最大径位置では南北にやや長い扁円形の平面形を呈する。確認最大深0.32m。覆土は暗褐色土を主体とし、中央部分にはロームブロックや炭化物粒を多く含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

132号土坑 7-16-S-12グリッド 確認面標高117.3m。直径0.8mほどの歪んだ円形の平面形を呈する。確認最大深0.26m。底面は全体に東向きに傾斜しており、東壁はほぼまっすぐに立ち上がり、西側壁は緩い弧状を描く。壁際の覆土は汚れたソフトロームが主体で、中央部に炭化物粒を多く含む暗褐色土が堆積する。S190は黒色頁岩製の縦長の石匙で、中央部底面近くから出土したものである。

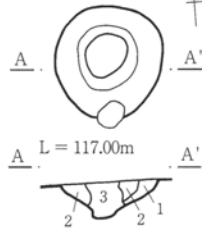
133号土坑 7-16-R.S-13グリッド 確認面標高117.6m。平面形は直径1.0mほどの円形を基本とし、南東部が半円状に突出する。最大長1.28m。確認最大深は0.2mで、平坦な底面から外形気味に壁が立ち上がる。覆土は暗褐色土が主体で、炭化物粒を多く含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

134号土坑 16-S.T-13グリッド 確認面標高117.6m。長径1.8m、短径0.98mの長円形の平面形を呈する。確認最大深は0.48mで、平坦な底面から外反気味に壁が立ち上がる。覆土は暗褐色から黒褐色土が主体で、中央部下位の暗褐色土には炭化物粒を多く含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

135号土坑 7-17-A-11グリッド 確認面標高117.1m。直径0.8mの円形の平面形を呈する。最大確認深は0.2m。小さな凹凸のある底面から比較的緩やかに壁が立ち上がる。覆土は暗褐色土で炭化物粒を含む。この土坑に伴う出土遺物はない。

136号土坑 7-17-A-9グリッド 確認面標高116.6m。長径1.18m、短径1.04mの東西にやや長い歪んだ円形の平面形を呈する。確認最大深は0.4mで、平坦な底部から小さな丸みを持ってわずかに外反気味に壁が立ち上がる。底面から壁際にかけて汚れたロームが堆積し、その中に焼土粒、炭化物粒を含む暗褐色土が陥入する。605、606は単節LR、RLの羽状縄文。607は波状の口縁片で0段多条からなる単節LR、RLの羽状縄

128号土坑
7-16-N+3-9+1



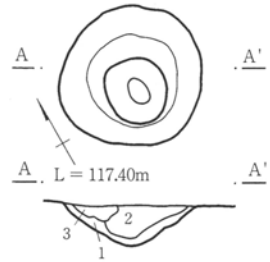
128号土坑

- 1 10YR3/3から10YR3/4 炭化物含む。As-YP、OP粒含む。しまっている。
- 2 10YR3/3 炭化物少量含む。As-YP、OP含む。しまっている。
- 3 10YR3/4 炭化物粒多く含む。As-YP、OP含む。10YR2/3の固くしまったブロック3%含む。しまっている。

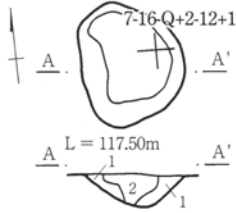
129号土坑

- 1 10YR3/3から10YR3/4 炭化物含む。As-YP、OP粒含む。しまっている。
- 2 10YR3/3 炭化物少量含む。As-YP、OP含む。しまっている。
- 3 10YR3/4 炭化物粒多く含む。As-YP、OP含む。10YR2/3の固くしまったブロック3%含む。しまっている。

129号土坑 7-16-N+3-10+3



130号土坑



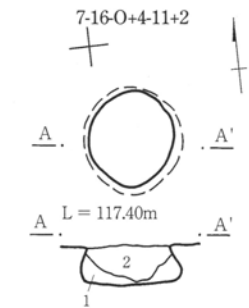
130号土坑

- 1 10YR3/4 炭化物粒、As-YP、OP含む。しまり弱い。中に、2層のブロック7%含む。
- 2 10YR3/4 炭化物粒多く含む。As-YP、OP含む。10YR2/3の固くしまったブロック3%含む。しまっている。

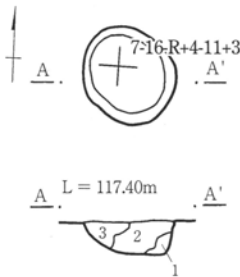
131号土坑

- 1 10YR3/3から10YR3/4 炭化物含む。As-YP、OP粒含む。しまっている。
- 2 10YR3/4 炭化物粒多く含む。As-YP、OP含む。10YR2/3の固くしまったブロック3%含む。しまっている。ロームブロック含む。

131号土坑



132号土坑



S-190 (1/2)



132号土坑

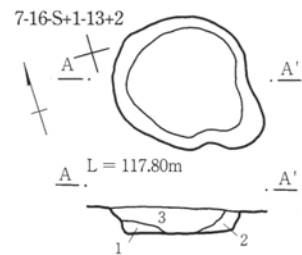
- 1 10YR4/6 汚れたソフトローム。しまり弱い。
- 2 10YR3/4 炭化物粒多く含む。As-YP、OP含む。10YR2/3の固くしまったブロック3%含む。しまっている。

- 3 10YR5/6 ソフトローム。しまり弱い。

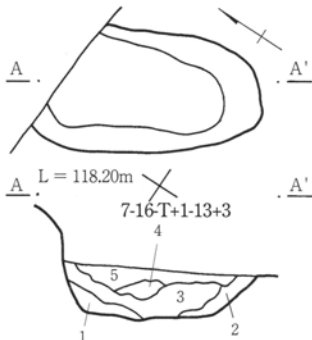
133号土坑

- 1 10YR3/4 炭化物粒、As-YP、As-OP1含む。しまり弱い。
- 2 10YR3/4 炭化物粒、As-YP、As-OP1含む。10YR2/3の固くしまったブロック7%含む。しまり弱い。
- 3 10YR3/4 炭化物粒多く含む。As-YP、As-OP1含む。10YR2/3の固くしまったブロック3%含む。

133号土坑



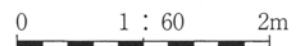
134号土坑



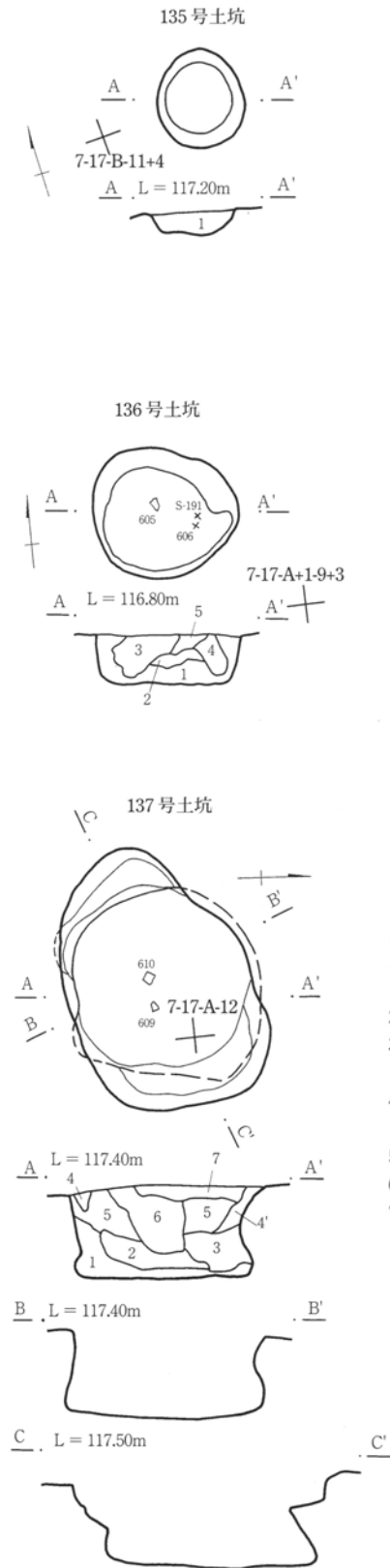
134号土坑

- 1 10YR3/4 炭化物粒、As-YP、As-OP1含む。しまり弱い。
- 2 10YR3/4 炭化物粒、As-YP、As-OP1含む。10YR2/3の固くしまったブロック7%含む。
- 3 10YR3/4 炭化物粒多く含む。As-YP、As-OP1含む。10YR2/3の固くしまったブロック3%含む。しまっている。
- 4 10YR2/3 炭化物粒含む。As-YP、As-OP1少量含む。しまり弱い。
- 5 10YR2/3 As-YP、As-OP1含む。ローム斑3%含む。しまりやや弱い。

第114図 土坑37 (128～134号土坑)



2 土坑・埋設土器

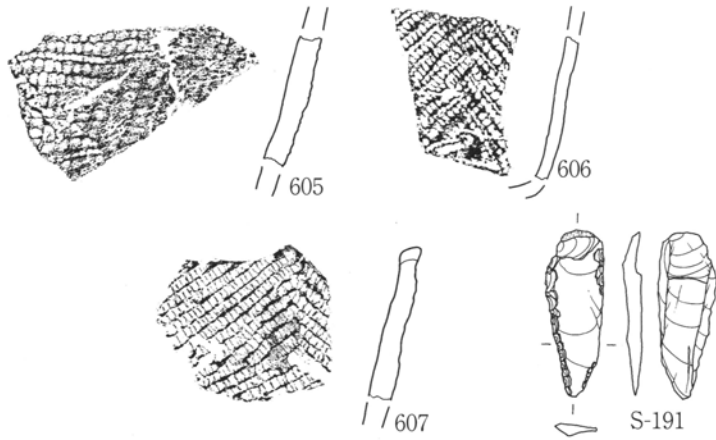


135号土坑

- 1 10YR3/3~10YR3/4 炭化物含む。As-YP、As-OP1 粒含む。しまっている。

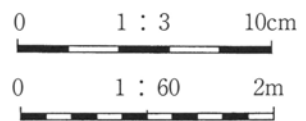
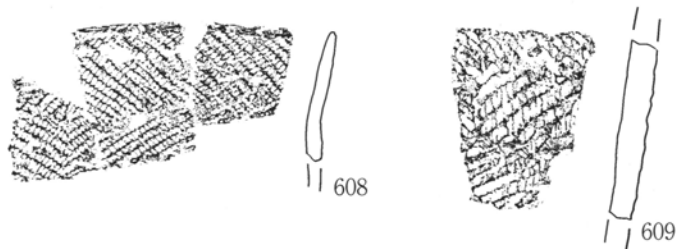
136号土坑

- 1 10YR5/4 As-OP1、As-YP 混。全体に汚れる。しまっている。
 2 10YR3/4 10YR5/4 の斑40% 含む。やや粘質。しまりやや弱い。
 3 10YR3/4 10YR5/4 の円形斑20% 含む。焼土粒、炭化物少量含む。ややしまっている。
 4 10YR3/4 10YR5/4 の斑30% 含む。炭化物粒少量含む。As-YP 粒含む。ややしまっている。
 5 10YR3/4 焼土粒、炭化物粒含む。しまり弱い。

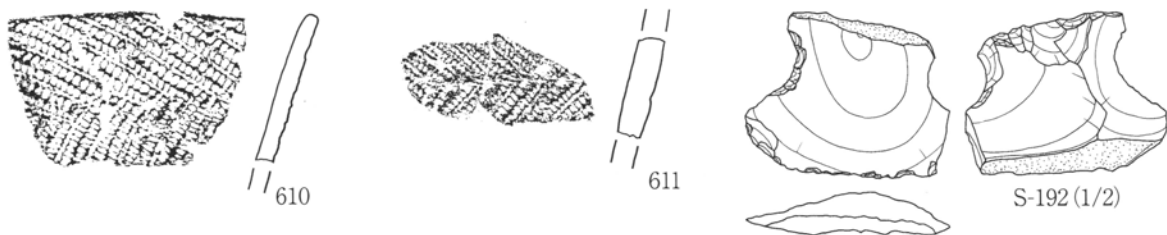


137号土坑

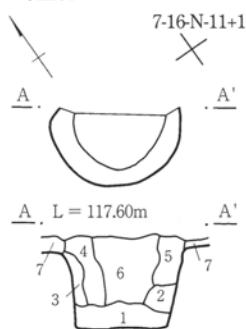
- 1 10YR5/4 ロームブロック (As-YP、As-OP1 混のハードローム) 7% 含む。やや粘質。しまりやや弱い。
 2 10YR4/4 ローム小ブロック3% 含む。炭化物含む。しまりやや弱い。
 3 10YR3/4 ローム小ブロック斑7% 含む。炭化物少量含む。ややしまっている。
 4 10YR5/4 地山か?やや攪乱される。しまり弱い。4' ロームブロックを含む。壁の崩れた部分。
 5 10YR3/4 ローム小ブロック含む。炭化物少量含む。ややしまっている。
 6 10YR4/4 ローム主体。炭化物少量含む。ややしまっている。
 7 10YR3/4 ローム小ブロック・斑3% 含む。炭化物少量含む。しまっている。



第115図 土坑38 (135~137号土坑)



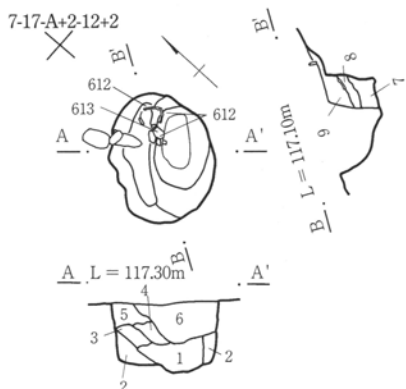
138号土坑



138号土坑

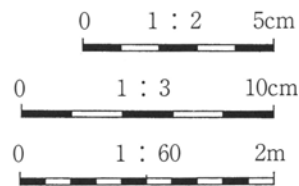
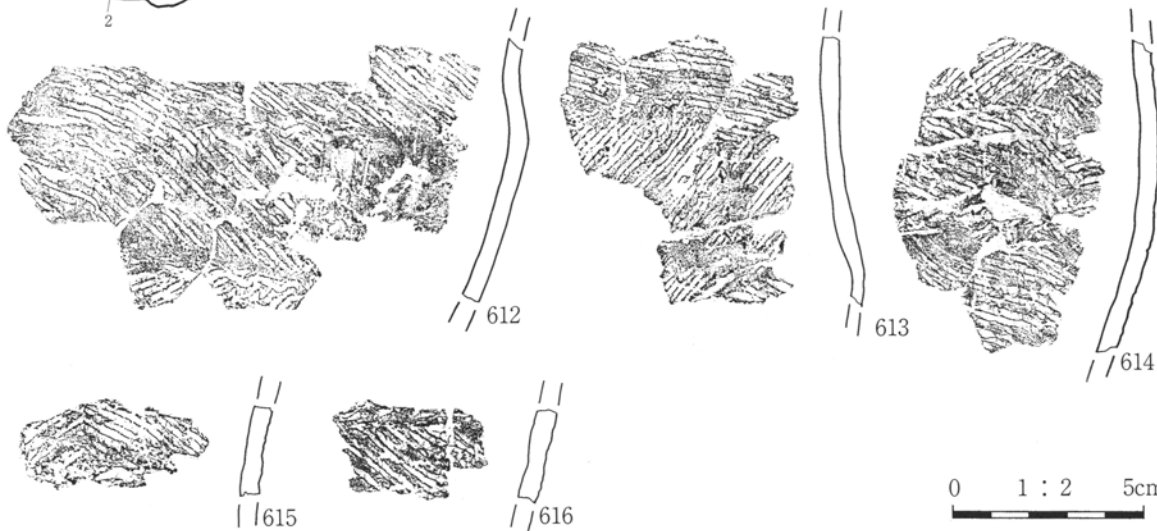
- 1 10YR1/1 崩れたローム斑3%含む。粘質。しまっている。
- 2 10YR2/3 ロームの円形小斑1%含む。白色軽石含む。炭化物少量含む。しまっている。
- 3 10YR3/4 崩れたローム斑1%含む。白色軽石含む。固くしまっている。
- 4 10YR2/3 崩れたローム斑1%含む。白色軽石含む。炭化物少量含む。固くしまっている。
- 5 10YR3/4 3層に近い
- 6 10YR2/3 ローム及び3層類似土の円形小斑7%含む。白色軽石粒含む。炭化物含む。固くしまっている。
- 7 10YR3/4 3、5層に似る。固くしまっている。

139号土坑



139号土坑

- 1 10YR2/3 ローム斑10%含む。炭化物粒多く含む。ややしまっている。
- 2 10YR5/4 全体に汚れ、炭化物粒を含む。しまりやや弱い。
- 3 10YR3/4 ローム斑20%含む。炭化物粒を含む。しまりやや弱い。
- 4 10YR5/4 4層に似るが、しまっている。
- 5 10YR3/4 炭化物少量含む。しまりやや弱い。
- 6 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒7%含む。炭化物含む。締まっている。
- 7 10YR2/3 黒褐色土 炭化物多く含む。ローム小ブロック含む。ローム斑3%含む。締まっている。
- 8 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック含む。ローム斑7%含む。炭化物を多く含む。締まりやや弱い。
- 9 10YR3/4 暗褐色土 ローム円形斑、小ブロックを含む。炭化物粒含む。締まっている。



第116図 土坑39 (137号土坑出土遺物・138～139号土坑)

2 土坑・埋設土器

文を施文する。S191は黒色頁岩製のスクレーパーである。

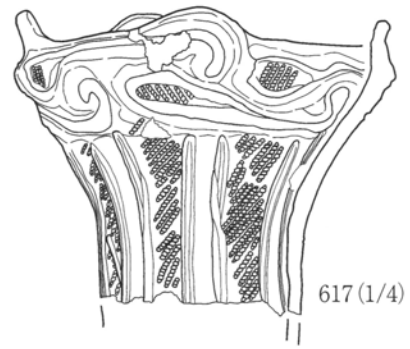
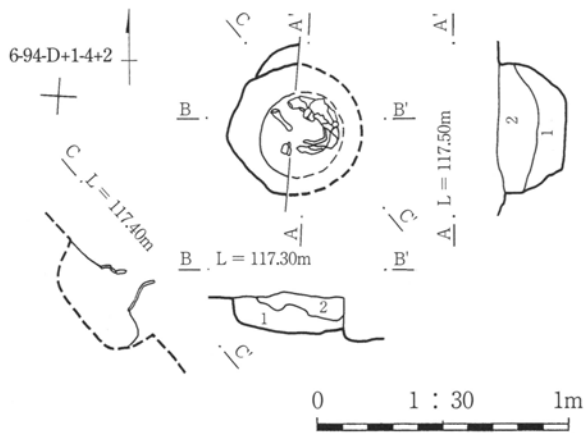
137号土坑 7-16-T-11.12/17-A-11.12グリッド 確認面標高117.2m。比較的大型の袋状土坑。上位が崩れているため、確認面では東西2.22m、南北1.6mほどの不整形の平面形となるが、袋部の最大径位置では直径1.6mほどのやや歪んだ円形の平面形を呈する。確認最大深0.76m。底面近くにはAs-OP1、As-YP相当層のハードロームブロックを含むソフトロームの再堆積土があり、その上位に炭化物粒を含む褐色土、暗褐色土が乗る。608は口縁片で、単節LR、RLの羽状縄文、609は0段多条からなる単節LR、RLの羽状縄文を施文する。610、611は附加条1種LR+RI、RI+LIが羽状縄文を構成する。611では施文単位の境に一条の細い沈線が横位に走る。S192の石匙は黒色頁岩製。

138号土坑 7-16-N-11グリッド 確認面標高117.4m。北東半が調査区外となるため全形は把握できないが、直径1.0mほどの円形の平面形を呈するものと思われる。確認最大深は0.72mある。平坦な底面から外反気味に壁が立ち上がる。底面には崩れたロームを含む黒色土が水平に近い状態で堆積する。これより上位の覆土は変則的な堆積で、壁近くにはロームを少量含む暗褐色土、黒褐色土、中心部に黒褐色土があるが、境界線はほぼ垂直方向を示す。この土坑に伴う出土遺物はない。

139号土坑 7-17-A-11グリッド 確認面標高117.2m。27号住居の中央やや西寄りを切る。27号住居床面では長径1.03m、短径0.82mの、北東-南西方向がやや長い歪んだ楕円形の平面形を呈するが、これより上位では大きく上方に開く形態であったらしく、短軸方向の土層断面では確認上端面の長が1.8mとなっている。覆土は暗褐色土と黄褐色土が混じり合い、全体に少量の炭化物粒を含む。炉石状の礫があり、土器は埋甕状の出土状態を示す。612から616は同一個体で、無節LI、RIが菱形羽状縄文を構成する。黒浜式。

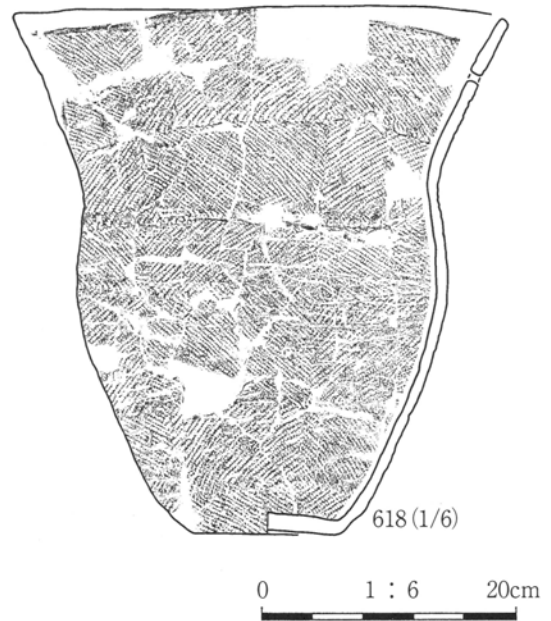
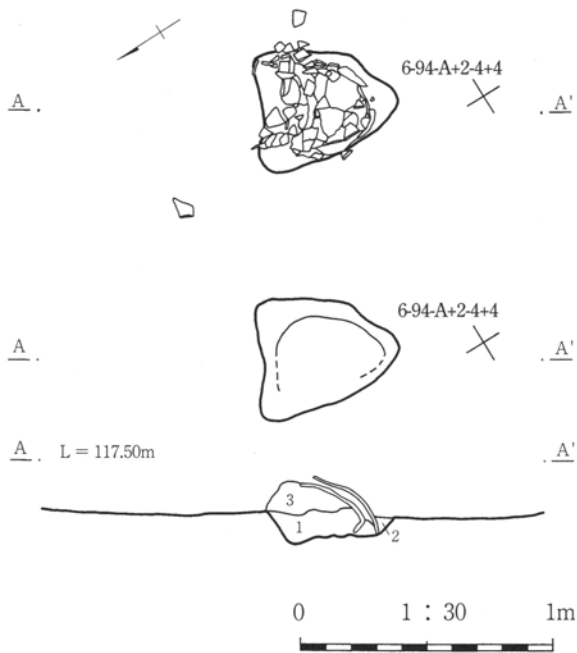
1号埋設土器 6-94-D-4グリッド 確認面標高117.3m。倒立状態の深鉢が単独で確認されたものである。深鉢は底部から胴下半を欠く。口縁部文様帯には隆線と沈線によって渦巻文と楕円区画が構成され、楕円区画内には単節RIが横位に、一部縦位に施文される。胴部は巾8mmの沈線が2条対で垂下して縦位に区画し、区画内には単節RIが縦位施文される。内面はよく研磨されている。口径18.7cm。現高17.6cm。住居の可能性のあるものと見て精査を重ねたが、住居は確認できなかった。土器を直接覆う土はソフトロームとの識別が困難で、地山と酷似している。土器下に直径0.52m～0.54m、深さ0.16mほどの土坑が認められたのみであった。この土坑の覆土は地山ロームを含む暗褐色土で、炭化物粒を少量含むが焼土などは見られなかった。

2号埋設土器 6-94-A-4.5グリッド 確認面標高117.4m。深鉢1個体が単独で確認されたものである。上下に割れた状態で、上半破片の中に下半が入れ子状に重ねられ、横位に置かれている。有尾式の深鉢で、口縁部外傾し、頸部がすぼみ、胴部は括れる。底部は僅かに上げ底となる。地文は単節LR、RIで菱形羽状縄文を構成している。口縁部に一か所穿孔される。口径39.8cm。底径11.9cm。器高42.4cm。土器下には地山ロームに暗褐色土が混じる土が不定形の落ち込みを見せるが、掘り方は明確ではない。住居等の可能性があるものと見て精査を重ねたが、特段の遺構は確認できなかった。



1号埋設土器

- 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム暗褐色土混じり。2層よりややローム多い。As-OP1、As-YPらしき軽石を含む。炭化物粒を含む。やや軟質。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム暗褐色土混じり。As-OP1、As-YPらしき軽石をやや多く含む。炭化物粒を含む。やや軟質。



2号埋設土器

- 1 10YR4/6 褐色土 暗褐色土とロームの混土。As-OP1を含む。
- 2 10YR4/6 褐色土 ローム暗褐色土混じり。As-OP1をわずかに含む。軟質。
- 3 10YR4/4 褐色土 暗褐色土にローム混じり。As-OP1をわずかに含む。

第117図 1号埋設土器 2号埋設土器

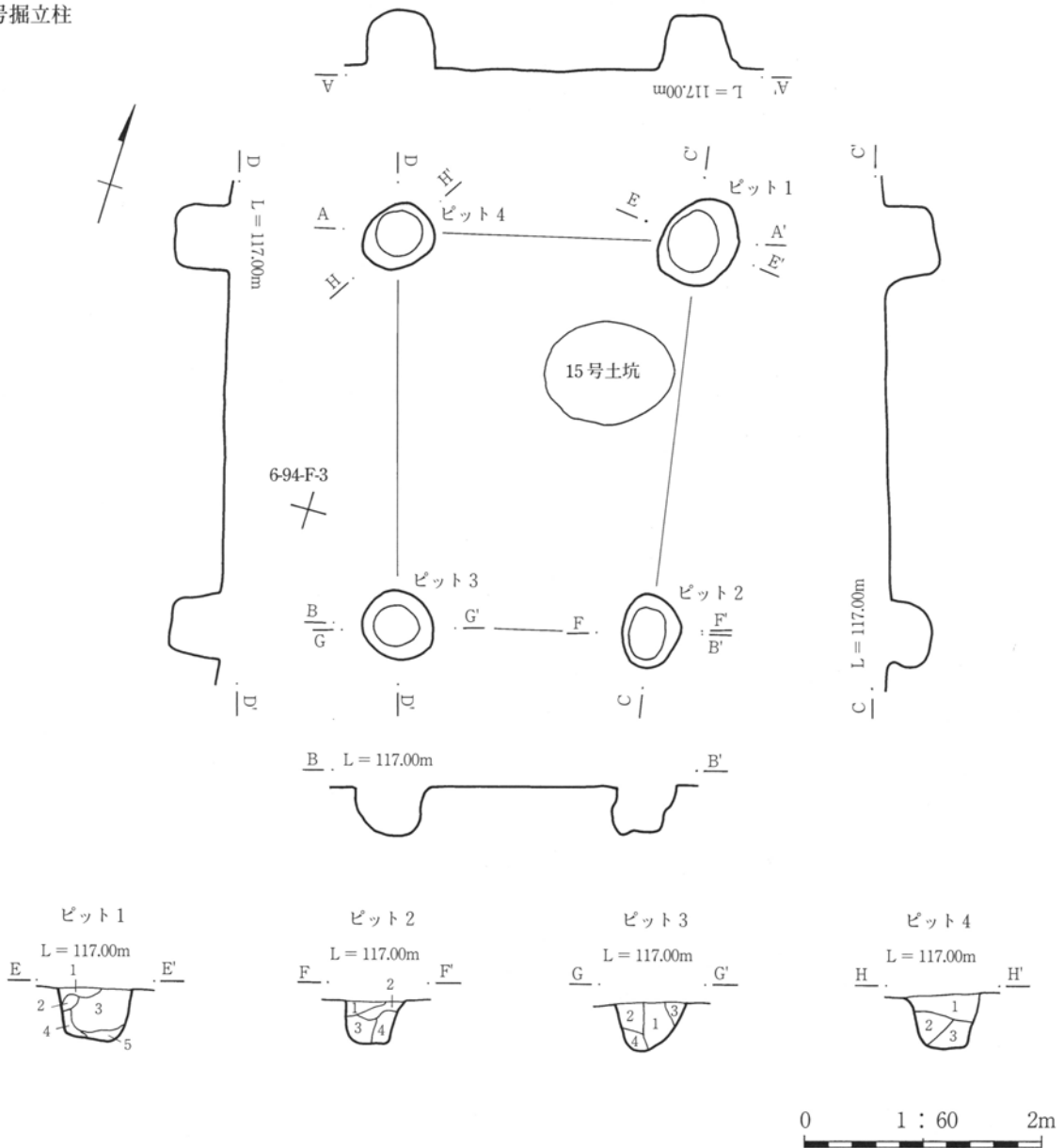
3 掘立柱建物・ピット

3 掘立柱建物・ピット

1号掘立柱建物

6-94-E-2.3/F-3 グリッド 確認面標高 116.9m。やや歪むが、1間四方の掘立柱建物と捉えた。ピット3-4の軸方向はN-17°-Wを示す。南北方向に長軸を持ち、ピット1-2間の距離は3.28m、ピット3-4間は3.30m。東西方向では北辺のピット4-1間がやや長く2.52m、ピット2-3間は2.12mある。各ピットの大きさ（長軸×短軸×深さ：cm）は、ピット1：74×62×42、ピット2：58×50×37、ピット3：60×57×42、ピット4：61×54×46。各ピットとも覆土は地山ロームと暗褐色土の混土を主体とし、全体的に締まった土である。微量の炭化物粒を含む。いずれのピットにも柱痕は認められない。この遺構のものとして捉えられる遺物はなく、周辺グリッドからの出土遺物も少ないため、時期決定の根拠は乏しいが、覆土にAs-CやHr-FAを含まないため、縄文時代に帰属するものと判断している。

1号掘立柱



第118図 1号掘立柱建物 平面図・高低図 柱穴土層断面図

1号掘立柱

Pit1

- 1 10YR5/6 黄褐色土 しまっていて硬質。ローム土を主とし、暗褐色土混入する。炭化物微量。As-OP1 少量。
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまりやや弱い。ローム土を主とし、暗褐色土混入する。径1cm程度のロームブロック少量、炭化物粒微量、As-OP1 少量、As-YP 微量。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 しまっていて硬質。暗褐色土を主とし、径1cmから2cmのロームブロックとローム粒を混入する。炭化物粒微量、As-OP1 混入、As-YP 微量。
- 4 10YR5/8 黄褐色土 しまっていて硬質。ローム土を主とし、径1cmから2cmのロームブロック少量、As-OP1 微量。
- 5 10YR4/4 褐色土 しまりやや弱く、やや粘性あり。暗褐色土を主とし、径1cm程度のロームブロックとローム粒少量混入する。炭化物粒微量。

Pit2

- 1 10YR4/6 褐色土 しまりやや弱い。暗褐色土を主体とし、ロームが混入する。ローム粒混入、炭化物粒微量。
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまっている。ロームと暗褐色土との混合土。ローム粒多量、炭化物粒微量。As-OP1 微量。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 しまりやや弱く、やや粘性あり。暗褐色土を主体とロームが少量混入する。ローム粒多量、径1cm程度のロームブロック微量、炭化物粒微量。
- 4 10YR3/3 暗褐色土 しまっている。暗褐色土を主体とし、ロームが混入する。ローム粒少量、炭化物微量、As-OP1 少量。

Pit3

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまっている。暗褐色土を主体とし、ロームが混入する。ローム粒混入。炭化物粒少量。As-OP1 微量。
- 2 10YR6/6 明黄褐色土 しまっている。ロームを主体とし、暗褐色土が少量混入する。ローム粒混入。径1cm程度のロームブロック微量。As-OP1 微量。
- 3 10YR5/6 黄褐色土 しまっている。ロームを主体とする。径1cm程度のロームブロック微量。
- 4 10YR5/6 黄褐色土 しまりやや弱い。ロームを主体とする。黒褐色土がブロック状に混入する。径2cmから3cmのロームブロック微量。炭化物粒微量。As-OP1 微量。

Pit4

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまっていて硬質。暗褐色土を主体とし、径1cmから2cmのロームブロックを少量と、ローム粒を混入する。炭化物粒ごく微量混入する。As-OP1 微量。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 しまっていて硬質。暗褐色土を主体とし、径1cmから2cmのロームブロックを混入する。炭化物粒微量。
- 3 10YR4/4 褐色土 しまりやや弱く、やや粘性あり。暗褐色土を主体とし、径1cmから2cmのロームブロックとローム粒を混入する。炭化物粒微量。

2号掘立柱建物

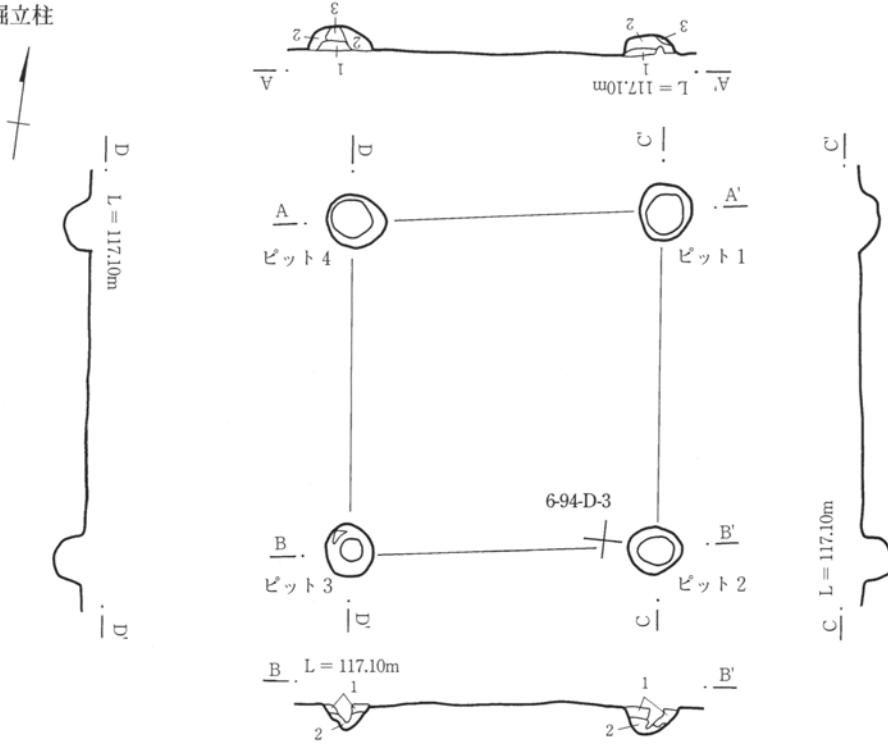
6-94-C.D-2.3 グリッド 確認面標高117.0m。1間四方の掘立柱建物と捉えた。ピット1-2の軸方向N-7° - W。南北方向がやや長く、ピット1-2間の距離は2.67m、ピット3-4間は2.75m。東西方向はピット2-3間、4-1間ともに2.44m。各ピットの規模（長軸×短軸×深さ：cm）は、ピット1：44×42×22、ピット2：45×38×22、ピット3：42×38×19、ピット4：49×41×17。各ピットとも覆土は地山ロームと暗褐色土の混土を主体とし、全体的に締まった土である。微量の炭化物粒を含む。いずれのピットにも柱痕は認められない。この遺構のものとして捉えられる遺物はなく、周辺グリッドからの出土遺物も少ないため、時期決定の根拠は乏しいが、覆土にAs-CやHr-FAを含まないため、縄文時代に帰属するものと判断している。

3号掘立柱建物

6-94-D.E-2 グリッド 確認面標高116.9m。1間四方の掘立柱建物と捉えた。ピット1-2間の距離1.99m、ピット2-3間1.95mm、3-4間2.13m、4-1間2.03mで、歪んだ台形状の平面形を呈する。各ピットの規模（長軸×短軸×深さ：cm）は、ピット1：26×20×18、ピット2：24×22×21、ピット3：34×27×24、ピット4：26×29×19。各ピットとも覆土は地山ロームと暗褐色土の混土を主体とし、全体的に締まった土である。ピット4の覆土には微量の炭化物粒を含む。As-CやHr-FAは含まない。いずれのピットにも柱痕は認められない。この遺構のものとして捉えられる遺物はなく、周辺グリッドからの出土遺物も少ないため、時期決定の根拠は乏しいが、覆土にAs-CやHr-FAを含まないため、縄文時代に帰属するものと判断する。

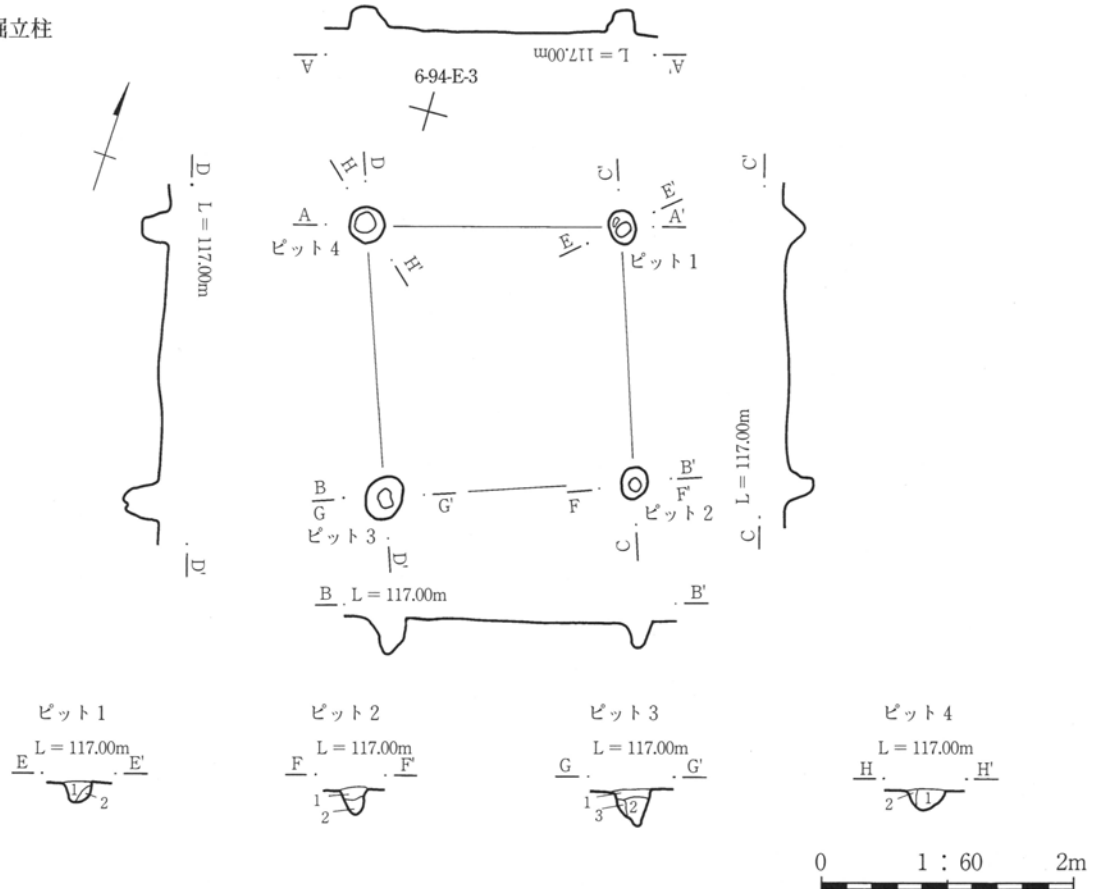
3 掘立柱建物・ピット

2号掘立柱



第119図 2号掘立柱建物 平面図・高低図 柱穴土層断面図

3号掘立柱



第120図 3号掘立柱建物 平面図・高低図 柱穴土層断面図

2号掘立柱

Pit1

- 1 10YR4/6 褐色土 しまり強い。ローム主体で、暗褐色土を少量混入する。ローム粒微量、炭化物粒微量、As-OP1 少量。
- 2 10YR4/4 褐色土 しまり強い。暗褐色土主体で、ロームを少量混入する。ローム粒少量、炭化物粒ごく微量。
- 3 10YR5/8 黄褐色土 しまり強い。ロームで埋まっているが、地山の掘りすぎではない。炭化物粒ごく微量。

Pit2

- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまり強い。暗褐色土とロームの混合土。炭化物粒ごく微量、As-OP1 多量。
- 2 10YR4/6 褐色土 しまり強い。ローム主体で、ローム粒を少量混入する。As-OP1 微量。

Pit3

- 1 10YR4/4 褐色土 しまり強い。暗褐色土とロームの混合土。As-OP1 混入。
- 2 10YR4/4 褐色土 しまり強い。1層よりやや黄色味強い。暗褐色土とロームの混合土。ローム粒少量、As-OP1 微量。

Pit4

- 1 10YR5/6 黄褐色土 しまり強い。少し砂っぽいザラザラしたロームが主体で、黒褐色土がブロック状に少量混入する。炭化物粒微量、As-OP1 少量。
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまりやや弱い。砂っぽいザラザラしたロームが主体。ローム粒微量、炭化物粒微量、As-OP1 微量。
- 3 10YR4/4 褐色土 しまり強い。暗褐色土を主体とし、ロームを少量混入する。ローム粒微量、As-OP1 少量。

3号掘立柱

Pit1

- 1 10YR5/6 黄褐色土 しまり強い。ロームを主とし、黒褐色土がブロック状に少量混入する。ローム粒少量、As-OP1 微量。
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまり強い。ロームを主とし、径1cmから2cmのロームブロック微量混入する。As-OP1 微量。

Pit2

- 1 10YR4/4 褐色土 しまっている。暗褐色土を主とし、ロームを少量混入する。ローム粒少量、炭化物粒微量。As-OP1 多量。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 しまっている。暗褐色土を主とし、ローム粒を微量混入する。As-OP1 微量。

Pit3

- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまり強い。暗褐色土を主とし、ローム粒を混入する。As-OP1 微量。As-YP 微量。
- 2 10YR4/4 褐色土 しまり強い。暗褐色土を主とし、ローム粒を少量混入する。As-OP1 微量。
- 3 10YR4/4 褐色土 しまり強い。暗褐色土を主とし、ローム粒を少量混入する。径1cm程度のロームブロック微量。

pit4

- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまり強い。ロームと暗褐色土の混合土。ローム粒少量。径1cmから2cmのロームブロック微量。As-OP1 微量。
- 2 10YR5/6 黄褐色土 しまり強い。ロームを主体とし、炭化物粒を微量混入する。As-OP1 微量。

1号ピット 6-94-A-2グリッド 確認面標高117.3m。北西-南東方向に長軸を持つ楕円形の平面形を呈する。長軸長0.87m、短軸長0.54m。確認最大深0.74m。断面形は狭いU字状を呈する。覆土は地山ロームを含む黒褐色から暗褐色土で、他の縄文時代遺構に比べると新しいもののようにも思えるが、As-C、Hr-FAは含まない。出土遺物はない。

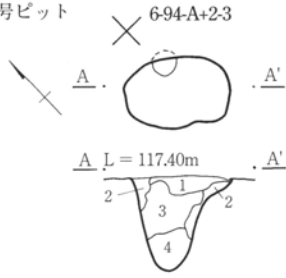
2号ピット 6-94-E-6グリッド 確認面標高117.1m。北西-南東方向にわずかに長い歪んだ円形の平面形を呈する。長軸長0.58m、短軸長0.52m。確認最大深0.16m。断面形は浅い鍋状。覆土は褐色から明黄褐色土で、上位に炭化物粒をわずかに含む。出土遺物はない。

3号ピット 6-94-E-6グリッド 確認面標高117.1m。ほぼ円形の平面形を呈する。長軸長0.40m、短軸長0.38m。確認最大深0.15m。底面は丸底で、断面形は皿状となる。覆土はロームを主体とする明黄褐色土で、炭化物粒をわずかに含む。出土遺物はない。

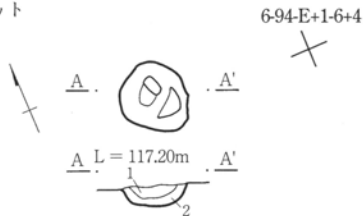
4号ピット 6-94-D-6グリッド 確認面標高117.1m。ほぼ円形の平面形を呈する。長軸長0.36m、短軸長0.34m。確認最大深0.06m。ごく浅いが底面は平坦で、断面形は浅い鍋状を呈する。覆土はロームを主体とする明黄褐色土で、炭化物粒は含まれない。南側底面から黒曜石の剥片が1点出土している。

3 掘立柱建物・ピット

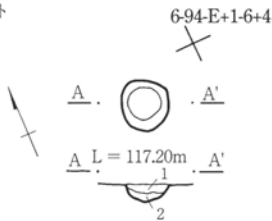
1号ピット



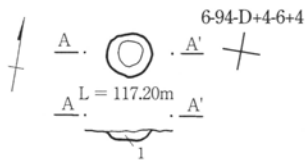
2号ピット



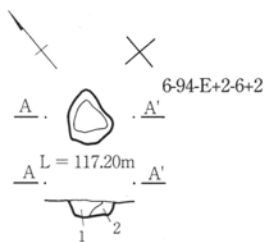
3号ピット



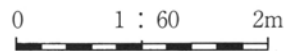
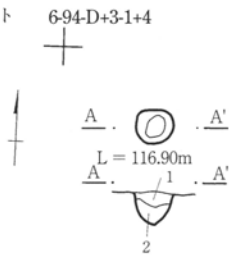
4号ピット



5号ピット



6号ピット



第121図 ピット1 (1~6号ピット)

1号ピット

- 10YR2/3 黒褐色土 斑状にローム粒少しまじる。白い細かい軽石?少しあり。しまりよし。
- 10YR4/4 褐色土 As-OP1相当層と思われるローム主体。黒褐色土少しまじる。
- 10YR3/4 暗褐色土 1層に比べ、ローム粒多く含み明るい。ローム粒は1層のように斑状。1層と同様の白い細かい軽石あり。1層よりやや軟質。
- 10YR3/3 暗褐色土 3層よりやや暗く、ローム粒を含むが、斑はみられない。3層よりさらに軟質。

2号ピット

- 10YR4/4 褐色土 しまっている。褐色土主体でロームが混入する。炭化物粒微量。As-OP1混入。
- 10YR6/6 明黄褐色土 しまり強い。ローム主体で、径1cmから2cmのロームブロックを少量混入する。As-OP1少量。

3号ピット

- 10YR6/8 明黄褐色土 しまり強い。ローム主体。炭化物粒微量。As-OP1微量。
- 10YR6/6 明黄褐色土 しまり強い。ローム主体。炭化物粒微量。As-OP1微量。

4号ピット

- 10YR5/8 黄褐色土 しまりやや弱い。ロームが主体で、ローム粒混入する。As-OP1微量。

5号ピット

- 10YR6/6 明黄褐色土 しまり強い。ローム主体。As-OP1多量。As-YP微量。
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり強い。褐色土主体でロームが混入する。As-OP1少量。

6号ピット

- 10YR5/6 黄褐色土 しまり強い。ローム主体で、ローム粒少量混入する。炭化物粒微量。As-OP1少量。
- 10YR4/4 褐色土 しまり強い。褐色土主体で、ローム粒少量混入。

5号ピット 6-94-E-6 グリッド 確認面標高 117.1m。北東-南西に長軸を持つ歪んだ卵形の平面形を呈する。長軸長 0.43m、短軸長 0.34m。確認最大深 0.12m。底面は平底で、断面形は浅い鍋状となる。覆土はロームを主体とする褐色から明黄褐色土で、炭化物粒は見られない。出土遺物はない。

6号ピット 6-94-D-1 グリッド 確認面標高 116.8m。やや東西に長い楕円形の平面形を呈する。長軸長 0.30m、短軸長 0.26m。確認最大深 0.25m。底面は丸底で、断面形はU字状となる。覆土はロームを主体とする褐色から黄褐色土で、上層に炭化物粒をわずかに含む。出土遺物はない。

7号ピット 6-94-D-4 グリッド 確認面標高 117.0m。ほぼ円形の平面形を呈する。長軸長 0.34m、短軸長 0.32m。確認最大深 0.35m。底面は丸底で、断面形はU字状となる。覆土は褐色からにぶい黄褐色土で、炭化物粒をわずかに含む。出土遺物はない。

8号ピット 6-94-C-4 グリッド 確認面標高 117.0m。ほぼ円形の平面形を呈する。長軸長 0.26m、短軸長 0.24m。確認最大深 0.2m。底面は乱れた丸底で、断面形はU字ないしV字状となる。覆土はロームを主体とするにぶい黄褐色土で、暗褐色土を少量含む。出土遺物はない。

9号ピット 6-94-C-3 グリッド 確認面標高 117.0m。ほぼ円形の平面形を呈する。長軸長 0.28m、短軸長 0.26m。確認最大深 0.25m。底面は乱れた平底で、断面形はU字ないし箱形となる。覆土は褐色土を主体とするにぶい黄褐色土。出土遺物はない。

10号ピット 6-94-J-3 グリッド 確認面標高 116.4m。南北に長い楕円形の平面形を呈する。長軸長 0.50m、短軸長 0.38m。北壁部には小さな中段がつく。確認最大深 0.42m。底面は中央部に小ピットがあるが基本的には平底で、断面形は壁面がややえぐれた弱い袋状を呈する。覆土は壁際にロームを主体とする褐色土があるが、主体的にはロームの混じった暗褐色土で、炭化物粒を多く含み、焼土粒も少量含む。出土遺物はない。

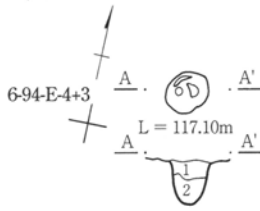
18号ピット 7-16-S-5 グリッド 確認面標高 115.6m。円形の一端をさらに掘り込んだようなだるま形の平面形を呈する。長軸長 0.62m、短軸長 0.56m。確認最大深 0.44m。底面は小さな丸底で、断面形は緩い中段を持って上方に開く。覆土はローム混じりの暗褐色土で、最上位に炭化物粒を含む。出土遺物はない。

19号ピット 7-16-O.P-11 グリッド 確認面標高 117.3m。ほぼ円形の平面形を呈する。直径 0.37m、確認最大深 0.29m。底面は丸底で、断面形は上方に開くU字状を呈する。覆土は炭化物粒や As-OP1、As-YP の軽石粒を含む暗褐色土。出土遺物はない。

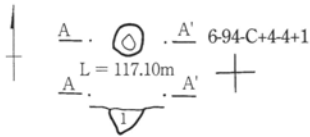
20号ピット 7-16-N-10 グリッド 確認面標高 117.2m。ややに南北長い歪んだ円形の平面形を呈する。長軸長 0.38m、短軸長 0.28m。確認最大深 0.34m。底面は丸底で、断面形は上方に開く、狭いU字形を呈する。覆土はローム斑と炭化物粒を含む暗褐色土。出土遺物はない。

3 掘立柱建物・ピット

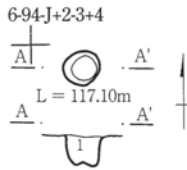
7号ピット



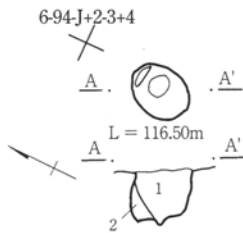
8号ピット



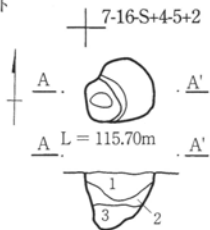
9号ピット



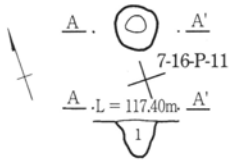
10号ピット



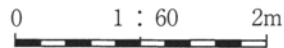
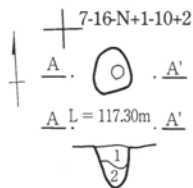
18号ピット



19号ピット



20号ピット



7号ピット

- 1 10YR4/6 褐色土 しまりやや弱い。ローム主体で、黒褐色土が径1cmから3cmのブロック状に少量混入する。炭化物粒微量。
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまりやや弱い。褐色土主体で、ローム粒混入する。径1cm程度のロームブロック微量。炭化物粒微量。

8号ピット

- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色土 しまりやや弱い。ローム主体で、暗褐色土少量混入する。径1cmから2cmのロームブロック微量。

9号ピット

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまっている。褐色土主体で、ローム少量混入する。径1cmから2cmのロームブロック微量。

10号ピット

- 1 10YR4/4 - 4/6 暗褐色土 ロームまじり。細かな炭片が多く散っている。焼土粒少しあり。白い細かい軽石あり。
- 2 10YR4/6 ローム暗褐色土まじり。炭化物、焼土粒、軽石ほとんどなし。

18号ピット

- 1 10YR4/6 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。白い細かい軽石少しあり。小さな炭片少しあり。
- 2 10YR4/6 褐色土 ローム暗褐色土まじり。やや軟。やや水っぽい。混入物に特に見られない。
- 3 10YR4/4-4/6 褐色土 暗褐色土、ロームまじり。2層よりやや暗く暗褐色土多い。やや軟。白っぽい軽石わずかにあり。

19号ピット

- 1 10YR3/3 - 10YR3/4 炭化物含む。As-YP、As-OP1粒含む。しまっている。

20号ピット

- 1 10YR3/4 円形ローム小斑3%。炭化物粒含む。やや軟質。ややしまっている。
- 2 10YR3/4 円形ローム小斑7%。炭化物粒含む。やや軟質。しまっている。

第122図 ピット2 (7~10号・18~20号ピット)

4 遺構外出土遺物

土器は早期から見られる。619は早期茅山式土器の口縁部破片である。波状の口縁に沿って三列の刺突文がめぐり、この間に単節RLの原体を押圧している。内面には条痕文が施されている。調査区東端近くの諸磯式期を中心とする遺物が集中するグリッドから出土したものである。早期に属する土器はこの1点のみであった。

620-730は前期花積下層式に属するものである。この時期の住居は調査区東端部近くとほぼ中央にあたる台地頂部近くにそれぞれ1棟づつ認められている。土器もこれと軌を一にして、調査区東端と中央近くに比較的密な分布を示す。0段多条の単節LR・RLによる羽状縄文、菱形羽状縄文、単節RLないしLRを縦横に施文した縦位の羽状縄文、斜行縄文などが地文としてみられる。624は口縁部隆帯の直下に当たると思われ、隆帯に施文される捺糸圧痕文の一部が見られる。657は平口で隆帯が附加され、RとLを合わせて矢羽状にした捺糸圧痕文が施文され、×状に交差させた隆線も貼付される。胴部地文は0段多条からなる単節LR、RLの羽状縄文。口縁部隆帯の直下に径1.3cmの穿孔があるが、装飾的なものか、補修孔かは判断できない。

724は口縁部破片である。口唇部は外反し、端部に断面三角形の隆帯2条を貼りあわせ、巾2.3cmの「く」字状の隆帯を形成する。谷状になった隆帯内側には矢羽状に沈線が施文されている。胴部地文は単節RLの斜行縄文である。727、728では口縁部文様帯に隆線が貼付され、RとLを合わせた矢羽状の捺糸圧痕文が施文される。729は隆帯を貼付し、これに捺糸を斜位に押圧する。隆帯の上下には棒状工具によって斜位の刺突文を施文している。730は尖底の底部である。

731-811は黒浜式に属すると思われる一群である。後述の有尾式とともに、調査区の東西両端に分布域を持つ。黒浜式期の住居は東部に2棟、西部に3棟ある。733-735などでは単節Lr、Rlの羽状縄文を地文として、直径6-9mmの半截竹管によって、コンパス文や平行沈線文が施文される。736では半截竹管による爪形文、円形竹管による直角刺突文が見られる。737は単節Lr、Rlの羽状縄文を地文とする。LrとRlの境には弱い沈線が垂下しており、施文の目安にした可能性がある。また、巾8mm半截竹管による平行沈線文が羽状縄文に沿って斜位に施文される。横位の平行沈線内には半截竹管による爪形文、円形竹管による直角刺突文が施文されている。742-753では半截竹管による平行沈線文内に爪形文を充填する。

754-781は単節の斜行縄文を地文とする。776、777は口縁部破片で、776には直径1cmほどの穿孔があり、777は口縁に沿って、篋状工具による刺突文が連続する。783にも穿孔が見られる。785、786はやや上げ底気味を呈する底部破片である。787-804は竹管による集合沈線文、コンパス文、押し引き文や木葉文を付す。813-837は有尾式に属する。有尾式の住居も調査区の東部と西部に各1棟づつ認められている。

813は0段多条からなる単節Lr、Rlが羽状縄文を構成する。814は太く荒い原体で、単節Lr、Rlの羽状縄文を構成する。815の地文は単節Lr、Rlの羽状縄文で、地文の上から巾4-5mmの平行沈線を数条単位で横位・斜位に施文する。残存部上位には巾7mmの半截竹管による平行沈線文が施される。816は単節LR、RLの羽状縄文を地文とし、巾1.2cmほどの幅広の半截竹管による平行沈線文内に爪形文を充填する。

820-825は単節の斜行縄文を地文とする。826、827は附加条1種の単節RL+rの斜行縄文を地文とする。828は巾7mmの半截竹管による平行沈線文。829は単節Rlを横位、縦位に施文する。831、832では巾7.5mmの半截竹管による平行沈線文が1条縦位に垂下する。縦位に垂下する平行沈線文の左右には、内側に爪形文を充填した平行沈線文が集中する。

838-923は諸磯a式、924-956は諸磯b式、957-962は諸磯c式に属する。963-966も諸磯式の範疇に属するものであろう。住居としては諸磯b式の2棟が調査区東部にあり、土器片の出土状況もおおよそこれに従うが、西部にも少量が点在している。

4 遺構外出土遺物

諸磯 a 式の 838 は深鉢の口縁破片。外反する波状口縁で、集合沈線が施文される。839-843 には巾 3mm の細い半截竹管によって入組文が構成される。磨消しが伴い、縄文は単節 R1 の斜行縄文である。穿孔が施される。

844-847 は単節の斜行縄文を地文として、半截竹管による平行沈線文内に爪形文を充填する。844 では肋骨文が施文される。845、846 は口縁に沿って口縁部に沿って鋸歯状のモチーフを構成する。848 では口縁部文様帯が隆線と沈線によって楕円、横長楕円区画を構成する。楕円区画内は無文、横長楕円区画内には単節 LR の斜行縄文を施文する。

849 の地文は単節 R1 の斜行縄文。巾 3mm の細い半截竹管による平行沈線文に篋状工具による刺突文を充填する。平行沈線の下位には同じく半截竹管による鋸歯文が施文される。850-852 は波状口縁の深鉢で、地文は単節 Lr の斜行縄文。巾 4mm の半截竹管による平行沈線文内に爪形文を充填する。円形刺突文、肋骨文が見られる。858-884 は単節の斜行縄文を地文とする。

885 は平底で胴部は中位まで直線的に立ち上がる。地文は単節 Lr、R1 が菱形羽状縄文を構成する。羽状縄文の R1 と Lr がきりかわり、菱形モチーフとなる箇所には弱い沈線が 1 条垂下する。施文に関わる分割線と思われる。胴部中位には巾 7mm の半截竹管によるコンパス文が施文される。底径 12.8cm。現高 17.2cm。

886、887 は竹管による円形刺突文。肋骨文を施文する。888 は肋骨文で巾 3.5mm の半截竹管による平行沈線文の上から篋状工具による刺突文を連続して施文。平行沈線は 2 条対で、間には平行沈線による鋸歯文が施文される。890-906 は肋骨文や木葉文、円形刺突文が施文される。

909-922 の地文は無節の斜行縄文。923 は深鉢底部破片を加工したものであると思われる円盤状の土製品で、中央が肥厚している。土製円盤としては他に 967 がある。深鉢胴部破片の割れ口周囲を調整して、土製円盤に加工したものであると思われるもので、器面には単節 Lr、R1 の羽状縄文が施文されている。最大幅 3.2cm。厚さ 1.0cm。

諸磯 b 式に属する 925-929 では、単節 LR、RL の羽状縄文を地文とする。半截竹管による浮線文が胴部を横位区画し、浮線文には矢羽状の刻みが施される。933 の地文は単節 RL の斜行縄文で、巾 5mm の半截竹管による平行沈線文が横位区画する。さらに粘土貼付ではなく、半截竹管と刻みによる浮線文を施文する。

947 は巾 6mm の半截竹管によって平行沈線を施し、沈線の内側に矢羽状に刻みを入れて浮線文とする。浮線文は口縁部に集中する。

948 は浅鉢で、波状に 4 単位が突出していた口縁頂部の一つと思われる。口唇部は内折してからさらに強く外反する。地文に単節 RL を施文し、器面全体に集合沈線を施す。956 も浅鉢で残存部は無文だが、口縁に沿って径 6mm の穿孔が連続する。964 は平底で胴部から口縁部にかけて緩やかに立ち上がる浅鉢である。口縁は僅かに外反する。地文は胴部下半に単節 R1 を横位・斜位に施文。胴部中押付近と口縁部端にそれぞれ巾 6mm の半截竹管による平行沈線文を施文し、胴部上半と口縁部を区画する。沈線内には爪形文を充填し、区画内には平行沈線と爪形文による木の葉状文様を不規則に配置する。復元口径 20.0cm。器高 11.2cm。底径 7.6cm。

950、951 は 4 単位の波状口縁と思われ、波状の頂部に装飾が施される。平行沈線の内側に刻みを入れただけの浮線文が口縁部に集中する。954 は薄手につくられた深鉢で、地文は附加条 1 種 LR + r の斜行縄文。粘土貼付による浮線文には斜位の刻み目が施される。

957-962 は諸磯 c 式に属する。器面全体に集合沈線を施文している。

971 以後は中期加曽利 E 式に属する。中期の住居は 4 棟見つかったが、いずれも調査区の東部にあり、土器片の分布もおおむねこれに従う。

971 は深鉢の口縁部片。口縁部は波状をなし、隆帯によって楕円区画を構成する。区画内には単節 RL の

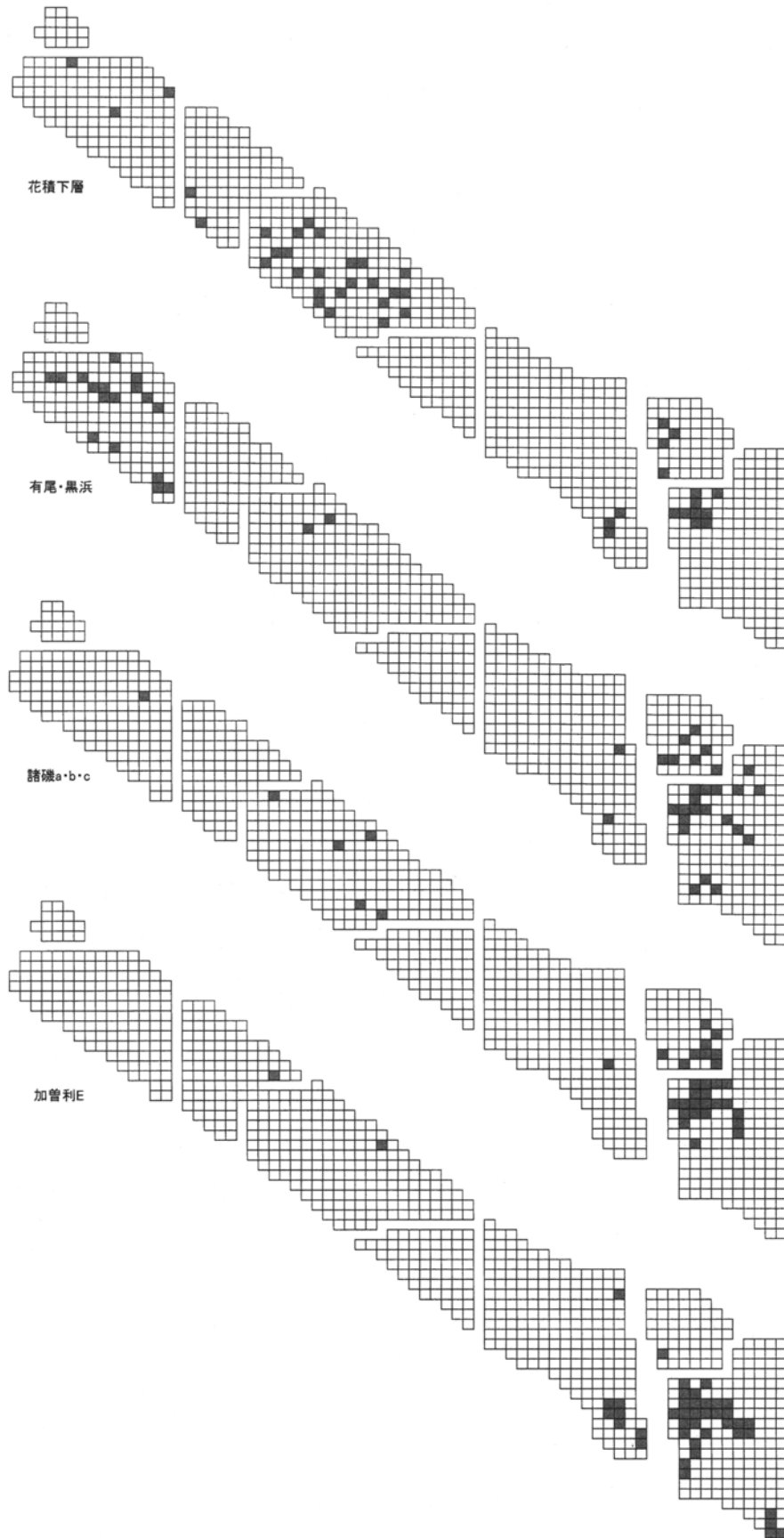
斜行縄文が施文される。972は全体に薄い作りの深鉢で、口縁部文様帯は隆線と沈線によって楕円区画を構成する。楕円区画内には単節LRの斜行縄文。胴部には巾6mmの沈線2条対が垂下し、胴部を縦位区画する。区画内には単節LRが縦位に施文される。973では隆線と沈線によって単節RLの斜行縄文が区画される。縄文は輪積みの接合痕の上に施文され、接合痕を消している。982-984では2条対の沈線が垂下し、胴部を縦位に区画する。区画内には単節LRの斜行縄文を縦位に施文し、沈線が曲線を描きながら垂下する。987の口縁部文様帯は、隆線と沈線によって渦巻文と楕円区画を構成する。区画内には0段多条からなる単節RLの斜行縄文を充填する。989は頸部屈曲部に棒状工具による刺突文がめぐる。胴部には集合沈線を斜位に施文。990、991の器面には条線が垂下する。995では沈線が胴部を垂下して縦位に区画し、区画内には単節RLの細かい斜行縄文を縦位施文する。1011-1024は2条対の沈線が垂下する。

1034は波状口縁。口縁部文様帯は隆線と沈線によって、横長楕円区画を構成する。区画内は単節RLの斜行縄文を施文する。1039-1045では渦巻き文が顕著である。1040は波状口縁。口縁部文様帯は隆線と沈線によって渦巻文、横長楕円区画を構成。区画内には単節RLの斜行縄文、渦巻文の中央には単節RLを縦位に施文する。1044は口縁部に隆線と沈線で渦巻状の突起をつくる。口縁部文様帯は楕円区画を構成し、区画内には単節RLの斜行縄文を充填する。1050は厚手の深鉢で、口縁部文様帯には隆線と沈線によって渦巻文、胴部には沈線2条対が垂下し縦位区画する。区画内には単節RLの斜行縄文を縦位に施文する。1052は口縁部から胴部にかけての1/4ほどが残る破片である。口縁部文様帯は隆線と沈線によって若干崩れた渦巻文と楕円区画を構成する。区画内には単節RL、わずかにLrが施文される。胴部は巾6mmの沈線2条対が垂下し、縦位区画。区画内には単節RLの斜行縄文が縦位に施文される。1053は波状口縁。口縁の頂点は粘土紐をアーチ状に貼付して形成する。口縁部文様帯は隆線と沈線によって楕円区画を構成し、区画内には単節RLの斜行縄文を縦位に施文する。1057は胴部は大きく内湾する胴部片で、胴部でも口縁部に近い部位に当たると思われる。沈線が胴部を縦位区画し、磨消しは幅広く発達する。区画内には単節RLの斜行縄文が縦位に施文される。1062、1063も幅広い磨消し帯がある。1064は胴部上位から肩周辺の破片と思われる。外側に膨らみながら大きく内湾する。沈線2条対が上位では弧を描きながら垂下し、胴部を区画する。磨消しの幅は広く、発達する。区画内には単節LRの斜行縄文が縦位に施文される。1066では器面全体に条線を垂下し、部分的に単節LRを条線の上から縦位施文する。1070は巾7mmの沈線2条対が垂下して胴部を縦位区画する。区画内には沈線が曲線を描いて垂下し、単節RLを縦位に施文する。1075は内湾する口縁部片で、口縁に沿って巾1.1cmの沈線がめぐる。沈線以下には条線が垂下する。

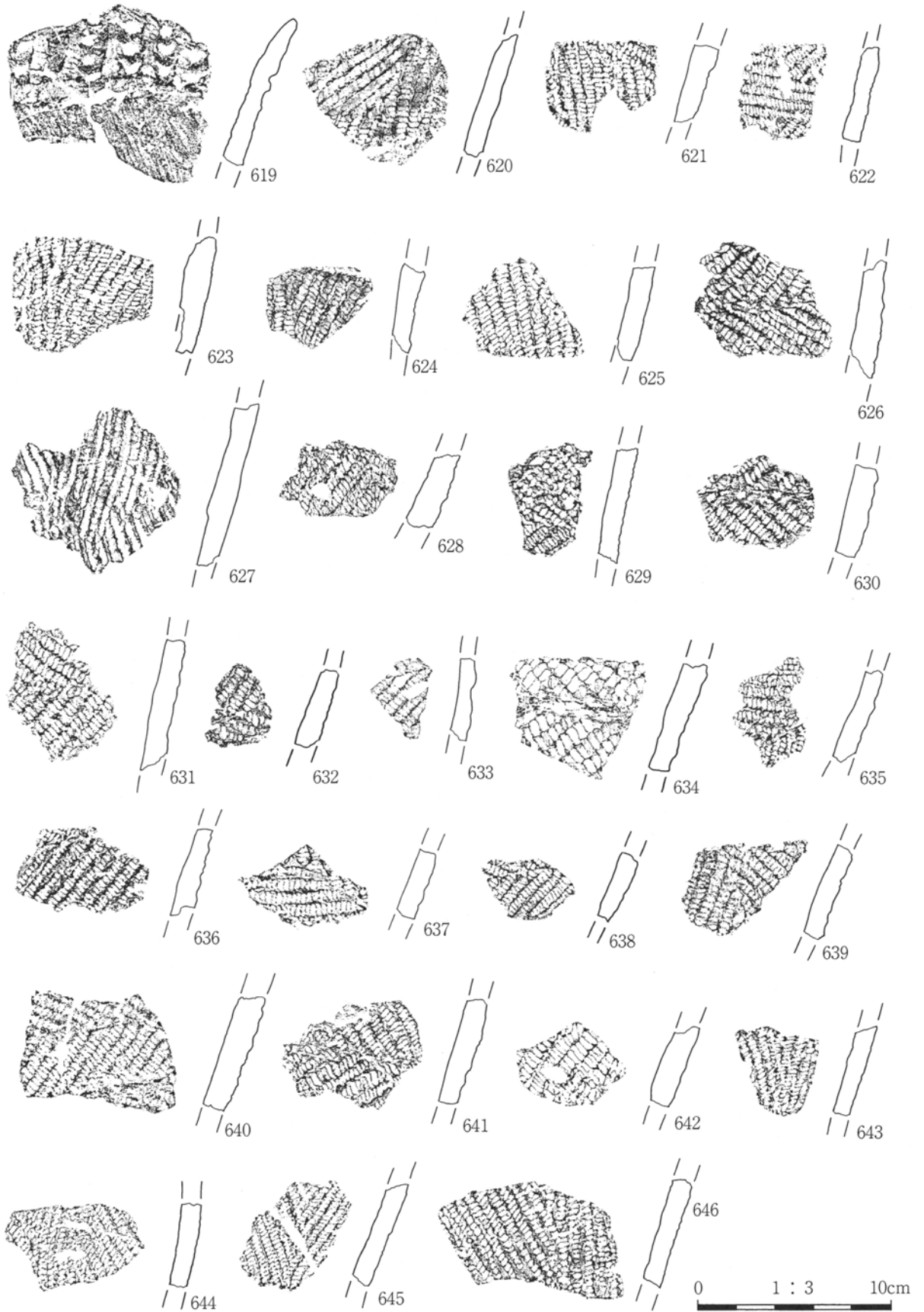
1078、1079は厚みのある底部片で、1079の底径が7.6cmある。1080、1081は口縁部に平行して2条、胴部に向かって斜位に2条の弱い沈線が施文される。沈線によって区画された内側に斜位の条線が充填されている。1083は口縁部に橋状把手が付く。1092は口縁部文様帯の破片。隆線と沈線によって楕円区画を構成し、区画内には櫛歯状工具による波状文を施文している。1098は棒状工具による押圧文を連続して施文した隆線が垂下して胴部を縦位区画する。区画内には巾2-4mmの幅広い条線が垂下する。1102は口縁部に渦巻状の突起を伴う。口縁部文様帯は隆線と沈線によって渦巻文を構成する。1103、1104では器面には巾6mmの沈線が連続して垂下し、口唇部内面には隆線が口縁に沿って1条貼付される。

1111、1112は中期に属するものと思われ、胴部に櫛歯状工具による条線が縦位に充填される。1113は時期を判定しがたいが、器面には篋状工具によって、斜位方向に細沈線が施文される。残存部の上位では格子目状に施文される。

4 遺構外出土遺物

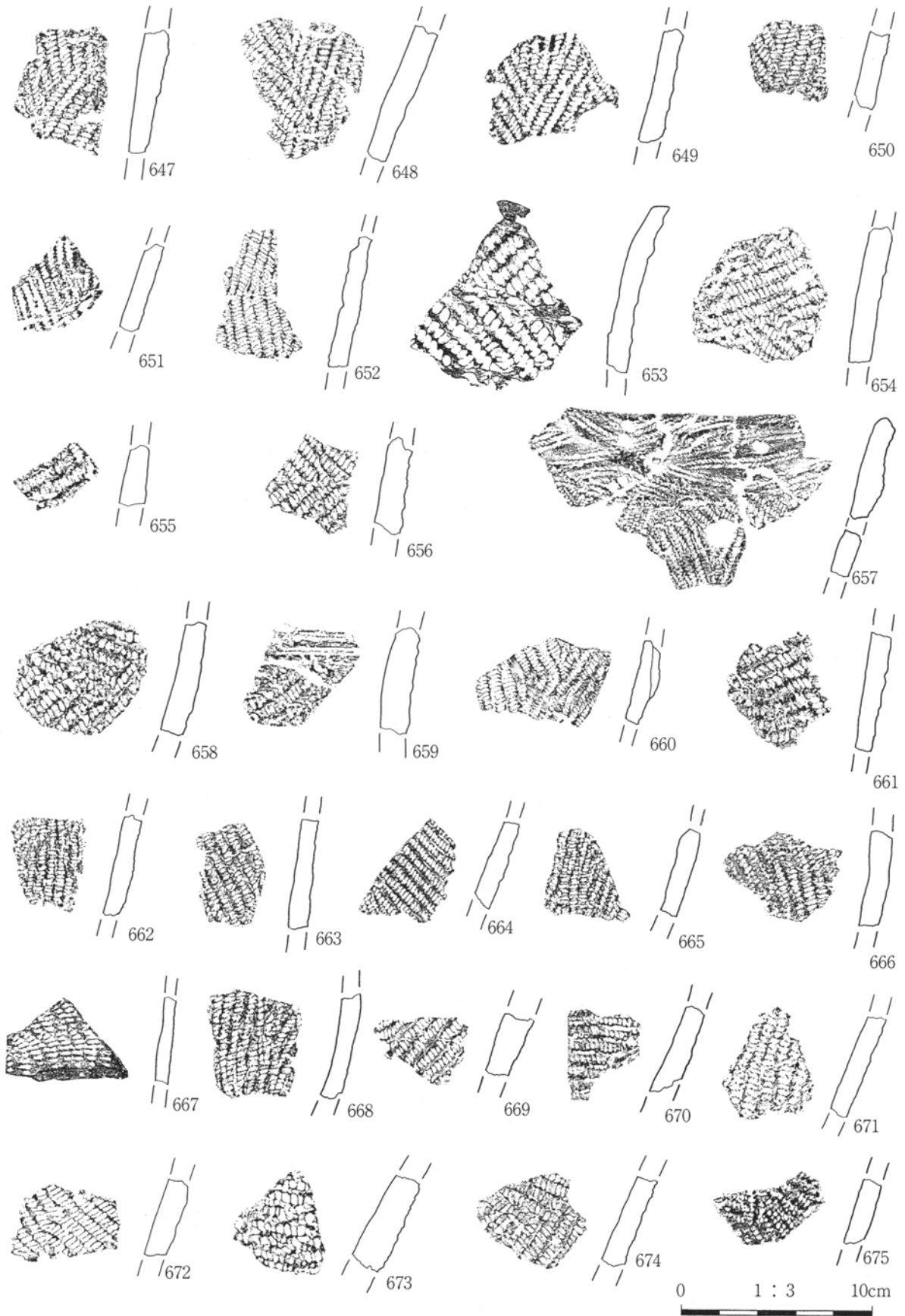


第123図 縄文土器のグリッド別出土量概念図

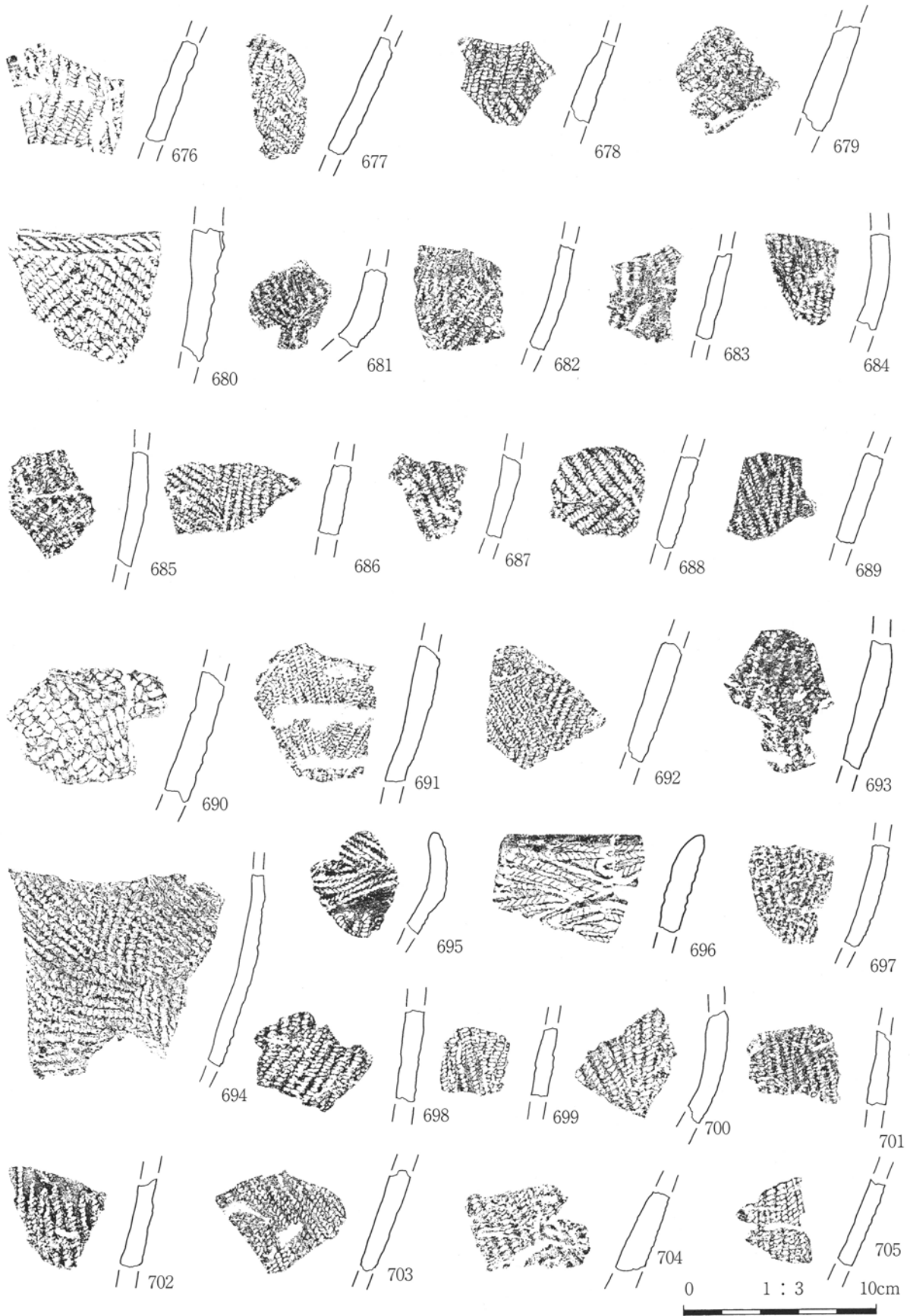


第124図 遺構外出土土器1

4 遺構外出土遺物

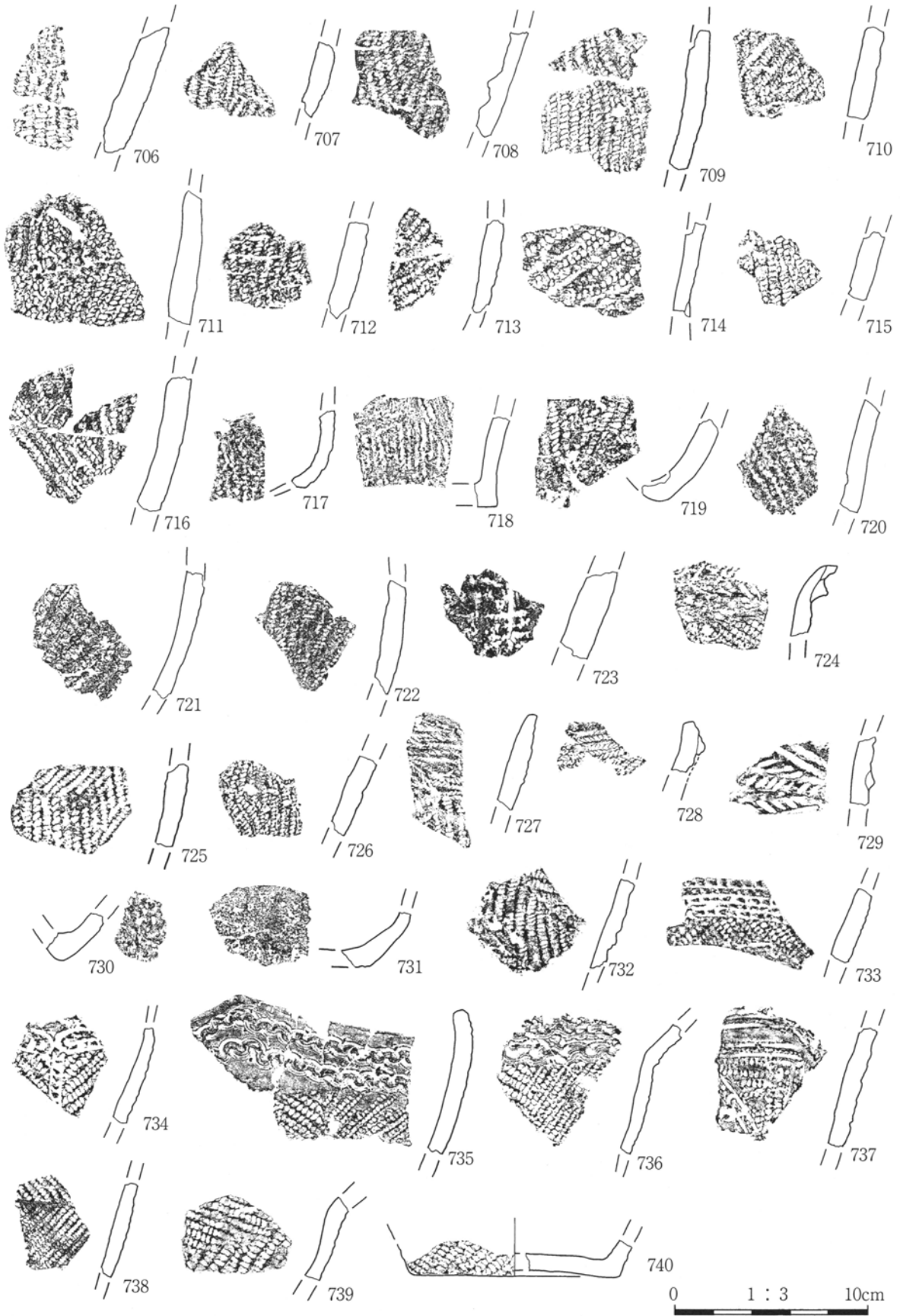


第125図 遺構外出土土器 2

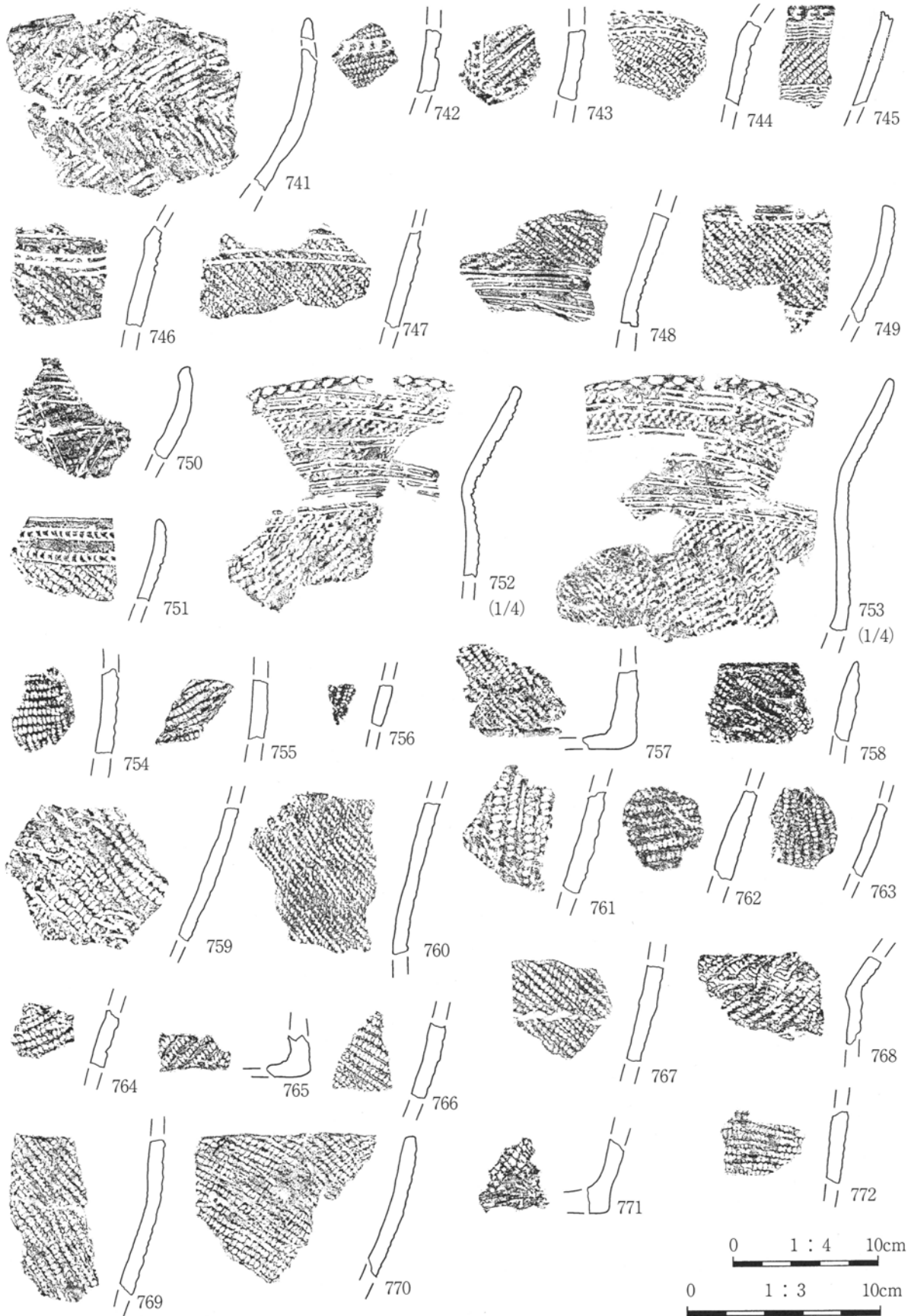


第126図 遺構外出土土器3

4 遺構外出土遺物

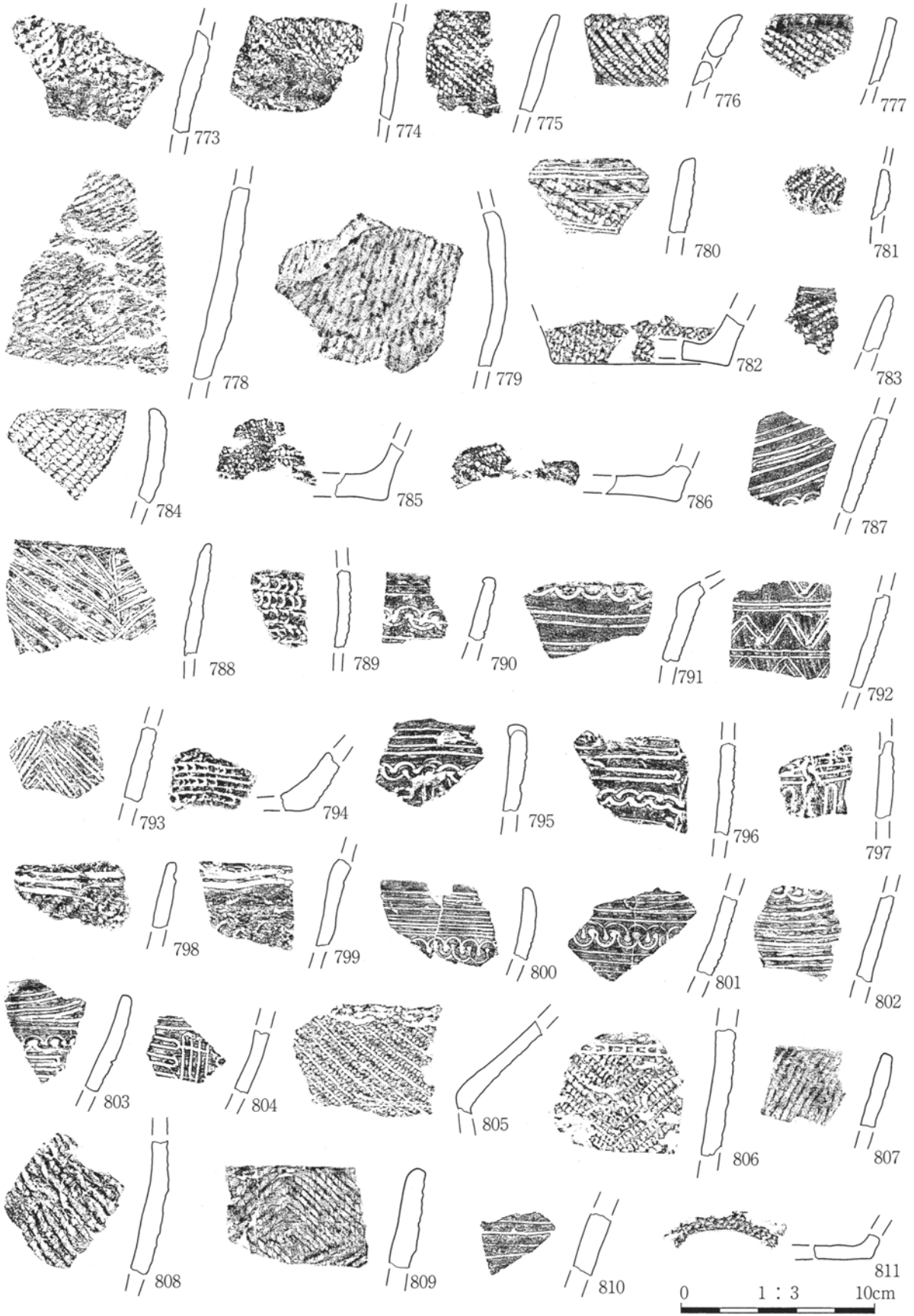


第127図 遺構外出土土器4

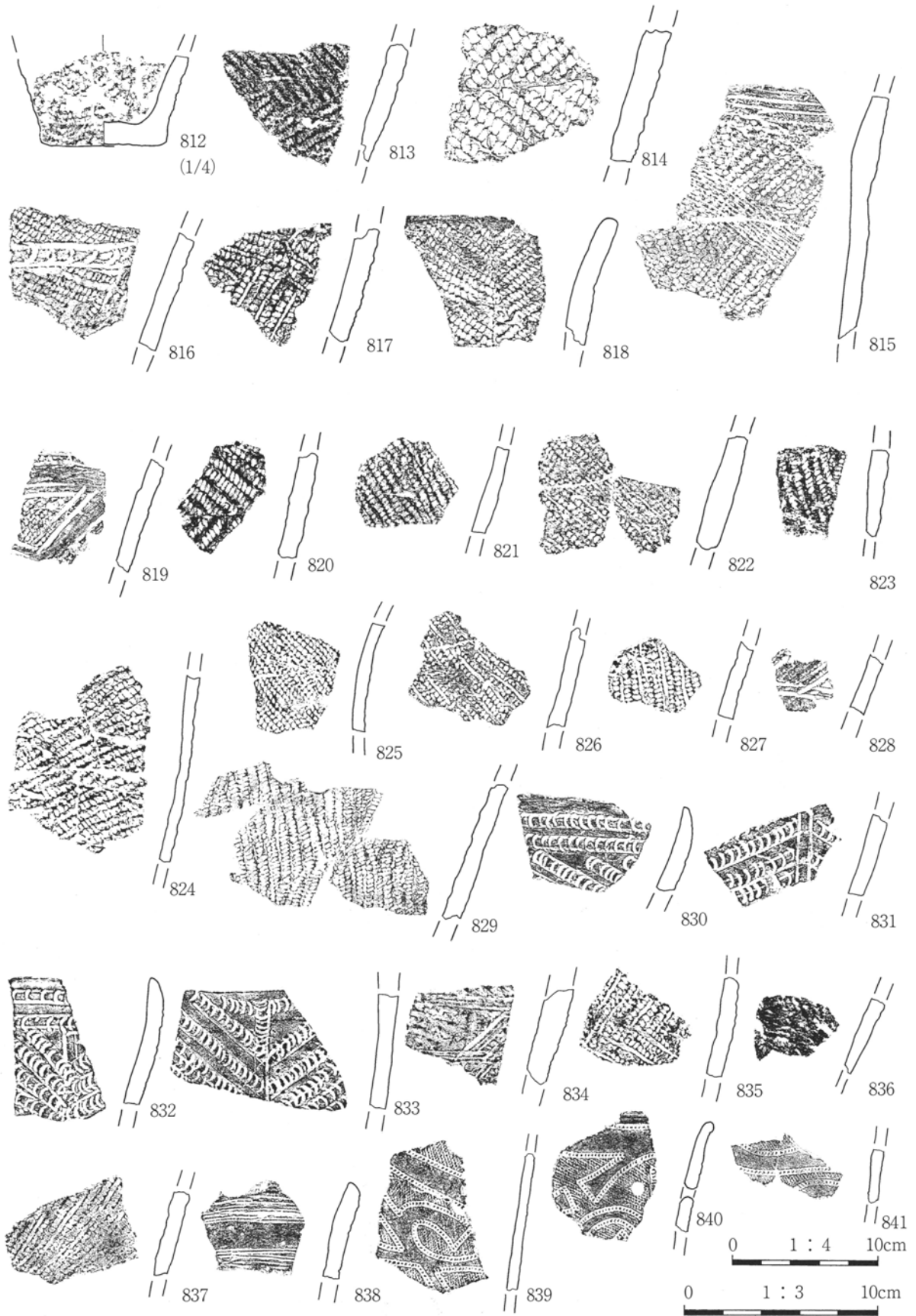


第128図 遺構外出土土器5

4 遺構外出土遺物

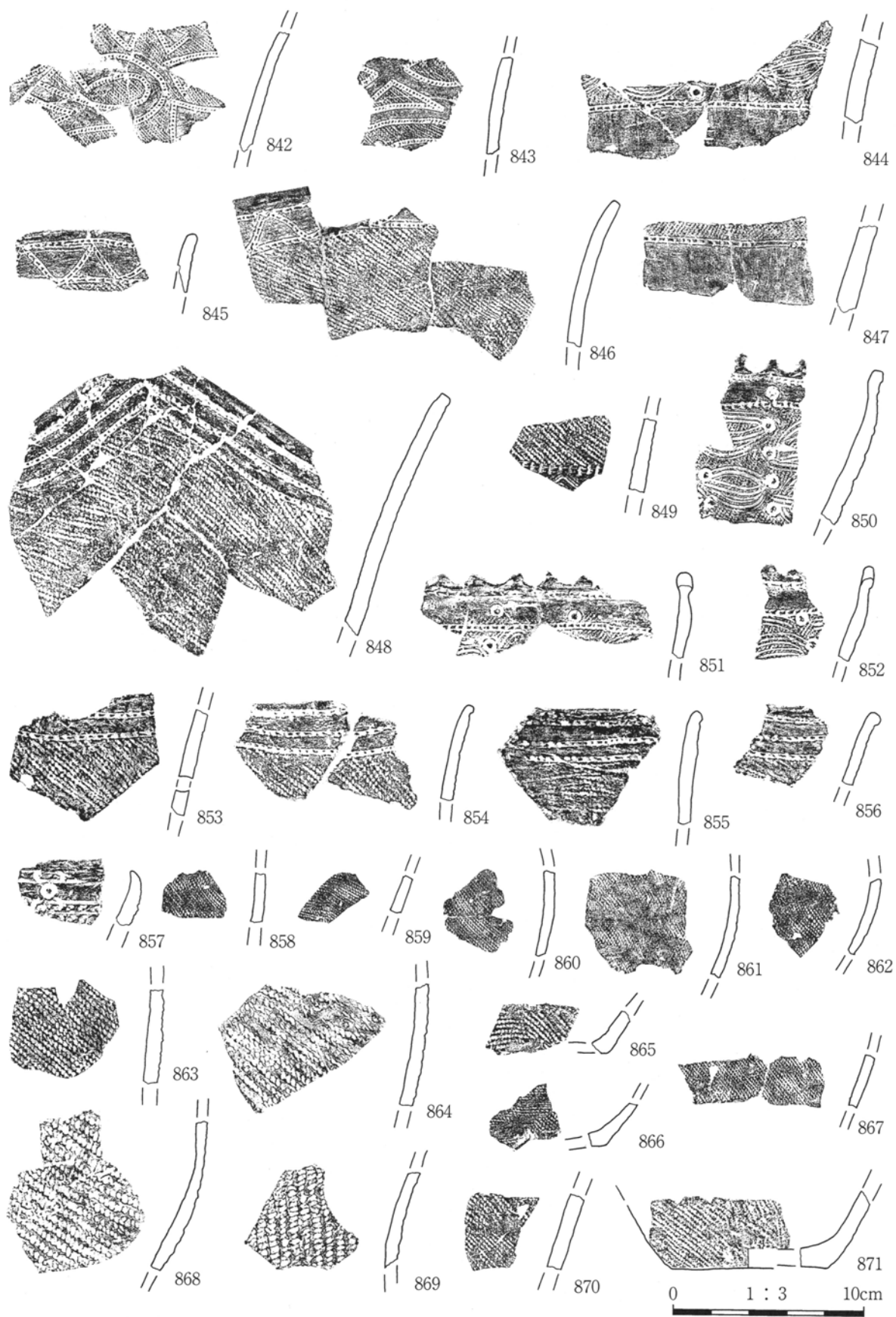


第129図 遺構外出土土器6

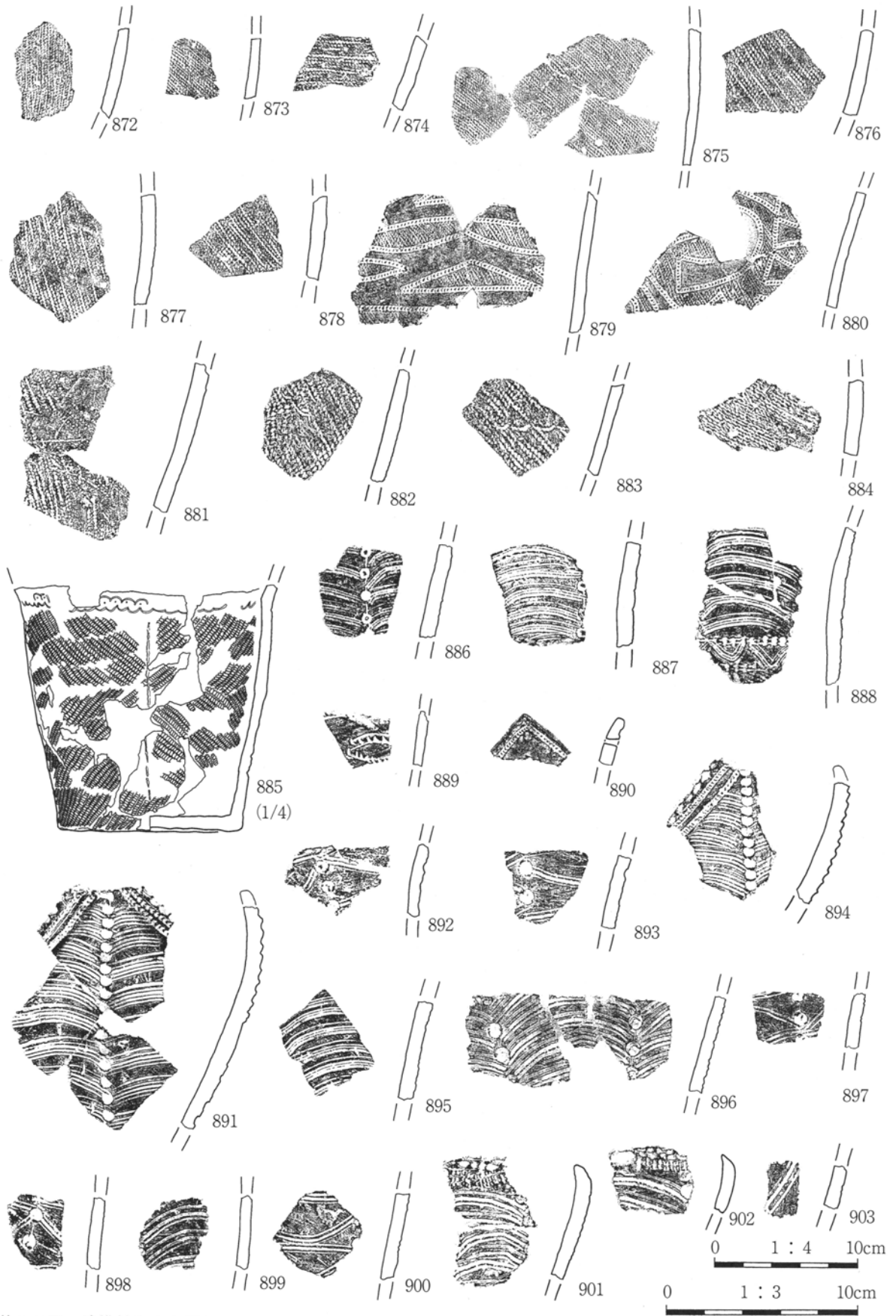


第130図 遺構外出土土器7

4 遺構外出土遺物

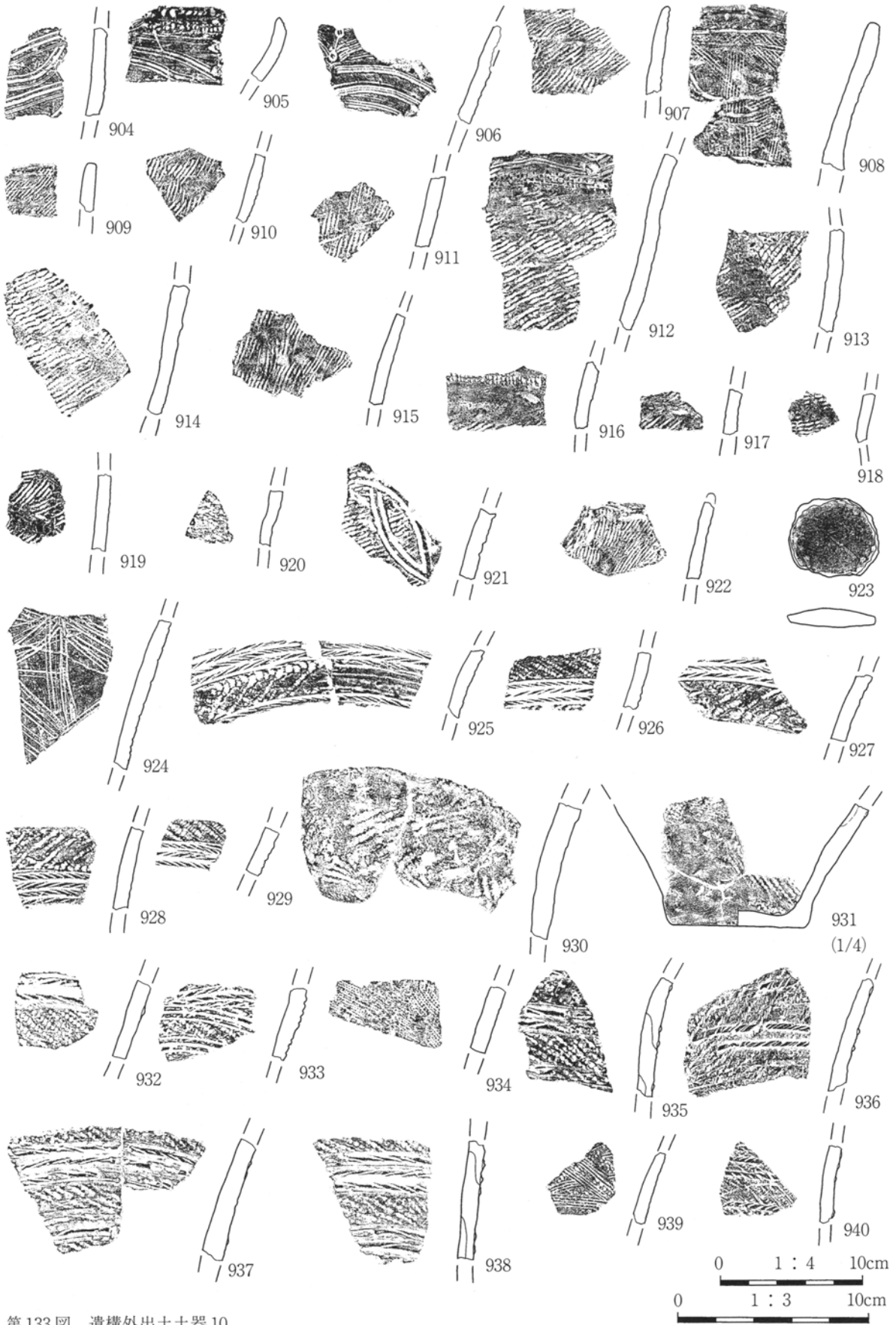


第131図 遺構外出土土器8

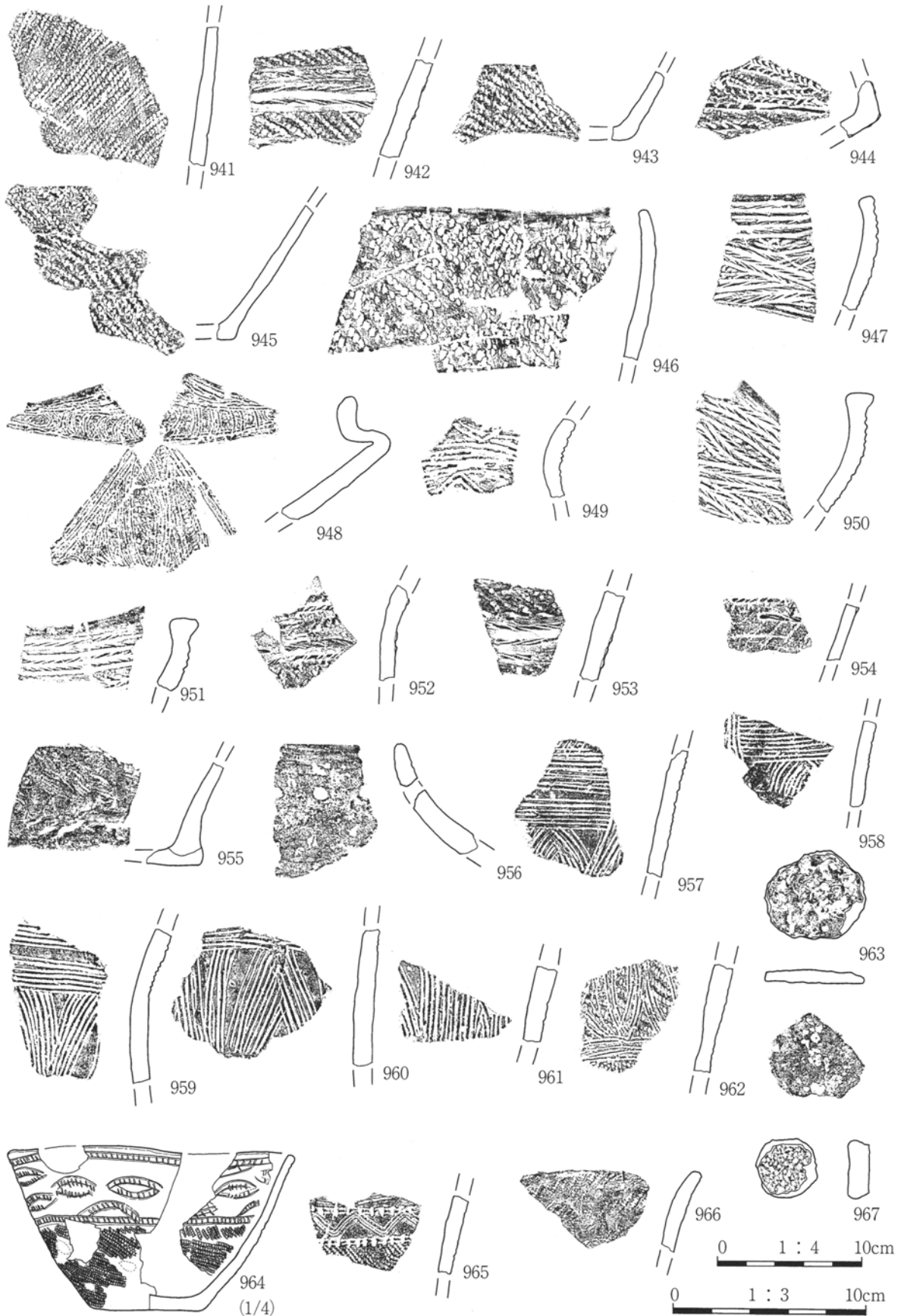


第132図 遺構外出土土器9

4 遺構外出土遺物

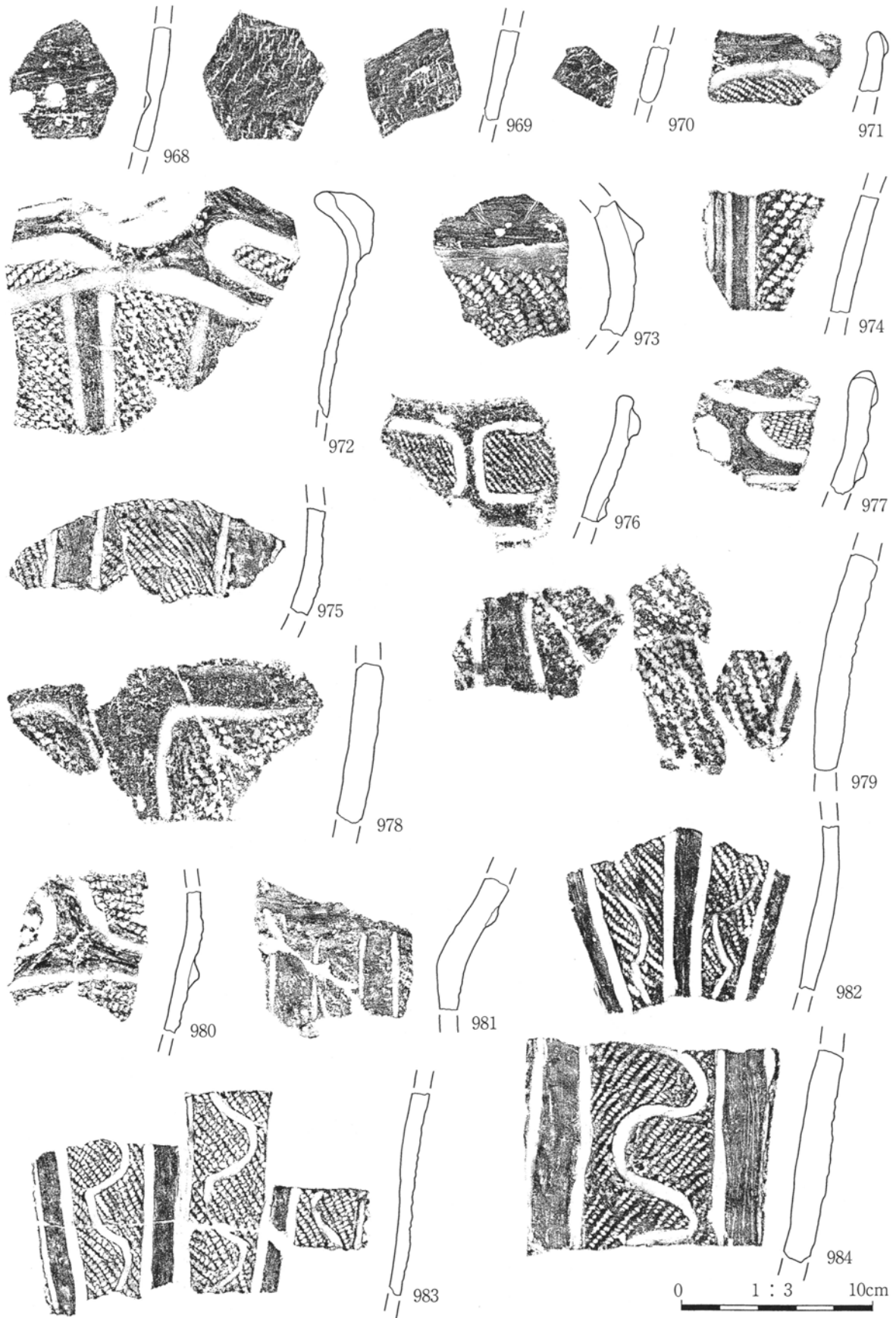


第133図 遺構外出土土器10

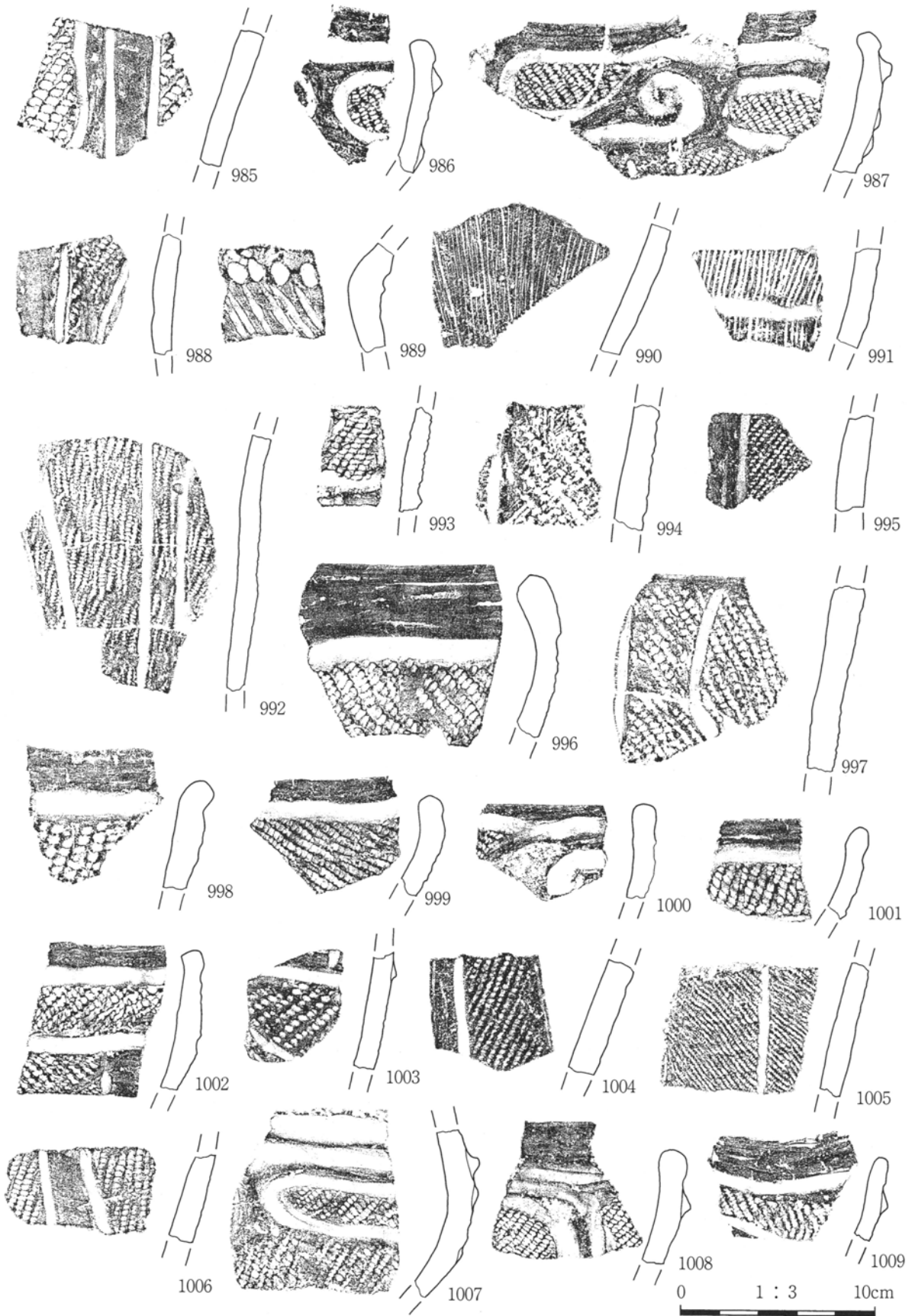


第134図 遺構外出土土器11

4 遺構外出土遺物

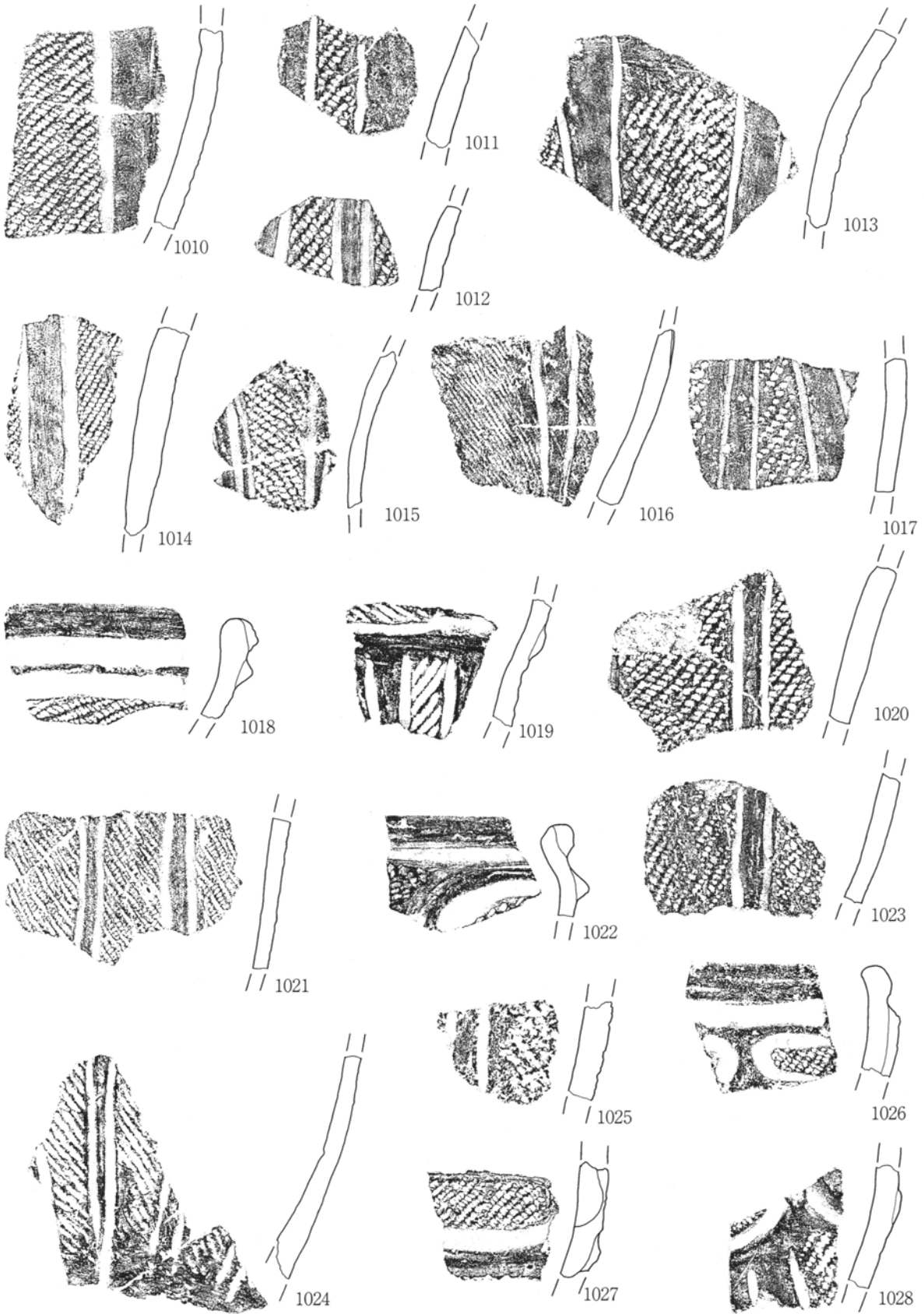


第135図 遺構外出土土器12



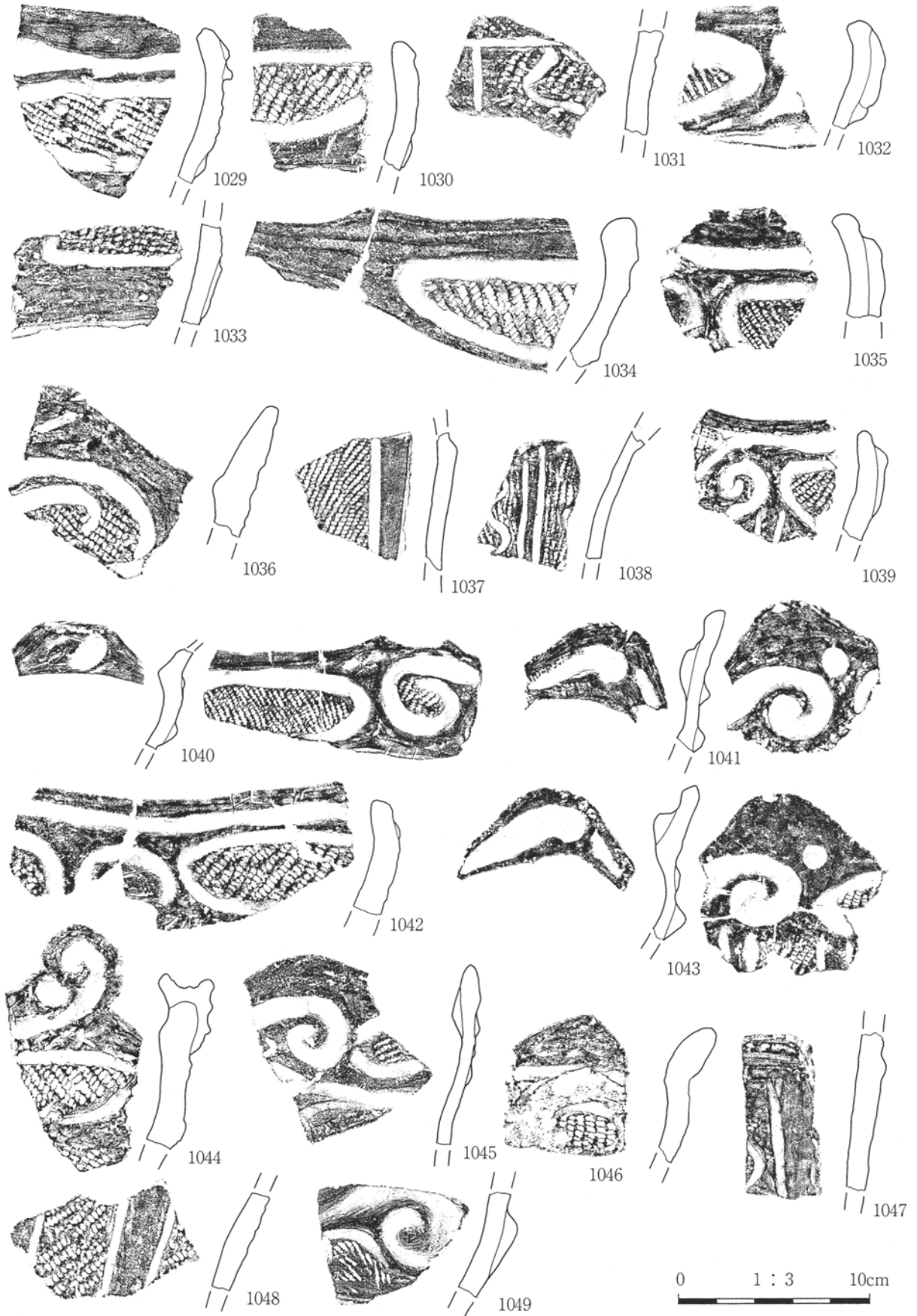
第136図 遺構外出土土器13

4 遺構外出土遺物



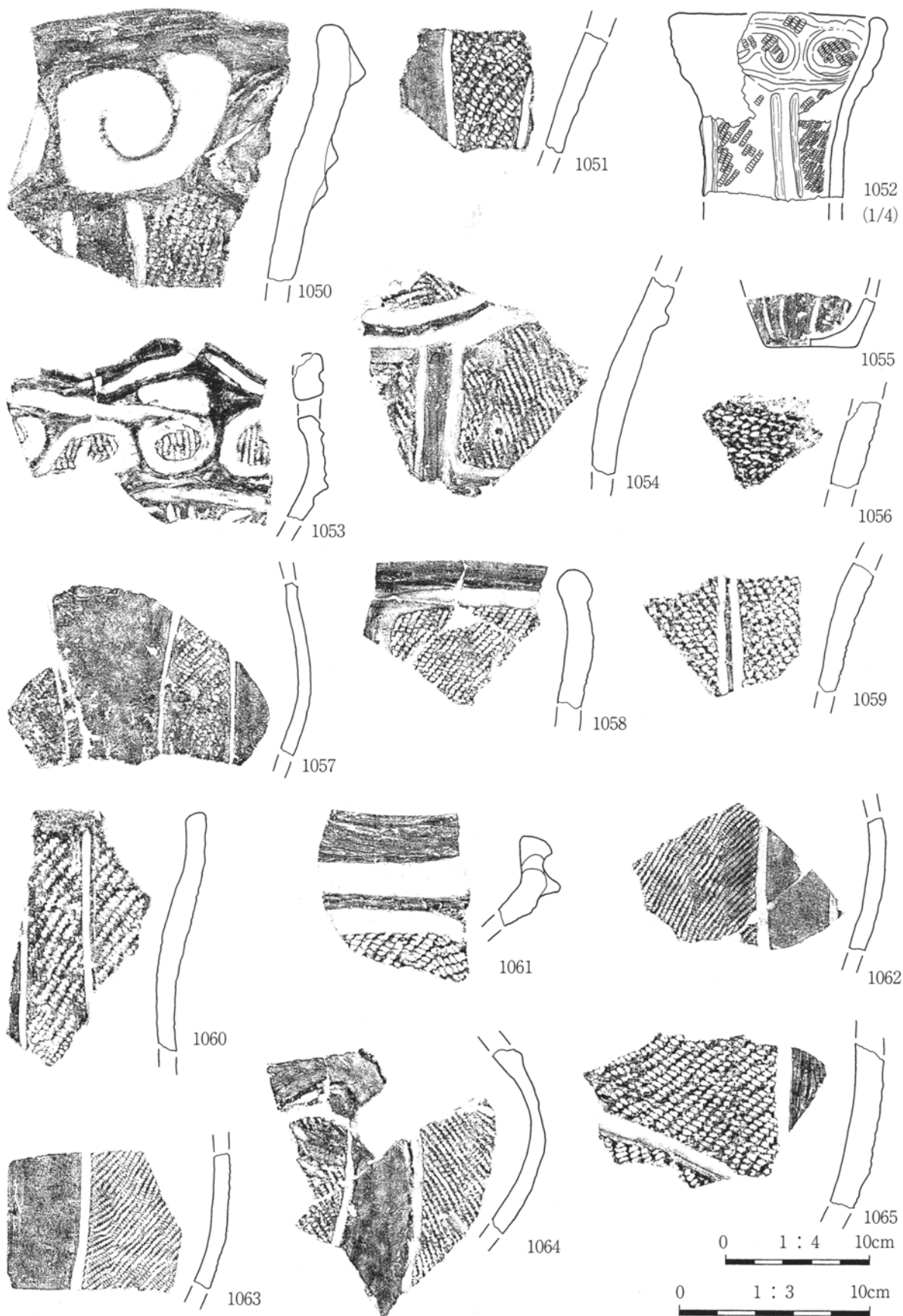
0 1 : 3 10cm

第137図 遺構外出土土器 14

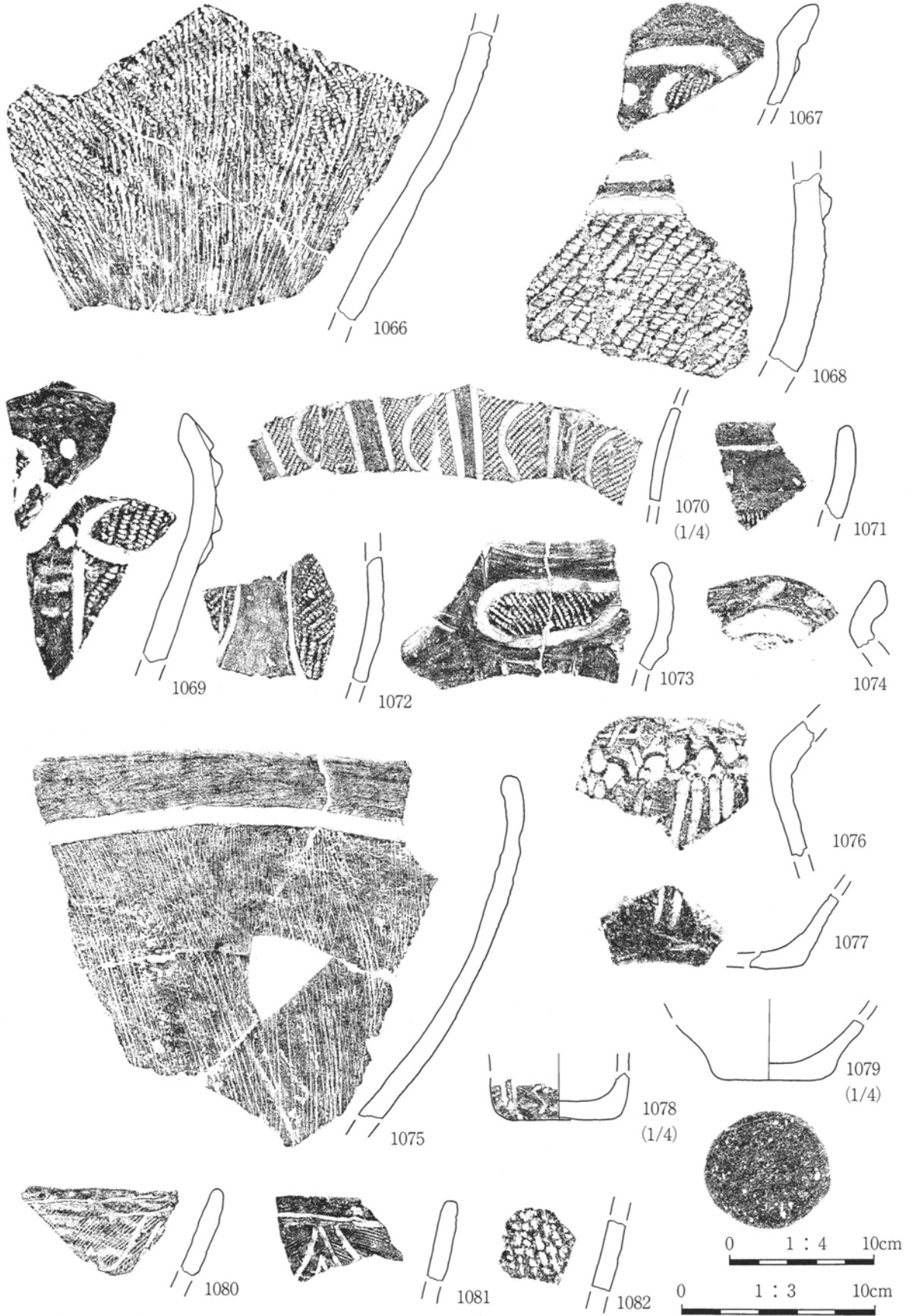


第138図 遺構外出土土器 15

4 遺構外出土遺物

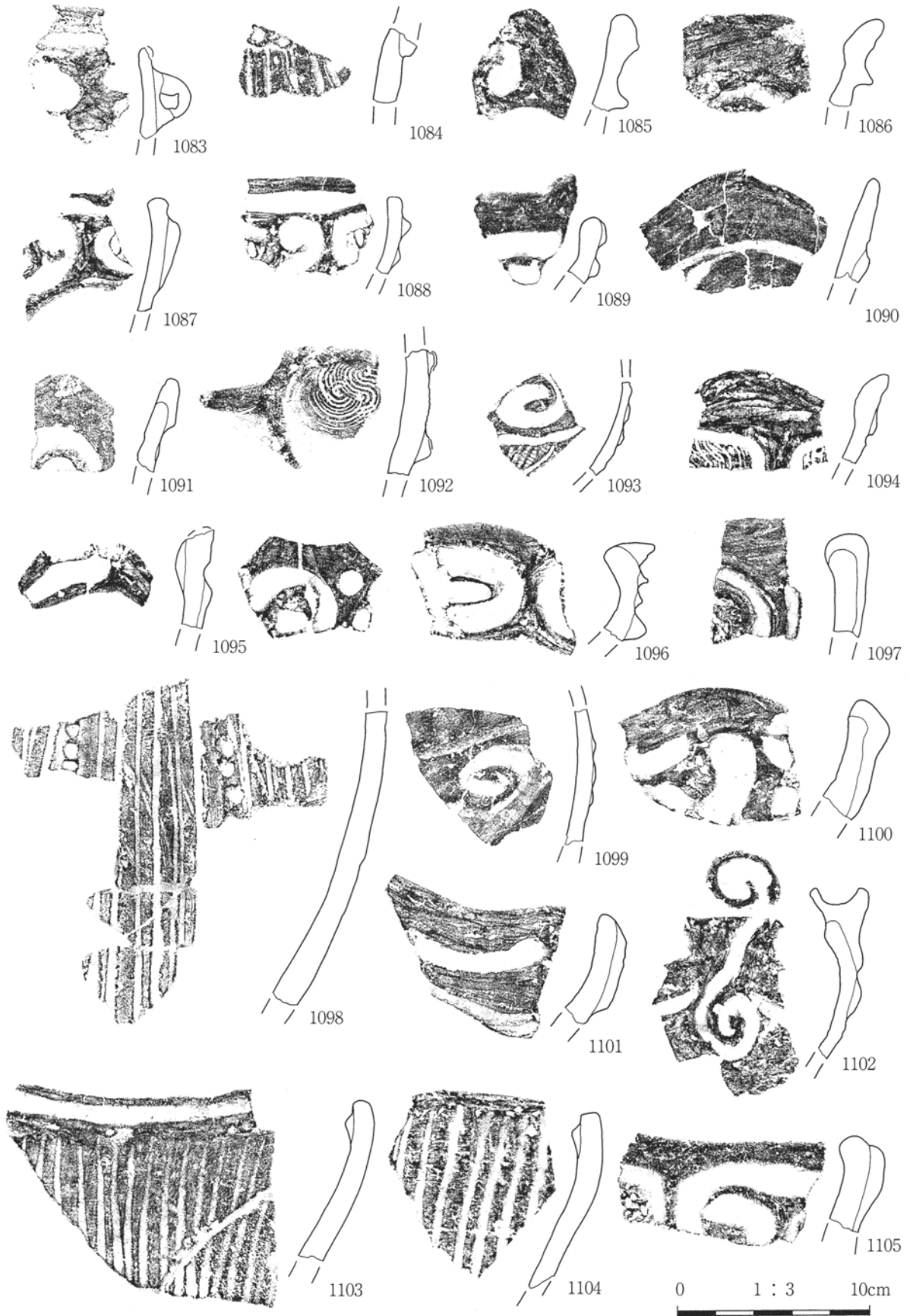


第139図 遺構外出土土器 16

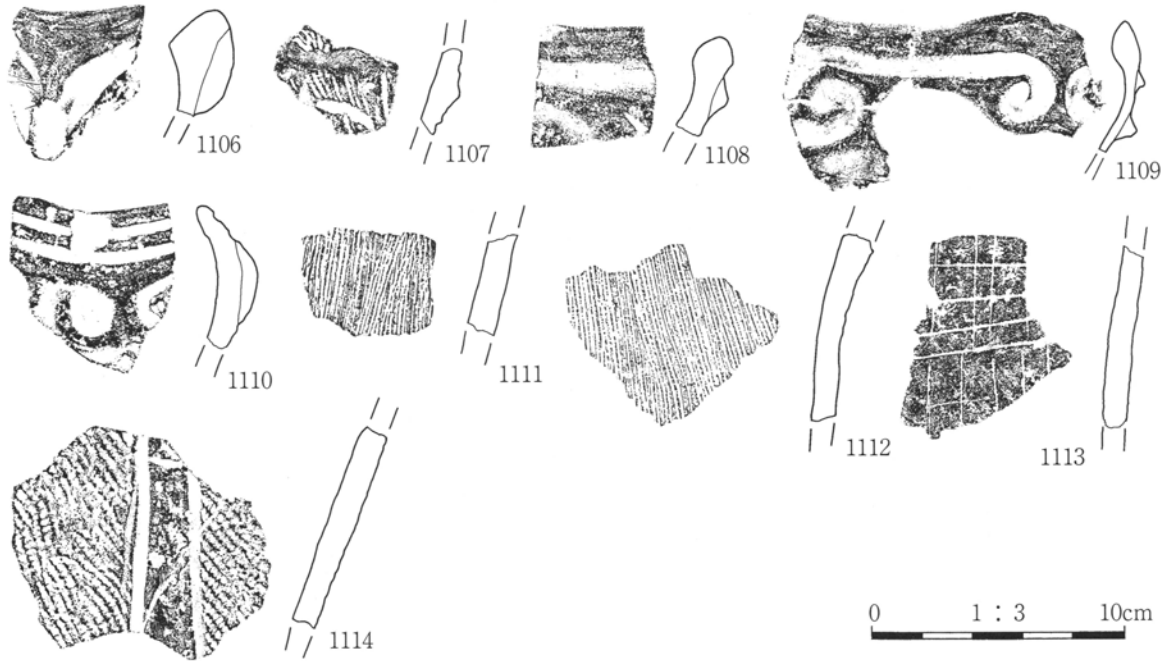


第140図 遺構外出土土器17

4 遺構外出土遺物



第141図 遺構外出土土器 18



第142図 遺構外出土土器 19

石器・石製品

S193・S194は黒色頁岩製の尖頭器である。東側調査区及び中央近くの調査区から出土している。

S195-240の石鏃は調査区全体から散在的に出土するが、遺構の多い調査区東部と調査区中央近くの4号住居周辺にやや多く見られる。使用石材はチャート及び黒色安山岩が多く、それぞれ1/3程を占め、珪質頁岩、黒色頁岩及び黒曜石が残りを三分する。無茎の平基及び凹基のものが主である。

S241-267はスクレーパーで、調査区全体から散在的に出土している。使用石材はS256、S262がチャート、S264がホルンフェルスである他は黒色頁岩。S268-275はくさび形石器で、S273が黒色安山岩製であるが、他はチャート製である。S276-282は石匙でS278が珪質頁岩である他は黒色頁岩製。S283-287の石錐はすべて黒色頁岩製。S288-295は剥片を素材とし、調整加工や使用痕が認められるが定形的な石器でないものとして不定形石器とした。S291は細粒輝石安山岩、S292はホルンフェルス製で、他は黒色頁岩製である。

打製石斧はS296-384の89点ある。遺構の分布と同様の出土状況を示すが、遺構の希薄な調査区中央近くでも見つかっている。使用石材では黒色頁岩が6割近くを占め、細粒輝石安山岩がこれに次ぐが15%程度の比率である。他に砂岩、砂質頁岩、灰色安山岩、変質玄武岩、変はんれい岩、ホルンフェルス、珪質頁岩、頁岩などが用いられる。形状的には短冊形、撥形、分銅形が見られ、楕円形のものも少量ある。S385、S386は磨製石斧で、いずれも遺構の多い東端調査区で見つかったものである。S385は蛇紋岩製、S386は変玄武岩製である。

S387-392は石皿。S387は雲母石英片岩製であるが、他は粗粒輝石安山岩製。S390は中央近くの調査区で表面採取されたものである。S392-479は凹石、磨石、敲石類である。粗粒輝石安山岩が6割、石英閃緑岩が2割弱、溶結凝灰岩と変質安山岩がそれぞれ1割弱を占め、花崗岩、黒色片岩、デイサイト、ひん岩、緑色片岩、閃緑岩がそれぞれ少量見られる。

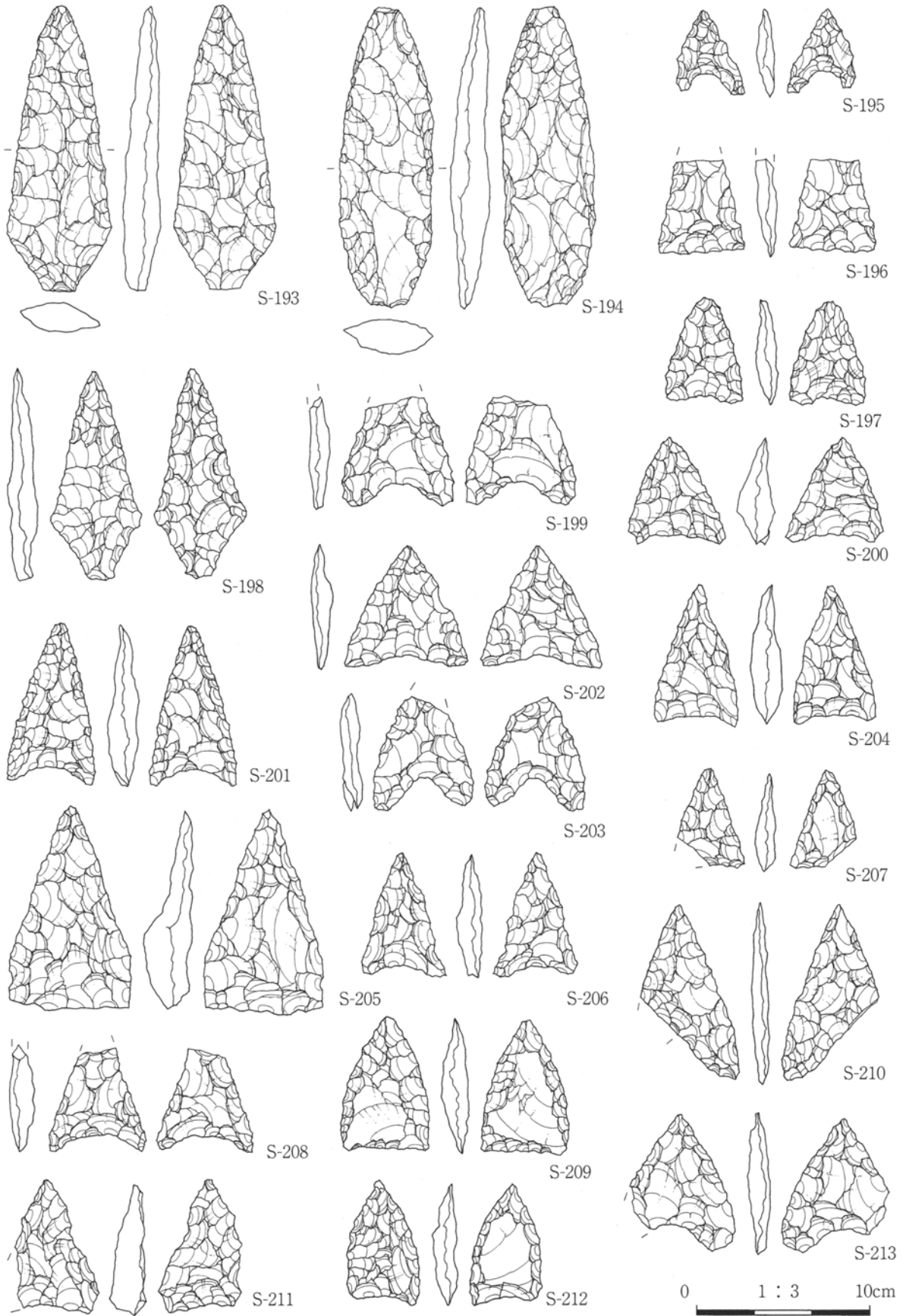
S480-488は砥石であり、粗粒輝石安山岩、砂岩が用いられる。S308、S311、S312、S314は牛伏砂岩製である。

S486は蛇紋岩製の垂飾、487は滑石製の管玉、S488、S489はともに蛇紋岩製のけつ状耳飾りの断片で、補修孔と見られる穿孔を伴うものである。

4 遺構外出土遺物

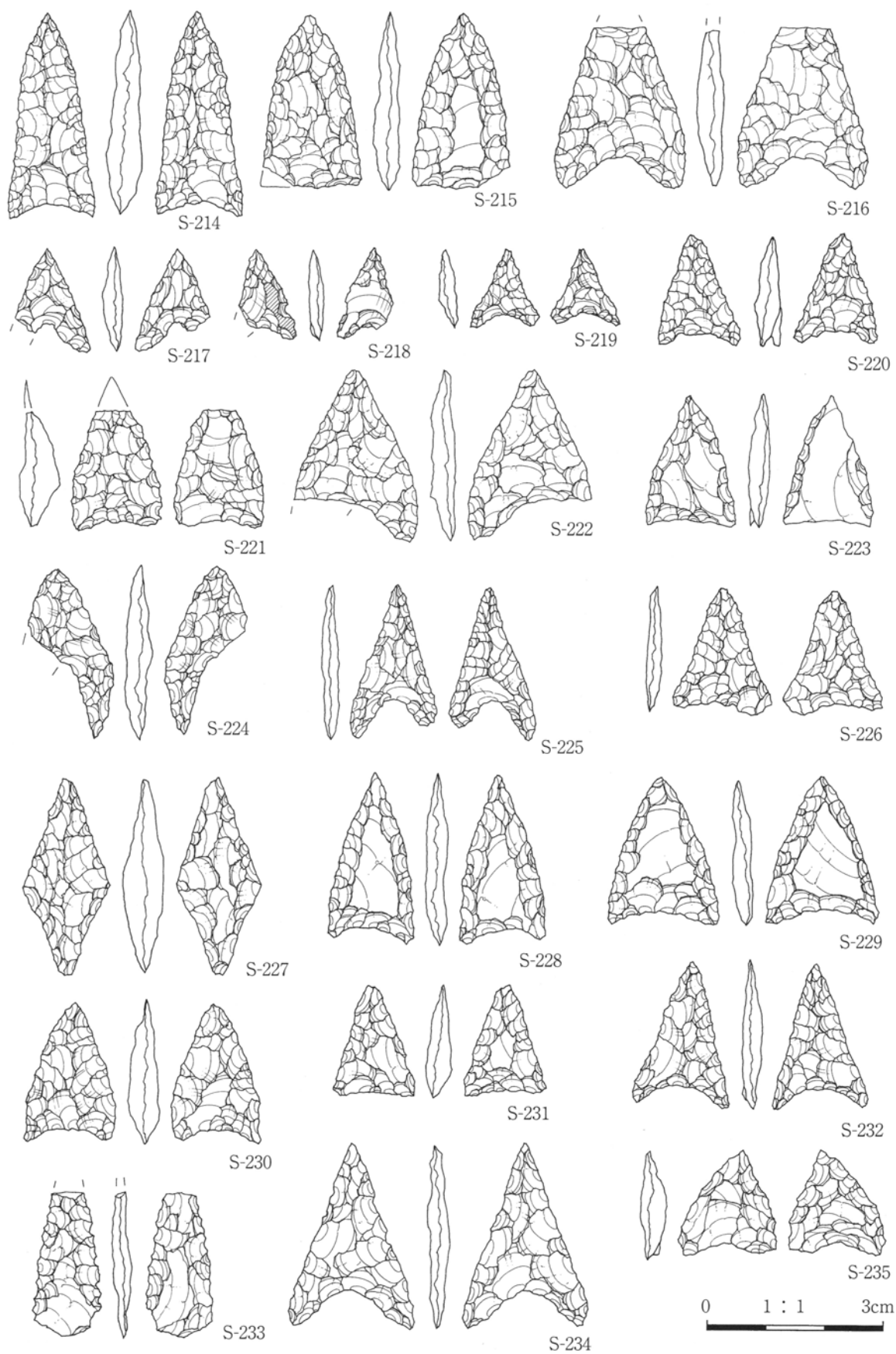


第143図 石器のグリッド別出土量概念図

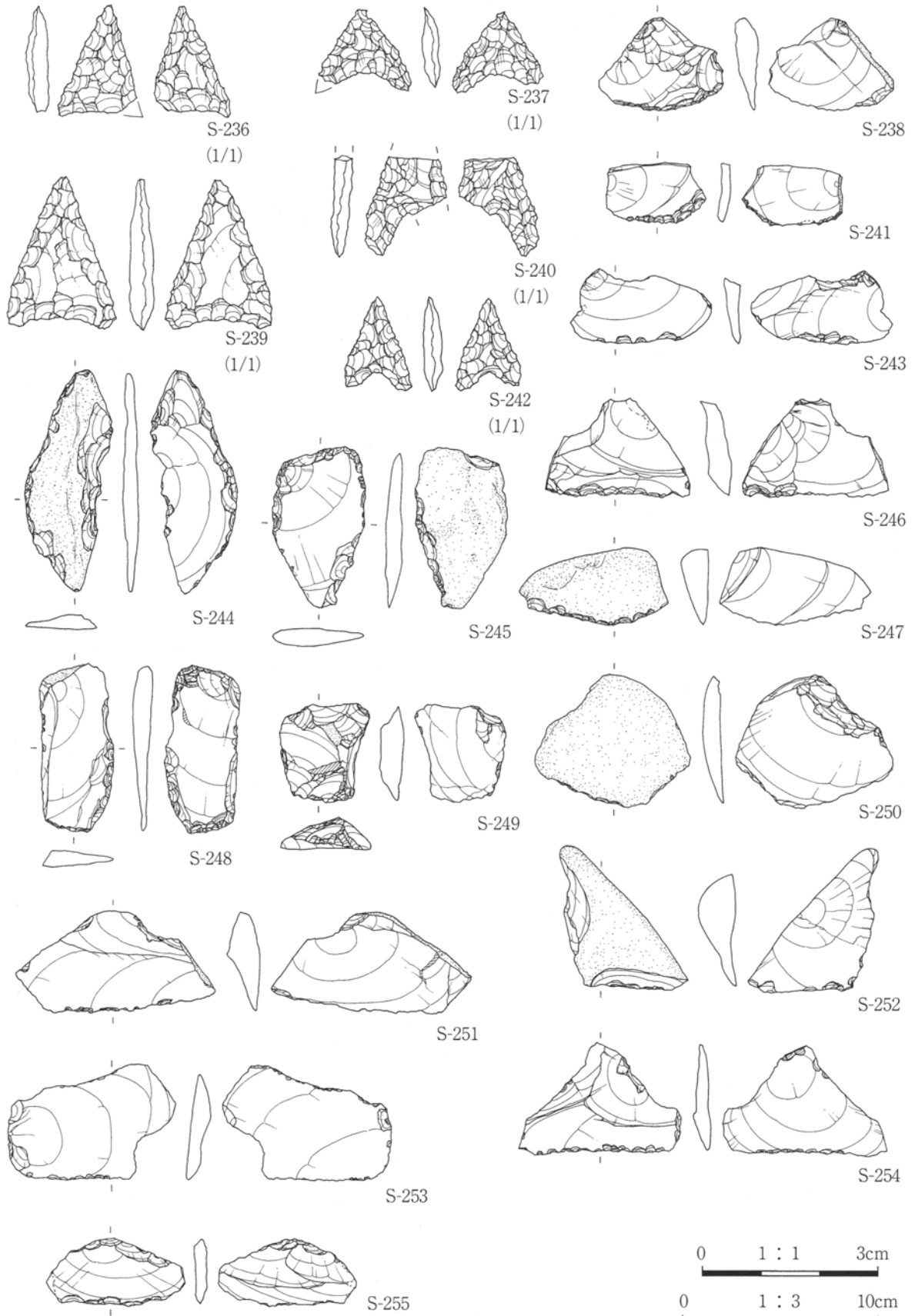


第144図 遺構外出土石器1

4 遺構外出土遺物

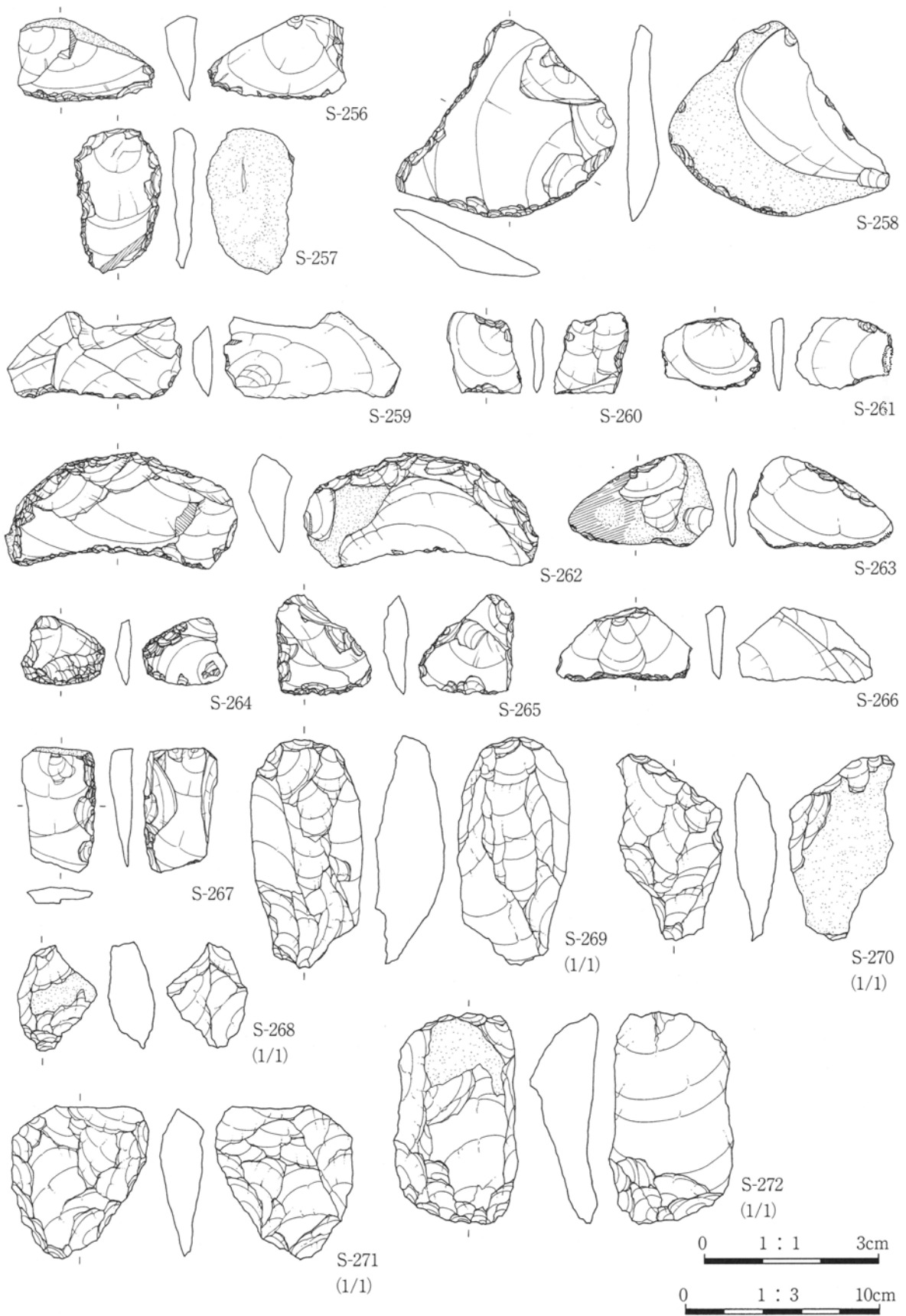


第145図 遺構外出土石器 2

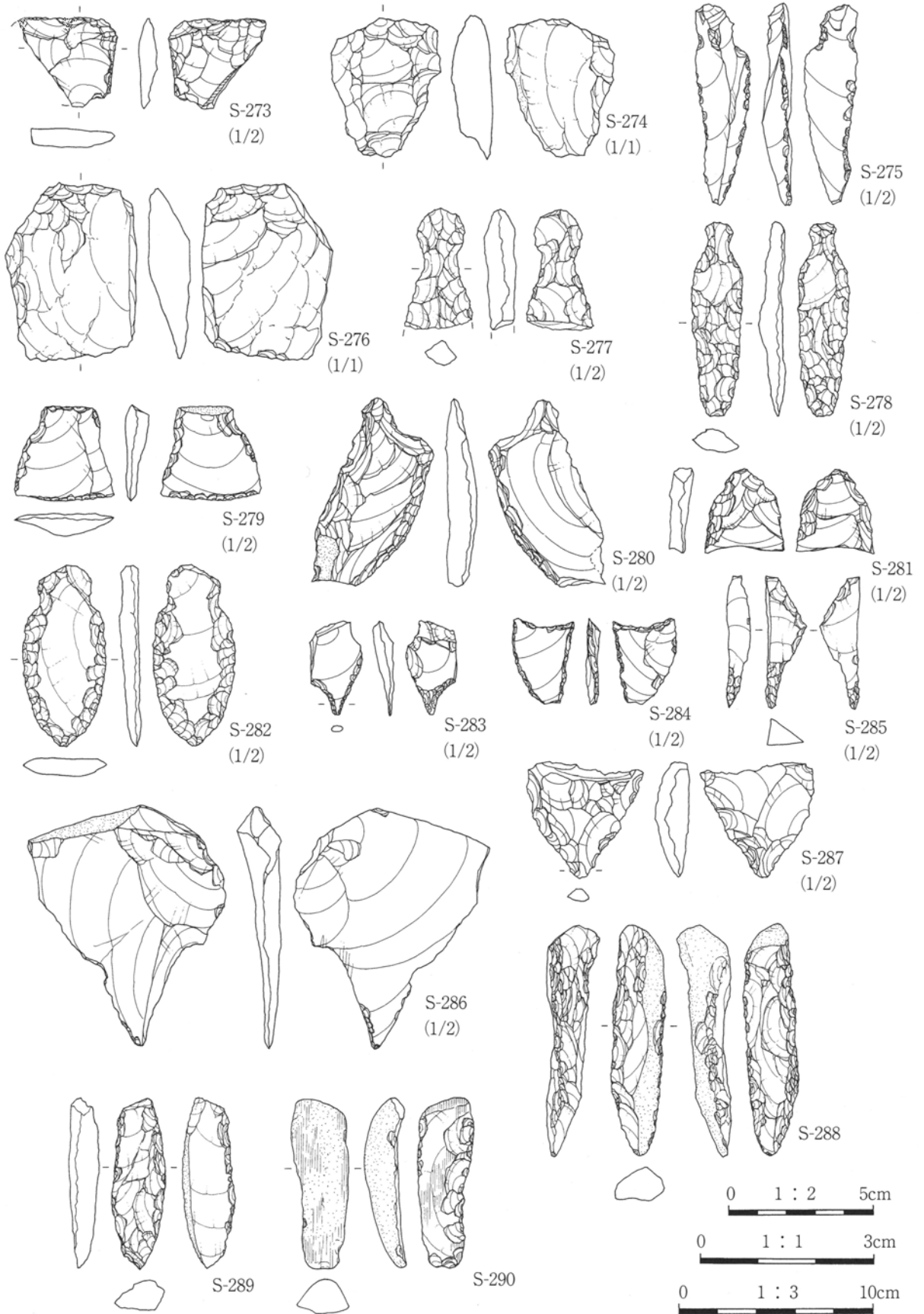


第146図 遺構外出土石器3

4 遺構外出土遺物

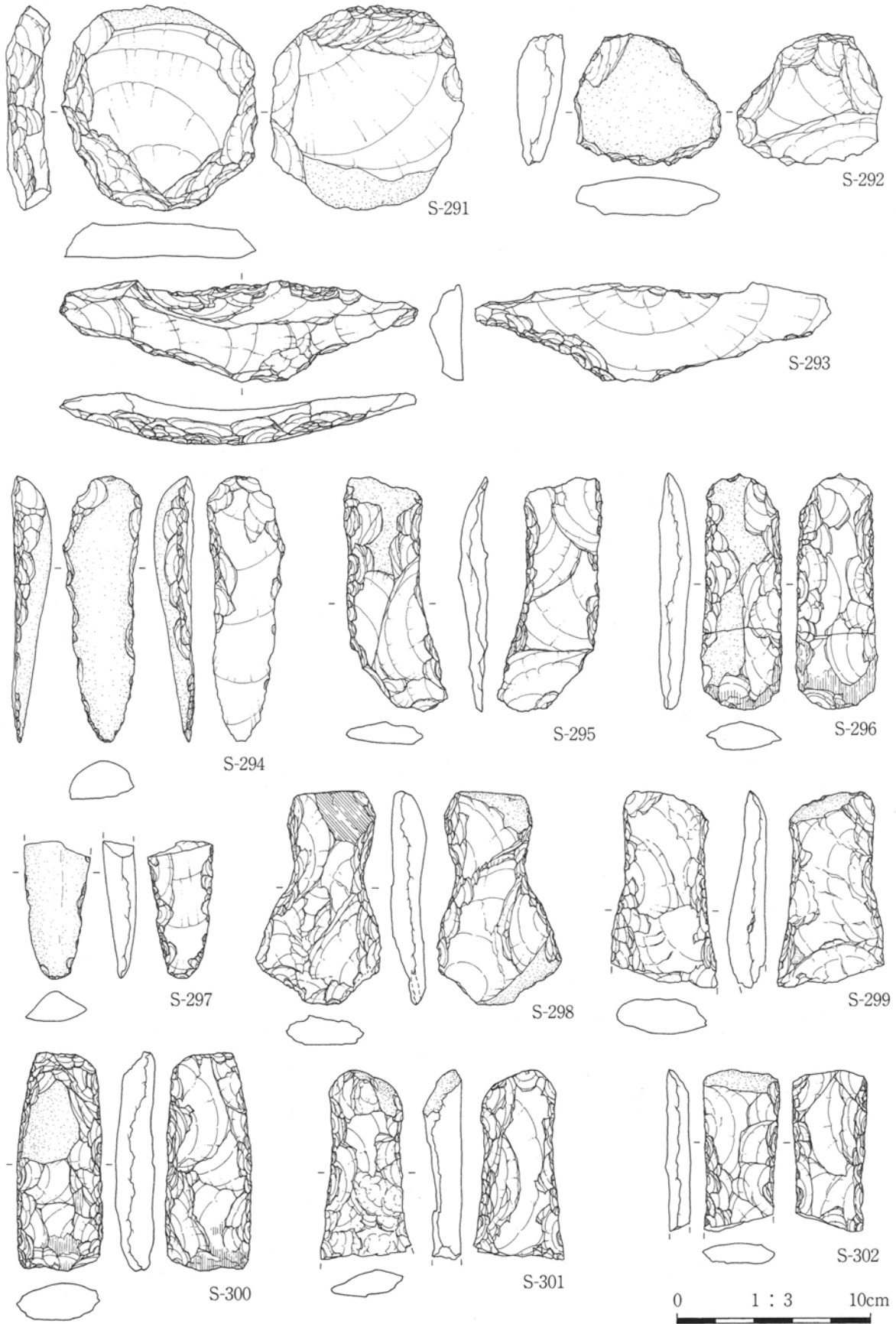


第147図 遺構外出土石器4

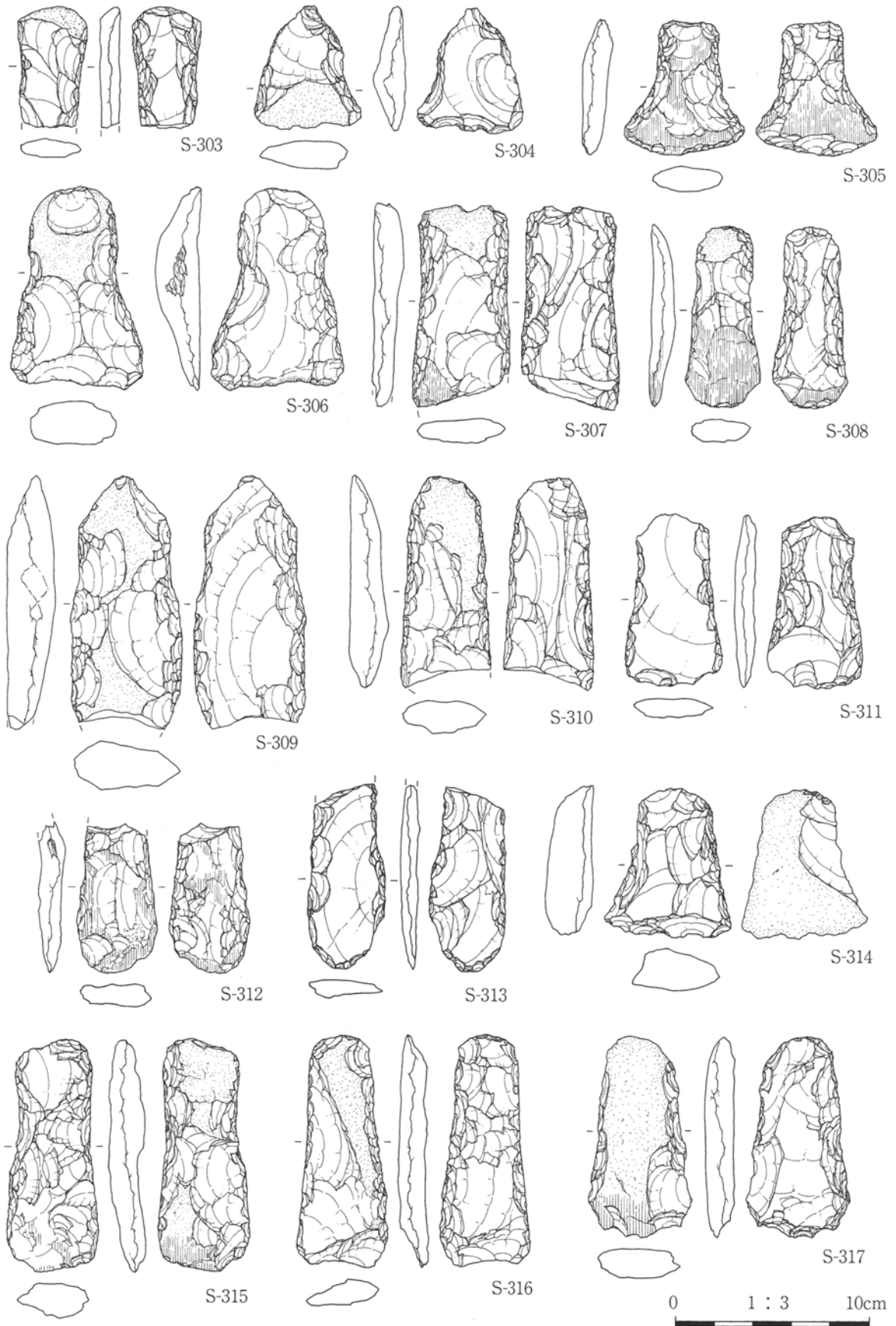


第148図 遺構外出土石器5

4 遺構外出土遺物

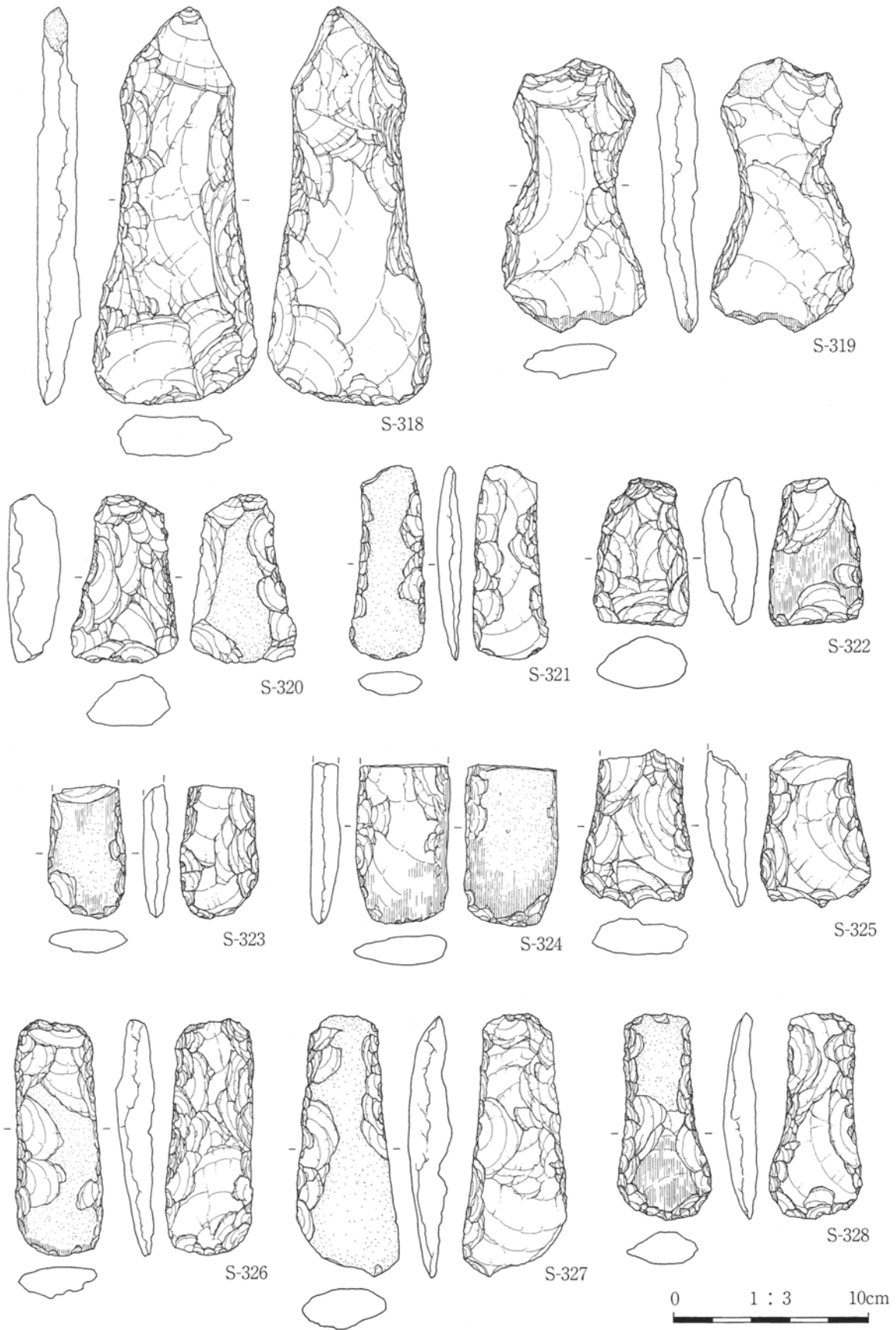


第149図 遺構外出土石器6

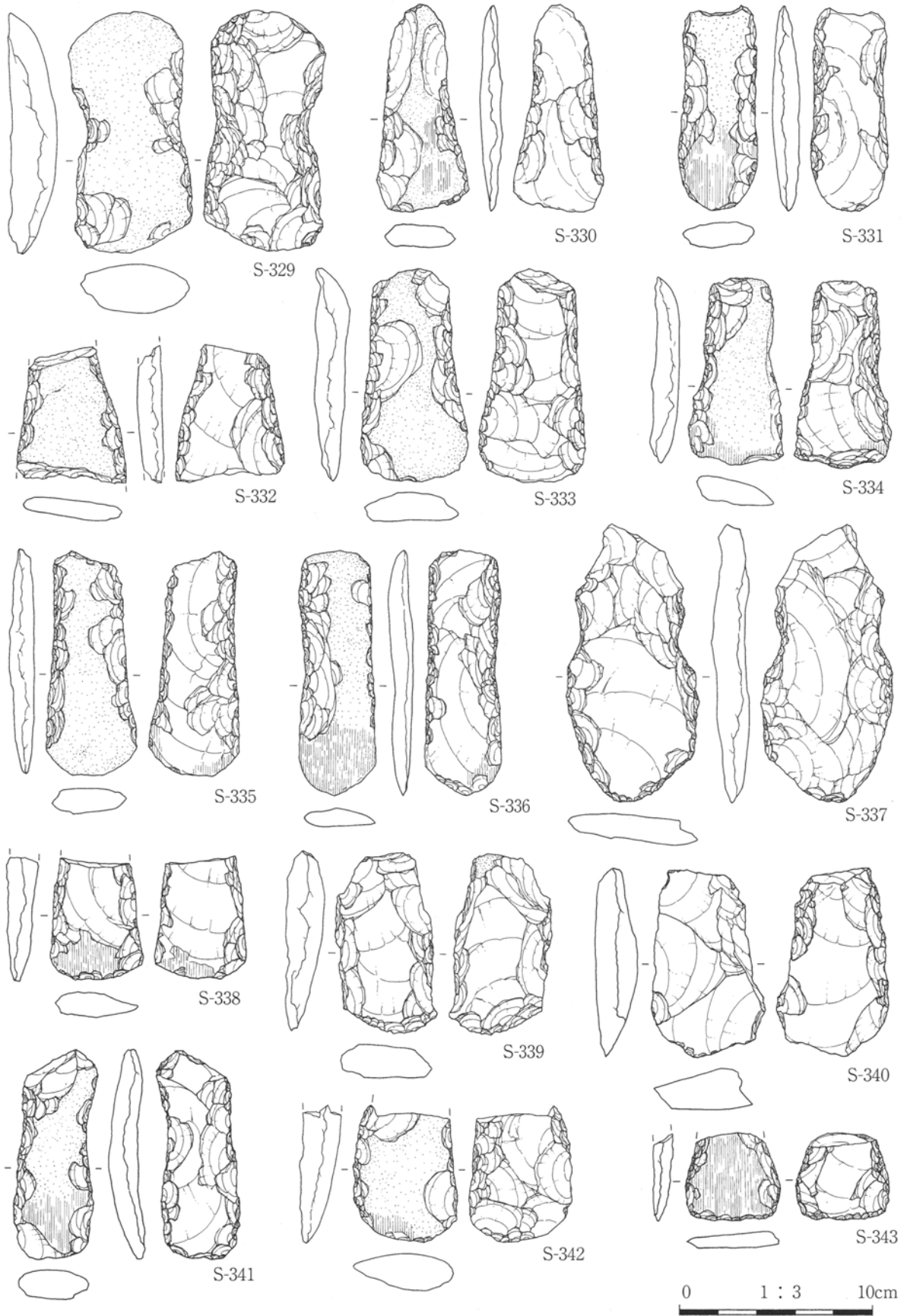


第150図 遺構外出土石器7

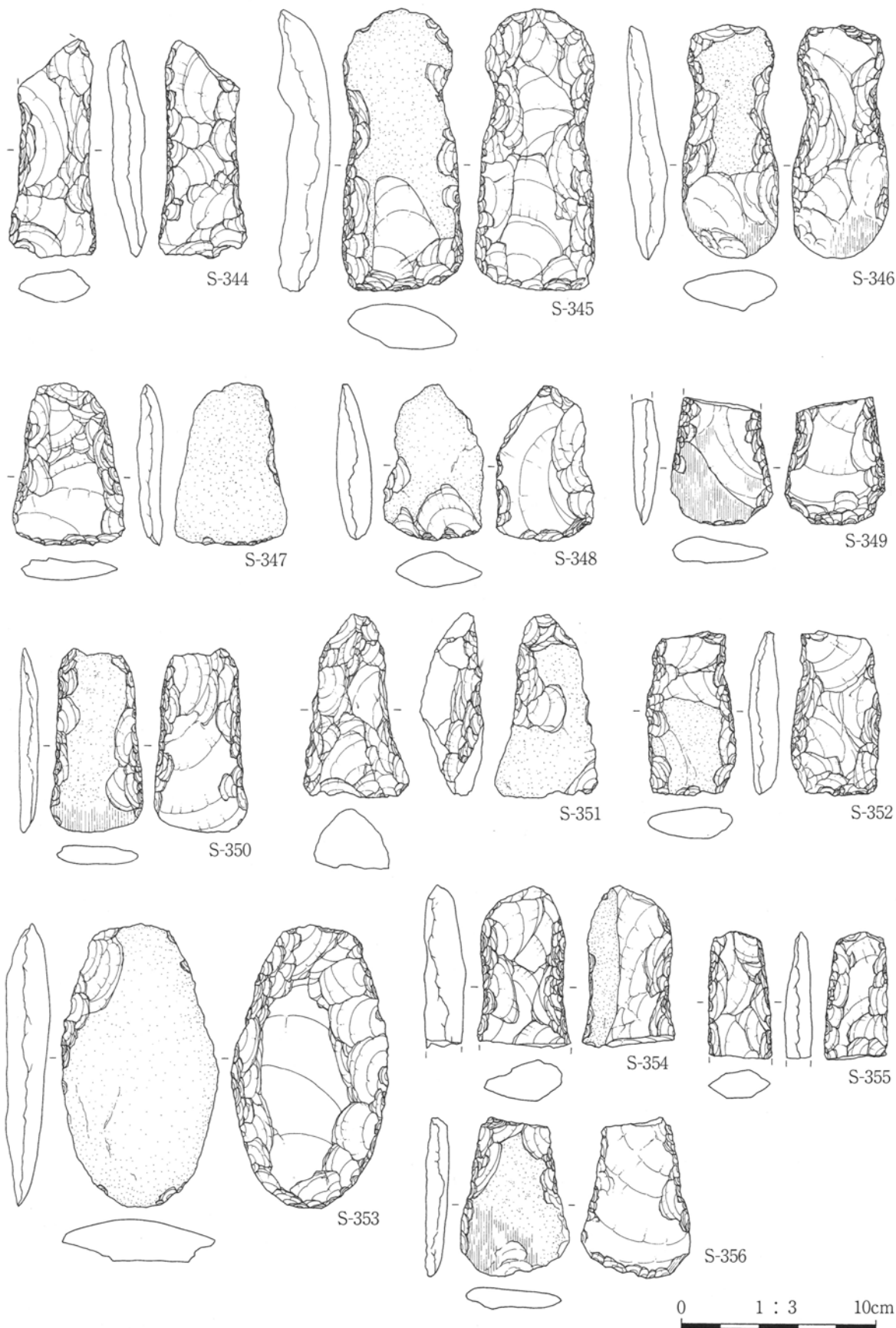
4 遺構外出土遺物



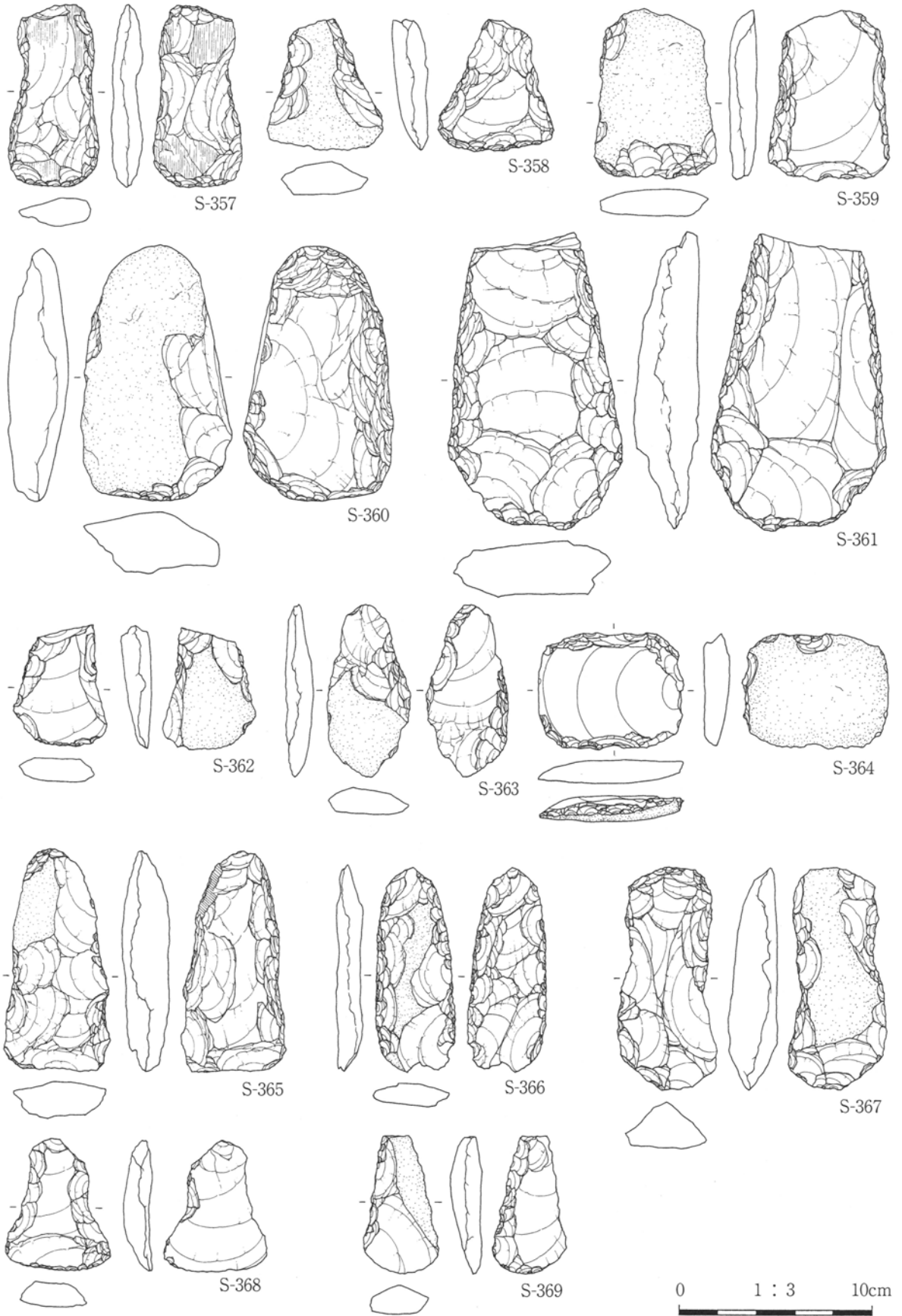
第151図 遺構外出土石器8



第152図 遺構外出土石器9



第153図 遺構外出土石器10

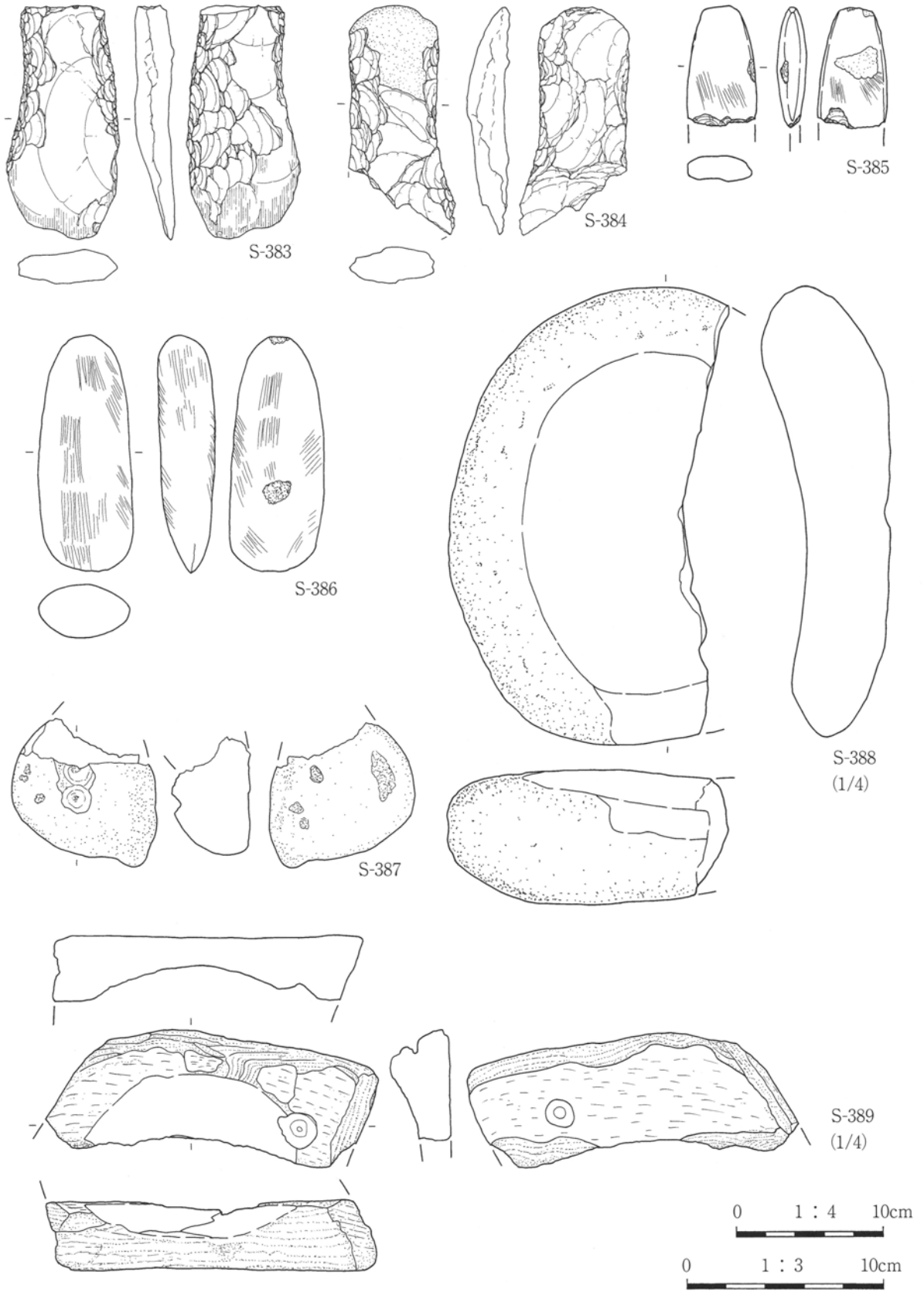


第154図 遺構外出土石器11

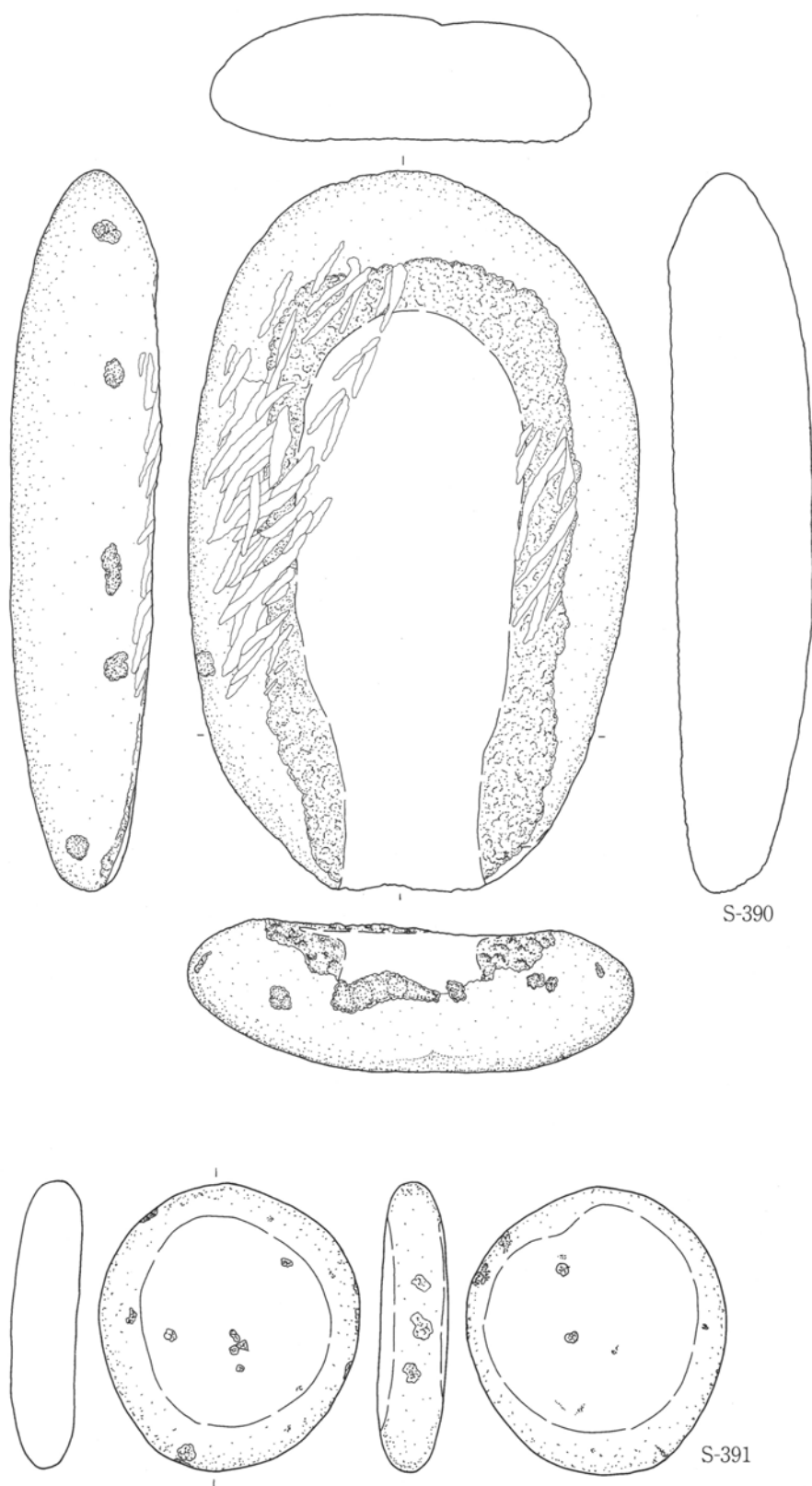
4 遺構外出土遺物



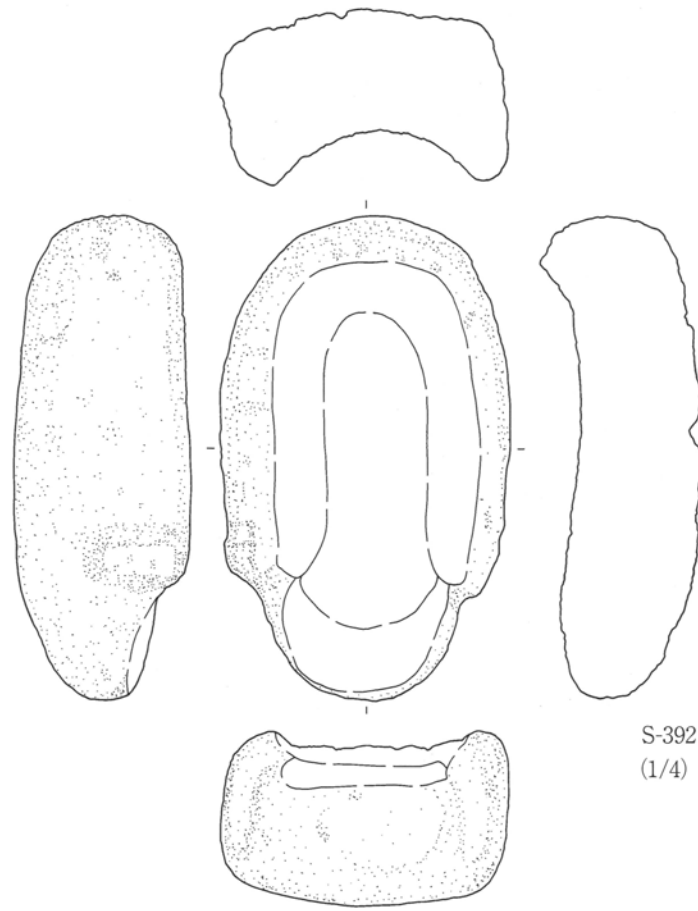
第155図 遺構外出土石器 12



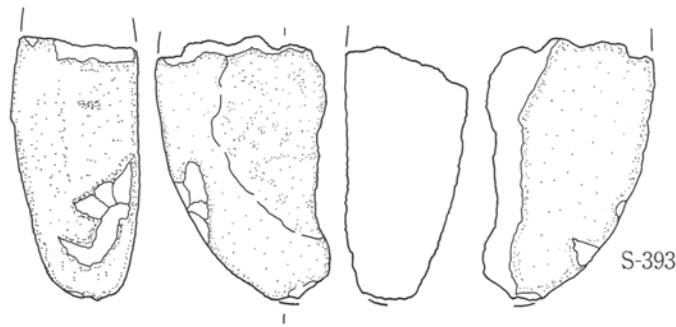
第156図 遺構外出土石器13



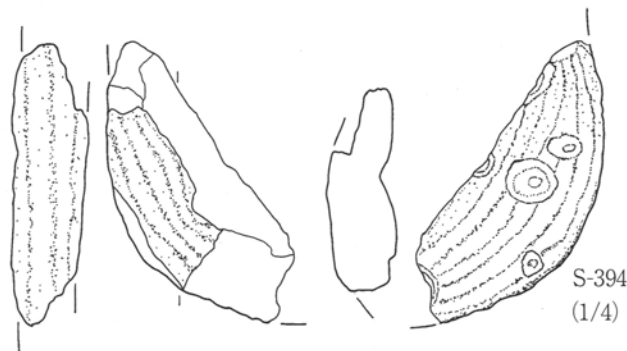
第157図 遺構外出土石器14



S-392
(1/4)



S-393



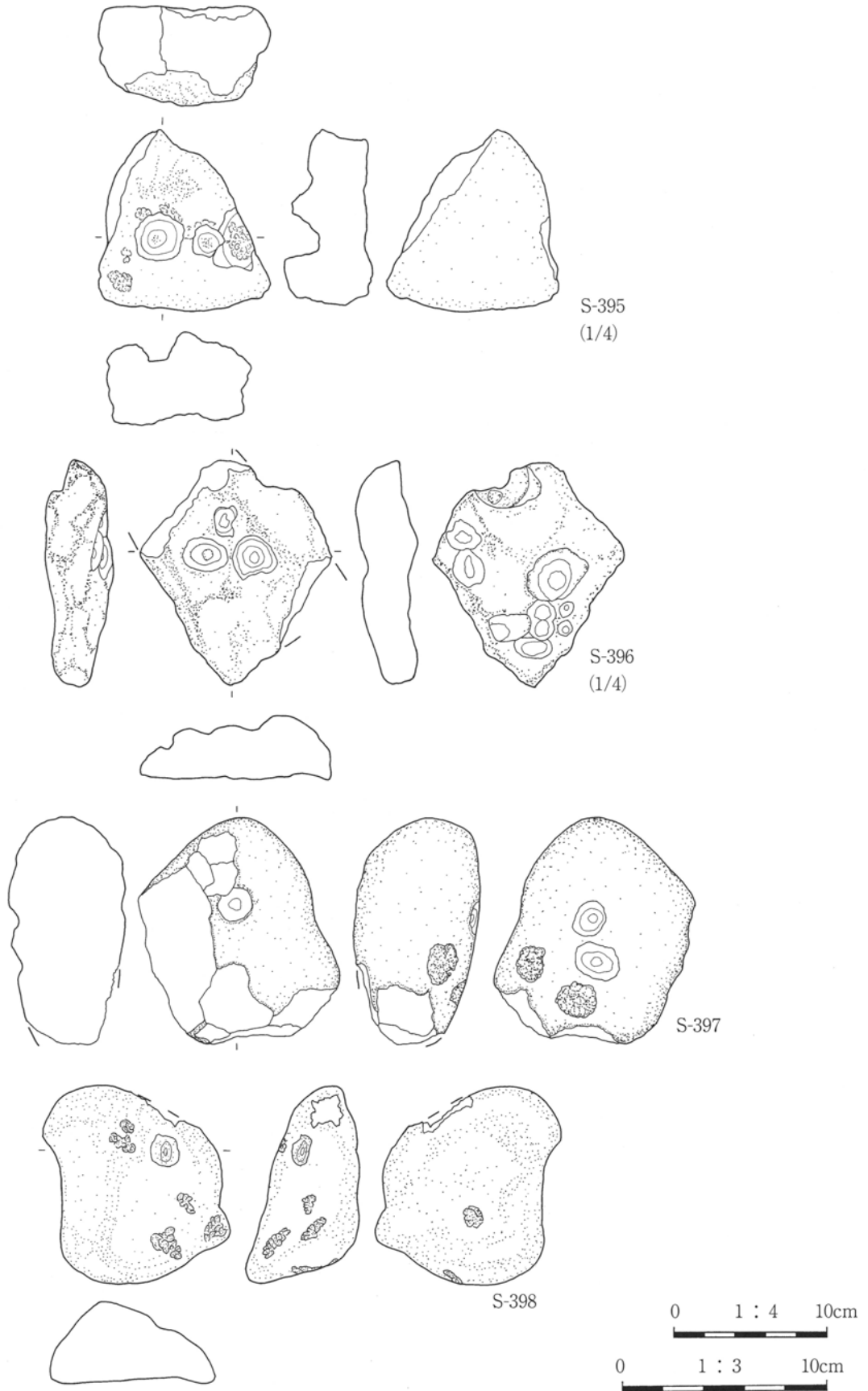
S-394
(1/4)

0 1 : 4 10cm

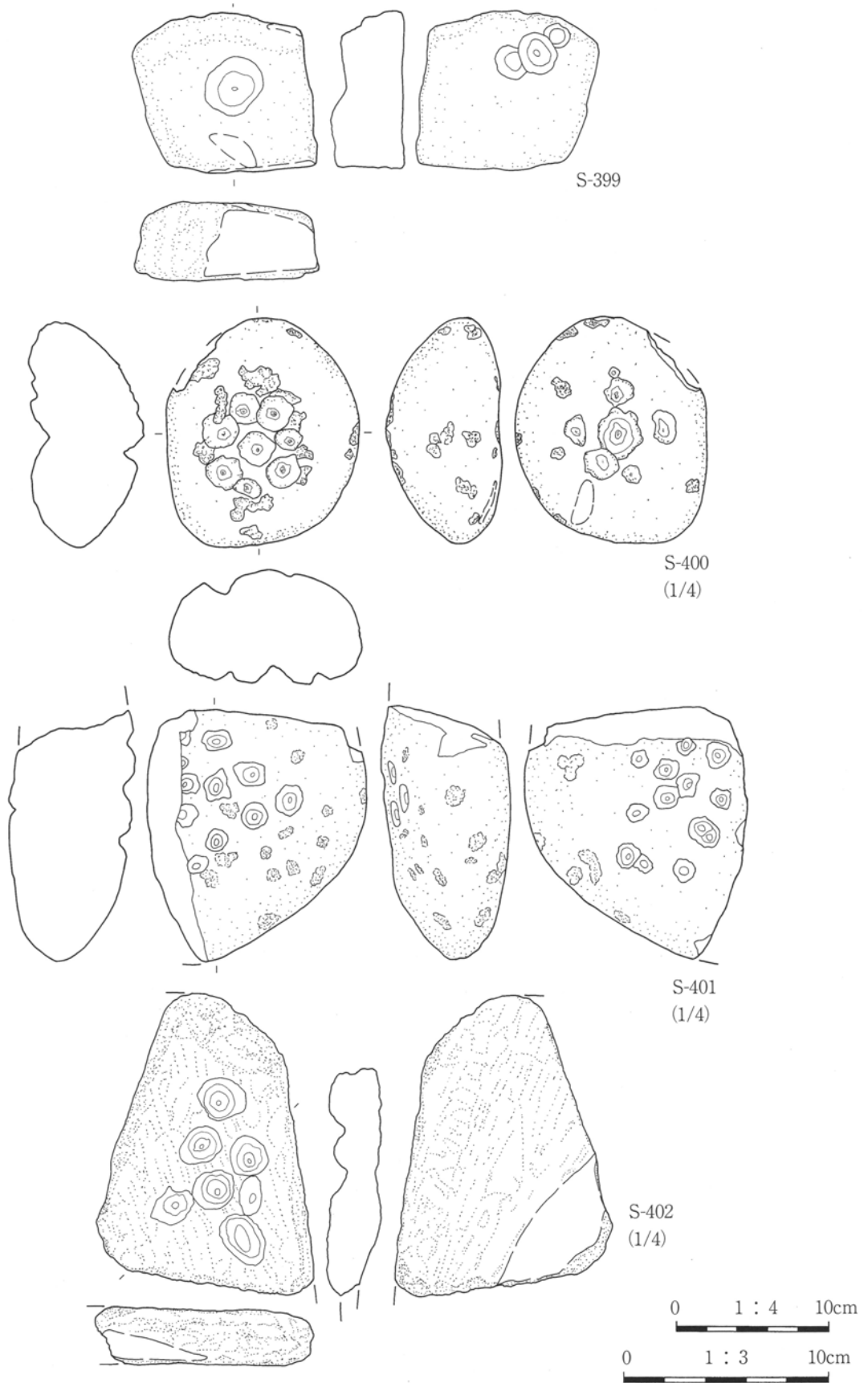
0 1 : 3 10cm

第158図 遺構外出土石器15

4 遺構外出土遺物

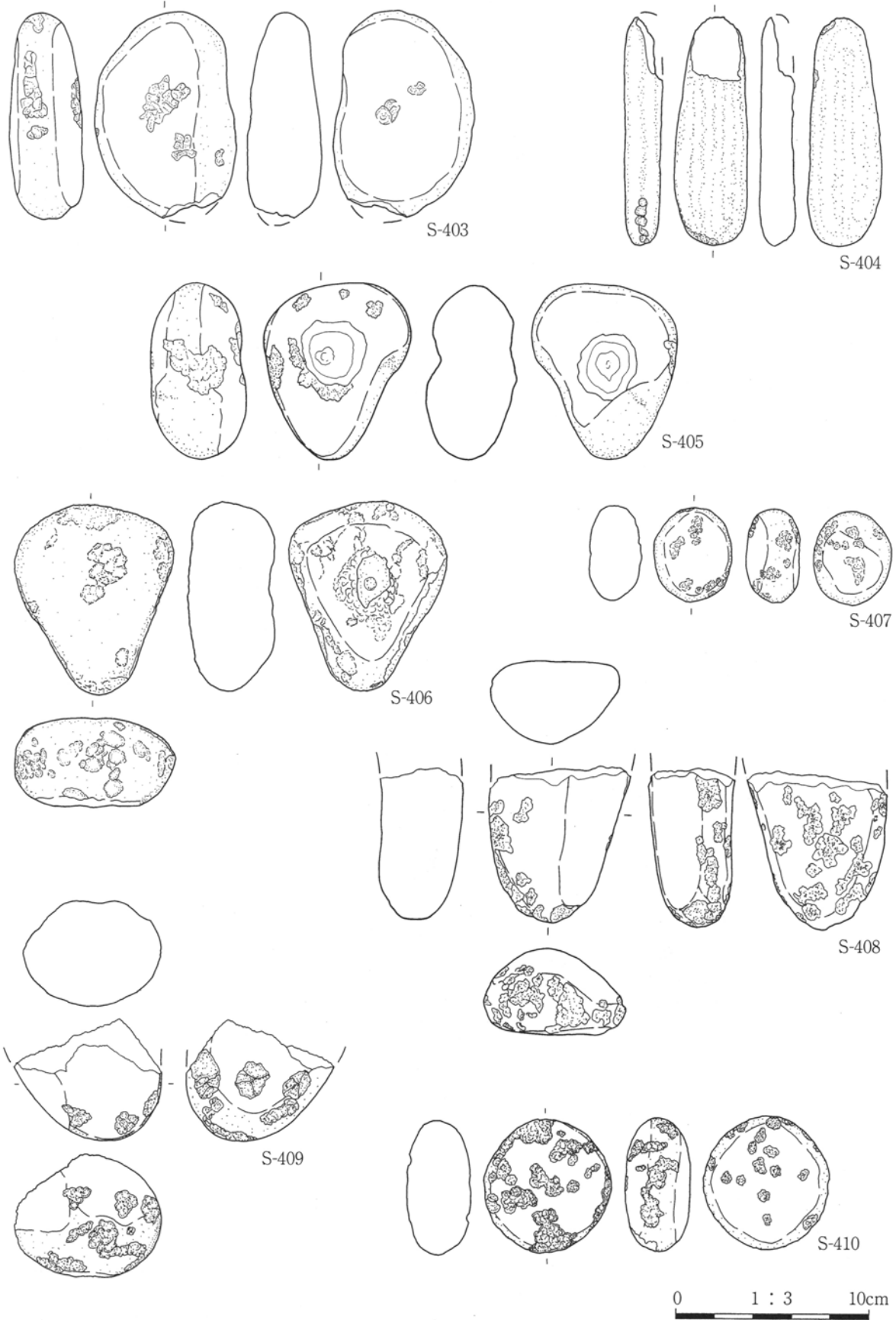


第159図 遺構外出土石器16

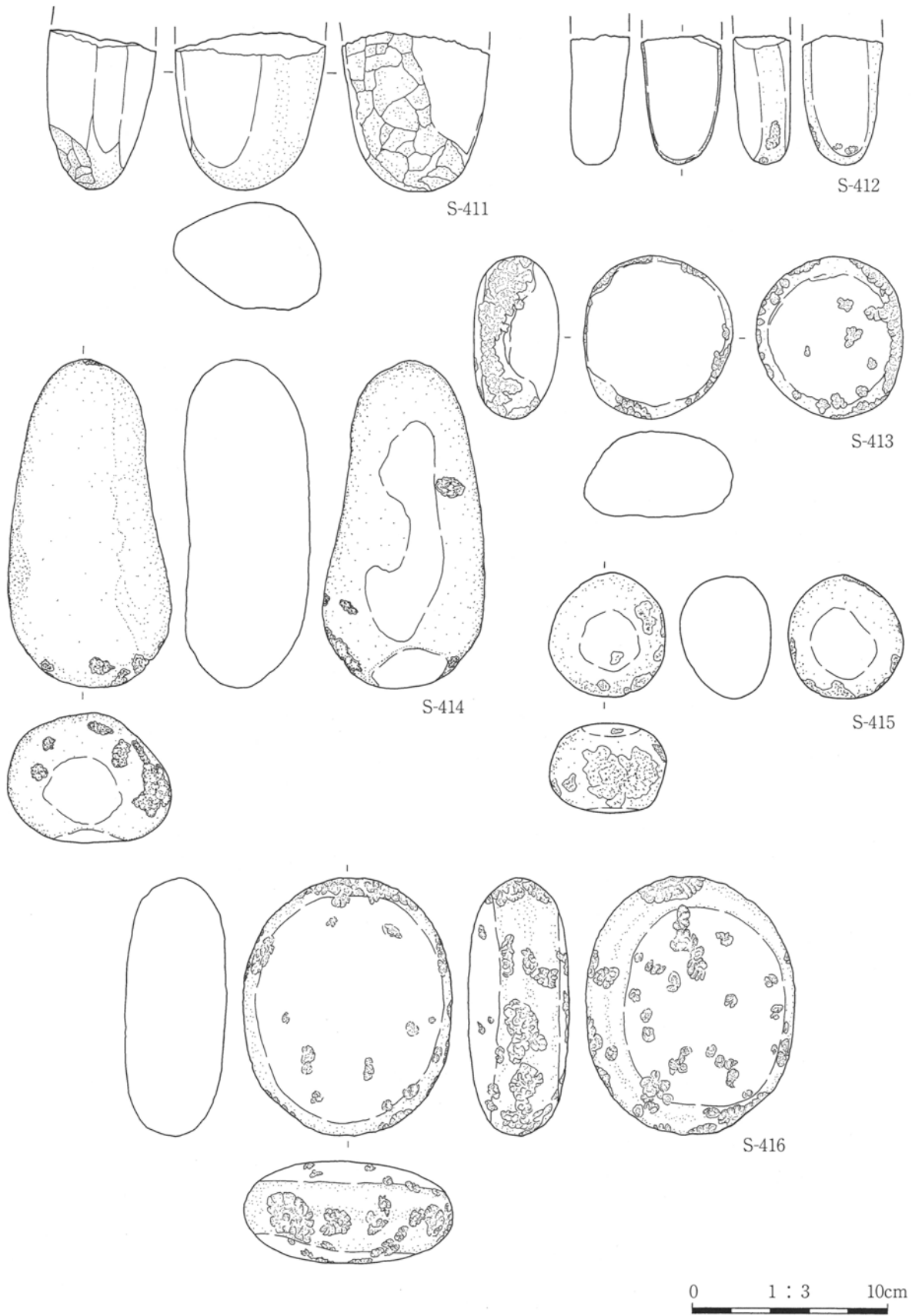


第160図 遺構外出土石器17

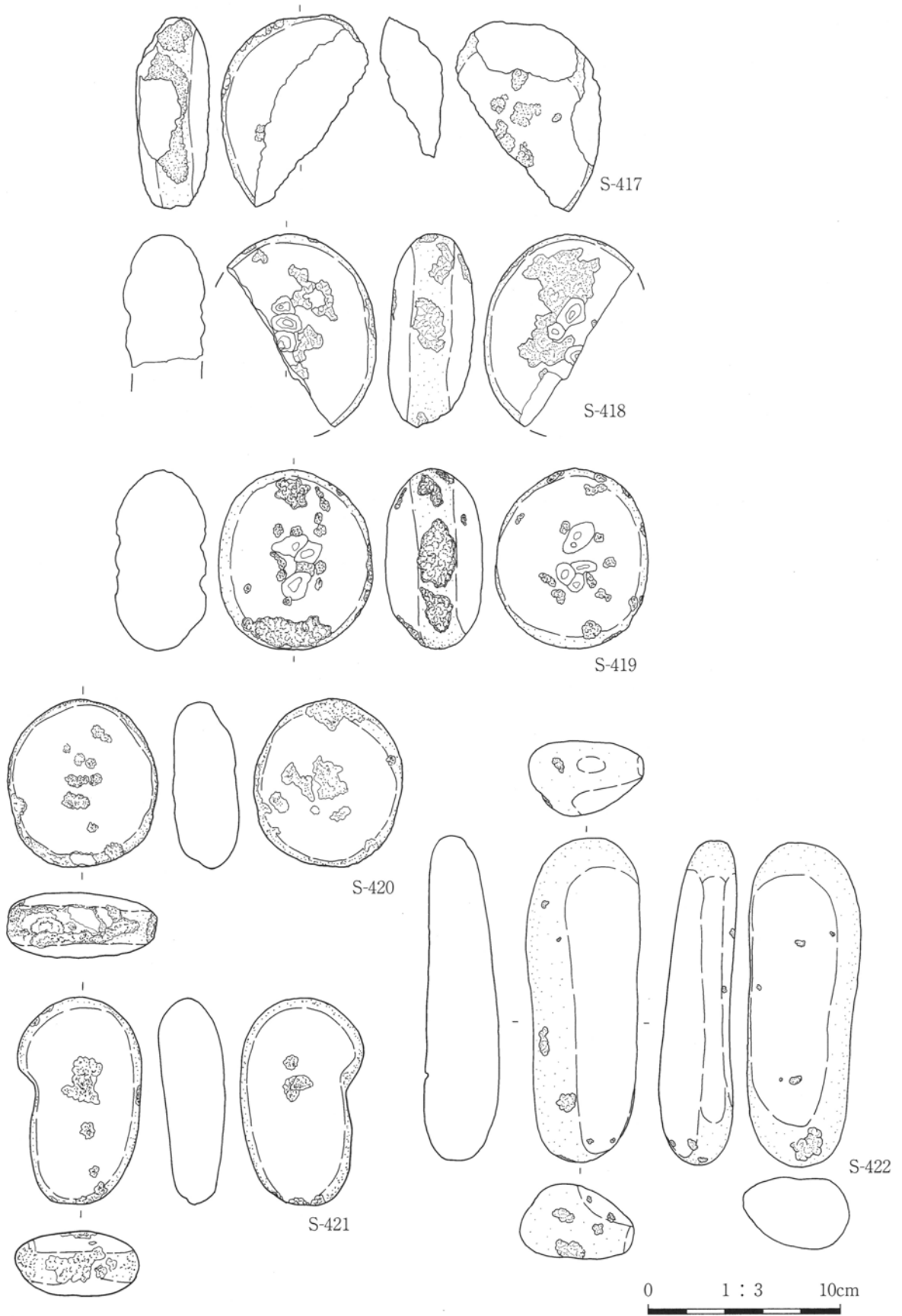
4 遺構外出土遺物



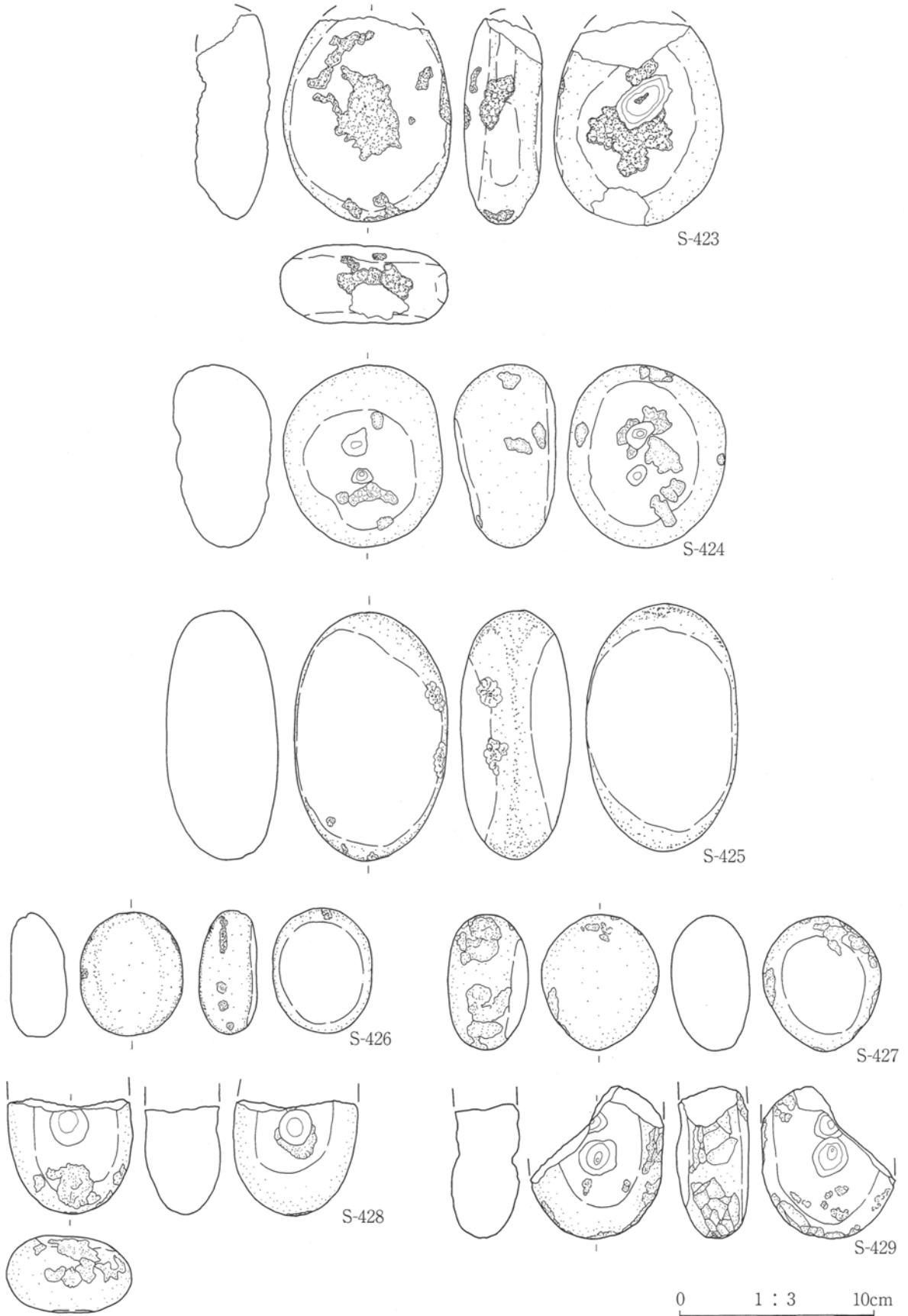
第161図 遺構外出土石器18



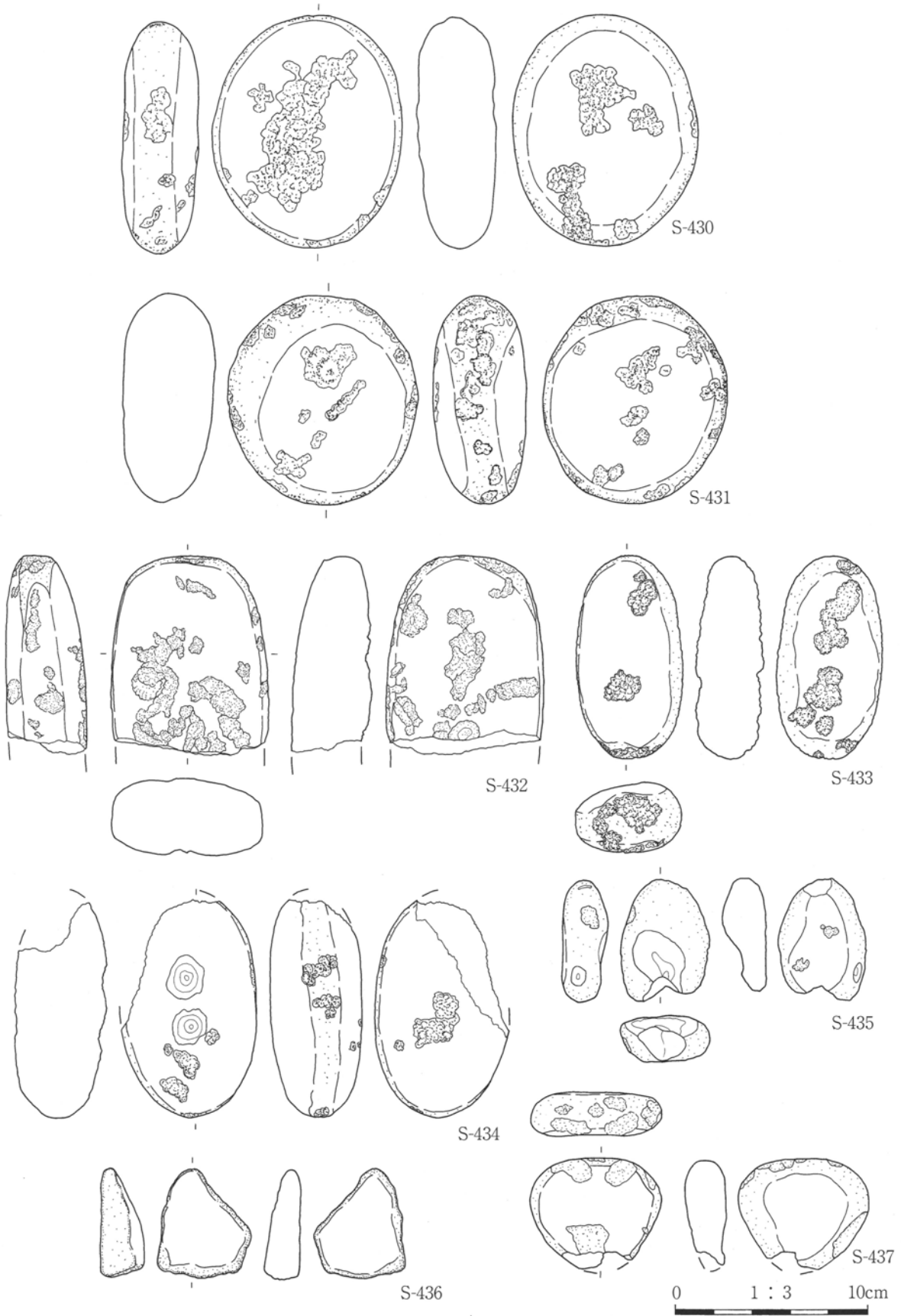
第162図 遺構外出土石器19



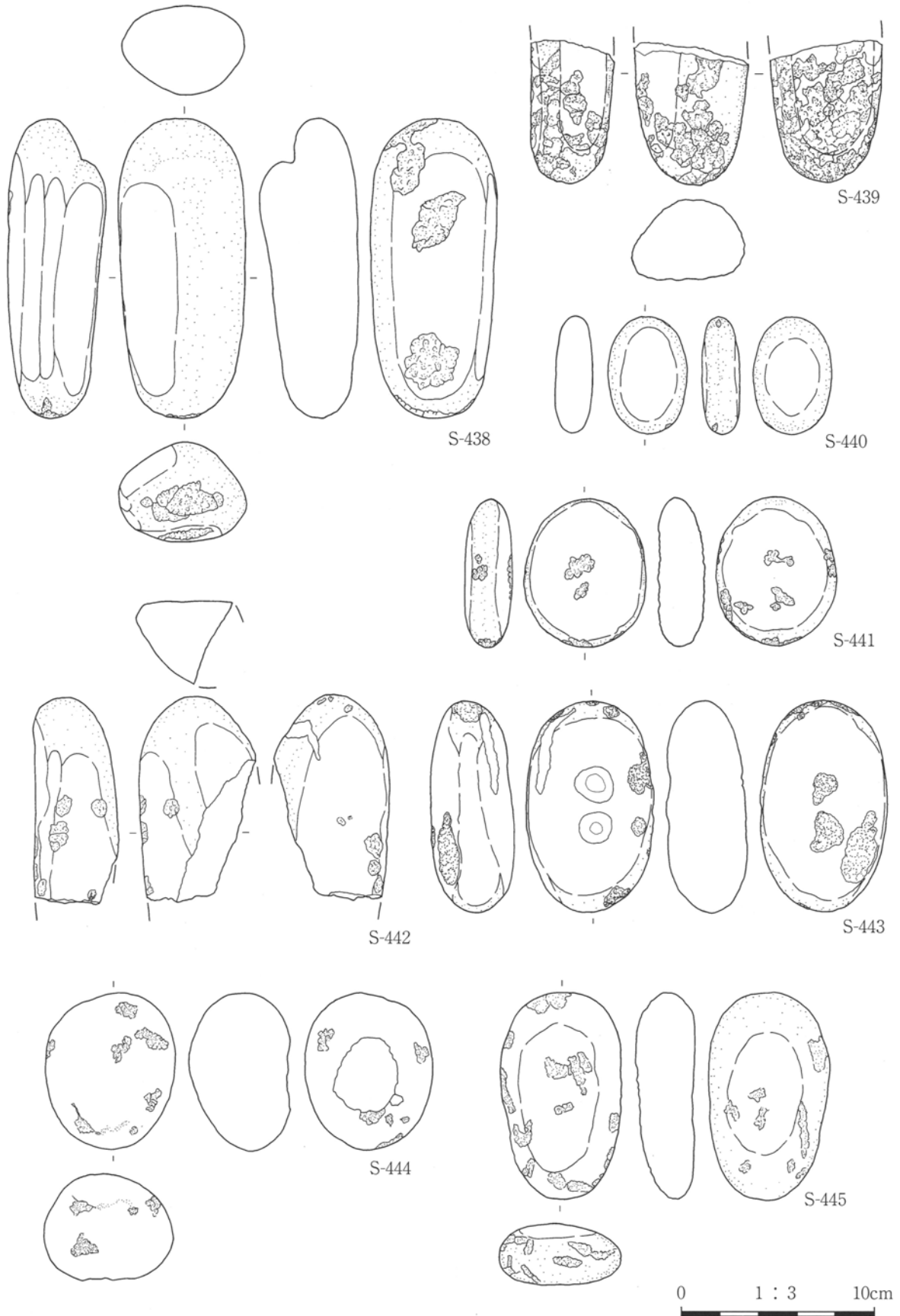
第163図 遺構外出土石器20



第164図 遺構外出土石器21

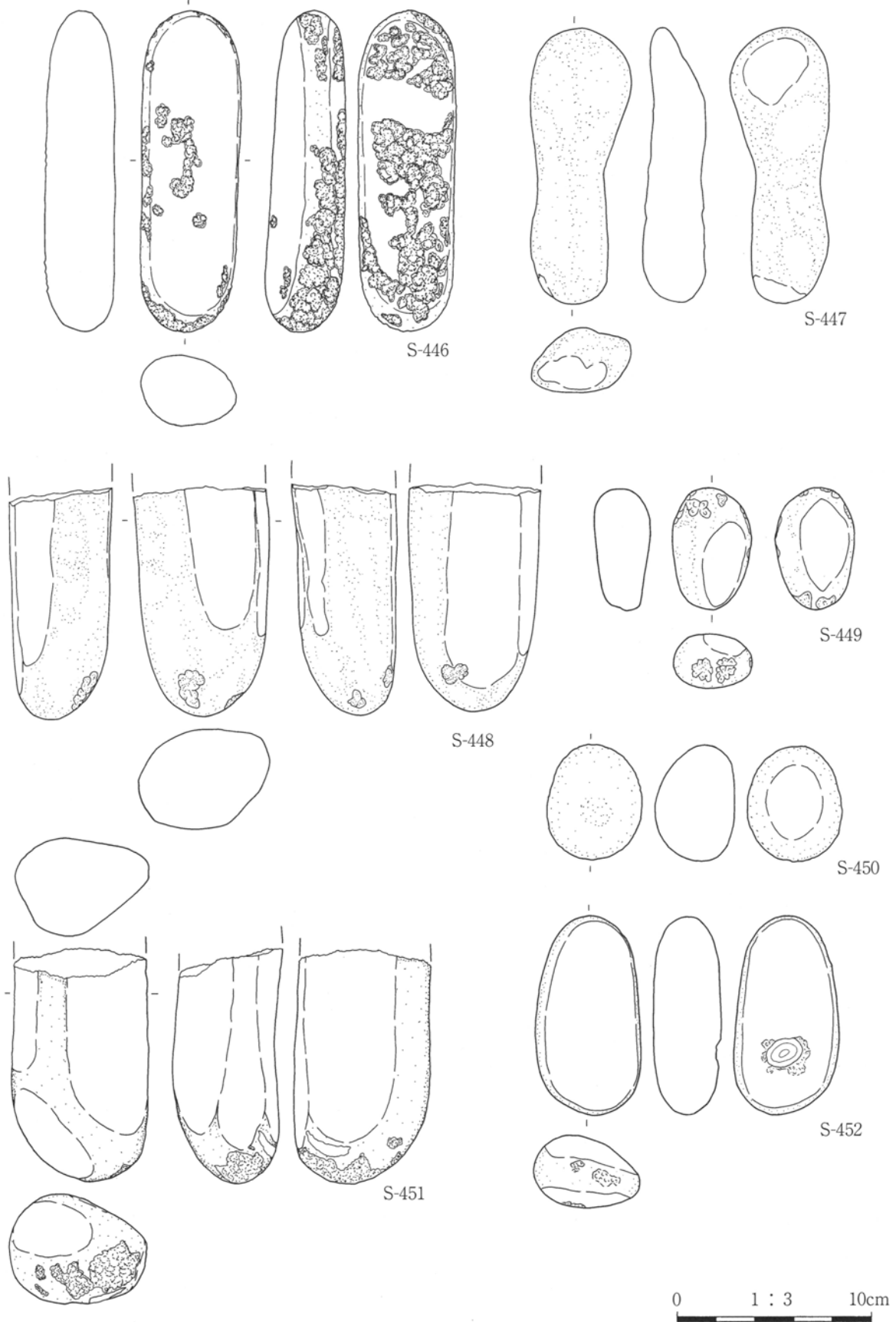


第165図 遺構外出土石器22

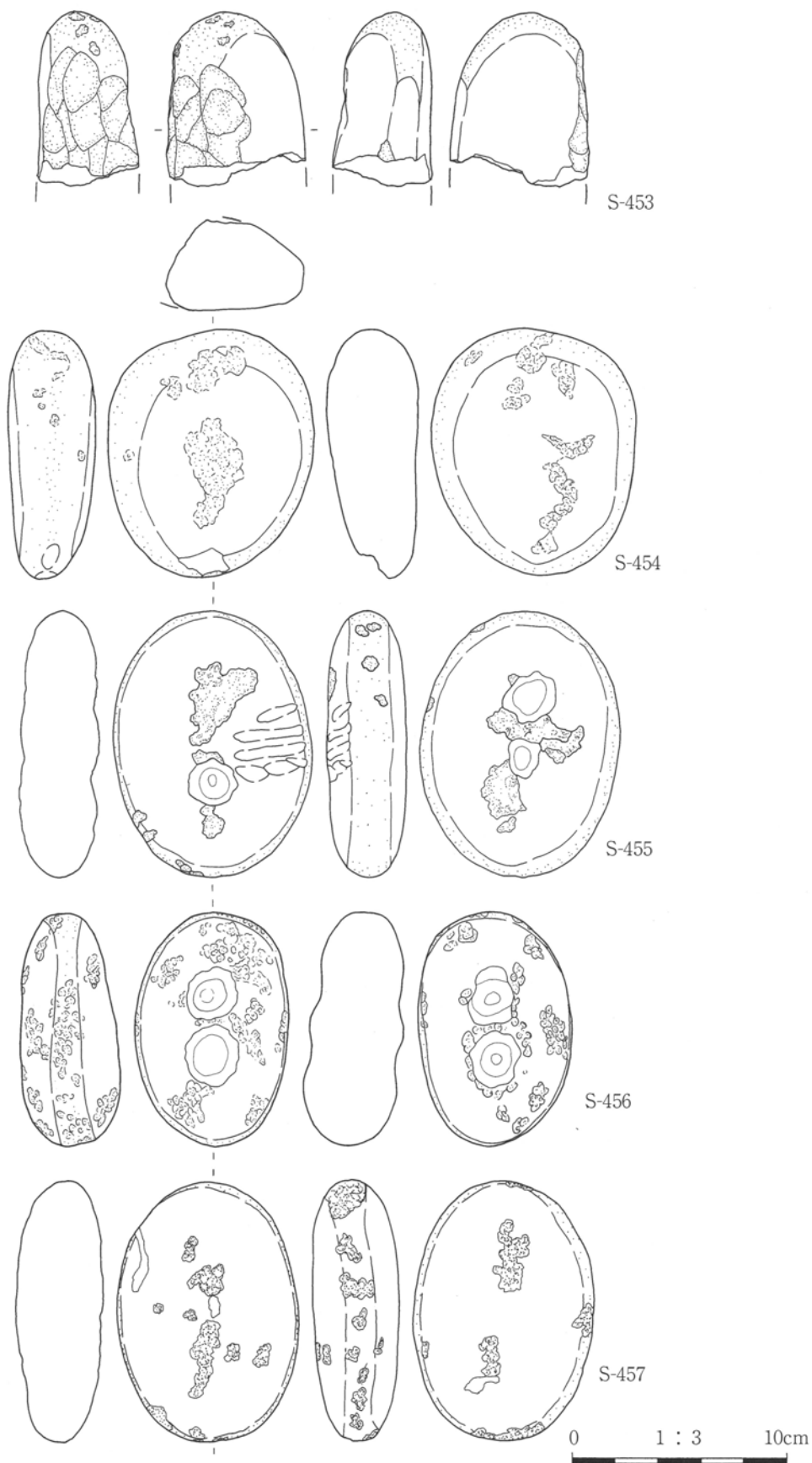


第166図 遺構外出土石器23

4 遺構外出土遺物

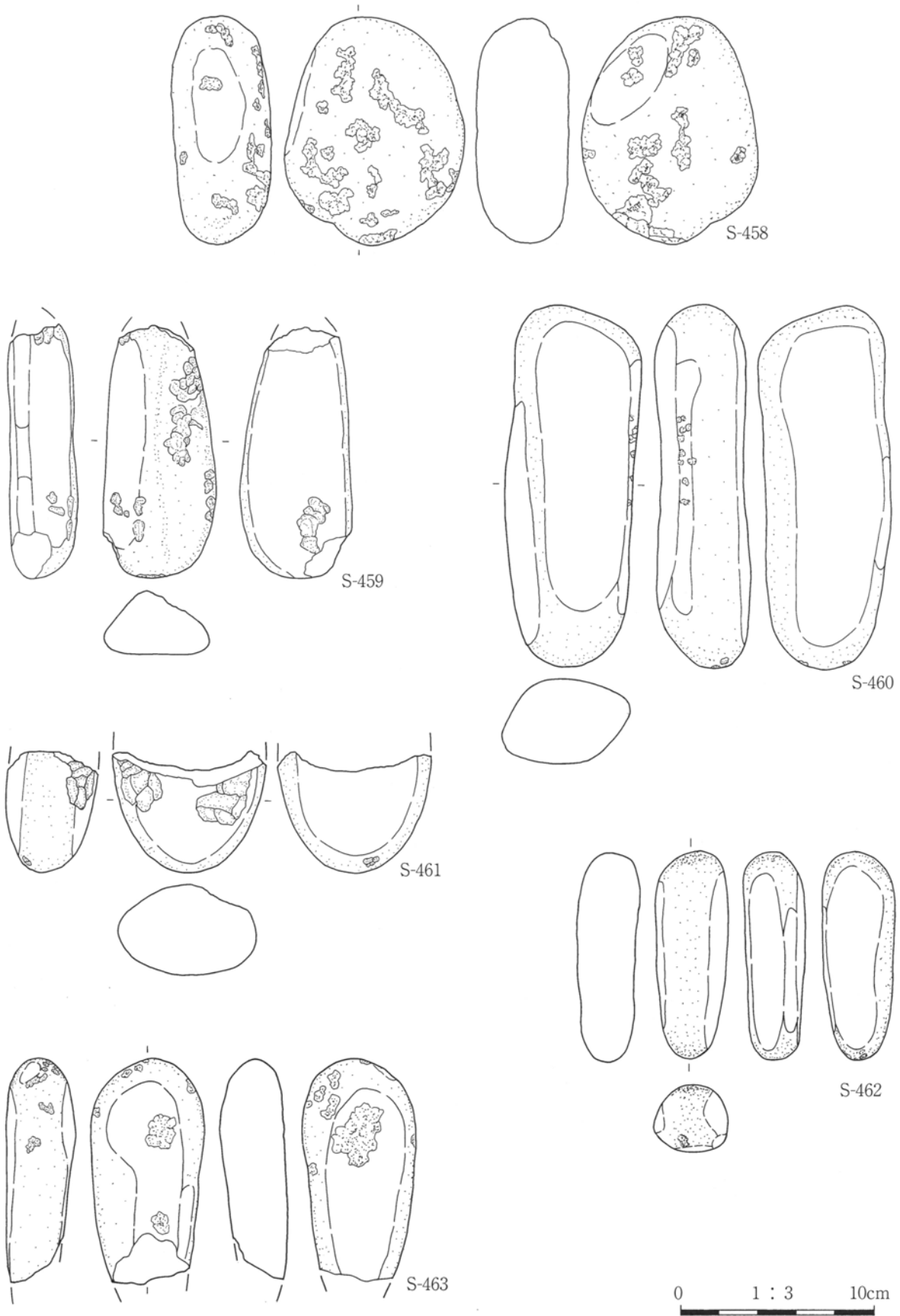


第167図 遺構外出土石器24

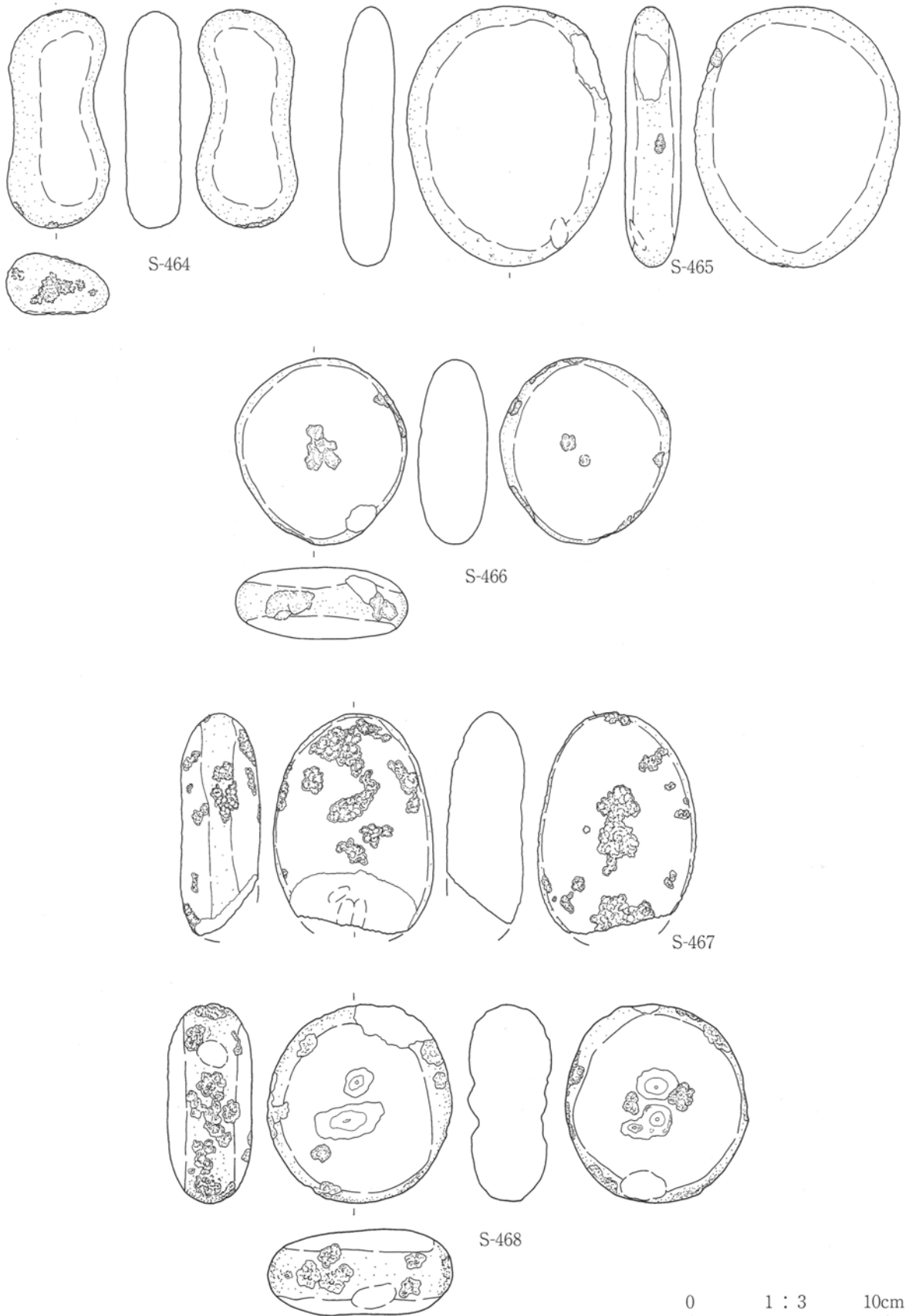


第168図 遺構外出土石器25

4 遺構外出土遺物

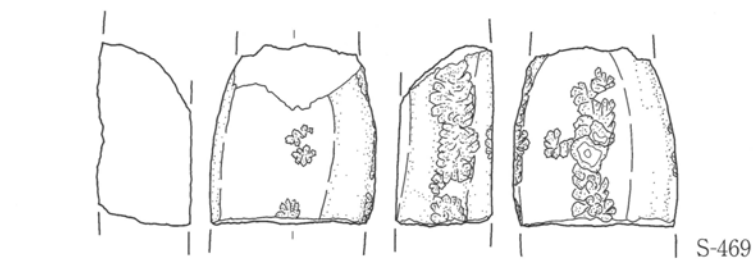


第169図 遺構外出土石器 26



第170図 遺構外出土石器27

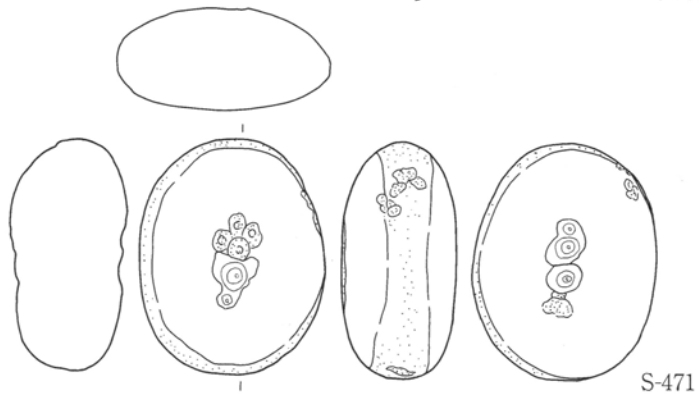
4 遺構外出土遺物



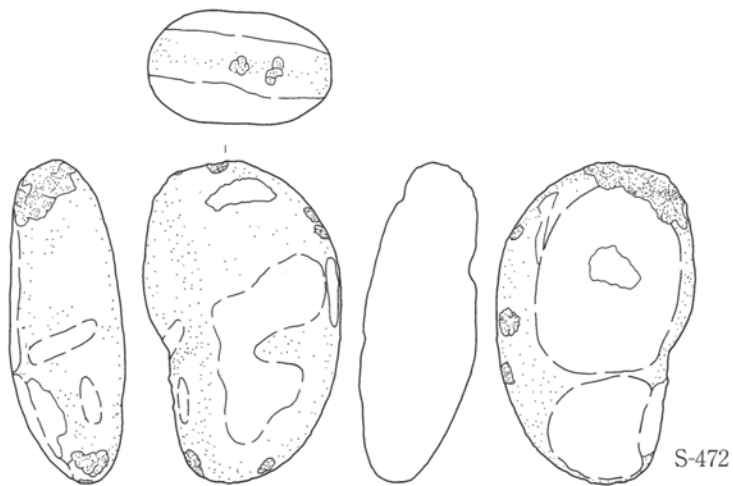
S-469



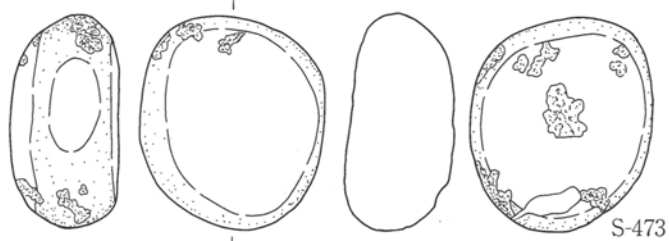
S-470



S-471



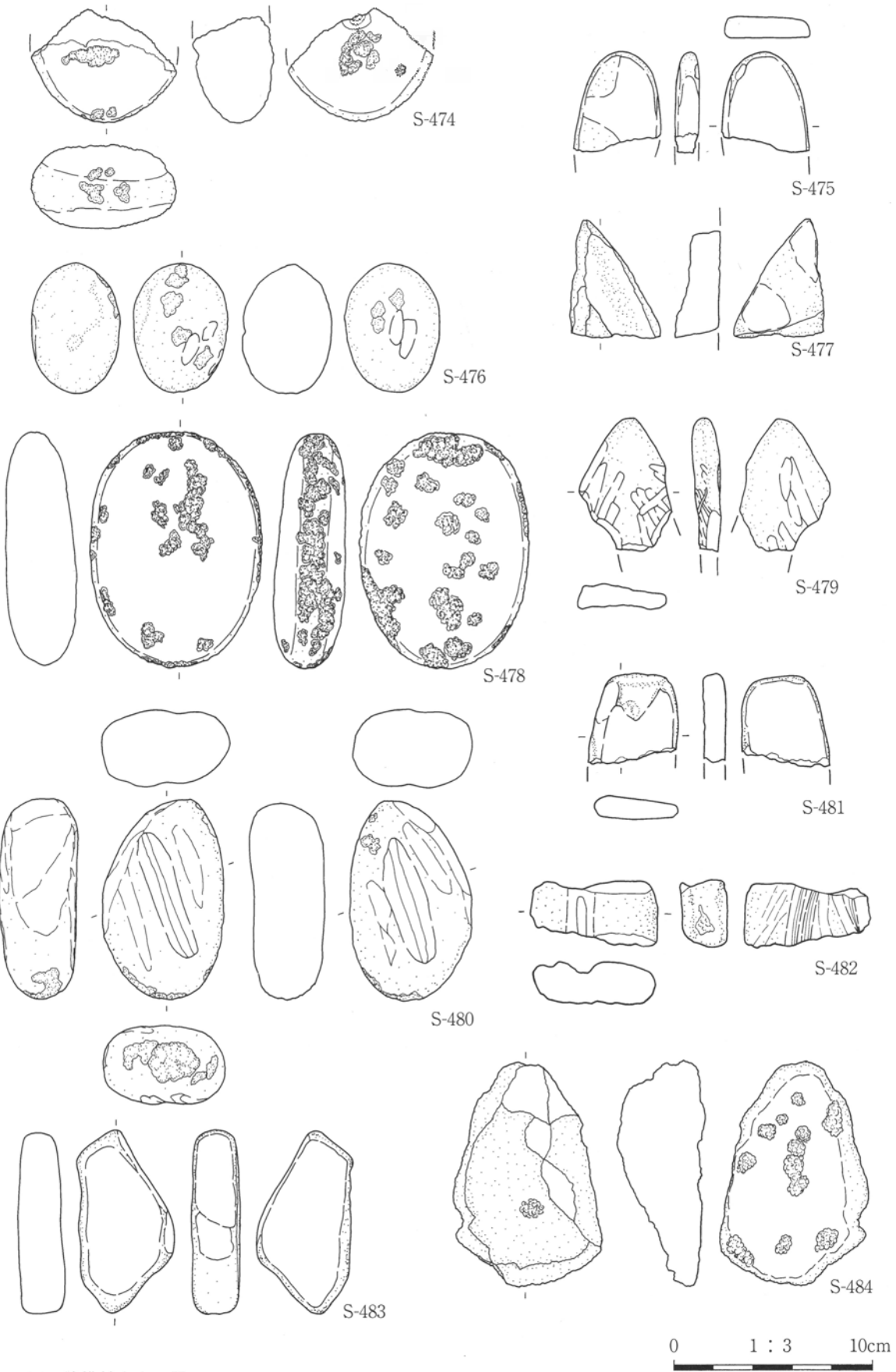
S-472



S-473

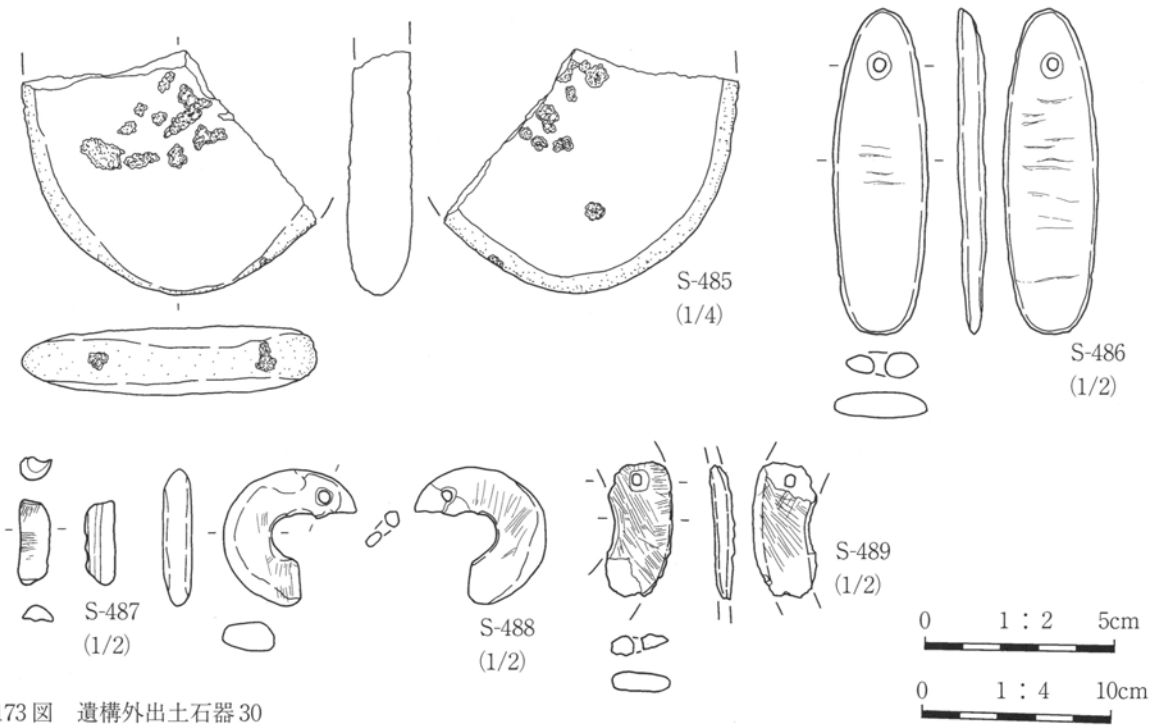
0 1 : 3 10cm

第171図 遺構外出土石器28



第172図 遺構外出土石器29

4 遺構外出土遺物



第173図 遺構外出土石器30

第4章 古墳

1号墳

調査区中央近くにある古墳である。台地中央の尾根上にあたり、標高117mから119mで、調査区内ではもっとも高い位置である。地上部は削平されており、先に調査された萱野遺跡の調査区内で、同じような立地で古墳が見つかったのはいるものの、積極的に古墳の存在を予見することはできなかった。表土を除去した時点で周溝が確認されてはじめて、古墳であったことが判明した。後述の通り、さほど大きくはないものの、削り石を切り組んだ横穴式石室を有する古墳であり、この石室用石が割られて、大きく掘られた穴に埋められているなど、かなり大がかりな「工事」が行われたはずである。しかし、新興住宅街と化した地域であり、古墳の存在や破壊の経過についての情報を周辺住民から得ることはできなかった。

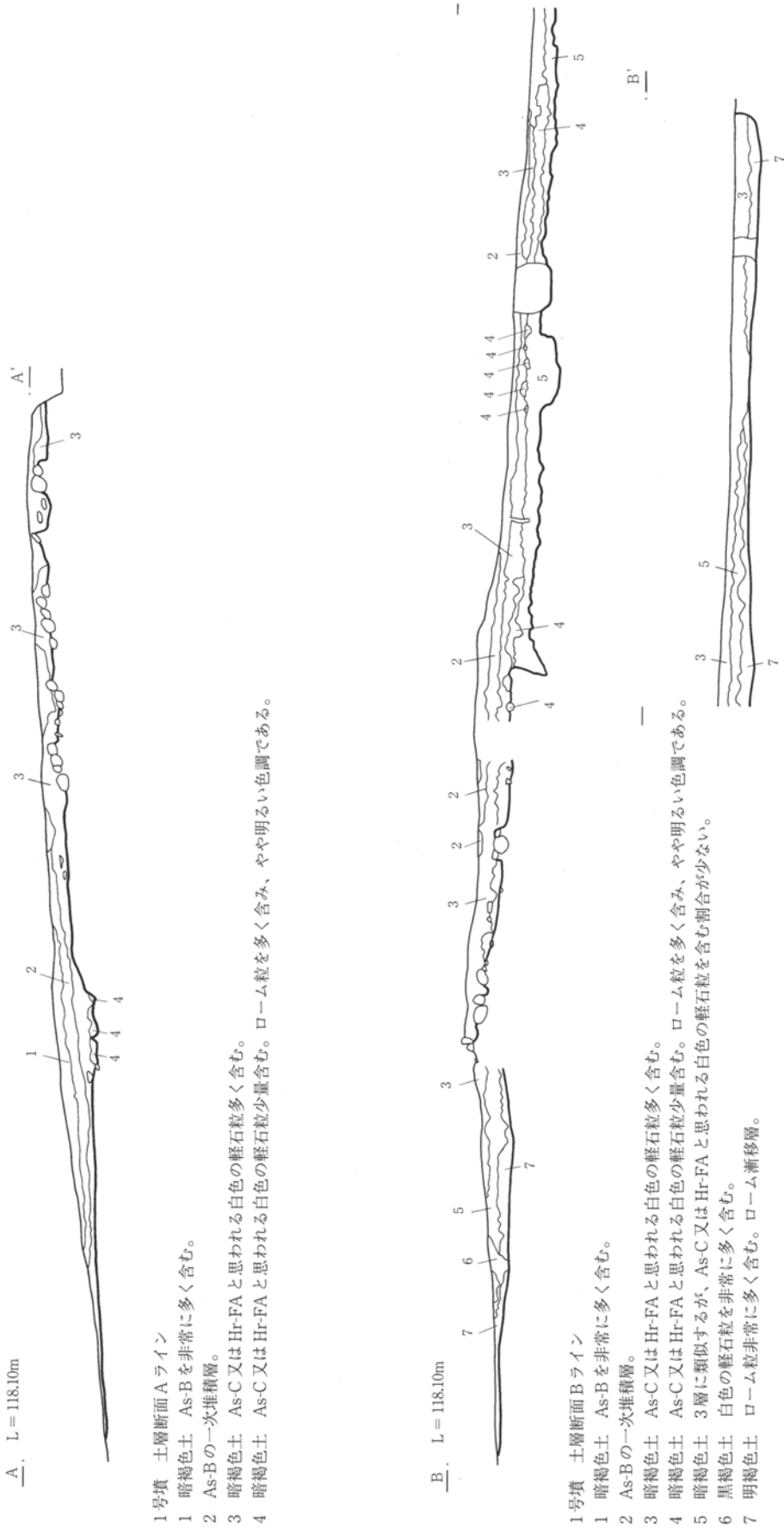
1号墳の立地する部分は、北から南へと下る比較的緩い傾斜がある。古墳はほぼ南北に軸を持って、あるいはこの傾斜に従った軸を持って作られている。前記の通り、明確な墳丘盛り土は全くと言って良いほどに残されていないため、地表面で墳丘形状をうかがうことはできなかったが、南側が開口するC字形の周堀を持っており、円墳であったことがわかる。確認面での周堀内側の規模は東西方向で25mから27mあり、これを墳丘規模と考えることができるだろう。周堀北部の内側から、開口する周堀末端をつないだ線までの南北長は26mある。

周堀は幅4.5mから8.5mほどと不揃いで、平面形状を整えて掘られているものとは見られない。深さは確認面から60から70cmであるが、これも意識的に平坦化しようとしたものとは見られない。北辺西部から西辺の北部にかけて及び北東の一部では幅5mほどで安定した溝状を呈するが、北部では張り出すように幅広に、かつやや深く掘られた部分がある。さらに東には径8.5mほどの円形でやや深いすり鉢状に掘られた部分が見られ、西部には南北10m、東西9mほどの長円形の土坑状掘り込みが見られる。これらの土坑状掘り込みも、覆土中にはAs-Bの一次堆積層があるため、新しい時期の攪乱と見るよりも古墳構築時の掘り込みがそのまま残されているものと考えて良い。

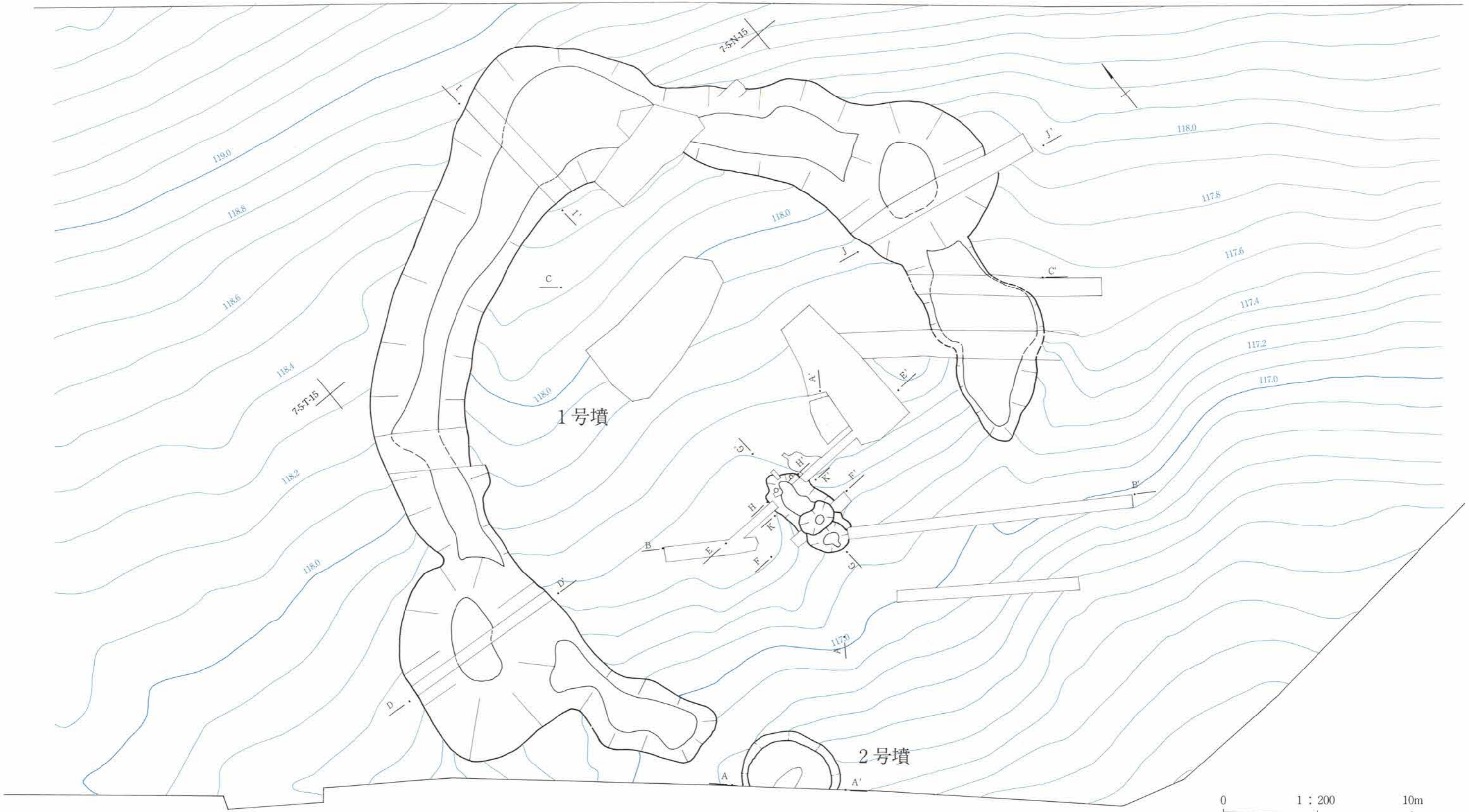
周堀覆土には、比較的上位にAs-Bの一次堆積があり、その下にはAs-C、Hr-FAの粒子を含む黒色ないし黒褐色土が堆積する。土層断面Bラインの3層はAs-C、Hr-FAを比較的多く含む黒褐色土中にローム粒を多く含んでいて、墳丘盛土の残痕と思われる層である。また、周堀西部の長円形掘り込み部の土層断面であるDラインでは6層としたローム粒やローム小ブロックを多く含む褐色土の非常に堅く締まった層が注意される。墳丘側に階段状に残っているもので、周堀掘り下げ時の作業台、足場として機能したものかとの観察所見が得られている。

周堀南端を結ぶ線よりやや内側の中央部に前庭部の残痕が認められた。全体としては東西幅1.4m、南北3mほどの楕円形に近い平面形状の範囲が掘り窪められている。南端には東西1.2m、南北1m、深さ60cmほどの、またその北側には東西1m、南北70cm、深さ1mほどの土坑状の掘り込みが見られて、この周辺にはロームを主体とする層が面的に広がる。さらに、北端近くには並列してピットが2基掘られている。ともに、径30cmほど、深さ18cmほどの規模である。ピット周辺からさらに北部にかけてロームを主体とする土層が、強く硬化した状態で広がっていた。おそらく羨門に相当する位置に掘られたものである。掘り込み全体の主軸はほぼ南北を示し、ピットはこれと直行方向に当たる東西に並ぶ。

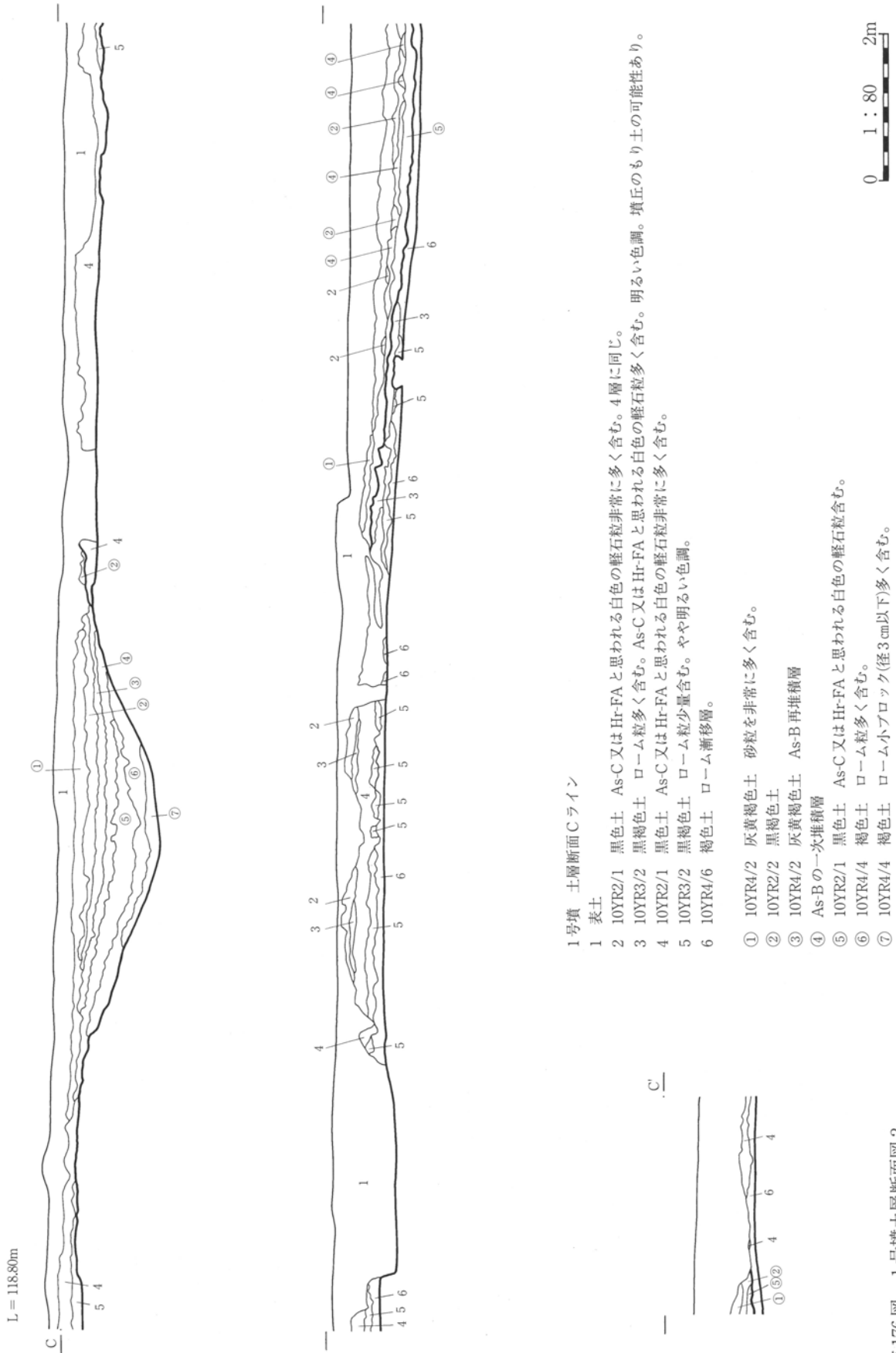
墳丘相当部には、大きな攪乱穴が掘られていて、この中におそらく裏ごめに使われたのであろう円礫と、

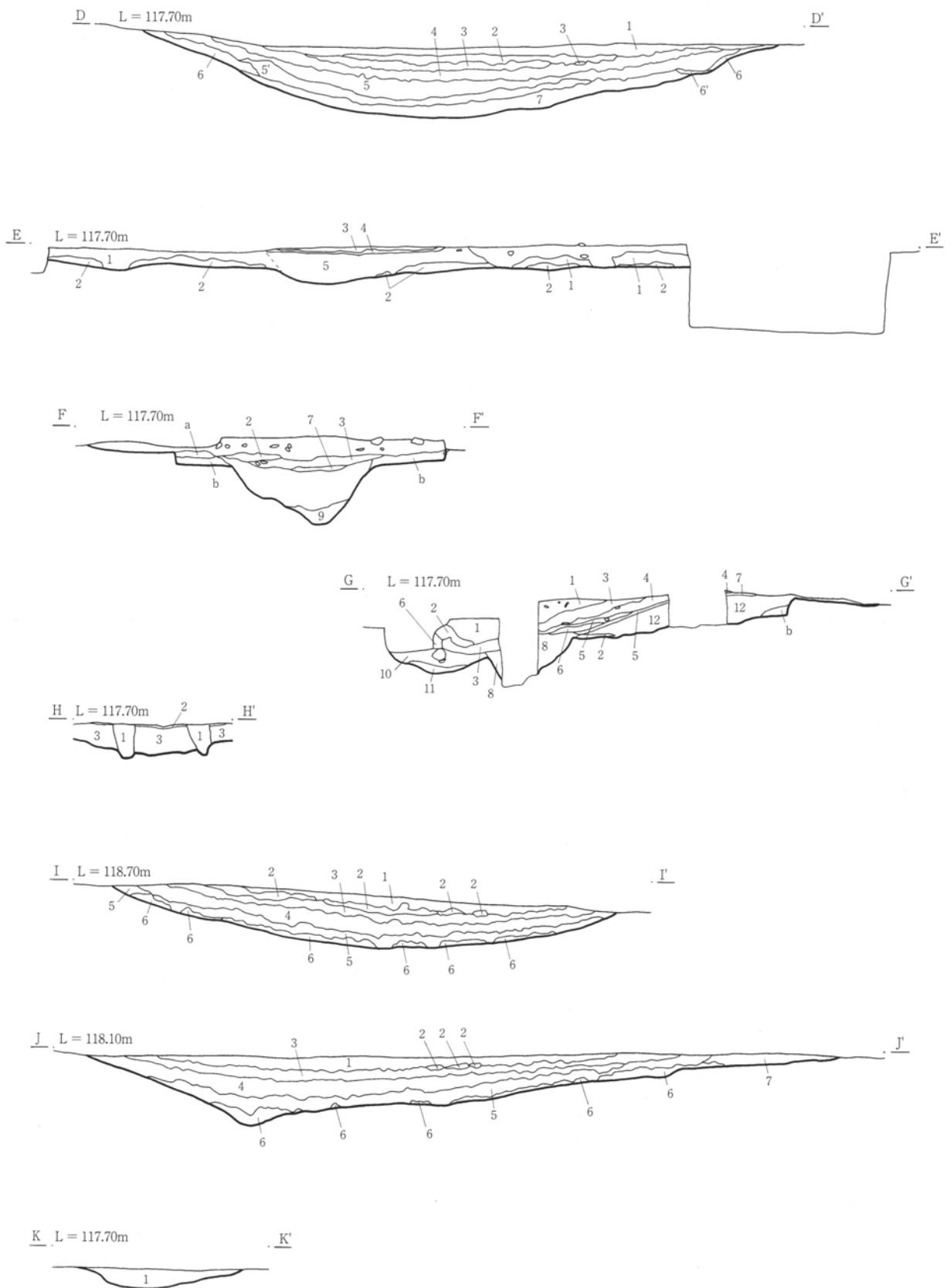


第174図 1号墳土層断面図1



第175图 1・2号墳平面图





第177图 1号墳土層断面图3

不規則に割られた石室用石が埋め込まれていた。石室用石は粗輝石粒安山岩が主体で、榛名山起源の浮石質のものを含む角閃石安山岩（二ツ岳石）も少量用いられている。総重量では7660.4kg分が埋められており、いずれも細かく割られているが、いくつかについては接合が可能であった。接合後の最大のものでは、長さ3.7mのもの、幅1.5mのものがある。1面から5面に、鑿状工具による加工痕跡が見られる。加工痕跡は幅3cmほどのものと同1.6cmから2cmほどのものが観察され、少なくとも2種類の工具が用いられているらしい。側部に当たる面では比較的雑な加工が施され、正面では比較的丁寧に加工されていて、工具痕跡が揃っている。この古墳に伴う出土遺物はない

1号墳 土層断面Dライン

- 1 10YR4/2 灰黄褐色土 砂粒と非常に多く含む。
- 2 10YR2/2 黒褐色土
- 3 10YR4/2 灰黄褐色土 As-B再堆積層
- 4 As-Bの一次堆積層
- 5 10YR2/1 黒色土 As-C又はHr-FAと思われる白色の軽石粒含む。5' 5層に類似するが、白色の軽石粒をほとんど含まない。
- 6 10YR4/4 褐色土 ローム粒多く含む。6' 非常に固くしまった土層。ローム小ブロック、ローム粒を多く含む。周溝掘り下げ時の作業台としての機能が考えられる。
- 7 10YR4/4 褐色土 ローム小ブロック（径3cm以下）多く含む。

1号墳 土層断面Eライン

- 1 10YR2/2 黒褐色土 As-C又はHr-FAと思われる白色の軽石粒多く含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 いわゆる淡色クロボク土か。
- 3 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒、As-C又はHr-FAと思われる白色の軽石粒 少量含む。
- 4 10YR4/6 褐色土 ロームブロックを非常に多く含む。下図の範囲が非常に固くしまっている。
- 5 10YR2/2 黒褐色土 As-C又はHr-FAと思われる白色の軽石粒多く含む。1号墳、3号土坑覆土。

1号墳 土層断面F・Gライン

- 1 10YR3/2 黒褐色土 円礫（径20cm以下）多く含む。
- 2 10YR2/2 黒褐色土 As-C又はHr-FAと思われる白色の軽石粒、石材加工と思われるレキ片を少量含む。
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色土 石材加工と思われる礫片を非常に多く含む。
- 4 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒、As-C又はHr-FAと思われる白色の軽石粒少量含む。
- 5 10Y3/3 暗褐色土 ローム小ブロック（径3cm以下）多く含む。
- 6 10YR3/2 黒褐色土 ローム小ブロック（径1cm以下）少量含む。As-C又はHr-FAと思われる白色の軽石粒少量含む。
- 7 10YR4/6 褐色土 ロームブロックを非常に多く含む。非常に固くしまっている。
- 8 10YR2/2 黒褐色土 As-C又はHr-FAと思われる白色の軽石粒多く含む。
- 9 10YR4/6 褐色土 ロームを主体とし、黒色土小ブロック多く含む。
- 10 10YR3/3 黒褐色土 石材加工と思われる礫片少量含む。
- 11 10Y3/4 暗褐色土 ローム粒非常に多く含む。
- 12 10YR2/2 黒褐色土 As-C又はHr-FAと思われる白色の軽石粒多く含む。
- a 10YR2/2 黒褐色土 白色パミス多く含む。
- b 10YR3/3 暗褐色土 暗褐色土 いわゆる淡色クロボク土か。

1号墳 土層断面Hライン

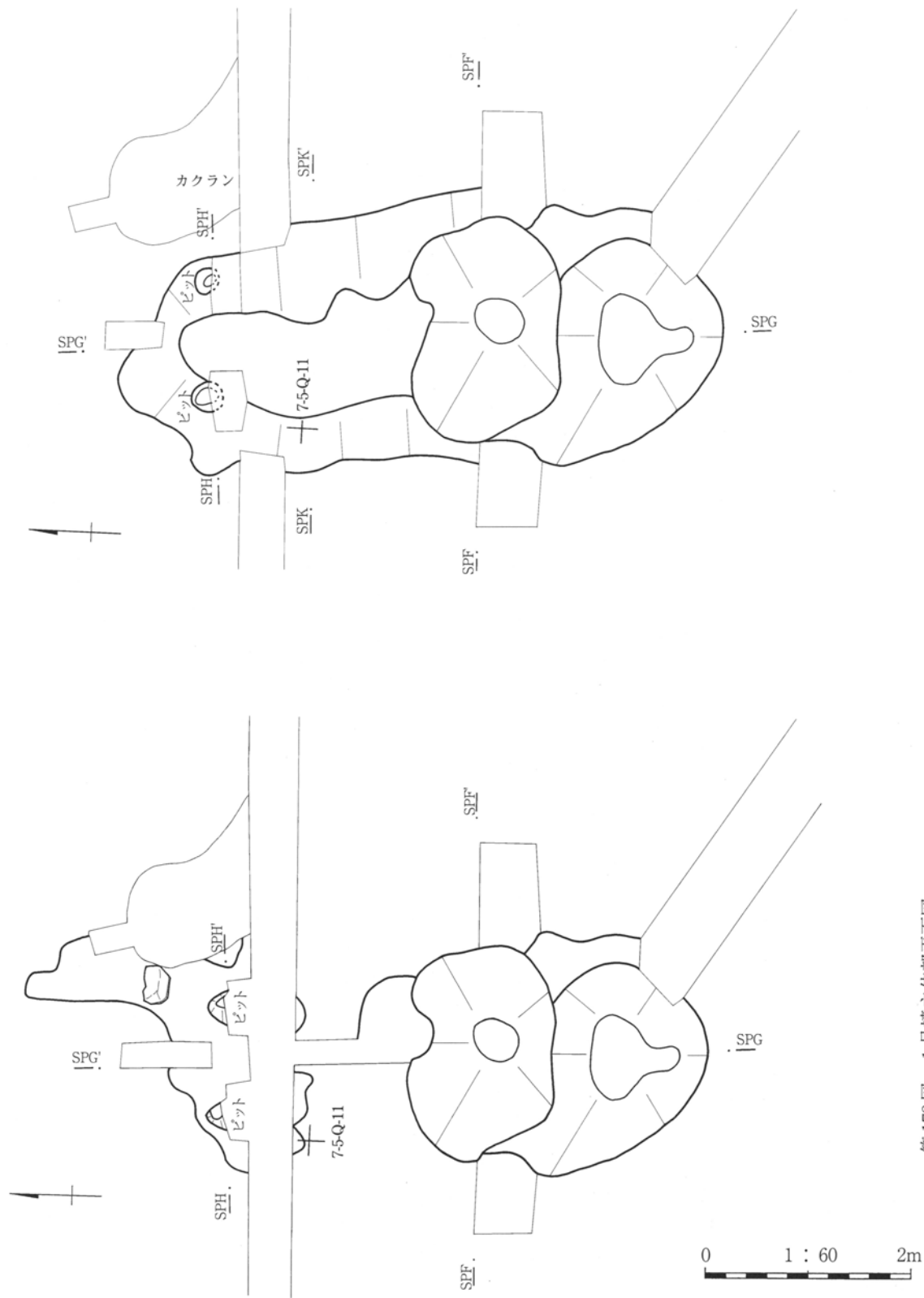
- 1 10YR2/2 黒褐色土 As-C又はHr-FAと思われる白色の軽石粒多く含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 いわゆる淡色クロボク土か。
- 3 10YR2/2 黒褐色土 As-C又はHr-FAと思われる白色の軽石粒多く含む。

1号墳 土層断面I・Jライン

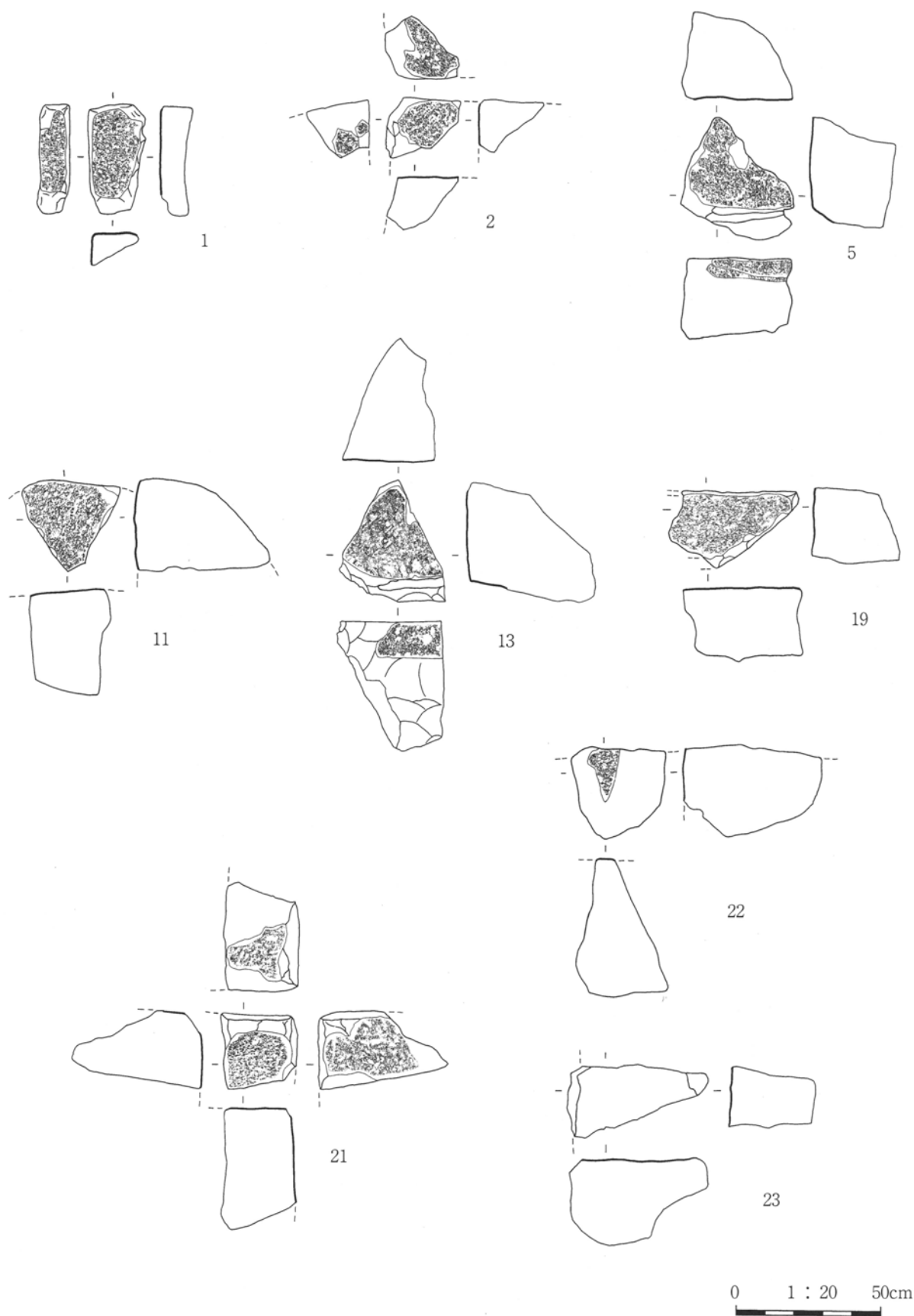
- 1 10YR4/2 灰黄褐色土 砂粒を非常に多く含む。
- 2 10YR2/2 黒褐色土
- 3 10YR4/2 灰黄褐色土 As-B再堆積層
- 4 As-B 一次堆積層
- 5 10YR2/1 黒色土 As-C又はHr-FAと思われる白色の軽石粒含む。
- 6 10YR4/4 褐色土 ローム粒多く含む。
- 7 10YR4/4 褐色土 ローム小ブロック(径3cm以下)多く含む。

1号墳 土層断面Kライン

- 1 10YR2/2 黒褐色土 As-C又はHr-FAと思われる白色の軽石粒多く含む。



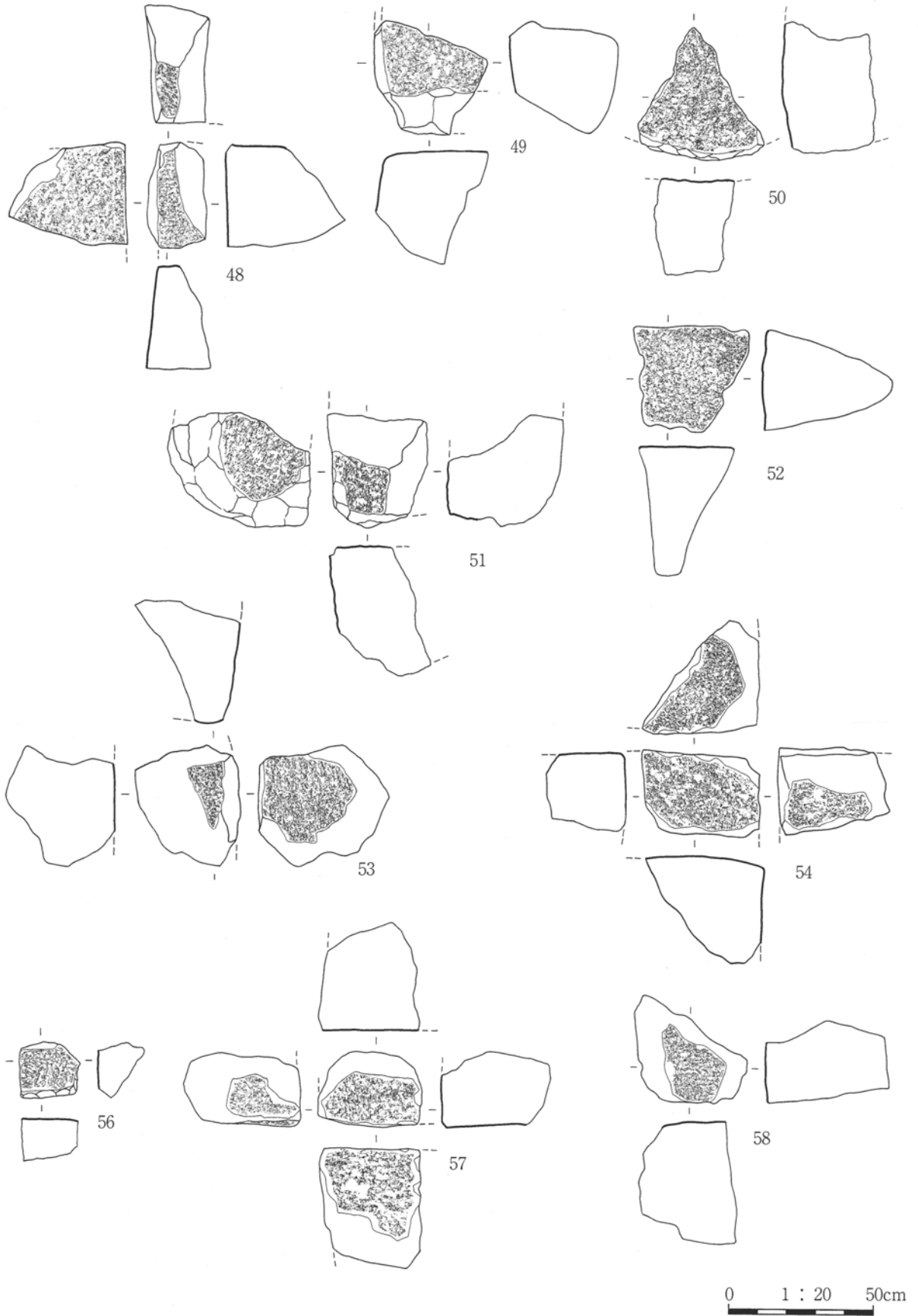
第178図 1号墳主体部平面図



第179图 1号墳石室用石展開図1



第180图 1号墳石室用石展開図2



第181图 1号墳石室用石展開図3